(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第6966179号
(P6966179)

(45)発行日　令和3年11月10日(2021.11.10)　(24)登録日　令和3年10月25日(2021.10.25)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 304D
A63F 7/02 326C

請求項の数 1　(全 264 頁)

(21)出願番号　特願2020-189687(P2020-189687)
(22)出願日　令和2年11月13日(2020.11.13)
(62)分割の表示　特願2015-255217(P2015-255217)の分割
原出願日　平成27年12月25日(2015.12.25)
(65)公開番号　特開2021-35579(P2021-35579A)
(43)公開日　令和3年3月4日(2021.3.4)
審査請求日　令和2年12月7日(2020.12.7)

(73)特許権者　000148922
株式会社大一商会
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地
(72)発明者　市原　高明
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　五位渕　潤
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内
(72)発明者　森下　孝行
愛知県北名古屋市沖村西ノ川１番地　株式会社大一商会内

審査官　小泉　早苗

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
前扉を備えた遊技機であって、
前記前扉に設けられる上皿と、
前記前扉に設けられ、前記上皿から排出された遊技球が流入する流入部と、
前記上皿の前方を飾る装飾を有し、前記前扉の前方に膨出するように構成された膨出部と、
前記膨出部に形成された所定空間に配置される所定の操作装置と、を備え、
前記所定空間には、少なくとも前記膨出部の前面側の一部が開口された領域が含まれており、
前記上皿は、前記前扉の開閉状態にかかわらず前記所定空間を形成する部材の一部を構成しており、
前記所定空間から前記操作装置が取り外された状態にて、外部から前記所定空間を通じて前記上皿の少なくとも一部と前記流入部とが視認可能である
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、ぱちんこ遊技機（一般的に「パチンコ機」とも称する）や回胴式遊技機（一般的に「パチスロ機」とも称する）等の遊技機に関するものである。

【背景技術】
【０００２】
パチンコ機等の遊技機は、遊技者の操作によって遊技媒体が打込まれる遊技領域と、遊技領域内に植設されている複数の障害釘と、遊技領域内において遊技媒体を受入可能とされている複数の受入口（一般入賞口、始動口、可変入賞口（可変始動口、大入賞口、役物入賞口）、Ｖ入賞口、等）と、を備えており、受入口に遊技媒体が受入れられると、所定数の遊技媒体が払出され、遊技者を楽しませることができる。また、遊技盤の中央には、演出画像を表示可能な液晶表示装置等からなる演出表示手段が備えられており、遊技領域内に遊技媒体が打込まれることで変化する遊技状態に応じた演出画像が表示されることで、演出画像によっても遊技者を楽しませることができる。
【０００３】
このような遊技機として、正面視における遊技領域の下方に、遊技領域内に打込むための遊技媒体が貯留される皿部を備えているものが知られている。（例えば、特許文献１）
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１４－２００６１１号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、このような皿部を備える遊技機においては、皿部付近の構造として、より好適なものが求められている。
【０００６】
そこで、本発明は、皿部付近に関して好適な構成を提案するものである。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
本発明は、
前扉を備えた遊技機であって、
前記前扉に設けられる上皿と、
前記前扉に設けられ、前記上皿から排出された遊技球が流入する流入部と、
前記上皿の前方を飾る装飾を有し、前記前扉の前方に膨出するように構成された膨出部と、
前記膨出部に形成された所定空間に配置される所定の操作装置と、を備え、
前記所定空間には、少なくとも前記膨出部の前面側の一部が開口された領域が含まれており、
前記上皿は、前記前扉の開閉状態にかかわらず前記所定空間を形成する部材の一部を構成しており、
前記所定空間から前記操作装置が取り外された状態にて、外部から前記所定空間を通じて前記上皿の少なくとも一部と前記流入部とが視認可能である
ことを特徴とする。
【発明の効果】
【０００８】
本発明によれば、皿部付近に関して好適な構成を提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。
【図２】パチンコ機の右側面図である。
【図３】パチンコ機の左側面図である。
【図４】パチンコ機の背面図である。
【図５】パチンコ機を右前から見た斜視図である。

【図６】パチンコ機を左前から見た斜視図である。
【図７】パチンコ機を後ろから見た斜視図である。
【図８】本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。
【図９】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０】パチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１】パチンコ機における外枠の正面図である。
【図１２】外枠の右側面図である。
【図１３】外枠を前から見た斜視図である。
【図１４】外枠を後ろから見た斜視図である。
【図１５】外枠を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１６】（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して示す分解斜視図である。
【図１７】（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。
【図１８】外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。
【図１９】パチンコ機における扉枠の正面図である。
【図２０】扉枠の右側面図である。
【図２１】扉枠の左側面図である。
【図２２】扉枠の背面図である。
【図２３】扉枠を右前から見た斜視図である。
【図２４】扉枠を左前から見た斜視図である。
【図２５】扉枠を後ろから見た斜視図である。
【図２６】図１９におけるＡ－Ａ線で切断した断面図である。
【図２７】図１９におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図である。
【図２８】図１９におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。
【図２９】扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３０】扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３１】（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３２】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図３３】扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図３４】（ａ）は扉枠ベースユニットの球送ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３５】（ａ）は球送ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。
【図３６】（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。
【図３７】（ａ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。
【図３８】蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。
【図３９】（ａ）は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、（ｂ）はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。
【図４０】（ａ）はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４１】（ａ）は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニット

を左前から見た斜視図である。
【図４２】（ａ）は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左下後から見た斜視図である。
【図４３】皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図４４】皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図４５】図２８の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。
【図４６】（ａ）は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｂ）は下皿に（ａ）とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｃ）は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。
【図４７】（ａ）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。
【図４８】（ａ）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの右側面図である。
【図４９】（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５０】演出操作ユニットを、操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図５１】図４８（ａ）におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図である。
【図５２】図４８（ｂ）におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。
【図５３】（ａ）は図４８（ｂ）におけるＦ－Ｆ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。
【図５４】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図５５】演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５６】（ａ）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図５７】演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図５８】（ａ）は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。
【図５９】演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図６０】演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図６１】図５１の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。
【図６２】（ａ）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図６３】（ａ）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。
【図６４】（ａ）は図４８乃至図６３の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの右側面図である。
【図６５】（ａ）は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図６６】第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【図６７】図６４（ａ）におけるＧ－Ｇ線で切断した断面図である。
【図６８】図６４（ｂ）におけるＨ－Ｈ線で切断した断面図である。
【図６９】（ａ）は図６４（ｂ）におけるＩ－Ｉ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。
【図７０】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図７１】第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７２】（ａ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図７３】第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。
【図７４】（ａ）はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、（ｂ）はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。
【図７５】（ａ）は図７４（ａ）におけるＪ－Ｊ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図７４（ｂ）におけるＫ－Ｋ線で切断した断面図である。
【図７６】（ａ）はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図７７】（ａ）はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【図７８】（ａ）は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図７９】扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図８０】扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８１】図７８（ａ）におけるＬ－Ｌ線で切断した断面図である。
【図８２】（ａ）は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８３】扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図８４】扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図８５】図８２（ａ）におけるＭ－Ｍ線で切断した断面図である。
【図８６】（ａ）は図８２（ａ）におけるＮ－Ｎ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図８２（ａ）におけるＯ－Ｏ線で切断した断面図である。
【図８７】（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。
【図８８】扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図８９】扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９０】図８７におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。
【図９１】本体枠を前から見た斜視図である。
【図９２】本体枠を後ろから見た斜視図である。
【図９３】本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。

【図９４】本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９５】払出ユニットを前から見た斜視図である。
【図９６】払出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図９７】払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図９８】払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図９９】（ａ）は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１００】球誘導ユニットの分解斜視図である。
【図１０１】（ａ）は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出装置を後ろから見た斜視図である。
【図１０２】払出装置を分解して前から見た分解斜視図である。
【図１０３】払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１０４】（ａ）は払出装置の正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＱ－Ｑ線で切断した断面図である。
【図１０５】（ａ）は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、（ｂ）は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。
【図１０６】（ａ）は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１０７】（ａ）は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１０８】（ａ）は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１０９】下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１１０】下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１１１】（ａ）は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、（ｂ）は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。
【図１１２】扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。
【図１１３】払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。
【図１１４】遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。
【図１１５】図１１４の状態の遊技盤を右前から見た斜視図である。
【図１１６】図１１４の状態の遊技盤を左前から見た斜視図である。
【図１１７】遊技盤を後ろから見た斜視図である。
【図１１８】遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。
【図１１９】図１１４の状態の遊技盤において表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。
【図１２０】図１１９における矢視Ａの部位を拡大して示す正面図である。
【図１２１】遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２２】遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１２３】（ａ）は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１２４】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２５】裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。
【図１２６】裏ユニットにおける裏前装飾ユニットを裏前前ユニット、裏前中ユニット、及び裏前後ユニットに分解して前から見た分解斜視図である。
【図１２７】裏ユニットにおける裏前装飾ユニットを裏前前ユニット、裏前中ユニット、及び裏前後ユニットに分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１２８】（ａ）は遊技盤の左上隅の部位を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＲ－Ｒ線で切断した断面図である。

【図１２９】図１２８における矢視Ｂに対してセンター役物を省略した状態で示す斜視図である。
【図１３０】裏前装飾ユニットの裏前中ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３１】裏前装飾ユニットの裏前中ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３２】（ａ）は裏前装飾ユニットの裏前中ユニットを上下方向の途中で切断して上から見た断面図であり、（ｂ）は（ａ）の断面図の左端付近を拡大して示す説明図であり、（ｃ）は（ａ）の断面図の右端付近を拡大して示す説明図である。
【図１３３】（ａ）は裏前中ユニットの第一導光板の装飾を示す正面図であり、（ｂ）は裏前中ユニットの第二導光板の装飾を示す正面図である。
【図１３４】（ａ）は裏ユニットの裏下可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットの裏下可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１３５】（ａ）は裏下可動演出ユニットを裏下昇降ユニットと裏下装飾体ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は裏下可動演出ユニットを裏下昇降ユニットと裏下装飾体ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３６】裏下昇降ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３７】裏下昇降ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１３８】裏下装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１３９】裏下装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４０】裏下装飾体ユニットの裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４１】裏下装飾体ユニットの裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４２】（ａ）は裏ユニットの裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットの裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１４３】裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４４】裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４５】裏左可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。
【図１４６】裏左可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。
【図１４７】（ａ）は裏ユニットの裏中可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットの裏中可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。
【図１４８】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを下降位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１４９】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを離反位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５０】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５１】裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第一出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５２】裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第二出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。

【図１５３】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第二出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５４】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが上昇位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第三出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５５】裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、退避位置と出現位置との間の位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５６】裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５７】裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、出現位置とすると共に、裏中中央装飾体のサブ装飾部を裏中左装飾体の装飾と一致させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５８】裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、出現位置とすると共に、裏中中央装飾体のサブ装飾部を裏中左装飾体の装飾と一致させた状態とし、裏中左サイド装飾体ユニット及び裏中右サイド装飾体ユニットを出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１５９】裏前中ユニットの第一導光板を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６０】裏前中ユニットの第二導光板を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６１】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを下降位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて小型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６２】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を同一色によってハート形に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６３】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて小型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６４】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第二出現位置とし、裏前装飾ユニットの裏前上左装飾体及び裏前上右装飾体、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、裏下右装飾体、裏左装飾体、及び裏右装飾体を用いて大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６５】裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが上昇位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第三出現位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、裏下右装飾体、裏左装飾体、及び裏右装飾体を用いて中型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１６６】パチンコ機の制御構成を概略的に示すブロック図である。
【図１６７】（ａ）は、同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行されるメイン処理についてその手順を示すフローチャートであり、（ｂ）は、同実施の形態の主制御ＭＰＵによ

って定期的に行われる割り込み処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１６８】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１６９】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７０】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第二始動口通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７１】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７２】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７３】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大当り判定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７４】（Ａ）は、大当りについての抽選処理に用いられる大当り判定テーブルであり、（Ｂ）は、大当りの種類についての抽選処理に用いられる図柄決定テーブルである。
【図１７５】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄停止図柄設定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７６】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一変動パターン設定処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７７】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄変動処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７８】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第一特別図柄停止処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１７９】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大当り制御処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８０】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される大入賞口開閉処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８１】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される第二受入口開閉処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８２】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される普通図柄プロセス処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８３】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行されるゲート部通過処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８４】同実施の形態の主制御ＭＰＵによって実行される普通図柄通常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８５】同実施の形態の周辺制御ＭＰＵによって実行されるサブメイン処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８６】同実施の形態の周辺制御ＭＰＵによって実行される１６ｍｓ定常処理についてその手順を示すフローチャートである。
【図１８７】変形例１の第一導光板を発光装飾させると共に、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、裏前装飾ユニットの裏前上左装飾体及び裏前上右装飾体、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。
【図１８８】変形例１の第一導光板の装飾を示す正面図である。
【図１８９】変形例１の第一導光板を発光装飾させると共に、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、裏前装飾ユニットの裏前上左装飾体及び裏前上右装飾体、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示すパチンコ機の正面図である。

【図１９０】変形例２のセンター役物を左右方向の略中央で切断して横から見た簡略化した断面図である。
【図１９１】変形例２の導光板を発光装飾させると共に、左中間装飾体、右中間装飾体、左ユニット装飾カバー、及び右ユニットカバーを用いて超大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示すパチンコ機の正面図である。
【図１９２】変形例３の導光板の装飾を示す正面図である。
【図１９３】アニメーション演出の一例を示す説明図である。
【図１９４】アニメーション演出の一例を示す説明図である。
【図１９５】アニメーション演出の一例を示す説明図である。
【図１９６】アニメーション演出の一例を示す説明図である。
【図１９７】アニメーション演出の一例を示す説明図である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
［１．パチンコ機の全体構造］
本発明の一実施形態であるパチンコ機１について、図面を参照して詳細に説明する。まず、図１乃至図１０を参照して本実施形態のパチンコ機１の全体構成について説明する。図１は本発明の一実施形態であるパチンコ機の正面図である。図２はパチンコ機の右側面図であり、図３はパチンコ機の左側面図であり、図４はパチンコ機の背面図である。図５はパチンコ機を右前から見た斜視図であり、図６はパチンコ機を左前から見た斜視図であり、図７はパチンコ機を後ろから見た斜視図である。また、図８は本体枠から扉枠を開放させると共に、外枠から本体枠を開放させた状態で前から見たパチンコ機の斜視図である。図９はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して前から見た分解斜視図であり、図１０はパチンコ機を扉枠、遊技盤、本体枠、及び外枠に分解して後ろから見た分解斜視図である。
【００１１】
本実施形態のパチンコ機１は、遊技ホールの島設備（図示しない）に設置される枠状の外枠２と、外枠２の前面を開閉可能に閉鎖する扉枠３と、扉枠３を開閉可能に支持していると共に外枠２に開閉可能に取付けられている本体枠４と、本体枠４に前側から着脱可能に取付けられると共に扉枠３を通して遊技者側から視認可能とされ遊技者によって遊技球が打込まれる遊技領域５ａを有した遊技盤５と、を備えている。
【００１２】
パチンコ機１の外枠２は、図９及び図１０等に示すように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。
【００１３】
また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３が開閉可能に取付けられている。
【００１４】
パチンコ機１の扉枠３は、正面視の外形が上下に延びた四角形で前後に貫通している貫通口１１１を有した枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面右下隅に取付けられており遊技球を遊技盤５の遊技領域５ａ内へ打込むために遊技者が操作可能なハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の貫通口１１１よりも下側で前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユ

ニット３２０の中央に取付けられており遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて遊技者に参加型の演出を提示することが可能な演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも上側の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。

【００１５】

パチンコ機１の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球を打込むための球発射装置６８０と、本体枠ベース６００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット７００と、本体枠ベース６００の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆Ｌ字状の払出ユニット８００と、本体枠ベース６００の後面下部に取付けられている基板ユニット９００と、本体枠ベース６００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース６００に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー９８０と、を備えている。

【００１６】

本体枠４の払出ユニット８００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる逆Ｌ字状の払出ユニットベース８０１と、払出ユニットベース８０１の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク８０２と、球タンク８０２の下側で払出ユニットベース８０１に取付けられており球タンク８０２内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール８０３と、払出ユニットベース８０１における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール８０３からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット８２０と、球誘導ユニット８２０の下側で払出ユニットベース８０１から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット８２０により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス９５０に収容された払出制御基板９５１からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置８３０と、払出ユニットベース８０１の後面に取付けられ払出装置８３０によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット３２０における上皿３２１での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口８５０ｄ又は満タン放出口８５０ｅの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット８５０と、払出ユニットベース８０１の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１及び満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２を有した下部満タン球経路ユニット８６０と、を備えている。

【００１７】

本体枠４の基板ユニット９００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる基板ユニットベース９１０と、基板ユニットベース９１０の正面視左側で本体枠ベース６００の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ９２１を有したスピーカユニット９２０と、基板ユニットベース９１０の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス９３０と、スピーカユニット９２０の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス９４０と、電源基板ボックス９３０及びインターフェイス制御基板ボックス９４０に跨って取付けら

れており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板９５１が収容された払出制御基板ボックス９５０と、を備えている。

【００１８】

パチンコ機１の遊技盤５は、図９及び図１０等に示すように、遊技球が打込まれる遊技領域５ａの外周を区画し球発射装置６８０から発射された遊技球を遊技領域５ａの上部に案内する外レール１００１及び内レール１００２を有した前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられると共に遊技領域５ａの後端を区画する平板状の遊技パネル１１００と、を備えている。

【００１９】

本実施形態のパチンコ機１は、上皿３２１に遊技球を貯留した状態で、遊技者がハンドル３０２を回転操作すると、球発射装置６８０によってハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技盤５の遊技領域５ａ内へ打込まれる。そして、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球が、入賞口に受入れられると、受入れられた入賞口に応じて、所定数の遊技球が払出装置８３０によって上皿３２１に払出される。この遊技球の払出しによって遊技者の興趣を高めることができるため、上皿３２１内の遊技球を遊技領域５ａ内へ打込ませることができ、遊技者に遊技を楽しませることができる。

【００２０】

［２．外枠の全体構成］

パチンコ機１の外枠２について、図１１乃至図１６を参照して説明する。図１１はパチンコ機における外枠の正面図であり、図１２は外枠の右側面図である。また、図１３は外枠を前から見た斜視図であり、図１４は外枠を後ろから見た斜視図である。図１５は、外枠を分解して前から見た分解斜視図である。図１６（ａ）は外枠における外枠側上ヒンジ部材の部位を、左枠部材を省略して下側から見た斜視図であり、（ｂ）は（ａ）を分解して示す分解斜視図である。外枠２は、遊技ホール等のパチンコ機１が設置される島設備（図示は省略）に取付けられるものである。

【００２１】

外枠２は、図示するように、上下に離間しており左右に延びている上枠部材１０及び下枠部材２０と、上枠部材１０及び下枠部材２０の両端同士を連結しており上下に延びている左枠部材３０及び右枠部材４０と、を備えている。上枠部材１０、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０は、前後の幅が同じ幅に形成されている。また、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右の長さに対して、左枠部材３０及び右枠部材４０の上下の長さが、長く形成されている。また、外枠２は、上枠部材１０及び下枠部材２０の左右両端面と、左枠部材３０及び右枠部材４０の左右方向の外側を向いた側面とが、同一面となるように組立てられている。

【００２２】

また、外枠２は、上枠部材１０の正面視左端部側に取付けられている外枠側上ヒンジ部材６０と、外枠側上ヒンジ部材６０の下面に取付けられているロック部材６６と、幕板部材５０の正面視左端側上部と左枠部材３０とに取付けられている外枠側下ヒンジ部材７０と、を備えている。外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０と外枠側下ヒンジ部材７０とによって、本体枠４及び扉枠３を開閉可能に取付けることができる。

【００２３】

また、外枠２は、左枠部材３０及び右枠部材４０の下端同士を連結し下枠部材２０の前側に取付けられる幕板部材５０と、幕板部材５０の後側に取付けられていると共に両端が左枠部材３０及び右枠部材４０に夫々取付けられる幕板補強部材８０と、幕板部材５０の上面における左右中央から左寄りの位置に取付けられている平板状の左滑り部材８１と、幕板部材５０の上面における右端付近の位置に取付けられている平板状の右滑り部材８２と、を備えている。幕板補強部材８０は、中実の部材（例えば、木材、合板、等）によって形成されており、下枠部材２０、左枠部材３０、及び右枠部材４０に、取付けられている。

【００２４】

更に、外枠２は、上枠部材１０と左枠部材３０、上枠部材１０と右枠部材４０、下枠部材２０と左枠部材３０、及び下枠部材２０と右枠部材４０を、夫々連結している連結部材８５を備えている。また、外枠２は、右枠部材４０の内側（左側面側）に取付けられており後述する施錠ユニット７００の外枠用鉤７０３が係止される上鉤掛部材９０及び下鉤掛部材９１を、備えている。

【００２５】

［２－１．上枠部材］

外枠２の上枠部材１０は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この上枠部材１０は、左右両端における前後方向の中央に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部１１を備えている。この係合切欠部１１内には、連結部材８５の後述する左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの上横固定部８７が取付けられる。また、上枠部材１０は、正面視左側端部の上面と前面に、一般面よりも窪んだ取付段部１２を備えている。この取付段部１２には、外枠側上ヒンジ部材６０が取付けられる。

【００２６】

［２－２．下枠部材］

外枠２の下枠部材２０は、所定厚さの無垢（中実）の材料（例えば、木材、合板、等）によって形成されている。この下枠部材２０は、左右の長さ及び上下の厚さが、上枠部材１０の左右の長さ及び上下の厚さと同じ寸法に形成されていると共に、前後の幅が、上枠部材１０の前後の幅よりも長く形成されている。下枠部材２０は、左右両端における前後方向の中央よりも後側寄りの位置に、上下に貫通しており左右方向中央側へ窪んだ係合切欠部２１を備えている。この係合切欠部２１内には、連結部材８５の後述する左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの下横固定部８８が取付けられる。

【００２７】

また、下枠部材２０は、左右両端の前面から後方へ窪んだ前端切欠部２２を備えている。下枠部材２０において、前端切欠部２２の後端から下枠部材２０の後面までの前後方向の幅が、上枠部材１０の前後方向の幅と同じ寸法に形成されている。この下枠部材２０は、外枠２に組立てた状態で、左右の前端切欠部２２同士の間の部位が、幕板部材５０内に挿入される。

【００２８】

［２－３．左枠部材及び右枠部材］

外枠２の左枠部材３０及び右枠部材４０は、一定の断面形状で上下に延びており、アルミ合金等の金属の押出形材によって形成されている。左枠部材３０及び右枠部材４０は、平面視において互いに対称の形状に形成されている。左枠部材３０及び右枠部材４０は、外枠２として組立てた時に、左右方向の外側となる側面において、前後方向中央に対して後寄りの位置から後端付近までの間に、内側へ窪んだ凹部３１，４１と、凹部３１，４１の反対側の側面から膨出しており内部が空洞に形成されている突出部３２，４２と、を備えている。この左枠部材３０及び右枠部材４０は、突出部３２，４２によって、強度・剛性が高められている。また、突出部３２，４２内には、連結部材８５の後述する左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの後側の下横固定部８８が挿入されて取付けられる。

【００２９】

また、左枠部材３０及び右枠部材４０は、表面に上下に延びた複数の溝が形成されている。この複数の溝によって、パチンコ機１を遊技ホール等の島設備に設置したり運搬したりする等の際に、作業者の指掛りとなってパチンコ機１を持ち易くすることができると共に、パチンコ機１の外観の意匠性を高めることとができる。

【００３０】

［２－４．幕板部材］

外枠２の幕板部材５０は、後側が開放された箱状に形成されている。幕板部材５０は、上面における正面視左端付近に後方へ平板状に延出している後方延出部５１と、後方延出部５１の左端から遊技球が通過可能な大きさでＵ字状に切欠かれており上下に貫通してい

る左排出孔５２と、後方延出部５１における左排出孔５２の右側において遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している右排出孔５３と、後方延出部５１の後端を含む幕板部材５０の上面の後端から上方へ平板状に延出している立壁部５４と、立壁部５４の上端付近から前方へ膨出しており前面が上方へ向かうに従って後方へ向かうように傾斜している返し部５５と、を備えている。

【００３１】

幕板部材５０は、後方延出部５１の前側の上面と、後方延出部５１の上面とに、外枠側下ヒンジ部材７０が載置されるように、外枠側下ヒンジ部材７０の後述する水平部７１が取付けられる。また、幕板部材５０の左排出孔５２は、外枠２に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材７０の後述する排出孔７４と一致する位置に形成されている。また、右排出孔５３は、外枠２に組立てた状態で外枠側下ヒンジ部材７０よりも右側となる位置に形成されている。右排出孔５３は、左排出孔５２よりも大きく形成されている。

【００３２】

また、幕板部材５０は、後方延出部５１よりも右側の上面が、前端側が低くなるように傾斜している。また、幕板部材５０は、上面における後方延出部５１よりも右側の部位に左滑り部材８１を取付けるための左取付部５６と、上面における右端付近に右滑り部材８２を取付けるための右取付部５７と、を備えている。幕板部材５０は、上面に、左滑り部材８１及び右滑り部材８２を介して本体枠４の下面が載置される。

【００３３】

この幕板部材５０は、図示するように、前面に浅いレリーフ状の装飾が形成されている。また、幕板部材５０は、図示は省略するが、箱状の内部が複数のリブによって格子状に仕切られており、強度・剛性が高められている。また、幕板部材５０は、幕板補強部材８０の前側半分を、内部に収容可能に形成されている。

【００３４】

［２－５．外枠側上ヒンジ部材］

外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０は、図示するように、水平に延びた平板状で外形が四角形の上固定部６１と、上固定部６１の前端から前方へ延出している平板状の前方延出部６２と、前方延出部６２の右端から前方へ向かうに従って前方延出部６２の左右中央へ延びており上下に貫通している軸受溝６３と、上固定部６１の平面視左辺から下方へ延びている平板状の横固定部６４と、前方延出部６２の左端から前端を周って軸受溝６３が開口している部位までの端辺から下方へ延びており横固定部６４と連続している平板状の垂下部６５と、を備えている（図１６（ｂ）等を参照）。

【００３５】

外枠側上ヒンジ部材６０は、外枠２が組立てられた状態で、上固定部６１が、上枠部材１０の取付段部１２の上面に載置されており、図示しないビスによって固定されている。また、前方延出部６２は、上枠部材１０の前端よりも前方へ延出している。また、横固定部６４は、左枠部材３０の外側側面の凹部３１内に上側から挿入された状態で、ビスによって左枠部材３０に固定されている。

【００３６】

この外枠側上ヒンジ部材６０は、軸受溝６３内に本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を挿入させることで、外枠側下ヒンジ部材７０と協働して本体枠４を開閉可能に支持することができる。この外枠側上ヒンジ部材６０は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【００３７】

［２－６．ロック部材］

外枠２のロック部材６６は、図１６に示すように、左右が所定幅で前後に延びている帯板状のロック本体６６ａと、ロック本体６６ａの後端から右方へ突出している操作部６６ｂと、ロック本体６６ａの後端から左方へ延びた後に斜め左前方へ延びている弾性変形可能な棒状の弾性部６６ｃと、ロック本体６６ａの後端付近で上下に貫通している取付孔６６ｄと、を備えている。このロック部材６６は、合成樹脂によって形成されている。ロッ

ク部材６６は、取付ビス６７によって、外枠側上ヒンジ部材６０における前方延出部６２の下面に回動可能に取付けられる。

【００３８】

このロック部材６６は、取付孔６６ｄを通して、ロック本体６６ａの後端が、外枠側上ヒンジ部材６０の前方延出部６２における軸受溝６３よりも後側の位置に取付けられる。また、ロック部材６６を外枠側上ヒンジ部材６０に取付けた状態では、ロック本体６６ａが、平面視で軸受溝６３を遮ることができると共に、前端付近の右側面が、外枠側上ヒンジ部材６０の垂下部６５における軸受溝６３の開口まで延びている部位と当接可能となるように前方へ延びている（図１８を参照）。

【００３９】

また、ロック本体６６ａの後端から左方へ延びている弾性部６６ｃの先端は、外枠側上ヒンジ部材６０における垂下部６５の内周面に当接している。このロック部材６６は、弾性部６６ｃの付勢力によって取付孔６６ｄを中心に、前端が左方へ回動する方向に付勢されている。従って、通常の状態では、ロック部材６６のロック本体６６ａの前端付近の右側面が、垂下部６５に当接している（図１８を参照）。この状態では、軸受溝６３におけるロック本体６６ａよりも前側の部位に、本体枠側上ヒンジ部材６２０の後述する本体枠上ヒンジピン６２２を収容可能な空間が形成される。

【００４０】

このロック部材６６は、操作部６６ｂを操作することで、弾性部６６ｃの付勢力に抗してロック本体６６ａを回動させることができる。そして、操作部６６ｂの操作によって、ロック本体６６ａを、その前端が左方へ移動する方向へ回動させることで、平面視において軸受溝６３からロック本体６６ａを後退させることができ、軸受溝６３が全通している状態とすることができる。これにより、軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入したり、軸受溝６３内から本体枠上ヒンジピン６２２を外したりすることができる。

【００４１】

［２－７．外枠側下ヒンジ部材］

外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０は、図示するように、水平に延びている平板状の水平部７１と、水平部７１の左辺において前後方向中央よりも後側の部位から上方へ立上っている平板状の立上り部７２と、水平部７１の前端付近から上方へ突出している外枠下ヒンジピン７３と、水平部７１を上下に貫通しており遊技球が一つのみ通過可能な大きさの排出孔７４と、を備えている。この外枠側下ヒンジ部材７０は、金属板をプレス成型により屈曲させて形成されている。

【００４２】

外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１は、平面視において、左辺を底辺とした台形に形成されている。外枠下ヒンジピン７３は、円柱状で、上下方向中央よりも上部が、上端が窄まった円錐台状に形成されている。この外枠下ヒンジピン７３は、水平部７１の前端付近における左寄りの位置に取付けられている。排出孔７４は、水平部７１において、立上り部７２の前後方向中央の部位と接し、水平部７１の左辺から右方へ逆Ｕ字状に延びるように形成されている。この排出孔７４は、幕板部材５０の左排出孔５２と、略同じ大きさに形成されている。

【００４３】

外枠側下ヒンジ部材７０は、外枠２が組立てられた状態では、水平部７１が、幕板部材５０の左端付近の上面と後方延出部５１上に載置されており、水平部７１が、幕板部材５０の上面を貫通する図示しないビスによって幕板補強部材８０に固定されている。また、外枠２が組立てられた状態では、立上り部７２が、左枠部材３０の内側側面における突出部３２よりも前側の部位に、図示しないビスによって取付けられている。この外枠側下ヒンジ部材７０は、外枠下ヒンジピン７３を、本体枠４の本体枠側下ヒンジ部材６４０における本体枠用下ヒンジ孔（図示は省略）に挿通させることで、外枠側上ヒンジ部材６０と協働して本体枠４を開閉可能に取付けることができる。

【００４４】

また、外枠２が組立てられた状態では、排出孔７４が、幕板部材５０の左排出孔５２と一致している。これにより、水平部７１上の遊技球を、排出孔７４及び左排出孔５２を通して、幕板部材５０の後側へ落下（排出）させることができる。詳述すると、外枠２に対して本体枠４を閉じる時に、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球が、本体枠４が閉じられるのに従って、外枠２と本体枠４との間が徐々に狭くなることから、間隔が広い後方側へ転動とすることとなり、排出孔７４から排出させることができる。この際に、排出孔７４が、パチンコ機１に組立てた状態で、外枠２に対して本体枠４を閉じた時に、本体枠４の後端と略同じとなる位置に形成されているため、外枠２と本体枠４との間に落下した遊技球を、排出孔７４から排出させることで本体枠４よりも後側へ転動するのを阻止し易くすることができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位に遊技球が留まり難くすることができる。

【００４５】

［２－８．連結部材］

外枠２の連結部材８５は、上枠部材１０と左枠部材３０とを連結する左上連結部材８５Ａと、上枠部材１０と右枠部材４０とを連結する右上連結部材８５Ｂと、下枠部材２０と左枠部材３０とを連結する左下連結部材８５Ｃと、下枠部材２０と右枠部材４０とを連結する右下連結部材８５Ｄと、がある。

【００４６】

連結部材８５は、水平に延びた平板状の水平固定部８６と、水平固定部８６の左右側辺の何れか一方から上方へ延出している平板状の上横固定部８７と、水平固定部８６における上横固定部８７が延出している部位と同じ側から下方へ延出している平板状の下横固定部８８と、を備えている。この連結部材８５は、平板状の金属板を屈曲させて形成されている。

【００４７】

左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂでは、水平固定部８６の前後方向の中央から上横固定部８７が上方へ延出していると共に、上横固定部８７の前後両側から下横固定部８８が下方へ延出している。つまり、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂでは、下横固定部８８が前後に離間して二つ備えられている。左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの水平固定部８６は、上枠部材１０の下面に当接した状態で上枠部材１０に固定される。また、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの上横固定部８７は、上枠部材１０の係合切欠部２１内に挿入されて、上枠部材１０の左右方向の端部に固定される。また、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの前側の下横固定部８８は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左上連結部材８５Ａ及び右上連結部材８５Ｂの後側の下横固定部８８は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２内に挿入されて外側側面から捩じ込まれるビスにより左枠部材３０及び右枠部材４０に夫々固定される。

【００４８】

左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄでは、上横固定部８７の後端が、水平固定部８６の後端よりも後方へ突出していると共に、上横固定部８７の水平固定部８６よりも後方へ突出している部位の下端から下横固定部８８が水平固定部８６よりも下方へ延出している。また、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄでは、上横固定部８７の後端から水平固定部８６と同じ側へ突出している屈曲部８９を更に備えている。左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの水平固定部８６は、下枠部材２０の上面に当接した状態で固定される。また、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの上横固定部８７は、左枠部材３０及び右枠部材４０の突出部３２，４２よりも前側の内側側面に夫々固定される。更に、左下連結部材８５Ｃ及び右下連結部材８５Ｄの下横固定部８８は、下枠部材２０の係合切欠部２１内に挿入されて下枠部材２０の左右方向の端部面に夫々固定される。

【００４９】

［２－９．外枠側上ヒンジ部材のロック機構］

次に、本実施形態のパチンコ機１の外枠２において、外枠側上ヒンジ部材６０における

ロック部材６６による本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０に対するロック機構について、図１７及び図１８を参照して説明する。図１７（ａ）は外枠の外枠側上ヒンジ部材に対して本体枠の本体枠側上ヒンジ部材が取外されている状態を拡大して示す斜視図であり、（ｂ）は外側上ヒンジ部材に本体側上ヒンジ部材が取付けられている状態を拡大して示す斜視図である。図１８は、外枠におけるロック部材の作用を示す説明図である。

【００５０】

外枠２におけるロック部材６６は、外枠側上ヒンジ部材６０の前方延出部６２に取付けた状態（通常の状態）では、弾性部６６ｃの先端が垂下部６５の内周面と当接しており、ロック本体６６ａがく字状に屈曲した軸受溝６３の一部を閉塞するようになっていると共に、ロック本体６６ａの先端部分が、軸受溝６３の最深部分を閉塞した状態とはならず、軸受溝６３の最深部分に本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を挿入可能な空間が形成された状態となっている。

【００５１】

本実施形態における外枠側上ヒンジ部材６０とロック部材６６とを用いた本体枠上ヒンジピン６２２の支持機構は、本体枠上ヒンジピン６２２が軸受溝６３の最深部分に挿入されてロック本体６６ａの前端の右側面が、右側の垂下部６５と接近している状態（この状態ではロック本体６６ａの前端の右側面と右側の垂下部６５との間に僅かな隙間があり当接した状態となっていない）である通常の軸支状態においては、屈曲している軸受溝６３の最深部分に位置する本体枠上ヒンジピン６２２とロック本体６６ａの前端面との夫々の中心が斜め方向にずれて対向した状態となっている。

【００５２】

そして、この通常の軸支状態においては、重量のある本体枠４を軸支している本体枠上ヒンジピン６２２が軸受溝６３の前端部分に当接した状態となっているので、本体枠上ヒンジピン６２２からロック本体６６ａの前端面への負荷がほとんどかかっていない。つまり、ロック部材６６の弾性部６６ｃに対し負荷がかかっていない状態となっている。なお、ロック本体６６ａの前端面が円弧状に形成されているため、ロック部材６６を回動させるために操作部６６ｂを回動操作した時に、ロック部材６６がスムーズに回動するようになっている。また、図示では、ロック本体６６ａの前端面の円弧中心が、取付孔６６ｄの中心（ロック部材６６の回転中心）とされている。

【００５３】

従って、本体枠上ヒンジピン６２２がく字状に形成された軸受溝６３の傾斜に沿って抜ける方向に作用力Ｆがかかって、ロック本体６６ａの円弧状の前端面に当接したとき、その作用力Ｆを、本体枠上ヒンジピン６２２と円弧状の前端面との当接部分に作用する分力Ｆ１（ロック本体６６ａの前端面の円弧の法線方向）と、本体枠上ヒンジピン６２２と軸受溝６３の一側内面との当接部分に作用する分力Ｆ２と、に分けたときに、分力Ｆ１の方向が取付孔６６ｄ（取付ビス６７）の中心（ロック部材６６の回転中心）を向くため、ロック部材６６のロック本体６６ａの前端が、右側の垂下部６５から離れる方向に回転させるモーメントが働かず、本体枠上ヒンジピン６２２がロック部材６６のロック本体６６ａの前端部と軸受溝６３の一側内面との間に挟持された状態が保持される。

【００５４】

このため、通常の軸支状態、或は、本体枠上ヒンジピン６２２の作用力がロック部材６６にかかった状態でも、ロック部材６６の弾性部６６ｃに常時負荷がかからず、合成樹脂で一体形成される弾性部６６ｃのクリープによる塑性変形を防止し、長期間に亘って本体枠上ヒンジピン６２２の軸受溝６３からの脱落を防止することができる。なお、仮に無理な力がかかってロック部材６６のロック本体６６ａの前端部が右方へ移動する方向へ回転させられても、ロック本体６６ａの前端右側面が垂下部６５に当接してそれ以上回転しないので、ロック部材６６が前方延出部６２の外側にはみ出ないようになっている。

【００５５】

なお、ロック本体６６ａの前端面の形状は円弧状でなくても、上記した分力Ｆ１の作用により回転モーメントが生じない位置又はロック部材６６をその前端部が前方延出部６２

の外側に向って回転させる回転モーメントが生ずる位置にロック部材６６の回転中心（取付ビス６７により固定される軸）を位置させることにより、常時ロック部材６６の弾性部６６ｃに対しても負荷がかかることはないし、ロック部材６６が回転してもロック本体６６ａの前端の右側面が垂下部６５に当接するだけであるため、ロック部材６６が前方延出部６２の外側にはみ出ることもない。

【００５６】

外枠側上ヒンジ部材６０の軸受溝６３に、本体枠側上ヒンジ部材６２０の本体枠上ヒンジピン６２２を支持させる場合は、軸受溝６３の開放されている側から軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入する。軸受溝６３内に本体枠上ヒンジピン６２２を挿入すると、ロック部材６６のロック本体６６ａの右側面に本体枠上ヒンジピン６２２が当接し、弾性部６６ｃの付勢力に抗してロック本体６６ａの前端が左方へ移動するようにロック部材６６が取付ビス６７を中心に回動する。これにより、軸受溝６３を閉鎖していたロック本体６６ａが後退して軸受溝６３が開放され、軸受溝６３の最深部（前端）へ本体枠上ヒンジピン６２２を移動させることができるようになる。

【００５７】

そして、軸受溝６３の最深部に本体枠上ヒンジピン６２２を移動させると、本体枠上ヒンジピン６２２とロック部材６６のロック本体６６ａとの当接が解除され、弾性部６６ｃの付勢力によってロック本体６６ａの前端が右方へ移動するようにロック部材６６が回動し、ロック部材６６が通常の状態に復帰する。これにより、本体枠上ヒンジピン６２２が、軸受溝６３内におけるロック本体６６ａの前端よりも前側の空間に収容された状態となり、本体枠上ヒンジピン６２２が、軸受溝６３の最深部において回動可能な状態で保持（ロック）された状態となる。

【００５８】

軸受溝６３内から本体枠上ヒンジピン６２２を取外す場合は、ロック部材６６の操作部６６ｂを操作して、ロック本体６６ａの前端が左方へ移動するようにロック部材６６を回動させ、弾性部６６ｃの付勢力に抗して軸受溝６３からロック本体６６ａを後退させる。これにより、軸受溝６３の最深部と開口部とが連通した状態となり、軸受溝６３から本体枠上ヒンジピン６２２を取外すことができる。

【００５９】

［２－１０．外枠側下ヒンジ部材の部位における防犯機構と球噛み防止機構］

本実施形態のパチンコ機１における外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０の部位における防犯機構と外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれるのを防止するための球噛み防止機構について説明する。

【００６０】

外枠２は、組立てた状態では、幕板部材５０の上面における正面視左端部に外枠側下ヒンジ部材７０が取付けられている。外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１は、幕板部材５０の上面の左端付近と後方延出部５１の上面とに載置された状態で取付けられている。この幕板部材５０には、上面の後端から上方へ立上っている立壁部５４を備えている。これにより、外枠側下ヒンジ部材７０と本体枠側下ヒンジ部材６４０との間の隙間を通して、本体枠４（パチンコ機１）の後側へピアノ線等の不正な工具を侵入させようとしても、不正な工具の先端が幕板部材５０の上面の後端から上方へ延出している立壁部５４に当接するため、不正な工具がこれ以上後側へ挿入されるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位を介して不正行為が行われるのを防止することができる。

【００６１】

また、立壁部５４の上端に、前方へ延出している返し部５５を備えているため、立壁部５４に当接した不正な工具が上方へ曲がった場合、返し部５５によって不正な工具の先端を更に前方へ折返させることができるため、本体枠４の後側に不正な工具が侵入させられるのを阻止することができ、外枠側下ヒンジ部材７０の部位を介して不正行為が行われるのを確実に阻止することができる。

【００６２】

ところで、幕板部材５０の上面の後端に上方へ延出している立壁部５４を備えるようにした場合、外枠２に対して本体枠４を開いている状態で、遊技球が外枠側下ヒンジ部材７０（水平部７１）上に落下した場合、水平部７１上の遊技球が、立壁部５４の存在によって水平部７１の後端から後方へ排出されないため、外枠２と本体枠４との間に挟まれてしまう虞がある。これに対して、本実施形態では、外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１と、幕板部材５０の後方延出部５１とに、遊技球が通過可能な排出孔７４、左排出孔５２、及び右排出孔５３を備えているため、外枠側下ヒンジ部材７０の水平部７１上の遊技球を、排出孔７４等から下方へ排出することができ、外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれるのを低減させることができる。

【００６３】

従って、外枠２と本体枠４との間に遊技球が挟まれることで、外枠側下ヒンジ部材７０の周りが破損したり、本体枠４が正常な状態で閉まらずに外枠２と本体枠４との間に隙間ができてしまい、その隙間を使って不正行為が行われてしまったりするのを防止することができる。

【００６４】

［３．扉枠の全体構成］

パチンコ機１の扉枠３について、図１９乃至図３０を参照して説明する。図１９はパチンコ機における扉枠の正面図であり、図２０は扉枠の右側面図であり、図２１は扉枠の左側面図であり、図２２は扉枠の背面図である。図２３は扉枠を右前から見た斜視図であり、図２４は扉枠を左前から見た斜視図であり、図２５は扉枠を後ろから見た斜視図である。図２６は図１９におけるＡ－Ａ線で切断した断面図であり、図２７は図１９におけるＢ－Ｂ線で切断した断面図であり、図２８は図１９におけるＣ－Ｃ線で切断した断面図である。図２９は扉枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３０は扉枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００６５】

扉枠３は、図２９及び図３０等に示すように、正面視の外形が上下に延びた四角形で枠状の扉枠ベースユニット１００と、扉枠ベースユニット１００の前面右下隅に取付けられているハンドルユニット３００と、扉枠ベースユニット１００の前面下部に取付けられている皿ユニット３２０と、皿ユニット３２０の中央に取付けられている演出操作ユニット４００と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面左部に取付けられている扉枠左サイドユニット５３０と、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面右部に取付けられている扉枠右サイドユニット５５０と、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の前面上部に取付けられている扉枠トップユニット５７０と、を備えている。

【００６６】

扉枠３の扉枠ベースユニット１００は、詳細は後述するが、正面視の外形が上下に延びた長方形（四角形）で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており本体枠４に対してヒンジ回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の後面に取付けられ貫通口１１１を閉鎖するガラスユニット１９０と、ガラスユニット１９０の後面下部を覆う防犯カバー２００と、扉枠ベース１１０の後面に扉枠ベース１１０を貫通して前方に突出するように取付けられ開閉可能とされている扉枠３と本体枠４、及び本体枠４と外枠２との間を施錠するための開閉シリンダユニット２１０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられ遊技球を球発射装置６８０に送るための球送ユニット２５０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられ球発射装置６８０により発射されて遊技領域５ａ内に到達しなかった遊技球を受けて下皿３２２へ排出させるファールカバーユニット２７０と、を備えている。

【００６７】

扉枠３のハンドルユニット３００は、詳細は後述するが、回転可能なハンドル３０２を

遊技者が回転操作することで、上皿３２１内に貯留されている遊技球を、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。

【００６８】

扉枠３の皿ユニット３２０は、詳細は後述するが、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面において貫通口１１１の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出していると共に、左右方向中央の前端に演出操作ユニット４００が取付けられる。皿ユニット３２０は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球を貯留する上皿３２１と、上皿３２１の下側に配置されており上皿３２１やファールカバーユニット２７０から供給される遊技球を貯留可能な下皿３２２と、上皿３２１に貯留されている遊技球を下皿３２２へ抜くための上皿球抜きボタン３２７と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残金の範囲内で遊技者に遊技球を貸し出すための球貸ボタン３２８と、球貸機から貸出された遊技球の分を差し引いた現金やプリペイドカードを返却させるための返却ボタン３２９と、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数等を表示する球貸返却表示部３３０と、演出提示時に遊技者の操作が受付可能とされている演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２と、下皿３２２内の遊技球を皿ユニット３２０の下方へ排出するための下皿球抜きボタン３３３と、を備えている。

【００６９】

扉枠３の演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。この演出操作ユニット４００は、詳細は後述するが、遊技者が操作可能な大型の操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０内に遊技者側から視認可能に配置され演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。

【００７０】

扉枠３の扉枠左サイドユニット５３０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の左外側を装飾するものである。扉枠左サイドユニット５３０は、発光装飾可能な左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）を備えている。

【００７１】

扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０は、詳細な内容は後述するが、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも右側の前面右部に取付けられ、貫通口１１１（遊技領域５ａ）の右外側を装飾するものである。この扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく突出しており、左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を備えている。扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させることができる。

【００７２】

扉枠３の扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられ、扉枠３の上部を装飾するものである。扉枠トップユニット５７０は、詳細な内容は後述するが、左右に離間した一対の上部スピーカ５７３と、前面中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、を備えている。扉枠トップユニット５７０は、トップ中装飾部材５７６、トップ左装飾レンズ部材５７９、及びトップ右装飾レンズ部材５８０を発光装飾させることができる。

【００７３】

［３－１．扉枠ベースユニットの全体構成］

扉枠３の扉枠ベースユニット１００について、図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。図３１（ａ）は扉枠における扉枠ベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ

）は扉枠ベースユニットを後ろから見た斜視図である。図３２は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図３３は扉枠ベースユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【００７４】

扉枠ベースユニット１００は、正面視左辺側が本体枠４の前面を閉鎖するように本体枠４に対して開閉可能（ヒンジ回転可能）に取付けられるものである。扉枠ベースユニット１００は、前面下隅にハンドルユニット３００が、貫通口１１１の下側前面に演出操作ユニット４００が取付けられる皿ユニット３２０が、貫通口１１１の左外側前面に扉枠左サイドユニット５３０が、貫通口１１１の右外側前面に扉枠右サイドユニット５５０が、貫通口１１１の上外側前面に扉枠トップユニット５７０が、夫々取付けられるものである。

【００７５】

扉枠ベースユニット１００は、図３２及び図３３に等に示すように、正面視の外形が上下に延びた長方形で前後に貫通している貫通口１１１を有した板状の扉枠ベース１１０と、扉枠ベース１１０の後側に取付けられている枠状の補強ユニット１３０と、補強ユニット１３０の正面視左端側の上下両端に取付けられており扉枠ベース１１０から前方へ突出して本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０に回転可能に取付けられる扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０と、扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠左サイド装飾基板１６０と、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット１９０を着脱可能に取付けるためのガラスユニット取付部材１７０と、を備えている。

【００７６】

また、扉枠ベースユニット１００は、扉枠ベース１１０の前面で正面視右下隅に取付けられておりハンドルユニット３００を取付けるための筒状のハンドル取付部材１８０と、扉枠ベース１１０の後面に取付けられ貫通口１１１を閉鎖するガラスユニット１９０と、ガラスユニット１９０の後面下部を覆う防犯カバー２００と、扉枠ベース１１０の後面に扉枠ベース１１０を貫通して前方に突出するように取付けられる開閉シリンダユニット２１０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられる球送ユニット２５０と、扉枠ベース１１０の後面下部に取付けられるファールカバーユニット２７０と、を備えている。

【００７７】

更に、扉枠ベースユニット１００は、図示は省略するが、扉枠３に備えられている各種の装飾基板、球送ソレノイド２５５、ハンドル回転検知センサ３０７、ハンドルタッチセンサ３１０、単発ボタン操作センサ３１２、球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、球貸返却表示部３３０、演出選択左ボタン３３１、演出選択右ボタン３３２、振動モータ４２４、押圧検知センサ４４０、扉枠側演出表示装置４６０（液晶表示装置４６１）、上部スピーカ５７３、等と、本体枠４における基板ユニット９００の扉枠用中継基板９１１との接続を中継するための扉本体中継基板を備えている。

【００７８】

［３－１ａ．扉枠ベース］

扉枠３における扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０について、主に図３１乃至図３３を参照して詳細に説明する。扉枠ベース１１０は、正面視の外形が上下に延びた四角形（長方形）に形成されている。扉枠ベース１１０は、前後に貫通しており、正面視における内周形状が上下に延びた略四角形に形成された貫通口１１１を備えている。貫通口１１１は、内周を形成している上辺及び左右両辺が、扉枠ベース１１０の外周辺に夫々接近しており、内周を形成している下辺が、扉枠ベース１１０の下端から上下方向の約１／３の高さに位置している。従って、扉枠ベース１１０は、前後に貫通している貫通口１１１により全体が枠状に形成されている。この扉枠ベース１１０は、合成樹脂により一体成形されている。

【００７９】

扉枠ベース１１０は、前面における正面視右下隅に形成されており左端側が右端側より

も前方へやや突出するように傾斜しているハンドル取付座面１１２と、ハンドル取付座面１１２と貫通口１１１との間で正面視右端付近に後面から前方へ向かって窪み、開閉シリンダユニット２１０のシリンダ取付板金２１３が取付けられるシリンダ取付部１１３と、シリンダ取付部１１３において前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通孔１１４と、シリンダ挿通孔１１４及びハンドル取付座面１１２の正面視左側で前後に貫通しており球送ユニット２５０の進入口２５１ａ及び球抜口２５１ｂを前方に臨ませるための球送り開口１１５と、を備えている。

【００８０】

また、扉枠ベース１１０は、扉枠ベース１１０の左右方向中央より左寄りで且つハンドル取付座面１１２と略同じ高さで前後に貫通しておりファールカバーユニット２７０の球放出口２７６を前方に臨ませる下皿用通過口１１６と、扉枠ベース１１０の正面視左端付近で貫通口１１１の下辺に隣接するように前後に貫通しておりファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３を前方に臨ませる上皿用通過口１１７と、貫通口１１１の内周に沿って後面から前方へ向かって窪み、ガラスユニット１９０のガラス枠１９１が挿入されるガラスユニット取付部１１８と、扉枠ベース１１０の左右両上隅において前後に貫通しており扉枠トップユニット５７０の上部スピーカ５７３の後端が挿通されるスピーカ挿通口１１９と、を備えている。

【００８１】

［３－１ｂ．補強ユニット］

扉枠ベースユニット１００の補強ユニット１３０について、図３１及び図３３等を参照して詳細に説明する。補強ユニット１３０は、扉枠ベース１１０の後側に取付けられることで扉枠ベース１１０を補強して、扉枠ベース１１０（扉枠３）の強度剛性を高めている。補強ユニット１３０は、扉枠ベース１１０の後面における上辺に沿って取付けられる左右に延びた上補強板金１３１と、扉枠ベース１１０の後面における貫通口１１１の下側に取付けられる左右に延びた中補強板金１３２と、扉枠ベース１１０の後面における正面視左辺に沿って取付けられる上下に延びた左補強板金１３３と、扉枠ベース１１０の後面における正面視右辺に沿って取付けられる上下に延びた右補強板金１３４と、右補強板金１３４の後面に取付けられており施錠ユニット７００の扉枠用鉤７０２が係止される施錠係止部１３５と、を備えている。

【００８２】

補強ユニット１３０は、上補強板金１３１の左右両端が左補強板金１３３及び右補強板金１３４の夫々の上端にビスによって連結固定されており、中補強板金１３２の左端が左補強板金１３３にビスによって連結固定されている。中補強板金１３２の右端は、後述する開閉シリンダユニット２１０のシリンダ取付板金２１３を介して右補強板金１３４に連結固定されている。従って、補強ユニット１３０は、上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、及び右補強板金１３４等によって、枠状に形成されている。

【００８３】

補強ユニット１３０の上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、右補強板金１３４、及び施錠係止部１３５は、夫々金属板を適宜屈曲させて形成されている。中補強板金１３２は、扉枠ベース１１０の上皿用通過口１１７と対応する位置に、前後に貫通した切欠部１３２ａが形成されている。

【００８４】

補強ユニット１３０は、詳細な図示は省略するが、各上補強板金１３１、中補強板金１３２、左補強板金１３３、及び右補強板金１３４において、夫々前後方向に屈曲された部位を有しており、その部位によって、強度剛性が高められていると共に、外部からのピアノ線やマイナスドライバー等の不正な工具の侵入を防止している。

【００８５】

［３－１ｃ．扉枠側上ヒンジ部材］

扉枠ベースユニット１００の扉枠側上ヒンジ部材１４０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠ベース１１０に取付

けられ上下に離間している一対の突出片１４１ａを有した扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１と、扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１の一対の突出片１４１ａを貫通しており、上端が本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に挿入される円柱状の扉枠上ヒンジピン１４２と、扉枠上ヒンジピン１４２における一対の突出片１４１ａの間の位置に取付けられている円盤状の鍔部材１４３と、鍔部材１４３と一対の突出片１４１ａのうちの下側の突出片１４１ａとの間に介装されていると共に扉枠上ヒンジピン１４２が挿通されており、扉枠上ヒンジピン１４２を上方へ付勢しているロックバネ１４４と、を備えている。

【００８６】

扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１は、図示は省略するが一対の突出片１４１ａの後端同士を連結している平板状の取付片を有しており、側面視の形状が前方へ開放されたコ字状に形成されている。扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１は、一対の突出片１４１ａ同士を連結している取付片が、ビスによって扉枠ベース１１０の後面に取付けられている。

【００８７】

扉枠上ヒンジピン１４２は、上側の突出片１４１ａよりも上方に突出している部位（上端）が、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に対して回転可能に挿入される。また、扉枠上ヒンジピン１４２は、図示は省略するが、下側の突出片１４１ａよりも下方に突出している部位が水平方向に屈曲している。この屈曲している部位が下側の突出片１４１ａの下面に当接することで、扉枠上ヒンジピン１４２の上方への移動を規制している。

【００８８】

鍔部材１４３は、Ｅリングとされており、扉枠上ヒンジピン１４２の外周に形成されている溝内に挿入保持されている。ロックバネ１４４は、扉枠上ヒンジピン１４２を挿通可能なコイルスプリングとされており、上端が鍔部材１４３に当接していると共に、下端が下側の突出片１４１ａに当接している。このロックバネ１４４は、鍔部材１４３と下側の突出片１４１ａとの間に、圧縮された状態で介装されており、鍔部材１４３を介して扉枠上ヒンジピン１４２を上方へ付勢している。

【００８９】

扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２がロックバネ１４４により上方へ付勢された状態となっており、扉枠上ヒンジピン１４２における下端の水平に屈曲している部位が下側の突出片１４１ａの下面に当接することで、これ以上の上方への移動が規制されている。この状態では、扉枠上ヒンジピン１４２の上端が、上側の突出片１４１ａの上面よりも所定量上方に突出している。

【００９０】

扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２における下端の水平に屈曲している部位を作業者が持って、ロックバネ１４４の付勢力に抗してその部位を下方へ引っ張ると、扉枠上ヒンジピン１４２を全体的に下方へ移動させることができ、扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、上側の突出片１４１ａの上面よりも下方へ没入させることができる。従って、扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に対して下方から挿入させたり、下方へ抜いたりすることができる。これにより、扉枠側上ヒンジ部材１４０の扉枠上ヒンジピン１４２の上端を、本体枠側上ヒンジ部材６２０の扉枠用上ヒンジ孔６２３に挿入させることで、扉枠３の正面視上部左端を、本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持させることができる。

【００９１】

また、扉枠側上ヒンジ部材１４０は、扉枠上ヒンジピン１４２における扉枠上ヒンジ軸ブラケット１４１の一対の突出片１４１ａにより支持されている部位が、後述する扉枠側下ヒンジ部材１５０の扉枠下ヒンジピン１５２と同軸上に支持されている。これにより、扉枠側上ヒンジ部材１４０と扉枠側下ヒンジ部材１５０とによって、扉枠３を本体枠４に対して良好な状態でヒンジ回転させることができる。

【００９２】
［３－１ｄ．扉枠側下ヒンジ部材］
扉枠ベースユニット１００の扉枠側下ヒンジ部材１５０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。扉枠側下ヒンジ部材１５０は、扉枠ベース１１０に取付けられ前方に延出している平板状の延出片１５１ａを有している扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１と、扉枠下ヒンジ軸ブラケットにおける延出片１５１ａの前端部付近から下方に突出している円柱状の扉枠下ヒンジピン１５２（図２１及び図２２を参照）と、を備えている。
【００９３】
扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１は、水平に延びた平板状の延出片１５１ａの後端から上方に延出した平板状の取付片（図示は省略）を有しており、側面視の全体形状が略Ｌ字状に形成されている。この扉枠下ヒンジ軸ブラケット１５１は、図示しない取付片がビスによって扉枠ベース１１０の後面に取付けられている。
【００９４】
扉枠下ヒンジピン１５２は、下端部が、下方へ向かうほど窄まる円錐台状に形成されている。この扉枠下ヒンジピン１５２は、後述する本体枠４における本体枠側下ヒンジ部材６４０の扉枠用ヒンジ孔６４４に、上方から回転可能に挿入される。扉枠下ヒンジピン１５２は、扉枠側上ヒンジ部材１４０の扉枠上ヒンジピン１４２と同軸上に配置されている。
【００９５】
この扉枠側下ヒンジ部材１５０は、扉枠下ヒンジピン１５２が本体枠側下ヒンジ部材６４０の扉枠用ヒンジ孔６４４に挿入されることで、扉枠３を本体枠４に対してヒンジ回転可能に支持することができる。
【００９６】
［３－１ｅ．扉枠左サイド装飾基板］
扉枠ベースユニット１００の扉枠左サイド装飾基板１６０について、主に図３１及び図３２等を参照して詳細に説明する。扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠ベース１１０の前面において、貫通口１１１の正面視左側に取付けられている。扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠ベース１１０における正面視左側のスピーカ挿通口１１９よりも下側の位置の高さから貫通口１１１の上下方向の中央付近の高さまで上下に延びている扉枠左サイド上装飾基板１６１と、扉枠左サイド上装飾基板１６１の下側の位置の高さから上皿用通過口１１７の下端と略同じ高さまで上下に延びている扉枠左サイド下装飾基板１６２と、を備えている。
【００９７】
扉枠左サイド装飾基板１６０の扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２は、夫々前面に、前方へ光を照射可能な複数のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａを備えている。これらＬＥＤ１６１ａ，１６２ａは、フルカラーＬＥＤとされている。
【００９８】
扉枠左サイド装飾基板１６０は、扉枠３を組立てた状態で、後述する扉枠左サイドユニット５３０の後方に位置しており、前面に備えられた（実装された）複数のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａを適宜発光させることで、扉枠左サイドユニット５３０の左ユニット装飾レンズ部材を発光装飾させることができる。
【００９９】
［３－１ｆ．ガラスユニット取付部材］
扉枠ベースユニット１００のガラスユニット取付部材１７０について、主に図３１（ｂ）等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後側に回動可能に取付けられておりガラスユニット１９０を着脱可能に取付けるためのものである。ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後側で前後に延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられる円盤状の基部１７１と、基部１７１から回転軸線に対して直角方向へ棒状に突出している突出部１７２と、を有している。

【０１００】
ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０の後面における一対のスピーカ挿通口１１９の下側で、ガラスユニット取付部１１８よりも外側の部位に、夫々回転可能に取付けられている。
【０１０１】
ガラスユニット取付部材１７０は、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように回転させた状態とすることで、背面視において扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８よりも突出部１７２が外側に位置した状態となり、扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８に対してガラスユニット１９０を挿入したり、ガラスユニット取付部１１８からガラスユニット１９０を取外したりすることができる。
【０１０２】
ガラスユニット取付部材１７０は、ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８に挿入させた状態で、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出するように回転させると、突出部１７２がガラスユニット１９０の取付片１９１ａの後側と当接し、ガラスユニット１９０上部の後方への移動を規制した状態となり、ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０に取付けることができる。
【０１０３】
ガラスユニット取付部材１７０は、扉枠ベース１１０に回転可能に取付けられる円盤状の基部１７１から突出部１７２が突出しているため、ガラスユニット取付部材１７０の重心位置が突出部１７２内に位置している。このことから、ガラスユニット取付部材１７０が自由に回転できる状態では、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出した状態で安定することとなる。そして、ガラスユニット取付部材１７０では、突出部１７２が基部１７１から下方へ突出している回転位置の時に、突出部１７２によりガラスユニット１９０の後方への移動を規制させるようにしているため、ガラスユニット取付部材１７０に振動等が作用しても、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように全体が回転することはなく、ガラスユニット１９０の後方への移動の規制が自然に解除されることはない。
【０１０４】
なお、扉枠ベース１１０からガラスユニット１９０を取外す場合は、ガラスユニット取付部材１７０を、突出部１７２が基部１７１から上方へ突出するように回転させて、突出部１７２をガラスユニット１９０の取付片１９１ａよりも外側へ移動させることで、ガラスユニット１９０の上部側を後方へ移動させることができるようになり、扉枠ベース１１０からガラスユニット１９０を取外すことができる。
【０１０５】
［３－１ｇ．ハンドル取付部材］
扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。ハンドル取付部材１８０は、扉枠ベース１１０の前面にハンドルユニット３００を取付けるためのものである。ハンドル取付部材１８０は、図３２及び図３３等に示すように、前後方向へ延びた円筒状の筒部１８１と、筒部１８１の後端から筒部１８１の軸に対して直角方向外方へ延びた円環状のフランジ部１８２と、筒部１８１内に突出していると共に筒部１８１の軸方向全長に亘って延びており筒部１８１の周方向に対して不等間隔に配置された複数（本例では三つ）の突条１８３と、筒部１８１の外周面とフランジ部１８２の前面とを繋ぎ、筒部１８１の周方向に対して複数配置された補強リブ１８４と、を備えている。
【０１０６】
ハンドル取付部材１８０は、フランジ部１８２の後面を、扉枠ベース１１０におけるハンドル取付座面１１２の前面に当接させた状態で、ビスによってハンドル取付座面１１２に取付けられる。
【０１０７】
筒部１８１は、内径がハンドルユニット３００におけるハンドルベース３０１の基部３０１ａの外径よりも若干大きく形成されている。三つの突条１８３は、一つが筒部１８１

内の上側に備えられており、残り二つが筒部１８１内の下側に備えられている。これら三つの突条１８３は、ハンドルベース３０１における三つの溝部３０１ｃと対応する位置に形成されている。従って、ハンドル取付部材１８０は、三つの突条１８３と、ハンドルベース３０１の三つの溝部３０１ｃとを一致させた状態でのみ、筒部１８１内にハンドルベース３０１の基部３０１ａを挿入させることができ、扉枠ベース１１０に対してハンドルベース３０１（ハンドルユニット３００）の回転位置を規制することができる。

【０１０８】

なお、ハンドル取付部材１８０は、フランジ部１８２の後面に対して、筒部１８１の軸線が垂直に延びていることから、扉枠ベース１１０の傾斜したハンドル取付座面１１２に取付けることで、筒部１８１の軸線が右前方へ延びるように傾いた状態となり、ハンドルユニット３００を同様に傾いた状態で扉枠ベース１１０に取付けることができる。

【０１０９】

［３－１ｈ．ガラスユニット］

扉枠ベースユニット１００のガラスユニット１９０について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１を、前方から後方が視認できるように閉鎖するものである。ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１の内周形状よりも大きくガラスユニット取付部１１８に取付可能な枠状のガラス枠１９１と、ガラス枠１９１の枠内を閉鎖し外周がガラス枠１９１に取付けられている透明な二つのガラス板１９２と、を備えている。二つのガラス板１９２は、ガラス枠１９１の前端側と後端側とに夫々取付けられており、互いの間に空間が形成されるように前後に離間している（図２６等を参照）。

【０１１０】

ガラス枠１９１は、正面視左右上隅よりも下側の位置から外方へ平板状に延出している一対の取付片１９１ａと、下端から下方へ突出していると共に下辺に沿って延びている帯板状の係止片１９１ｂと、を有している。ガラス枠１９１の取付片１９１ａは、ガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２と当接可能とされている。係止片１９１ｂは、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の空間内に挿入可能とされている（図２６を参照）。

【０１１１】

このガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０の後側から、ガラス枠１９１の係止片１９１ｂを、扉枠ベース１１０と補強ユニット１３０の中補強板金１３２との間の隙間に上方から挿入した上で、ガラス枠１９１の前端を扉枠ベース１１０のガラスユニット取付部１１８の後面に当接させ、ガラスユニット取付部材１７０を回転させてガラスユニット取付部材１７０の突出部１７２をガラス枠１９１の取付片１９１ａの後面と当接させることで、扉枠ベース１１０に取付けられる。

【０１１２】

ガラスユニット１９０を扉枠ベース１１０から取外す場合は、上記と逆の手順により、取外すことができる。これにより、ガラスユニット１９０は、扉枠ベース１１０に対して着脱可能となっている。

【０１１３】

［３－１ｉ．防犯カバー］

扉枠ベースユニット１００の防犯カバー２００について、主に図３１乃至図３３等を参照して詳細に説明する。防犯カバー２００は、ガラスユニット１９０の後面下部を覆うように扉枠ベース１１０の後側に取付けられ、透明な合成樹脂により形成されている。防犯カバー２００は、外周が所定形状に形成された平板状の本体部２０１と、本体部２０１の外周縁に沿って後方へ短く突出した平板状の後方突片２０２と、左右に離間して配置され本体部２０１よりも前方に突出し、扉枠ベース１１０の後側に係止可能とされている一対の係止片２０３と、を備えている。

【０１１４】

防犯カバー２００の本体部２０１は、扉枠ベース１１０に取付けた状態で下端がガラス

ユニット１９０の下端よりも下方へ突出するように形成されている。また、本体部２０１は、上端が、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における遊技領域５ａの下端に沿った形状に形成されている。詳述すると、本体部２０１の上端は、後述する前構成部材１０００の内レール１００２の一部、アウト誘導部１００３、右下レール１００４の一部、及び右レール１００５に沿った形状に形成されており、パチンコ機１に組立てた状態で遊技領域５ａ内に突出しないように形成されている。

【０１１５】

後方突片２０２は、本体部２０１の外周縁の略全周に亘って形成されている。従って、防犯カバー２００は、本体部２０１と後方突片２０２とによって、後方へ開放された浅い箱状に形成されており、強度・剛性が高くなっている。また、後方突片２０２は、図３３に示すように、本体部２０１の外周縁とは異なる本体部２０１の後面の一部からも後方に突出している。この本体部２０１の後面の一部から後方に突出している後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で遊技盤５の前構成部材１０００における外レール１００１の一部と沿うように形成されている。

【０１１６】

なお、後方突片２０２は、パチンコ機１に組立てた状態で、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間に位置する部位には形成されていない。これにより、外レール１００１と内レール１００２との間を通る遊技球（球発射装置６８０により発射された遊技球）が、防犯カバー２００の後方突片２０２に当接することはなく、遊技領域５ａ内への遊技球の打込みを阻害することはない。

【０１１７】

一対の係止片２０３は、扉枠ベース１１０の後側に弾性係止される。これにより、防犯カバー２００は、扉枠ベース１１０に対して容易に着脱することができる。

【０１１８】

防犯カバー２００は、パチンコ機１に組立てた状態で、本体部２０１の前面がガラスユニット１９０の後面（ガラス枠１９１の後端）と当接し、本体部２０１の下辺から後方へ突出している部位を除いた後方突片２０２が、後述する前構成部材１０００の防犯凹部１００８内に挿入された状態となる。また、防犯カバー２００は、本体部２０１の下辺から後方に突出している後方突片２０２が、前構成部材１０００の下面と接するように前構成部材１０００の前面よりも後方へ突出している状態となる。これにより、防犯カバー２００と遊技盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー２００の後方突片２０２と前構成部材１０００の防犯凹部１００８とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー２００と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片２０２や防犯凹部１００８に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０１１９】

［３－１ｊ．開閉シリンダユニット］

扉枠ベースユニット１００の開閉シリンダユニット２１０について、主に図３１乃至図３３等を参照して説明する。開閉シリンダユニット２１０は、正面視において扉枠ベース１１０の右端付近で貫通口１１１とハンドル取付座面１１２との間の位置のシリンダ取付部１１３に後側から取付けられ、後述する施錠ユニット７００と協働して、扉枠３と本体枠４との開閉、及び、外枠２と本体枠４との開閉に使用されるものである。

【０１２０】

開閉シリンダユニット２１０は、前面に鍵穴２１１ａを有し前後に延びた円筒状のシリンダ錠２１１と、シリンダ錠２１１の後端に取付けられており鍵穴２１１ａに挿入された鍵の回動操作を施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０に伝達させる回転伝達部材２１２と、シリンダ錠２１１を扉枠ベース１１０（補強ユニット１３０）に取付けるシリンダ取付板金２１３と、を備えている。

【０１２１】

シリンダ錠２１１は、対応する鍵（図示は省略）を鍵穴２１１ａに差し込むことで、鍵

を回転させることができるものであり、対応する鍵であれば、正面視において時計回り及び反時計回りの何れの方向へも所定角度回転させることができる。

【０１２２】

回転伝達部材２１２は、後方が開放された円筒状（詳しくは、後方へ向かうに従って直径が大きくなる円錐筒状）に形成されており、中心軸を挟んで対向した位置に後端から前方へ向かって切欠かれた一対の切欠部２１２ａを有している。この回転伝達部材２１２は、本体枠４における施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０が後方から挿入されるように形成されており、施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０の突起が一対の切欠部２１２ａ内に挿入されることで、回転伝達部材２１２（シリンダ錠２１１の鍵穴２１１ａに挿入された鍵）の回転を、施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０に伝達させて鍵シリンダ７１０を回転させることができる。

【０１２３】

シリンダ取付板金２１３は、一枚の金属板を屈曲させて形成されており、平面視の形状が前方へ突出している凸形状に形成されている。詳述すると、シリンダ取付板金２１３は、正面視において上下に延びた長方形で平板状の前板部２１３ａと、前板部２１３ａの左右両辺から後方へ平板状に延出している一対の側板部２１３ｂと、一対の側板部２１３ｂの夫々の後辺から互いに遠ざかる方向へ平板状に延出している一対の取付板部２１３ｃと、を備えている。シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａは、上下方向略中央の位置で後方からシリンダ錠２１１が貫通し、前板部２１３ａの後面にシリンダ錠２１１の後端が取付けられる。シリンダ取付板金２１３の一対の取付板部２１３ｃは、正面視左側の取付板部２１３ｃが補強ユニット１３０の中補強板金１３２の右端部に取付けられ、正面視右側の取付板部２１３ｃが補強ユニット１３０の右補強板金１３４に取付けられる。これにより、シリンダ取付板金２１３によって、補強ユニット１３０の中補強板金１３２と右補強板金１３４とが連結される。

【０１２４】

開閉シリンダユニット２１０は、扉枠ベースユニット１００に組立てた状態では、シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａから前方に突出しているシリンダ錠２１１の前端が、扉枠ベース１１０の後側からシリンダ挿通孔１１４に挿通されて扉枠ベース１１０の前方へ突出していると共に、シリンダ取付板金２１３の前板部２１３ａ及び一対の側板部２１３ｂが後方へ開放されている箱状のシリンダ取付部１１３内に収容されている。

【０１２５】

［３－１ｋ．球送ユニット］

扉枠ベースユニット１００の球送ユニット２５０について、主に図３４及び図３５を参照して詳細に説明する。図３４（ａ）は扉枠ベースユニットの球送ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球送ユニットを後ろから見た斜視図である。図３５（ａ）は球送ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は球送ユニットの後ケースと不正防止部材を外して後から見た分解斜視図である。球送ユニット２５０は、皿ユニット３２０の上皿３２１から供給される遊技球を一つずつ球発射装置６８０へ供給することができると共に、上皿３２１内に貯留された遊技球を、上皿球抜きボタン３２７の操作によって下皿へ抜くことができるものである。

【０１２６】

球送ユニット２５０は、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球が、皿ユニットベース３２３の上皿球送り口３２３ｄ及び扉枠ベース１１０の球送り開口１１５を通して供給され前後方向に貫通した進入口２５１ａ、及び進入口２５１ａの下側に開口する球抜口２５１ｂを有し後方が開放された箱状の前カバー２５１と、前カバー２５１の後端を閉鎖すると共に前方が開放された箱状で、前後方向に貫通している前カバー２５１の進入口２５１ａから進入した遊技球を球発射装置６８０へ供給するための打球供給口２５２ａを有した後カバー２５２と、後カバー２５２及び前カバー２５１の間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支され前カバー２５１の後側で進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切る仕切部２５３ａを有した球抜き部材２５３と、球抜き部材２５３の仕切部

２５３ａ上の遊技球を一つずつ後カバー２５２の打球供給口２５２ａへ送り、前カバー２５１と後カバー２５２との間で上下方向へ延びた軸周りに回動可能に支持された球送り部材２５４と、球送り部材２５４を回動させる球送ソレノイド２５５と、を備えている。

【０１２７】

この球送ユニット２５０は、図示するように、正面視で、球送り部材２５４が進入口２５１ａの右側に配置されており、球送り部材２５４の左側に球抜き部材２５３が、球送り部材２５４の右側に球送ソレノイド２５５が夫々配置されている。

【０１２８】

球送ユニット２５０の前カバー２５１は、正面視で球抜口２５１ｂの左側に、球抜き部材２５３の回転中心に対して同心円状に形成された円弧状のスリット２５１ｃを備えており、このスリット２５１ｃから後述する球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃが前方へ延びだすようになっている。また、前カバー２５１は、進入口２５１ａの上縁から上側が上方へ延びだしており、扉枠３を組立てた際に、皿ユニットベース３２３の球送り誘導路３２３ｅ及び球抜き誘導路３２３ｆの上流端側の後方へ開放されている部位を後側から閉鎖するように形成されている。

【０１２９】

球抜き部材２５３は、進入口２５１ａよりも下側で進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切り上面が球送り部材２５４の方向へ向かって低くなる仕切部２５３ａと、仕切部２５３ａの球送り部材２５４とは反対側の端部から下方へ延出すると共に上下方向の中間付近から球抜口２５１ｂの下側中央へ向かってく字状に屈曲し下端が前後方向へ延びた軸周りに回動可能に支持される回動棹部２５３ｂと、回動棹部２５３ｂの上端から前方へ向かって突出する棒状の作動棹２５３ｃと、作動棹２５３ｃよりも下側で回動棹部２５３ｂの側面から仕切部２５３ａとは反対側へ突出した錘部２５３ｄと、を備えている。球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃは、前カバー２５１に形成された円弧状のスリット２５１ｃを通して前方へ突出するように形成されている（図３４（ａ）を参照）。作動棹２５３ｃは、扉枠ベース１１０の球送り開口１１５を介して皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によって動作する作動伝達部３２７ａの上端と当接する。

【０１３０】

球送り部材２５４は、進入口２５１ａ及び球抜き部材２５３の仕切部２５３ａの方を向き上下方向へ延びた回転軸芯を中心とした平面視が扇状の遮断部２５４ａと、遮断部２５４ａの後端から回転軸芯側へ円弧状に窪んだ球保持部２５４ｂと、球保持部２５４ｂの後端から下方へ延出する棒状の棹部２５４ｃと、を備えている。球送り部材２５４における遮断部２５４ａと球保持部２５４ｂは、夫々回転軸芯を中心とした約１８０°の角度範囲内に隣接して形成されている。また、球送り部材２５４の球保持部２５４ｂは、一つの遊技球を保持可能な大きさとされている。球送り部材２５４は、球送ソレノイド２５５の駆動によって回転軸芯と偏芯した位置に配置された棹部２５４ｃが左右方向へ移動させられることで、回転軸芯周りに回動する。

【０１３１】

この球送り部材２５４は、遮断部２５４ａが仕切部２５３ａの方向を向くと同時に球保持部２５４ｂが打球供給口２５２ａと連通した方向を向いた供給位置と、球保持部２５４ｂが仕切部２５３ａの方向へ向いた保持位置との間で回動するようになっている。球送り部材２５４が供給位置の時には、球保持部２５４ｂに保持された遊技球が、打球供給口２５２ａから球発射装置６８０へ供給されると共に、進入口２５１ａから仕切部２５３ａ上に進入した遊技球が、遮断部２５４ａによって球保持部２５４ｂ（打球供給口２５２ａ）側への移動が遮断されて仕切部２５３ａ上に留まった状態となる。一方、球送り部材２５４が保持位置へ回動すると、球保持部２５４ｂが仕切部２５３ａの方向を向くと共に、球保持部２５４ｂの棹部２５４ｃ側の端部が打球供給口２５２ａを閉鎖した状態となり、仕切部２５３ａ上の遊技球が一つだけ球保持部２５４ｂ内に保持される。

【０１３２】

また、球送ユニット２５０は、球送ソレノイド２５５の駆動（通電）によって先端が上

下方向へ揺動する球送り作動桿２５６と、球送り作動桿２５６における上下方向へ揺動する先端の動きによって前後方向へ延びた軸周りに回動すると共に、球送り部材２５４を上下方向へ延びた軸周りに回動させる球送りクランク２５７と、を備えている。球送りクランク２５７は、球送り作動桿２５６の上下動する先端と係合可能とされ左右方向へ延びた係合部２５７ａと、係合部２５７ａの球送り作動桿２５６と係合する側とは反対側に配置され前カバー２５１と後カバー２５２との間で前後方向へ延びた軸周りに回動可能に軸支される軸部２５７ｂと、軸部２５７ｂから上方へ延出しており、球送り部材２５４における回動中心に対して偏芯した位置から下方へ突出する棒状の棹部２５４ｃ（図３５（ｂ）を参照）と係合する伝達部２５７ｃと、を備えている。

【０１３３】

この球送ユニット２５０は、球送り作動桿２５６及び球送りクランク２５７によって、上下方向へ進退する球送ソレノイド２５５の駆動により揺動する球送り作動桿２５６の動きを伝達させて球送り部材２５４を回動させることができる。なお、球送ソレノイド２５５の非駆動時（通常時）では、球送り作動桿２５６が球送ソレノイド２５５の下端から離れて先端が下方へ位置した状態となり、この状態では球送り部材２５４が供給位置に位置した状態となる。また、球送ソレノイド２５５の駆動時では、球送り作動桿２５６が球送ソレノイド２５５の下端に吸引されて先端が上方へ位置した状態となり、球送り部材２５４が保持位置へ回動する。つまり、球送ソレノイド２５５が駆動される（ＯＮの状態）と、球送り部材２５４が遊技球を一つ受入れ、球送ソレノイド２５５の駆動が解除される（ＯＦＦの状態）と、球送り部材２５４が受入れた遊技球を球発射装置６８０側へ送る（供給する）ことができる。この球送ユニット２５０における球送ソレノイド２５５の駆動は、払出制御基板９５１の発射制御部（図示は省略）により発射ソレノイド６８２の駆動制御と同期して制御される。

【０１３４】

また、球送ユニット２５０における回動可能に軸支された球抜き部材２５３は、錘部２５３ｄによって正面視反時計周りの方向へ回転するようなモーメントがかかるようになっているが、前方へ突出した作動棹２５３ｃが皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によって動作する作動伝達部３２７ａの上端と当接することで、その回動が規制されるため、通常時では、球抜き部材２５３の仕切部２５３ａが進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間を仕切っており、球抜口２５１ｂ側へ遊技球が侵入することはない。

【０１３５】

そして、遊技者が、皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７を下方へ押圧操作すると、上皿球抜きスライダ３２７ｂが作動伝達部３２７ａと共に下方へスライドして、作動伝達部３２７ａの下方への移動に伴って作動棹２５３ｃも相対的に下方へ移動することとなる。作動伝達部３２７ａと共に作動棹２５３ｃが下方へ移動すると、球抜き部材２５３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部２５３ａによる進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間の仕切りが解除される。これにより、進入口２５１ａから進入した遊技球が、球抜口２５１ｂから皿ユニット３２０の球抜き誘導路３２３ｆへと排出され、下皿球供給口３２３ｃを介して下皿３２２へ排出（供給）させることができる。

【０１３６】

なお、球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃが当接する作動伝達部３２７ａが形成されている上皿球抜きスライダ３２７ｂは、上皿球抜きバネ３２７ｃによって上方へ付勢されているので、仕切部２５３ａ上に遊技球が勢い良く供給されても、その衝撃を、作動棹２５３ｃを介して上皿球抜きバネ３２７ｃによって吸収させることができ、球抜き部材２５３等が破損するのを防止することができると共に、遊技球が仕切部２５３ａで跳ね返るのを防止することができる。

【０１３７】

また、球送ユニット２５０は、後カバー２５２における打球供給口２５２ａの背面視で右上に前方へ窪んだ矩形状の取付凹部２５２ｂ（図３５（ｂ）等を参照）が形成されていると共に、その取付凹部２５２ｂ内に不正防止部材２６０が取付けられている。球送ユニ

ット２５０の不正防止部材２６０は、工具鋼やステンレス等の硬質の金属板により形成されており、後カバー２５２の取付凹部２５２ｂ内に対して後側から脱着可能に取付けられている。

【０１３８】

不正防止部材２６０は、正面視の外形が左右に延びた長方形状に形成されており、右辺から左方へ所定距離の間において、上下方向略中央で上下に分離している上片部２６１及び下片部２６２と、上片部２６１及び下片部２６２の互いに対向している辺の先端側（正面視右端側）でＣ面取り状に夫々形成されている傾斜部２６３と、を備えている。不正防止部材２６０の上片部２６１は、不正防止部材２６０の一般面に対して、正面視右端が後方へ突出するように屈曲させられている。下片部２６２は、不正防止部材２６０の一般面と同一面上に延びている。これにより、平面視において、上片部２６１と下片部２６２とによって、右方に向かうに従って広がるＶ字状の溝を形成している。

【０１３９】

不正防止部材２６０は、後カバー２５２の取付凹部２５２ｂに取付けられることで、上片部２６１と下片部２６２とで形成されるＶ字状の溝が、打球供給口２５２ａ内と連通した状態となる。

【０１４０】

この不正防止部材２６０によれば、紐を取付けた不正な遊技球を、上皿３２１から球送ユニット２５０を介して球発射装置６８０により遊技領域５ａ内に打込み、不正な遊技球に取付けられた紐を操作して、不正な遊技球を第一始動口２００２等に出し入れさせるような不正行為が行われる際に、球発射装置６８０により発射（打球）された不正な遊技球の勢いによって、不正な遊技球に取付けられた紐を、上片部２６１と下片部２６２との間に挿入させた上で、上片部２６１と下片部２６２とによって形成されたＶ字状の狭くなった部位により切断させることができ、紐を取付けた不正な遊技球を用いた不正行為が行われるのを防止することができる。

【０１４１】

［３－１１．ファールカバーユニット］

扉枠ベースユニット１００のファールカバーユニット２７０について、図３６乃至図３８を参照して詳細に説明する。図３６（ａ）は扉枠ベースユニットのファールカバーユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを後ろから見た斜視図である。また、図３７（ａ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はファールカバーユニットを蓋部材を外して後ろから見た分解斜視図である。更に、図３８は、蓋部材を外した状態のファールカバーユニットの正面図である。

【０１４２】

ファールカバーユニット２７０は、図示するように、扉枠ベース１１０の後側に取付けられ前側が開放された浅い箱状のユニット本体２７１と、ユニット本体２７１の前面に取付けられている平板状の蓋部材２７２と、を備えている。ファールカバーユニット２７０は、正面視左上隅において前後に貫通しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１と皿ユニット３２０の上皿球供給口３２３ａとを連通させる貫通球通路２７３と、貫通球通路２７３の正面視右下側で後方へ向かって開口しており本体枠４の下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２と連通可能な満タン球受口２７４と、を備えている。

【０１４３】

また、ファールカバーユニット２７０は、満タン球受口２７４の正面視右側で上方へ向かって開口しており本体枠４の球発射装置６８０により発射されにも関わらず遊技領域５ａ内へ到達しなかった遊技球（ファール球）を受けるファール球受口２７５と、正面視右下隅付近で前方へ向かって開口しており満タン球受口２７４及びファール球受口２７５に受入れられた遊技球を前方へ放出すると共に皿ユニット３２０の下皿球供給口３２３ｃと連通する球放出口２７６と、を備えている。

【０１４４】
更に、ファールカバーユニット２７０は、ユニット本体２７１及び蓋部材２７２によって、満タン球受口２７４及びファール球受口２７５と球放出口２７６との間に形成されており所定量の遊技球を貯留可能な広さを有している貯留通路２７７と、貯留通路２７７の内壁の一部を構成しており下端が回動可能にユニット本体２７１に取付けられている平板状の可動片２７８と、可動片２７８の貯留通路２７７から遠ざかる方向への回動を検知する満タン検知センサ２７９と、可動片２７８を貯留通路２７７の中心側へ付勢しているバネ２８０と、を備えている。
【０１４５】
このファールカバーユニット２７０は、皿ユニット３２０の下皿３２２内が遊技球で一杯になって、球放出口２７６から遊技球が下皿３２２側へ放出されなくなると、貯留通路２７７内にある程度の数の遊技球を貯留することができる。そして、貯留通路２７７内にある程度の数の遊技球が貯留されると、遊技球の重さによって可動片２７８の上端がバネ２８０の付勢力に抗して貯留通路２７７から遠ざかる方向へ移動するように可動片２７８が回動し、その回動が満タン検知センサ２７９によって検知される。これにより、下皿３２２が遊技球で満タンになっていると判断することができるため、満タン検知センサ２７９により満タンが検知されると、これ以上の遊技球の払出しを停止させると共に、その旨を遊技者や遊技ホールの係員等に報知して、下皿３２２の満タンを解消させるように促すことができる。
【０１４６】
また、ファールカバーユニット２７０は、ユニット本体２７１の後側で貫通球通路２７３の下側に取付けられており、本体枠４の後述する払出ユニット８００における下部満タン球経路ユニット８６０の誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅが当接可能な扉開閉当接部２８１を備えている（図１１２を参照）。扉開閉当接部２８１は、後面が下方へ向かうに従って前方へ移動するように傾斜している。この扉開閉当接部２８１は、本体枠４に対して扉枠３を閉じると、誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅが当接するように形成されている。この扉開閉当接部２８１に誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅが当接することで、誘導路開閉扉８６３が回動して通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の下流端（前側開口）を開放させることができる。
【０１４７】
［３－２．ハンドルユニット］
扉枠３のハンドルユニット３００について、主に図３９及び図４０を参照して詳細に説明する。図３９（ａ）は扉枠におけるハンドルユニットの正面図であり、（ｂ）はハンドルユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを後ろから見た斜視図である。また、図４０（ａ）はハンドルユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）はハンドルユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。ハンドルユニット３００は、扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０に取付けられ、遊技者が操作することで、上皿３２１内の遊技球を遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むことができるものである。
【０１４８】
ハンドルユニット３００は、扉枠ベースユニット１００におけるハンドル取付部材１８０の筒部１８１に取付けられるハンドルベース３０１と、ハンドルベース３０１の前端に回転可能に取付けられるハンドル３０２と、ハンドル３０２の前端側を覆うようにハンドルベース３０１に取付けられるハンドルカバー３０３と、を備えている。
【０１４９】
また、ハンドルユニット３００は、ハンドル３０２の後側でハンドルベース３０１の前面に取付けられるインナーベース３０４と、前端にハンドル３０２が取付けられると共にインナーベース３０４とハンドルベース３０１とによって回転可能に取付けられ外周に駆動ギア部３０５ａを有している軸部材３０５と、軸部材３０５の駆動ギア部３０５ａと噛合している伝達ギア３０６と、伝達ギア３０６と一体回転する検知軸３０７ａを有しハン

ドルベース３０１とインナーベースとの間に挟持されているハンドル回転検知センサ３０７と、を備えている。

【０１５０】

更に、ハンドルユニット３００は、一端側がハンドルベース３０１に取付けられると共に他端側がハンドル３０２に取付けられハンドル３０２を初期回転位置（正面視で反時計周りの方向への回転端）へ復帰させるように付勢しているハンドル復帰バネ３０８と、一端側がインナーベース３０４に取付けられると共に他端側が伝達ギア３０６に取付けられ伝達ギア３０６を介してハンドル回転検知センサ３０７の検知軸３０７ａを正面視で時計回りの方向へ付勢している補助バネ３０９と、インナーベース３０４の後方でハンドルベース３０１に取付けられているハンドルタッチセンサ３１０と、先端側がハンドルベース３０１の前端外周面の正面視おける左側から外方に突出していると共に基端側がインナーベース３０４の後方でハンドルベース３０１に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている単発ボタン３１１と、単発ボタン３１１の押圧操作を検知しハンドルベース３０１に取付けられている単発ボタン操作センサ３１２と、を備えている。

【０１５１】

ハンドルユニット３００のハンドルベース３０１は、前後に延びた円筒状の基部３０１ａと、基部３０１ａの前端から半径方向へ突出している円盤状の前端部３０１ｂと、円筒状の基部３０１ａの外周面から窪んでいると共に軸方向に延びており周方向へ不等間隔で三つ形成されている溝部３０１ｃと、を備えている。ハンドルベース３０１の基部３０１ａは、外径がハンドル取付部材１８０の筒部１８１の内径よりも若干小さく形成されている。また、三つの溝部３０１ｃは、ハンドル取付部材１８０における筒部１８１の三つの突条１８３と対応した位置に形成されている。従って、三つの溝部３０１ｃを三つの突条１８３と一致させた状態で、基部３０１ａをハンドル取付部材１８０の筒部１８１内に挿入させることができると共に、三つの溝部３０１ｃ内に夫々突条１８３が挿入されることで、ハンドルベース３０１がハンドル取付部材１８０に対して相対回転不能な状態となる。

【０１５２】

ハンドル３０２は、外周面から周方向に離れて外方へ突出している四つの第一突起３０２ａ、第二突起３０２ｂ、第三突起３０２ｃ、及び第四突起３０２ｄと、回転軸（軸部材３０５）を中心として円弧状に延びていると共に前後方向に貫通している二つのスリット３０２ｅと、スリット３０２ｅよりも回転中心に対して内側の位置から後方に突出しておりハンドル復帰バネ３０８の他端側が係止される係止突部３０２ｆと、を備えている。

【０１５３】

四つの第一突起３０２ａ、第二突起３０２ｂ、第三突起３０２ｃ、及び第四突起３０２ｄは、正面視において時計回りの方向に順番に備えられている。詳述すると、第一突起３０２ａは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでいる（抉れている）。第二突起３０２ｂは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位が、第一突起３０２ａの最も突出した部位から時計回りの方向へ約８５度の回転角度で離れており、第一突起３０２ａよりはやや低く突出している。この第二突起３０２ｂは、最も突出した部位の正面視時計回りの方向の側面が、外側へ膨らむように膨出しており、反対側である反都決周りの方向の側面が、内側へ湾曲するように凹んでおり、第一突起３０２ａと相似した形状に形成されている。

【０１５４】

第三突起３０２ｃは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位が、第二突起３０２ｂの最も突出した部位から時計回りの方向へ約７０度の回転角度で離れており、第一突起３０２ａの約半分の高さで突出している。この第三突起３０２ｃは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、時計回りの方向の側面が反対側である反時計回りの方向の側面よりもなだらかに傾斜している。第四突起３０２ｄは、ハンドル３０２の一般外周面から最も突出した部位が、第三突起３０２ｃの最も突出した部位から時計回りの方向へ約５５

度の回転角度で離れており、第一突起３０２ａよりもやや高く突出している。この第四突起３０２ｄは、両側の側面が略直線状に傾斜しており、略二等辺三角形に形成されている。

【０１５５】

ハンドルカバー３０３は、前面の中心が丸く前方へ膨出しており、後方へ突出している三つの取付ボス３０３ａを備えている。三つの取付ボス３０３ａは、ハンドル３０２のスリット３０２ｅを前方から貫通してハンドルベース３０１の前面に取付けられる。ハンドルカバー３０３の取付ボス３０３ａが、ハンドル３０２のスリット３０２ｅを貫通していることから、取付ボス３０３ａがスリット３０２ｅの周方向端部に当接することとなり、ハンドル３０２の回転角度を規制している。本例では、ハンドル３０２を、約１２０度の回転角度の範囲内で回転させることができる。

【０１５６】

このハンドルユニット３００は、扉枠ベース１１０のハンドル取付座面１１２に対して、ハンドル取付部材１８０を介して取付けられる。この扉枠ベース１１０のハンドル取付座面１１２は、平面視において、右端側が左端側よりも後方に位置するように傾斜しており、外側（開放側）を向いているため、ハンドル取付部材１８０を介して取付けられるハンドルユニット３００も平面視で外側に傾斜（換言すると、パチンコ機１の前面に直交する線に対してその先端部がパチンコ機１の外側に向かうように傾斜している。）して扉枠３に取付固定される。これにより、遊技者がハンドルユニット３００のハンドル３０２が握り易く、違和感がなく回動操作を行わせることができる。

【０１５７】

ハンドルユニット３００のハンドル回転検知センサ３０７は、可変抵抗器とされており、ハンドル３０２を回転させると、軸部材３０５及び伝達ギア３０６を介してハンドル回転検知センサ３０７の検知軸３０７ａが回転する。この検知軸３０７ａの回転角度に応じてハンドル回転検知センサ３０７の内部抵抗が変化し、ハンドル回転検知センサ３０７の内部抵抗に応じて後述する球発射装置６８０における発射ソレノイド６８２の駆動力が変化して、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで遊技球が遊技領域５ａ内へ打込まれる。

【０１５８】

ハンドル３０２やハンドルカバー３０３の外周表面は、導電性のメッキが施されており、遊技者がハンドル３０２等に接触することでハンドルタッチセンサ３１０が接触を検出する。そして、ハンドルタッチセンサ３１０が遊技者の接触を検出している時に、ハンドル３０２を回動させると、ハンドル回転検知センサ３０７の検知が受付けられ、ハンドル３０２の回転角度に応じた強さで発射ソレノイド６８２の駆動が制御されて、遊技球を打込むことができる。つまり、遊技者がハンドル３０２に触れずに、何らかの方法でハンドル３０２を回転させて遊技球を遊技領域５ａ内に打込もうとしても、発射ソレノイド６８２は駆動されず、遊技球を打込むことができないようになっている。これにより、遊技者が本来とは異なる方法でハンドル３０２を回転させて遊技が行われるのを防止することができ、パチンコ機１を設置する遊技ホールに係る負荷（負担）を軽減させることができる。

【０１５９】

また、ハンドルユニット３００は、遊技者がハンドル３０２を回転操作中に、単発ボタン３１１を押圧すると、単発ボタン操作センサ３１２が単発ボタン３１１の操作を検知し、払出制御基板９５１の発射制御部（図示は省略）によって発射ソレノイド６８２の回転駆動が停止させられる。これにより、ハンドル３０２の回転操作を戻さなくても、遊技球の発射を一時的に停止させることができると共に、単発ボタン３１１の押圧操作を解除することで、単発ボタン３１１を操作する前の打込み強さで再び遊技球を遊技領域５ａ内に打込むことができる。

【０１６０】

更に、ハンドルユニット３００は、ハンドル３０２に、四つの第一突起３０２ａ、第二

突起３０２ｂ、第三突起３０２ｃ、及び第四突起３０２ｄを備えており、ハンドル３０２を正面視時計回りの方向へ最も回転させて、遊技球を最も強く遊技領域５ａ内に打込むようにした（所謂、「右打ち」した）時に、第四突起３０２ｄが、ハンドル３０２を回転させていない時の第一突起３０２ａの位置と、略同じ位置となるため、第四突起３０２ｄを第一突起３０２ａとしてハンドル３０２を持ち替えることで、遊技者が楽な状態で「右打ち」の位置でハンドル３０２を維持させることができ、遊技者の疲労感を軽減させて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０１６１】

［３－３．皿ユニットの全体構成］

扉枠３における皿ユニット３２０について、主に図４１乃至図４５を参照して詳細に説明する。図４１（ａ）は扉枠の皿ユニットを右前から見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左前から見た斜視図である。また、図４２（ａ）は皿ユニットを右上後ろから見た斜視図であり、（ｂ）は皿ユニットを左下後から見た斜視図である。図４３は皿ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図４４は皿ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。図４５は、図２８の断面図において下皿カバーを外した状態で下皿の部位を拡大して示す説明図である。皿ユニット３２０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面において貫通口１１１の下側の部位に取付けられ、前面が前方へ膨出している。皿ユニット３２０の前面には、後述する演出操作ユニット４００が取付けられる。

【０１６２】

皿ユニット３２０は、遊技領域５ａ内に打込むための遊技球を貯留する上皿３２１と、上皿３２１の下側に配置されており上皿３２１やファールカバーユニット２７０から供給される遊技球を貯留可能な下皿３２２と、を備えている。

【０１６３】

皿ユニット３２０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０に取付けられる平板状の皿ユニットベース３２３と、皿ユニットベース３２３の前面上部に取付けられると共に左右中央より左側が前方へ大きく膨出しており上皿３２１を形成している上皿本体３２４と、皿ユニットベース３２３の前面下部で左右中央よりも左側に取付けられると共に前方へ大きく膨出しており下皿３２２を形成している下皿本体３２５と、上皿本体３２４及び下皿本体３２５の前側を覆うように皿ユニットベース３２３の前面に取付けられている皿ユニットカバー３２６と、を備えている。

【０１６４】

また、皿ユニット３２０は、皿ユニットカバー３２６の上面における上皿３２１の正面視右方で上方から押圧操作可能に取付けられている上皿球抜きボタン３２７と、上皿球抜きボタン３２７の正面視右方で皿ユニットカバー３２６の上面に取付けられている球貸ボタン３２８と、球貸ボタン３２８の正面視右方で皿ユニットカバー３２６の上面に取付けられている返却ボタン３２９と、球貸ボタン３２８及び返却ボタン３２９の後方で皿ユニットカバー３２６の上面に取付けられている球貸返却表示部３３０と、上皿３２１の前方で皿ユニットカバー３２６の前面における皿前上装飾部３２６ｂに取付けられている演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２と、下皿３２２の前方で皿ユニットカバー３２６の前面から前方に突出しており前方から押圧操作可能に取付けられている下皿球抜きボタン３３３と、を備えている。

【０１６５】

［３－３ａ．上皿］

皿ユニット３２０の上皿３２１について、主に図４１及び図４４等を参照して詳細に説明する。皿ユニット３２０の上皿３２１は、皿ユニットベース３２３と上皿本体３２４とによって形成されており、正面視左右の中央より左側の方が大きく前方へ膨出し、上方へ開放された容器状に形成されている。上皿３２１（上皿本体３２４）は、扉枠３の左右方向の幅に対して左端から右方へ約１／３の部位が最も前方に膨出している。上皿３２１は、最も膨出した部位から正面視右方へ向かうに従って、前端が後方へ後退しており、前後

方向の奥行が遊技球の外径よりも若干大きい誘導通路部３２１ａが形成されている。上皿３２１は、誘導通路部３２１ａを含む底面の全体が、右端側が低くなるように傾斜しており、誘導通路部３２１ａの正面視右端側が、皿ユニットカバー３２６の上面（上皿球抜きボタン３２７）の下方へ潜り込んでいる（図４４を参照）。

【０１６６】

上皿３２１は、皿ユニットベース３２３に組立てた状態で、その底面が、皿ユニットベース３２３の上皿球供給口３２３ａよりも下側の位置から上皿球送り口３２３ｄの上端に対して遊技球の外径よりも若干下側の位置へ向かって低くなるように傾斜している。これにより、上皿球供給口３２３ａから前方へ放出された遊技球が、上皿３２１内に受けられて貯留させることができると共に、受けられた遊技球を誘導通路部３２１ａの右端側から上皿球送り口３２３ｄへ供給させることができる。

【０１６７】

上皿３２１は、上述したように、前後方向の奥行が狭くなる誘導通路部３２１ａにおいて、その底面が下方へ向かって低くなるように形成されている。つまり、上皿３２１の一部が、後述する演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が取付けられる皿ユニットカバー３２６の取付空間３２６ｊ内へ、上方から突出している。従って、上皿３２１において、遊技球の貯留量を十分に確保することができるようになっている。なお、上皿３２１（上皿本体３２４）は、皿ユニットカバー３２６の取付空間３２６ｊ内へ、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）と接触しないように突出している。

【０１６８】

なお、誘導通路部３２１ａには、パチンコ機１において電気的に接地（アース）されている金属製のアース金具３２１ｂが備えられており、遊技球が接触（転動）することで、遊技球に帯電した静電気を除去させることができる。

【０１６９】

［３－３ｂ．下皿］

皿ユニット３２０の下皿３２２について、主に図４１乃至図４５等を参照して詳細に説明する。下皿３２２は、上皿３２１の下方で、正面視おいて皿ユニット３２０（扉枠３）の左右方向中央よりも左側に配置されている。下皿３２２は、遊技球を貯留可能な容器状に形成されており、底壁部３２５ａに上下に貫通し遊技球を排出可能とされた下皿球抜き孔３２２ａと、皿ユニットカバー３２６に取付けられた演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）との接触を回避させるための逃し部３２２ｂと、を備えている。下皿３２２の逃し部３２２ｂは、右前隅が、後方へ向かって円弧状に窪むように形成されている。

【０１７０】

下皿３２２は、上方及び後方が開放されている下皿本体３２５と、下皿本体３２５の左端側から上方を覆っている皿ユニットカバー３２６の下皿カバー部３２６ｋと、下皿本体３２５の開放されている後方を閉鎖している皿ユニットベース３２３と、下皿本体３２５における演出操作ユニット取付部３２６ａ内に突出している部位の上側を覆う下皿カバー３４０とによって、形成されており、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄから外方に臨んでいる。下皿３２２は、図２８及び図４５に示すように、平面視の外周形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置された台形と、を組合せたような形状に形成されており、台形の斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲している。この下皿３２２は、平面視において、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。

【０１７１】

下皿本体３２５は、図４３及び図４４等に示すように、上方及び後方が開放された容器状に形成されている。下皿本体３２５は、平板状の底壁部３２５ａと、底壁部３２５ａの後端辺を除いた外周端から上方へ延出している本体立壁部３２５ｂと、底壁部３２５ａを遊技球が通過可能な大きさで上下に貫通している下皿球抜き孔３２２ａと、を備えている

。底壁部３２５ａの外周形状は、左右に延びた四角形と、その四角形の前辺を底辺とし底辺よりも短い上辺が前方側に配置され斜めに延びた左右の辺が後方へ凹むように湾曲した台形と、を組合せたような形状に形成されている。底壁部３２５ａ（の上面）は、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。本体立壁部３２５ｂは、底壁部３２５ａから上方へ、遊技球の直径の２倍～５倍の高さで立上っている。下皿球抜き孔３２２ａは、下皿本体３２５（底壁部３２５ａ）の左右方向中央よりも右寄りの位置に形成されている。下皿本体３２５では、底壁部３２５ａ及び本体立壁部３２５ｂにおける正面視右前隅の湾曲している部位が、逃し部３２２ｂに相当している。

【０１７２】

下皿カバー３４０は、下皿本体３２５の上方のおよそ右半部を覆うように形成されている。下皿カバー３４０は、図４３及び図４４等に示すように、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から上方へ立上っているカバー立壁部３４０ａと、カバー立壁部３４０ａの上端から略水平に延びている天井部３４０ｂと、を備えている。カバー立壁部３４０ａは、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂにおける前辺側の一部から右辺の後端までの部位から立上っている。下皿カバー３４０は、皿ユニット３２０に組立てた状態で、カバー立壁部３４０ａ及び天井部３４０ｂの後端が、皿ユニットベース３２３の前面に当接している。また、カバー立壁部３４０ａの前端（前辺における左端側）が、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄの右端辺と当接している。更に、天井部３４０ｂの左端が、皿ユニットカバー３２６の下皿カバー部３２６ｋの右端に当接している。この下皿カバー３４０では、カバー立壁部３４０ａにおける湾曲面状の部位と、その後側においてカバー立壁部３４０ａと天井部３４０ｂとの間で斜めに延びている部位とが、逃し部３２２ｂに相当している。

【０１７３】

下皿３２２は、前端側の左右に短く延びている部位の正面視左端付近から右側が、皿ユニットカバー３２６（演出操作ユニット４００）によって覆われており、正面視において半分以上が演出操作ユニット４００の後方に位置している。つまり、下皿３２２は、右半分が、演出操作ユニット４００の後方へ回り込むように形成されている。従って、下皿３２２は、図４５に示すように、後述する皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄの後方に位置する下皿第一領域Ａ１（図４５においてクロスハッチの領域）と、下皿開口部３２６ｄよりも右側（演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側）の後方に位置する下皿第二領域Ａ２（図４５において網掛けの領域）と、を有している。換言すると、下皿３２２は、遊技球を貯留可能な貯留領域（平面視における貯留面積に相当し、下皿第一領域Ａ１と下皿第二領域Ａ２とを合せた領域）の半分以上が、演出操作ユニット４００の後方に位置している。なお、図４５において点線ハッチの領域は、皿ユニットカバー３２６における取付空間３２６ｊの残りの空間（領域）である。

【０１７４】

下皿３２２は、後壁を形成している皿ユニットベース３２３の下皿球供給口３２３ｃが、後壁の正面視左右方向中央よりも右側に開口している。更に詳述すると、下皿３２２の下皿球供給口３２３ｃは、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方となる下皿第二領域Ａ２に配置されている。これにより、扉枠３を正面から見た時に、下皿球供給口３２３ｃが下皿開口部３２６ｄを通して遊技者側から見えないようになっている（図１９等を参照）。従って、下皿３２２は、前方に膨出している皿ユニット３２０（皿ユニットカバー３２６）の左側面の下皿開口部３２６ｄから演出操作ユニット４００の後方へ向かって抉れるように形成されており、正面から見える範囲よりも遊技球の貯留容積が大きく形成されている。換言すると、下皿３２２は、下皿第一領域Ａ１よりも下皿第二領域Ａ２の方が大きく形成されている。これにより、外側（遊技者側）から下皿３２２を見た時に、見た目以上に下皿３２２内に多くの遊技球を貯留させることができる。

【０１７５】
下皿３２２は、下皿本体３２５の左右方向の右側半分（下皿第二領域Ａ２）が、図４１（ａ）に示すように、皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ（取付空間３２６ｊ）内に突出しており、下皿本体３２５における演出操作ユニット取付部３２６ａ内に突出している部位の上側を、下皿カバー３４０が覆っている。この下皿カバー３４０により、下皿開口部３２６ｄから下皿３２２内に遊技者が手指を挿入した時に、その指先が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に触れるのを阻止することができる。
【０１７６】
下皿３２２は、下皿第二領域Ａ２内である下皿球供給口３２３ｃの真正面に、上下に貫通している下皿球抜き孔３２２ａを備えている。下皿３２２の底面は、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａは、下皿球抜きボタン３３３の押圧操作によって動作する蓋部材３３４によって開閉可能に閉鎖されている。下皿３２２は、通常の状態では、下皿球抜き孔３２２ａが蓋部材３３４によって閉鎖されており、下皿３２２内に遊技球を貯留させることができる。そして、下皿球抜きボタン３３３を押圧操作して蓋部材３３４を開動作させると、下皿３２２内の遊技球を、下皿球抜き孔３２２ａから皿ユニット３２０の下方へ排出させることができる。
【０１７７】
下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａは、下皿３２２の後壁を形成している皿ユニットベース３２３の下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）に配置されている。従って、扉枠３に組立てた状態では、下皿球抜き孔３２２ａが、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側で演出操作ユニット４００におけるフレームユニット４１５の後方に位置しているため、遊技者（正面）側からは見えないようになっている。
【０１７８】
この下皿３２２は、上述したように、外周形状が、左右に延びた四角形の前側に、前方側が窄まった台形を組合せた形状に形成されていると共に、底面が、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。従って、蓋部材３３４が開いて下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態で、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内へ供給された遊技球は、下皿球供給口３２３ｃの真正面に開口している下皿球抜き孔３２２ａから即座に下方へ排出される。この下皿球抜き孔３２２ａの左端は、下皿球供給口３２３ｃの左端よりも若干左方に位置していることから、下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２へ供給された遊技球が、下皿３２２内における下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域へ直接流通することはなく、下皿球抜き孔３２２ａから排出されることとなる。
【０１７９】
一方、下皿球抜き孔３２２ａの右端は、下皿球供給口３２３ｃの右端よりも左方に位置していることから、下皿球供給口３２３ｃの右端付近から下皿３２２へ供給された遊技球が、本体立壁部３２５ｂにおける下皿３２２の右側の立壁を形成している部位に当接することとなる。この下皿３２２の右側の立壁は、下皿球抜き孔３２２ａの方向を向くように前後方向に対して斜めに湾曲しているため、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球が、この傾斜している部位に当接すると、下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射することとなり、下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域へ行くことなく、下皿球抜き孔３２２ａから排出される（図４５を参照）。
【０１８０】
このように、本実施形態の下皿３２２は、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球を、下皿球抜き孔３２２ａへ誘導するように形成しているため、下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態では、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球を、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａの左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出させることができる。これにより、下皿球抜き孔３２２ａを開いたままの状態とすると、遊技者側からは下皿３２２上を流通している遊技球が見

えないため、上皿３２１や払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０１８１】

また、本実施形態の下皿３２２は、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂと、本体立壁部３２５ｂの上端から上方へ延出した下皿カバー３４０，３４０Ａとを備えているため、下皿３２２内に供給され遊技球が、下皿３２２内で跳ねて飛び上がっても、下皿３２２内から取付空間３２６ｊ側へ遊技球が侵入するのを防止することができ、下皿３２２内の遊技球が演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に接触するのを阻止することができる。従って、下皿３２２内に供給された遊技球や下皿３２２に貯留されている遊技球が、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側に当接したり押圧したりするのを防止することができ、遊技球によって演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側が破損するのを防止することができる。

【０１８２】

更に、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方に下皿球抜き孔３２２ａを備えていることから、下皿球抜き孔３２２ａが開いている状態では、下皿球供給口３２３ｃから放出された遊技球をそのまま下皿球抜き孔３２２ａに進入させて下方（ドル箱）へ排出させることができるため、遊技球を下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの前端側に到達し難くすることができる。また、下皿３２２の前端付近の下皿本体３２５の底壁部３２５ａが、前方へ向かうほど高くなっているため、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの前端側へ向かう遊技球が、傾斜した底面を登ることとなり、遊技球の移動速度を減衰させることができる。従って、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内に放出された遊技球が、下皿カバー３４０，３４０Ａや本体立壁部３２５ｂに当接した時の衝撃を小さくすることができ、それらを破損し難くすることができる。

【０１８３】

なお、本実施形態では、上皿球抜きボタン３２７に対して、下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４を連動させるようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン３２７を操作すると、蓋部材３３４も可動して下皿球抜き孔３２２ａが開くため、上皿３２１から下皿３２２へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿３２１から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン３２７を操作すると、下皿球抜きボタン３３３を操作していないにも関わらず、上皿３２１の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿３２１の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、上述した作用効果をより一層発揮させることができる。なお、上皿３２１及び下皿３２２の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【０１８４】

また、本実施形態では、下皿３２２を構成している下皿本体３２５と下皿カバー３４０とが分解可能な別体のものを示したが、下皿本体３２５と下皿カバー３４０とが分解不能な一体のものとしても良い。また、下皿カバー３４０のカバー立壁部３４０ａが、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から立上った例を示したが、下皿本体３２５の底壁部３２５ａから下皿カバー３４０のカバー立壁部３４０ａが立上っていても良い。また、下皿カバー３４０の天井部３４０ｂが、カバー立壁部３４０ａの上端から略水平に延びた例を示したが、下皿カバー３４０の天井部３４０ｂが、下皿本体３２５の本体立壁部３２５ｂの上端から略水平に延びるようにしても良い。

【０１８５】

更に、本実施形態では、下皿３２２の演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）との接触を回避させるための逃し部３２２ｂを備えた例を示したが、逃し部３２２ｂを備えていない下皿３２２としても良い。

【０１８６】
　また、本実施形態では、下皿３２２（下皿本体３２５や下皿カバー３４０等）として、貫通した孔の無い一様な面状のものを示したが、遊技球が通過不能な複数の貫通した孔を有するものであっても良い。具体的には、下皿３２２の底壁部３２５ａ、本体立壁部３２５ｂ、カバー立壁部３４０ａ、天井部３４０ｂ等の少なくとも一部を、遊技球が通過不能な隙間を有した、柵状に形成したものや網状に形成したものとしても良い。なお、皿ユニットカバー３２６（取付空間３２６ｊ）内に、ＬＥＤ等の発光体を配置し、下皿３２２の柵状や網状の隙間を通して下皿３２２内を照らす（発光装飾させる）ようにしても良い。
【０１８７】
　なお、本実施形態では、夫々別体に形成された下皿本体３２５、下皿カバー３４０、皿ユニットベース３２３、及び皿ユニットカバー３２６（下皿カバー部３２６ｋ）によって、下皿３２２を形成したものを示したが、それら四つの部材が適宜の組合せで一体とされて下皿３２２を形成するようにしても良い。具体的には、下皿カバー３４０と下皿本体３２５とが一体とされたもの、下皿カバー３４０と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３とが一体とされたもの、下皿本体３２５と皿ユニットベース３２３とが一体とされたもの、皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３とが一体とされたもの、下皿本体３２５と下皿カバー３４０と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、下皿本体３２５と下皿カバー３４０と皿ユニットベース３２３と皿ユニットカバー３２６とが一体とされたもの、等としても良い。
【０１８８】
［３－３ｂ－１．下皿の球誘導部］
　皿ユニット３２０の下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃから下皿球抜き孔３２２ａへ遊技球を誘導する球誘導部３２２ｃ等を備えた実施形態について、図４６を参照して詳細に説明する。図４６（ａ）は下皿に球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｂ）は下皿に（ａ）とは異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図であり、（ｃ）は更に異なる球誘導部を備えた例を概略で示す説明図である。図４６では、上記と同じ構成については、同一の符号を付してある。
【０１８９】
　図４６（ａ）の下皿３２２の例は、下皿３２２の底面における下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとの間の部位に、下皿球抜き孔３２２ａの直径と略同じ距離で左右に離間して配置された一対の球誘導部３２２ｃを備えている。一対の球誘導部３２２ｃは、下皿３２２の底面から突出した状態で前後に延びたレール状（突条）に形成されている。また、下皿３２２は、底面が下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。従って、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２内へ供給された遊技球は、球誘導部３２２ｃを乗り越えることなく、一対の球誘導部３２２ｃにより下皿球抜き孔３２２ａへ誘導され、下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出される。
【０１９０】
　そして、この例の下皿３２２は、上記と同様に、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側の後方（下皿第二領域Ａ２）に、下皿球供給口３２３ｃと下皿球抜き孔３２２ａとが前後方向へ直線状に並んで配置されている。従って、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａは、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側等の被覆壁の後方に位置しており、正面からは見えないようになっている。
【０１９１】
　このように、本例の下皿３２２は、一対の球誘導部３２２ｃを備えているため、下皿球抜き孔３２２ａが開放されている状態では、下皿球供給口３２３ｃから供給された遊技球

を、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａの左側の領域へ侵入させることなく、直ちに下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出させることができる。そして、遊技者側からは下皿３２２上を流通している遊技球が見えないため、上皿３２１や払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０１９２】

この図４６（ａ）の例では、球誘導部３２２ｃとして、レール状のものを示したが、これに限らず、下皿球抜き孔３２２ａへ向かって延びた溝のように、遊技球を下皿球抜き孔３２２ａへ誘導できるものであれば良い。

【０１９３】

次に、図４６（ｂ）の下皿３２２の例は、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａの右側の壁部を、下皿球供給口３２３ｃから右斜め前方へ放出された遊技球が、下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射するような形状に形成していると共に、遊技球が当接する部位に緩衝部３２２ｄを備えるようにしたものである。この緩衝部３２２ｄは、ゴムや発泡体等で形成されている。

【０１９４】

本例の下皿３２２も上記と同様に、下皿球供給口３２３ｃの真正面に下皿球抜き孔３２２ａが配置されていると共に、下皿３２２の底面が下皿球抜き孔３２２ａへ向かって低くなるように傾斜している。従って。下皿球供給口３２３ｃから真直ぐに前方へ放出された遊技球は、そのまま下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出される。一方、下皿球供給口３２３ｃから右前方へ放出された遊技球は、緩衝部３２２ｄで下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射して、下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出される。この際に、遊技球が緩衝部３２２ｄに当接して反射するため、反射時の衝突音が低減される。

【０１９５】

更に、この例の下皿３２２も上記と同様に、皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側の後方（下皿第二領域Ａ２である演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えないようになっている。

【０１９６】

このように、本例の下皿３２２は、遊技球を反射させる壁部に緩衝部３２２ｄを備えているため、下皿球供給口３２３ｃから遊技球が真直ぐに前方へ放出されなかった場合でも、緩衝部３２２ｄにより音もなく下皿球抜き孔３２２ａの方向へ反射させて下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上皿３２１や払出装置８３０から払出された遊技球等がドル箱へ排出される際に、下皿３２２から遊技球の衝突音が聞こえないため、恰も直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０１９７】

続いて、図４６（ｃ）の下皿３２２の例は、下皿３２２の底面（底壁部３２５ａ）における下皿球抜き孔３２２ａを間にして下皿球供給口３２３ｃとは反対側の部位から上方へ突出し、下皿球抜き孔３２２ａを飛び越えた遊技球を下皿球抜き孔３２２ａ側へ反射させる返し部３２２ｅを備えたものである。なお、返し部３２２ｅは、下皿３２２を形成している素材と同じ素材を用いても良いし、ゴムや発泡体等の反射時の衝突音を緩和させる緩衝材を用いても良い。また、返し部３２２ｅは、下皿３２２の側壁を構成していないものとしても良いし、下皿３２２の側壁（本体立壁部３２５ｂ）の一部を構成するものとしても良い。

【０１９８】

この下皿３２２では、下皿球供給口３２３ｃ、下皿球抜き孔３２２ａ、及び返し部３２２ｅが、後方から前方へ向かって順番に直線上に配置されていると共に、皿ユニットカバ

ー３２６の下皿開口部３２６ｄよりも右側の後方（下皿第二領域Ａ２である演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ、及び下皿カバー３４０の前端側等の被覆壁の後方）に配置されており、正面からは見えないようになっている。この下皿３２２では、下皿球供給口３２３ｃから下皿球抜き孔３２２ａへ流通する遊技球が、万が一、下皿球抜き孔３２２ａを飛び越えても、返し部３２２ｅにより下皿球抜き孔３２２ａ側へ反射させて、下皿球抜き孔３２２ａから下方（ドル箱）へ排出させることができる。従って、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０１９９】

なお、本実施形態では、下皿３２２に対して、上記の球誘導部３２２ｃと緩衝部３２２ｄとを、適宜に組合せても良い。これにより、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【０２００】

［３－３ｂ－２．下皿の別の実施形態］

皿ユニット３２０の下皿３２２の別の実施形態について、図４７を参照して説明する。図４７（ａ）は分割可能とした下皿を概略で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの後方の空間の大きさに応じて下皿の貯留領域を拡張した状態を概略で示す説明図であり、（ｃ）は（ｂ）の下皿を概略の斜視図で示す説明図である。図４７に示す下皿３２２は、下皿本体３２５が下皿第二領域Ａ２内に配置された分割線ＰＬを境に分割可能とされているものである。なお、図４７において点線ハッチで示す領域は、取付空間３２６ｊの残りの空間を示している。

【０２０１】

まず、図４７（ａ）に示す下皿本体３２５（下皿３２２）は、下皿第一領域Ａ１及び下皿第二領域Ａ２の一部を構成し下皿球抜き孔３２２ａを有している本体部３２５Ａと、本体部３２５Ａの右側に取付けられており下皿第二領域Ａ２の残りの領域を構成している第一増設部３２５Ｂとを備えている。第一増設部３２５Ｂは、本体部３２５Ａよりも更に、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）が収容される取付空間３２６ｊの残りの空間（演出操作ユニット４００や第二演出操作ユニット４００Ａの後方の空間）内へ突出している。この第一増設部３２５Ｂは、図示するように、前方から後方へ向かうに従って、左右方向の幅が大きくなるように形成されている。また、第一増設部３２５Ｂは、右前隅に、第二演出操作ユニット４００Ａとの接触を回避させるための逃し部３２２ｂが形成されている。

【０２０２】

次に、図４７（ｂ）及び図４７（ｃ）の例は、演出操作ユニット４００の後端が、下皿３２２の前端よりも後方へ突出しておらず、図４７（ａ）の例よりも、演出操作ユニット４００の後方の空間（取付空間３２６ｊの残りの空間）が広くなっている。そして、この下皿本体３２５（下皿３２２）は、下皿第一領域Ａ１及び下皿第二領域Ａ２の一部を構成し下皿球抜き孔３２２ａを有している本体部３２５Ａと、本体部３２５Ａの右側に取付けられていると共に下皿第二領域Ａ２の残りの領域を構成しており第一増設部３２５Ｂよりも大きい第二増設部３２５Ｃとを備えている。この第二増設部３２５Ｃは、図示するように、前端から後端までの左右方向の幅が一定に形成されており、第一増設部３２５Ｂよりも遊技球の貯留領域が大きく形成されている。また、この下皿３２２は、第二増設部３２５Ｃの形状と対応した形状の下皿カバー３４０Ａが取付けられている（図４７（ｃ）を参照）。

【０２０３】

図４７に示した例では、本体部３２５Ａに第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃを取付けることで、夫々の遊技球の貯留領域同士が連続（連通）した状態となり、遊技球の貯留領域が拡大する。また、本体部３２５Ａと、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃとの境が、分割線ＰＬとなっている。また、下皿本体３２５における第一増設部３２５Ｂ及び第二増設部３２５Ｃは、演出操作ユニット４００や第二演出操作ユニット４００Ａの後面との間に、所定の隙間（取付空間３２６ｊと連通している空間）が生じるように形

成されている。
【０２０４】
このように、上記の例では、下皿本体３２５（下皿３２２）を分割可能な構成とすると共に、分割された部材の少なくとも一方を交換可能としていることから、下皿３２２内における遊技球の貯留領域を、必要に応じて、大きくしたり、小さくしたりすることができる。また、下皿本体３２５（下皿３２２）を分割可能な構成としているため、皿ユニットカバー３２６に取付けられる演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方（取付空間３２６ｊ内）への突出量に応じた大きさの増設部（第一増設部３２５Ｂ又は第二増設部３２５Ｃ）を取付けることができる。
【０２０５】
なお、上記の実施形態では、演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後方となる下皿第二領域Ａ２内に分割線ＰＬを配置したものを示したが、分割線ＰＬを、下皿第一領域Ａ１と下皿第二領域Ａ２との境界線上に配置しても良いし、下皿第一領域Ａ１内に配置しても良い。
【０２０６】
また、上記の実施形態では、下皿本体３２５（下皿３２２）における本体部３２５Ａに、下皿球抜き孔３２２ａを備えたものを示したが、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃに下皿球抜き孔３２２ａを備えるようにしても良い。
【０２０７】
また、上記の実施形態では、下皿本体３２５の本体部３２５Ａの右側に、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃを取付けたものを示したが、本体部３２５Ａの右側に、遊技球の貯留領域を有しない、平板状の閉鎖部材を取付けるようにしても良い。
【０２０８】
更に、上記の実施形態では、下皿３２２における下皿本体３２５について説明したが、下皿カバー３４０についても、下皿本体３２５と同様に分割可能としたり、第一増設部３２５Ｂや第二増設部３２５Ｃの大きさに合せた形状としたりしても良い。
【０２０９】
［３－３ｃ．皿ユニットベース］
皿ユニット３２０の皿ユニットベース３２３について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。皿ユニットベース３２３は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の下側に取付けられ、扉枠ベース１１０の全幅に亘って左右に延びた平板状（後方が開放された浅い箱状）に形成されている。
【０２１０】
皿ユニットベース３２３は、正面視左上隅付近で前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている上皿球供給口３２３ａと、上皿球供給口３２３ａの下側で前後に貫通していると共に上下に延びている複数の長穴からなるスピーカスリット３２３ｂと、正面視左右中央から左寄りの下部において前後に貫通していると共に後方へ筒状に延びている下皿球供給口３２３ｃと、下皿球供給口３２３ｃの正面視右上側で前後に貫通していると共に上下に延びており上部が上皿本体３２４の右端に位置する上皿球送り口３２３ｄと、を備えている。
【０２１１】
また、皿ユニットベース３２３は、上皿球送り口３２３ｄを通って皿ユニットベース３２３の後側に送られた遊技球を球送ユニット２５０の進入口２５１ａへ誘導する球送り誘導路３２３ｅと、球送り誘導路３２３ｅの下側から垂下した後に下皿球供給口３２３ｃの筒状の正面視右側面へ向かって低くなるように略Ｌ字状に延びており球送ユニット２５０の球抜口２５１ｂから放出された遊技球を下皿球供給口３２３ｃへ誘導する球抜き誘導路３２３ｆと、球送り誘導路３２３ｅの正面視左方で且つ球送り誘導路３２３ｅの下端と球抜き誘導路３２３ｆの上端との間の高さの位置で前後に貫通しており球送ユニット２５０の作動棹２５３ｃと当接し上皿球抜きボタン３２７により動作する作動伝達部３２７ａが後方へ臨むように突出する開口部３２３ｇと、を備えている。球抜き誘導路３２３ｆは、

下流端が下皿球供給口３２３ｃにおける筒状の部位内に開口している。
【０２１２】
更に、皿ユニットベース３２３は、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０の筒部１８１が挿通されるハンドル挿通口３２３ｈと、正面視右隅付近で前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通口３２３ｉと、を備えている。
【０２１３】
皿ユニットベース３２３の上皿球供給口３２３ａは、扉枠３に組立てた状態で、前端が上皿３２１の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１１０の上皿用通過口１１７を前側から貫通してファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３の前端と接続している。これにより、払出ユニット８００から払出された遊技球が、上皿球供給口３２３ａを通って上皿３２１内に供給（払出）される。
【０２１４】
下皿球供給口３２３ｃは、扉枠３に組立てた状態で、前端が下皿３２２の後壁に開口し、筒状の後端が扉枠ベース１１０の下皿用通過口１１６を前側から貫通してファールカバーユニット２７０の球放出口２７６の前端と接続している。これにより、ファールカバーユニット２７０の貯留通路２７７内を流通する遊技球が、下皿球供給口３２３ｃを通って下皿３２２内に供給される。この下皿球供給口３２３ｃは、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置されており、扉枠３を正面から見た時に、下皿開口部３２６ｄを通して遊技者側から見えないようになっている。
【０２１５】
［３－３ｄ．皿ユニットカバー］
皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。皿ユニットカバー３２６は、上皿本体３２４及び下皿本体３２５の前側を覆うように皿ユニットベース３２３の前面に取付けられる。皿ユニットカバー３２６は、左右方向中央が前方へ膨出しており左右方向中央に前方へ大きく開口し演出操作ユニット４００が取付けられる演出操作ユニット取付部３２６ａと、演出操作ユニット取付部３２６ａの左右両側における上皿３２１と略同じ高さに形成されている皿前上装飾部３２６ｂと、左右の皿前上装飾部３２６ｂの夫々の下側に形成されている皿前下装飾部３２６ｃと、を備えている。
【０２１６】
演出操作ユニット取付部３２６ａは、左右方向が皿ユニット３２０の左右方向の全幅に対して約１／３の大きさに形成されていると共に、上下方向が皿ユニット３２０の上下方向の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット取付部３２６ａは、前端が上方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。詳しくは、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端は、垂直線に対して２７度の角度で傾斜している。
【０２１７】
皿前上装飾部３２６ｂは、前面が、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が前方へやや膨出した湾曲面状に形成されている。また、皿前上装飾部３２６ｂは、下端が、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜しており、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側（演出操作ユニット取付部３２６ａ側）から左右両端側へ向かって上下方向が窄まるように形成されている。皿ユニットカバー３２６は、正面視左側の皿前上装飾部３２６ｂに、演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２が取付けられている。
【０２１８】
皿前下装飾部３２６ｃは、前面が、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側から左右両端側へ向かうに従って後方へ移動しており、皿ユニットカバー３２６の左右方向中央側

の端部と左右両端側の端部とを結んだ平面に対して、中間部が後方へ窪むような湾曲面状に形成されている。

【０２１９】

正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃには、前後に貫通している下皿開口部３２６ｄが形成されており、下皿開口部３２６ｄから下皿３２２が前方に臨んでいる。正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃでは、下皿開口部３２６ｄの下側前面から下皿球抜きボタン３３３が前方へ突出している。また、正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃにおける下皿開口部３２６ｄの左側には、パンチングメタルからなる下スピーカ口３２６ｅが形成されている。下スピーカ口３２６ｅは、皿ユニット３２０に組立てた状態で、皿ユニットベース３２３のスピーカスリット３２３ｂの前方に位置している。

【０２２０】

正面視右側の皿前下装飾部３２６ｃには、正面視右下隅で前後に貫通しており扉枠ベースユニット１００のハンドル取付部材１８０の筒部１８１が挿通されるハンドル挿通口３２６ｆと、正面視右隅付近におけるハンドル挿通口３２６ｆの上側で前後に貫通しており開閉シリンダユニット２１０のシリンダ錠２１１が挿通されるシリンダ挿通口３２６ｇと、が形成されている。

【０２２１】

皿ユニットカバー３２６は、正面視右側の皿前上装飾部３２６ｂの上端から皿ユニットベース３２３の前端まで延びた板状の天板部３２６ｈを有しており、天板部３２６ｈにより上皿３２１の右側上方を覆っている。この天板部３２６ｈに、上皿球抜きボタン３２７、球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、及び球貸返却表示部３３０が取付けられている。

【０２２２】

皿ユニットカバー３２６は、皿前下装飾部３２６ｃの下端から皿ユニットベース３２３の前面まで延びている平板状の底板部３２６ｉを備えている。この底板部３２６ｉにより皿ユニット３２０の下側が閉鎖されている。なお、底板部３２６ｉは、下皿３２２の下方に位置する部位が下方から上方へ凹むように段状に形成されており、その部位に後述する下皿球抜きベース３３５が取付けられている。また、底板部３２６ｉには、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａと対応した位置に、上下に貫通した孔が形成されている。

【０２２３】

皿ユニットカバー３２６は、演出操作ユニット取付部３２６ａの部位で前方へ開口しており演出操作ユニット４００（第二演出操作ユニット４００Ａ）の後側が挿入（収容）される取付空間３２６ｊを備えている。また、皿ユニットカバー３２６は、下皿開口部３２６ｄの左辺及び上辺から後方へ平板状に延出しており、下皿３２２を覆っている下皿カバー部３２６ｋを備えている（図４４を参照）。下皿カバー部３２６ｋは、左端に、下皿本体３２５における本体立壁部３２５ｂの左辺の上端が当接していると共に、右端に、下皿カバー３４０における天井部３４０ｂの左端が当接するようになっている。

【０２２４】

［３－３ｅ．上皿球抜きボタン］

皿ユニット３２０の上皿球抜きボタン３２７について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。上皿球抜きボタン３２７は、上皿３２１の正面視右側で、皿ユニットカバー３２６の天板部３２６ｈに取付けられており、押圧操作することで、上皿３２１内の遊技球を下皿３２２へ抜くことができるものである。上皿球抜きボタン３２７は、詳細な図示は省略するが、皿ユニットカバー３２６の天板部３２６ｈの下側に取付けられている球抜きボタンホルダによって、天板部３２６ｈの下方で後端側が左右に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。上皿球抜きボタン３２７は、その前端下面に、上下に延びている球抜きレバーの上端が当接している。この球抜きレバーは、上皿球抜きボタン３２７の下方で皿ユニットベース３２３の前面に取付けられている球抜きベースによって上下方向へスライド可能に取付けられている。

【０２２５】

そして、上皿球抜きボタン３２７の前端下面に上端が当接している球抜きレバーは、皿ユニットベース３２３によって上下にスライド可能に取付けられている上皿球抜きスライダ３２７ｂの上部に上側から当接している。この上皿球抜きスライダ３２７ｂは、後面から後方に突出している作動伝達部３２７ａを備えており、扉枠３を組立てた状態で、この作動伝達部３２７ａが、皿ユニットベース３２３における開口部３２３ｇから臨むように後方に突出すると共に、球送ユニット２５０における球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃに下方から当接する。なお、上皿球抜きスライダ３２７ｂは、上皿球抜きバネ３２７ｃにより上方へ付勢されており、この上皿球抜きバネ３２７ｃの付勢力により、上皿球抜きスライダ３２７ｂ及び球抜きレバーを介して上皿球抜きボタン３２７が上昇端に位置している。

【０２２６】

従って、上皿球抜きボタン３２７を、上皿球抜きバネ３２７ｃの付勢力に抗して下方へ押圧すると、上皿球抜きスライダ３２７ｂの作動伝達部３２７ａが下方へ移動し、作動伝達部３２７ａの上端側に当接している球抜き部材２５３の作動棹２５３ｃも相対的に下方へ移動することとなるため、球抜き部材２５３が正面視反時計周りの方向へ回動し、仕切部２５３ａによる進入口２５１ａと球抜口２５１ｂとの間の仕切りが解除され、それらが互いに連通した状態となる。これにより、上皿３２１内の遊技球が、球送ユニット２５０の球抜口２５１ｂから皿ユニット３２０の球抜き誘導路３２３ｆへと排出され、下皿球供給口３２３ｃを介して下皿３２２へ排出（供給）させることができる。

【０２２７】

なお、上皿球抜きボタン３２７を操作すると、下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４が連動して可動するようにしても良い。これにより、上皿球抜きボタン３２７を操作すると、蓋部材３３４も可動して下皿球抜き孔３２２ａが開くため、上皿３２１から下皿３２２へ排出された遊技球が、更に下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱へ排出されることとなる。つまり、上皿３２１から遊技球を抜くために上皿球抜きボタン３２７を操作すると、下皿球抜きボタン３３３を操作していないにも関わらず、上皿３２１の遊技球がドル箱に排出されるため、遊技者に対して上皿３２１の遊技球が直接ドル箱に排出されているように強く錯覚させることができ、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることで、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。なお、上皿３２１及び下皿３２２の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【０２２８】

［３－３ｆ．球貸ボタン、返却ボタン、及び球貸返却表示部］

皿ユニット３２０の球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、及び球貸返却表示部３３０について、主に図４１を参照して詳細に説明する。球貸ボタン３２８、返却ボタン３２９、及び球貸返却表示部３３０は、図示するように、皿ユニットカバー３２６の天板部３２６ｈにおける上皿球抜きボタン３２７の正面視右側で、円形状の装飾内に取付けられている。

【０２２９】

球貸ボタン３２８は、パチンコ機１に隣接して設けられた球貸機（図示は省略）に対して現金やプリペイドカードを投入した上で、押圧操作することで、所定数の遊技球を皿ユニット３２０の上皿３２１内へ貸出す（払出す）ものである。返却ボタン３２９は、球貸機に投入された現金やプリペイドカードを投入した状態で押圧操作すると、貸出された遊技球の分を差し引いた上で、現金やプリペイドカードを返却するものである。

【０２３０】

球貸返却表示部３３０は、図示は省略するが、透明な表面の下側に三桁の７セグメントＬＥＤが配置されており、球貸機に投入した現金やプリペイドカードの残数、或は、球貸機が故障した時のエラーコード等、を表示するものである。

【０２３１】

［３－３ｇ．演出選択左ボタン及び演出選択右ボタン］
皿ユニット３２０の演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２について、主に図４１等を参照して詳細に説明する。演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２は、図示するように、皿ユニットカバー３２６における正面視左側の皿前上装飾部３２６ｂにおける演出操作ユニット取付部３２６ａに近い右端付近に取付けられている。演出選択左ボタン３３１は、一つの頂点を左方へ向けた三角形状に形成されている。演出選択右ボタン３３２は、演出選択左ボタン３３１の右方で一つの頂点を右方へ向けた三角形状に形成されている。
【０２３２】
演出選択左ボタン３３１及び演出選択右ボタン３３２は、正面視において遊技領域５ａ内に配置されたメイン演出表示装置１６００や演出操作ユニット４００の扉枠側演出表示装置４６０等において、遊技者に対して選択を促す演出画像が表示されると、押圧操作が受付可能となり、所定時間内に演出選択左ボタン３３１や演出選択右ボタン３３２を操作して所望の選択肢を選択するためのものである。
【０２３３】
［３－３ｈ．下皿球抜きボタン］
皿ユニット３２０の下皿球抜きボタン３３３について、主に図４１乃至図４４等を参照して詳細に説明する。下皿球抜きボタン３３３は、下皿３２２の前方となる皿ユニットカバー３２６における下皿開口部３２６ｄの下側で、正面視左側の皿前下装飾部３２６ｃの前面下端から前方に突出している。この下皿球抜きボタン３３３は、押圧操作することで、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４を回動させることができ、蓋部材３３４が回動することで下皿球抜き孔３２２ａが開放されて、下皿３２２内に貯留されている遊技球を、皿ユニット３２０の下方へ排出させることができる。
【０２３４】
下皿球抜きボタン３３３は、下皿本体３２５の下側で皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉに取付けられている下皿球抜きベース３３５（図４２（ｂ）を参照）によって前後方向へスライド可能に取付けられている。下皿球抜きボタン３３３は、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａに対して左方に配置されている（図２８等を参照）。
【０２３５】
下皿球抜きベース３３５には、皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉにおいて、下皿３２２の下方の位置で下方から上方へ凹むように段状に形成されている部位に収容されるように、底板部３２６ｉに取付けられている。下皿球抜きベース３３５は、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａの直下となる位置に、下皿球抜き孔３２２ａと同じ大きさで上下に貫通している排出口３３５ａが形成されている。蓋部材３３４は、詳細な図示は省略するが、下皿本体３２５と下皿球抜きベース３３５との間に配置されている。これにより、下皿３２２の下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖している蓋部材３３４を開くと、下皿球抜きベース３３５の排出口３３５ａも開くこととなり、下皿球抜き孔３２２ａと排出口３３５ａとが互いに連通した状態となる。
【０２３６】
蓋部材３３４は、図示は省略するが、平面視において、下皿球抜きボタン３３３よりも左方の位置を中心として回動可能に下皿球抜きベース３３５に取付けられている。下皿球抜きボタン３３３には、蓋部材３３４における下皿球抜き孔３２２ａを閉鎖する部位と、下皿球抜きベース３３５により回動可能に取付けられる部位との間の部位が連結されている。これにより、下皿球抜きボタン３３３を前後方向へ移動させると、蓋部材３３４が上下に延びた軸周りに回動し、下皿球抜き孔３２２ａ（排出口３３５ａ）を開閉させることができる。
【０２３７】
下皿球抜きベース３３５には、図示は省略するが、下皿球抜きボタン３３３を後方へ押圧して移動させた時に、下皿球抜きボタン３３３を保持する保持装置と、下皿球抜きボタン３３３を前方へ付勢している下皿球抜きバネと、が取付けられている。下皿球抜きボタ

ン３３３が前方に突出して下皿球抜き孔３２２ａを蓋部材３３４により閉鎖している状態で、下皿球抜きボタン３３３を押圧して後方へ移動させると、蓋部材３３４が回動して下皿球抜き孔３２２ａが開くと共に、下皿球抜きボタン３３３が保持装置に保持されて、後方へ移動したままの状態となる。この状態で、下皿球抜きボタン３３３の押圧を放しても、下皿球抜きボタン３３３が前方へ移動することはなく、下皿球抜き孔３２２ａが開いたままの状態で維持され、下皿３２２内の遊技球を下皿球抜き孔３２２ａ及び排出口３３５ａを通して皿ユニット３２０の下方へ排出させることができる。

【０２３８】

そして、下皿球抜きボタン３３３が保持装置に保持されて下皿球抜き孔３２２ａが開いている状態で、下皿球抜きボタン３３３を後方へ押圧すると、保持装置による保持が解除される。この状態で、下皿球抜きボタン３３３の押圧を放すと、下皿球抜きボタン３３３が下皿球抜きバネの付勢力により前方へ移動し、突出した状態に復帰すると共に、蓋部材３３４が回動して下皿球抜き孔３２２ａ（排出口３３５ａ）が閉鎖された状態となる。これにより、下皿３２２内に遊技球を貯留させることができる。

【０２３９】

なお、下皿球抜きボタン３３３の押圧操作とは別に、上皿球抜きボタン３２７の押圧操作によっても、下皿球抜き孔３２２ａ（排出口３３５ａ）を閉鎖している蓋部材３３４が可動して下皿球抜き孔３２２ａが開くようにしても良い。これにより、上皿３２１に貯留された遊技球を皿ユニット３２０の下方に配置されたドル箱に排出させたい時に、上皿球抜きボタン３２７を操作するだけで、下皿３２２を介してドル箱に排出させることができ、球抜きに係る手間を簡素化することができる。なお、上皿３２１及び下皿３２２の球抜きの同時開放は、モータやソレノイド等の駆動源の駆動による同時開放であっても良いし、機械的なリンク機構による同時開放であっても良い。

【０２４０】

［３－４．演出操作ユニットの全体構成］

扉枠３における演出操作ユニット４００の全体構成について、主に図４８乃至図５５等を参照して詳細に説明する。図４８（ａ）は扉枠における演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの右側面図である。また、図４９（ａ）は演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図５０は、演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図５１は図４８（ａ）におけるＤ－Ｄ線で切断した断面図であり、図５２は図４８（ｂ）におけるＥ－Ｅ線で切断した断面図である。図５３（ａ）は図４８（ｂ）におけるＦ－Ｆ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。図５４は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図５５は演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０の正面視左右方向中央の前部に取付けられるものであり、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。

【０２４１】

演出操作ユニット４００は、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０の外周を囲み皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる枠状のフレームユニット４１５と、操作ボタン４１０よりも後方に配置されており操作ボタン４１０の外周縁及びフレームユニット４１５を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット４２０と、フレームユニット４１５の後側に取付けられており操作ボタン４１０及び装飾基板ユニット４２０が前面に取付けられているベースユニット４３０と、操作ボタン４１０を通して遊技者側から視認可能にベースユニット４３０に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側演出表示装置４６０と、を備えている。

【０２４２】

［３－４ａ．操作ボタン］

演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０について、主に図５３乃至図５６等を参照して詳細に説明する。図５６（ａ）は操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。操作ボタン４１０は、外形が皿ユニット３２０の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。操作ボタン４１０は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ４１１と、ボタンレンズ４１１の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム４１２と、ボタンフレーム４１２の後側にボタンレンズ４１１の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース４１３と、を備えている。ボタンフレーム４１２及びボタンベース４１３は、光を通し難い部材によって形成されている。

【０２４３】

ボタンレンズ４１１は、全体が略一定の厚さに形成されている。また、ボタンレンズ４１１は、表面側が凹凸の無い滑らかな湾曲面状に形成されている。ボタンレンズ４１１は、ボタンフレーム４１２の内周側となる位置に裏面から断面Ｗ字状に窪んだ状態で中央側（内側）へ所定長さで延びていると共に周方向に列設されている第一ボタン装飾部４１１ａと、第一ボタン装飾部４１１ａよりも外周側の位置に裏面から断面円弧状に窪んだ状態で中央側へ向かう軸線上に延びていると共に周方向に所定角度範囲内で列設されている複数（六つ）の第二ボタン装飾部４１１ｂと、を備えている。

【０２４４】

ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａは、図示するように、操作ボタン４１０に組立てた状態では、ボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びており、左右両側の一群が、上下両側の一群よりも中央側へ長く延びている。

【０２４５】

ボタンレンズ４１１の複数の第二ボタン装飾部４１１ｂは、夫々が同一の円周上において円弧状に延びており、左右両側に夫々三つずつ形成されている。これらの第二ボタン装飾部４１１ｂは、ボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨むように形成されていると共に、前面側がボタンフレーム４１２の前面と略同一面上となるように前方へ突出している。

【０２４６】

ボタンレンズ４１１は、第一ボタン装飾部４１１ａ及び第二ボタン装飾部４１１ｂの部位において、裏面に形成されている断面Ｗ字状や断面円弧状の凹凸により、光が屈折するレンズ効果が発揮されるため、後側が明瞭に見えないようになっている。

【０２４７】

ボタンフレーム４１２は、円環状に形成されており、前後方向に貫通し周方向へ所定長さで円弧状に延びた複数（六つ）のフレーム開口部４１２ａを備えている。六つのフレーム開口部４１２ａは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂと対応している。このボタンフレーム４１２は、表面に金属光沢を有したメッキ層を備えている。

【０２４８】

ボタンベース４１３は、前後方向に短く延びた略円筒状の本体部４１３ａと、本体部４１３ａの前端から外方へ突出している円環状のフランジ部４１３ｂと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ円柱状に突出しており周方向に略等間隔で複数（四つ）配置されているガイドボス部４１３ｃと、フランジ部４１３ｂの後側から本体部４１３ａの外周に沿って後方へ帯板状に突出しており周方向に複数（三つ）配置されている検知片４１３ｄと、本体部４１３ａよりも外側でフランジ部４１３ｂを前後に貫通していると共に外周に沿って所定長さで延びており周方向に複数（六つ）形成されているベース開口部４１３ｅと、本体部４１３ａの前端から前方へ筒状に延出しており前端側がボタンレンズ４１１の内面に沿うように内側（中央側）へ窄まっている内側延出部４１３ｆと、を備えている。

【０２４９】

ボタンベース４１３における内側延出部４１３ｆの外周面と、フランジ部４１３ｂの前面とにボタンレンズ４１１の外周縁及びボタンフレーム４１２が取付けられる。四つのガイドボス部４１３ｃは、本体部４１３ａの周方向に対して、上下左右の四隅に相当する部位に夫々配置されている。これら四つのガイドボス部４１３ｃは、ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂ内に夫々摺動可能に挿入される。三つの検知片４１３ｄは、本体部４１３ａの周方向に対して、上側に二つ、下側に一つ、配されるように、周方向へ略等間隔に配置されている。これら三つの検知片４１３ｄは、操作ボタン４１０が押圧されると、ベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０により検知される。

【０２５０】

六つのベース開口部４１３ｅは、左右両側に夫々三つずつ備えられており、ボタンレンズ４１１の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａと対応している。ボタンベース４１３におけるベース開口部４１３ｅの部位では、本体部４１３ａ及び内側延出部４１３ｆの一部が、外周側から内側へ窪んでいる。内側延出部４１３ｆは、内側へ窄まっている前端の内径が、ボタンフレーム４１２の内径と略一致している。

【０２５１】

この操作ボタン４１０は、前面が前方へ湾曲面状（略球面の一部の形状）に膨出していると共に、透明に形成されており、後側に配置されている扉枠側演出表示装置４６０の表示画面を前方から視認することができる。操作ボタン４１０は、四つのガイドボス部４１３ｃがベースユニット４３０におけるユニットベース４３１の保持孔４３１ｂに摺動可能に挿入されていると共に、ユニットベース４３１の保持孔に４３１ｂに挿入されている操作ボタンバネ４３８により前方へ付勢されている。操作ボタン４１０は、ベースユニット４３０の操作ボタンバネ４３８の付勢力により、外周縁の前面側がフレームユニット４１５に当接することで、前方へのこれ以上の移動が規制されており、操作ボタンバネ４３８の付勢力に抗して押圧操作することで、後端がベースユニット４３０の前面に当接するまで後方へ移動する。操作ボタン４１０は、押圧操作して後方へ移動させると、三つの検知片４１３ｄの少なくとも一つがベースユニット４３０の押圧検知センサ４４０に検知される。この押圧検知センサ４４０による検知片４１３ｄの検知によって、操作ボタン４１０が操作されたこととなる。

【０２５２】

また、操作ボタン４１０は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、透明なボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周端から中央側へ延びるように全周に亘って形成されている第一ボタン装飾部４１１ａによって、ボタンベース４１３の内周面と、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２との間の隙間を、遊技者側から見え難くすることができる。

【０２５３】

更に、操作ボタン４１０は、円筒状のボタンベース４１３の前端開口を、ボタンレンズ４１１とボタンフレーム４１２とで閉鎖しており、ボタンレンズ４１１の外周縁に取付けられているボタンフレーム４１２により、操作ボタン４１０の外径に対して、後方が視認可能な透明な部分が、外周から内側へ窄まったように形成されている。このボタンフレーム４１２の存在によっても、ボタンベース４１３の内周面と、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２との間の隙間を、遊技者側から見え難くしている。

【０２５４】

また、操作ボタン４１０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、筒状のボタンベース４１３（本体部４１３ａ）の後端が、装飾基板ユニット４２０の内周側を通して装飾基板ユニット４２０の前面よりも後方へ突出した状態となる。これにより、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３に夫々実装されている第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂから前方へ照射された光が、ボタンベース４１３の外側から内側へ漏れるのを防止することが

できると共に、ベースユニット４３０の操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されたＬＥＤから前方へ照射された光がボタンベース４１３の内側から外側へ漏れるのを防止することができる。従って、装飾基板ユニット４２０の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａ及び第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂやベースユニット４３０の操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６に実装されたＬＥＤが、発光装飾対象としている部位以外が発光装飾されてしまうのを防止することができ、見栄え良く発光装飾を行うことができる。

【０２５５】

［３－４ｂ．フレームユニット］

演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５について、主に図５３乃至図５５等を参照して詳細に説明する。フレームユニット４１５は、操作ボタン４１０の前方側から外周を囲むように、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに前側から取付けられ、操作ボタン４１０の外側を装飾している。フレームユニット４１５は、外形が演出操作ユニット取付部３２６ａの前端側に合せた形状に形成されている。

【０２５６】

フレームユニット４１５は、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられ円形の中央開口部４１６ａを有する枠状のフレーム本体４１６と、中央開口部４１６ａの左右両側でフレーム本体４１６に後側から取付けられる透光性を有した一対のフレームサイドレンズ４１７と、中央開口部４１６ａの上側でフレーム本体４１６に前側から取付けられる透光性を有したフレームトップレンズ４１８と、を備えている。

【０２５７】

フレーム本体４１６は、操作ボタン４１０の外径よりも小径で前後に貫通している円形の中央開口部４１６ａと、中央開口部４１６ａよりも左右両外側で前後に貫通していると共に中央開口部４１６ａの周縁に沿って円弧状に延びており周方向に列設されている複数（六つ）の外周開口部４１６ｂと、中央開口部４１６ａの上側前面において所定幅で切欠かれている切欠部４１６ｃと、を備えている。中央開口部４１６ａは、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａの外周側の直径と略同じ大きさに形成されている。これにより、フレーム開口部４１２ａの外周後側に操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端側が当接できるようになっている。

【０２５８】

六つの外周開口部４１６ｂは、中央開口部４１６ａの左右両外側に、夫々三つずつ備えられており、後側からフレームサイドレンズ４１７によって閉鎖されている。切欠部４１６ｃは、前後方向にも貫通しており、前側からフレームトップレンズ４１８が嵌込まれている。

【０２５９】

また、フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａの周縁よりも若干外側の位置から後方へ延出している略筒状の内側筒部４１６ｄを備えている。内側筒部４１６ｄは、中央開口部４１６ａと外周開口部４１６ｂとの間の位置から後方へ延出しており、切欠部４１６ｃと対応している部位が切欠かれている。内側筒部４１６ｄは、演出操作ユニット４００を組立てた状態では、装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間を仕切っている（図５２を参照）。

【０２６０】

更に、フレーム本体４１６は、外周の左右両側上部において夫々外方へ延出しており、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付け

られる一対の取付部４１６ｅを備えている。フレーム本体４１６（演出操作ユニット４００）は、一対の取付部４１６ｅと切欠部４１６ｃの左右両側の部位が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる。

【０２６１】

フレーム本体４１６は、中央開口部４１６ａを間にして切欠部４１６ｃ側（フレームトップレンズ４１８が取付けられる側）とは反対側で切欠部４１６ｃと同じ幅の部位を除いて、表面の略全体に金属光沢を有したメッキ層が形成されている。

【０２６２】

フレームサイドレンズ４１７は、フレーム本体４１６の左右に夫々三つずつ形成されている外周開口部４１６ｂを後側から閉鎖している。フレームサイドレンズ４１７は、前面側が凹凸の無い滑らかな面に形成されており、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿った複数の凹凸が形成されている（図５３及び図６３を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームサイドレンズ４１７の後側が見えないようになっている。

【０２６３】

フレームトップレンズ４１８は、フレーム本体４１６の切欠部４１６ｃに前側から嵌込まれるように、外形が略四角形に形成されている。フレームトップレンズ４１８は、前面側が滑らかに形成されている。また、フレームトップレンズ４１８は、後面側に中央開口部４１６ａの周縁に沿ってジグザグ状に延びた複数の凹凸が中央開口部４１６ａの半径方向に複数列設されている（図５１及び図６３を参照）。これら複数の凹凸によって光が屈折することで、フレームトップレンズ４１８の後側が見えないようになっている。

【０２６４】

フレームユニット４１５は、演出操作ユニット４００を組立てた状態で、一対のフレームサイドレンズ４１７が装飾基板ユニット４２０の操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂの前方に位置すると共に、フレームトップレンズ４１８がベースユニット４３０のフレームトップレンズ装飾基板４３７の前方に位置し、それらに実装されている第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂ等によって夫々が発光装飾可能となっている。

【０２６５】

［３－４ｃ．装飾基板ユニット］

演出操作ユニット４００の装飾基板ユニット４２０について、主に図５３乃至図５７等を参照して詳細に説明する。図５７は、演出操作ユニットの装飾基板ユニットを分解して前から見た分解斜視図である。装飾基板ユニット４２０は、フレームユニット４１５の下方でベースユニット４３０の前面に取付けられ、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができると共に、演出操作ユニット４００に振動を付与させることができるものである。

【０２６６】

装飾基板ユニット４２０は、上方側が開放されたＣ字状の基板ベース４２１と、基板ベース４２１における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３と、基板ベース４２１の前面下部に取付けられている振動モータ４２４と、振動モータ４２４の前側を覆うように基板ベース４２１の前面に取付けられているモータカバー４２５と、を備えている。

【０２６７】

基板ベース４２１は、内周側が操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの外径よりも若干大きく形成されていると共に、外周側がボタンベース４１３におけるフランジ部４１３ｂの外径よりも大きく且つフレームユニット４１５の外径よりも小さく形成されている。

【０２６８】

操作ボタン左外装飾基板４２２は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン左外装飾基板４２２は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２２ａと、複数の第一ＬＥＤ４２２ａよりも半径方向外側で基

板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２２ｂと、を備えている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、基板ベース４２１の前面に沿って円弧状に延びている。操作ボタン右外装飾基板４２３は、前面側に、基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第一ＬＥＤ４２３ａと、複数の第一ＬＥＤ４２３ａよりも半径方向外側で基板ベース４２１の内周に沿って実装された複数の第二ＬＥＤ４２３ｂと、を備えている。これら操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３は、前後両面が白色とされている。

【０２６９】

振動モータ４２４は、回転軸に偏芯した錘４２４ａが取付けられており、この錘４２４ａを回転させることで振動を発生させることができる。

【０２７０】

装飾基板ユニット４２０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、基板ベース４２１の内側に、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の筒状の本体部４１３ａ後端側が挿入されている。また、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａが操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に位置し、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂがフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７の後方に位置している。また、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３の夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａと、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂとの間に、フレームユニット４１５の内側筒部４１６ｄが位置している（図５２を参照）。

【０２７１】

従って、装飾基板ユニット４２０は、操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３における夫々の第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光によって操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを発光装飾させることができると共に、夫々の第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光によってフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを発光装飾させることができる。

【０２７２】

また、装飾基板ユニット４２０は、振動モータ４２４の錘４２４ａを回転させることで、振動を発生させて、演出操作ユニット４００全体を振動させることができる。

【０２７３】

［３－４ｄ．ベースユニット］

演出操作ユニット４００のベースユニット４３０について、主に図５８乃至図６０等を参照して詳細に説明する。図５８（ａ）は演出操作ユニットのベースユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は演出操作ユニットのベースユニットを後ろから見た斜視図である。図５９は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して前から見た分解斜視図である。また、図６０は、演出操作ユニットのベースユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。演出操作ユニット４００のベースユニット４３０は、操作ボタン４１０を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、フレームユニット４１５の後側に取付けられるものである。

【０２７４】

ベースユニット４３０は、フレームユニット４１５の後側に取付けられ中央部において上下に延びた略四角形に貫通している貫通孔４３１ａ、及び貫通孔４３１ａの外側で前方に開放された止り孔からなる四つの保持孔４３１ｂを有する環状のユニットベース４３１と、ユニットベース４３１の前面で貫通孔４３１ａを覆うように取付けられており前後に短く筒状延びた透光性を有する操作ボタン内装飾部材４３２と、操作ボタン内装飾部材４３２の後方でユニットベース４３１の前面における貫通孔４３１ａの左右両側に夫々取付けられている操作ボタン左内装飾基板４３３及び操作ボタン右内装飾基板４３４と、操作ボタン内装飾部材４３２の後方でユニットベース４３１の前面における貫通孔４３１ａの上下両側に取付けられている操作ボタン上内装飾基板４３５及び操作ボタン下内装飾基板

４３６と、ユニットベース４３１の前面上部に取付けられているフレームトップレンズ装飾基板４３７と、を備えている。

【０２７５】

また、ベースユニット４３０は、ユニットベース４３１の四つの保持孔４３１ｂ内に夫々挿入されている四つの操作ボタンバネ４３８と、ユニットベース４３１の前面に取付けられている三つのセンサホルダ４３９と、各センサホルダ４３９に夫々取付けられており操作ボタン４１０の押圧操作を検知する三つの押圧検知センサ４４０と、ユニットベース４３１の後側に取付けられている演出操作ユニット中継基板４４１と、演出操作ユニット中継基板４４１の後側を覆うようにユニットベース４３１の後側に取付けられている中継基板カバー４４２と、を備えている。

【０２７６】

ユニットベース４３１は、外形が略円形状で、フレームユニット４１５の外形よりも若干小さく形成されている。ユニットベース４３１は、中央において前後に貫通しており、上下に延びた略四角形の貫通孔４３１ａが形成されている。この貫通孔４３１ａは、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａ内に収まる大きさで、扉枠側演出表示装置４６０の表示画面が挿通可能な大きさに形成されている。このユニットベース４３１の後側に扉枠側演出表示装置４６０が取付けられる。

【０２７７】

ユニットベース４３１の四つの保持孔４３１ｂは、貫通孔４３１ａの外側の上下左右の四隅で、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の四つのガイドボス部４１３ｃと対応する位置に形成されている。これら保持孔４３１ｂは、内径がガイドボス部４１３ｃの外径よりも若干大きく形成されており、ガイドボス部４１３ｃを摺動可能に挿入させることができる。

【０２７８】

更に詳述すると、四つの保持孔４３１ｂのうちの左上側の保持孔４３１ｂは、ユニットベース４３１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４３１の中心に対して反時計周りの方向へ約３０度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔４３１ｂのうちの右上側の保持孔４３１ｂは、ユニットベース４３１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４３１の中心に対して時計周りの方向へ約４７度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔４３１ｂのうちの下側に配置されている二つの保持孔４３１ｂは、上側の二つの保持孔４３１ｂに対してユニットベース４３１の中心の反対側の位置に夫々形成されている。

【０２７９】

また、ユニットベース４３１は、前面上部において、操作ボタン上内装飾基板４３５が取付けられる部位と、フレームトップレンズ装飾基板４３７が取付けられる部位との間から平板状に前方へ突出している遮光壁部４３１ｃを備えている。この遮光壁部４３１ｃにより、フレームトップレンズ装飾基板４３７のみによってフレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０２８０】

操作ボタン内装飾部材４３２は、前後方向へ短く延びた略円筒状の周壁部４３２ａと、周壁部４３２ａの前端側を閉鎖しており中央が前方へ突出するように湾曲面状に形成されている前板部４３２ｂと、前板部４３２ｂを前後に貫通しており上下延びた四角形状の開口部４３２ｃと、周壁部４３２ａの後端から外方へ延出しているフランジ部４３２ｄと、フランジ部４３２ｄから後方へ突出しておりユニットベース４３１に取付けられる複数の取付ボス４３２ｅと、を備えている。

【０２８１】

操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａは、外径が操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内径と略同じ大きさに形成されている。前板部４３２ｂを貫通している開口部４３２ｃは、扉枠側演出表示装置４６０の表示画面と略同じ大きさに形成され

ている。
【０２８２】
操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの外周面と、前板部４３２ｂの前面が、凹凸のない滑らかな面に形成されている。
【０２８３】
操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの内周面に形成されており、円弧状に窪んでいると共に前後方向へ延びており、周方向に複数備えられた第一ボタン内装飾部４３２ｆと、前板部４３２ｂの後面に形成されており、円弧状に膨出し、前板部４３２ｂの中央を中心とするような変八角形状に延びていると共に、前板部４３２ｂの中央を中心として同心円状に複数備えられている第二ボタン内装飾部４３２ｇ（図６３を参照）と、を備えている。第二ボタン内装飾部４３２ｇは、開口部４３２ｃの四つの内周辺と平行に延びている部位を有するように形成されている。
【０２８４】
操作ボタン内装飾部材４３２は、透明な部材によって形成されている。操作ボタン内装飾部材４３２は、周壁部４３２ａの第一ボタン内装飾部４３２ｆと、前板部４３２ｂの第二ボタン内装飾部４３２ｇとによるレンズ効果により、後方が明瞭に視認できないようになっている。
【０２８５】
操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６は、夫々前面側に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることができる。この操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることで、操作ボタン４１０内や扉枠側演出表示装置４６０の外側を発光装飾させることができる。
【０２８６】
フレームトップレンズ装飾基板４３７は、前面に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで、フレームユニット４１５におけるフレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。
【０２８７】
操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、操作ボタン下内装飾基板４３６、及びフレームトップレンズ装飾基板４３７に実装されているＬＥＤは、夫々フルカラーＬＥＤとされている。また、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、操作ボタン下内装飾基板４３６、及びフレームトップレンズ装飾基板４３７は、前面が白色とされている。
【０２８８】
操作ボタンバネ４３８は、コイルバネとされており、ユニットベース４３１における四つの保持孔４３１ｂ内に前方から挿入されている。操作ボタンバネ４３８は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、後端が保持孔４３１ｂの底面に当接しており、前端が操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の本体部４１３ａから後方へ突出しているガイドボス部４１３ｃの後端に当接している。これら操作ボタンバネ４３８により、操作ボタン４１０を前方へ付勢している。
【０２８９】
三つの押圧検知センサ４４０は、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄと対応している位置に配置されている。詳述すると、三つの押圧検知センサ４４０は、ユニットベース４３１の前面において、一つが左上の保持孔４３１ｂの左下側に、もう一つが右上の保持孔４３１ｂの右下側に、残りの一つが左下の保持孔４３１ｂの右下側に夫々センサホルダ４３９を介して取付けられている。三つの押圧検知センサ４４０は、ユニットベース４３１の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ４４０は、操作ボタン４１０の三つの検知片４１３ｄを検知することができる。

【０２９０】
演出操作ユニット中継基板４４１は、ユニットベース４３１の後側において、背面視で貫通孔４３１ａの左側（正面視右側）に取付けられている。演出操作ユニット中継基板４４１は、操作ボタン左外装飾基板４２２、操作ボタン右外装飾基板４２３、振動モータ４２４、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、操作ボタン下内装飾基板４３６、フレームトップレンズ装飾基板４３７、押圧検知センサ４４０、及び扉枠側演出表示装置４６０と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。
【０２９１】
中継基板カバー４４２は、演出操作ユニット中継基板４４１の後側を覆う部位の下端から正面視左方に延びており、ユニットベース４３１の後面下部に取付けられる脚部４４２ａを備えている。中継基板カバー４４２の脚部４４２ａは、扉枠３に組立てた状態では、下面が略水平に延びていると共に、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の底面を形成している底板部３２６ｉとの間で僅かな隙間を形成している（図２６を参照）。これにより、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部４４２ａの下面が皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面に当接するまでの間では、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。そして、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接した後では、演出操作ユニット４００の下方へ移動が規制され、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。
【０２９２】
［３－４ｅ．扉枠側演出表示装置］
演出操作ユニット４００の扉枠側演出表示装置４６０について、主に図５４及び図５５等を参照して詳細に説明する。扉枠側演出表示装置４６０は、表示画面がベースユニット４３０における操作ボタン内装飾部材４３２の開口部４３２ｃから前方へ臨むようにユニットベース４３１の後側に取付けられており、操作ボタン４１０の透明な中央部分を通して前方側（遊技者側）から表示画面を視認することができると共に、表示画面に演出画像を表示させることができるものである。
【０２９３】
扉枠側演出表示装置４６０は、前面に四角形の表示画面を有した液晶表示装置４６１と、液晶表示装置４６１の後側に取付けられていると共に、ベースユニット４３０のユニットベース４３１の後側に取付けられる有底角筒状の取付ブラケット４６２と、を備えている。液晶表示装置４６１は、縦横の比が、１６：９で、対角線の長さが、約４．３ｉｎｃｈの市販のカラー液晶ディスプレイである。取付ブラケット４６２は、外周が液晶表示装置４６１の外周と同じ形状に形成されており、有底筒状の底部が液晶表示装置４６１の後面と当接するように取付けられている。
【０２９４】
扉枠側演出表示装置４６０は、演出操作ユニット４００に組立てた状態では、液晶表示装置４６１がユニットベース４３１の貫通孔４３１ａを後側から貫通して、操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａ内に突出している（図５１を参照）。液晶表示装置４６１の前面（表示画面）は、操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａの前端付近に位置しており、前板部４３２ｂを貫通している開口部４３２ｃから前方に臨んでいる。
【０２９５】
扉枠側演出表示装置４６０は、液晶表示装置４６１において周辺制御基板１５１０からの制御信号に基づいた所定の演出画像を表示することができる。
【０２９６】
［３－４ｆ．演出操作ユニットの作用効果］
演出操作ユニット４００の作用効果について、主に図６１乃至図６３等を参照して詳細

に説明する。図６１は、図５１の演出操作ユニットの断面図において操作ボタンを押圧した状態を示す説明図である。図６２（ａ）は演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの一部を切欠いて操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図６３（ａ）は演出操作ユニットの外観を前から見た斜視図で示す説明図であり、（ｂ）は演出操作ユニットの外観を操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。

【０２９７】

本実施形態の演出操作ユニット４００は、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて演出画像を遊技者に見せることができると共に、遊技者に操作ボタン４１０の操作をさせて遊技者に提示した演出に遊技者を参加させて楽しませることができるものである。

【０２９８】

演出操作ユニット４００は、全高が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の貫通口１１１の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、演出操作ユニット４００は、全幅が、扉枠３の全幅の１／３よりも若干大きく形成されている。演出操作ユニット４００は、正面視において、遊技領域５ａ（扉枠ベース１１０の貫通口１１１）の下側で左右方向の中央に配置されている。

【０２９９】

演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の上部が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられている。演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０に取付けた状態で、底面となる中継基板カバー４４２の脚部４４２ａの下面が、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６における底板部３２６ｉの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、演出操作ユニット４００は、皿ユニット３２０に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【０３００】

また、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５の前面（フレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、演出操作ユニット４００は、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、垂直線に対して６３度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機１を用いて遊技を行うために本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット３２０（演出操作ユニット４００）の上方に配置されている遊技盤５における遊技領域５ａの中央の前方に位置するため、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域５ａから演出操作ユニット４００（操作ボタン４１０）に視線を落すと、操作ボタン４１０がその正面視（中心軸線ＣＬと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン４１０や操作ボタン４１０内の扉枠側演出表示装置４６０等を良好な状態で視認することができる。

【０３０１】

演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の四つのガイドボス部４１３ｃがベースユニット４３０の四つの保持孔４３１ｂに夫々摺動可能に挿入されていると共に、操作ボタンバネ４３８により前方へ付勢されている。演出操作ユニット４００は、通常の状態（操作ボタン４１０を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネ４３８の付勢力によって、操作ボタン４１０のボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の後面における中央開口部４１６ａ付近の部位に当接している。

【０３０２】

演出操作ユニット４００は、通常の状態では、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内周付近から中央側（中心軸線ＣＬ側）が、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン４１０における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している（図５１等を参照）。

【０３０３】

因みに、本実施形態では、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの直径が約１５ｃｍとされており、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ方向に対してボタンレンズ４１１（の前端）がフレームユニット４１５の前面から約４ｃｍ前方へ突出している。

【０３０４】

通常の状態において、遊技者が演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作すると、操作ボタン４１０は操作ボタンバネ４３８の付勢力に抗して中心軸線ＣＬに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン４１０の後端がベースユニット４３０のユニットベース４３１の前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン４１０の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン４１０を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ４１１を押圧する。

【０３０５】

この操作ボタン４１０は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ４１１の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、中心軸線ＣＬが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン４１０を押圧すると、図６１において白抜きの矢印で示すように、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬから離れた部位を押圧することとなる。

【０３０６】

ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。

【０３０７】

これに対して、本実施形態の演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ４１１）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン４１０の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン４１０の全体に分散されて操作ボタン４１０が傾き難くなり、操作ボタン４１０が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン４１０の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン４１０が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン４１０を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。

【０３０８】

また、演出操作ユニット４００は、装飾基板ユニット４２０における基板ベース４２１の前面下部に振動モータ４２４が取付けられている上で、上述したように、演出操作ユニット４００が吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられているため、振動モータ４２４により錘４２４ａを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、演出操作ユニット４００全体を大きく（強く）振動させることができ、演出操作ユ

ニット４００に触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ４２４を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（図６１において白抜きの矢印の位置）の直下に配置しているため、操作ボタン４１０を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。

【０３０９】

更に、演出操作ユニット４００は、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー３２６に取付けられていると共に、下面を形成している中継基板カバー４４２の脚部４４２ａの下面と皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に隙間が形成されているため、操作ボタン４１０を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接するまでの間、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等が下方へ撓むことで衝撃を吸収することができる。また、脚部４４２ａの下面が底板部３２６ｉの上面に当接した後では、演出操作ユニット４００の下方への移動を規制し、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させることができ、演出操作ユニット４００等の破損を防止することができる。従って、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や演出操作ユニット４００等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０３１０】

なお、上述したように、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【０３１１】

また、演出操作ユニット４００は、図６３に示すように、ボタンレンズ４１１、フレームサイドレンズ４１７、フレームトップレンズ４１８、及び操作ボタン内装飾部材４３２が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、第一ボタン内装飾部４３２ｆ、及び第二ボタン内装飾部４３２ｇ等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることら光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【０３１２】

演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と操作ボタン内装飾部材４３２の周壁部４３２ａの外周面との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、操作ボタン内装飾部材４３２の外周の隙間を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、位置が固定されている操作ボタン内装飾部材４３２を備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に操作ボタン内装飾部材４３２を問題なく配置することができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。

【０３１３】

詳述すると、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１

１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２によって、ベースユニット４３０の操作ボタン内装飾部材４３２の外周よりも外側で後方側（奥側）にあるユニットベース４３１や装飾基板ユニット４２０等が、透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、図６２において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン４１０に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等を備えているため、操作ボタン内装飾部材４３２の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン４１０、ひいては、演出操作ユニット４００全体の見栄えを良くすることができる。

【０３１４】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａが、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬへ向かうように延びていると共に周方向に列設されているのに対して、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている操作ボタン内装飾部材４３２の前板部４３２ｂに形成されている第二ボタン内装飾部４３２ｇが中心軸線ＣＬを中心とした変八角形状に延びていると共に同心円状に列設されているため、図６３に示すように、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と第二ボタン内装飾部４３２ｇの凹凸線とが交差することとなり、幾何学的な装飾を遊技者に見せることができる。

【０３１５】

また、演出操作ユニット４００は、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとが、前後方向（中心軸線ＣＬの延びている方向）に離れているため、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとによって奥行のある立体的な感じの幾何学模様を遊技者に見せることができ、操作ボタン４１０内を含む装飾を楽しませることができる。

【０３１６】

更に、演出操作ユニット４００では、第一ボタン装飾部４１１ａと第二ボタン内装飾部４３２ｇとが前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、第一ボタン装飾部４１１ａの凹凸線と、第二ボタン内装飾部４３２ｇの凹凸線との重なり具合が変化するため、動きのある装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０３１７】

このように、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａと操作ボタン内装飾部材４３２の第二ボタン内装飾部４３２ｇとによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０３１８】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）で、操作ボタン内装飾部材４３２の後方には、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６が配置されており、それらの前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、操作ボタン４１０内の操作ボタン内装飾部材４３２を発光装飾させることができる。つまり、操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６によって、操作ボタン４１０内を発光装飾させることができる。これら操作ボタン左内装飾基板４３３、操作ボタン右内装飾基板４３４、操作ボタン上内装飾基板４３５、及び操作ボタン下内装飾基板４３６の前面に実装されているＬＥＤは、図５２に示すように、中心軸線ＣＬの延びている方向から見て、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａの内側に配置されているため、それらからの光が本体部４１３ａの外側に漏れることはなく、操作ボタン４１０内のみを良好に発光装飾させることができる。

【０３１９】

また、演出操作ユニット４００は、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨む第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾部４１１ｂを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａは、図５２に示すように、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａと、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光が本体部４１３ａの内側や内側筒部４１６ｄの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを良好に発光装飾させることができる。

【０３２０】

更に、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の六つの外周開口部４１６ｂから臨むフレームサイドレンズ４１７の後方に、操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂが配置されており、それら第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを発光させることでフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとフレーム本体４１６の外周との間に位置しており、第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が内側筒部４１６ｄの内側やフレーム本体４１６の外側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを良好に発光装飾させることができる。

【０３２１】

また、演出操作ユニット４００は、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に、ベースユニット４３０におけるフレームトップレンズ装飾基板４３７が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板４３７の前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。ベースユニット４３０におけるユニットベース４３１のフレームトップレンズ装飾基板４３７が取付けられている部位の下側からは、フレームトップレンズ４１８の下端後方付近まで平板状の遮光壁部４３１ｃが前方へ突出しており、フレームトップレンズ装飾基板４３７のＬＥＤからの光が操作ボタン４１０やフレームサイドレンズ４１７側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８のみを良好に発光装飾させることができる。

【０３２２】

［３－４ｇ．演出操作ユニットの第二実施形態の全体構成］

次に、上記の演出操作ユニット４００の第二実施形態である第二演出操作ユニット４００Ａについて、主に図６４乃至図７１等を参照して詳細に説明する。図６４（ａ）は図４８乃至図６３の演出操作ユニットとは実施形態の異なる第二演出操作ユニットの正面図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの右側面図である。図６５（ａ）は第二演出操作ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットを後ろから見た斜視図である。図６６は、第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た説明図である。図６７は、図６４（ａ）におけるＧ－Ｇ線で切断した断面図である。図６８は、図６４（ｂ）におけるＨ－Ｈ線で切断した断面図である。図６９（ａ）は図６４（ｂ）におけるＩ－Ｉ線で切断した断面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＡ部の拡大図である。図７０は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図７１は第二演出操作ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０３２３】

第二演出操作ユニット４００Ａは、上記の演出操作ユニット４００に替えて皿ユニット

３２０の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けることができるものである。この第二演出操作ユニット４００Ａは、演出操作ユニット４００と同様に、遊技者が押圧操作することができると共に、遊技者に対して演出画像を提示することができるものである。以下では、第二演出操作ユニット４００Ａにおいて、演出操作ユニット４００と同一の構成部材については、同一の符号を付して説明する。

【０３２４】

第二演出操作ユニット４００Ａは、外形が円形で外周縁を除いた中央側が透明に形成されており遊技者が押圧操作可能な操作ボタン４１０と、操作ボタン４１０の外周を囲み皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられる枠状のフレームユニット４１５と、操作ボタン４１０よりも後方に配置されており操作ボタン４１０の外周縁及びフレームユニット４１５を発光装飾させることが可能な装飾基板ユニット４２０と、フレームユニット４１５の後側に取付けられており操作ボタン４１０及び装飾基板ユニット４２０が前面に取付けられている第二ベースユニット４５０と、操作ボタン４１０を通して遊技者側から視認可能に第二ベースユニット４５０に取付けられており演出画像を表示可能な扉枠側第二演出表示装置４６０Ａと、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの下面に取付けられている緩衝ユニット５１０と、を備えている。

【０３２５】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの正面視右側面に取付けられている第二演出操作ユニット中継基板５１５と、第二演出操作ユニット中継基板５１５の表面を覆うように扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの正面視右側面に取付けられている中継基板カバー５１６と、を備えている。第二演出操作ユニット中継基板５１５及び中継基板カバー５１６は、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるプロジェクタ取付部材５０５の正面視右側面に取付けられている。

【０３２６】

第二演出操作ユニット中継基板５１５は、操作ボタン左外装飾基板４２２、操作ボタン右外装飾基板４２３、振動モータ４２４、押圧検知センサ４５４、フレームトップレンズ装飾基板４８２、切替駆動モータ４９２、プロジェクタ５００、及び回転検知センサ５０７と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。

【０３２７】

［３－４ｇ－１．操作ボタン］

第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０について、主に図６９乃至図７２等を参照して詳細に説明する。図７２（ａ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は第二演出操作ユニットの操作ボタンを分解して後ろから見た分解斜視図である。第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０は、外形が皿ユニット３２０の上下方向の高さよりも若干小さい直径の円形に形成されており、外周縁を除いた中央側が透明に形成されている。この操作ボタン４１０は、外周が円形で中央側が前方へ膨出するように湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成されている透明なボタンレンズ４１１と、ボタンレンズ４１１の外周縁の前側に取付けられている円環状のボタンフレーム４１２と、ボタンフレーム４１２の後側にボタンレンズ４１１の外周縁を挟持するように取付けられている円筒状のボタンベース４１３と、を備えており、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０と略同一の構成である。

【０３２８】

具体的な相違点は、第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０と、演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０とでは、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａの模様と、ボタンベース４１３のガイドボス部４１３ｃの形状が異なっている。

【０３２９】

詳述すると、図示するように、第二演出操作ユニット４００Ａにおける操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａは、ボタンフレーム４１２の内周と接する部位に、ボタンレンズ４１１の中央側へ一つの頂点を向けた三角形と、中央とは反対側へ一つの頂点を向

けた三角形とが、周方向へ交互に全周に亘って複数列設されたトラス状の模様と、トラス状の模様におけるボタンレンズ４１１の中央側を向いている底辺と、その底辺の両端からボタンレンズ４１１の中央側へ延びた辺と、その辺の先端から底辺の中央へ延びている斜辺とで構成された直角三角形状の模様と、直角三角形状の模様の斜辺と、トラス状の模様の三角形の底辺の中央からボタンレンズ４１１の中央側へ直角三角形状の模様よりも長く延びた辺と、その辺の先端から直角三角形状の模様の斜辺の先端へ延びた辺とで構成された変二等辺三角形状の模様と、で形成されている。

【０３３０】

つまり、この第一ボタン装飾部４１１ａは、複数の三角形の組合せによって構成されている。なお、図示は省略するが、第一ボタン装飾部４１１ａを構成している各三角形は、夫々の面が異なる方向を向いており、多面体状に形成されている。これにより、ボタンレンズ４１１の表面側が滑らかな湾曲面状に形成されているのに対して、裏面側が第一ボタン装飾部４１１ａの部位において多面体状に形成されているため、第一ボタン装飾部４１１ａの部位では、ボタンレンズ４１１の板厚が複雑に変化しており、この部位を通る光が乱屈折することとなる。従って、第一ボタン装飾部４１１ａの部位では、複数の三角形が組合わされた幾何学模様を遊技者に見せることができると同時に、乱屈折により後側の部材を見え難くすることができる。

【０３３１】

第二演出操作ユニット４００Ａのボタンベース４１３におけるガイドボス部４１３ｃは、後方が開放されている円筒状に形成されている。このガイドボス部４１３ｃは、第二ベースユニット４５０の保持孔４５１ｄ内に挿入されると共に、筒状の内部に第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の保持孔４５１ｄ内に保持されているボタンシャフト４５２が摺動可能に挿入される。本例では、操作ボタン４１０が、ガイドボス部４１３ｃ内に後方から挿入される第二ベースユニット４５０のボタンシャフト４５２によって前後方向へ進退可能に取付けられる。

【０３３２】

［３－４ｇ－２．フレームユニット］

第二演出操作ユニット４００Ａのフレームユニット４１５について、主に図６９乃至図７１等を参照して説明する。フレームユニット４１５は、操作ボタン４１０の前方側から外周を囲むように、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに前側から取付けられ、操作ボタン４１０の外側を装飾している。フレームユニット４１５は、外形が演出操作ユニット取付部３２６ａの前端側に合せた形状に形成されている。

【０３３３】

第二演出操作ユニット４００Ａのフレームユニット４１５は、演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。

【０３３４】

［３－４ｇ－３．装飾基板ユニット］

第二演出操作ユニット４００Ａの装飾基板ユニット４２０について、主に図５７、図６９乃至図７１等を参照して説明する。装飾基板ユニット４２０は、フレームユニット４１５の下方で第二ベースユニット４５０の前面に取付けられ、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂ及びフレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができると共に、第二演出操作ユニット４００Ａに振動を付与させることができるものである。

【０３３５】

装飾基板ユニット４２０は、上方側が開放されたＣ字状の基板ベース４２１と、基板ベース４２１における左右両側の前面に夫々取付けられている操作ボタン左外装飾基板４２２及び操作ボタン右外装飾基板４２３と、基板ベース４２１の前面下部に取付けられている振動モータ４２４と、振動モータ４２４の前側を覆うように基板ベース４２１の前面に

取付けられているモータカバー４２５と、を備えている。
【０３３６】
第二演出操作ユニット４００Ａの装飾基板ユニット４２０は、演出操作ユニット４００の装飾基板ユニット４２０と同一の構成であり、同一の符号を付すと共に、詳細な説明は省略する。
【０３３７】
［３－４ｇ－４．第二ベースユニット］
第二演出操作ユニット４００Ａの第二ベースユニット４５０について、主に図７３等を参照して詳細に説明する。図７３は、第二演出操作ユニットの第二ベースユニットを前から見た斜視図である。第二演出操作ユニット４００Ａの第二ベースユニット４５０は、操作ボタン４１０を前後方向へ進退可能に取付けていると共に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａが取付けられ、フレームユニット４１５の後側に取付けられるものである。
【０３３８】
第二ベースユニット４５０は、フレームユニット４１５の後側に取付けられるユニットベース４５１と、ユニットベース４５１の前面から突出しており操作ボタン４１０のボタンベース４１３における円筒状の四つのガイドボス部４１３ｃ内に後方から摺動可能に夫々挿入される円柱状の四つのボタンシャフト４５２と、四つのボタンシャフト４５２の夫々が挿通され操作ボタン４１０のガイドボス部４１３ｃの後端を前方へ付勢している操作ボタンバネ（図示は省略）と、ユニットベース４５１の前面に取付けられており、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄを夫々検知する三つの押圧検知センサ４５４と、を備えている。
【０３３９】
第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１は、円環状の本体部４５１ａと、本体部４５１ａの内周縁から後方へ半球状に突出しているカバー部４５１ｂと、本体部４５１ａの前面に対して垂直方向から見た時に上下に延びた略四角形でカバー部４５１ｂを前後に貫通している貫通口４５１ｃと、本体部４５１ａの前面から後方へ止り孔状に窪んでいる四つの保持孔４５１ｄと、本体部４５１ａの上部において前面から後方へ向かって半円状（Ｕ字状）に窪んでいる上軸受部４５１ｅと、本体部４５１ａの下部において前面から後方へ向かって上軸受部４５１ｅと同軸上で半円状（Ｕ字状）に窪んでいる下軸受部４５１ｆと、本体部４５１ａの上部前面で上軸受部４５１ｅの左右両側に形成されておりスクリーンユニット４７０の回動を規制する一対の回動規制部４５１ｇと、を備えている。
【０３４０】
ユニットベース４５１の円環状の本体部４５１ａは、内周と外周とが、Ｃ字状に形成されている装飾基板ユニット４２０の基板ベース４２１と略同じ大きさに形成されている。この本体部４５１ａの前面に装飾基板ユニット４２０が取付けられる。カバー部４５１ｂは、上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆにより回転可能に取付けられる扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０が回転した時に接触せずに収容可能な大きさに形成されている。貫通口４５１ｃは、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ５００が後方から通過可能な大きさに形成されている。
【０３４１】
ユニットベース４５１の四つの保持孔４５１ｄは、本体部４５１ａの前面の上下左右の四隅で、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の四つのガイドボス部４１３ｃと対応する位置に形成されている。これら保持孔４５１ｄは、内径がガイドボス部４１３ｃの外径よりも大きく形成されており、ガイドボス部４１３ｃを挿入させることができる。これら四つの保持孔４５１ｄ内には、その中心軸と同軸上にボタンシャフト４５２が取付けられている。保持孔４５１ｄに取付けられたボタンシャフト４５２の前端は、本体部４５１ａの前面よりも前方へ突出している。保持孔４５１ｄに取付けられたボタンシャフト４５２が操作ボタン４１０の筒状のガイドボス部４１３ｃ内に挿入されることで、ガイドボス部４１３ｃを介して操作ボタン４１０を前後方向へ摺動可能に取付けることができる。

【０３４２】
四つの保持孔４５１ｄのうちの左上側の保持孔４５１ｄは、ユニットベース４５１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４５１の中心に対して反時計周りの方向へ約３０度回転した位置に形成されている。また、四つの保持孔４５１ｄのうちの右上側の保持孔４５１ｄは、ユニットベース４５１の中心（操作ボタン４１０の中心）を通る上下に延びた中心線から、ユニットベース４５１の中心に対して時計周りの方向へ約４７度回転した位置に形成されている。一方、四つの保持孔４５１ｄのうちの下側に配置されている二つの保持孔４５１ｄは、上側の二つの保持孔４５１ｄに対してユニットベース４５１の中心の反対側の位置に夫々形成されている。
【０３４３】
また、四つの保持孔４５１ｄ内には、図示しない操作ボタンバネが夫々挿入されており、これら操作ボタンバネの前端がガイドボス部４１３ｃの後端に当接することで、ガイドボス部４１３ｃを介して操作ボタン４１０を前方へ付勢している。
【０３４４】
ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、前方が開放されて後方へ延びたＵ字状に形成されている。上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、半円弧状に延びている部位の中心が同軸上に位置している。上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆは、前方から扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上軸部材４７３及び下軸部材４７４が挿入されたうえで、前側から上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５が本体部４５１ａの前面に取付けられることで、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０を回転可能に支持することができる。
【０３４５】
ユニットベース４５１の一対の回動規制部４５１ｇは、夫々の前面が、その延長線（面）が、Ｕ字状に後方へ窪んでいる上軸受部４５１ｅにおける半円形状の部位の中心軸を通るように形成されており、中心軸を中心として所定角度周方向へ離反している。これら一対の回動規制部４５１ｇは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが当接することで、スクリーンユニット４７０の回動範囲を規制している。本実施形態では、一対の回動規制部４５１ｇによりスクリーンユニット４７０の回動範囲を、９０度の角度範囲に規制している。
【０３４６】
なお、図示は省略するが、一対の回動規制部４５１ｇ内には、夫々磁石が埋設されており、ストッパ４７５ｂに取付けられている鉄板と磁着することで、回動規制部４５１ｇに当接しているストッパ４７５ｂを回動規制部４５１ｇから離れ難くしている。従って、回動規制部４５１ｇ内の磁石と、ストッパ４７５ｂの鉄板とによって、スクリーンユニット４７０において、メインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態、或いは、サブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態、の何れかにスクリーンユニット４７０を保持することができ、操作ボタン４１０の押圧操作や振動モータ４２４等による振動によって、スクリーンユニット４７０が回動しようとする動きを抑制して扉枠側第二演出表示装置４６０Ａによる演出画像を良好な状態で楽しませることができる。
【０３４７】
三つの押圧検知センサ４５４は、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面において、操作ボタン４１０におけるボタンベース４１３の三つの検知片４１３ｄと対応している位置に取付けられている。詳述すると、三つの押圧検知センサ４５４は、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面において、一つが左上の保持孔４５１ｄの左下側に、もう一つが右上の保持孔４５１ｄの右下側に、残りの一つが左下の保持孔４５１ｄの右下側に夫々取付けられている。三つの押圧検知センサ４５４は、ユニットベース４５１の中央を中心として周方向へ略等間隔に取付けられている。これら三つの押圧検知センサ４５４は、操作ボタン４１０の三つの検知片４１３ｄを検知することができる。
【０３４８】

［３－４ｇ－５．扉枠側第二演出表示装置］
第二演出操作ユニット４００Ａの扉枠側第二演出表示装置４６０Ａについて、主に図７０及び図７１等を参照視して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、第二ベースユニット４５０に取付けられており操作ボタン４１０の透明な部位を通して遊技者に演出画像を見せることができるものである。扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、第二ベースユニット４５０の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆにより上下に延びた軸線周りを回動可能に取付けられているスクリーンユニット４７０と、第二ベースユニット４５０の前面上部に取付けられておりスクリーンユニット４７０の上部側を第二ベースユニット４５０と協働して回転可能に取付けている上部軸受部材４８０と、第二ベースユニット４５０の前面下部に取付けられておりスクリーンユニット４７０の下部側を第二ベースユニット４５０と協働して回転可能に取付けている下部軸受部材４８５と、を備えている。

【０３４９】
また、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、スクリーンユニット４７０を回転駆動させ第二ベースユニット４５０の上部に取付けられている回動駆動ユニット４９０と、第二ベースユニット４５０のカバー部４５１ｂ内に配置され後方からスクリーンユニット４７０に演出画像を投影表示可能なプロジェクタ５００と、プロジェクタ５００が取付けられていると共に第二ベースユニット４５０のカバー部４５１ｂを後側から覆うようにユニットベース４５１の後面取付けられており前方が開放されている箱状のプロジェクタ取付部材５０５と、第二ベースユニット４５０の上部における回動駆動ユニット４９０の正面視左側でスクリーンユニット４７０の作動ギア部材４７５を上方から覆うように取付けられている上部カバー５０６と、上部カバー５０６に取付けられておりスクリーンユニット４７０の回動位置（回転位置）を検知する二つの回転検知センサ５０７と、を備えている。

【０３５０】
［３－４ｇ－５ａ．スクリーンユニット］
扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０は、第二ベースユニット４５０に上下に延びた軸周りに対して回転可能に取付けられており、プロジェクタ５００から演出画像が投射されることで、その演出画像を遊技者から視認可能に表示（投影表示）することができるものである。

【０３５１】
スクリーンユニット４７０は、半円筒状に形成されており乳白色で透光性を有しているメインスクリーン４７１と、メインスクリーン４７１の軸方向一端側を外周の一部としている円盤状で中央部が軸方向外方へ膨出するように湾曲しており乳白色で透光性を有しているサブスクリーン４７２と、メインスクリーン４７１の両端部の軸方向中央から軸直角方向外方へ夫々円柱状に突出している上軸部材４７３及び下軸部材４７４と、上軸部材４７３の先端に取付けられており外周の略半周に亘ってギア歯４７５ａが形成されている作動ギア部材４７５と、サブスクリーン４７２を貫通する透明で所定のキャラクタ（ドクロ）を模したレリーフ状に形成されているサブスクリーン装飾部材４７６（図７４及び図７５等を参照）と、サブスクリーン４７２の裏面側に取付けられておりサブスクリーン４７２と対向する面に複数のＬＥＤ４７７ａが実装されているサブスクリーン装飾基板４７７（図７５等を参照）と、メインスクリーン４７１のサブスクリーン４７２とは反対側の端部からメインスクリーン４７１の中心軸へ向かって短く延びている半円弧状の周縁装飾部材４７８と、を備えている。

【０３５２】
スクリーンユニット４７０の半円筒状のメインスクリーン４７１は、半径が第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における円環状の本体部４５１ａの内径よりも小さい大きさに形成されている。メインスクリーン４７１は、軸方向の長さが、半円筒状の半径の約４／３倍の大きさに形成されている。メインスクリーン４７１は、軸方向の両端が、サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａと周縁装飾部材４７８とによって、縁取

られるように装飾されている。

【０３５３】

サブスクリーン４７２は、その中心軸が延びている方向から見た時に、外形が半円筒状のメインスクリーン４７１の半径と一致している円形状に形成されている（図７４（ｂ）を参照）。サブスクリーン４７２は、外周から中心側へ所定幅で円環状に形成されており四角錘状の凹凸が周方向に複数列設されている周縁装飾部４７２ａと、周縁装飾部４７２ａの内側を閉鎖している湾曲面状のスクリーン一般部４７２ｂと、を備えている。サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａは、内周側がメインスクリーン４７１から遠ざかる方向へ突出するように全体が円錐台状に形成されている。スクリーン一般部４７２ｂは、メインスクリーン４７１から遠ざかる方向へ、半円筒状のメインスクリーン４７１の半径よりも大きい半径の球面状に膨出している。サブスクリーン４７２のスクリーン一般部４７２ｂには、貫通した穴が形成されており、その穴を閉鎖するようにサブスクリーン装飾部材４７６が取付けられている。

【０３５４】

上軸部材４７３及び下軸部材４７４は、夫々第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆ内に夫々前方から挿入されて回転可能に取付けられる。

【０３５５】

作動ギア部材４７５は、回動駆動ユニット４９０の第二伝達ギア４９５と噛合し略半周に亘って形成されているギア歯４７５ａと、ギア歯４７５ａの周方向端部の一方から外方へ突出しているストッパ４７５ｂと、ギア歯４７５ａの周方向端部のストッパ４７５ｂとは反対側から外方へ平板状に突出している検知片４７５ｃと、を備えている。作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、上軸部材４７３の軸芯を中心として円弧状に窪んでいる上部軸受部材４８０の凹部４８１ａ内に位置しており、凹部４８１ａ内の両端部に位置している第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の一対の回動規制部４５１ｇに当接することでスクリーンユニット４７０の回動範囲が規制される。

【０３５６】

なお、詳細な図示は省略するが、ストッパ４７５ｂにおける回動規制部４５１ｇと当接する部位には、鉄板が取付けられており、この鉄板が回動規制部４５１ｇに埋設されている磁石と磁着できるようになっている。

【０３５７】

このスクリーンユニット４７０は、メインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置と、サブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置との間で回動することができる。検知片４７５ｃは、上部カバー５０６に取付けられている回転検知センサ５０７により検知される。

【０３５８】

サブスクリーン装飾部材４７６は、サブスクリーン４７２におけるスクリーン一般部４７２ｂに取付けられている。サブスクリーン装飾部材４７６は、透明な部材によりドクロを模したレリーフ状に形成されており、その板厚が複雑に変化していることから、透過する光が複雑に乱屈折し、後方が視認し難くなっている。なお、詳細な図示は省略するが、サブスクリーン装飾部材４７６は、ドクロを模したレリーフ内に「ＰＵＳＨ」の文字が形成されている。

【０３５９】

サブスクリーン装飾基板４７７は、サブスクリーン４７２の裏面側に、サブスクリーン４７２との間に隙間が形成されるように取付けられており、前面側（サブスクリーン４７２を向いている側）に複数のＬＥＤ４７７ａが実装されている。サブスクリーン装飾基板４７７は、外形がサブスクリーン装飾部材４７６よりも小さく形成されており、表面が白色とされている。このサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させることで、サブスクリーン装飾部材４７６及びサブスクリーン４７２を発光装飾させることがで

きる。詳述すると、サブスクリーン装飾基板４７７は、ＬＥＤ４７７ａを発光させることで、ドクロの「目」の部分と「ＰＵＳＨ」の文字の部分とを、強く発光装飾させることができる。

【０３６０】

また、サブスクリーン装飾基板４７７は、サブスクリーン４７２に対して比較的接近させて配置していると共に、サブスクリーン４７２との間に光を拡散させる部材を備えていないことから、ＬＥＤ４７７ａを発光させると、ＬＥＤ４７７ａの点光源を遊技者が認識することができるようになっている。更に、サブスクリーン装飾基板４７７は、プロジェクタ５００からの光を遮ることができる。従って、プロジェクタ５００によって、サブスクリーン４７２にサブスクリーン装飾基板４７７の影を投影させることができる。

【０３６１】

周縁装飾部材４７８は、サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａの一部と同じ形状に形成されており、周縁装飾部４７２ａと同様に四角錘状の凹凸が円弧の周方向に複数列設されている。

【０３６２】

上述したように、スクリーンユニット４７０は、メインスクリーン４７１とサブスクリーン４７２のように、互いに異なる二つのスクリーンを備えている。メインスクリーン４７１は、プロジェクタ５００から演出画像が半円筒状の全面に亘って投影され、プロジェクタ５００からの投影により遊技者に注目される演出画像の表示を目的としている。一方、サブスクリーン４７２は、プロジェクタ５００からの演出画像が、裏側中央のサブスクリーン装飾基板４７７の存在により、中央のサブスクリーン装飾部材４７６の周囲を形成している狭い範囲（メインスクリーン４７１よりも狭い範囲）に投影され、サブスクリーン装飾部材４７６の周囲を華やかに彩る演出画像の表示を目的としていると共に、ＬＥＤ４７７ａを用いたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾による遊技者への操作ボタン４１０の押圧操作の促しを目的としている。

【０３６３】

［３－４ｇ－５ｂ．上部軸受部材及び下部軸受部材］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における前方へ開放されている上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆの前側を閉鎖するように、ユニットベース４５１の本体部４５１ａの前面に取付けられるものである。また、上部軸受部材４８０及び下部軸受部材４８５は、ユニットベース４５１の上軸受部４５１ｅ及び下軸受部４５１ｆに、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３及び下軸部材４７４を夫々前方から挿入させた状態で、ユニットベース４５１の前面に取付けることで、上軸部材４７３及び下軸部材４７４を第二ベースユニット４５０に対して回転可能に取付けることができる。

【０３６４】

上部軸受部材４８０は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の本体部４５１ａの上部に、前方側が開放されている上軸受部４５１ｅの前方側を閉鎖するように取付けられる軸受部材４８１と、軸受部材４８１の上部前面に取付けられるフレームトップレンズ装飾基板４８２と、を備えている。軸受部材４８１は、左右方向中央が最も深くなるように、後面から前方へ向かって円弧状に窪んでいる凹部４８１ａを有している。上部軸受部材４８０における軸受部材４８１の凹部４８１ａは、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、スクリーンユニット４７０の上軸部材４７３の軸芯を中心とした円弧状に窪んでおり、内部にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが挿入配置されていると共に、凹部４８１ａの円弧の両端にユニットベース４５１の一対の回動規制部４５１ｇが位置している。この円弧状に窪んだ凹部４８１ａにより、作動ギア部材４７５のストッパ４７５ｂが、一対の回動規制部４５１ｇの間で良好に回動することができる。

【０３６５】

上部軸受部材４８０のフレームトップレンズ装飾基板４８２は、表面側に複数のＬＥＤが実装されており、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に位置している。これにより、フレームトップレンズ装飾基板４８２のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を発光装飾させることができる。

【０３６６】

下部軸受部材４８５は、略平板状に形成されており、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における本体部４５１ａの前面に、下軸受部４５１ｆの前方を閉鎖するように取付けられる。スクリーンユニット４７０の下軸部材４７４を、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の下軸受部４５１ｆに挿入させた状態で、下部軸受部材４８５をユニットベース４５１の前面に取付けることで、下軸部材４７４を回転可能に取付けることができる。

【０３６７】

［３－４ｇ－５ｃ．回動駆動ユニット］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの回動駆動ユニット４９０について、主に図７０及び図７１を参照して詳細に説明する。回動駆動ユニット４９０は第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の上面に取付けられ、スクリーンユニット４７０を回動駆動させることができるものである。回動駆動ユニット４９０は、ユニットベース４５１の上面に取付けられ内部が中空のユニットケース４９１と、ユニットケース４９１の下面に取付けられており回転軸がユニットケース４９１内に突出している切替駆動モータ４９２と、切替駆動モータの回転軸に固定されている平歯車状の駆動ギア（図示は省略）と、駆動ギアと噛合しておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第一伝達ギア（図示は省略）と、第一伝達ギアと噛合していると共にスクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５ａと噛合可能とされておりユニットケース４９１内に回転可能に取付けられている平歯車状の第二伝達ギア４９５と、を備えている。

【０３６８】

回動駆動ユニット４９０は、第二演出操作ユニット４００Ａに組立てた状態で、第二伝達ギア４９５が、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５のギア歯４７５ａと噛合している。回動駆動ユニット４９０は、切替駆動モータ４９２を回転駆動させることで、駆動ギア、第一伝達ギア、第二伝達ギア４９５、及びギア歯４７５ａを介してスクリーンユニット４７０を前後に延びた軸周りに回動させることができる。

【０３６９】

［３－４ｇ－５ｄ．プロジェクタ］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ５００について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ５００は、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の半球状のカバー部４５１ｂ内に配置されており、プロジェクタ取付部材５０５を介してユニットベース４５１の後側に取付けられている。プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２へ向かって演出画像を照射することで、メインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２に演出画像を投影表示させることができる。

【０３７０】

プロジェクタ５００は、プロジェクタ取付部材５０５に取付けられる立方体状のプロジェクタ本体５０１と、プロジェクタ本体５０１から円柱状に前方へ突出しており前端から演出画像を前方へ照射するレンズ部５０２と、を備えている。

【０３７１】

このプロジェクタ５００は、プロジェクタ本体５０１の後部がプロジェクタ取付部材５０５に取付けられ、レンズ部５０２及びプロジェクタ本体５０１が、ユニットベース４５１の貫通口４５１ｃを後側から通って、カバー部４５１ｂ内に配置されるように取付けられる。

【０３７２】

プロジェクタ５００は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２の略前面に亘って演出画像を投影させることができ、演出画像として、静止画や動画を投影表示させることができる。このプロジェクタ５００は、市販の液晶型プロジェクタとされており、自動焦点機能を有している。

【０３７３】

［３－４ｇ－５ｅ．プロジェクタ取付部材］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ取付部材５０５について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。プロジェクタ取付部材５０５は、前方が開放された箱状に形成されており、内部にプロジェクタ５００が取付けられると共に、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられるものである。このプロジェクタ取付部材５０５は、第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１の後側に取付けられることで、ユニットベース４５１のカバー部４５１ｂ及びプロジェクタ５００の後側を覆うことができる。

【０３７４】

プロジェクタ取付部材５０５は、底壁が水平方向に延びていると共に、後壁が垂直方向に延びており、プロジェクタ５００を、操作ボタン４１０の傾きと一致するように傾斜させた状態で取付けることができる。プロジェクタ取付部材５０５の後壁には、前後に貫通している複数のスリット５０５ａが形成されており、プロジェクタ５００から放出される熱を、スリット５０５ａを通して外部へ排出させることができる。

【０３７５】

プロジェクタ取付部材５０５の正面視右側面には、第二演出操作ユニット中継基板５１５及び中継基板カバー５１６が取付けられる。

【０３７６】

［３－４ｇ－５ｆ．上部カバー及び回転検知センサ］

扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの上部カバー５０６及び回転検知センサ５０７について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。上部カバー５０６は、スクリーンユニット４７０の作動ギア部材４７５の上方を覆うように、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の本体部４５１ａの上面に取付けられている。回転検知センサ５０７は、スクリーンユニット４７０の回転位置を検知するためのものであり、上部カバー５０６の下面に、互いに離間している状態で二つ取付けられている。

【０３７７】

二つの回転検知センサ５０７は、詳細な図示は省略するが、スクリーンユニット４７０の回転軸を中心にして周方向へ互いに９０度の回転角度離れた位置に取付けられており、スクリーンユニット４７０における作動ギア部材４７５の検知片４７５ｃを検知することができる。具体的には、二つの回転検知センサ５０７は、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１が前方を向いている第一位置の時の検知片４７５ｃと、サブスクリーン４７２が前方を向いている第二位置の時の検知片４７５ｃと、を夫々検知することができる。これら二つの回転検知センサ５０７による検知片４７５ｃの検知信号に基づいて、回動駆動ユニット４９０の切替駆動モータ４９２の回転駆動が制御されている。

【０３７８】

［３－４ｇ－６．緩衝ユニット］

第二演出操作ユニット４００Ａの緩衝ユニット５１０について、主に図７０及び図７１等を参照して詳細に説明する。緩衝ユニット５１０は、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａの下面に取付けられており、上方から第二演出操作ユニット４００Ａが叩かれたりした時の衝撃を緩和させて、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉに伝達させるものである。

【０３７９】

緩衝ユニット５１０は、上面が扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるプロジェクタ取付部材５０５の下面に接触している弾性変形可能な平板状の緩衝部材５１１と、緩衝部材５１１の下面に当接しておりプロジェクタ取付部材５０５の下面に対して相対的に接近

可能に取付けられている緩衝ベース５１２と、を備えている。
【０３８０】
緩衝ユニット５１０の緩衝ベース５１２は、緩衝部材５１１の下面と当接する平板状の本体部５１２ａと、本体部５１２ａの正面視左右両端辺から下方へ突出していると共に前後方向に延びている脚片部５１２ｂと、を備えている。緩衝ベース５１２の脚片部５１２ｂは、扉枠３に組立てた状態で、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面に接触している。
【０３８１】
この緩衝ユニット５１０は、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、ベースユニット４３０に取付けられているプロジェクタ取付部材５０５が、緩衝ユニット５１０における緩衝部材５１１を圧縮するように下方へ移動する。この緩衝部材５１１が圧縮されることで衝撃が吸収される。そして、プロジェクタ取付部材５０５が更に下方へ移動した場合、プロジェクタ取付部材５０５の下面が緩衝ベース５１２の本体部５１２ａの上面側に当接する。この本体部５１２ａは、左右の脚片部５１２ｂによって、皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に隙間が形成されているため、本体部５１２ａの上面側に当接しているプロジェクタ取付部材５０５が更に下方へ移動すると、平板状の本体部５１２ａが撓むこととなり、本体部５１２ａの撓みによっても衝撃を吸収することができる。更に、プロジェクタ取付部材５０５が下方へ移動した場合、下方へ撓んでいる本体部５１２ａの下面が、皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面に当接し、本体部５１２ａのこれ以上の撓みが規制され、衝撃が皿ユニットカバー３２６に伝達されることとなる。このように、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を上方から強く叩かれた時に、その衝撃を多段階で吸収させることができ、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させて、それらの破損を防止することができる。
【０３８２】
［３－４ｇ－７．第二演出操作ユニットの作用効果］
第二演出操作ユニット４００Ａの作用効果について、主に図７４乃至図７７等を参照して詳細に説明する。図７４（ａ）はスクリーンユニットのメインスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図であり、（ｂ）はスクリーンユニットのサブスクリーンを前方へ向けた状態で操作ボタンの中心軸が延びている方向から第二演出操作ユニットを見た説明図である。また、図７５（ａ）は図７４（ａ）におけるＪ－Ｊ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図７４（ｂ）におけるＫ－Ｋ線で切断した断面図である。図７６（ａ）はメインスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。図７７（ａ）はサブスクリーンを前方へ向けた状態で第二演出操作ユニットを操作ボタンの中心軸の延びている方向から見た図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図であり、（ｂ）は（ａ）の状態の第二演出操作ユニットの断面図において操作ボタンの第一ボタン装飾部やボタンフレーム等によって隠そうとしている部位を示す説明図である。
【０３８３】
本実施形態の第二演出操作ユニット４００Ａは、遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球が打込まれることで変化する遊技状態に応じて、操作ボタン４１０内の装飾を変化させたり、操作ボタン４１０内に演出画像を表示させたりして遊技者を楽しませることができると共に、遊技者に操作ボタン４１０の操作をさせて、遊技者に提示した演出に遊技者を参加させることができるものである。
【０３８４】

第二演出操作ユニット４００Ａは、全高が、扉枠３の扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の貫通口１１１の下側の部位の高さと略同じ高さに形成されている。また、第二演出操作ユニット４００Ａは、全幅が、扉枠３の全幅の１／３よりも若干大きく形成されている。第二演出操作ユニット４００Ａは、正面視において、遊技領域５ａ（扉枠ベース１１０の貫通口１１１）の下側で左右方向の中央に配置されている。

【０３８５】

第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の上部が、皿ユニット３２０における皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられている。第二演出操作ユニット４００Ａは、皿ユニット３２０に取付けた状態で、緩衝ユニット５１０の緩衝ベース５１２の脚片部５１２ｂの下端と、皿ユニット３２０の皿ユニットカバー３２６における底板部３２６ｉの上面との間に、隙間が形成されている。つまり、第二演出操作ユニット４００Ａは、皿ユニット３２０に対して上部のみが取付けられており、吊下げられた状態に取付けられている。

【０３８６】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５の前面（フレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの前端内周により形成される面）が、演出操作ユニット取付部３２６ａの前端開口の傾斜面と平行になるように取付けられている。これにより、第二演出操作ユニット４００Ａは、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明な操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ（図６７を参照）が、垂直線に対して６３度の角度で、前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している。これにより、本パチンコ機１を用いて遊技を行うために本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、遊技者の頭部が皿ユニット３２０（第二演出操作ユニット４００Ａ）の上方に配置されている遊技盤５における遊技領域５ａの中央の前方に位置するため、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬが、遊技者の頭部付近を通ることとなる。従って、遊技者が遊技領域５ａから第二演出操作ユニット４００Ａ（操作ボタン４１０）に視線を落すと、操作ボタン４１０がその正面視（中心軸線ＣＬと平行な方向からの投影視）に可及的に近い状態で見えることとなり、操作ボタン４１０や操作ボタン４１０内の扉枠側第二演出表示装置４６０Ａ等を良好な状態で視認することができる。

【０３８７】

第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０の四つの筒状のガイドボス部４１３ｃに、第二ベースユニット４５０におけるユニットベース４５１の四つの保持孔４５１ｄ内に保持されているボタンシャフト４５２が夫々摺動可能に挿入されていると共に、図示しない操作ボタンバネにより前方へ付勢されている。第二演出操作ユニット４００Ａは、通常の状態（操作ボタン４１０を押圧操作していない状態）では、操作ボタンバネの付勢力によって、操作ボタン４１０のボタンベース４１３のフランジ部４１３ｂの前端が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の後面における中央開口部４１６ａ付近の部位に当接している。

【０３８８】

第二演出操作ユニット４００Ａは、通常の状態では、操作ボタン４１０におけるボタンフレーム４１２の内周付近から中央側（中心軸線ＣＬ側）が、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している。換言すると、操作ボタン４１０における湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出している透明なボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周（内側）から前方へ突出している部位が、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａから前方へ突出している（図６７等を参照）。

【０３８９】

因みに、本実施形態では、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の中央開口部４１６ａの直径が約１５ｃｍとされており、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬ方向に対してボタンレンズ４１１（の前端）がフレームユニット４１５の前面から約４ｃｍ前方へ突出している。

【０３９０】
通常の状態において、遊技者が第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０を押圧操作すると、操作ボタン４１０は操作ボタンバネの付勢力に抗して中心軸線ＣＬに沿って後方へ移動する。そして、操作ボタン４１０の後端が第二ベースユニット４５０のユニットベース４５１における本体部４５１ａの前面に当接すると、後方への移動が規制されて操作ボタン４１０の後方への移動が停止する。遊技者が操作ボタン４１０を押圧操作する時には、湾曲面状（略球面の一部の形状）に前方へ膨出しているボタンレンズ４１１を押圧する。
【０３９１】
この操作ボタン４１０は、従来のパチンコ機に備えられている演出用の操作ボタンと比較して、外径が非常に大きく形成されているため、ボタンレンズ４１１の中央部分から離れた周縁付近が押圧される可能性が高い。詳述すると、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、その中心軸線が垂直線と略平行に延びるように取付けられているのに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０は、中心軸線ＣＬが垂直線に対して傾いて取付けられているため、遊技者が従来のパチンコ機と同様に上方から操作ボタン４１０を押圧すると、操作ボタン４１０の中心軸線ＣＬから離れた部位を押圧することとなる（図６１を参照）。
【０３９２】
ところで、従来のパチンコ機における演出用の操作ボタンは、遊技者が押圧操作する面が平坦な面に形成されていることから、押圧操作する部位を平坦な面としたまま操作ボタンを大きくした場合、操作ボタンの中央から外れた部位を押圧すると、その押圧された部位が先に後退するように押圧操作する面が傾いてしまい、操作ボタンが真直ぐに後退することができなくなって、操作ボタンを押圧操作することができなくなる虞がある。
【０３９３】
これに対して、本実施形態の第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０は、遊技者が押圧操作する部位（ボタンレンズ４１１）が、前方へ膨出した湾曲面状（略球面の一部の形状）としているため、操作ボタン４１０の中央から離れた位置を押圧操作した場合、その力が操作ボタン４１０の全体に分散されて操作ボタン４１０が傾き難くなり、操作ボタン４１０が真直ぐに後方へ移動することができる。従って、操作ボタン４１０の前面側のどの位置を押圧操作しても、操作ボタン４１０が傾くことなくスムーズに後退することができるため、押圧操作を確実に検知させることができ、操作ボタン４１０を押圧操作する演出を十分に楽しませることができる。
【０３９４】
また、第二演出操作ユニット４００Ａは、装飾基板ユニット４２０における基板ベース４２１の前面下部に振動モータ４２４が取付けられている上で、上述したように、第二演出操作ユニット４００Ａが吊下げられるように上部のみが皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａに取付けられているため、振動モータ４２４により錘４２４ａを回転させて振動を発生させると、取付けられている部位から最も離れた部位で振動が発生することから、第二演出操作ユニット４００Ａ全体を大きく（強く）振動させることができ、第二演出操作ユニット４００Ａに触れている遊技者に対して振動を伝達させることができる。また、振動モータ４２４を、比較的遊技者が押圧操作し易い位置（操作ボタン４１０の上部付近）の直下に配置しているため、操作ボタン４１０を押圧操作している遊技者に対して強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて演出を楽しませることができる。
【０３９５】
更に、第二演出操作ユニット４００Ａは、吊下げられたような状態で皿ユニットカバー３２６に取付けられていると共に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのプロジェクタ取付部材５０５と皿ユニットカバー３２６の底板部３２６ｉの上面との間に、緩衝ユニット５１０を配置している。この緩衝ユニット５１０は、弾性変形可能な緩衝部材５１１を備えていると共に、緩衝部材５１１が上面に当接している本体部５１２ａと皿ユニットカバー

３２６の底板部３２６ｉとの間に隙間を形成しているため、操作ボタン４１０やフレームユニット４１５を強く下方へ押圧したり叩いたりした時に、その衝撃を緩衝部材５１１の弾性変形（圧縮）や、緩衝ベース５１２の本体部５１２ａの撓み等によって多段階に吸収することができ、フレームユニット４１５の取付部４１６ｅや皿ユニットカバー３２６の演出操作ユニット取付部３２６ａ等に無理な力が作用するのを回避させることができ、第二演出操作ユニット４００Ａ等の破損を防止することができる。従って、第二演出操作ユニット４００Ａの操作ボタン４１０を押圧操作する演出を遊技者に提示した時等に、強い力で操作ボタン４１０やフレームユニット４１５が押圧操作されたり叩かれたりしても、操作ボタン４１０や第二演出操作ユニット４００Ａ等が破損することはないため、破損による遊技の中断を回避させることができ、遊技者の興趣の低下を抑制させることができると共に、破損し難くすることで遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０３９６】

なお、遊技者が押圧操作する操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１を、前方へ突出している湾曲面状（略球面の一部の形状）に形成しているため、平板状とした場合と比較して強度・剛性が高くなっていると共に、強く叩かれても、その衝撃をボタンレンズ４１１全体へ分散させることができ、破損し難くなっている。

【０３９７】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、ボタンレンズ４１１、フレームサイドレンズ４１７、及びフレームトップレンズ４１８が、透明な部材で構成されているため、それらの裏面側に形成されている第一ボタン装飾部４１１ａ、及び第二ボタン装飾部４１１ｂ等の凹凸による装飾が、前方側（遊技者側）から視認することができる（図６３を参照）。また、それら凹凸の装飾が形成されている部位では、板厚が変化していることら光が複雑に屈折するため、凹凸の装飾が形成されている部位を通しては後側が視認し難くなっている。

【０３９８】

第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０のボタンレンズ４１１におけるボタンフレーム４１２の内周から中央側へ延びている第一ボタン装飾部４１１ａを備えているため、この第一ボタン装飾部４１１ａの複数の三角形を組合せた凹凸の装飾によりボタンレンズ４１１の内側となる部位の外周縁の部位において後方を見え辛くすることができる。第一ボタン装飾部４１１ａが形成されている部位の後方（中心軸線ＣＬ方向の後方）には、操作ボタン４１０のボタンベース４１３の本体部４１３ａの内周面と、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０の外周との間の隙間が位置しているが、その隙間の前方に位置する第一ボタン装飾部４１１ａによって前方側（遊技者側）から、スクリーンユニット４７０の外側や後側の部材を見え難くすることができる。これにより、押圧操作可能な操作ボタン４１０内に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを備えても、操作ボタン４１０の見栄えの悪化を防止することができ、操作ボタン４１０を見た遊技者が不快感を抱くのを防止することができると共に、透明な操作ボタン４１０内に扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを問題なく配置することができ、操作ボタン４１０の見栄えを良くすることができる。

【０３９９】

詳述すると、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０におけるボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２によって、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるメインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２等の外周よりも外側で後方側（奥側）にある第二ベースユニット４５０、上軸部材４７３及び下軸部材４７４等が、透明なボタンレンズ４１１を通して遊技者側から見えないように形成されている。具体的には、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態では、メインスクリーン４７１の上下外側、サブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａの左外側、及び周縁装飾部材４７８の右外側の部位（図７６において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。

【０４００】
一方、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態では、サブスクリーン４７２の円環状の周縁装飾部４７２ａの外側の部位（図７６において、一点鎖線で囲んだクロスハッチの部位）が、遊技者側から見えないようにしている。このように、操作ボタン４１０に第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等を備えているため、メインスクリーン４７１やサブスクリーン４７２の外側や奥側を見え難くして隠すことができ、操作ボタン４１０、ひいては、第二演出操作ユニット４００Ａ全体の見栄えを良くすることができる。
【０４０１】
また、メインスクリーン４７１が前方を向いている第一位置の状態では、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等によって、サブスクリーン４７２のスクリーン一般部４７２ｂ及びサブスクリーン装飾部材４７６や、上軸部材４７３及び下軸部材４７４が、見え難くなっている（図７６を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン４７２の存在や、メインスクリーン４７１が回転可能であること等に、気付き難くなるため、スクリーンユニット４７０を回転させてメインスクリーン４７１からサブスクリーン４７２に切替えると、操作ボタン４１０内において遊技者の予想を超えた動きが行われることで遊技者に強いインパクトを与えることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。
【０４０２】
更に、サブスクリーン４７２が前方を向いている第二位置の状態では、ボタンレンズ４１１の第一ボタン装飾部４１１ａ、第二ボタン装飾部４１１ｂ、及びボタンフレーム４１２等によって、上軸部材４７３及び下軸部材４７４が見え難くなっている（図７７を参照）。これにより、遊技者が、サブスクリーン４７２（サブスクリーン装飾部材４７６）が回転可能であることに気付き難くなるため、サブスクリーン４７２（スクリーンユニット４７０）を回転させた時のインパクトを高めることができ、遊技者を楽しませることができる。
【０４０３】
また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０における後側に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを視認することができるボタンレンズ４１１において、ボタンフレーム４１２の内周から中心側へ所定幅の範囲内に、複数の三角形状の面を組合せた多面体状の第一ボタン装飾部４１１ａを備えていると共に、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａに、複数の四角錘を列設したサブスクリーン４７２の周縁装飾部４７２ａや、周縁装飾部材４７８を備えている。これにより、前側に配置された三角形からなる装飾（第一ボタン装飾部４１１ａ）と後側に配置された四角形からなる装飾（周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８）とが、交差するように重なって見えることとなり、複雑な幾何学模様を遊技者に見せることができ、見栄えを良くして遊技者の興趣の低下を抑制させることができる。
【０４０４】
また、上述したように、三角形を主体とした第一ボタン装飾部４１１ａと、四角形を主体とした周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８とが、前後方向に離れているため、遊技者の目の位置が移動すると、それらの重なり具合が変化するため、重なって見える幾何学模様が変化して動きのある装飾を遊技者に見せることができると共に、奥行きのある立体的な感じの装飾を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。
【０４０５】
更に、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａでは、切替駆動モータ４９２の駆動によりスクリーンユニット４７０を回動させてメインスクリーン４７１を前方へ向けたり、サブスクリーン４７２を前方へ向けたりすることができ、複数の四角形からなる装飾を変化させることができる。詳述すると、メインスクリーン４７１を前方へ向けた状態では、図７４（ａ）に示すように、周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８が左右に離間して上下に延びている状態となり、上下に列設された

複数の四角錘からなる装飾が、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１ａの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾を縦断しているような幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。一方、サブスクリーン４７２を前方へ向けた状態では、図７４（ｂ）に示すように、周縁装飾部４７２ａが円環状の延びている状態となり、環状に列設された複数の四角錘からなる装飾が、ボタンレンズ４１１における第一ボタン装飾部４１１ａの円環状に列設された複数の三角形からなる装飾と重なった幾何学模様の装飾を遊技者に見せることができる。従って、スクリーンユニット４７０を回動させることで、操作ボタン４１０の装飾（物理的な装飾）を変化させることができるため、装飾の変化によって遊技者の関心を操作ボタン４１０に引付けたり、装飾の変化によって遊技者にチャンスの到来等を示唆させたりすることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０４０６】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０内に備えられている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａに、切替可能な形態の異なるスクリーン（メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２）を有したスクリーンユニット４７０と、スクリーンユニット４７０に演出画像を投影表示させるプロジェクタ５００と、を備えているため、液晶表示装置による演出画像の表示とは全く異なる演出画像を表示させることができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。詳述すると、スクリーンユニット４７０は、半円筒状のメインスクリーン４７１と、円盤状で中央にレリーフ状のサブスクリーン装飾部材４７６を有するサブスクリーン４７２とが、上軸部材４７３及び下軸部材４７４の中心軸を中心として９０度の回転角度周方向へ離間して備えられている。

【０４０７】

そして、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおいて、スクリーンユニット４７０のメインスクリーン４７１を前方へ向けた第一位置の状態では、半円筒状の中心軸が左右方向へ延びるように位置しており、正面から見ると上下に延びた四角形（長方形）に見える（図７４（ａ）を参照）。このメインスクリーン４７１の後方に配置されているプロジェクタ５００から演出画像を前方へ照射すると、その演出画像がメインスクリーン４７１の後面に投影され（図７５（ａ）を参照）、透光性を有する乳白色のメインスクリーン４７１を通して、前方側から投影された演出画像を視認することができる。このメインスクリーン４７１は、表面が滑らかな半円筒状に形成されていることから、演出画像が表示画面も半円筒状に湾曲している。これにより、一般的な液晶表示装置の表示画面が平面であるのに対して、メインスクリーン４７１の表示画面が半円筒状に湾曲しているため、遊技者に対して一見して従来の表示画面とは異なるものであることを認識させることができ、遊技者を驚かせることができると共に、遊技者をメインスクリーン４７１に注目させることができ、メインスクリーン４７１に投影表示される演出画像を楽しませることができる。

【０４０８】

一方、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた第二位置の状態では、円盤状の中心軸が操作ボタン４１０の中心軸と略一致しており、正面から見ると円形の操作ボタン４１０の中央にドクロを模したサブスクリーン装飾部材４７６が位置した状態に見える（図７４（ｂ）を参照）。この状態で後方に配置されているプロジェクタ５００から前方へ演出画像を照射すると、その演出画像がサブスクリーン４７２の後面に投影される。ところで、サブスクリーン４７２の後側には平板状で不透光性のサブスクリーン装飾基板４７７が取付けられているため、このサブスクリーン装飾基板４７７の部位ではプロジェクタ５００から照射された演出画像（光）が遮られることとなり、サブスクリーン４７２の後面の中央部分には、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されることとなる（図７５（ｂ）を参照）。従って、サブスクリーン４７２では、サブスクリーン装飾基板４７７の影が投影される中央部分を除いた外周の部分に、プロジェクタ５００からの演出画像が投影表示される。この際に、サブスクリーン装飾基板４７７の前面に実装されているＬＥＤ４７７ａを発光させると、その光によってサブスクリーン４７２の中央部分を発光装飾させることができ、サブスクリーン４７２の中央に備えられているサブス

クリーン装飾部材４７６を発光装飾させることができる。また、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させることで、プロジェクタ５００からの光によりサブスクリーン４７２の後面に投影されるサブスクリーン装飾基板４７７の影を見え難くすることができ、サブスクリーン４７２の前面側全体を明るく発光装飾させることができる。

【０４０９】

この扉枠側第二演出表示装置４６０Ａは、スクリーンユニット４７０のサブスクリーン４７２を前方へ向けた状態で、サブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａを発光させると共に、プロジェクタ５００から前方へ演出画像（動画）を照射させると、サブスクリーン４７２におけるサブスクリーン装飾基板４７７の影が投影されていない部位、つまり、ドクロを模した装飾からなるサブスクリーン装飾部材４７６の外側の部位に、演出画像が表示され、演出画像の内側となるサブスクリーン装飾部材４７６がサブスクリーン装飾基板４７７のＬＥＤ４７７ａによって発光装飾される。この状態では、固定されたサブスクリーン装飾部材４７６の発光装飾の外側が、演出画像（動画）によって装飾されることとなり、これまでのパチンコ機における装飾部材の発光装飾とは全く異なった装飾演出を遊技者に見せることができ、遊技者に強いインパクトを与えることができると共に、サブスクリーン４７２に対して遊技者を強く注目させることができる。また、この状態では、演出画像の内側において、ＬＥＤ４７７ａの光が、演出画像の明るさよりも明るく（高輝度で）輝くため、従来の液晶表示装置では成し得ない部分的に高輝度な演出画像を表示させることができ、遊技者の関心を強く引付けることができると共に、遊技者をより楽しませられる演出画像を表示させることができる。

【０４１０】

また、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａでは、プロジェクタ５００から前方へ演出画像を照射させた状態で、前方へ向いているスクリーンを適宜方向へ回転させて、メインスクリーン４７１からサブスクリーン４７２に変更したり、サブスクリーン４７２からメインスクリーン４７１に変更したりすると、メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２が回転している途中では、メインスクリーン４７１及びサブスクリーン４７２におけるプロジェクタ５００の投影範囲に位置している部位に、演出画像が投影表示される。つまり、演出画像が、メインスクリーン４７１とサブスクリーン４７２とに跨るように表示される。従って、メインスクリーン４７１からサブスクリーン４７２にゆっくり変更させると、プロジェクタ５００から投影されている演出画像上に、周縁装飾部４７２ａやサブスクリーン装飾部材４７６が回転移動してくるような不思議な視覚演出を遊技者に見せることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０４１１】

このように、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０の第一ボタン装飾部４１１ａと扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおけるスクリーンユニット４７０の装飾（周縁装飾部４７２ａ及び周縁装飾部材４７８）とによって、動きがあり立体感のある装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４１２】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０内（ボタンフレーム４１２の内側）の後方には、前面にＬＥＤ４７７ａが実装されているサブスクリーン装飾基板４７７や前方へ演出画像等の光を照射可能なプロジェクタ５００を有する扉枠側第二演出表示装置４６０Ａを備えており、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａによって操作ボタン４１０内を良好に発光装飾させることができる。

【０４１３】

また、第二演出操作ユニット４００Ａ、操作ボタン４１０の外周付近に位置するボタンフレーム４１２のフレーム開口部４１２ａから臨む第二ボタン装飾部４１１ｂの後方に、装飾基板ユニット４２０における操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａが配置されており、それら第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａを発光させることで、操作ボタン４１０の六つの第二ボタン装飾

部４１１ｂを発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第一ＬＥＤ４２２ａ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第一ＬＥＤ４２３ａは、図６８に示すように、操作ボタン４１０のボタンベース４１３における筒状の本体部４１３ａと、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとの間に位置しており、第一ＬＥＤ４２２ａ，４２３ａからの光が本体部４１３ａの内側や内側筒部４１６ｄの外側へ漏れることはなく、操作ボタン４１０の第二ボタン装飾部４１１ｂのみを良好に発光装飾させることができる。

【０４１４】

更に、第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５におけるフレーム本体４１６の六つの外周開口部４１６ｂから臨むフレームサイドレンズ４１７の後方に、操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂが配置されており、それら第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂを発光させることでフレームサイドレンズ４１７を発光装飾させることができる。操作ボタン左外装飾基板４２２の第二ＬＥＤ４２２ｂ及び操作ボタン右外装飾基板４２３の第二ＬＥＤ４２３ｂは、フレームユニット４１５のフレーム本体４１６における筒状の内側筒部４１６ｄとフレーム本体４１６の外周との間に位置しており、第二ＬＥＤ４２２ｂ，４２３ｂからの光が内側筒部４１６ｄの内側やフレーム本体４１６の外側へ漏れることはなく、フレームユニット４１５のフレームサイドレンズ４１７のみを良好に発光装飾させることができる。

【０４１５】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、フレームユニット４１５のフレームトップレンズ４１８の後方に、扉枠側第二演出表示装置４６０Ａにおける上部軸受部材４８０のフレームトップレンズ装飾基板４８２が配置されており、フレームトップレンズ装飾基板４８２の前面に実装されている複数のＬＥＤを発光させることで、フレームトップレンズ４１８を良好に発光装飾させることができる。

【０４１６】

また、第二演出操作ユニット４００Ａは、操作ボタン４１０の内側後方に配置されている扉枠側第二演出表示装置４６０Ａのスクリーンユニット４７０を回動させることで、互いに形態の異なる表示画面を有したメインスクリーン４７１又はサブスクリーン４７２に切替えて演出画像を表示させることができ、表示画面の形状が変化する（切替わる）と言う従来のパチンコ機で有りえない演出を遊技者に提示することができ、遊技者に強いインパクトを与えて楽しませることができる。

【０４１７】

［３－５．扉枠左サイドユニット］

扉枠３の扉枠左サイドユニット５３０について、主に図７８乃至図８１を参照して詳細に説明する。図７８（ａ）は扉枠における扉枠左サイドユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠左サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠左サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図７９は扉枠左サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８０は扉枠左サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図８１は図７８（ａ）におけるＬ－Ｌ線で切断した断面図である。扉枠左サイドユニット５３０は、皿ユニット３２０の上側で扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２（扉枠左サイド装飾基板１６０）の前側を覆うように扉枠ベースユニット１００における貫通口１１１よりも左側の前面左部に取付けられるものである。扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠ベース１１０の貫通口１１１の正面視左側を装飾するためのものである。

【０４１８】

扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視左側に取付けられる上下に延びた帯板状の左ユニットベース５３１と、左ユニットベース５３１の前面に取付けられている透明な帯板状の左ユニット拡散レンズ部材５３２と、左ユニット拡散レンズ部材５３２の前方に配置されており前

端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する左ユニット装飾レンズ部材（図示は省略）と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース５３１の前面上部に取付けられており前方へ筒枠状に突出していると共に上下に延びている左ユニット上装飾ベース５３４と、左ユニット装飾レンズ部材の前側から左ユニットベース５３１の前面下部に取付けられており左ユニット上装飾ベース５３４よりも短く前方へ枠状に突出している左ユニット下装飾ベース５３５と、左ユニット上装飾ベース５３４及び左ユニット下装飾ベース５３５の前側から左ユニット装飾レンズ部材の前端側を覆うように左ユニットベース５３１の前側に取付けられている透明な左ユニット装飾カバー５３６と、左ユニット装飾カバー５３６の前側に取付けられている複数の飾り部材５３７と、を備えている。

【０４１９】

扉枠左サイドユニット５３０の左ユニットベース５３１は、後側が開放された浅い箱状に形成されており、前面に前後に貫通している複数の開口部５３１ａを有している。複数の開口部５３１ａは、図示するように、円形状の穴と、上下に延びた四角形状の穴とがある。左ユニットベース５３１は、扉枠左サイド装飾基板１６０（扉枠左サイド上装飾基板１６１及び扉枠左サイド下装飾基板１６２）の前面に実装されているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが、複数の開口部５３１ａから前方へ臨むように、扉枠ベース１１０の前面左側に取付けられる。左ユニットベース５３１の各開口部５３１ａは、扉枠３に組立てた時に、扉枠左サイド装飾基板１６０の各ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが上下方向の略中央に位置するように夫々形成されている。この左ユニットベース５３１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４２０】

左ユニット拡散レンズ部材５３２は、透明な部材によって形成されており、上拡散レンズ部材５３２Ａと下拡散レンズ部材５３２Ｂとに上下に分割されている。左ユニット拡散レンズ部材５３２は、左ユニットベース５３１における円形状の開口部５３１ａと対応している正面視円形の円形レンズ部５３２ａと、四角形状の開口部５３１ａと対応している正面視四角形の角形レンズ部５３２ｂと、を備えている。扉枠左サイドユニット５３０は、扉枠３に組立てた状態で、円形レンズ部５３２ａ及び角形レンズ部５３２ｂの中央の直後に、扉枠左サイド装飾基板１６０の夫々のＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが位置するように形成されている。

【０４２１】

左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａは、前面及び後面が滑らかな凸レンズ状に形成されている。この円形レンズ部５３２ａによって、後方に配置されているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａからの光を、点状のまま前方へ照射させることができる。この円形レンズ部５３２ａから前方へ照射された光によって、左ユニット装飾レンズ部材の円形装飾部を発光装飾させることができる。

【０４２２】

左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂは、前面中央において円錐状に後方へ窪んだ中央拡散反射部５３２ｃと、前面における中央拡散反射部５３２ｃの外側に形成されている前面拡散レンズ部５３２ｄと、後面中央（中央拡散反射部５３２ｃの直後）において湾曲面状に後方へ膨出している入力レンズ部５３２ｅと、後面における入力レンズ部５３２ｅの外側で全体的に入力レンズ部５３２ｅから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜している前方反射部５３２ｆと、を備えている。

【０４２３】

角形レンズ部５３２ｂの前面拡散レンズ部５３２ｄは、中央拡散反射部５３２ｃを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。更に詳述すると、前面拡散レンズ部５３２ｄは、半径方向に沿って切断した時の断面形状に、溝の部分が後方へ円弧状に窪んでおり、溝と溝の間の山の部分が前方へ円弧状に膨出しており、前面が滑らかな波状に形成されている。また、前面拡散レンズ部５３２ｄは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。

【０４２４】
角形レンズ部５３２ｂの前方反射部５３２ｆは、入力レンズ部５３２ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら複数の溝は、後方から前方へ向かってＶ字状に窪んでおり、最深部が円弧状に形成されている。前方反射部５３２ｆは、半径方向に沿って切断した時の断面形状が、溝と溝との間の山の部分が後方へ尖った三角形状に形成されており、鋸状に形成されている。前方反射部５３２ｆは、中心から遠ざかるに従って溝及び山の部分が前方へ移動するように形成されている。また、前方反射部５３２ｆは、周方向へ分割している放射状に延びた線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に位置するように形成されている。この周方向へ分割している放射状に延びた線は、前面拡散レンズ部５３２ｄにおける放射状に延びた分割線と一致している。

【０４２５】
この角形レンズ部５３２ｂは、扉枠３に組立てた状態で、入力レンズ部５３２ｅの直後に、扉枠左サイド装飾基板１６０の対応しているＬＥＤ１６１ａ，１６２ａが位置している。

【０４２６】
角形レンズ部５３２ｂは、ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａから前方へ照射された光が、入力レンズ部５３２ｅから角形レンズ部５３２ｂ内に入力される。この入力レンズ部５３２ｅは、後方へ湾曲面状（凸レンズ状）に膨出していることから、ＬＥＤ１６１ａ，１６２ａから前方へ広がる光を、前方へ平行に進むように屈折させて、入力された光の略全てを円錐状の中央拡散反射部５３２ｃへ導くことができる。そして、中央拡散反射部５３２ｃへ導かれた光は、中央拡散反射部５３２ｃの傾斜している円錐面により、前後に延びた軸線に対して直角方向（扉枠左サイド装飾基板１６０の前面と平行な方向）へ拡散するように反射させられ、角形レンズ部５３２ｂ内をその前面に沿って中央側から外側へ向かって進むこととなる。また、中央拡散反射部５３２ｃで反射した光は、角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚さ全体に亘って、中央側から外側（中央拡散反射部５３２ｃの中心線から遠ざかる方向）へ進む。

【０４２７】
角形レンズ部５３２ｂ内を扉枠左サイド装飾基板１６０の前面と略平行に中央側から外側へ向かって反射した光が、鋸状の前方反射部５３２ｆに到達すると、前方反射部５３２ｆの面により前方側へ反射する。この際に、前方反射部５３２ｆは、後面が中央拡散反射部５３２ｃから遠ざかるに従って前方へ移動するように傾斜していることから、角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚が、中央から遠ざかるに従って薄くなっている（図８１を参照）。これにより、中央拡散反射部５３２ｃにおいて角形レンズ部５３２ｂの前後方向の厚さ全体に亘って外側へ向かって反射している光を、中心側から外側へ向かうに従って、前方反射部５３２ｆにより順次前方へ反射させることができる。

【０４２８】
そして、前方反射部５３２ｆにより前方へ向かって反射させられた光は、前面拡散レンズ部５３２ｄを通って角形レンズ部５３２ｂから前方へ照射される。この際に、前面拡散レンズ部５３２ｄは、断面が波状に形成されているため、前方反射部５３２ｆで前方へ向かって反射させられた光を様々な方向へ拡散させることができ、角形レンズ部５３２ｂの前面から略均一に光を前方（左ユニット装飾レンズ部材の後面）へ照射させることができる。

【０４２９】
この角形レンズ部５３２ｂは、前面拡散レンズ部５３２ｄ及び前方反射部５３２ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、角形レンズ部５３２ｂの前面から前方へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を前方へ照射させることができる。これにより、左ユニット装飾レンズ部材における角形レンズ部

５３２ｂの前方の多面装飾部を略均一に発光装飾させることができる。

【０４３０】

図示しない左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット装飾カバー５３６の前面に沿うように形成されている。左ユニット装飾レンズ部材は、左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａの前方の位置する部位に形成されている円形装飾部と、左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂの前方に位置する部位に形成されている多面装飾部と、を備えている。円形装飾部は、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部は、上下に延びた直方体の前面に四角錘状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。円形装飾部及び多面装飾部は、扉枠右サイドユニット５５０における右ユニット装飾レンズ部材５６１の円形装飾部５６１ａ及び多面装飾部５６１ｂと、同じ形状に形成されている。

【０４３１】

左ユニット装飾レンズ部材は、透明な左ユニット装飾カバー５３６を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。また、左ユニット装飾レンズ部材は、円形装飾部が左ユニット拡散レンズ部材５３２の円形レンズ部５３２ａから前方へ照射された光により、多面装飾部が左ユニット拡散レンズ部材５３２の角形レンズ部５３２ｂから前方へ照射された光により、夫々発光装飾させられる。

【０４３２】

左ユニット上装飾ベース５３４は、正面視の形状が上下に延びた四角形で、前後に延びた角筒状に形成されている。左ユニット上装飾ベース５３４は、外周における下面を構成する部位が、前端側から後端側へ向かうに従って下方へ突出するように傾斜しており、その部位の下部が前後に貫通している。この左ユニット上装飾ベース５３４は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４３３】

左ユニット下装飾ベース５３５は、正面視の形状が、上方へ開放されているコ字状に形成されている。左ユニット下装飾ベース５３５は、前端における上下方向略中央から上側が、上方へ向かうに従って後方へ移動するように後端まで傾斜している。この左ユニット下装飾ベース５３５は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４３４】

左ユニット装飾カバー５３６は、扉枠左サイドユニット５３０の全高に亘って上下に延びている。左ユニット装飾カバー５３６は、上下方向の中間部が後方へ凹むように屈曲しており、左ユニット上装飾ベース５３４の前端に沿うように下部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、左ユニット下装飾ベース５３５の前端に沿うように上部が後方へ折れ曲がっているく字状の部位と、上側のく字状の部位の下端と下側のく字状の部位の上端とを結んでいる直線状の部位と、で構成されている。

【０４３５】

左ユニット装飾カバー５３６は、上下両端が左ユニット上装飾ベース５３４の前面と、左ユニット下装飾ベース５３５の前面とに夫々取付けられる。この左ユニット装飾カバー５３６は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている左ユニット装飾レンズ部材を前方側から視認することができる。

【０４３６】

飾り部材５３７は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で左ユニット装飾カバー５３６の前面に取付けられている。飾り部材５３７は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４３７】

［３－６．扉枠右サイドユニット］

扉枠３の扉枠右サイドユニット５５０について、主に図８２乃至図８６等を参照して詳細に説明する。図８２（ａ）は扉枠における扉枠右サイドユニットの正面図であり、（ｂ

）は扉枠右サイドユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠右サイドユニットを後ろから見た斜視図である。図８３は扉枠右サイドユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８４は扉枠右サイドユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図８５は、図８２（ａ）におけるＭ－Ｍ線で切断した断面図である。図８６（ａ）は図８２（ａ）におけるＮ－Ｎ線で切断した断面図であり、（ｂ）は図８２（ａ）におけるＯ－Ｏ線で切断した断面図である。扉枠右サイドユニット５５０は、皿ユニット３２０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の右側に取付けられるものである。

【０４３８】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前面で貫通口１１１の正面視右側に取付けられる上下に延びた箱状の右ユニットベース５５１と、右ユニットベース５５１の前面に取付けられている扉枠右サイド装飾基板５５２と、扉枠右サイド装飾基板５５２の前側で右ユニットベース５５１の前面における正面視中央より左側に取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット左拡散レンズ部材５５３と、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の左側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット左装飾部材５５４と、右ユニット左装飾部材５５４の左側を覆うように右ユニット左拡散レンズ部材５５３に取付けられている透明平板状の右ユニット左カバー５５５と、を備えている。

【０４３９】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠右サイド装飾基板５５２の前側且つ右ユニット左拡散レンズ部材５５３の正面視右側で右ユニットベース５５１の前面における正面視中央より右側と右ユニット左拡散レンズ部材５５３とに取付けられており上下方向及び前後方向に延びている透明平板状の右ユニット右拡散レンズ部材５５６と、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の右側面に取付けられており装飾が施されているシート状の右ユニット右装飾部材５５７と、右ユニット右装飾部材５５７の右側を覆うように右ユニット右拡散レンズ部材５５６に取付けられている透明平板状の右ユニット右カバーと５５８、を備えている。

【０４４０】

更に、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３と右ユニット右拡散レンズ部材５５６との間に配置されており前方及び右方が開放された上下方向及び前後方向に延びた浅い箱状で不透光性の右ユニット左遮光部材５５９と、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の左側で右ユニット左遮光部材５５９の開放されている右側を閉鎖するように取付けられている不透光性で平板状の右ユニット右遮光部材５６０と、を備えている。

【０４４１】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられており前端部に多面体状の装飾を有している透光性を有する右ユニット装飾レンズ部材５６１と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側と右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端側を覆うように右ユニットベース５５１の前面に取付けられている前後に貫通した枠状の右ユニット装飾ベース５６２と、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖するように右ユニット装飾ベース５６２の前側に取付けられている透明な右ユニットカバー５６３と、右ユニットカバー５６３の前側に取付けられている複数の飾り部材５６４と、を備えている。なお、図示は省略するが、扉枠右サイドユニット５５０は、右ユニットベース５５１を上下に貫通するように取付けられ、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板と、扉枠トップユニット５７０の扉枠トップユニット中継基板５８９とを接続するための接続ケーブルを備えている。

【０４４２】

扉枠右サイドユニット５５０の右ユニットベース５５１は、正面視の形状が上下に長く延びた四角形で、前後に短く角筒状に延びており、前後方向の中央付近が閉鎖された箱状

に形成されている。この右ユニットベース５５１は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４４３】

扉枠右サイド装飾基板５５２は、上下に延びた帯板状に形成されている。扉枠右サイド装飾基板５５２は、前面における左右方向中央より左側に実装されている複数の左ＬＥＤ５５２ａと、前面における左右方向中央より右側に実装されている右ＬＥＤ５５２ｂと、前面における左右方向中央に実装されている複数の中ＬＥＤ５５２ｃと、を備えている。扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３を介して右ユニット左装飾部材５５４を発光装飾させるためのものである。また、右ＬＥＤ５５２ｂは、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を介して右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させるためのものである。中ＬＥＤ５５２ｃは、右ユニット装飾レンズ部材５６１を発光装飾させるためのものである。

【０４４４】

扉枠右サイド装飾基板５５２は、前後両面が白色に形成されている。扉枠右サイド装飾基板５５２は、上側の扉枠右サイド上装飾基板５５２Ａと、下側の扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂとに上下に分割されている。図示は省略するが、扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂは、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板に接続されており、扉枠右サイド上装飾基板５５２Ａは、扉枠右サイド下装飾基板５５２Ｂに接続されている。

【０４４５】

右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５３ａと、本体部５５３ａの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部５５３ｂと、後壁部５５３ｂの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５３ｃと、本体部５５３ａの正面視左面側において右ユニット左装飾部材５５４を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部５５３ｄと、本体部５５３ａの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部５５３ｅと、本体部５５３ａの正面視右面側において各入力レンズ部５５３ｅが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部５５３ｆと、を備えている。

【０４４６】

右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されている。また、本体部５５３ａは、図８６に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視右方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５３ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０４４７】

後壁部５５３ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その右端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５３ｂの右端には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の後壁部５５６ｂの左端が当接する。

【０４４８】

複数の切欠部５５３ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、複数の切欠部５５３ｃから扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨んでおり、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０４４９】

収容凹部５５３ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット左装飾部材５５４の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット左装飾部材５５４を収容することができる。

【０４５０】
複数の入力レンズ部５５３ｅは、本体部５５３ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５３ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５３ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａの直前に夫々位置している。これにより、左ＬＥＤ５５２ａからの光を、本体部５５３ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。

【０４５１】
側面反射部５５３ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５３ｆは、入力レンズ部５５３ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５３ｅに近い側の面が本体部５５３ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５３ｅから遠い側の面が本体部５５３ａの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５３ｆは、入力レンズ部５５３ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５３ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【０４５２】
この右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、扉枠右サイド装飾基板５５２の左ＬＥＤ５５２ａから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５３ｅの後面から右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５３ｅの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により左ＬＥＤ５５２ａからの光が広がるように屈折し、本体部５５３ａ内において、各入力レンズ部５５３ｅを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【０４５３】
本体部５５３ａは、全体が前方へ向かうに従って正面視右方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面に実装されている左ＬＥＤ５５２ａから照射されて入力レンズ部５５３ｅから本体部５５３ａ内に入射された光が、本体部５５３ａ内の平坦な左面に当ることとなる。しかしながら、左ＬＥＤ５５２ａからの直接光は、本体部５５３ａの左面に対する入射角度の関係で、本体部５５３ａの左面から外部へ放射されることはなく、左面の内面で側面反射部５５３ｆ側へ反射することとなる。

【０４５４】
そして、入力レンズ部５５３ｅから本体部５５３ａ内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部５５３ｆに当ることで正面視左方へ反射し、本体部５５３ａの左面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部５５３ａの右面（側面反射部５５３ｆ）からも外方（正面視右方）へ光が照射されるが、本体部５５３ａの右側に配置されている右ユニット左遮光部材５５９が白色の部材とされているため、右ユニット左遮光部材５５９の左面が明るく照らされることとなり、右ユニット左遮光部材５５９で反射した間接光が本体部５５３ａを通って左方側へ照射されることとなる。従って、本体部５５３ａの左面からは、本体部５５３ａ内において側面反射部５５３ｆにより左方へ反射された光と、側面反射部５５３ｆから右方へ照射されて右ユニット左遮光部材５５９の左面で左方へ反射して本体部５５３ａを通過した光とが、左方へ照射されるため、本体部５５３ａの左側に取付けられている右ユニット左装飾部材５５４を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【０４５５】

また、側面反射部５５３ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部５５３ａの左面から外方（左方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を左方へ照射させることができる。これにより、本体部５５３ａの左面の収容凹部５５３ｄに収容されている右ユニット左装飾部材５５４を、略均一に発光装飾させることができる。

【０４５６】

なお、右ユニット左拡散レンズ部材５５３は、透明な部材により形成されているため、本体部５５３ａの正面視左側（収容凹部５５３ｄが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部５５３ｆの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット左装飾部材５５４において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット左拡散レンズ部材５５３の側面反射部５５３ｆの模様が視認できることとなり、右ユニット左装飾部材５５４における透明な部分を側面反射部５５３ｆによって装飾することができる。

【０４５７】

右ユニット左装飾部材５５４は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機１のメーカーロゴや、遊技盤５において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット左カバー５５５は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット左装飾部材５５４の外面を保護している。

【０４５８】

右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３とは略左右対称に形成されており、同じような構成を備えている。詳述すると、右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５６ａと、本体部５５６ａの後辺から正面視左方へ短く平板状に突出している後壁部５５６ｂと、後壁部５５６ｂの正面視左端側から右方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５６ｃと、本体部５５６ａの正面視右面側において右ユニット右装飾部材５５７を収容可能に浅く窪んでいる収容凹部５５６ｄと、本体部５５６ａの後端面から後方へ突出しており上下方向に複数備えられている入力レンズ部５５６ｅと、本体部５５６ａの正面視左面側において各入力レンズ部５５６ｅが上下方向の中央となるように上下方向に複数配置されている側面反射部５５６ｆと、を備えている。

【０４５９】

右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の本体部５５３ａと外形が略同じ形状に形成されている。また、本体部５５６ａは、図８６に示すように、後端側から前方へ向かうに従って、正面視左方へ移動するように全体が、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面の垂直線に対して僅かに傾斜している。本体部５５６ａの前端は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０の前端よりも大きく前方へ突出している。

【０４６０】

後壁部５５６ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央まで延びている。この後壁部５５６ｂの左端には、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の後壁部５５３ｂの右端が当接する。

【０４６１】

複数の切欠部５５６ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５６ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の複数の切欠部５５３ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、右ユニット左拡散レンズ部材５５３の切欠部５５３ｃと、右ユニット右拡散レンズ部材５５６の切欠部５５６

ｃとで、前後に貫通している四角い開口部が形成され、その開口部から扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０４６２】

収容凹部５５６ｄは、底面が平坦面に形成されており、外周の形状が右ユニット右装飾部材５５７の外形形状に略一致している。これにより、右ユニット右装飾部材５５７を収容することができる。

【０４６３】

複数の入力レンズ部５５６ｅは、本体部５５６ａの後端面から上下方向へ所定間隔で後方へ突出している。具体的には、右ユニット右拡散レンズ部材５５６を上下方向へ６等分した時の夫々の上下方向略中央に形成されている。入力レンズ部５５６ｅは、詳細な図示は省略するが、上下に延びた四角形が後方へ突出した直方体の部位と、その直方体の部位の後面から球面状に湾曲するように前方へ向かって窪んでいる部位と、を有している。これら入力レンズ部５５６ｅは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂの直前に夫々位置している。これにより、右ＬＥＤ５５２ｂからの光を、本体部５５６ａ内で広く拡散されるように入力させることができる。

【０４６４】

側面反射部５５６ｆは、上下方向に複数（六つ）備えられている。各側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心にした放射状に延びている線により周方向へ分割されている同心円弧状の複数の溝により形成されている。これら同心円弧状の複数の溝は、夫々の溝において、入力レンズ部５５６ｅに近い側の面が本体部５５６ａの面に対して傾斜していると共に、入力レンズ部５５６ｅから遠い側の面が本体部５５６ａの面に対して垂直に延びており、最深部が円弧状に形成されている。側面反射部５５６ｆは、入力レンズ部５５６ｅを中心とした半径方向に切断した時に断面形状が、溝と溝との間の山の部分が中心側へ向くような尖った三角形状に形成されており、全体が鋸状に形成されている。また、側面反射部５５６ｆは、複数の同心円弧状の溝を周方向に分割している放射状の線を境に、溝の部分と山の部分とが周方向へ交互に配置されるように形成されている。

【０４６５】

この右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、扉枠右サイド装飾基板５５２の右ＬＥＤ５５２ｂから前方へ照射された光が、入力レンズ部５５６ｅの後面から右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５６ａ内へと入射される。この入力レンズ部５５６ｅの後端は、前方へ向かって湾曲状に窪んでいることから、その湾曲面により右ＬＥＤ５５２ｂからの光が広がるように屈折し、本体部５５６ａ内において、各入力レンズ部５５６ｅを中心として前方へ向かって放射状に拡散することとなる。

【０４６６】

本体部５５６ａは、全体が前方へ向かうに従って正面視左方へ移動するように、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面から垂直に延びている線に対して僅かに傾斜しているため、扉枠右サイド装飾基板５５２の前面に実装されている右ＬＥＤ５５２ｂから照射されて入力レンズ部５５６ｅから本体部５５６ａ内に入射された光が、本体部５５６ａ内の平坦な右面に当ることとなる。しかしながら、右ＬＥＤ５５２ｂからの直接光は、本体部５５６ａの右面に対する入射角度の関係で、本体部５５６ａの左面から外部へ放射されることはなく、右面の内面で側面反射部５５６ｆ側へ反射することとなる。

【０４６７】

そして、入力レンズ部５５６ｅから本体部５５６ａ内に前方へ向かって入射された光は、鋸状の側面反射部５５６ｆに当ることで正面視右方へ反射し、本体部５５６ａの右面から外方へ照射されることとなる。なお、本体部５５６ａの右面（側面反射部５５６ｆ）からも外方（正面視左方）へ光が照射されるが、本体部５５６ａの左側に配置されている右ユニット右遮光部材５６０が白色の部材とされているため、右ユニット右遮光部材５６０の右面が明るく照らされることとなり、右ユニット右遮光部材５６０で反射した間接光が

本体部５５６ａを通って右方側へ照射されることとなる。従って、本体部５５６ａの右面からは、本体部５５６ａ内において側面反射部５５６ｆにより右方へ反射された光と、側面反射部５５６ｆから左方へ照射されて右ユニット右遮光部材５６０の右面で右方へ反射して本体部５５６ａを通過した光とが、右方へ照射されるため、本体部５５６ａの右側に取付けられている右ユニット右装飾部材５５７を良好な明るさで発光装飾させることができる。

【０４６８】

また、側面反射部５５６ｆでは、同心円状の複数の溝を放射状に延びた複数の線で分割した上で、分割線を境に同心円弧状の複数の溝を半径方向へずらして、同心円弧状の溝を周方向において交互に配置するようにしているため、本体部５５６ａの右面から外方（右方）へ照射される光が、同心円状の縞模様の濃淡を有した光となるのを回避させることができ、より濃淡の均一な光を右方へ照射させることができる。これにより、本体部５５６ａの右面の収容凹部５５６ｄに収容されている右ユニット右装飾部材５５７を、略均一に発光装飾させることができる。

【０４６９】

なお、右ユニット右拡散レンズ部材５５６は、透明な部材により形成されているため、本体部５５６ａの正面視右側（収容凹部５５６ｄが形成されている側）から、反対側に形成されている側面反射部５５６ｆの複数の同心円弧状の溝と放射状に延びている線とからなる模様を視認することができる。従って、右ユニット右装飾部材５５７において、透明な部分を形成した場合、その透明な部分を通して右ユニット右拡散レンズ部材５５６の側面反射部５５６ｆの模様が視認できることとなり、右ユニット右装飾部材５５７における透明な部分を側面反射部５５６ｆによって装飾することができる。

【０４７０】

右ユニット右装飾部材５５７は、薄いシート状に形成されており、パチンコ機１のメーカーロゴや、遊技盤５において遊技者に提示する演出のコンセプトに沿ったロゴ、等の装飾が、透光性を有するように施されている。右ユニット右カバー５５８は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット右装飾部材５５７の外面を保護している。右ユニット右装飾部材５５７及び右ユニット右カバー５５８は、右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット左カバー５５５とは、略左右対称に形成されている。また、右ユニット左装飾部材５５４と右ユニット右装飾部材５５７とに施される装飾は、同じ装飾であっても良いし、異なる装飾であっても良い。

【０４７１】

右ユニット左遮光部材５５９は、側面視の形状が右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の側面視の形状と、略同じ形状に形成されている。右ユニット左遮光部材５５９は、前方及び右方が開放された浅い箱状に形成されている。右ユニット左遮光部材５５９は、上下方向及び前後方向に延びた平板状の本体部５５９ａと、本体部５５９ａの後辺から正面視右方へ短く平板状に突出している後壁部５５９ｂと、後壁部５５９ｂの正面視右端側から左方へ四角形状に切欠かれており上下方向に所定間隔で複数形成されている切欠部５５９ｃと、本体部５５９ａの右面から右方へ延出していると共に後壁部５５９ｂから本体部５５９ａの前端まで延びている平板状の複数の補強部５５９ｄと、を備えている。

【０４７２】

右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａは、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ａ，５５６ａと外形が略同じ形状に形成されている。

【０４７３】

後壁部５５９ｂは、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、その左端が、右ユニットベース５５１の左右方向略中央よりも右側へ延出している。この後壁部５５９ｂの

右端には、右ユニット右遮光部材５６０の左面が当接する。

【０４７４】

複数の切欠部５５９ｃは、上下方向へ所定間隔で複数形成されており、一部が扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃと対応している。これら複数の切欠部５５９ｃは、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の複数の切欠部５５３ｃ，５５６ｃと対応した位置に形成されている。従って、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態では、複数の切欠部５５９ｃから扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃが前方に臨み、複数の中ＬＥＤ５５２ｃによって右ユニット装飾レンズ部材５６１を良好に発光装飾させることができる。

【０４７５】

複数の補強部５５９ｄは、左右の幅と略同じ高さで上下方向に離間している一対の補強部５５９ｄを一組として、上下方向へ所定距離離間して三組備えられている。各組の補強部５５９ｄは、右ユニットカバー５６３に取付けられる飾り部材５６４の後方となる位置に夫々形成されている。これら複数の補強部５５９ｄによって、扉枠右サイドユニット５５０の全体の強度・剛性を高めている。

【０４７６】

右ユニット右遮光部材５６０は、側面視の形状が、上下に延びた四角形の前端側の上隅がＣ面取り状に斜めに切欠かれていると共に、下辺が前方へ向かうに従って上方へ移動するように傾斜している形状に形成されており、右ユニット左遮光部材５５９における本体部５５９ａと略同じ形状に形成されている。右ユニット右遮光部材５６０は、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、浅い箱状に形成されている右ユニット左遮光部材５５９の右方へ開放されている右側開口を閉鎖している。

【０４７７】

右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、白色の部材によって夫々形成されている。右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、図８６に示すように、扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、夫々の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０が、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の本体部５５３ａ，５５６ａと近接するように配置されている。これにより、右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０同士が左右方向に離間しており、左右方向に所定幅で上下方向及び前後方向に延びた空間を形成している。この右ユニット左遮光部材５５９の本体部５５９ａ及び右ユニット右遮光部材５６０同士の間に形成された空間を通して、扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃから前方へ放射された光が、右ユニット装飾レンズ部材５６１の後側に照射される。

【０４７８】

また、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、不透光性の部材によって形成されており、扉枠右サイド装飾基板５５２における左ＬＥＤ５５２ａ、中ＬＥＤ５５２ｃ、右ＬＥＤ５５２ｂから夫々前方へ照射される光が、互いに干渉するのを防止しており、右ユニット左装飾部材５５４、右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１を、夫々対応している左ＬＥＤ５５２ａ、右ＬＥＤ５５２ｂ、及び中ＬＥＤ５５２ｃによってのみ発光装飾させることができる。

【０４７９】

更に、右ユニット左遮光部材５５９及び右ユニット右遮光部材５６０は、三組の補強部５５９ｄによって内部空間が上下方向へ四つに分割されているため、分割された夫々の空間の後側に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、各空間同士の間で光が干渉しないようにすることができ、右ユニット装飾レンズ部材５６１の各空間の前方に位置している部位を、夫々独立して発光装飾させることができる。つまり、扉枠右サイドユニット５５０の前端側において、上下方向へ複数（四つ）の領域に分割して夫々を独立して発光装飾させることができる。

【０４８０】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、正面視において円形状に形成されている円形装飾部５６１ａと、上下に延びており複数の多面体が形成されている多面装飾部５６１ｂと、を備えている。円形装飾部５６１ａは、前面が窪み前後に短く延びた円柱状の部位の外周に三角形のリブを周方向に複数備えた形状に形成されている。多面装飾部５６１ｂは、上下に延びた直方体の前面に四角錘状の部位が上下方向に複数列設されていると共に、直方体の部位の左右両側に複数の三角形からなる多面体が上下方向に複数列設したような形状に形成されている。

【０４８１】

詳述すると、右ユニット装飾レンズ部材５６１は、複数の円形装飾部５６１ａ及び多面装飾部５６１ｂが、右ユニット左遮光部材５５９における三組の補強部５５９ｄによって四つに分割されている夫々の空間の前方に位置する部位において、上から三つの部位では、上下方向の中央に配置された円形装飾部５６１ａの上下両側に一つずつ多面装飾部５６１ｂが配置され、最も下側の部位では、多面装飾部５６１ｂのみが配置されるように形成されている。

【０４８２】

右ユニット装飾レンズ部材５６１は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端に取付けられている。右ユニット装飾レンズ部材５６１は、透明な右ユニットカバー５６３を通して前方側（遊技者側）から視認することができる。この右ユニット装飾レンズ部材５６１は、後方に配置されている扉枠右サイド装飾基板５５２の中ＬＥＤ５５２ｃによって、発光装飾させられる。

【０４８３】

右ユニット装飾ベース５６２は、前後方向に貫通している筒枠状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６の前端及び上端の形状に沿った形状に形成されている。右ユニット装飾ベース５６２は、右ユニット左拡散レンズ部材５５３及び右ユニット右拡散レンズ部材５５６における前端付近の左右両外側と、右ユニット装飾レンズ部材５６１の左右両側を被覆可能に形成されている。扉枠右サイドユニット５５０に組立てた状態で、右ユニット装飾ベース５６２の前端よりも、右ユニット装飾レンズ部材５６１の前端が、僅かに前方へ突出している。この右ユニット装飾ベース５６２は、不透光性の部材によって形成されている。

【０４８４】

右ユニットカバー５６３は、右ユニット装飾ベース５６２の前端開口を閉鎖可能に形成されている。この右ユニットカバー５６３は、透明な部材によって形成されており、後側に配置されている右ユニット装飾レンズ部材５６１を前方側から視認することができる。

【０４８５】

飾り部材５６４は、上下に短く延びており、上下方向へ所定間隔で右ユニットカバー５６３の前面に取付けられている。飾り部材５６４は、不透光性の部材によって形成されている。三つの飾り部材５６４は、右ユニットカバー５６３（右ユニット装飾レンズ部材５６１）を上下方向へ四つに分割している。

【０４８６】

扉枠右サイドユニット５５０は、扉枠３に組立てた状態で、扉枠左サイドユニット５３０よりも前方へ大きく板状に突出しており、皿ユニット３２０の上皿３２１前端よりも若干前方へ突出している。扉枠右サイドユニット５５０は、突出した左右両面側に備えられている右ユニット左装飾部材５５４及び右ユニット右装飾部材５５７と、前端に備えられている右ユニット装飾レンズ部材５６１と、を夫々独立して発光装飾させることができる。

【０４８７】

扉枠右サイドユニット５５０は、板状で前方へ大きく突出していることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接し

ているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができる。これにより、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、個室で遊技しているように錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で遊技を行わせることができる。

【０４８８】

また、扉枠右サイドユニット５５０は、前方へ大きく突出していることから、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホールでは、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向からでも視認することができ、多数のパチンコ機が列設されている遊技ホール内において本パチンコ機１を目立たせることができる。従って、扉枠右サイドユニット５５０の左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７を発光装飾させると、本パチンコ機１の前方近辺に位置していなくても、遠くから本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０４８９】

更に、扉枠右サイドユニット５５０において、本パチンコ機１で球詰りやエラー等の不具合が発生した時に、左右両面側の右ユニット左装飾部材５５４や右ユニット右装飾部材５５７、及び右ユニット装飾レンズ部材５６１等を特有な態様で発光装飾させるようにすることで、遊技ホールの係員に対して、不具合の発生を直ちに知らせて認識させることができ、不具合に対して素早い対応ができるようになることから、遊技者の遊技の中断を早期に解決させることができ、遊技者が苛立ちを覚えて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０４９０】

［３－７．扉枠トップユニット］

扉枠３の扉枠トップユニット５７０について、主に図８７乃至図９０等を参照して詳細に説明する。図８７（ａ）は扉枠における扉枠トップユニットの正面図であり、（ｂ）は扉枠トップユニットを前から見た斜視図であり、（ｃ）は扉枠トップユニットを後ろから見た斜視図である。図８８は扉枠トップユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図８９は扉枠トップユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図９０は、図８７におけるＰ－Ｐ線で切断した断面図である。扉枠トップユニット５７０は、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の上側で扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側に取付けられるものである。

【０４９１】

扉枠トップユニット５７０は、扉枠ベースユニット１００の扉枠ベース１１０の前面における貫通口１１１の上側で左右方向の中央に取付けられる中央ベース５７１と、中央ベース５７１の左右両側に取付けられていると共に扉枠ベース１１０の前面に取付けられる一対のサイドベース５７２と、一対のサイドベース５７２の前面に夫々取付けられている一対の上部スピーカ５７３と、左右に延びていると共に左右方向中央が前方へ突出しており後方が開放されている箱状で一対の上部スピーカ５７３の前方位置で前後に夫々貫通している一対の開口部５７４ａ、及び一対の開口部５７４ａよりも左右方向中央寄りの位置から中央付近まで夫々延びていると共に前後方向に夫々貫通しており上下に離間している複数（左右夫々三つ）のスリット５７４ｂを有しており中央ベース５７１及び一対のサイドベース５７２の前側に取付けられているユニット本体５７４と、一対の上部スピーカ５７３の前側に夫々配置されており一対の開口部５７４ａを閉鎖するようにユニット本体５７４の後側に取付けられているパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５と、を備えている。

【０４９２】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４の左右方向中央の前面に取付けられており透光性を有しているトップ中装飾部材５７６と、トップ中装飾部材５７６の後側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている扉枠トップ中装飾基板５７７と、ユニット本体５７４の前面に夫々取付けられており複数のスリット５７４ｂを夫々

閉鎖していると共にトップ中装飾部材５７６の左右両端付近から開口部５７４ａを跨いでユニット本体５７４の左右両端付近まで夫々延びている透明平板状の複数（左右夫々三つ）の導光部材５７８と、ユニット本体５７４の前面におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８の前面を夫々覆っているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０と、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の前方側からユニット本体５７４の前面に夫々取付けられておりトップ中装飾部材５７６の左右両側から開口部５７４ａの中央側端部付近まで夫々延びているトップ中左装飾部材５８１及びトップ中右装飾部材５８２と、を備えている。

【０４９３】

更に、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４における左右両側面の内側に夫々取付けられており複数（三つ）の導光部材５７８における左右方向外側端部と対面する部位にＬＥＤが夫々実装されている扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ右装飾基板５８４と、ユニット本体５７４の後側における左右方向中央の左右両側に夫々形成されている複数（三つの）スリット５７４ｂが貫通している部位に夫々取付けられている一対の基板ベース５８５と、一対の基板ベース５８５の前面に夫々取付けられておりユニット本体５７４のスリット５７４ｂの後方となる位置に複数のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａが実装されている扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７と、扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７の前側でユニット本体５７４の後側に夫々取付けられている一対の遮光部材５８８と、を備えている。

【０４９４】

また、扉枠トップユニット５７０は、ユニット本体５７４内で中央ベース５７１の前面に取付けられている扉枠トップユニット中継基板５８９と、扉枠トップユニット中継基板５８９の前面を覆うように中央ベース５７１に取付けられている中継基板カバー５９０と、ユニット本体５７４の上開口部５７４ｃを閉鎖するようにユニット本体５７４に取付けられている上カバー５９１と、ユニット本体５７４の下開口部５７４ｄを閉鎖するようにユニット本体５７４に取付けられている下カバー５９２と、を備えている。

【０４９５】

扉枠トップユニット５７０の中央ベース５７１は、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されている。中央ベース５７１は、後方へ開放された箱状に形成されており、前面に複数の凹凸を備えている。一対のサイドベース５７２は、中央ベース５７１の左右両端に夫々取付けられる。一対の上部スピーカ５７３は、各サイドベース５７２の前面に夫々取付けられる。一対の上部スピーカ５７３は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、夫々の前面が、扉枠トップユニット５７０の左右方向中央に近い側が後方へ移動するように斜めに取付けられている。一対の上部スピーカ５７３は、広い周波数帯域で音を出力可能なフルレンジのコーン型スピーカである。

【０４９６】

ユニット本体５７４は、正面視の形状が、左右に延びた四角形の左右両端付近の下部が下方へ膨出したような形状に形成されている。換言すると、ユニット本体５７４は、正面視の形状が、左右に延びた四角形を、下端辺側から上方へ窄まった台形で切欠いたような形状に形成されている。ユニット本体５７４は、平面視の形状が、左右に延びた四角形と、その四角形の前端辺側における左右方向中央を中心にして全幅（左右方向の長さ）の約１／２の部位を底辺とする前方へ突出した台形と、その台形の前端辺を長辺として前方へ短く突出した四角形と、を組合せた形状に形成されている。従って、ユニット本体５７４は、前面における左右方向中央で前方へ突出した部位の両側が、ユニット本体５７４の左右方向の端部と、前方へ突出した部位の前端の左右方向端部とを結んだ線よりも後方に位置している（窪んでいる）。

【０４９７】

ユニット本体５７４は、前面における左右方向両端から前方へ突出している部位よりも外側の位置までの部位に、夫々前後に貫通している開口部５７４ａが形成されている。ま

た、ユニット本体５７４は、前面における前方へ台形に突出している部位の斜めに延びている部位に、上下方向に所定の高さで左右に延びていると共に前後方向に貫通している複数のスリット５７４ｂが形成されている。複数のスリット５７４ｂは、ユニット本体５７４の前面における前方へ斜めに延びている部位の前端付近から、開口部５７４ａ付近まで左右に延びている。また、複数のスリット５７４ｂは、ユニット本体５７４の左右方向中央の両側に、夫々三つずつ上下に離間して形成されている。

【０４９８】

また、ユニット本体５７４は、上面における左右方向中央に後端から前方へ向かって四角く切欠かれた上開口部５７４ｃと、下面における左右方向に後端から前方へ向かって切欠かれた下開口部５７４ｄと、を備えている。ユニット本体５７４の上開口部５７４ｃは、上カバー５９１によって閉鎖される。また、下開口部５７４ｄは、下カバー５９２によって閉鎖される。

【０４９９】

また、ユニット本体５７４は、左右両端に上下に延びたトップ左装飾部５７４ｅ及びトップ右装飾部５７４ｆを備えている。トップ左装飾部５７４ｅは、その前面が、開口部５７４ａの形成されている部位の前面と、前後方向が略同じ位置に形成されている。トップ右装飾部５７４ｆは、その前面が、開口部５７４ａの形成されている部位の前面よりも前方へ位置するように形成されている。このユニット本体５７４は、不透光性の部材によって形成されている。

【０５００】

トップ中装飾部材５７６は、ユニット本体５７４の前面における左右方向中央において前方へ突出している部位の前端に取付けられる。トップ中装飾部材５７６は、正面視の形状が、略正方形の下辺の左右方向中央部が下方へ位置するように折れ曲がった変五角形と、変五角形の左右の辺の上端から左右方向外側へ延出した辺の先端と辺五角形の左右の辺の下端とを結んだ略直角三角形と、を組合せたような形状に形成されている。トップ中装飾部材５７６は、前面の変五角形の部位が、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜している。このトップ中装飾部材５７６は、全体が立体的な形状に形成されており、透光性を有している。

【０５０１】

扉枠トップ中装飾基板５７７は、前面が、トップ中装飾部材５７６の変五角形の部位の前面と沿うように、下方へ向かうに従って後方へ移動するように傾斜した状態でトップ中装飾部材５７６の後側に取付けられる。扉枠トップ中装飾基板５７７は、前面に複数のＬＥＤが実装されており、それらＬＥＤを発光させることで、トップ中装飾部材５７６を発光装飾させることができる。

【０５０２】

導光部材５７８は、透明な部材によって形成されている。導光部材５７８は、ユニット本体５７４の前面における前方へ突出した部位の前端よりも左右両外側の形状に沿った形状に形成されている。ユニット本体５７４の左右方向両端部に近い側を端部側、中央に近い側を中央側として説明すると、導光部材５７８は、端部側から中央側へ向かって左右に真っすぐに延びた直部５７８ａと、直部５７８ａの中央側の端部側から中央側へ向かうに従って前方へ移動するように半径の大きい円弧状に延びた円弧部５７８ｂと、で構成されている。導光部材５７８は、直部５７８ａでは前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも小さく形成されており、円弧部５７８ｂでは前後方向の奥行きが上下方向の高さよりも大きく形成されている。また、導光部材５７８は、直部５７８ａでは上下方向の高さが一定に形成されており、円弧部５７８ｂでは上下方向の高さが中央側へ向かうに従って小さくなるように形成されている。導光部材５７８は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、直部５７８ａがユニット本体５７４の開口部５７４ａの直前に位置し、円弧部５７８ｂがユニット本体５７４のスリット５７４ｂを前方から閉鎖している。

【０５０３】

導光部材５７８は、直部５７８ａの後面に形成されている鋸状の凹凸からなる拡散反射

部５７８ｃと、円弧部５７８ｂの後面側に形成されている複数の凹凸からなる拡散入力部５７８ｄと、を備えている。

【０５０４】

導光部材５７８は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、左右方向両外側の端部が、扉枠トップ左装飾基板５８３又は扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８３ａ，５８４ａと対面していると共に、拡散入力部５７８ｄが扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａと対面している。この導光部材５７８は、左右方向両外側の端部から、扉枠トップ左装飾基板５８３又は扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８３ａ，５８４ａからの光が入射されると、その光が直部５７８ａ内を中央側へ進むと共に、直部５７８ａの後面に形成されている拡散反射部５７８ｃにより端部側から順次前方へ反射され、直部５７８ａの前面全体から光が前方へ照射される。導光部材５７８の前方にはトップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０が配置されており、それらのうちの直部５７８ａの前方となる部位が発光装飾させられる。

【０５０５】

また、導光部材５７８は、円弧部５７８ｂの後面に形成されている拡散入力部５７８ｄから、扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａからの光が入射されると、その光が拡散入力部５７８ｄの凹凸により円弧部５７８ｂ内へ広く拡散され、円弧部５７８ｂの前面全体から光が前方へ照射される。これにより、トップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０における円弧部５７８ｂの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。

【０５０６】

このように、導光部材５７８は、扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ中左装飾基板５８６のＬＥＤ５８３ａ，５８６ａ、又は、扉枠トップ右装飾基板５８４及び扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８４ａ，５８７ａ、からの光を導いて、前方に配置されているトップ左装飾レンズ部材５７９又はトップ右装飾レンズ部材５８０の全体を良好（均一）な状態で発光装飾させることができる。

【０５０７】

トップ左装飾レンズ部材５７９は、ユニット本体５７４の前面における左右方向中央より左側に配置される三つの導光部材５７８の前方を覆うように、ユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ左装飾レンズ部材５７９は、三つの導光部材５７８を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部５７９ａを有している。トップ左装飾レンズ部材５７９の装飾レンズ部５７９ａは、導光部材５７８に倣った形状に形成されており、導光部材５７８の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部５７９ａの前面には、前方へ突出した四角錘台の凹凸が左右に列設されている。

【０５０８】

トップ左装飾レンズ部材５７９は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の左端から、ユニット本体５７４のトップ左装飾部５７４ｅの右端まで延びている。つまり、トップ左装飾レンズ部材５７９は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６よりも左側の略全体を装飾している。このトップ左装飾レンズ部材５７９は、三つの導光部材５７８を介して扉枠トップ左装飾基板５８３及び扉枠トップ中左装飾基板５８６のＬＥＤ５８３ａ，５８６ａによって発光装飾させられる。

【０５０９】

トップ右装飾レンズ部材５８０は、ユニット本体５７４の前面における左右方向中央より右側に配置される三つの導光部材５７８の前方を覆うように、ユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ右装飾レンズ部材５８０は、三つの導光部材５７８を夫々独立して前方から収容する三つの装飾レンズ部５８０ａを有している。トップ右装飾レンズ部材５８０の装飾レンズ部５８０ａは、導光部材５７８に倣った形状に形成されており、導光部材５７８の前面及び上下両面を被覆している。各装飾レンズ部５８０ａの前面には、前方へ突出した四角錘台の凹凸が左右に列設されている。

【０５１０】
トップ右装飾レンズ部材５８０は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の右端から、ユニット本体５７４のトップ右装飾部５７４ｆの左端まで延びている。つまり、トップ右装飾レンズ部材５８０は、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６よりも右側の略全体を装飾している。このトップ右装飾レンズ部材５８０は、三つの導光部材５７８を介して扉枠トップ右装飾基板５８４及び扉枠トップ中右装飾基板５８７のＬＥＤ５８４ａ，５８７ａによって発光装飾させられる。
【０５１１】
トップ中左装飾部材５８１は、ユニット本体５７４の前面における左側の開口部５７４ａとトップ中装飾部材５７６との間で、トップ左装飾レンズ部材５７９の前方からユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ中左装飾部材５８１は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、トップ左装飾レンズ部材５７９の三つの装飾レンズ部５７９ａの間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ左装飾レンズ部材５７９の前面よりも前方に突出している。このトップ中左装飾部材５８１は、不透光性の部材によって形成されている。
【０５１２】
トップ中右装飾部材５８２は、ユニット本体５７４の前面における右側の開口部５７４ａとトップ中装飾部材５７６との間で、トップ右装飾レンズ部材５８０の前方からユニット本体５７４の前面に取付けられる。トップ中右装飾部材５８２は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、トップ右装飾レンズ部材５８０の三つの装飾レンズ部５８０ａの間を埋めるように取付けられており、前面の中央寄りがトップ右装飾レンズ部材５８０の前面よりも前方に突出している。このトップ中右装飾部材５８２は、不透光性の部材によって形成されている。
【０５１３】
扉枠トップ左装飾基板５８３は、ユニット本体５７４内における左側面（トップ左装飾部５７４ｅ）の内側に、ＬＥＤ５８３ａが実装されている面を右方へ向けて取付けられている。扉枠トップ左装飾基板５８３は、ユニット本体５７４の左右方向中央より左側の前面に取付けられている三つの導光部材５７８の左端面と対向する位置にＬＥＤ５８３ａが実装されている（図９０を参照）。三つのＬＥＤ５８３ａは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ左装飾基板５８３のＬＥＤ５８３ａにより、三つの導光部材５７８の直部５７８ａを介して、トップ左装飾レンズ部材５７９におけるユニット本体５７４の左側の開口部５７４ａの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。
【０５１４】
扉枠トップ右装飾基板５８４は、ユニット本体５７４内における右側面（トップ右装飾部５７４ｆ）の内側に、ＬＥＤ５８４ａが実装されている面を左方へ向けて取付けられている。扉枠トップ右装飾基板５８４は、ユニット本体５７４の左右方向中央より右側の前面に取付けられている三つの導光部材５７８の右端面と対向する位置にＬＥＤ５８４ａが実装されている（図９０を参照）。三つのＬＥＤ５８４ａは、夫々独立して発光させることができる。扉枠トップ右装飾基板５８４のＬＥＤ５８４ａにより、三つの導光部材５７８の直部５７８ａを介して、トップ右装飾レンズ部材５８０におけるユニット本体５７４の右側の開口部５７４ａの前方に位置している部位を発光装飾させることができる。
【０５１５】
一対の基板ベース５８５は、ユニット本体５７４内における複数のスリット５７４ｂが形成されている部位の後側に取付けられるものである。一対の基板ベース５８５は、互いが略左右対称に形成されている。基板ベース５８５は、上下及び前後に延びた辺を有する側面視略正方形の側壁と、側壁の後辺から直角に左右方向外方へ延びた正面視四角形の後壁と、側壁の上辺の前端から側壁の上辺途中までを結んだ線を斜辺として側壁と後壁の上辺同士を結んでいる略直角三角形の上壁と、上壁とは反対側で側壁と後壁の下辺同士を結んでいる略直角三角形の下壁と、を備え、上下の斜辺同士の間が開放された三角柱状の箱状に形成されている。基板ベース５８５は、開放されている部位が、ユニット本体５７４

によって閉鎖されるようにユニット本体５７４に取付けられる。この基板ベース５８５は、開放されている部位が閉鎖されるように、扉枠トップ中左装飾基板５８６又は扉枠トップ中右装飾基板５８７が取付けられる。

【０５１６】

扉枠トップ中左装飾基板５８６は、ユニット本体５７４における左右中央より左側の後側に取付けられる基板ベース５８５において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース５８５に取付けられる。扉枠トップ中左装飾基板５８６は、基板ベース５８５の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中左装飾基板５８６は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央より左側の三つのスリット５７４ｂが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

【０５１７】

扉枠トップ中左装飾基板５８６は、ユニット本体５７４の三つのスリット５７４ｂと対応している位置に、複数のＬＥＤ５８６ａが実装されている。これにより、扉枠トップ中左装飾基板５８６は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、ユニット本体５７４の中央より左側の三つのスリット５７４ｂから、複数のＬＥＤ５８６ａが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中左装飾基板５８６は、複数のＬＥＤ５８６ａを発光させることで、導光部材５７８の円弧部５７８ｂを介して、トップ左装飾レンズ部材５７９のトップ中装飾部材５７６に近い部位を発光装飾させることができる。

【０５１８】

扉枠トップ中右装飾基板５８７は、ユニット本体５７４における左右中央より右側の後側に取付けられる基板ベース５８５において、箱状の開放されている部位を前方から閉鎖するように、基板ベース５８５に取付けられる。扉枠トップ中右装飾基板５８７は、基板ベース５８５の前面に取付けられることで、前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央側へ向かうに従って前方へ移動するように、左右に延びた面に対して傾斜した状態となる。これにより、扉枠トップ中右装飾基板５８７は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、その前面が、ユニット本体５７４の左右方向中央より右側の三つのスリット５７４ｂが形成されている部位の面と略平行な状態となる。

【０５１９】

扉枠トップ中右装飾基板５８７は、ユニット本体５７４の三つのスリット５７４ｂと対応している位置に、複数のＬＥＤ５８７ａが実装されている。これにより、扉枠トップ中右装飾基板５８７は、扉枠トップユニット５７０に組立てた状態で、ユニット本体５７４の中央より右側の三つのスリット５７４ｂから、複数のＬＥＤ５８７ａが前方に臨んだ状態となる。扉枠トップ中右装飾基板５８７は、複数のＬＥＤ５８７ａを発光させることで、導光部材５７８の円弧部５７８ｂを介して、トップ右装飾レンズ部材５８０のトップ中装飾部材５７６に近い部位を発光装飾させることができる。

【０５２０】

一対の遮光部材５８８は、扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７とユニット本体５７４との間の位置で、ユニット本体５７４の前面後側に取付けられるものである。一対の遮光部材５８８は、不透光性の部材によって、互いが略左右対称に形成されている。遮光部材５８８は、ユニット本体５７４における三つのスリット５７４ｂと対応して列設されている扉枠トップ中左装飾基板５８６及び扉枠トップ中右装飾基板５８７の複数のＬＥＤ５８６ａ，５８７ａの上下の間を仕切っている。この遮光部材５８８により、各導光部材５７８の直後に位置しているＬＥＤ５８６ａ，５８７ａによってのみ、その導光部材５７８により光を前方へ誘導させることができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の夫々の装飾レンズ部５７９ａ，５８０ａを夫々独立させた状態で良好に発光装飾させることができる。

【０５２１】

扉枠トップユニット中継基板５８９は、中央ベース５７１の前面に取付けられている。

扉枠トップユニット中継基板５８９は、一対の上部スピーカ５７３、扉枠トップ中装飾基板５７７、扉枠トップ左装飾基板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７と、扉枠ベースユニット１００の扉本体中継基板との接続を中継している。扉枠トップユニット中継基板５８９は、扉枠右サイドユニット５５０に備えられている図示しない接続ケーブルを介して、扉本体中継基板と接続されている。この扉枠トップユニット中継基板５８９は、前側が中継基板カバー５９０によって覆われている。

【０５２２】

この扉枠トップユニット５７０は、左右方向中央において前方へ突出したトップ中装飾部材５７６を備えていると共に、トップ中装飾部材５７６の左右両側の前面が後方へ抉れているように湾曲しているため、トップ中装飾部材５７６のみが前方へ大きく突出しているように遊技者を錯覚させることができ、遊技者の関心を本パチンコ機１に対して強く引付けさせることができる。

【０５２３】

また、扉枠トップユニット５７０は、中央に配置されているトップ中装飾部材５７６の左右両側を装飾しているトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を、トップ中装飾部材５７６の左右両側から、ユニット本体５７４の左右両端に形成されているトップ左装飾部５７４ｅ及びトップ右装飾部５７４ｆまで延びるように形成している。これにより、扉枠トップユニット５７０によって、扉枠３の前面上部を全体的に装飾することができる。

【０５２４】

この際に、扉枠トップユニット５７０では、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０が配置されている左右方向両端付近の夫々の後方に、パンチングメタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された上部スピーカ５７３を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の上下に離間している三つの装飾レンズ部５７９ａ，５８０ａの間からスピーカカバー５７５が前方へ臨むようにしているため、左右の上部スピーカ５７３から出力されるサウンドを、良好な状態で遊技者に聴かせることができ、良質なステレオサウンドを楽しませることができる。

【０５２５】

また、扉枠トップユニット５７０は、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の後側に備えられた複数の導光部材５７８により、扉枠トップ左装飾基板５８３、扉枠トップ右装飾基板５８４、扉枠トップ中左装飾基板５８６、及び扉枠トップ中右装飾基板５８７からの光を、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０に導くことができ、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を良好に発光装飾させることができる。従って、扉枠トップユニット５７０は、左右の上部スピーカ５７３の前方を含む扉枠３の上部の前面全体を発光装飾させることができる。

【０５２６】

［３－８．扉枠の作用効果］

扉枠３の作用効果について説明する。本実施形態のパチンコ機１における扉枠３は、扉枠ベースユニット１００における扉枠ベース１１０の前後に貫通している貫通口１１１を、従来のパチンコ機よりは上下及び左右方向へ大きくしており、貫通口１１１の拡大に合せて、皿ユニット３２０及び扉枠トップユニット５７０の上下方向の高さを小さくしていると共に、扉枠左サイドユニット５３０及び扉枠右サイドユニット５５０の左右方向の幅を小さくしている。これにより、貫通口１１１（ガラスユニット１９０）を通して、本体枠４に取付けられた遊技盤５（遊技領域５ａ）の前面を、可及的に広く遊技者（前方）から見えるようにすることができ、遊技領域５ａの広い遊技盤５に対応している。

【０５２７】

扉枠３は、貫通口１１１の下側において、前方へ膨出している皿ユニット３２０の左右方向中央に大きな半球面状の操作ボタン４１０を有した演出操作ユニット４００（第二演

出操作ユニット４００Ａ）を備え、演出操作ユニット４００の左右両側における下半分（上皿３２１よりも下側の部分）の前面（皿前下装飾部３２６ｃの前面）を、後方へ抉れるように窪んだ形状（皿ユニット３２０の左右両端の前端と、演出操作ユニット４００の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、演出操作ユニット４００の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、皿ユニット３２０の左右方向中央の前面に取付けられている演出操作ユニット４００が前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対して演出操作ユニット４００を目立たせて強調して見せることができ、演出操作ユニット４００に強く注目させることができる。

【０５２８】

扉枠３は、貫通口１１１よりも下側の皿ユニット３２０の前面に配置されている演出操作ユニット４００を、大きな半球面状の透明な操作ボタン４１０が、斜め上前方を向くように傾けた状態で取付けているため、本パチンコ機１の前で遊技者が着座すると、操作ボタン４１０が遊技者の頭部（顔）を向いた状態となり、遊技者が視線を落として演出操作ユニット４００を見ると、操作ボタン４１０が略正面に近い状態で見えることとなり、大きくて丸い操作ボタン４１０を強烈に視認させることができ、操作ボタン４１０を用いた演出に対して期待感を高めさせることができると共に、透明な操作ボタン４１０内に配置されている扉枠側演出表示装置４６０に表示される演出画像を良好な状態で視認させることができ、演出画像を十分に楽しませることができる。

【０５２９】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の全高と略同じ直径の大きくて前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を備えているため、操作ボタン４１０を操作する際に、短い距離の手の移動で操作ボタン４１０の何れかの部位に触れることができ、操作ボタン４１０の「早押し」を比較的容易に行うことができる。また、大径で前方へ丸く膨出した操作ボタン４１０を、傾けた状態で取付けているため、従来のパチンコ機の操作ボタンのように上から押圧操作することができるだけでなく、左方や右方、或いは、前方からでも良好に操作することができ、操作性の良い操作ボタン４１０によって操作ボタン４１０を用いた演出をより楽しませることができる。

【０５３０】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０によって演出操作ユニット４００を、吊り下げたような状態で取付けていると共に、演出操作ユニット４００の下部に振動を発生させる振動モータ４２４を備えているため、遊技状態に応じて振動モータ４２４を回転させて振動を発生させると、操作ボタン４１０の上部に触れている遊技者の手に対して、強い振動を伝達させることができ、遊技者を驚かせて操作ボタン４１０を用いた演出をより一層楽しませることができる。

【０５３１】

更に、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面中央に、皿ユニット３２０の全高に亘る大きな操作ボタン４１０（演出操作ユニット４００）を備えていることから、従来のパチンコ機と比較して上皿３２１の下にある下皿３２２が目立ち難くなるため、従来のパチンコ機を見慣れた遊技者に対して、明らかに異なっていると認識させ易くすることができ、遊技者の関心を強く引付けられる訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５３２】

また、扉枠３は、皿ユニット３２０の前面における演出操作ユニット４００の左側に開口している下皿開口部３２６ｄに対して、下皿３２２を、演出操作ユニット４００の後側へ回り込むように形成しているため、下皿開口部３２６ｄの大きさに対して、下皿３２２の容積を大きくすることができ、下皿３２２での遊技球の貯留数を十分に確保することができる。また、下皿３２２の後部が演出操作ユニット４００の後側へ回り込んでいることから、遊技者が下皿３２２内に左手を入れたり、下皿開口部３２６ｄに左手の指を掛けたりした時に、指先が下皿３２２の後の壁に触れ難くなるため、遊技者に対して違和感を与え難くすることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができると共に、下皿開口部３２６ｄの大きさに比べて下皿３２２の容積が大きいことを触覚でも認識させるこ

とができる。

【０５３３】

更に、扉枠３は、上皿３２１からの遊技球が下皿３２２に放出される下皿球供給口３２３ｃと下皿３２２の遊技球を皿ユニット３２０の下方のドル箱等に抜くための下皿球抜き孔３２２ａとを、前後に直線状に配置すると共に、正面視において下皿開口部３２６ｄの右外側（演出操作ユニット４００のフレームユニット４１５の左端よりも右側）に配置している。つまり、下皿球供給口３２３ｃ及び下皿球抜き孔３２２ａを、演出操作ユニット４００、皿ユニットカバー３２６における演出操作ユニット取付部３２６ａ（下皿開口部３２６ｄの右外側）、下皿カバー３４０の前端側、等の後方に配置しているため、遊技者側から下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えず、皿ユニット３２０（パチンコ機１）の外観をスッキリさせることができ、パチンコ機１の見栄えを良くすることができる。

【０５３４】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方（真正面）の下方に下皿球抜き孔３２２ａを配置しているため、下皿球抜き孔３２２ａを開いた状態とすると、上皿３２１等から下皿３２２へ放出された遊技球が、下皿３２２に入ると直ぐに下皿球抜き孔３２２ａから下方のドル箱等へ排出されることとなる。この際に、遊技者側からは、下皿球供給口３２３ｃや下皿球抜き孔３２２ａが見えないため、上皿３２１等から下皿３２２を通ってドル箱へ排出される遊技球の流れも見ることができない。これにより、遊技者に対して上皿３２１の遊技球や上皿３２１が満タンな状態で払出装置８３０から払出された遊技球等が、直接ドル箱へ排出されているように錯覚させることができるため、遊技球が下皿３２２を通る煩わしさを感じさせ難くすることができ、遊技者を遊技（遊技球の打込操作や演出画像等）に専念させて興趣の低下を抑制させることができる。

【０５３５】

また、扉枠３は、下皿３２２において、下皿球供給口３２３ｃの前方左寄りの位置に下皿球抜き孔３２２ａを配置すると共に、下皿球抜き孔３２２ａよりも右側の下皿３２２の立上った壁部を下皿球抜き孔３２２ａの方向を向くように斜めに湾曲させているため、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２へ供給された遊技球を、直接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したり、右側の壁部に反射させて間接的に下皿球抜き孔３２２ａへ誘導したりすることができる。これにより、下皿球抜き孔３２２ａが開いたままの状態では、下皿球供給口３２３ｃから下皿３２２に供給された遊技球が、下皿３２２における下皿球抜き孔３２２ａよりも左側の領域（下皿第一領域Ａ１）へ侵入することなく、下皿球抜き孔３２２ａから下方へ排出させることができるため、下皿３２２内を流通する遊技球を遊技者に見せることなく下皿３２２の下方（ドル箱）へ遊技球を排出させることができ、上述と同様の作用効果を奏することができる。

【０５３６】

また、扉枠３は、下皿３２２が前方へ臨む皿ユニットカバー３２６の下皿開口部３２６ｄを、演出操作ユニット取付部３２６ａ（演出操作ユニット４００）と下スピーカ口３２６ｅとの間に備えているため、遊技者が下皿開口部３２６ｄに手を掛けたり、下皿３２２に手を入れたりしても、下スピーカ口３２６ｅの前方が遊技者の手によって遮られることはないため、本体枠４の基板ユニット９００におけるスピーカ９２１からのサウンドを、良好に前方へ出力させることができ、本パチンコ機１によるサウンドを楽しませることができる。また、遊技者が下皿３２２に手を入れたり近付けたりすると、下スピーカ口３２６ｅから前方へ出力されるスピーカ９２１からの重低音による振動を、遊技者に触覚的に感じさせることができ、遊技者を楽しませて興趣の低下を抑制させることができる。

【０５３７】

また、扉枠３は、貫通口１１１の右側から板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット５５０を備えていることから、本パチンコ機１を遊技ホールの島設備に設置すると、扉枠右サイドユニット５５０が右側に隣接しているパチンコ機との間で仕切りのような作用効果を発揮することができるため、本パチンコ機１で遊技する遊技者に対して、

個室で遊技しているような感じに錯覚させることができ、周りの他の遊技者に気兼ねすることなくリラックスした雰囲気で遊技を行わせることができる。

【０５３８】

更に、扉枠３は、板状で前方へ大きく突出している扉枠右サイドユニット５５０の前端や左右両面を、発光装飾させることができるため、パチンコ機１が並んだ状態で設置される遊技ホール内において、本パチンコ機１の前方に位置していなくても、島設備に沿った横方向から等の遠くからでも本パチンコ機１の存在を知らせることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５３９】

また、扉枠３は、貫通口１１１の上側の扉枠トップユニット５７０において、左右方向中央で前方へ突出しているトップ中装飾部材５７６を備えると共に、トップ中装飾部材５７６の左右両側の前面を、後方へ抉れるように窪んだ形状（扉枠トップユニット５７０の左右両端の前端と、トップ中装飾部材５７６の左右両端の前端とを結んだ直線よりも、扉枠トップユニット５７０におけるトップ中装飾部材５７６の左右両側の前面が後方へ位置するように凹状に湾曲した形状）に形成されている。これにより、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６のみが前方へ大きく突出しているように見えるため、遊技者に対してトップ中装飾部材５７６を目立たせて強調して見せることができ、トップ中装飾部材５７６に強く注目させることができる。

【０５４０】

ところで、従来のパチンコ機における扉枠の上部には、左右に離間した一対の上部スピーカが備えられており二つの上部スピーカが目立っていた。これに対して、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１の上側に取付けられている扉枠トップユニット５７０において、左右両端にパンチングメタルからなるスピーカカバー５７５により前面が保護された一対の上部スピーカ５７３を備えた上で、中央のトップ中装飾部材５７６の左右両側からスピーカカバー５７５の前を通って左右方向両端まで延びたトップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０を備え、トップ左装飾レンズ部材５７９及びトップ右装飾レンズ部材５８０の前面全体を、発光装飾できるようにしている。これにより、扉枠３の前面上部を全体的に装飾することができるため、扉枠３の上部において、一対の上部スピーカ５７３が目立たなくなり、従来のパチンコ機とは明らかに異なる装飾が施されていることを一見して遊技者に認識させることができ、遊技者に対する訴求力の高いパチンコ機１とすることができると共に、一対の上部スピーカ５７３により良質なステレオサウンドを遊技者に楽しませることができる。

【０５４１】

このように、本実施形態の扉枠３は、貫通口１１１より下側と上側において、皿ユニット３２０に取付けられている演出操作ユニット４００と、扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６とが、夫々左右方向の中央で前方へ大きく突出しているため、左右方向中央を通る仮想線が目立つような上下において統一感のある装飾を遊技者に見せることができると共に、洗練された感じの装飾により他のパチンコ機よりも目立たせることができ、訴求力の高いパチンコ機１とすることができる。

【０５４２】

また、扉枠３は、左右方向の中央において上下に配置されている扉枠トップユニット５７０のトップ中装飾部材５７６と演出操作ユニット４００とを、前方へ突出させているため、トップ中装飾部材５７６及び演出操作ユニット４００を発光装飾させると、扉枠３の前面の左右方向中央で上下に延びたような発光ラインを遊技者に見せることができ、遊技者の視線を左右方向中央に配置された演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０等に誘導させることができる。

【０５４３】

［４．本体枠の全体構成］

本実施形態のパチンコ機１における本体枠４について、図９１乃至図９４を参照して説明する。図９１は本体枠を前から見た斜視図であり、図９２は本体枠を後ろから見た斜視

図である。また、図９３は本体枠を主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９４は本体枠を主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。本実施形態の本体枠４は、図示するように、前方が開放された箱状に形成されており、内部に遊技盤５が着脱可能に収容される。この本体枠４は、正面左辺側前端の上下において、遊技ホールの島設備に取付けられる枠状の外枠２に開閉可能に取付けられると共に、開放された前面側が閉鎖されるように扉枠３が開閉可能に取付けられるものである。

【０５４４】

本実施形態の本体枠４は、一部が外枠２の枠内に挿入可能とされると共に遊技盤５の外周を支持可能とされた枠状の本体枠ベース６００と、本体枠ベース６００の正面視左側の上下両端に取付けられ外枠２の外枠側上ヒンジ部材６０及び外枠側下ヒンジ部材７０に夫々回転可能に取付けられると共に扉枠３の扉枠側上ヒンジ部材１４０及び扉枠側下ヒンジ部材１５０が夫々回転可能に取付けられる本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０と、本体枠ベース６００の正面視左側面に取付けられる補強フレーム６６０と、を備えている。

【０５４５】

また、本体枠４は、本体枠ベース６００の前面下部に取付けられており遊技盤５の遊技領域５ａ内に遊技球を打込むための球発射装置６８０と、本体枠ベース６００の正面視右側面に取付けられており外枠２と本体枠４、及び扉枠３と本体枠４の間を施錠する施錠ユニット７００と、本体枠ベース６００の正面視上辺及び左辺に沿って後側に取付けられており遊技者側へ遊技球を払出す逆Ｌ字状の払出ユニット８００と、本体枠ベース６００の後面下部に取付けられている基板ユニット９００と、本体枠ベース６００の後側に開閉可能に取付けられ本体枠ベース６００に取付けられた遊技盤５の後側を覆う裏カバー９８０と、を備えている。

【０５４６】

［４－１．本体枠ベース］

本実施形態における本体枠４の本体枠ベース６００は、図９１乃至図９４に示すように、正面視の形状が上下に延びた長方形に形成されている。この本体枠ベース６００は、上端よりやや下側の位置から全高の約３／４の高さの範囲で前後に貫通しており遊技盤５が前側から挿入される遊技盤挿入口６０１と、遊技盤挿入口６０１の下辺を形成しており遊技盤５が載置される遊技盤載置部６０２と、遊技盤載置部６０２の左右方向中央から上方へ突出しており遊技盤５の下端の左右及び後方への移動を規制する遊技盤規制部６０３と、を備えている。

【０５４７】

また、本体枠ベース６００は、遊技盤載置部６０２の正面視右下側に形成されている球発射装置６８０を取付けるための発射装置取付部６０４と、発射装置取付部６０４の正面視右側で前後に貫通しており施錠ユニット７００の鍵シリンダ７１０が挿通されるシリンダ挿通口６０５と、遊技盤載置部６０２の正面視左右中央から左寄り下側で前後に貫通しており基板ユニット９００の扉枠用中継基板９１１を前方へ臨ませる接続用開口部６０６と、遊技盤載置部６０２の正面視左下側で前後に貫通しており基板ユニット９００におけるスピーカユニット９２０を前方へ臨ませる円形状のスピーカ用開口部６０７と、を備えている。

【０５４８】

更に、本体枠ベース６００は、遊技盤挿入口６０１の正面視右辺から後方へ板状に延出しており、右側面に施錠ユニット７００が取付けられると共に、後端に裏カバー９８０が回動可能に取付けられる後方延出部６０８を備えている。また、本体枠４の本体枠ベース６００は、後面における正面視左端の上下両端部付近に形成されており、本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０を取付けるための上ヒンジ取付部６０９及び下ヒンジ取付部６１０を備えている。

【０５４９】

また、本体枠ベース６００は、接続用開口部６０６を開閉可能に閉鎖する開口カバー６

１５と、遊技盤載置部６０２の正面視左右中央より左側でやや下側の位置に回動可能に取付けられ、遊技盤挿入口６０１に挿通された遊技盤５の前方への移動を規制可能な遊技盤ロック部材６１６と、を備えている。

【０５５０】

［４－２．本体枠側上ヒンジ部材及び本体枠側下ヒンジ部材］

本実施形態における本体枠４の本体枠側上ヒンジ部材６２０と本体枠側下ヒンジ部材６４０について、図９１乃至図９４を参照して説明する。この本体枠側上ヒンジ部材６２０及び本体枠側下ヒンジ部材６４０は、本体枠ベース６００の上ヒンジ取付部６０９及び下ヒンジ取付部６１０に取付けられるものである。

【０５５１】

本体枠側上ヒンジ部材６２０は、水平に延びた平板状の板材の後部が下方へＬ字状に折り曲げられている上ヒンジ本体６２１と、上ヒンジ本体６２１の前端から上方へ円柱状に突出しており外枠側上ヒンジ部材６０に軸支される本体枠上ヒンジピン６２２と、本体枠上ヒンジピン６２２の正面視左側で上ヒンジ本体６２１を貫通しており扉枠側上ヒンジ部材１４０を軸支するための扉枠用上ヒンジ孔６２３と、を備えている。本体枠側上ヒンジ部材６２０は、上ヒンジ本体６２１における下方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース６００の上ヒンジ取付部６０９に取付けられる。

【０５５２】

本体枠側下ヒンジ部材６４０は、水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第一本体６４１と、下ヒンジ第一本体６４１の前端で上下に貫通しており外枠２の外枠側下ヒンジ部材７０に軸支される外枠用下ヒンジ孔（図示は省略）と、下ヒンジ第一本体６４１の上側に配置されており水平に延びた平板状の板材の後部が上方へＬ字状に折り曲げられている下ヒンジ第二本体６４３と、下ヒンジ第二本体６４３の前端で上下に貫通しており扉枠３の扉枠側下ヒンジ部材１５０を軸支するための扉枠用ヒンジ孔６４４と、下ヒンジ第二本体６４３の水平に延びている部位における扉枠用ヒンジ孔６４４よりも後側で左端から上方へ延出しており扉枠３の回動範囲を規制するための規制片６４５と、を備えている。

【０５５３】

下ヒンジ第二本体６４３は、水平に延びた部位が、下ヒンジ第一本体６４１の水平に延びた部位の上側に一定の間隔を開けた状態で、上方へ折り曲げられた部位が下ヒンジ第一本体６４１の上方へ折り曲げられた部位の前面に当接している。この本体枠側下ヒンジ部材６４０は、下ヒンジ第一本体６４１及び下ヒンジ第二本体６４３の上方へ折り曲げられた部位が、本体枠ベース６００の下ヒンジ取付部６１０に取付けられる。

【０５５４】

［４－３．補強フレーム］

本実施形態における本体枠４の補強フレーム６６０について、図９１乃至図９４を参照して説明する。補強フレーム６６０は、本体枠ベース６００の左側面に取付けられるものである。この補強フレーム６６０は、平面視の断面形状が、右側が開放されたコ字状に形成されており、一定の断面形状で上下に延びている。また、補強フレーム６６０には、前端から右方へ延びている部位の後側に、本体枠ベース６００の遊技盤挿入口６０１に挿入された遊技盤５が前方及び上下に移動するのを規制する左位置決め部材６６１が、上下に離間して一組取付けられている。

【０５５５】

この補強フレーム６６０によって本体枠ベース６００のヒンジ側（正面視左側）を補強することができると共に、外枠２と本体枠４の間を通した左側からの本体枠４内（遊技盤５）への不正な工具の差し込みを防止することができる。

【０５５６】

［４－４．球発射装置］

本実施形態における本体枠４の球発射装置６８０について、図９１、図９３及び図９４を参照して説明する。球発射装置６８０は、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留されて

いる遊技球を、本体枠４に取付けられた遊技盤５の遊技領域５ａ内に打込むための装置である。この球発射装置６８０は、扉枠３の前面右下隅のハンドルユニット３００のハンドル３０２の回動角度に応じて、遊技球の打込強さが変化する。

【０５５７】

球発射装置６８０は、本体枠ベース６００の発射装置取付部６０４に取付けられる平板状の発射ベース６８１と、発射ベース６８１の正面視右部の後面に取付けられており回動軸が発射ベース６８１を貫通して前方へ延出しているロータリーソレノイドからなる発射ソレノイド６８２と、発射ソレノイド６８２の回転軸に基端が取付けられている打球槌６８３と、打球槌６８３の先端付近から左斜め上方へ延出するように発射ベース６８１の前面に取付けられており遊技球が転動可能な発射レール６８４と、を備えている。

【０５５８】

この球発射装置６８０は、扉枠３の球送ユニット２５０から遊技球が発射レール６８４の上面右端に供給されるようになっており、発射レール６８４の上面右端に遊技球が供給されている状態で、ハンドル３０２を回動操作すると、その回動操作角度に応じた強さで発射ソレノイド６８２が駆動して、打球槌６８３により遊技球を打球する。そして、打球槌６８３により打たれた遊技球は、発射レール６８４を通って遊技盤５の外レール１００１及び内レール１００２に案内されて遊技領域５ａ内に打込まれる。

【０５５９】

なお、遊技球の打込強さ等の関係で、打球した遊技球が遊技領域５ａ内に到達しなかった場合は、発射レール６８４と遊技盤５（外レール１００１及び内レール１００２）との間から、下方のファールカバーユニット２７０のファール球受口２７５へ落下し、ファールカバーユニット２７０内を通って下皿３２２に排出される。

【０５６０】

［４－５．施錠ユニット］

本実施形態における本体枠４の施錠ユニット７００について、図９１乃至図９４を参照して説明する。本実施形態の施錠ユニット７００は、本体枠４の本体枠ベース６００に取付けられ、本体枠４と扉枠３、本体枠４と外枠２、との間を施錠することができる。施錠ユニット７００は、本体枠ベース６００の後方延出部６０８の右側面に取付けられ上下に延びているユニットベース７０１と、ユニットベース７０１から前方へ突出しており扉枠３と係止可能な複数の扉枠用鉤７０２と、ユニットベース７０１から後方へ突出しており外枠２と係止可能な複数の外枠用鉤７０３と、ユニットベース７０１の下部にから前方に円柱状に突出していると共に、前端部から軸直角方向へ突起が突出しており、扉枠３の開閉シリンダユニット２１０の回転伝達部材２１２と係合することでシリンダ錠２１１の回転が伝達され、鍵の回動方向に応じて扉枠用鉤７０２又は外枠用鉤７０３の何れかの係止を開錠させる鍵シリンダ７１０と、を備えている。

【０５６１】

［４－６．払出ユニット］

本実施形態における本体枠４の払出ユニット８００について、図９５乃至図１１３を参照して説明する。図９５は払出ユニットを前から見た斜視図であり、図９６は払出ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図９７は払出ユニットを主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図９８は払出ユニットを主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。また、図９９（ａ）は払出ユニットの球誘導ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は球誘導ユニットを後ろから見た斜視図である。更に、図１００は、球誘導ユニットの分解斜視図である。また、図１０１（ａ）は払出ユニットの払出装置を前から見た斜視図であり、（ｂ）は払出装置を後ろから見た斜視図である。また、図１０２は払出装置を分解して前から見た分解斜視図であり、図１０３は払出装置を分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図１０４（ａ）は払出装置の正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＱ－Ｑ線で切断した断面図である。また、図１０５（ａ）は払出装置において球抜き可動片により球抜き通路を閉鎖した状態を示す説明図であり、（ｂ）は球抜き可動片により球抜き通路を開放した状態を示す説明図である。

【０５６２】
また、図１０６（ａ）は払出ユニットにおける上部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図１０７（ａ）は上部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は上部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図１０８（ａ）は払出ユニットにおける下部満タン球経路ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は下部満タン球経路ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図１０９は下部満タン球経路ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１１０は下部満タン球経路ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。更に、図１１１（ａ）は下部満タン球経路ユニットにおいて誘導路開閉扉が閉じている状態を示す説明図であり、（ｂ）は誘導路開閉扉が開いている状態を示す説明図である。また、図１１２は、扉枠のファールカバーユニットと下部満タン球経路ユニットとの関係を示す説明図である。図１１３は、払出ユニットにおける遊技球の流れを示す説明図である。

【０５６３】
本実施形態の払出ユニット８００は、図９５及び図９６等に示すように、本体枠ベース６００の後側に取付けられる逆Ｌ字状の払出ユニットベース８０１と、払出ユニットベース８０１の上部に取付けられており上方へ開放された左右に延びた箱状で図示しない遊技ホールの島設備から供給される遊技球を貯留する球タンク８０２と、球タンク８０２の下側で払出ユニットベース８０１に取付けられており球タンク８０２内の遊技球を正面視左方向へ誘導する左右に延びたタンクレール８０３と、を備えている。タンクレール８０３内では、遊技球を左方へ誘導させながら、上方から揺動可能に垂下している球均し部材８０４（図１１３を参照）によって、前後二列に整列させる。

【０５６４】
また、払出ユニット８００は、払出ユニットベース８０１における正面視左側上部の後面に取付けられタンクレール８０３からの遊技球を蛇行状に下方へ誘導する球誘導ユニット８２０と、球誘導ユニット８２０の下側で払出ユニットベース８０１から着脱可能に取付けられており球誘導ユニット８２０により誘導された遊技球を払出制御基板ボックス９５０に収容された払出制御基板９５１からの指示に基づいて一つずつ払出す払出装置８３０と、を備えている。タンクレール８０３から払出装置８３０までは、遊技球が二列で流通し、払出装置８３０からは、遊技球が一つずつ払出される。

【０５６５】
更に、払出ユニット８００は、払出ユニットベース８０１の後面に取付けられ払出装置８３０によって払出された遊技球を下方へ誘導すると共に皿ユニット３２０における上皿３２１での遊技球の貯留状態に応じて遊技球を通常放出口８５０ｄ又は満タン放出口８５０ｅの何れかから放出させる上部満タン球経路ユニット８５０と、払出ユニットベース８０１の下端に取付けられ上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１、満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２、及び通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を本体枠４に対する扉枠３の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉８６３、を有した下部満タン球経路ユニット８６０と、を備えている。

【０５６６】
［４－６ａ．球誘導ユニット］
本実施形態における払出ユニット８００の球誘導ユニット８２０について、図９９及び図１００を参照して説明する。球誘導ユニット８２０は、上下に延びており後側が開放された箱状の前ケース８２１と、前ケース８２１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の後ケース８２２と、前ケース８２１と後ケース８２２との間に取付けられており前ケース８２１と後ケース８２２と間を仕切る平板状の仕切板８２３と、仕切板８２３を貫通して前後両端が前ケース８２１及び後ケース８２２に取付けられている棒状の軸部材８２４と、軸部材８２４によって回動可能に取付けられており前ケース８２１内及び後ケ

ース８２２内に夫々配置されている一対の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６と、前ケース８２１内に取付けられており一対の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の回動位置を検知可能な球切れ検知センサ８２７と、を備えている。

【０５６７】

前ケース８２１は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口８２１ａと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２１ｂと、球誘導入口８２１ａと球誘導出口８２１ｂとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２１ｃと、を備えている。誘導通路８２１ｃは、球誘導入口８２１ａから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２１ｄと、導入部８２１ｄから前ケース８２１の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２１ｅと、検知部８２１ｅから前ケース８２１の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２１ｆと、で構成されている。また、前ケース８２１は、誘導通路８２１ｃにおける検知部８２１ｅの正面視右側の壁に切欠部８２１ｇを備えている。

【０５６８】

後ケース８２２は、右側面の上部において遊技球が通過可能に開口している球誘導入口８２２ａと、底面の左右方向中央よりも右寄りの位置で遊技球が通過可能に開口している球誘導出口８２２ｂと、球誘導入口８２２ａと球誘導出口８２２ｂとを連通しており遊技球が流通可能な誘導通路８２２ｃと、を備えている。誘導通路８２２ｃは、球誘導入口８２２ａから左端付近まで水平に対して小さい角度で低くなるように斜めに延びている導入部８２２ｄと、導入部８２２ｄから後ケース８２２の左辺に沿って高さの中央付近まで下方へ真っ直ぐ延びている検知部８２２ｅと、検知部８２２ｅから後ケース８２２の左右の幅で蛇行状に延びている蛇行部８２２ｆと、で構成されている。また、後ケース８２２は、誘導通路８２２ｃにおける検知部８２２ｅの正面視右側の壁に切欠部８２２ｇを備えている。

【０５６９】

この後ケース８２２は、前ケース８２１に対して左右に略対称に形成されており、球誘導ユニット８２０に組立てた状態で、誘導通路８２１ｃと誘導通路８２２ｃとが前後に一致するように形成されている。

【０５７０】

軸部材８２４は、前ケース８２１及び後ケース８２２における切欠部８２１ｇ，８２２ｇの上端の下側且つ誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの外側の位置に前後の端部が取付けられている。

【０５７１】

可動片部材前８２５は、上下に延びた平板状の可動片８２５ａと、可動片８２５ａの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材８２４が挿通される軸孔８２５ｂと、可動片８２５ａの上端から可動片８２５ａの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部８２５ｃと、延出部８２５ｃと可動片８２５ａとを連結しており軸孔８２５ｂを中心に扇状に延びている連結部８２５ｄと、延出部８２５ｃの上部及び連結部８２５ｄの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部８２５ｅと、延出部８２５ｃの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ８２７により検知可能な検知片８２５ｆと、連結部８２５ｄの外周における可動片８２５ａに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片８２５ｇと、を備えている。

【０５７２】

この可動片部材前８２５は、軸孔８２５ｂに軸部材８２４を通すと、その自重によって、連結部８２５ｄの外周から突出している錘取付部８２５ｅが、軸孔８２５ｂの直下に位置するように回動し、可動片８２５ａが軸孔８２５ｂの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット８２０を組立てた状態では、連結部８２５ｄが前ケース８２１の切欠部８２１ｇに挿通されて、可動片８２５ａの下端が誘導通路８２１ｃ内に突出した状態となると共に、ストッパ片８２５ｇが誘導通路８２１ｃ（検知部８２１ｅ）の

外壁に当接した状態となる。このストッパ片８２５ｇが誘導通路８２１ｃの外壁に当接することで、可動片８２５ａの下端が、誘導通路８２１ｃ内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材前８２５は、可動片８２５ａの下端を、誘導通路８２１ｃの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片８２５ａの左側の面が、誘導通路８２１ｃの内面と一致する。この状態では、可動片部材前８２５の検知片８２５ｆは、球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路８２１ｃ内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ８２７が非検知となる。

【０５７３】

可動片部材後８２６は、上下に延びた平板状の可動片８２６ａと、可動片８２６ａの右側の面の上端で前後に貫通しており軸部材８２４が挿通される軸孔８２６ｂと、可動片８２６ａの上端から可動片８２６ａの右面に対して直角に右方向へ延びている延出部８２６ｃと、延出部８２６ｃと可動片８２６ａとを連結しており軸孔８２６ｂを中心に扇状に延びている連結部８２６ｄと、延出部８２６ｃの上部及び連結部８２６ｄの外周の中央付近から外方へ夫々突出しており前後に貫通している貫通孔を有した錘取付部８２６ｅと、延出部８２６ｃの右側先端から外方へ平板状に延出しており球切れ検知センサ８２７により検知可能な検知片８２６ｆと、連結部８２６ｄの外周における可動片８２６ａに近い位置から外方へ平板状に延出しているストッパ片８２６ｇと、を備えている。

【０５７４】

この可動片部材後８２６は、軸孔８２６ｂに軸部材８２４を通すと、その自重によって、連結部８２６ｄの外周から突出している錘取付部８２６ｅが、軸孔８２６ｂの直下に位置するように回動し、可動片８２６ａが軸孔８２６ｂの部位から斜め下方へ延出した状態となる。従って、球誘導ユニット８２０を組立てた状態では、連結部８２６ｄが後ケース８２２の切欠部８２２ｇに挿通されて、可動片８２６ａの下端が誘導通路８２２ｃ内に突出した状態となると共に、ストッパ片８２６ｇが誘導通路８２２ｃ（検知部８２２ｅ）の外壁に当接した状態となる。このストッパ片８２６ｇが誘導通路８２２ｃの外壁に当接することで、可動片８２６ａの下端が、誘導通路８２２ｃ内へ突出する方向（正面視左方向）へこれ以上回動するのが規制される。また、可動片部材後８２６は、可動片８２６ａの下端を、誘導通路８２２ｃの壁に接近させる方向（正面視右方向）へ回動させると、可動片８２６ａの左側の面が、誘導通路８２２ｃの内面と一致する。この状態では、可動片部材後８２６の検知片８２６ｆは、球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となる。つまり、誘導通路８２２ｃ内に遊技球がある時は、球切れ検知センサ８２７が非検知となる。

【０５７５】

本実施形態の球誘導ユニット８２０は、タンクレール８０３によって複数の遊技球が前後に夫々一列で並ばされた状態で供給され、複数の遊技球が一列に並んだ状態で、前ケース８２１及び後ケース８２２によって、前後に二列の状態で下方の払出装置８３０へ誘導することができる（図１１３を参照）。この際に、前ケース８２１と後ケース８２２とは仕切板８２３によって仕切られているため、夫々の誘導通路８２１ｃ，８２２ｃを流通する遊技球が、互いに干渉し合うことはなく、良好に流通することができる。

【０５７６】

また、球誘導ユニット８２０の誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を遊技球が流通すると、遊技球が可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の可動片８２５ａ，８２６ａに当接し、可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁面と一致する方向へ可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６が回動する。これにより、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の検知片８２５ｆ，８２６ｆが球切れ検知センサ８２７に対して非検知の状態となり、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に遊技球があることが判る。

【０５７７】

そして、球誘導ユニット８２０の下流側の払出装置８３０により遊技球の払出し等が行われると、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の遊技球が下流へ流れることとなる。誘導通路

８２１ｃ，８２２ｃ内を遊技球が流れると、導入部８２１ｄ，８２２ｄを流れる遊技球の勢いが強くなり、導入部８２１ｄ，８２２ｄを流れた遊技球が、検知部８２１ｅ，８２２ｅの上部で可動片８２５ａ，８２６ａ側へ跳ね返り、可動片８２５ａ，８２６ａに当接することとなる。この遊技球の当接により、可動片８２５ａ，８２６ａが振動することとなるため、その振動により可動片８２５ａ，８２６ａと誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの切欠部８２１ｇ，８２２ｇとの間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片８２５ａ，８２６ａが良好に回動できるようになる。

【０５７８】

また、球誘導ユニット８２０は、各誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を流通する遊技球を夫々別々の可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６によって検知するようにしていると共に、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の夫々の検知片８２５ｆ，８２６ｆを一つの球切れ検知センサ８２７で検知するようにしているため、何れかの誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の遊技球がなくなると、可動片部材前８２５又は可動片部材後８２６の可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内へ突出するように回動し、遊技球のなくなった側の検知片８２５ｆ，８２６ｆが球切れ検知センサ８２７で検知される。従って、遊技球の球切れを早期に検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【０５７９】

更に、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに、錘として金属ビスを捩じ込んで取付けることで、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６と錘の重量とによって、可動片８２５ａ，８２６ａの下端側を、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に突出する方向へ回動させ易くすることができる。また、可動片８２５ａ，８２６ａの上端を誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に突出するようにしているため、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の埃やゴミ等が、可動片８２５ａ，８２６ａの上端や下端に付着することがない。従って、可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁側に回動しても、可動片８２５ａ，８２６ａの下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片８２５ａ，８２６ａが回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

【０５８０】

このように、本実施形態の球誘導ユニット８２０は、自重によって下端側が遊技球の流通する誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内へ突出する可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の可動片８２５ａ，８２６ａにおいて、遊技球と当接する面の反対側の錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに金属ビスからなる錘を取付けることで、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６の自重と錘の重量とによって、可動片８２５ａ，８２６ａの下端側を誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に回動（突出）させ易くすることができる。また、可動片８２５ａ，８２６ａの上端を誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの外側で回動可能に取付けて、下端側が誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内に突出するようにしているため、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の埃やゴミ等が、可動片８２５ａ，８２６ａの上端や下端に付着することがない。従って、可動片８２５ａ，８２６ａが誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁側に回動しても、可動片８２５ａ，８２６ａの下端と壁との間に埃やゴミ等が噛み込むことはないため、自重等によって良好に回動することができ、可動片８２５ａ，８２６ａ（可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６）が回動しなくなるような不具合の発生を抑制することができる。

【０５８１】

また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに捩じ込んで取付けるため、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６が頻繁に回動しても、錘が可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６（錘取付部８２５ｅ，８２６ｅ）から外れることがなく、長期に亘って可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６を良好な状態に維

持することができる。また、錘取付部８２５ｅ，８２６ｅに金属ビスを捩じ込むだけで、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機１の組立てに係るコストを低減させることができる。

【０５８２】

更に、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内において可動片８２５ａ，８２６ａが内部に突出する部位よりも上流側に、可動片８２５ａ，８２６ａへ向かって遊技球を誘導させる導入部８２１ｄ，８２２ｄを備えていることから、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内を遊技球が流れることで、遊技球が可動片８２５ａ，８２６ａに当接するため、遊技球の当接によって可動片８２５ａ，８２６ａを振動させることができる。従って、可動片８２５ａ，８２６ａの振動により、可動片８２５ａ，８２６ａと誘導通路８２１ｃ，８２２ｃの壁との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を除去することができ、自重等によって可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６が良好に回動するようにできる。

【０５８３】

従って、可動片部材前８２５及び可動片部材後８２６を良好に回動させることができるため、誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の遊技球の状態（有無）を確実に検知させることができ、遊技球の誤検知等による不具合の発生を抑制させることができる。また、払出装置８３０へ供給される遊技球が誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内からなくなっても、可動片８２５ａ，８２６ａを介して確実に誘導通路８２１ｃ，８２２ｃ内の有無を検知することができるため、速やかに遊技球を補充させることができ、遊技が中断する時間を可及的に短くすることで、遊技者の興趣の低下を抑制することができる。

【０５８４】

［４－６ｂ．払出装置］

本実施形態における払出ユニット８００の払出装置８３０について、図１０１乃至図１０５を参照して説明する。払出装置８３０は、後側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口８３１ａ、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口８３１ｂ、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口８３１ｃ、払出入口８３１ａと払出出口８３１ｂとを連通しており遊技球が流通可能な払出通路８３１ｄ、及び払出通路８３１ｄの途中から分岐して球抜き出口８３１ｃと連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路８３１ｅ、を有している前箱８３１と、前箱８３１の後側に取付けられており前側が開放されている箱状で、上面における左右方向中央に遊技球が通過可能に開口している払出入口８３２ａ、底面における正面視左端付近で遊技球が通過可能に開口している払出出口８３２ｂ、底面における正面視右端付近で遊技球が通過可能に開口している球抜き出口８３２ｃ、払出入口８３２ａと払出出口８３２ｂとを連通しており遊技球が流通可能な払出通路８３２ｄ、及び払出通路８３２ｄの途中から分岐して球抜き出口８３２ｃと連通しており遊技球が流通可能な球抜き通路８３２ｅ、を有している後箱８３２、を備えている。

【０５８５】

また、払出装置８３０は、前箱８３１の前側に取付けられており後側が開放されている浅い箱状の前カバー８３３と、前箱８３１内に取付けられており回転軸が前箱８３１を貫通して前カバー８３３内に延出している払出モータ８３４と、払出モータ８３４の回転軸に取付けられている駆動ギア８３５と、駆動ギア８３５と噛合しており前箱８３１と前カバー８３３とで回転可能に取付けられている平歯車状の中間ギア８３６と、中間ギア８３６と噛合している従動ギア８３７と、従動ギア８３７が回転可能に貫通しており前端が前カバー８３３に取付けられていると共に後端が前箱８３１を貫通して後箱８３２に取付けられている軸部材８３８と、軸部材８３８を貫通して回転可能に取付けられていると共に前箱８３１及び後箱８３２の払出通路８３１ｄ，８３２ｄ内に配置されており従動ギア８３７と一体回転する払出羽根８３９と、前箱８３１と後箱８３２との間に取付けられており払出羽根８３９の回転を検知する羽根回転検知センサ８４０と、を備えている。

【０５８６】

更に、払出装置８３０は、前箱８３１と後箱８３２の間に取付けられており前箱８３１の払出通路８３１ｄと後箱８３２の払出通路８３２ｄとを仕切る平板状の仕切板８４１と、前箱８３１と後箱８３２との間に取付けられており払出羽根８３９の回転により払出されて払出出口８３１ｂ，８３２ｂから放出される遊技球を検知する払出検知センサ８４２と、払出通路８３１ｄ，８３２ｄと球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅとが分岐している部位で前箱８３１と後箱８３２とによって回動可能に取付けられており球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖可能な球抜き可動片８４３と、前箱８３１及び後箱８３２の正面視右側面上部で上下にスライド可能に取付けられており球抜き可動片８４３を回動可能又は回動不能とする球抜きレバー８４４と、を備えている。

【０５８７】

前箱８３１の払出通路８３１ｄは、払出入口８３１ａから球抜き出口８３１ｃへ向かうように正面視右下へ斜めに延び、前箱８３１の全高に対して上面から約１／３の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、前箱８３１の左右の幅に対して左端から約１／３のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、前箱８３１の全高に対して底面から約１／４の高さのところで払出出口８３１ｂの直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口８３１ｂへ垂直に延びている。払出通路８３１ｄ内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根８３９が配置される。

【０５８８】

一方、球抜き通路８３１ｅは、払出通路８３１ｄにおいて払出入口８３１ａから右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、前箱８３１の全高に対して上面から約１／３の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【０５８９】

また、前箱８３１は、払出通路８３１ｄ内の払出出口８３１ｂへ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って後方へ突出している誘導棚８３１ｆと、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー８４４を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部８３１ｇと、を備えている。

【０５９０】

後箱８３２の払出通路８３２ｄは、払出入口８３２ａから球抜き出口８３２ｃへ向かうように正面視右下へ斜めに延び、後箱８３２の全高に対して上面から約１／３の高さのところで下方へ垂直に延びるように折れ曲がり、全高の中央付近で左方へ略水平に延びるように曲がった後に、後箱８３２の左右の幅に対して左端から約１／３のところで再び下方へ垂直に延びるように折れ曲がっており、後箱８３２の全高に対して底面から約１／４の高さのところで払出出口８３２ｂの直上へ位置するようにクランク状に折れ曲がって払出出口８３２ｂへ垂直に延びている。払出通路８３２ｄ内のクランク状に折れ曲がっている部位に払出羽根８３９が配置される。

【０５９１】

一方、球抜き通路８３２ｅは、払出通路８３２ｄにおいて払出入口８３２ａから右下へ斜めに延びている部位を更に延長する形態で、後箱８３２の全高に対して上面から約１／３の高さから中央付近の高さまでの間で分岐している。

【０５９２】

また、後箱８３２は、払出通路８３２ｄ内の払出出口８３２ｂへ向かって垂直に延びている部位において下方へ向かうに従って前方へ突出している誘導棚８３２ｆと、正面視右側面の上部に形成されており球抜きレバー８４４を上下にスライド可能に取付けるためのレバー取付部８３２ｇと、を備えている。

【０５９３】

前箱８３１及び後箱８３２の払出通路８３１ｄ，８３２ｄと球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅは、同じ形状に形成されている。払出通路８３１ｄ，８３２ｄは、払出羽根８３９が配置されている部位の上流までが仕切板８４１によって仕切られている。また、誘導棚８３１ｆ，８３２ｆと払出出口８３１ｂ，８３２ｂとの間に、払出検知センサ８４２が取付

けられている。つまり、前箱８３１の払出通路８３１ｄを流通した遊技球と、後箱８３２の払出通路８３２ｄを流通した遊技球とは、夫々の誘導棚８３１ｆ，８３２ｆによって前箱８３１と後箱８３２との前後の境界付近に寄せられて、一つの払出検知センサ８４２により検知される。

【０５９４】

従動ギア８３７は、中間ギア８３６と噛合する平歯車状のギア部８３７ａと、ギア部８３７ａの後面から周方向へ６０度の角度の間隔で放射状に突出しており羽根回転検知センサ８４０によって検知可能な複数の検知片８３７ｂと、ギア部８３７ａの中心から後方へ円筒状に突出していると共に後端の周面に凹凸が形成されており払出羽根８３９と連結可能な連結部８３７ｃと、を備えている。

【０５９５】

払出羽根８３９は、前後に円筒状に延びており軸部材８３８が挿通されるベース筒部８３９ａと、ベース筒部８３９ａの前端から周方向に一定間隔でベース筒部８３９ａの軸直角方向へ突出している複数（三つ）の前羽根８３９ｂと、ベース筒部８３９ａの後端から前羽根８３９ｂとは互い違いとなるように周方向に一定間隔でベース筒部８３９ａの軸直角方向へ突出している複数（三つ）の後羽根８３９ｃと、ベース筒部８３９ａの前端から前方へ筒状に突出していると共に前端の周面に従動ギア８３７の連結部８３７ｃと連結可能な凹凸が形成されている被連結部８３９ｄと、を備えている。

【０５９６】

払出羽根８３９の前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃは、周方向へ１２０度の角度の間隔で夫々三つずつ備えられており、互い違いとなるように、前羽根８３９ｂに対して後羽根８３９ｃが、周方向へ６０度の角度でオフセットして外方へ延出している。本実施形態の払出羽根８３９は、三つの前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間が中心側へ窪んだ円弧によって結ばれており、その円弧の直径が遊技球の直径と同じか若干大きい。これにより、前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間には、遊技球が一つのみ収容することが可能な球収容部８３９ｅが形成されている。

【０５９７】

また、三つの前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃは、ベース筒部８３９ａの軸を中心としたそれらの外周の直径Ｄ１が、遊技球の外径の１～１．４倍に形成されている。また、前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間の円弧の部位（球収容部８３９ｅ）におけるベース筒部８３９ａの軸に最も接近した部位までの、ベース筒部８３９ａの軸を中心とした直径Ｄ２は、遊技球の外径の約０．３～０．４倍に形成されている。つまり、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの外周から球収容部８３９ｅの最も凹んだ部位までの深さ［（直径Ｄ１－直径Ｄ２）／２］が、遊技球の外径の０．１～０．４倍とされている。

【０５９８】

従って、前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間の円弧の部位（球収容部８３９ｅ）により、遊技球の外周の約３／１０（１／４～１／３の間）を保持することができる。換言すると、遊技球の外径の約１／５（１／７～１／４）の深さを収容することができる。これにより、払出通路８３１ｄ，８３２ｄ内の遊技球を、速やかに前羽根８３９ｂ（後羽根８３９ｃ）同士の間（球収容部８３９ｅ）に収容することができる。

【０５９９】

本実施形態の払出羽根８３９は、払出装置８３０を組立てた状態で、前羽根８３９ｂが前箱８３１の払出通路８３１ｄ内に、後羽根８３９ｃが後箱８３２の払出通路８３２ｄ内に位置し、夫々の払出通路８３１ｄ，８３２ｄ内の遊技球を、夫々払出すことができる。また、払出羽根８３９は、払出通路８３１ｄ，８３２ｄにおいて、前箱８３１及び後箱８３２の全高の中央よりも下側でクランク状に折れ曲がっている部位に配置されている。詳しくは、払出通路８３１ｄ，８３２ｄにおいて、前箱８３１及び後箱８３２の全高の中央付近から下方へ垂直に延びている部位の直下に、払出羽根８３９の回転中心が位置している。そして、払出通路８３１ｄ，８３２ｄのクランク状に折れ曲がっている部位では、払出羽根８３９から遠い側の壁（内壁）が、払出羽根８３９の回転中心を中心とし、前羽根

８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの外周から遊技球の外径よりも小さい距離Ｓだけ離れた円弧状に形成されている。なお、本実施形態では、距離Ｓが、遊技球の外径の０．７～０．９倍とされている。換言すると、球収容部８３９ｅの最も凹んだ部位から払出通路８３１ｄ，８３２ｄの円弧状に形成されている部位までの距離が、遊技球の外径の１．０３～１．１倍とされている。

【０６００】

これにより、払出装置８３０は、払出羽根８３９上に流下してきた遊技球が、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの外周に当接すると、払出通路８３１ｄ，８３２ｄのクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができず、払出出口８３１ｂ，８３２ｂから下方へ放出されることはない。一方、遊技球が、球収容部８３９ｅに収容されると、払出羽根８３９の回転と共に移動し、払出通路８３１ｄ，８３２ｄのクランク状に折れ曲がっている部位を通ることができ、払出出口８３１ｂ，８３２ｂから下方へ放出される。

【０６０１】

また、払出装置８３０では、前羽根８３９ｂ及び後羽根８３９ｃの直径Ｄ１を、遊技球の外径の約１．２～１．４倍とすると共に、球収容部８３９ｅにより遊技球の外径の１／７～１／４の深さを収容するようにしているため、払出羽根８３９の外径を可及的に小さくしつつ、遊技球の収容にかかる時間を短くすることができる。これにより、払出羽根８３９を速く回転させても、球収容部８３９ｅに遊技球を収容させて、払出出口８３１ｂ，８３２ｂ側へ送ることができる。従って、従来よりも単位時間当りの遊技球の払出数を多くすることができ、遊技球の払出しにかかる時間を短縮することができる。

【０６０２】

球抜き可動片８４３は、上下及び前後に板状に延びており下部が折れ曲がって正面視く字状に形成されている本体部８４３ａと、本体部８４３ａの上端で前後に筒状に延びており両端が夫々前箱８３１及び後箱８３２に回動可能に取付けられる軸筒部８４３ｂと、本体部８４３ａのく字状に折れ曲がっている外側面の上部から突出している突出部８４３ｃと、本体部８４３ａのく字状に折れ曲がっている下部において前後に貫通している貫通孔からなる錘取付部８４３ｄ（図１０５を参照）と、を備えている。

【０６０３】

球抜き可動片８４３は、払出装置８３０を組立てた状態では、本体部８４３ａの下部が正面視斜め左下へ延びるような向きで、上端の軸筒部８４３ｂが、前箱８３１及び後箱８３２の払出通路８３１ｄ，８３２ｄにおいて、払出入口８３１ａ，８３２ａから正面視右下へ斜めに延びている部位で、且つ、下方へ折れ曲がる部位よりもやや上側の正面視右側の壁の外側の位置で、回動可能に取付けられている。

【０６０４】

本実施形態の払出装置８３０は、通常の状態では、球抜きレバー８４４を下方へスライドさせた状態としており、球抜きレバー８４４の下部が球抜き可動片８４３の突出部８４３ｃに正面視右側から当接している。これにより、球抜き可動片８４３は、正面視反時計回りへの回動が規制されている（図１０５（ａ）を参照）。

【０６０５】

この通常の状態では、球抜き可動片８４３のく字状に折れ曲がっている本体部８４３ａにおいて、曲がっている部位よりも上側が垂直に延びていると共に、曲がっている部位の下側が正面視斜め左下へ延びている。そして、本体部８４３ａの下端は、払出通路８３１ｄ，８３２ｄと球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅとが分岐している部位の近傍に位置している。従って、球抜き可動片８４３（本体部８４３ａ）によって、球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖していると共に、本体部８４３ａの左側を向いた面が、払出通路８３１ｄ，８３２ｄの一部の壁を形成している。

【０６０６】

本実施形態の球抜き可動片８４３は、通常の状態において、球抜き可動片８４３の重心が、軸筒部８４３ｂの中心を通る垂直線の正面視左側に位置するように形成されており、自重によって正面視反時計回りに回転させようとする力が作用しているが、球抜きレバー

８４４によって反時計回りへの回動が規制されているため、通常の状態が維持される。
【０６０７】
通常の状態から、球抜きレバー８４４を上方へスライドさせると、球抜きレバー８４４の下部が、球抜き可動片８４３の突出部８４３ｃから離れ、球抜き可動片８４３の正面視反時計回りへの回動の規制が解除される。従って、球抜き可動片８４３は、重心が軸筒部８４３ｂの直下へ位置するように、自重によって反時計回りへ回動することとなる。なお、球抜き可動片８４３は、本体部８４３ａの下部の右側側面が、前箱８３１及び後箱８３２の右側面を形成している部材の左面に当接するまで、反時計回りに回動することができる（図１０５（ｂ）を参照）。これにより、球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅが開放された状態となり、払出入口８３１ａ，８３２ａから進入した遊技球が、払出通路８３１ｄ，８３２ｄの途中で、球抜き可動片８４３の本体部８４３ａに当接して球抜き可動片８４３を正面視反時計回りへ回動させて球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを開放し、開放された球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを流通して球抜き出口８３１ｃ，８３２ｃから下方へ放出されることとなる。
【０６０８】
本実施形態では、球抜き可動片８４３に錘取付部８４３ｄを備えているため、この錘取付部８４３ｄに金属ビスからなる錘を捩じ込んで取付けることで、球抜きレバー８４４を上方へスライドさせて、正面視反時計回りへの回動の規制を解除した時に、球抜き可動片８４３の自重と錘の重量とによって、球抜き可動片８４３の下端を球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅ内へ突出する方向へ（正面視反時計回りに）回動させ易くすることができる。
【０６０９】
また、球抜きレバー８４４を下方へスライドさせて球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖している通常の状態において、払出入口８３１ａ，８３２ａから進入した遊技球が、球抜き可動片８４３の本体部８４３ａに当接するようにしているため、遊技球の当接によって球抜き可動片８４３を振動させることができる。従って、球抜き可動片８４３の下端と球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅの内面との間に挟まれたり侵入したりした埃やゴミ等を、球抜き可動片８４３の振動によって除去することができ、埃やゴミ等を噛み込んで球抜き可動片８４３が回動できなくなるのを防止することができる。
【０６１０】
また、錘としての金属ビスを、貫通孔とされた錘取付部８４３ｄに捩じ込んで取付けることができるため、球抜き可動片８４３が頻繁に回動しても、錘が球抜き可動片８４３（錘取付部８４３ｄ）から外れることがなく、長期に亘って球抜き可動片８４３を良好な状態に維持することができる。また、錘取付部８４３ｄに金属ビスを捩じ込むだけで、球抜き可動片８４３に錘を容易に取付けることができるため、錘の取付けの手間を簡略化することができ、パチンコ機１の組立てに係るコストを低減させることができる。
【０６１１】
ところで、球抜き可動片８４３によって球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを長期に亘って閉鎖していると、球抜き可動片８４３の回転軸に微細な埃が付着したり回転軸が錆びたりして、球抜き可動片８４３が回動し辛くなることがある。これに対して、本実施形態では、払出入口８３１ａ，８３２ａから進入した遊技球が、球抜き可動片８４３の本体部８４３ａに当接するようにしているため、球抜き可動片８４３により球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを閉鎖している状態から、閉鎖を解除する球抜きレバー８４４を上方へスライドさせてロックを外した時に、遊技球が球抜き可動片８４３に当接することで、その当接の衝撃によって球抜き可動片８４３を回動させることができ、球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを確実に開放させることができる。
【０６１２】
従って、球抜きレバー８４４を操作して球抜き通路８３１ｅ，８３２ｅを開放させる際に、球抜き可動片８４３が良好に回動することができるため、遊技球の抜取り作業を確実に行うことができ、メンテナンス等の際の作業性を良くすることができる。
【０６１３】

［４－６ｃ．上部満タン球経路ユニット］
本実施形態における払出ユニット８００の上部満タン球経路ユニット８５０について、図１０６及び図１０７を参照して詳細に説明する。上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニットベース８０１において、払出装置８３０の下側の位置に取付けられるものである。この上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニットベース８０１に取付けられ後側が開放された箱状の上部満タンベース８５１と、上部満タンベース８５１の後側に取付けられており前側が開放された箱状の上部満タンカバー８５２と、上部満タンカバー８５２の後側に回転可能に取付けられており払出装置８３０を上方へ押圧可能な払出装置押圧部材８５３と、を備えている。

【０６１４】
また、上部満タン球経路ユニット８５０は、上面における正面視左右中央から左側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部払出球受口８５０ａと、上面における正面視左右中央から右側の部位で遊技球が通過可能に上方へ開口している上部球抜き入口８５０ｂと、上部満タンベース８５１と上部満タンカバー８５２との間に形成されており上部払出球受口８５０ａに受けられた遊技球が流通する所定広さの上部球貯留通路８５０ｃと、上部球貯留通路８５０ｃの下端における上部払出球受口８５０ａの直下の部位で下方へ開口している通常放出口８５０ｄと、上部球貯留通路８５０ｃの下端における通常放出口８５０ｄを除いた部位で下方へ開口している満タン放出口８５０ｅと、通常放出口８５０ｄと満タン放出口８５０ｅとの間から上方へ突出しており上部球貯留通路８５０ｃ内の下部を左右に仕切っている仕切片８５０ｆと、を備えている。

【０６１５】
また、上部満タン球経路ユニット８５０は、上部球抜き入口８５０ｂから進入した遊技球を下方へ誘導する上部球抜き通路８５０ｇと、上部球抜き通路８５０ｇの下端で下方へ向かって開口している上部球抜き出口８５０ｈと、を備えている。この上部満タン球経路ユニット８５０は、正面視で左側から、通常放出口８５０ｄ、満タン放出口８５０ｅ、上部球抜き出口８５０ｈが順に並んで下方へ開口している。また、上部満タン球経路ユニット８５０は、上部満タンベース８５１の右端に裏カバー９８０を取付けるための裏カバー取付部８５４を備えている。

【０６１６】
この上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニット８００に組立てた状態で、上部払出球受口８５０ａが、払出装置８３０の払出出口８３１ｂ，８３２ｂの直下に位置していると共に、上部球抜き入口８５０ｂが、払出装置８３０の球抜き出口８３１ｃ，８３２ｃの直下に位置している。また、上部満タン球経路ユニット８５０は、払出ユニット８００に組立てた状態で、通常放出口８５０ｄ、満タン放出口８５０ｅ、及び上部球抜き出口８５０ｈは、下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５の夫々後端開口の直上に夫々開口している（図１１３を参照）。

【０６１７】
上部満タン球経路ユニット８５０は、払出装置８３０によって払出されて払出出口８３１ｂ，８３２ｂから下方へ放出された遊技球が、上部払出球受口８５０ａから上部球貯留通路８５０ｃ内へ進入する。上部球貯留通路８５０ｃの下端の通常放出口８５０ｄが閉鎖されていない状態では、上部払出球受口８５０ａから上部球貯留通路８５０ｃ内へ進入した遊技球が、上部払出球受口８５０ａの直下に開口している通常放出口８５０ｄから放出される。

【０６１８】
扉枠３の上皿３２１内が遊技球で満たされて遊技球を貯留させることができなくなり、更に、下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１内が遊技球で満たされると、通常放出口８５０ｄが閉鎖された状態となる。この状態で上部球貯留通路８５０ｃ内に遊技球が進入すると、通常放出口８５０ｄの上側に貯留される。そして、通常放出口８５０ｄの上側に貯留されている遊技球の量が、仕切片８５０ｆよりも高くなると、新たに上部

球貯留通路８５０ｃ内に進入してきた遊技球は、仕切片８５０ｆを乗り越えて満タン放出口８５０ｅから下方へ放出されることとなり、下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２を通って下皿３２２に送られることとなる。

【０６１９】

このように、上部満タン球経路ユニット８５０は、払出装置８３０から払出された遊技球を、扉枠３における上皿３２１での遊技球の貯留量に応じて、自動的に上皿３２１から下皿３２２へ振分けることができる。

【０６２０】

［４－６ｄ．下部満タン球経路ユニット］

本実施形態における払出ユニット８００の下部満タン球経路ユニット８６０について、図１０８乃至図１１２を参照して詳細に説明する。下部満タン球経路ユニット８６０は、払出ユニットベース８０１における上部満タン球経路ユニット８５０の下側に取付けられるものである。下部満タン球経路ユニット８６０は、上部満タン球経路ユニット８５０の通常放出口８５０ｄから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の貫通球通路２７３へ誘導する通常誘導路８６１と、上部満タン球経路ユニット８５０の満タン放出口８５０ｅから放出された遊技球を前方へ誘導して前端から扉枠３の満タン球受口２７４へ誘導する満タン誘導路８６２と、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を本体枠４に対する扉枠３の開閉に応じて開閉する誘導路開閉扉８６３と、誘導路開閉扉８６３を通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖する方向へ付勢している閉鎖バネ８６４と、を備えている。

【０６２１】

また、下部満タン球経路ユニット８６０は、上部満タン球経路ユニット８５０の上部球抜き出口８５０ｈから放出された遊技球を前方へ誘導し前後方向の中央右端から基板ユニット９００の基板ユニットベース９１０上へ放出する下部球抜き誘導路８６５を、備えている。

【０６２２】

下部満タン球経路ユニット８６０は、通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５が、正面視において、左側から順に右側へ並んでいる。これら通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５は、後端が上方へ向かって開口している。また、通常誘導路８６１、及び満タン誘導路８６２は、左右に遊技球が複数並ぶ幅で、前端側が低くなるように本体枠４の前端付近まで前方へ延びている。更に、満タン誘導路８６２は、通常誘導路８６１よりも低い位置で前方へ延びている。これら通常誘導路８６１、満タン誘導路８６２、及び下部球抜き誘導路８６５は、図示するように、上下に分割可能な上ケース８６６及び下ケース８６７によって形成されている。

【０６２３】

誘導路開閉扉８６３は、下ケース８６７の前端における通常誘導路８６１と満タン誘導路８６２との間の部位に、回動可能に取付けられており、閉鎖バネ８６４によって正面視時計回りの方向へ付勢されている。更に詳述すると、下部満タン球経路ユニット８６０の前端において、正面視で通常誘導路８６１の前端開口の右側に開口している満タン誘導路８６２は、通常誘導路８６１に対して一つの遊技球の高さ分低い位置に配置されている。そして、誘導路開閉扉８６３は、通常誘導路８６１の下側で、且つ、満タン誘導路８６２の左側の位置で、前後に延びた軸周りに対して回動可能に取付けられている。

【０６２４】

誘導路開閉扉８６３は、回転可能に取付けられる円盤状の基部８６３ａと、基部８６３ａから斜め左上側に平板状に延びており通常誘導路８６１の前端開口を閉鎖可能な第一扉板部８６３ｂと、基部８６３ａから右側に平板状に延びており満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖可能な第二扉板部８６３ｃと、基部８６３ａから斜め左下側に平板状に延びている延出部８６３ｄと、延出部８６３ｄの先端部前面から前方へ突出しており扉枠３におけるファールカバーユニット２７０の扉開閉当接部２８１と当接可能な作動突部８６３ｅと、を備えている。

【０６２５】
ここで、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖するとは、開口を密閉する必要はなく、遊技球が通過不能となれば良いことである。作動突部８６３ｅは、正面視の形状が、基部８６３ａを中心とした短い円弧状に形成されており、前端面が、反時計回りの方向の端部側へ近付くに従って前方へ突出するように傾斜している。
【０６２６】
誘導路開閉扉８６３は、閉鎖バネ８６４によって正面視時計回りの方向へ付勢されており、第二扉板部８６３ｃが、下ケース８６７の前端における満タン誘導路８６２の前端開口の下側から前方へ突出しているボス部８６７ａに当接することで、時計回りの方向への回動が規制される。
【０６２７】
本実施形態の下部満タン球経路ユニット８６０は、パチンコ機１を組立てた状態で、前端が、扉枠３のファールカバーユニット２７０における貫通球通路２７３、満タン球受口２７４、及び扉開閉当接部２８１と対向する位置に取付けられている（図１１２を参照）。そして、誘導路開閉扉８６３は、本体枠４に対して扉枠３が開いている状態では、作動突部８６３ｅに何も当接していないため、誘導路開閉扉８６３は閉鎖バネ８６４の付勢力によって、正面視時計回りの方向へ回動させられ、第二扉板部８６３ｃが下ケース８６７のボス部８６７ａに当接した状態で停止する。この状態では、第一扉板部８６３ｂと第二扉板部８６３ｃが、通常誘導路８６１と満タン誘導路８６２の前端開口の前面に位置しており、前端開口を閉鎖している（図１１１（ａ）を参照）。従って、この状態では、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２内の遊技球が、前端開口から前方へ移動することができず、扉枠３を開けても、通常誘導路８６１や満タン誘導路８６２から遊技球がこぼれることはない。
【０６２８】
そして、本体枠４に対して扉枠３を閉じると、誘導路開閉扉８６３の作動突部８６３ｅの前端面に、扉枠３におけるファールカバーユニット２７０の扉開閉当接部２８１が当接し、作動突部８６３ｅの前端面の傾斜によって、閉鎖バネ８６４の付勢力に抗して誘導路開閉扉８６３を正面視反時計回りの方向へ回動させようとする力が作用する。これにより、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を閉鎖していた第一扉板部８６３ｂと第二扉板部８６３ｃが、前端開口から離れる方向へ回動し、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が開放された状態となる（図１１１（ｂ）を参照）。この状態では、図示するように、第一扉板部８６３ｂが通常誘導路８６１の前端開口の下側に、第二扉板部８６３ｃが満タン誘導路８６２の前端開口の上側に位置している。
【０６２９】
この通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を開放させた状態では、本体枠４に対して扉枠３が完全に閉じられた状態となっていると共に、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口の前側に、扉枠３におけるファールカバーユニット２７０の貫通球通路２７３及び満タン球受口２７４が位置しており、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２側から、貫通球通路２７３及び満タン球受口２７４側へ遊技球を受渡すことができる。
【０６３０】
このように、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を上下方向に異ならせると共に、誘導路開閉扉８６３を回動させることで通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口を開閉させるようにしているため、誘導路開閉扉８６３の動作範囲を可及的に狭くすることができ、通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の開閉機構を小型化することができる。従って、相対的に他の部材のためのスペースを広くすることができ、パチンコ機１の内部空間をより有効活用することができる。
【０６３１】
本実施形態の払出ユニット８００は、扉枠３の上皿３２１が遊技球で一杯になり、上皿３２１へ遊技球を放出することができなくなった状態で、払出装置８３０から更に多くの

遊技球が払出されると、下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１内が遊技球で一杯になるまで遊技球を貯留することができる。そして、通常誘導路８６１が遊技球で一杯になった状態で払出装置８３０から更に遊技球が払出されると、上部満タン球経路ユニット８５０の上部球貯留通路８５０ｃ内において、遊技球が通常放出口８５０ｄよりも上側に留って仕切片８５０ｆを超えると、満タン放出口８５０ｅ側へ流通するようになり、満タン放出口８５０ｅから、下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２、ファールカバーユニット２７０を通って下皿３２２へ遊技球の払出しが自動的に切換えられる。その後、払出装置８３０から更に遊技球が払出されて、上皿３２１に加えて下皿３２２も遊技球で一杯になって下皿３２２へ遊技球を供給することができなくなると、ファールカバーユニット２７０の貯留通路２７７内に遊技球が貯留される。そして、貯留通路２７７内に遊技球が貯留されることで可動片２７８が回動して満タン検知センサ２７９により検知されると、上皿３２１及び下皿３２２が遊技球で満タンであることが報知されると共に、満タン検知センサ２７９による可動片２７８の検知が解除されるまで払出装置８３０による遊技球の払出しが一時的に停止される。

【０６３２】

なお、満タン検知センサ２７９による可動片２７８の検知に対する払出装置８３０による遊技球の払出しの停止を、例えば、ファールカバーユニット２７０の貯留通路２７７内に可動片２７８が検知されるまで遊技球が貯留されている状態で、その上流側の貯留通路２７７、下部満タン球経路ユニット８６０の満タン誘導路８６２、及び上部満タン球経路ユニット８５０の上部球貯留通路８５０ｃ内を満たすことが可能な数の遊技球が払出されると、払出装置８３０による遊技球の払出しを停止させるようにしても良い。これにより、従来のパチンコ機よりも多くの遊技球を貯留することができるため、大当り遊技中等の多くの遊技球が払出される遊技状態において、遊技球の払出しによって上皿３２１や下皿３２２が遊技球で一杯になることに対して気に掛ける必要を低減させることができ、遊技者を大当り遊技に専念させて楽しませることができる。

【０６３３】

［４－７．基板ユニット］

本実施形態における本体枠４の基板ユニット９００について、図９１乃至図９４を参照して説明する。本体枠４の基板ユニット９００は、本体枠ベース６００の後側に取付けられる基板ユニットベース９１０と、基板ユニットベース９１０の正面視左側で本体枠ベース６００の後側に取付けられ内部に低音用のスピーカ９２１を有したスピーカユニット９２０と、基板ユニットベース９１０の後側で正面視右側に取付けられ内部に電源基板が収容されている電源基板ボックス９３０と、スピーカユニット９２０の後側に取付けられており内部にインターフェイス制御基板が収容されているインターフェイス制御基板ボックス９４０と、電源基板ボックス９３０及びインターフェイス制御基板ボックス９４０に跨って取付けられており内部に遊技球の払出しを制御する払出制御基板９５１が収容された払出制御基板ボックス９５０と、を備えている。

【０６３４】

基板ユニット９００は、基板ユニットベース９１０の前面で、本体枠ベース６００の接続用開口部６０６から前方へ臨むように取付けられている扉枠用中継基板９１１を備えている。この扉枠用中継基板９１１は、払出制御基板９５１、主制御基板１３１０、及び周辺制御基板１５１０と、扉枠３の扉枠ベースユニット１００に取付けられている扉本体中継基板との接続を中継するためのものである。払出制御基板ボックス９５０内に収容された払出制御基板９５１によって、払出装置８３０が制御されている。

【０６３５】

［５．遊技盤の全体構成］

次に、パチンコ機１の遊技盤５の全体構成について、主に図１１４乃至図１２２を参照して詳細に説明する。図１１４は、遊技パネルのパネル板を不透明な状態とした遊技盤の正面図である。図１１５は図１１４の状態の遊技盤を右前から見た斜視図であり、図１１６は図１１４の状態の遊技盤を左前から見た斜視図であり、図１１７は遊技盤を後ろから

見た斜視図である。また、図１１８は、遊技パネルのパネル板を透明な状態とした遊技盤の正面図である。また、図１１９は、図１１４の状態の遊技盤において表ユニットを遊技領域内の前後方向の略中央で切断した正面図である。図１２０は、図１１９における矢視Ａの部位を拡大して示す正面図である。更に、図１２１は遊技盤を主な構成毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１２２は遊技盤を主な構成毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０６３６】

遊技盤５は、遊技者がハンドルユニット３００のハンドル３０２を操作することで遊技球が打込まれる遊技領域５ａを有している。また、遊技盤５は、遊技領域５ａの外周を区画し外形が正面視略四角形状とされた前構成部材１０００と、前構成部材１０００の後側に取付けられており遊技領域５ａの後端を区画する板状の遊技パネル１１００と、遊技パネル１１００の後側下部に取付けられている基板ホルダ１２００と、基板ホルダ１２００の後面に取付けられており遊技球を遊技領域５ａ内へ打込むことで行われる遊技内容を制御する主制御基板１３１０（図１６６を参照）を有している主制御ユニット１３００と、を備えている。遊技パネル１１００の前面において遊技領域５ａ内となる部位には、遊技球と当接する複数の障害釘Ｋが所定のゲージ配列で植設されている（図１２０を参照）。

【０６３７】

また、遊技盤５は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技状況を表示し前構成部材１０００の左下隅に遊技者側へ視認可能に取付けられている機能表示ユニット１４００と、遊技パネル１１００の後側に取付けられている周辺制御ユニット１５００と、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており所定の演出画像を表示可能なメイン演出表示装置１６００と、遊技パネル１１００の前面に取付けられる表ユニット２０００と、遊技パネル１１００の後面に取付けられる裏ユニット３０００と、を更に備えている。裏ユニット３０００の後面にメイン演出表示装置１６００が取付けられていると共に、メイン演出表示装置１６００の後面に周辺制御ユニット１５００が取付けられている。

【０６３８】

遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。

【０６３９】

表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入可能に常時開口している複数（ここでは、四つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部２００３と、遊技球がゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口２００４（図１１９を参照）と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる大入賞口２００５と、を備えている。

【０６４０】

また、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上から左方にかけて取付けられており一つの一般入賞口２００１と第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように取付けられており二つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、遊技領域５ａ内の正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５を有しているアタッカユニット２４００と、始動口ユニット２１００よりも上方で、遊技領域５ａ内の正面視略中央やや上寄りに取付けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。

【０６４１】
裏ユニット３０００は、パネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられておりメイン演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａよりも下側における背面視左端に取付けられているパネル中継基板３０３１と、裏箱３０１０の後面でパネル中継基板３０３１の背面視右側に取付けられている演出駆動基板３０３２と、裏箱３０１０の後面で演出駆動基板３０３２のの背面視右側に取付けられているモータ駆動基板３０３３と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａの上側に取付けられている上部中継基板３０３４と、を備えている。

【０６４２】
更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端に取付けられている平枠状の裏前装飾ユニット３１００と、裏箱３０１０内において裏前装飾ユニット３１００の後側で開口部３０１０ａの下側に取付けられている裏下可動演出ユニット３２００と、裏箱３０１０内において裏前装飾ユニット３１００の後側で開口部３０１０ａの上側に取付けられている裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内において裏前装飾ユニット３１００と裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００との間で開口部３０１０ａの上側及び左右両側を囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット３５００と、を備えている。

【０６４３】
［５－１．前構成部材］
次に、前構成部材１０００について、主に図１２１及び図１２２等を参照して説明する。前構成部材１０００は、正面視の外形が略正方形とされ、内形が略円形状に前後方向へ貫通しており、内形の内周によって遊技領域５ａの外周を区画している。この前構成部材１０００は、正面視で左右方向中央から左寄りの下端から時計回りの周方向へ沿って円弧状に延び正面視左右方向中央上端を通り過ぎて右斜め上部まで延びた外レール１００１と、外レール１００１に略沿って前構成部材１０００の内側に配置され正面視左右方向中央下部から正面視左斜め上部まで円弧状に延びた内レール１００２と、内レール１００２の下端の正面視右側で遊技領域５ａの最も低くなった位置に形成されており後方へ向かって低くなるように傾斜しているアウト誘導部１００３と、を備えている。

【０６４４】
また、前構成部材１０００は、アウト誘導部１００３の正面視右端から前構成部材１０００の右辺付近まで右端側が僅かに高くなるように直線状に傾斜している右下レール１００４と、右下レール１００４の右端から前構成部材１０００の右辺に沿って外レール１００１の上端の下側まで延びており上部が前構成部材１０００の内側へ湾曲している右レール１００５と、右レール１００５の上端と外レール１００１の上端とを繋いでおり外レール１００１に沿って転動して来た遊技球が当接する衝止部１００６と、を備えている。

【０６４５】
また、前構成部材１０００は、内レール１００２の上端に回動可能に軸支され、外レール１００１との間を閉鎖するように内レール１００２の上端から上方へ延出した閉鎖位置と正面視時計回りの方向へ回動して外レール１００１との間を開放した開放位置との間でのみ回動可能とされると共に閉鎖位置側へ復帰するように図示しないバネによって付勢された逆流防止部材１００７を、備えている。

【０６４６】
更に、前構成部材１０００は、外レール１００１及び内レール１００２における下端から略垂直に延びた付近の部位の外側、アウト誘導部１００３及び右下レール１００４の下側、及び右レール１００５の外側、の夫々の部位において、前端から後方へ窪んだ防犯凹部１００８を備えている。この防犯凹部１００８は、遊技盤５を本体枠４に取付けて、本体枠４に対して扉枠３を閉じた状態とすると、扉枠３における防犯カバー２００の後方へ突出した後方突片２０２が挿入された状態となる。これにより、防犯カバー２００と遊技

盤５（前構成部材１０００）との間が、防犯カバー２００の後方突片２０２と前構成部材１０００の防犯凹部１００８とによって複雑に屈曲した状態となるため、遊技盤５の前面下方より防犯カバー２００と前構成部材１０００との間を通してピアノ線等の不正な工具を遊技領域５ａ内に侵入させようとしても、後方突片２０２や防犯凹部１００８に阻まれることとなり、遊技領域５ａ内への不正な工具の侵入を阻止することができる。

【０６４７】

また、前構成部材１０００は、図示は省略するが、内レール１００２の後端から後方へ突出している複数の位置決め突起を備えている。これら位置決め突起は、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０に形成されている内レール固定孔に挿入させることで、内レール１００２をパネル板１１１０の前面に位置決め固定することができる。

【０６４８】

更に、前構成部材１０００は、図示は省略するが、後面から後方へ突出している複数の取付ボスを備えている。複数の取付ボスは、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の取付孔（図示は省略）に挿入されることで、パネルホルダ１１２０（遊技パネル１１００）との間を位置決めすることができる。

【０６４９】

また、前構成部材１０００は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１０１１を備えている。この切欠部１０１１は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の切欠部１１２７と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、これら切欠部１０１１及び切欠部１１２７を貫通して下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１及び満タン誘導路８６２の前端開口が前方へ臨むようになっている。

【０６５０】

前構成部材１０００には、遊技領域５ａの外側で正面視左下隅に、機能表示ユニット１４００が取付けられている。

【０６５１】

［５－２．遊技パネル］

次に、遊技パネル１１００について、主に図１２１及び図１２２等を参照して説明する。遊技パネル１１００は、外周が枠状の前構成部材１０００の内周よりもやや大きく形成されていると共に透明な合成樹脂で形成されている平板状のパネル板１１１０と、パネル板１１１０の外周を保持しており前構成部材１０００の後側に取付けられると共に後面に裏ユニット３０００が取付けられる枠状のパネルホルダ１１２０と、を備えている。

【０６５２】

遊技パネル１１００のパネル板１１１０は、アクリル樹脂、ポリカーボネイト樹脂、ポリアリレート樹脂、メタクリル樹脂等の合成樹脂板や、ガラスや金属等の無機質板により形成されている。このパネル板１１１０の板厚は、パネルホルダ１１２０よりも薄く、障害釘Ｋを前面に植設したり表ユニット２０００を取付けたりしても十分に保持可能な必要最低限の厚さ（８～１０ｍｍ）とされている。なお、本例では、透明な合成樹脂板によってパネル板１１１０が形成されている。

【０６５３】

パネル板１１１０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となる部位に下端から上方へ窪んだアウト凹部１１１１が形成されている。また、パネル板１１１０には、前後に貫通しており表ユニット２０００を取付けるための開口部１１１２が複数形成されている。

【０６５４】

また、パネル板１１１０は、図示は省略するが、外周近傍に配置され前後方向に貫通する丸孔からなる複数の嵌合孔と、左下部の外周近傍に配置され前後方向に貫通し上下方向に延びる長孔と、を備えている。これら嵌合孔及び長孔は、遊技領域５ａよりも外側に配置されており、パネルホルダ１１２０との位置決めを行うものである。また、パネル板１１１０は、上辺の両端と下辺の両端に、前側が窪んだ段状の係合段部が夫々備えられている。これら係合段部は、パネル板１１１０の板厚の略半分まで切欠いた形態とされると共に、嵌合孔及び長孔と同様に、遊技領域５ａよりも外側に配置されており、パネル板１１

１０をパネルホルダ１１２０へ係合固定するためのものである。
【０６５５】
また、パネル板１１１０は、図示は省略するが、所定位置に内レール固定孔が複数備えられている。この内レール固定孔に内レール１００２の後側から突出する位置決め突起（図示は省略）を嵌合固定させることで、内レール１００２を所定の位置に固定することができる。
【０６５６】
遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を包含する大きさで外形が略四角形状とされ、パネル板１１１０よりも厚く（本例では、約２０ｍｍ）形成されている。パネルホルダ１１２０は、合成樹脂（例えば、熱可塑性合成樹脂）により形成されている。このパネルホルダ１１２０は、パネル板１１１０を着脱可能に保持し前面側から後方側に向かって凹んだ保持段部（図示は省略）と、保持段部の内側において略遊技領域５ａと同等の大きさで前後方向に貫通する貫通口１１２２と、を備えている。
【０６５７】
パネルホルダ１１２０の保持段部は、前面からの深さがパネル板１１１０の厚さと略同じ深さとされており、保持段部内に保持されたパネル板１１１０の前面が、パネルホルダ１１２０の前面と略同一面となる。また、保持段部は、その前側内周面が、パネル板１１１０の外周面に対して所定量のクリアランスが形成される大きさに形成されている。このクリアランスにより、温度変化や経時変化により相対的にパネル板１１１０が伸縮しても、その伸縮を吸収できるようになっている。
【０６５８】
また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、保持段部に保持されるパネル板１１１０に形成されている嵌合孔及び長孔と対応する位置に配置され、保持段部の前面から前方に向かって延びており、パネル板１１１０の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通可能な複数の突出ピンを備えている。これらの突出ピンをパネル板１１１０の嵌合孔及び長孔に嵌合及び挿通することで、パネルホルダ１１２０とパネル板１１１０とを互いに位置決めすることができる。
【０６５９】
更に、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、パネル板１１１０の係合段部と対応する位置に、係合段部と係合する係合爪及び係合片を備えている。詳述すると、係合爪は、パネルホルダ１１２０の保持段部の上部に配置されており、パネル板１１１０における上側の係合段部と対応し、保持段部の前面から前方に向かって突出し、係合段部と弾性係合するようになっている。この係合爪は、先端がパネルホルダ１１２０の前面から突出しない大きさとされている。
【０６６０】
パネルホルダ１１２０の係合片は、パネルホルダ１１２０の保持段部の下部に配置され、パネル板１１１０における下側の係合段部と対応している。この係合片は、保持段部の前面との間にパネル板１１１０の係合段部が挿入可能な大きさの隙間を形成した状態で、パネルホルダの前面に沿って上側（中心側）に向かって所定量延びている。これら係合爪及び係合片にパネル板１１１０の係合段部を係合させることで、パネル板１１１０がパネルホルダ１１２０に対して着脱可能に保持される。
【０６６１】
また、パネルホルダ１１２０は、遊技領域５ａ内において最も低い位置となる部位に前後に貫通しているアウト口１１２６を備えている。パネルホルダ１１２０は、アウト口１１２６の後面下側が、アウト口１１２６と同じ幅で下端まで前方へ窪んでいる。
【０６６２】
更に、パネルホルダ１１２０は、正面視左下隅において下端から上方へ切欠かれている切欠部１１２７を備えている。この切欠部１１２７は、前構成部材１０００の切欠部１０１１と一致しており、遊技盤５を本体枠４に取付けた時に、これら切欠部１０１１，１１２７を貫通して下部満タン球経路ユニット８６０の通常誘導路８６１及び満タン誘導路８

６２の前端開口が前方へ臨むようになっている。
【０６６３】
また、パネルホルダ１１２０は、図示は省略するが、前構成部材１０００における複数の取付ボス（図示は省略）と対応している位置に、前後に貫通した複数の取付孔を備えている。これら複数の取付孔に、前構成部材１０００の取付ボスを挿入することで、パネルホルダ１１２０を前構成部材１０００の後側に取付けることができると共に、前構成部材１０００との間でパネルホルダ１１２０（遊技パネル１１００）を位置決めすることができる。
【０６６４】
また、パネルホルダ１１２０は、切欠部１１２７の上側で前後方向に貫通している四角い挿通孔１１２９を備えている。この挿通孔１１２９は、機能表示ユニット１４００の後端が挿通される。
【０６６５】
遊技パネル１１００は、前構成部材１０００の後側に取付けた状態では、前構成部材１０００のアウト誘導部１００３の後側にパネルホルダ１１２０のアウト口１１２６が開口した状態となる。これにより、遊技領域５ａの下端へ流下した遊技球が、アウト誘導部１００３によって後側のアウト口１１２６へ誘導され、アウト口１１２６を通って遊技パネル１１００の後側へ排出される。
【０６６６】
［５－３．基板ホルダ］
次に、基板ホルダ１２００について、主に図１２１及び図１２２を参照して説明する。基板ホルダ１２００は、上方及び前方が開放された横長の箱状に形成されており、底面が左右方向中央へ向かって低くなるように傾斜している。この基板ホルダ１２００は、遊技盤５に組立てた状態で、遊技パネル１１００の後側に取付けられている裏ユニット３０００の下部を下側から覆うことができる。これにより、アウト口１１２６を通って遊技パネル１１００の後側へ排出された遊技球、及び、表ユニット２０００及び裏ユニット３０００から下方へ排出された遊技球、を全て受けることができ、底面に形成された排出部１２０１から下方へ排出させることができる。
【０６６７】
［５－４．主制御基板ユニット］
次に、主制御ユニット１３００について、主に図１２１及び図１２２を参照して説明する。主制御ユニット１３００は、基板ホルダ１２００の後面に着脱可能に取付けられている。この主制御ユニット１３００は、遊技内容及び遊技球の払出し等を制御する主制御基板１３１０（図１６６を参照）と、主制御基板１３１０を収容しており基板ホルダ１２００に取付けられる主制御基板ボックス１３２０と、を備えている。
【０６６８】
主制御基板ボックス１３２０は、複数の封印機構を備えており、一つの封印機構を用いて主制御基板ボックス１３２０を閉じると、次に、主制御基板ボックス１３２０を開けるためにはその封印機構を破壊する必要があり、主制御基板ボックス１３２０の開閉の痕跡を残すことができる。従って、開閉の痕跡を見ることで、主制御基板ボックス１３２０の不正な開閉を発見することができ、主制御基板１３１０への不正行為に対する抑止力が高められている。
【０６６９】
主制御ユニット１３００の主制御基板１３１０は、払出制御基板９５１、及び周辺制御基板１５１０と、接続されている。また、主制御基板１３１０は、パネル中継基板３０３１を介して、機能表示ユニット１４００、ゲートセンサ２４０１、第二始動口センサ２４０２、大入賞口センサ２４０３、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、一般入賞口センサ３１６６、第一始動口センサ３１６７、磁気センサ（図示は省略）、と接続されている。
【０６７０】

［５－５．機能表示ユニット］
次に、機能表示ユニット１４００について、主に図１１４を参照して説明する。機能表示ユニット１４００は、図示するように、遊技領域５ａの外側で前構成部材１０００の左下隅に取付けられている。機能表示ユニット１４００は、遊技盤５をパチンコ機１に組立てた状態で、扉枠３の貫通口１１１を通して前方（遊技者側）から視認することができる。この機能表示ユニット１４００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づき複数のＬＥＤを用いて、遊技状態（遊技状況）や、普通抽選結果や特別抽選結果等を表示するものである。
【０６７１】
機能表示ユニット１４００は、図示するように、遊技状態を表示する一つのＬＥＤからなる状態表示器１４０１と、ゲート部２００３に対する遊技球の通過により抽選される普通抽選結果を表示する四つのＬＥＤからなる普通図柄表示器１４０２と、ゲート部２００３に対する遊技球の通過に係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる普通保留表示器１４０８と、第一始動口２００２への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第一特別図柄表示器１４０３と、第一始動口２００２への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第一特別保留数表示器１４０４と、第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第二特別抽選結果を表示する八つのＬＥＤからなる第二特別図柄表示器１４０５と、第二始動口２００４への遊技球の受入れに係る保留数を表示する二つのＬＥＤからなる第二特別保留数表示器１４０６と、第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果が「大当り」等の時に、大入賞口２００５の開閉パターンの繰返し回数（ラウンド数）を表示する三つのＬＥＤからなるラウンド表示器１４０７と、を主に備えている。
【０６７２】
この機能表示ユニット１４００では、備えられているＬＥＤを、適宜、点灯、消灯、及び、点滅、等させることにより、保留数や図柄等を表示することができる。
【０６７３】
［５－６．周辺制御ユニット］
次に、周辺制御ユニット１５００について、主に図１１７及び図１２２等を参照して説明する。周辺制御ユニット１５００は、裏ユニット３０００の裏箱３０１０の後面に取付けられるメイン演出表示装置１６００の後側に取付けられている。周辺制御ユニット１５００は、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて遊技者に提示する演出を制御する周辺制御基板１５１０（図１６６を参照）と、周辺制御基板１５１０を収容している周辺制御基板ボックス１５２０と、を備えている。周辺制御基板１５１０は、発光演出、サウンド演出、及び可動演出、等を制御するための周辺制御部１５１１と、演出画像を制御するための演出表示制御部１５１２と、を備えている。
【０６７４】
周辺制御ユニット１５００の周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０、演出操作ユニット４００、扉枠３側の各種装飾基板、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０、演出駆動基板３０３２、モータ駆動基板３０３３、等と接続されている。
【０６７５】
［５－７．メイン演出表示装置］
次に、メイン演出表示装置１６００について、主に図１２１及び図１２２を参照して説明する。メイン演出表示装置１６００は、正面視において遊技領域５ａの中央に配置されており、遊技パネル１１００の後側に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０を介して取付けられている。詳述すると、メイン演出表示装置１６００は、裏箱３０１０の後壁の略中央の後面に対して、着脱可能に取付けられている。このメイン演出表示装置１６００は、遊技盤５を組立てた状態で、枠状のセンター役物２５００の枠内を通して、前側（遊技者側）から視認することができる。メイン演出表示装置１６００は、白色ＬＥＤをバックライトとしたフルカラーの液晶表示装置である。メイン演出表示装置１６００は、周辺制御基板１５１０に接続されており、所定の静止画像や動画を表示することができる。

【０６７６】
メイン演出表示装置１６００は、正面視左側面から外方へ突出している二つの左固定片１６０１と、正面視右側面から外方へ突出している右固定片１６０２と、を備えている。このメイン演出表示装置１６００は、液晶画面を前方へ向けた状態で、後述する裏箱３０１０の枠状の液晶取付部３０１０ｂ内の正面視左内周面に開口している二つの固定溝３０１０ｃに、裏箱３０１０の斜め後方から二つの左固定片１６０１を挿入した上で、右固定片１６０２側を前方へ移動させて、右固定片１６０２をロック機構３０２０の開口部内に挿入し、ロック機構３０２０を下方へスライドさせることにより、裏箱３０１０に取付けられる。
【０６７７】
［５－８．表ユニットの全体構成］
次に、表ユニット２０００の全体構成について、主に図１２１及び図１２２等を参照して説明する。遊技盤５の表ユニット２０００は、遊技パネル１１００のパネル板１１１０に、前方から取付けられており、前端がパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出していると共に、後端が開口部１１１２を貫通してパネル板１１１０の後面よりも後方へ突出している。
【０６７８】
本実施形態の表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球を受入可能としており常時開口している複数（ここでは、四つ）の一般入賞口２００１と、複数の一般入賞口２００１とは遊技領域５ａ内の異なる位置で遊技球を受入可能に常時開口している第一始動口２００２と、遊技領域５ａ内の所定位置に取付けられており遊技球の通過を検知するゲート部２００３と、遊技球がゲート部２００３を通過することにより抽選される普通抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる第二始動口２００４（図１１９及び図１２０を参照）と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて遊技球の受入れが可能となる大入賞口２００５と、を備えている。
【０６７９】
複数（ここでは四つ）の一般入賞口２００１は、遊技領域５ａ内の下部に配置されおり、左右方向中央に対して左側に三つ、右側に一つ夫々配置されている。左右方向中央よりも左側の一般入賞口２００１は、センター役物２５００におけるステージ２５３０の下端よりも下方に配置されており、左右方向中央よりも右側の一般入賞口２００１は、センター役物２５００のステージ２５３０の下端よりも上方に配置されている。第一始動口２００２は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上に配置されている。
【０６８０】
ゲート部２００３は、左右方向中央よりも右側の一般入賞口２００１に対して正面視右上となり、遊技領域５ａ内における正面視右端付近で上下方向中央の下寄りに配置されている。第二始動口２００４は、ゲート部２００３の直下で左右方向中央よりも右側の一般入賞口２００１と略同じ高さに配置されている。大入賞口２００５は、左右方向中央より右側の一般入賞口２００１の下方に配置されている。
【０６８１】
更に、表ユニット２０００は、遊技領域５ａ内の左右方向中央でアウト口１１２６の直上から正面視左方にかけて取付けられており一つの一般入賞口２００１と第一始動口２００２を有している始動口ユニット２１００と、始動口ユニット２１００の正面視左方で内レール１００２に沿うように取付けられており二つの一般入賞口２００１を有しているサイドユニット２２００と、始動口ユニット２１００の正面視右方に取付けられており一つの一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５を有しているアタッカユニット２４００と、遊技領域５ａ内の略中央に取付けられている枠状のセンター役物２５００と、を備えている。
【０６８２】
［５－８ａ．始動口ユニット］

次に、表ユニット２０００の始動口ユニット２１００について、主に図１１４乃至図１１６等を参照して説明する。始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａ内において、左右方向中央の下端部付近でアウト口１１２６の直上から正面視左方に延びるように配置されており、パネル板１１１０に前方から取付けられている。この始動口ユニット２１００は、遊技領域５ａの左右方向中央となる最上部に第一始動口２００２が備えられていると共に、第一始動口２００２よりもやや下側で正面視左方に複数の一般入賞口２００１のうちの一つが備えられている。始動口ユニット２１００の一般入賞口２００１と第一始動口２００２は、遊技球を一度に一つのみ受入可能な大きさで上方に向かって常時開口している。

【０６８３】

始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２が形成されており遊技パネル１１００のパネル板１１１０に前方から取付けられる透明なユニット本体２１０１を備えている。この始動口ユニット２１００は、透明なユニット本体２１０１と遊技パネル１１００のパネル板１１１０とを通して、後方に配置されている裏ユニット３０００における裏前装飾ユニット３１００の裏前下中装飾体３１６８を、遊技者側（前方）から視認させることができる。

【０６８４】

始動口ユニット２１００は、パネル板１１１０に取付けることで、一般入賞口２００１と第一始動口２００２とがパネル板１１１０の前面よりも前方に突出した上で、上方へ開放された状態となり、第一始動口２００２が後述するセンター役物２５００のステージ２５３０における中央誘導部２５３１の直下に位置している。従って、ステージ２５３０の中央誘導部２５３１から下方へ遊技球が放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。この始動口ユニット２１００は、第一始動口２００２に受入れられた遊技球を、パネル板１１１０の後方へ誘導し、後述する裏ユニット３０００における裏前装飾ユニット３１００の第一始動口排出口３１６２に受け渡すことができる。

【０６８５】

［５－８ｂ．サイドユニット］

次に、表ユニット２０００のサイドユニット２２００について、主に図１１４乃至図１１６等を参照して詳細に説明する。サイドユニット２２００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００の左方で内レール１００２に沿うように円弧状に延びており、パネル板１１１０に前方から取付けられている。サイドユニット２２００は、始動口ユニット２１００と隣接する正面視右端付近に配置されており、正面視左上と正面視右方に向かって夫々常時開口している二つの一般入賞口２００１を有している。また、サイドユニット２２００は、遊技パネル１１００のパネル板１１１０に前方から取付けられる透明平板状のユニット本体２２０１と、ユニット本体２２０１の正面視左端付近において前方に突出していると共に正面視右端側が低くなるように左右に延びている棚部２２０２と、を有している。サイドユニット２２００は、二つの一般入賞口２００１が、ユニット本体２２０１から前方へ突出するように形成されている。

【０６８６】

サイドユニット２２００は、パネル板１１１０に取付けることで、二つの一般入賞口２００１が、第一始動口２００２よりも下方で、且つ、始動口ユニット２１００と棚部２２０２との間の位置において、パネル板１１１０の前面よりも前方へ突出した状態となる。サイドユニット２２００は、遊技盤５に組立てた状態で、左端側の棚部２２０２が、二つの一般入賞口２００１、始動口ユニット２１００の一般入賞口２００１及び第一始動口２００２よりも上側に位置している。

【０６８７】

このサイドユニット２２００は、透明なユニット本体２２０１と遊技パネル１１００のパネル板１１１０とを通して、後方に配置されている裏ユニット３０００における裏前装飾ユニット３１００の裏前左下装飾体３１１８を、遊技者側（前方）から視認させることができる。

【０６８８】
　また、サイドユニット２２００は、遊技領域５ａ内においてセンター役物２５００の正面視左側を流下してきた遊技球を、棚部２２０２によって右方（遊技領域５ａの左右方向中央側）へ誘導させることができる。この棚部２２０２に誘導された遊技球は、二つの一般入賞口２００１、始動口ユニット２１００の一般入賞口及び第一始動口２００２に受入れられる可能性がある。サイドユニット２２００は、各一般入賞口２００１に受入れられた遊技球を、パネル板１１１０の後方へ誘導し、後述する裏ユニット３０００の裏前装飾ユニット３１００の一般入賞口左排出口３１６３に受け渡すことができる。
【０６８９】
［５－８ｃ．アタッカユニット］
　次に、表ユニット２０００のアタッカユニット２４００について、主に図１１９乃至図１２２等を参照して詳細に説明する。アタッカユニット２４００は、遊技領域５ａ内において、正面視右下隅となる始動口ユニット２１００の正面視右方に配置されており、パネル板１１１０の前面に前方から取付けられている。このアタッカユニット２４００は、四つの一般入賞口２００１のうちの一つの一般入賞口２００１、ゲート部２００３、第二始動口２００４、及び大入賞口２００５を備えている。
【０６９０】
　アタッカユニット２４００は、正面視右上隅に遊技球が上下に流通（通過）するゲート部２００３が配置されていると共に、ゲート部２００３の直下に前方へ向かって開口している第二始動口２００４が配置されている。第二始動口２００４は、ゲート部２００３に対して、遊技球の外径よりも若干大きい距離、下方に離れている。一般入賞口２００１と第二始動口２００４は、左右方向へ遊技球の外径の約２倍の距離、離れている。また、アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４の左方に上方へ常時開口している一つの一般入賞口２００１が配置されていると共に、その一般入賞口２００１の下方に前方へ向かって開口している横長の大入賞口２００５が配置されている。大入賞口２００５は、一般入賞口２００１（第二始動口２００４）に対して遊技球の外径の４倍～６倍の距離、下方に離れている。
【０６９１】
　アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１及び第二始動口２００４は、遊技球を一つのみ受入可能な大きさに形成されている。ゲート部２００３は、遊技球が一つのみ通過可能な大きさに形成されている。大入賞口２００５は、左右方向へ遊技球の外径の約５倍の長さで開口する大きさに形成されている。大入賞口２００５は、左右方向の中心が、上方に配置されている一般入賞口２００１の左右方向の中心よりもやや左側に位置するように配置されている。
【０６９２】
　アタッカユニット２４００は、ゲート部２００３を通過する遊技球を検知するゲートセンサ２４０１と、第二始動口２００４に受入れられた遊技球を検知する第二始動口センサ２４０２（図１６５を参照）と、大入賞口２００５に受入れられた遊技球を検知する大入賞口センサ２４０３と、を備えている。
【０６９３】
　アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４の下側から前方へ突出するように進退可能とされている第二始動口扉２４１１と、第二始動口扉２４１１をゲート部２００３の遊技球の通過により抽選される普通抽選結果に応じて前方へ突出させる始動口ソレノイド２４１２と、大入賞口２００５を前方から閉鎖可能な左右に延びた四角形の板状で、下辺側が左右方向へ延びた軸線周りに対して回転可能に取付けられている大入賞口扉２４１３と、第一始動口２００２又は第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選される第一特別抽選結果又は第二特別抽選結果に応じて大入賞口扉２４１３を回動させるアタッカソレノイド２４１４と、を備えている。
【０６９４】
　第二始動口扉２４１１は、始動口ソレノイド２４１２がＯＦＦ（非通電）の時には、後

方へ移動（後退）して、先端（前端）が遊技パネル１１００の前面よりも後方に位置しており、この状態（通常の状態）で、常時前方へ向かって開口している第二始動口２００４の前方を遊技球が通過しても、第二始動口２００４に受入れられることはなく、第二始動口２００４の前方を素通りすることとなる。一方、始動口ソレノイド２４１２がＯＮ（通電）の時には、第二始動口扉２４１１が前方へ移動（前進）して、遊技領域５ａ内へ突出した状態となる。第二始動口扉２４１１が前方へ突出している時に、第二始動口２００４の前方を遊技球が流下すると、遊技球が第二始動口扉２４１１の上面に当接し、第二始動口扉２４１１によって後方へ誘導されて、第二始動口２００４に受入れられることとなる。このように、第二始動口２００４は、始動口ソレノイド２４１２により第二始動口扉２４１１が進退させられることで、遊技球が受入可能となったり、受入不能となったりする。

【０６９５】

大入賞口扉２４１３は、アタッカソレノイド２４１４がＯＦＦ（非通電）の時には、直立した状態となっており、前方へ向かって開口している大入賞口２００５を閉鎖している。この状態（通常の状態）で、大入賞口２００５の前方を遊技球が通過しても、大入賞口２００５に受入れられることはなく、大入賞口２００５の前方を素通りすることとなる。一方、アタッカソレノイド２４１４がＯＮ（通電）の時には、大入賞口扉２４１３が、その下辺側を中心にして上辺側が前方へ移動するように回動し、上辺側が下辺側よりもやや上方に位置した状態で停止する。この状態で、大入賞口２００５の前方を遊技球が流下すると、遊技球が大入賞口扉２４１３の上方を向いている面に当接することで、大入賞口扉２４１３によって後方へ誘導され、大入賞口２００５に受入れられることとなる。このように、大入賞口２００５は、アタッカソレノイド２４１４により大入賞口扉２４１３が回動させられることで、遊技球が受入可能となったり、受入不能となったりする。

【０６９６】

アタッカユニット２４００は、第二始動口２００４の左辺に沿うように上下に延びていると共に前方へ突出している第二始動口左壁部２４２１と、第二始動口左壁部２４２１の上端から遊技球の外径よりも短く左方に延びていると共に前方に突出している第二始動口棚部２４２２と、第二始動口２００４の右辺に沿うように上下に延びていると共に前方へ突出している第二始動口右壁部２４２３と、第二始動口右壁部２４２３から左方へ遊技球の外径よりも若干大きく離れており、ゲート部２００３の下端付近の高さから第二始動口２００４よりも下方の高さまで上下に延びていると共に前方へ突出している右通路壁部２４２４と、を備えている。第二始動口棚部２４２２は、右端側（第二始動口２００４側）が若干低くなるように傾斜している。

【０６９７】

また、アタッカユニット２４００は、右通路壁部２４２４の下端と大入賞口２００５との間に配置されており、前方（遊技領域５ａ内）へ突出して遊技球の流れに影響を与えるブロック部材２４３０を備えている。このブロック部材２４３０は、右通路壁部２４２４の下端付近から一般入賞口２００１の下方付近まで左方へ左端側が低くなるように延びていると共に前方へ突出しているアタッカ棚部２４３１と、アタッカ棚部２４３１の左端から大入賞口２００５の上辺付近まで下方へ延びていると共に前方に突出しているアタッカ左立壁部２４３２と、アタッカ左立壁部２４３２の下端から大入賞口２００５の右端よりも右方へ延びていると共に前方へ突出しているアタッカ下壁部２４３３と、アタッカ下壁部２４３３の右端とアタッカ棚部２４３１の右端とを連結するように上下に延びていると共に前方へ突出しているアタッカ右立壁部２４３４と、を備えている。

【０６９８】

アタッカ棚部２４３１は、最も低くなっている左端が、上方の一般入賞口２００１の左端よりも若干左方に突出しており、大入賞口２００５の左端から遊技球の外径の２倍よりも長い距離Ｌだけ右方に位置している（図１２０を参照）。換言すると、アタッカ棚部２４３１の左端の左右方向の位置は、大入賞口２００５の左右方向中央から右方へ遊技球の外径の半分よりもやや大きく離れている。また、アタッカ棚部２４３１は、左端が、大入

賞口２００５の上辺（上端）から上方へ遊技球の外径の約２．５倍の高さに位置している。

【０６９９】

アタッカ左立壁部２４３２は、アタッカ棚部２４３１の左端から下方へ延びるにあたって、アタッカ棚部２４３１の左端から一旦斜め右下へ延びた後に、垂直に下方へ延びるように形成されている。つまり、アタッカ左立壁部２４３２は、上端付近が斜め左上に延びるように折れ曲がっている。アタッカ左立壁部２４３２は、垂直に延びている部位の左右方向の位置が、大入賞口２００５の左右方向中央に対して若干左方（換言すると、大入賞口２００５の左端から右方へ遊技球の外径の約２．５倍の距離）に位置している。

【０７００】

アタッカ下壁部２４３３は、大入賞口２００５の上辺に沿って水平に延びており、右端が、大入賞口２００５の右端から右方へ遊技媒体の外形の約２倍の距離に位置している。このアタッカ下壁部２４３３は、大入賞口２００５の上方の一部を覆っている。

【０７０１】

アタッカユニット２４００は、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の前面に取付けた状態で、ゲート部２００３が、後述するセンター役物２５００の右案内通路２５４０における下流端の下方に位置していると共に、一般入賞口２００１、ゲート部２００３、及び第二始動口２００４が、センター役物２５００のステージ２５３０の下端よりも上方に位置している。また、図１２０に示すように、遊技領域５ａ内におけるアタッカユニット２４００の周辺にも、複数の障害釘Ｋが、所定のゲージ配列で植設されている。

【０７０２】

続いて、アタッカユニット２４００における遊技球の流れについて説明する。図１１９及び図１２０に示すように、遊技盤５に組立てた状態で、アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１、ゲート部２００３、及び第二始動口２００４が、センター役物２５００のステージ２５３０の下端よりも上方に位置していることから、ステージ２５３０から遊技球が放出されても一般入賞口２００１、及び第二始動口２００４に受入れられたり、ゲート部２００３を通過したりすることはない。従って、遊技球を、アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１や第二始動口２００４に受入させたり、ゲート部２００３を通過させたりするためには、センター役物２５００の右側を流通させる必要がある。

【０７０３】

アタッカユニット２４００のゲート部２００３とセンター役物２５００の右案内通路２５４０との間には、図１２０に示すように、複数の障害釘Ｋが植設されていることから、右案内通路２５４０の下流側には複数の経路が形成されている。従って、センター役物２５００の右案内通路２５４０から放出された遊技球は、ある程度の確率でゲート部２００３を通過するようになっている。ゲート部２００３での遊技球の通過は、ゲートセンサ２４０１によって検知される。ゲートセンサ２４０１により遊技球の通過が検知されると、主制御基板１３１０において、普通抽選結果の抽選が行われる。

【０７０４】

ゲート部２００３を通過した遊技球は、その直下に配置されている第二始動口２００４の前方を通って、ブロック部材２４３０のアタッカ棚部２４３１上に流下する。ゲート部２００３と第二始動口２００４との間には、遊技球の外径の約１．５倍の距離の隙間が形成されている。そのため、センター役物２５００の右案内通路２５４０から放出された遊技球が、ゲート部２００３を通過せずに、ゲート部２００３の左側或いは右側を流通した場合でも、ゲート部２００３と第二始動口２００４との間の隙間を通って、第二始動口２００４の前方を流通する可能性がある。

【０７０５】

詳述すると、遊技球がゲート部２００３の左側を流通した場合、ゲート部２００３の左側の領域に植設されている複数の障害釘Ｋにより、第二始動口棚部２４２２上に流下すると、第二始動口棚部２４２２の傾斜により右方へ誘導され、高い確率で第二始動口２００４の前方へ送られることとなる。一方、遊技球がゲート部２００３の右側を流通した場合

、右通路壁部２４２４の上端付近に流下すると、右通路壁部２４２４の上部が第二始動口２００４へ向かって低くなるように傾斜していることから左方へ誘導され、ゲート部２００３と第二始動口２００４との間の隙間（第二始動口右壁部２４２３）の上側を通って第二始動口２００４の前方を流通する可能性がある。なお、第二始動口２００４（第二始動口右壁部２４２３）と右通路壁部２４２４との間を流通した遊技球は、ブロック部材２４３０のアタッカ棚部２４３１上に流下する。

【０７０６】

第二始動口２００４の前方を遊技球が流通する際に、第二始動口扉２４１１が前方へ移動して遊技領域５ａ内に突出した状態となっていると、第二始動口２００４の前方を流下した遊技球が、第二始動口扉２４１１の上面に当接して後方の第二始動口２００４側へ誘導され、第二始動口２００４に受入れられることとなる。第二始動口２００４に受入れられた遊技球は、遊技パネル１１００の後側において、後述する裏ユニット３０００の裏前装飾ユニット３１００の第二始動口排出口３１６５に受け渡された後に、下方の基板ホルダ１２００上へ排出される。

【０７０７】

第二始動口扉２４１１は、ゲート部２００３を遊技球が通過する（ゲートセンサ２４０１より遊技球が検知される）ことで抽選される普通抽選結果に応じて（普通抽選結果が「普通当り」の時に）、始動口ソレノイド２４１２がＯＮとなることにより、前方へ突出するように移動させられる。この第二始動口扉２４１１が前方へ移動することで、第二始動口２００４への遊技球の受入れが可能な状態となる。つまり、第二始動口扉２４１１の進退によって、第二始動口２００４が開閉する。

【０７０８】

ゲート部２００３での普通抽選結果の抽選に対する第二始動口２００４の開閉タイミングは、適宜設定することができ、例えば、ゲート部２００３を通過して「普通当り」を抽選した遊技球が、第二始動口２００４に受入れられるようにすることもできる。

【０７０９】

ゲート部２００３の左側を流通し、第二始動口棚部２４２２上に流下しなかった遊技球は、複数の障害釘Ｋにより、第二始動口２００４の左方に配置されている一般入賞口２００１の方向へ誘導され、上方へ向かって常時開口している一般入賞口２００１に受入れられる可能性がある。アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球は、遊技パネル１１００の後側において、後述する裏ユニット３０００の裏前装飾ユニット３１００の一般入賞口右排出口３１６４に受け渡され、一般入賞口センサ３１６６により検知された後に下方の基板ホルダ１２００上へ排出される。

【０７１０】

アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１の左側を流通した遊技球は、下流側に配置されている始動口ユニット２１００の第一始動口２００２、或いは、開状態の大入賞口２００５に受入れられる可能性がある。また、アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１の右側、つまり、一般入賞口２００１と第二始動口２００４との間を流通した遊技球は、ブロック部材２４３０のアタッカ棚部２４３１上へ流下する。

【０７１１】

ブロック部材２４３０のアタッカ棚部２４３１上に流下した遊技球は、アタッカ棚部２４３１の傾斜により正面視左方へ誘導され、アタッカ棚部２４３１の左端から下方へ放出される。アタッカ棚部２４３１の左端側の下方には、大入賞口２００５が配置されていることから、大入賞口２００５が開状態の時に、遊技球がアタッカ棚部２４３１の左側、つまり、ブロック部材２４３０の左側付近を流下すると、高い確率で大入賞口２００５に受入れられる。

【０７１２】

アタッカユニット２４００の大入賞口２００５は、図示するように、右側半分以上の上方を、ブロック部材２４３０によって覆われている。ブロック部材２４３０の右端側（アタッカ右立壁部２４３４）は、前構成部材１０００の右レール１００５に接近しており、

ブロック部材２４３０の右側を遊技球が流通しないように形成されている。従って、センター役物２５００の右案内通路２５４０から下方へ放出されて、一般入賞口２００１や第二始動口２００４に受入れられなかった遊技球は、ブロック部材２４３０の左側を流通するように形成されている。

【０７１３】

大入賞口２００５の上方の右半分以上を覆っているブロック部材２４３０は、その左端（アタッカ左立壁部２４３２）が、左右方向において、大入賞口２００５の左端から右方へ、遊技球の外径の約２．５倍の距離Ｌに位置するように配置されている。このブロック部材２４３０の左側の領域には、図１２０に示すように、複数の障害釘Ｋが植設されており、ブロック部材２４３０の左側において、大入賞口２００５の前方へ至る経路が、複数形成されている。従って、アタッカユニット２４００における一般入賞口２００１の左側やアタッカ棚部２４３１を流通した遊技球は、複数の障害釘Ｋによって形成された複数の経路の何れかを通ることとなり、大入賞口２００５の前方へ向かって流通することとなる。

【０７１４】

大入賞口２００５の前方を遊技球が流通する際に、大入賞口扉２４１３が回動して大入賞口２００５が開状態となっていると、大入賞口２００５の前方を流下した遊技球が、大入賞口扉２４１３の上方を向いている面に当接して後方の大入賞口２００５側へ誘導され、大入賞口２００５に受入れられることとなる。本例では、大入賞口２００５が開状態の時に、アタッカ棚部２４３１の左端から遊技球が放出されると、高い確率で大入賞口２００５に受入れられる。大入賞口２００５に受入れられた遊技球は、大入賞口センサ２４０３により検知される。大入賞口センサ２４０３は、大入賞口２００５におけるブロック部材２４３０よりも左側、つまり、上方がブロック部材２４３０によって覆われていない部位に配置されているため、大入賞口扉２４１３により後方へ誘導された遊技球は、大入賞口２００５に受入れられると、即座に大入賞口センサ２４０３によって検知される。そして、大入賞口センサ２４０３に検知された遊技球は、遊技パネル１１００の後側において下方の基板ホルダ１２００上へ排出される。

【０７１５】

大入賞口扉２４１３は、第一始動口２００２や第二始動口２００４に遊技球が受入れられることで抽選される第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、アタッカソレノイド２４１４がＯＮになることで、上辺側が前方へ移動するように下辺側を中心に回動し、遊技球が受入可能となるように大入賞口２００５を開状態とする。大入賞口２００５の開閉タイミングや開閉パターンは、抽選された第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じて、適宜設定されている。

【０７１６】

大入賞口２００５に受入れられなかった遊技球は、右下レール１００４上へ流下し、遊技領域５ａ下端のアウト口１１２６を通って、遊技パネル１１００の後側において下方の基板ホルダ１２００上へ排出される。

【０７１７】

このように、本実施形態のアタッカユニット２４００によれば、大入賞口２００５の左端とブロック部材２４３０の左端との間では、左右方向の距離Ｌが遊技球の外形の約２．５倍の距離を有していることから、従来のパチンコ機と比較して大入賞口２００５へ至るまでの経路（流路）が複数存在しているため、大入賞口２００５の上方の領域内に植設されている複数の障害釘Ｋの状態に関わらず、極めて高い確率で遊技球を開状態の大入賞口２００５へ受入れさせることができ、遊技者を十二分に楽しませることができる。

【０７１８】

また、大入賞口２００５への遊技球の受入れを検知する大入賞口センサ２４０３を、ブロック部材２４３０よりも左外方、つまり、大入賞口２００５の左端とブロック部材２４３０の左端との間（遊技球が受入可能となる領域の直下）に配置しているため、大入賞口２００５に受入れられた遊技球が即座に大入賞口センサ２４０３によって検知させること

ができる。従って、大入賞口２００５が所定パターンで開閉する遊技状態（例えば、「大当り遊技」）の時に、所定個数の遊技球の受入れによって大入賞口２００５を閉鎖する（一つのラウンドを終了させる）際に、所定個数目の遊技球が大入賞口２００５に受入れられると、即座にその遊技球を検知して大入賞口扉２４１３を閉動作させることができるため、大入賞口２００５に余分な遊技球が受入れられてしまうのを低減させることができ、本パチンコ機１を設置している遊技ホール側の負担の増加を抑制させることができる。

【０７１９】

［５－８ｄ．センター役物］

次に、表ユニット２０００のセンター役物２５００について、主に図１２１及び図１２２等を参照して詳細に説明する。センター役物２５００は、遊技領域５ａ内において、始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、及びアタッカユニット２４００の上方で、正面視略中央やや上寄りに配置されており、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面に取付けられている。センター役物２５００は、略全体が透明で枠状に形成されており、枠内を通して遊技パネル１１００の後方に配置されたメイン演出表示装置１６００や裏ユニット３０００に備えられている各種演出ユニット等を前方から視認することができる。

【０７２０】

枠状のセンター役物２５００は、下辺を除いた全周が、遊技パネル１１００のパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出しており、遊技領域５ａ内に打込まれた遊技球が、枠内に侵入できないようになっている。

【０７２１】

センター役物２５００は、正面視左側の外周面に、遊技領域５ａ内の遊技球が進入可能に開口しているワープ入口２５２０と、ワープ入口２５２０に進入した遊技球を放出可能とされ枠内に開口しているワープ出口２５２２と、ワープ出口２５２２から放出された遊技球を左右方向に転動させた後に遊技領域５ａ内へ放出可能なステージ２５３０と、を備えている（図１１９等を参照）。

【０７２２】

センター役物２５００のステージ２５３０は、全体が、左右方向の中央が下方へ窪むように湾曲していると共に、左右方向中央が僅かに上方へ膨出しており、左右方向中央の左右両側が最も低くなるような波状に形成されている。ステージ２５３０は、左右方向中央において前方へ向かって低くなるように傾斜している中央誘導部２５３１と、左右方向中央の左右両側における最も低くなっている部位において前方へ向かって低くなるように傾斜している一対のサイド誘導部２５３２と、を備えている。このステージ２５３０は、ワープ入口２５２０を通ってワープ出口２５２２から供給された遊技球を、中央誘導部２５３１又は一対のサイド誘導部２５３２の何れかから遊技領域５ａ内へ放出させることができる。

【０７２３】

センター役物２５００は、センター役物２５００を遊技盤５に組立てた状態で、ステージ２５３０の中央誘導部２５３１が、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２の直上に位置している。これにより、遊技球が中央誘導部２５３１から遊技領域５ａ内に放出されると、極めて高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。

【０７２４】

また、センター役物２５００は、正面視右側の外周面に沿って流下してきた遊技球を、やや左方へ誘導した後に下方へ放出する右案内通路２５４０と、右案内通路２５４０内に突出している複数の突条２５４１と、を備えている。右案内通路２５４０は、遊技盤５に組立てた状態では、前構成部材１０００の右レール１００５との間に遊技球が一つずつのみ流通可能な幅の通路（流路）を形成する。この右案内通路２５４０は、衝止部１００６付近から、右レール１００５に沿って上下方向中央よりやや下側の位置まで延びており、下流端が、アタッカユニット２４００におけるゲート部２００３の直上に位置している。また、複数の突条２５４１は、右案内通路２５４０内を流通する遊技球が当接することで

、遊技球の流通速度を減衰させることができる。
【０７２５】
［５－９．裏ユニットの全体構成］
次に、遊技盤５における裏ユニット３０００の全体構成について、主に図１２３乃至図１２５を参照して詳細に説明する。図１２３（ａ）は遊技盤の裏ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットを後ろから見た斜視図である。また、図１２４は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１２５は裏ユニットを主な構成部材毎に分解して後から見た分解斜視図である。裏ユニット３０００は、遊技パネル１１００におけるパネルホルダ１１２０の後面に取付けられている。また、裏ユニット３０００の後側にメイン演出表示装置１６００及び周辺制御ユニット１５００が取付けられている。
【０７２６】
裏ユニット３０００は、パネルホルダ１１２０の後面に取付けられ前方が開放されている箱状で後壁に四角い開口部３０１０ａを有している裏箱３０１０と、裏箱３０１０の後面に取付けられておりメイン演出表示装置１６００を着脱可能に取付けるためのロック機構３０２０と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａよりも下側における背面視左端に取付けられているパネル中継基板３０３１と、裏箱３０１０の後面でパネル中継基板３０３１の背面視右側に取付けられている演出駆動基板３０３２と、裏箱３０１０の後面で演出駆動基板３０３２のの背面視右側に取付けられているモータ駆動基板３０３３と、裏箱３０１０の後面で開口部３０１０ａの上側に取付けられている上部中継基板３０３４と、を備えている。
【０７２７】
パネル中継基板３０３１は、主制御基板１３１０と、機能表示ユニット１４００、ゲートセンサ２４０１、第二始動口センサ２４０２、大入賞口センサ２４０３、一般入賞口センサ３１６６、第一始動口センサ３１６７、始動口ソレノイド２４１２、アタッカソレノイド２４１４、及び磁気センサ（図示は省略）との接続を中継している。演出駆動基板３０３２及びモータ駆動基板３０３３は、周辺制御基板１５１０からの制御信号に基づいて、裏前装飾ユニット３１００、裏下可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏右可動演出ユニット３４００、及び裏中可動演出ユニット３５００、に備えられている装飾基板や駆動モータ等を制御している。上部中継基板３０３４は、演出駆動基板３０３２及びモータ駆動基板３０３３と、裏中可動演出ユニット３５００と、の接続を中継している。
【０７２８】
また、裏ユニット３０００は、パネル中継基板３０３１、演出駆動基板３０３２、モータ駆動基板３０３３、及び上部中継基板３０３４の夫々の後側を夫々覆うように裏箱３０１０の後面に取付けられているパネル中継基板カバー３０３５、演出駆動基板カバー３０３６、モータ駆動基板カバー３０３７、及び上部中継基板カバー３０３８を備えている。
【０７２９】
更に、裏ユニット３０００は、裏箱３０１０の前端に取付けられている平枠状の裏前装飾ユニット３１００と、裏箱３０１０内において裏前装飾ユニット３１００の後側で開口部３０１０ａの下側に取付けられている裏下可動演出ユニット３２００と、裏箱３０１０内において裏前装飾ユニット３１００の後側で開口部３０１０ａの上側に取付けられている裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００と、裏箱３０１０内において裏前装飾ユニット３１００と裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００との間で開口部３０１０ａの上側及び左右両側を囲むように取付けられている裏中可動演出ユニット３５００と、を備えている。
【０７３０】
［５－９ａ．裏箱］
次に、裏ユニット３０００の裏箱３０１０について、主に図１２３等を参照して詳細に説明する。裏ユニット３０００の裏箱３０１０は、前方が開放されている箱状で後壁に四

角く貫通している開口部３０１０ａと、開口部３０１０ａの周縁から遊技パネル１１００の面に沿った方向へ間隔を開けて後方へ突出している平板枠状の液晶取付部３０１０ｂと、液晶取付部３０１０ｂにおける背面視右辺において枠内の内側から外方へ向かって窪んでおりメイン演出表示装置１６００の左固定片１６０１が挿入される二つの固定溝３０１０ｃと、液晶取付部３０１０ｂの背面視左辺の上下方向中央において後端から裏箱３０１０の後壁まで切欠かれロック機構３０２０が取付けられる切欠部３０１０ｄと、裏箱３０１０の前端から外方へ延出しているフランジ状の固定片部３０１０ｅと、開口部３０１０ａの下辺に形成されており上方へ開放されている案内溝３０１０ｆと、を備えている。

【０７３１】

裏箱３０１０の開口部３０１０ａは、メイン演出表示装置１６００の表示画面と略同じ大きさに形成されている。また、液晶取付部３０１０ｂは、枠内にメイン演出表示装置１６００を嵌め込むことが可能な大きさに形成されている。裏箱３０１０は、後面における切欠部３０１０ｄの背面視左側にロック機構３０２０が上下にスライド可能に取付けられる。

【０７３２】

また、裏箱３０１０の固定片部３０１０ｅは、前面が遊技パネル１１００のパネルホルダ１１２０の後面に当接した状態で、パネルホルダ１１２０に取付けられる。裏箱３０１０は、各可動演出ユニット等を取付けるためのボスや取付孔等が適宜位置に形成されている。

【０７３３】

更に、裏箱３０１０の案内溝３０１０ｆは、上方から、裏左可動演出ユニット３３００の裏左装飾体ユニット３３５０における装飾体ベース３３５３の案内片３３５３ｃと、裏右可動演出ユニット３４００の裏右装飾体ユニット３４５０における装飾体ベース３４５３の案内片３４５３ｃと、が左右方向へ摺動可能に挿入される。この案内溝３０１０ｆは、案内片３３５３ｃ及び案内片３４５３ｃの前後方向への移動を規制している。

【０７３４】

［５－９ｂ．裏前装飾ユニット］

次に、裏ユニット３０００の裏前装飾ユニット３１００について、主に図１２３乃至図１３３を参照して詳細に説明する。図１２６は裏ユニットにおける裏前装飾ユニットを裏前前ユニット、裏前中ユニット、及び裏前後ユニットに分解して前から見た分解斜視図であり、図１２７は裏ユニットにおける裏前装飾ユニットを裏前前ユニット、裏前中ユニット、及び裏前後ユニットに分解して後ろから見た分解斜視図である。図１２８（ａ）は遊技盤の左上隅の部位を拡大して示す正面図であり、（ｂ）は（ａ）におけるＲ－Ｒ線で切断した断面図である。図１２９は、図１２８における矢視Ｂに対してセンター役物を省略した状態で示す斜視図である。図１３０は裏前装飾ユニットの裏前中ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１３１は裏前装飾ユニットの裏前中ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１３２（ａ）は裏前装飾ユニットの裏前中ユニットを上下方向の途中で切断して上から見た断面図であり、（ｂ）は（ａ）の断面図の左端付近を拡大して示す説明図であり、（ｃ）は（ａ）の断面図の右端付近を拡大して示す説明図である。図１３３（ａ）は裏前中ユニットの第一導光板の装飾を示す正面図であり、（ｂ）は裏前中ユニットの第二導光板の装飾を示す正面図である。

【０７３５】

裏ユニット３０００における裏前装飾ユニット３１００は、前後方向の奥行が薄い平枠状に形成されており、裏箱３０１０の前端に取付けられている。裏前装飾ユニット３１００は、正面視において下方が開放された略Ｃ字状に形成されている裏前前ユニット３１１０と、裏前前ユニット３１１０の内周を後側から閉鎖するように配置されている平板状の裏前中ユニット３１３０と、裏前中ユニット３１３０及び裏前前ユニット３１１０を後ろ側から支持していると共に裏箱３０１０の前端付近に取付けられ平面視において上方が開放された略コ字状に形成されている裏前後ユニット３１６０と、を備えている。

【０７３６】

裏前装飾ユニット３１００における裏前前ユニット３１１０は、裏箱３０１０の開口部３０１０ａよりも上側の前端に取付けられ左右方向に延びている平板状の裏前上部ベース３１１１と、裏前上部ベース３１１１の前面の左右両端付近に夫々取付けられている裏前上左装飾体３１１２及び裏前上右装飾体３１１３と、裏前上左装飾体３１１２と裏前上右装飾体３１１３との間で裏前上部ベース３１１１の前面に取付けられている裏前上中装飾体３１１４と、裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、及び裏前上中装飾体３１１４に跨るように左右に延びておりパチンコ機１のコンセプトに沿ったロゴ（図示は省略）が形成されている裏前ロゴ装飾体３１１５と、を備えている。

【０７３７】

また、裏前前ユニット３１１０は、裏前上部ベース３１１１の左右両端付近に上端が夫々取付けられており上下に延びている裏前左サイド装飾体３１１６及び裏前右サイド装飾体３１１７と、裏前左サイド装飾体３１１６及び裏前右サイド装飾体３１１７の夫々の下端付近に配置されている裏前左下装飾体３１１８及び裏前右下装飾体３１１９と、を備えている。

【０７３８】

更に、裏前前ユニット３１１０は、裏前上部ベース３１１１と、裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、及び裏前上中装飾体３１１４との間に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前上装飾基板３１２０と、裏前右サイド装飾体３１１７の後側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前右装飾基板３１２１と、を備えている。

【０７３９】

裏前前ユニット３１１０の裏前上左装飾体３１１２は、立体的なレリーフ状に形成されており、一つの連続した装飾を有している。裏前上左装飾体３１１２は、左上から右下へ斜めに延びた中装飾部３１１２ａと、中装飾部３１１２ａの左右両側と上側とを囲んでいる周縁装飾部３１１２ｂと、を備えている。中装飾部３１１２ａは、無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状に形成されている。周縁装飾部３１１２ｂは、赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成されている。この裏前上左装飾体３１１２は、後述する裏左可動演出ユニット３３００における裏左装飾体３３５４の装飾と連続することができるように形成されている。

【０７４０】

裏前上左装飾体３１１２は、遊技盤５に組立てた状態で、正面視において、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０における開口部１１１２の外側でパネル板１１１０の後側に位置する装飾後部３１１２ｃと、パネル板１１１０における開口部１１１２の内側（センター役物２５００の枠内）に位置する装飾前部３１１２ｄと、を有している。裏前上左装飾体３１１２の装飾前部３１１２ｄは、図１２８（ａ）及び図１２９に示すように、前面がパネル板１１１０の前面よりも前方へ突出している。換言すると、裏前上左装飾体３１１２の装飾前部３１１２ｄは、後方からパネル板１１１０における開口部１１１２内に膨出（突出）している。これにより、遊技盤５を前方から見た時に、裏前上左装飾体３１１２の装飾前部３１１２ｄが、パネル板１１１０の開口部１１１２内において、パネル板１１１０の後面よりも前方へ膨出しているため、裏前上左装飾体３１１２の奥行感を強調することができ、遊技領域５ａ内の装飾性をより高めることができる。また、裏前上左装飾体３１１２は、装飾後部３１１２ｃと装飾前部３１１２ｄとで、一つに認識される立体的な装飾に形成されている。

【０７４１】

裏前前ユニット３１１０の裏前上右装飾体３１１３は、立体的なレリーフ状に形成されており、一つの連続した装飾を有している。裏前上右装飾体３１１３は、右上から左下へ斜めに延びた中装飾部３１１３ａと、中装飾部３１１３ａの左右両側と上側とを囲んでいる周縁装飾部３１１３ｂと、を備えている。中装飾部３１１３ａは、無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状に形成されている。周縁装飾部３１１３ｂは、赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成されている。この裏前上右装飾体３１１３は、後述

する裏右可動演出ユニット３４００における裏右装飾体３４５４と連続するように形成されている。

【０７４２】

裏前上右装飾体３１１３は、遊技盤５に組立てた状態で、正面視において、遊技パネル１１００の透明なパネル板１１１０における開口部１１１２の外側でパネル板１１１０の後側に位置する装飾後部３１１３ｃと、パネル板１１１０における開口部１１１２の内側（センター役物２５００の枠内）に位置する装飾前部３１１３ｄと、を有している。裏前上右装飾体３１１３の装飾前部３１１３ｄは、前面がパネル板１１１０の後面よりも前方へ突出している。換言すると、裏前上右装飾体３１１３の装飾前部３１１３ｄは、後方からパネル板１１１０における開口部１１１２内に膨出（突出）している。これにより、遊技盤５を前方から見た時に、裏前上右装飾体３１１３の装飾前部３１１３ｄが、パネル板１１１０の開口部１１１２内において、パネル板１１１０の後面よりも前方へ膨出しているため、裏前上右装飾体３１１３の奥行感を強調することができ、遊技領域５ａ内の装飾性をより高めることができる。また、裏前上右装飾体３１１３は、装飾後部３１１３ｃと装飾前部３１１３ｄとで、一つに認識される立体的な装飾に形成されている。

【０７４３】

裏前上中装飾体３１１４は、図示するように、中央に地球儀を模した装飾が形成されており、部分的に透光性を有している。裏前ロゴ装飾体３１１５は、詳細な図示は省略するが、前面にパチンコ機１のコンセプトに沿った所定の文字列からなり透光性を有するロゴが前面に形成されている。また、裏前ロゴ装飾体３１１５は、前面のロゴを除いた部位の表面に、金属光沢を有するメッキ層を有している。

【０７４４】

裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、裏前上中装飾体３１１４、及び裏前ロゴ装飾体３１１５は、遊技盤５に組立てた状態で、メイン演出表示装置１６００の表示画面よりも上方に位置しており、遊技領域５ａ内の上部を装飾している。

【０７４５】

裏前左サイド装飾体３１１６は、透光性を有する部位と、金属光沢を有する部位と、を備えており、遊技領域５ａの中央を中心とした直線的な放射状の装飾が形成されている。裏前右サイド装飾体３１１７は、透光性を有する部位と、金属光沢を有する部位と、を備えており、遊技領域５ａの中央を中心とした直線的な放射状の装飾が形成されている。裏前左サイド装飾体３１１６及び裏前右サイド装飾体３１１７は、遊技盤５に組立てた状態で、メイン演出表示装置１６００の表示画面の左右両外側に位置しており、遊技領域５ａ内の左部及び右部を夫々装飾している。

【０７４６】

裏前左下装飾体３１１８は、透光性を有する部位と、金属光沢を有する部位と、を備えており、直線を基調とした機械的な装飾が形成されている。裏前右下装飾体３１１９は、透光性を有する部位と、金属光沢を有する部位と、を備えており、直線を基調とした機械的な装飾が形成されている。裏前左下装飾体３１１８及び裏前右下装飾体３１１９は、遊技盤５に組立てた状態で、メイン演出表示装置１６００の表示画面よりも下側に配置されており、遊技領域５ａ内の下部を装飾している。

【０７４７】

裏前上装飾基板３１２０は、複数のフルカラーＬＥＤが実装されており、裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、裏前上中装飾体３１１４、及び裏前ロゴ装飾体３１１５を、夫々独立した状態で発光装飾させることができる。また、裏前上装飾基板３１２０は、裏前上左装飾体３１１２の中装飾部３１１２ａと周縁装飾部３１１２ｂ、及び裏前上右装飾体３１１３の中装飾部３１１３ａと周縁装飾部３１１３ｂを、夫々独立して発光装飾させることができる。裏前右装飾基板３１２１は、裏前右サイド装飾体３１１７を発光装飾させることができる。

【０７４８】

裏前装飾ユニット３１００の裏前中ユニット３１３０は、図１３０及び図１３１に示す

ように、左右に離間して配置されており夫々裏前後ユニット３１６０に取付けられる上下に延びた左ベース３１３１及び右ベース３１３２と、左ベース３１３１及び右ベース３１３２の夫々の前面に取付けられる左カバー３１３３及び右カバー３１３４と、左カバー３１３３及び右カバー３１３４と左ベース３１３１及び右ベース３１３２との間に配置されている透明平板状の第一導光板３１３５と、第一導光板３１３５の後側で左カバー３１３３及び右カバー３１３４と左ベース３１３１及び右ベース３１３２との間に配置されている透明平板状の第二導光板３１３６と、を備えている。

【０７４９】

左ベース３１３１は、正面視の形状が、上端から全高に対して約３／４の距離下方へ垂直に延びた後に、右方へ短く水平に延びた上で、下端まで下方へ垂直に延びたクランク状に形成されている。右ベース３１３２は、正面視の形状が、上端から全高に対して約３／４の距離下方へ垂直に延びた後に、左方へ短く水平に延びた上で、下端まで左下へ斜めに延びた形状に形成されている。左カバー３１３３及び右カバー３１３４は、正面視の形状が、夫々左ベース３１３１及び右ベース３１３２と略同じ形状に形成されている。

【０７５０】

第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６は、左右に離間している左ベース３１３１と右ベース３１３２との間を繋ぐ（閉鎖する）ように左右に延びており、左右両側辺が、夫々左ベース３１３１及び右ベース３１３２の形状と沿った形状に形成されている。第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６は、平面視の形状が同じ形状に形成されており、左右両辺付近に、左ベース３１３１及び右ベース３１３２に取付けるための複数の貫通孔が形成されている。

【０７５１】

第一導光板３１３５は、図１３３（ａ）に示すように、全高に対して上から約３／４の高さの範囲に、複数の微小な凹凸により描写された第一絵柄３１３５ａが形成されている。第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａは、所定の文字列（ここでは、「ＨＥＲＥ　ＣＯＭＥＳ　Ａ　ＮＥＷ　ＣＨＡＬＬＥＮＧＥＲ」）を有した絵柄とされている。第二導光板３１３６は、図１３３（ｂ）に示すように、全体に亘って複数の微小な凹凸により描写された第二絵柄３１３６ａが形成されている。第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａは、中央を中心とした放射状に延びた火炎（或いは、雷光）の絵柄とされている。

【０７５２】

第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａは、後述する裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ、及び裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａからの光によって発光装飾させられることで視認可能となる。第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａは、後述する裏前中左装飾基板３１４１の第二ＬＥＤ３１４１ｂ、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａ、裏前中右装飾基板３１４３の第二ＬＥＤ３１４３ｂ、及び裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａからの光によって発光装飾させられることで視認可能となる。

【０７５３】

また、裏前中ユニット３１３０は、左カバー３１３３及び右カバー３１３４と左ベース３１３１及び右ベース３１３２との間の部位において第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間に配置されている不透光で帯板状の左上スペーサ３１３７、左下スペーサ３１３８、右上スペーサ３１３９、及び右下スペーサ３１４０と、を備えている。これら左上スペーサ３１３７、左下スペーサ３１３８、右上スペーサ３１３９、及び右下スペーサ３１４０によって、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間には隙間が形成されている。

【０７５４】

左上スペーサ３１３７は、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６の左辺における上端から下方へ垂直に延びた部位と水平に延びた部位とに対応した大きさ及び形状に形成されている。左下スペーサ３１３８は、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６の左辺における下端から上方へ垂直に延びた部位と対応した大きさ及び形状に形成されている

。右上スペーサ３１３９は、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６の右辺における上端から下方へ垂直に延びた部位と水平に延びた部位とに対応した大きさ及び形状に形成されている。右下スペーサ３１４０は、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６の右辺における下端から上方へ斜めに延びた部位と対応した大きさ及び形状に形成されている。

【０７５５】

左上スペーサ３１３７、左下スペーサ３１３８、右上スペーサ３１３９、及び右下スペーサ３１４０は、左右方向の幅の一部（詳しくは、全幅の約１／６）が、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間に位置しており、残りの部分が、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している。

【０７５６】

また、裏前中ユニット３１３０は、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６の左側面における上端から下方へ垂直に延びた側面へ向かって光を照射可能な第一ＬＥＤ３１４１ａ及び第二ＬＥＤ３１４１ｂが夫々複数実装されている裏前中左装飾基板３１４１と、第二導光板３１３６の左側面における下端から上方へ垂直に延びている側面へ向かって光を照射可能なＬＥＤ３１４２ａが複数実装されている裏前中左下装飾基板３１４と、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６の右側面における上端から下方へ垂直に延びた側面へ向かって光を照射可能な第一ＬＥＤ３１４３ａ及び第二ＬＥＤ３１４３ｂが夫々複数実装されている裏前中右装飾基板３１４３と、第二導光板３１３６の右側面における下端から上方へ斜めに延びている側面へ向かって光を照射可能なＬＥＤ３１４４ａが複数実装されている裏前中右下装飾基板３１４４と、を備えている。

【０７５７】

裏前中左装飾基板３１４１は、複数の第一ＬＥＤ３１４１ａが、前辺付近において上下に列設されており、複数の第二ＬＥＤ３１４１ｂが、複数の第一ＬＥＤ３１４１ａの列から後方へ離間した位置で上下に列設されている。裏前中左下装飾基板３１４２は、複数のＬＥＤ３１４２ａが、上下に列設されている。裏前中右装飾基板３１４３は、複数の第一ＬＥＤ３１４３ａが、前辺付近において上下に列設されており、複数の第二ＬＥＤ３１４３ｂが、複数の第一ＬＥＤ３１４３ａの列から後方へ離間した位置で上下に列設されている。裏前中右下装飾基板３１４４は、複数のＬＥＤ３１４４ａが、上下に列設されている。

【０７５８】

裏前中左装飾基板３１４１及び裏前中左下装飾基板３１４２は、左ベース３１３１と左カバー３１３３とで挟持されるように取付けられている。裏前中右装飾基板３１４３及び裏前中右下装飾基板３１４４は、右ベース３１３２と右カバー３１３４とで挟持されるように取付けられている。裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ及び第二ＬＥＤ３１４１ｂ、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａ、裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａ及び第二ＬＥＤ３１４３ｂ、及び、裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａは、夫々フルカラーＬＥＤとされている。

【０７５９】

更に、裏前中ユニット３１３０は、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａからの光を、第一導光板３１３５の左側面における上端から下方へ垂直に延びた側面へ案内する透明帯板状の第一レンズ左３１４５と、裏前中左装飾基板３１４１の第二ＬＥＤ３１４１ｂからの光を、第二導光板３１３６の左側面における上端から下方へ垂直に延びた側面へ案内する透明帯板状の第二レンズ左３１４６と、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａからの光を、第二導光板３１３６の左側面における下端から上方へ垂直に延びた側面へ案内する透明帯板状の第二レンズ左下３１４７と、裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａからの光を、第一導光板３１３５の右側面における上端から下方へ垂直に延びた側面へ案内する透明帯板状の第一レンズ右３１４８と、裏前中右装飾基板３１４３の第二ＬＥＤ３１４３ｂからの光を、第二導光板３１３６の右側面における上端から下方へ垂直に延びた側面へ案内する透明帯板状の第二レンズ右３１４９と、裏前中

右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａからの光を、第二導光板３１３６の左側面における下端から上方へ斜めに延びた側面へ案内する透明帯板状の第二レンズ右下３１５０と、を備えている。

【０７６０】

第一レンズ左３１４５、第二レンズ左３１４６、第二レンズ左下３１４７、第一レンズ右３１４８、第二レンズ右３１４９、及び第二レンズ右下３１５０は、第一導光板３１３５や第二導光板３１３６の側面を向いている面が、波状に形成されており、反対側の面から入射した光を、第一導光板３１３５や第二導光板３１３６の側面へ拡散させて放射させることができる。

【０７６１】

裏前中ユニット３１３０は、組立てた状態では、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している左上スペーサ３１３７の左端が、裏前中左装飾基板３１４１における第一ＬＥＤ３１４１ａと第二ＬＥＤ３１４１ｂとの間の右側面付近に位置している。また、左上スペーサ３１３７における第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している部位は、前後両面が、第一レンズ左３１４５と第二レンズ左３１４６とによって挟まれている。これにより、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａからの光は、第一レンズ左３１４５の左側面のみに照射され、第二レンズ左３１４６側へは左上スペーサ３１３７に遮られて照射されることはない。また、裏前中左装飾基板３１４１の第二ＬＥＤ３１４１ｂからの光は、第二レンズ左３１４６の左側面のみに照射され、第一レンズ左３１４５側へは左上スペーサ３１３７に遮られて照射されることはない。つまり、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａからの光は、第一レンズ左３１４５を介して第一導光板３１３５のみを照射し、第二ＬＥＤ３１４１ｂからの光は、第二レンズ左３１４６を介して第二導光板３１３６のみを照射するように形成されている。

【０７６２】

また、裏前中ユニット３１３０は、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している左下スペーサ３１３８の左端が、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａの前方となる右側面付近に位置している。また、左下スペーサ３１３８における第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している部位は、後面に、第二レンズ左下３１４７が当接している。これにより、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａからの光は、第二レンズ左下３１４７の左側面のみに照射され、前方側（第一導光板３１３５側）へは左下スペーサ３１３８に遮られて照射されることはない。従って、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａからの光は、第二レンズ左下３１４７を介して第二導光板３１３６のみを照射するように形成されている。

【０７６３】

また、裏前中ユニット３１３０は、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している右上スペーサ３１３９の右端が、裏前中右装飾基板３１４３における第一ＬＥＤ３１４３ａと第二ＬＥＤ３１４３ｂとの間の左側面付近に位置している。また、右上スペーサ３１３９における第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している部位は、前後両面が、第一レンズ右３１４８と第二レンズ右３１４９とによって挟まれている。これにより、裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａからの光は、第一レンズ右３１４８の右側面のみに照射され、第二レンズ右３１４９側へは右上スペーサ３１３９に遮られて照射されることはない。また、裏前中右装飾基板３１４３の第二ＬＥＤ３１４３ｂからの光は、第二レンズ右３１４９の右側面のみに照射され、第一レンズ右３１４８側へは右上スペーサ３１３９に遮られて照射されることはない。つまり、裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａからの光は、第一レンズ右３１４８を介して第一導光板３１３５のみを照射し、第二ＬＥＤ３１４３ｂからの光は、第二レンズ右３１４９を介して第二導光板３１３６のみを照射するように形成されている。

【０７６４】

更に、裏前中ユニット３１３０は、第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している右下スペーサ３１４０の右端（右下を向いている端部）が、裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａの前方となる左側面（左上を向いている面）付近に位置している。また、右下スペーサ３１４０における第一導光板３１３５と第二導光板３１３６との間から外方へ突出している部位は、後面に、第二レンズ右下３１５０が当接している。これにより、裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａからの光は、第二レンズ右下３１５０の右側面のみに照射され、前方側（第一導光板３１３５側）へは右下スペーサ３１４０に遮られて照射されることはない。従って、裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａからの光は、第二レンズ右下３１５０を介して第二導光板３１３６のみを照射するように形成されている。

【０７６５】

裏前中ユニット３１３０は、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ、及び裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａを、発光させると、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａを発光装飾させることができる（図１３３（ａ）及び図１５９を参照）。また、裏前中左装飾基板３１４１の第二ＬＥＤ３１４１ｂ、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａ、裏前中右装飾基板３１４３の第二ＬＥＤ３１４３ｂ、裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａを、発光させると、第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａを発光装飾させることができる（図１３３（ｂ）及び図１６０を参照）。

【０７６６】

裏前装飾ユニット３１００の裏前後ユニット３１６０は、図１２６及び図１２７等に示すように、正面視の形状が上方へ開放されたコ字状に形成されており裏箱３０１０の前端付近に取付けられる板状のユニットベース３１６１と、ユニットベース３１６１の前面における左右方向中央下部に取付けられており始動口ユニット２１００の第一始動口２００２に受入れられた遊技球を受取って下方へ排出する第一始動口排出口３１６２と、第一始動口排出口３１６２の正面視左方に配置されており、サイドユニット２２００の三つの一般入賞口２００１に受入れられた遊技球を夫々受取って下方へ排出する一般入賞口左排出口３１６３と、第一始動口排出口３１６２の正面視右方に配置されており、アタッカユニット２４００の一般入賞口２００１に受入れられた遊技球を受取って下方へ排出する一般入賞口右排出口３１６４と、一般入賞口右排出口３１６４の正面視右方に配置されており、アタッカユニット２４００の第二始動口２００４に受入れられた遊技球を受取って下方へ排出する第二始動口排出口３１６５と、を備えている。

【０７６７】

また、裏前後ユニット３１６０は、ユニットベース３１６１に取付けられており一般入賞口２００１に受入れられ、一般入賞口左排出口３１６３及び一般入賞口右排出口３１６４に受け渡された遊技球を夫々検知する一般入賞口センサ３１６６と、第一始動口２００２に受入れられ、第一始動口排出口３１６２に受け渡された遊技球を検知する第一始動口センサ３１６７と、第一始動口排出口３１６２付近に配置されている磁気センサ（図示は省略）と、を備えている。図示しない、磁気センサは、磁石を用いた不正行為が行われるのを監視するためのものである。

【０７６８】

更に、裏前後ユニット３１６０は、ユニットベース３１６１の前面における左右方向中央下部に取付けられており上部に第一始動口排出口３１６２が開口している裏前下中装飾体３１６８と、ユニットベース３１６１の前面における左辺側に沿って取付けられている裏前後左装飾体３１６９と、ユニットベース３１６１の前面における右辺側に沿って取付けられている裏前後右装飾体３１７０と、ユニットベース３１６１と裏前下中装飾体３１６８及び裏前後左装飾体３１６９との間に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前左下装飾基板３１７１と、ユニットベース３１６１と裏前下中装飾体３１６８との間に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏前右下装飾基板３１７２と、を備えている。

【０７６９】
裏前後ユニット３１６０の裏前下中装飾体３１６８は、立体的なレリーフ状に形成されている。裏前下中装飾体３１６８は、第一始動口排出口３１６２の下側及び左右両側を覆い下端から上端へ向かうに従って左右方向の幅が大きくなるように形成された中装飾部３１６８ａと、中装飾部３１６８ａの左右両外側に配置されている周縁装飾部３１６８ｂと、を備えている。中装飾部３１６８ａは、無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状に形成されている。周縁装飾部３１６８ｂは、赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成されている。裏前後左装飾体３１６９及び裏前後右装飾体３１７０は、透光性を有した部材によって、炎を模した立体的なレリーフ状に形成されている。

【０７７０】
裏前左下装飾基板３１７１は、裏前下中装飾体３１６８の左半分と、裏前後左装飾体３１６９の下部と、裏前前ユニット３１１０の裏前左下装飾体３１１８とを、発光装飾させることができる。裏前右下装飾基板３１７２は、裏前下中装飾体３１６８の右半分と、裏前前ユニット３１１０の裏前右下装飾体３１１９とを、発光装飾させることができる。裏前左下装飾基板３１７１及び裏前右下装飾基板３１７２に夫々実装されている複数のＬＥＤは、フルカラーＬＥＤとされている。

【０７７１】
裏前装飾ユニット３１００は、組立てた状態で、外周が遊技領域５ａと略同じ大きさの枠状に形成されている。裏前装飾ユニット３１００は、裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、裏前上中装飾体３１１４、裏前左サイド装飾体３１１６、裏前右サイド装飾体３１１７、裏前左下装飾体３１１８、裏前右下装飾体３１１９、裏前下中装飾体３１６８、裏前後左装飾体３１６９、及び裏前後右装飾体３１７０によって、正面視においてメイン演出表示装置１６００の表示画面よりも内周が大きい枠状に形成されており、その枠内を透明な第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６が閉鎖している。

【０７７２】
また、裏前装飾ユニット３１００は、裏前上左装飾体３１１２の装飾前部３１１２ｄ、裏前上右装飾体３１１３の装飾前部３１１３ｄ、裏前上中装飾体３１１４の一部、裏前ロゴ装飾体３１１５、及び裏前後右装飾体３１７０の一部が、正面視において、遊技パネル１１００におけるパネル板１１１０の開口部１１１２の内側に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して前方（遊技者側）から視認することができ、残りが、透明なパネル板１１１０を通して前方（遊技者側）から視認することができる。

【０７７３】
裏前装飾ユニット３１００は、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ及び第二ＬＥＤ３１４１ｂ、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａ、裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａ及び第二ＬＥＤ３１４３ｂ、及び裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａを、発光させていない状態では、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａや第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａを、前方（遊技者側）から視認することができず、第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６を通して後方を良好に視認することができる。

【０７７４】
裏前装飾ユニット３１００は、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ、及び裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａを、発光させることで、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａを適宜色で発光装飾させることができる（図１５９を参照）。第一絵柄３１３５ａを発光装飾させた状態では、図１５９に示すように、メイン演出表示装置１６００の前方に、所定の文字列からなる絵柄が表示される。

【０７７５】
また、裏前中左装飾基板３１４１の第二ＬＥＤ３１４１ｂ、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａ、裏前中右装飾基板３１４３の第二ＬＥＤ３１４３ｂ、及び裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａを、発光させることで、第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａを適宜色で発光装飾させることができる（図１６０を参照）。第二絵

柄３１３６ａを発光装飾させた状態では、図１６０に示すように、メイン演出表示装置１６００の前方からセンター役物２５００のステージ２５３０の後方に亘る広い範囲に、遊技領域５ａの中央を中心とした放射状の絵柄が表示される。

【０７７６】

また、裏前装飾ユニット３１００は、図示は省略するが、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａと第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａとを、同時に同じ色で発光装飾させると、第一絵柄３１３５ａと第二絵柄３１３６ａとにおいて前後に重なっている部分が、他の部分よりも明るく発光する。また、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａと第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａとを、同時に異なった色で発光装飾させると、第一絵柄３１３５ａと第二絵柄３１３６ａとにおいて前後に重なっている部分が、光の三原色による加法混合に基づいた色で発光する。

【０７７７】

裏前装飾ユニット３１００は、図１３３に示すように、第一絵柄３１３５ａが第二絵柄３１３６ａよりも小さい絵柄とされているにも関わらず、第一絵柄３１３５ａが形成（描写）されている第一導光板３１３５と、第二絵柄３１３６ａが形成（描写）されている第二導光板３１３６とを、同じ大きさとしているため、第一導光板３１３５を第一絵柄３１３５ａの大きさに合わせた場合と比較して、正面から見た時に第一導光板３１３５の端辺が見えて見栄えが悪くなるのを防止することができ、第一絵柄３１３５ａや第二絵柄３１３６ａの見栄えを良くすることができる。

【０７７８】

また、裏前装飾ユニット３１００は、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａの大きさと、第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａの大きさとを異ならせているため、異なる大きさの絵柄が表示されることで、遊技者を驚かせることができ、演出効果を高めさせて遊技者をより楽しませることができる。

【０７７９】

［５－９ｃ．裏下可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏下可動演出ユニット３２００について、主に図１３４乃至図１４１を参照して詳細に説明する。図１３４（ａ）は裏ユニットの裏下可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットの裏下可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１３５（ａ）は裏下可動演出ユニットを裏下昇降ユニットと裏下装飾体ユニットとに分解して前から見た分解斜視図であり、（ｂ）は裏下可動演出ユニットを裏下昇降ユニットと裏下装飾体ユニットとに分解して後ろから見た分解斜視図である。図１３６は裏下昇降ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１３７は裏下昇降ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１３８は裏下装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１３９は裏下装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。図１４０は裏下装飾体ユニットの裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１４１は裏下装飾体ユニットの裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０７８０】

裏ユニット３０００の裏下可動演出ユニット３２００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下側に取付けられている。裏下可動演出ユニット３２００は、裏箱３０１０内の開口部３０１０ａの下側に取付けられる裏下昇降ユニット３２１０と、裏下昇降ユニット３２１０の前面に左右に離間して取付けられている円柱状の一対の昇降シャフト３２０１と、一対の昇降シャフト３２０１の上端側を裏下昇降ユニット３２１０に取付けているシャフト取付部材３２０２と、一対の昇降シャフト３２０１によって上下方向へ移動可能に取付けられており、裏下昇降ユニット３２１０によって昇降させられる裏下装飾体ユニット３２３０と、を備えている。裏下装飾体ユニット３２３０は、所定の演出画像を表示可能なサブ演出表示装置３２４０と、サブ演出表示装置３２４０の前側で回動可能に取付けられている一対の裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６

０と、を備えている。
【０７８１】
裏下可動演出ユニット３２００の裏下昇降ユニット３２１０は、図１３６及び図１３７等に示すように、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの下側に取付けられ、左右に延びた平板状のユニットベース３２１１と、ユニットベース３２１１の前面おける左右両端下部に夫々取付けられている一対の裏下昇降駆動モータ３２１２と、一対の裏下昇降駆動モータ３２１２の回転軸に夫々取付けられている平歯車状の一対の昇降駆動ギア３２１３と、夫々の昇降駆動ギア３２１３と夫々が噛合しておりユニットベース３２１１の前面に回転可能に取付けられている平歯車状の一対の伝達ギア３２１４と、夫々の伝達ギア３２１４と夫々が噛合しているギア部３２１５ａ、及びギア部３２１５ａの前面から前方へ突出している円柱状の昇降ピン３２１５ｂを有しておりユニットベース３２１１の前面に回転可能に取付けられている円環状の一対の昇降カム部材３２１５と、夫々の昇降カム部材３２１５を夫々貫通してユニットベース３２１１の前面に取付けられておりユニットベース３２１１と協働して昇降カム部材３２１５を回転可能に取付けている円盤状の一対の回転支持部材３２１６と、を備えている。
【０７８２】
また、裏下昇降ユニット３２１０は、ユニットベース３２１１の前面における一対の昇降カム部材３２１５よりも左右方向外側の部位で基端側が前後に延びた軸周りに夫々回転可能に取付けられていると共に、先端側が昇降カム部材３２１５よりも左右方向中央側へ延出しており、昇降カム部材３２１５の回転によって先端側が上下に移動するように回動する帯板状の一対の昇降アーム３２１７と、ユニットベース３２１１の前面に取付けられており、夫々の昇降アーム３２１７の回動位置を検知する一対の昇降検知センサ３２１８と、夫々の昇降アーム３２１７を先端側が上方へ移動する方向へ回動するように夫々付勢している一対の昇降支援バネ３２１９と、ユニットベース３２１１の前面下部に取付けられている裏下中継基板３２２０と、を備えている。
【０７８３】
裏下昇降ユニット３２１０のユニットベース３２１１は、前面おける下端付近において左右に離間して形成されており昇降シャフト３２０１の下端を取付けるための一対のシャフト下取付部３２１１ａと、一対のシャフト下取付部３２１１ａの夫々の直上でユニットベース３２１１の上端に形成されており昇降シャフト３２０１の上端を取付けるための一対のシャフト上取付部３２１１ｂと、を備えている。ユニットベース３２１１は、一対の昇降シャフト３２０１が取付けられる部位よりも左右方向両外側に裏下昇降駆動モータ３２１２、伝達ギア３２１４、昇降カム部材３２１５、回転支持部材３２１６、昇降アーム３２１７、昇降検知センサ３２１８、及び昇降支援バネ３２１９が取付けられる。また、ユニットベース３２１１は、一対の昇降シャフト３２０１が取付けられる部位の間に裏下中継基板３２２０が取付けられる。
【０７８４】
昇降カム部材３２１５は、ユニットベース３２１１の上下方向中央からやや上寄りの位置で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている。昇降アーム３２１７は、基端側が昇降カム部材３２１５の回転中心と略同じ高さの位置で、回動可能に取付けられており、先端が昇降シャフト３２０１付近まで延びている。
【０７８５】
昇降アーム３２１７は、前後に貫通していると共に長手方向へ延びており昇降カム部材３２１５の昇降ピン３２１５ｂが摺動可能に挿入される長孔状の駆動スリット３２１７ａと、駆動スリット３２１７ａの先端側で前後に貫通していると共に先端付近まで長手方向へ延びている長孔状の昇降スリット３２１７ｂと、駆動スリット３２１７ａと昇降スリット３２１７ｂの間付近の下辺から下方へ平板状に延出している検知片３２１７ｃと、を備えている。昇降アーム３２１７の昇降スリット３２１７ｂ内には、後述する裏下装飾体ユニット３２３０の昇降ベース３２３１における作用ピン３２３１ｃが摺動可能に挿入される。また、昇降アーム３２１７の検知片３２１７ｃは、昇降検知センサ３２１８によって

検知される。
【０７８６】
裏下中継基板３２２０は、裏下昇降駆動モータ３２１２、昇降検知センサ３２１８、裏下装飾体ユニット３２３０の裏下中装飾基板３２３３、裏下回動駆動モータ３２３４、サブ演出表示装置３２４０、裏下左装飾基板３２５４、及び裏下右装飾基板３２６４と、演出駆動基板３０３２及びモータ駆動基板３０３３との接続を中継している。
【０７８７】
裏下可動演出ユニット３２００の裏下装飾体ユニット３２３０は、図１３８及び図１３９等に示すように、正面視の形状がやや横長四角形で前方が開放された浅い箱状に形成されており一対の昇降シャフト３２０１によって案内される昇降ベース３２３１と、昇降ベース３２３１内に配置されており所定の演出画像を表示可能なサブ演出表示装置３２４０と、サブ演出表示装置３２４０の外周を装飾している枠状で透光性を有した裏下装飾フレーム３２３２と、裏下装飾フレーム３２３２を発光装飾可能な複数のＬＥＤが前面に実装されており、昇降ベース３２３１内におけるサブ演出表示装置３２４０の後方に取付けられている裏下中装飾基板３２３３と、を備えている。
【０７８８】
また、裏下装飾体ユニット３２３０は、昇降ベース３２３１の後面の下端付近における正面視左側に回転軸が前方へ突出するように取付けられている裏下回動駆動モータ３２３４と、裏下回動駆動モータ３２３４の回転軸に取付けられている回動駆動ギア３２３５と、回動駆動ギア３２３５の回転により回動し昇降ベース３２３１における左右方向中央から左寄りの下端付近において前後に延びた軸周りに回動可能に取付けられている裏下左装飾体ユニット３２５０と、裏下左装飾体ユニット３２５０と共に回動し昇降ベース３２３１における左右方向中央から右寄りの下端付近において前後に延びた軸周りに回動可能に取付けられている裏下右装飾体ユニット３２６０と、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０の回動を支援している一対の回動支援バネ３２３６と、を備えている。
【０７８９】
昇降ベース３２３１は、左右両端の下端付近から左右方向外方へ夫々突出している突出部３２３１ａと、突出部３２３１ａを上下に貫通しており昇降シャフト３２０１が摺動可能に挿入される貫通孔３２３１ｂと、突出部３２３１ａの後面から後方へ円柱状に突出しており裏下昇降ユニット３２１０における一対の昇降アーム３２１７の昇降スリット３２１７ｂ内に摺動可能に挿入される作用ピン３２３１ｃと、突出部３２３１ａよりも下側における左右方向中央付近で左右に離間していると共に前後に貫通しており裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０を回動可能に支持する一対の軸孔部３２３１ｄと、を備えている。
【０７９０】
昇降ベース３２３１における一対の軸孔部３２３１ｄは、昇降ベース３２３１の左右方向中央を中心にして左右対称の位置に形成されており、夫々に裏下左装飾体ユニット３２５０における左基部部材３２５１の軸部３２５１ｂと、裏下右装飾体ユニット３２６０における右基部部材３２６１の軸部３２６１ｂとが、回転可能に挿入される。
【０７９１】
一対の回動支援バネ３２３６は、昇降ベース３２３１の一対の軸孔部３２３１ｄに回転可能に取付けられている裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０とを、夫々の先端同士が接近する方向へ回動するように付勢している。
【０７９２】
裏下装飾体ユニット３２３０の裏下左装飾体ユニット３２５０は、図１４０及び図１４１に示すように、昇降ベース３２３１に回転可能に取付けられる左基部部材３２５１と、左基部部材３２５１の前面に基端側が取付けられており左方へ向かって延びている平板状の左ベース３２５２と、左ベース３２５２の前側に取付けられており所定の装飾が透光性を有したレリーフ状に形成されている裏下左装飾体３２５３と、裏下左装飾体３２５３と

左ベース３２５２との間に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏下左装飾基板３２５４と、を備えている。

【０７９３】

裏下左装飾体ユニット３２５０の左基部部材３２５１は、円盤状の本体部３２５１ａと、本体部３２５１ａの後面から後方へ延出しており昇降ベース３２３１の正面視左側の軸孔部３２３１ｄに回転可能に取付けられる円柱状の軸部３２５１ｂと、本体部３２５１ａの外周に形成されており裏下装飾体ユニット３２３０の回動駆動ギア３２３５と噛合可能な駆動ギア部３２５１ｃと、本体部３２５１ａの外周における駆動ギア部３２５１ｃと反対側に形成されている伝達ギア部３２５１ｄと、を備えている。左基部部材３２５１の駆動ギア部３２５１ｃと伝達ギア部３２５１ｄは、軸部３２５１ｂを中心とした円周上において約９０度の角度範囲に形成されている。

【０７９４】

左ベース３２５２は、基端側の後面が、左基部部材３２５１における本体部３２５１ａの前面に取付けられている。左ベース３２５２は、正面視の形状が、基端側から左方へ延びた後に、上方へ円弧状に延びた略Ｊ字状に形成されている。

【０７９５】

裏下左装飾体３２５３は、左ベース３２５２の外形よりも大きく左ベース３２５２に沿った形状に形成されている。裏下左装飾体３２５３は、基端側から先端側へ延びており無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状の中装飾部３２５３ａと、中装飾部３２５３ａの下辺側と上辺の先端側において赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成されている周縁装飾部３２５３ｂと、を備えている。

【０７９６】

裏下左装飾基板３２５４は、前面に複数のフルカラーＬＥＤが実装されており、裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａと周縁装飾部３２５３ｂを、夫々別々に発光装飾させることができる。

【０７９７】

裏下装飾体ユニット３２３０の裏下右装飾体ユニット３２６０は、図１４０及び図１４１に示すように、昇降ベース３２３１に回転可能に取付けられる右基部部材３２６１と、右基部部材３２６１の前面に基端側が取付けられており右方へ向かって延びている平板状の右ベース３２６２と、右ベース３２６２の前側に取付けられており所定の装飾が透光性を有したレリーフ状に形成されている裏下右装飾体３２６３と、裏下右装飾体３２６３と右ベース３２６２との間に配置されており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏下右装飾基板３２６４と、を備えている。

【０７９８】

裏下右装飾体ユニット３２６０の右基部部材３２６１は、板状の本体部３２６１ａと、本体部３２６１ａの後面から後方へ延出しており昇降ベース３２３１の正面視右側の軸孔部３２３１ｄに回転可能に取付けられる円柱状の軸部３２６１ｂと、本体部３２６１ａの右外周に形成されており裏下左装飾体ユニット３２５０における左基部部材３２５１の伝達ギア部３２５１ｄと噛合している従動ギア部３２６１ｃと、を備えている。右基部部材３２６１の従動ギア部３２６１ｃは、軸部３２６１ｄを中心とした円周上において約９０度の角度範囲に形成されている。

【０７９９】

右ベース３２６２は、基端側の後面が、右基部部材３２６１における本体部３２６１ａの前面に取付けられている。右ベース３２６２は、正面視の形状が、基端側から右方へ延びた後に、上方へ円弧状に延びた略Ｊ字状に形成されている。

【０８００】

裏下右装飾体３２６３は、右ベース３２６２の外形よりも大きく右ベース３２６２に沿った形状に形成されている。裏下右装飾体３２６３は、基端側から先端側へ延びており無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状の中装飾部３２６３ａと、中装飾部３２６３ａの下辺側と上辺の先端側において赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成

されている周縁装飾部３２６３ｂと、を備えている。
【０８０１】
裏下右装飾基板３２６４は、前面に複数のフルカラーＬＥＤが実装されており、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと周縁装飾部３２６３ｂを、夫々別々に発光装飾させることができる。
【０８０２】
裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０は、正面視において、互いが左右対称に形成されている。
【０８０３】
続いて、裏下可動演出ユニット３２００の動作について説明する。裏下可動演出ユニット３２００は、通常の状態では、裏下装飾体ユニット３２３０が、最も下降していると共に、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０が、夫々の先端同士が最も離反しており、サブ演出表示装置３２４０の表示画面の全体が前方から視認できる状態となっている。詳述すると、通常の状態では、裏下装飾体ユニット３２３０における昇降ベース３２３１の一対の突出部３２３１ａが、裏下昇降ユニット３２１０におけるユニットベース３２１１の一対のシャフト下取付部３２１１ａに上方から当接した状態（下降位置の状態）となっている。
【０８０４】
また、通常の状態では、裏下昇降ユニット３２１０における一対の昇降カム部材３２１５の夫々の昇降ピン３２１５ｂが、下死点付近に位置していると共に、摺動可能に挿入されている昇降アーム３２１７の駆動スリット３２１７ａ内において、基端側（昇降アーム３２１７が回転可能に取付けられている側）の端部付近に位置している。これにより、裏下昇降ユニット３２１０における一対の昇降アーム３２１７は、回転可能に支持されている基端に対して先端が下方に位置するように斜めに延びている。この通常の状態では、一対の昇降アーム３２１７の夫々の検知片３２１７ｃが、昇降検知センサ３２１８によって検知されている。
【０８０５】
更に、通常の状態では、昇降ベース３２３１の一対の軸孔部３２３１ｄに回転可能に取付けられている裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０が、夫々軸孔部３２３１ｄの位置から左右方向外側へ略水平に延びた状態（離反位置の状態）となっており、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０の先端側がサブ演出表示装置３２４０の正面よりも外側の位置で、夫々上方へ延びるように円弧状に湾曲している。これにより、サブ演出表示装置３２４０の表示画面の全体が前方へ露出している。
【０８０６】
この通常の状態で、裏下装飾体ユニット３２３０の裏下回動駆動モータ３２３４により回動駆動ギア３２３５を正面視反時計回りの方向へ回動させると、回動駆動ギア３２３５に噛合している裏下左装飾体ユニット３２５０における左基部部材３２５１の駆動ギア部３２５１ｃにより、左基部部材３２５１が軸部３２５１ｂを中心にして正面視時計回りの方向へ回動することとなり、裏下左装飾体ユニット３２５０全体が軸部３２５１ｂを中心にして正面視時計回りの方向へ回動することとなる。この裏下左装飾体ユニット３２５０が正面視時計回りの方向へ回動すると、左基部部材３２５１の伝達ギア部３２５１ｄと噛合している裏下右装飾体ユニット３２６０における右基部部材３２６１の従動ギア部３２６１ｃによって、右基部部材３２６１が軸部３２６１ｂを中心にして正面視反時計回りの方向へ回動することとなり、裏下右装飾体ユニット３２６０全体が軸部３２６１ｂを中心にして反時計回りの方向へ回動することとなる。
【０８０７】
従って、通常の状態で、裏下回動駆動モータ３２３４により回動駆動ギア３２３５を正面視反時計周りの方向へ回動させると、裏下左装飾体ユニット３２５０が正面視時計回り方向へ回動すると同時に、裏下右装飾体ユニット３２６０が正面視反時計回りの方向へ回

動する。つまり、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０が、互いの先端側が上方へ移動するように回動することとなり、互いの先端同士が接近することとなる。そして、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０の先端同士が当接（若しくは、可及的に接近）すると、裏下回動駆動モータ３２３４の回転駆動が停止する。

【０８０８】

裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０の先端同士を当接させた状態（接近位置の状態）では、サブ演出表示装置３２４０の表示画面の左部と右部とが、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０とによって覆われた状態となり、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０の間からサブ演出表示装置３２４０の中央部のみが前方から視認できる状態となる（図１４８等を参照）。この裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０の先端同士が当接した状態（接近位置の状態）では、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０とで形成される一つの装飾の外形形状が、略ハート形となっている。

【０８０９】

裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０とを接近位置とした状態で、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３及び裏下右装飾体３２６３の夫々の全体を赤色に発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０の表示画面に赤色の画像（ハート補完装飾画像）を表示させることで、ハート形の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６２を参照）。

【０８１０】

一方、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａを所定の色（例えば、白色）で発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に中装飾部３２５３ａ及び中装飾部３２６３ａと同色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させることで、小型のＶ字形の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６３を参照）。

【０８１１】

また、裏下可動演出ユニット３２００は、通常の状態で、裏下昇降ユニット３２１０における一対の裏下昇降駆動モータ３２１２により伝達ギア３２１４を介して、左側の昇降カム部材３２１５を正面視反時計回りの方向へ回動させると共に、右側の昇降カム部材３２１５を正面視時計回りの方向へ回動させると、夫々の昇降カム部材３２１５の昇降ピン３２１５ｂが、夫々が回動する方向へ公転することとなる。夫々の昇降ピン３２１５ｂが公転すると、昇降ピン３２１５ｂが、摺動可能に挿入されている昇降アーム３２１７の駆動スリット３２１７ａ内を、夫々先端側へ向かって摺動すると共に、公転する昇降ピン３２１５ｂの上方へ移動により駆動スリット３２１７ａを上方へ押圧することとなる。

【０８１２】

左右の昇降アーム３２１７は、夫々昇降カム部材３２１５の左右方向の外方において、基端側が回転可能に取付けられていることから、左右の昇降カム部材３２１５の昇降ピン３２１５ｂの公転によって、左側の昇降アーム３２１７が正面視反時計回りの方向へ、右側の昇降アーム３２１７が正面視時計周りの方向へ、夫々回動することとなり、夫々の昇降アーム３２１７の先端側が上方へ移動することとなる。そして、夫々の昇降アーム３２１７の先端側に形成されている昇降スリット３２１７ｂには、裏下装飾体ユニット３２３０における昇降ベース３２３１の作用ピン３２３１ｃが摺動可能に挿入されているため、昇降アーム３２１７の先端側が上方へ移動するように回動することで、作用ピン３２３１ｃを介して裏下装飾体ユニット３２３０が上方へ移動することとなる。

【０８１３】

このように、通常の状態から、一対の裏下昇降駆動モータ３２１２により、左右の昇降カム部材３２１５を、夫々相反する方向へ回転させることで、左右の昇降アーム３２１７を介して裏下装飾体ユニット３２３０を上方へ移動させることができる。そして、夫々の

昇降カム部材３２１５の昇降ピン３２１５ｂが、昇降ピン３２１５ｂの公転軌跡に対して、昇降アーム３２１７における駆動スリット３２１７ａの中心軸線と接する上側の接点（上死点）まで公転すると、裏下装飾体ユニット３２３０が最も上昇した状態となる。その後、夫々の昇降ピン３２１５ｂが更に公転し、駆動スリット３２１７ａにおける基端側の端部に当接すると、裏下昇降駆動モータ３２１２が停止して昇降ピン３２１５ｂの公転も停止する。これにより、裏下装飾体ユニット３２３０が下降位置から上方へ移動した上昇位置の状態となる（図１４９等を参照）。

【０８１４】

この上昇位置の状態では、昇降アーム３２１７の先端側を下方へ移動させるような裏下装飾体ユニット３２３０からの荷重が駆動スリット３２１７ａを介して昇降ピン３２１５ｂに作用した場合、昇降ピン３２１５ｂが下方へ移動する方向へ公転しようとすることとなるが、左右の昇降カム部材３２１５の昇降ピン３２１５ｂが、上死点を越えて昇降アーム３２１７における駆動スリット３２１７ａの基端側の端部に当接しているため、昇降ピン３２１５ｂがこれ以上公転することはできず、上昇位置の状態のままで保持（ロック）されることとなる。これにより、裏下装飾体ユニット３２３０の荷重が、昇降カム部材３２１５を介して裏下昇降駆動モータ３２１２に作用することはなく、裏下昇降駆動モータ３２１２に負荷がかかることはない。

【０８１５】

この裏下可動演出ユニット３２００は、裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置へ移動させた状態でも、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０を、離反位置と接近位置との間で回動させることができると共に、上述したような発光装飾を行うことができる。

【０８１６】

［５－９ｄ．裏左可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏左可動演出ユニット３３００について、主に図１４２乃至図１４６を参照して詳細に説明する。図１４２（ａ）は裏ユニットの裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットの裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。図１４３は裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを主な部材毎に分解して前から見た分解斜視図であり、図１４４は裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットを主な部材毎に分解して後ろから見た分解斜視図である。また、図１４５は裏左可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏右装飾体ユニットを分解して前から見た分解斜視図であり、図１４６は裏左可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏右装飾体ユニットを分解して後ろから見た分解斜視図である。

【０８１７】

裏ユニット３０００の裏左可動演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内における左右方向中央から正面視左側で開口部３０１０ａの上側に取付けられている。裏左可動演出ユニット３３００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上部の左右方向中央の左側に取付けられ左右に延びた板状の左ユニットベース３３０１と、左ユニットベース３３０１の前面上部における左側に取付けられており左右方向へ伸縮可能なスライドレールユニット３３０２と、スライドレールユニット３３０２の前面に上部が取付けられている裏左装飾体ユニット３３５０と、裏左装飾体ユニット３３５０の上部前面を覆うように左ユニットベース３３０１の前側に取付けられる左ユニットカバー３３０３と、を備えている。

【０８１８】

左ユニットカバー３３０３は、下部における正面視左側に、左ユニットカバー３３０３の左端付近から右方へ水平に延びた後に斜め右下へ延びている前後に貫通した案内スリット３３０３ａを有している。左ユニットカバー３３０３の案内スリット３３０３ａ内には、裏左装飾体ユニット３３５０における装飾体ベース３３５３の案内ピン３３５３ｂが摺動可能に挿入されている。

【０８１９】
また、裏左可動演出ユニット３３００は、左ユニットカバー３３０３の前面における正面視右上隅に取付けられており左ユニットベース３３０１と左ユニットカバー３３０３との間に回転軸が突出している裏左駆動モータ３３０４と、裏左駆動モータ３３０４の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３３０５と、駆動ギア３３０５に下側から噛合している平歯車状の第一伝達ギア３３０６と、第一伝達ギア３３０６に正面視左やや下側から噛合している平歯車状の第二伝達ギア３３０７と、第二伝達ギア３３０７に正面視左やや下側から噛合している平歯車状の第三伝達ギア３３０８と、第三伝達ギア３３０８に正面視左側から第二伝達ギア３３０７と同じ高さで噛合している第四伝達ギア３３０９と、第四伝達ギア３３０９に正面視左側から第一伝達ギア３３０６と第二伝達ギア３３０７との間の高さで噛合している第五伝達ギア３３１０と、を備えている。第五伝達ギア３３１０には上側から裏左装飾体ユニット３３５０におけるラック部材３３５１のラックギア３３５１ａが噛合している。
【０８２０】
更に、裏左可動演出ユニット３３００は、左ユニットカバー３３０３の前面上部における正面視左側に取付けられている左右に延びた裏左中継基板３３１１と、裏左中継基板３３１１の後面に左右に離間して取付けられており裏左装飾体ユニット３３５０の左右方向への移動を検知する一対の第一移動検知センサ３３１２及び第二移動検知センサ３３１３（図１４４を参照）と、左ユニットカバー３３０３の前面下部の正面視左端付近に取付けられており裏左中継基板３３１１と裏左装飾体ユニット３３５０の裏左装飾基板３３５５とを接続しているフラットケーブル（図示は省略）を保持しているケーブルカバー３３１４と、を備えている。裏左中継基板３３１１は、裏左駆動モータ３３０４、第一移動検知センサ３３１２、第二移動検知センサ３３１３、及び裏左装飾体ユニット３３５０の裏左装飾基板３３５５と、演出駆動基板３０３２及びモータ駆動基板３０３３との接続を中継している。
【０８２１】
裏左可動演出ユニット３３００の裏左装飾体ユニット３３５０は、図１４５及び図１４６に示すように、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されておりスライドレールユニット３３０２の前面に取付けられているラック部材３３５１と、ラック部材３３５１の前面に上部が取付けられており上下に延びた平板状のスライドベース３３５２と、スライドベース３３５２の前面側で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている上下に延びた平板状の装飾体ベース３３５３と、装飾体ベース３３５３の前面に取付けられており立体的な装飾が形成されている透光性を有した裏左装飾体３３５４と、裏左装飾体３３５４と装飾体ベース３３５３との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏左装飾基板３３５５と、裏左装飾基板３３５５と裏左装飾体３３５４との間に取付けられている仕切部材３３５６と、仕切部材３３５６の前面に取付けられている拡散レンズ部材３３５７と、を備えている。
【０８２２】
ラック部材３３５１は、下面において左右に延びており第五伝達ギア３３１０と噛合するラックギア３３５１ａと、前面の正面視左端付近から前方へ平板状に突出しており第一移動検知センサ３３１２及び第二移動検知センサ３３１３に検知される検知片３３５１ｂと、を備えている。検知片３３５１ｂは、スライドベース３３５２を貫通して前方へ突出している。
【０８２３】
スライドベース３３５２は、金属板によって形成されており、正面視右下隅において前方へ円柱状に突出している取付軸３３５２ａを有している。スライドベース３３５２の取付軸３３５２ａに、装飾体ベース３３５３が回転可能に取付けられる。
【０８２４】
装飾体ベース３３５３は、正面視の形状が、裏箱３０１０の開口部３０１０ａの上下方向の寸法よりも長く上下に延びた略四角形に形成されている。装飾体ベース３３５３は、

正面視右端付近における上端から下方へ全高の約１／５の位置において前後に貫通しており、スライドベース３３５２の取付軸３３５２ａが相対回転可能に挿入される取付軸孔３３５３ａと、正面視左上隅から前方へ円柱状に突出しており、左ユニットカバー３３０３の案内スリット３３０３ａ内へ摺動可能に挿入される案内ピン３３５３ｂと、下端において平板状に形成されており裏箱３０１０の案内溝３０１０ｆ内に摺動可能に挿入される案内片３３５３ｃと、を備えている。装飾体ベース３３５３は、取付軸孔３３５３ａに、一対のブッシュ３３５８を介してスライドベース３３５２の取付軸３３５２ａを取付けられることで、取付軸３３５２ａを中心にして前後に延びた軸周りに回転することができる。

【０８２５】

裏左装飾体３３５４は、装飾体ベース３３５３の前面における取付軸孔３３５３ａと案内片３３５３ｃとの間の部位に取付けられており、裏箱３０１０の開口部３０１０ａの上下方向の寸法と略同じ高さに形成されている。裏左装飾体３３５４は、左右方向中央に所定幅で上下に延びた中装飾部３３５４ａと、中装飾部３３５４ａの左右両側に形成されている周縁装飾部３３５４ｂと、を備えている。中装飾部３３５４ａは、無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状に形成されている。周縁装飾部３３５４ｂは、赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成されている。この裏左装飾体３３５４は、裏前上左装飾体３１１２の装飾と連続することができるように形成されている。

【０８２６】

裏左装飾基板３３５５は、裏左装飾体３３５４と対応した大きさに形成されており、中装飾部３３５４ａや周縁装飾部３３５４ｂの後方となる位置に複数のＬＥＤが実装されている。裏左装飾基板３３５５は、前面に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏左装飾体３３５４全体を所定の色で発光装飾させたり、中装飾部３３５４ａと周縁装飾部３３５４ｂとを別々に発光装飾させたりすることができる。

【０８２７】

仕切部材３３５６は、裏左装飾体３３５４における中装飾部３３５４ａと対応するように、不透光性の白色の部材によって形成されている。仕切部材３３５６は、裏左装飾基板３３５５のＬＥＤが前方へ臨むように複数の貫通孔が形成されている。拡散レンズ部材３３５７は、透明な部材によって形成されている。また、拡散レンズ部材３３５７は、前面に複数の微小レンズが形成されており、裏左装飾基板３３５５における仕切部材３３５６の複数の貫通孔から前方へ臨んだＬＥＤからの光を、拡散させて裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａへ後側から照射させることができる。

【０８２８】

続いて、裏左可動演出ユニット３３００の動作について説明する。裏左可動演出ユニット３３００は、通常の状態では、裏左装飾体ユニット３３５０が、正面視において最も左端側へ位置した状態（退避位置の状態）となっている（図１１８等を参照）。この通常の状態では、裏左装飾体ユニット３３５０（裏左装飾体３３５４）が垂直に延びた状態となっており、装飾体ベース３３５３の案内ピン３３５３ｂが、左ユニットカバー３３０３における案内スリット３３０３ａの正面視左端に位置している。

【０８２９】

また、通常の状態では、裏左装飾体ユニット３３５０におけるラック部材３３５１の左右に延びているラックギア３３５１ａが、正面視右端付近において第五伝達ギア３３１０と噛合している。更に、通常の状態では、ラック部材３３５１の検知片３３５１ｂが、裏左中継基板３３１１に取付けられている正面視左側の第一移動検知センサ３３１２に検知されている。

【０８３０】

この通常の状態で、裏左駆動モータ３３０４により、駆動ギア３３０５、第一伝達ギア３３０６、第二伝達ギア３３０７、第三伝達ギア３３０８、及び第四伝達ギア３３０９を介して第五伝達ギア３３１０が正面視時計回りの方向へ回転駆動させると、第五伝達ギア３３１０と噛合しているラックギア３３５１ａにより、ラック部材３３５１が正面視右方へ移動すると同時に、スライドレールユニット３３０２が右方へ伸長することとなる。こ

のラック部材３３５１が正面視右方へ移動することにより、ラック部材３３５１に取付けられているスライドベース３３５２が正面視右方へ一緒に移動すると共に、スライドベース３３５２の取付軸３３５２ａに取付けられている装飾体ベース３３５３を介して裏左装飾体３３５４が正面視右方へ移動することとなる。つまり、ラック部材３３５１の正面視右方への移動により、裏左装飾体ユニット３３５０全体が正面視右方へ移動することとなる。

【０８３１】

そして、裏左装飾体ユニット３３５０の正面視右方への移動に伴って、装飾体ベース３３５３の案内ピン３３５３ｂが、左ユニットカバー３３０３の案内スリット３３０３ａ内を正面視右方へ摺動することとなる。裏左装飾体ユニット３３５０が正面視左方への移動端である退避位置から正面視右方へ移動する際に、装飾体ベース３３５３の案内ピン３３５３ｂが、案内スリット３３０３ａにおける水平に延びている部位を摺動することから、取付軸３３５２ａと案内ピン３３５３ｂとの高さ関係が変化しないため、装飾体ベース３３５３（裏左装飾体３３５４）は垂直に延びた姿勢のまま正面視右方へ移動することとなる。装飾体ベース３３５３が垂直に延びたままでの正面視右方への移動は、案内ピン３３５３ｂが案内スリット３３０３ａにおける水平に延びている部位の正面視右端（第一出現位置）に到達するまで続けられる。裏左可動演出ユニット３３００では、案内ピン３３５３ｂが案内スリット３３０３ａにおける水平に延びている部位の正面視右端に到達した時に、裏左駆動モータ３３０４の回転駆動を停止させることができる（図１５１を参照）。

【０８３２】

裏左装飾体ユニット３３５０が退避位置から正面視右方へ移動して、装飾体ベース３３５３の案内ピン３３５３ｂが、案内スリット３３０３ａにおける水平に延びている部位の正面視右端を越えて斜め右下へ延びている部位に到達すると、案内ピン３３５３ｂが案内スリット３３０３ａの斜め右下へ延びている部位により下方へ案内されて下方へ移動することとなる。この案内ピン３３５３ｂが案内スリット３３０３ａによって下方へ案内されと、装飾体ベース３３５３が取付軸３３５２ａ（取付軸孔３３５３ａ）を中心にして、正面視反時計回りの方向へ回動することとなり、案内ピン３３５３ｂが下方へ移動した分だけ、装飾体ベース３３５３（裏左装飾体３３５４）が傾くこととなる。

【０８３３】

そして、裏左装飾体ユニット３３５０が正面視右方へ移動して、ラック部材３３５１の検知片３３５１ｂが、裏左中継基板３３１１に取付けられている正面視右側の第二移動検知センサ３３１３に検知されると、裏左駆動モータ３３０４の回転駆動が停止して裏左装飾体ユニット３３５０の正面視右方への移動が停止する。この裏左装飾体ユニット３３５０が最も正面視右方へ移動した位置（第二出現位置）の状態では、装飾体ベース３３５３の案内ピン３３５３ｂが、左ユニットカバー３３０３における案内スリット３３０３ａの下端となる正面視右端に位置し、装飾体ベース３３５３（裏左装飾体３３５４）が正面視反時計回りの方向へ最も回動して斜めに傾いた状態となっている（図１５２等を参照）。

【０８３４】

裏左装飾体ユニット３３５０の裏左装飾体３３５４が最も傾いた状態（第二出現位置の状態）では、裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａの傾きが、裏前上左装飾体３１１２の中装飾部３１１２ａや、裏下左装飾体ユニット３２５０が接近位置の時の裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａの傾きと略一致している。従って、第二出現位置の時の裏左装飾体３３５４は、裏前上左装飾体３１１２や、接近位置の時の裏下左装飾体３２５３と、連続した装飾を形成することができるようになっている（図１５３等を参照）。

【０８３５】

なお、詳細な図示は省略するが、裏左装飾体ユニット３３５０を第二出現位置から更に正面視右方へ移動させることができるようにすると共に、左ユニットカバー３３０３の案内スリット３３０３ａを、正面視右下へ延びた下端から正面視右方へ水平に延びた形態としても良い。これにより、第二出現位置から更に、裏左装飾体ユニット３３５０を正面視右方へ移動させると、装飾体ベース３３５３（裏左装飾体３３５４）をその傾きを変化さ

せずに、傾けたままの状態で正面視右方の第三出現位置へ移動させることができる（図１５４を参照）。

【０８３６】

裏左可動演出ユニット３３００は、裏左装飾体ユニット３３５０の移動位置に関わらず、裏左装飾基板３３５５に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏左装飾体３３５４全体を所定の色（例えば、赤色）で発光装飾させたり、裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａと周縁装飾部３３５４ｂとを異なる色で発光装飾させたりすることができる。

【０８３７】

［５－９ｅ．裏右可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏右可動演出ユニット３４００について、主に図１４２乃至図１４６を参照して詳細に説明する。裏ユニット３０００の裏右可動演出ユニット３４００は、裏箱３０１０内における左右方向中央から正面視右側で開口部３０１０ａの上側に取付けられている。裏右可動演出ユニット３４００は、裏箱３０１０内における開口部３０１０ａの上部の左右方向中央の左側に取付けられ左右に延びた板状の右ユニットベース３４０１と、右ユニットベース３４０１の前面上部における右側に取付けられており左右方向へ伸縮可能なスライドレールユニット３４０２と、スライドレールユニット３４０２の前面に上部が取付けられている裏右装飾体ユニット３４５０と、裏右装飾体ユニット３４５０の上部前面を覆うように右ユニットベース３４０１の前側に取付けられる右ユニットカバー３４０３と、を備えている。

【０８３８】

右ユニットカバー３４０３は、下部における正面視右側に、右ユニットカバー３４０３の右端付近から左方へ水平に延びた後に斜め左下へ延びている前後に貫通した案内スリット３４０３ａを有している。右ユニットカバー３４０３の案内スリット３４０３ａ内には、裏右装飾体ユニット３４５０における装飾体ベース３４５３の案内ピン３４５３ｂが摺動可能に挿入されている。

【０８３９】

また、裏右可動演出ユニット３４００は、右ユニットカバー３４０３の前面における正面視左上隅に取付けられており右ユニットベース３４０１と右ユニットカバー３４０３との間に回転軸が突出している裏右駆動モータ３４０４と、裏右駆動モータ３４０４の回転軸に取付けられている平歯車状の駆動ギア３４０５と、駆動ギア３４０５に下側から噛合している平歯車状の第一伝達ギア３４０６と、第一伝達ギア３４０６に正面視右やや下側から噛合している平歯車状の第二伝達ギア３４０７と、第二伝達ギア３４０７に正面視右やや下側から噛合している平歯車状の第三伝達ギア３４０８と、第三伝達ギア３４０８に正面視右側から第二伝達ギア３４０７と同じ高さで噛合している第四伝達ギア３４０９と、第四伝達ギア３４０９に正面視右側から第一伝達ギア３４０６と第二伝達ギア３４０７との間の高さで噛合している第五伝達ギア３４１０と、を備えている。第五伝達ギア３４１０には上側から裏右装飾体ユニット３４５０におけるラック部材３４５１のラックギア３４５１ａが噛合している。

【０８４０】

更に、裏右可動演出ユニット３４００は、右ユニットカバー３４０３の前面上部における正面視右側に取付けられている左右に延びた裏右中継基板３４１１と、裏右中継基板３４１１の後面に左右に離間して取付けられており裏右装飾体ユニット３４５０の左右方向への移動を検知する一対の第一移動検知センサ３４１２及び第二移動検知センサ３４１３（図１４４を参照）と、右ユニットカバー３４０３の前面下部の正面視右端付近に取付けられており裏右中継基板３４１１と裏右装飾体ユニット３４５０の裏右装飾基板３４５５とを接続しているフラットケーブル（図示は省略）を保持しているケーブルカバー３４１４と、を備えている。裏右中継基板３４１１は、裏右駆動モータ３４０４、第一移動検知センサ３４１２、第二移動検知センサ３４１３、及び裏右装飾体ユニット３４５０の裏右装飾基板３４５５と、演出駆動基板３０３２及びモータ駆動基板３０３３との接続を中継

している。
【０８４１】
裏右可動演出ユニット３４００の裏右装飾体ユニット３４５０は、図１４５及び図１４６に示すように、正面視の形状が左右に延びた四角形に形成されておりスライドレールユニット３４０２の前面に取付けられているラック部材３４５１と、ラック部材３４５１の前面に上部が取付けられており上下に延びた平板状のスライドベース３４５２と、スライドベース３４５２の前面側で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている上下に延びた平板状の装飾体ベース３４５３と、装飾体ベース３４５３の前面に取付けられており立体的な装飾が形成されている透光性を有した裏右装飾体３４５４と、裏右装飾体３４５４と装飾体ベース３４５３との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏右装飾基板３４５５と、裏右装飾基板３４５５と裏右装飾体３４５４との間に取付けられている仕切部材３４５６と、仕切部材３４５６の前面に取付けられている拡散レンズ部材３４５７と、を備えている。
【０８４２】
ラック部材３４５１は、下面において左右に延びており第五伝達ギア３４１０と噛合するラックギア３４５１ａと、前面の正面視右端付近から前方へ平板状に突出しており第一移動検知センサ３４１２及び第二移動検知センサ３４１３に検知される検知片３４５１ｂと、を備えている。検知片３４５１ｂは、スライドベース３４５２を貫通して前方へ突出している。
【０８４３】
スライドベース３４５２は、金属板によって形成されており、正面視左下隅において前方へ円柱状に突出している取付軸３４５２ａを有している。スライドベース３４５２の取付軸３４５２ａに、装飾体ベース３４５３が回転可能に取付けられる。
【０８４４】
装飾体ベース３４５３は、正面視の形状が、裏箱３０１０の開口部３０１０ａの上下方向の寸法よりも長く上下に延びた略四角形に形成されている。装飾体ベース３４５３は、正面視左端付近における上端から下方へ全高の約１／５の位置において前後に貫通しており、スライドベース３４５２の取付軸３４５２ａが相対回転可能に挿入される取付軸孔３４５３ａと、正面視右上隅から前方へ円柱状に突出しており、右ユニットカバー３４０３の案内スリット３４０３ａ内へ摺動可能に挿入される案内ピン３４５３ｂと、下端において平板状に形成されており裏箱３０１０の案内溝３０１０ｆ内に摺動可能に挿入される案内片３４５３ｃと、を備えている。装飾体ベース３４５３は、取付軸孔３４５３ａに、一対のブッシュ３４５８を介してスライドベース３４５２の取付軸３４５２ａを取付けられることで、取付軸３４５２ａを中心にして前後に延びた軸周りに回転することができる。
【０８４５】
裏右装飾体３４５４は、装飾体ベース３４５３の前面における取付軸孔３４５３ａと案内片３４５３ｃとの間の部位に取付けられており、裏箱３０１０の開口部３０１０ａの上下方向の寸法と略同じ高さに形成されている。裏右装飾体３４５４は、左右方向中央に所定幅で上下に延びた中装飾部３４５４ａと、中装飾部３４５４ａの左右両側に形成されている周縁装飾部３４５４ｂと、を備えている。中装飾部３４５４ａは、無色透明な部材の表面にシボ加工を施した摺ガラス状に形成されている。周縁装飾部３４５４ｂは、赤色透明な部材によって炎を模した形状に形成されている。この裏右装飾体３４５４は、裏前上右装飾体３１１３の装飾と連続することができるように形成されている。
【０８４６】
裏右装飾基板３４５５は、裏右装飾体３４５４と対応した大きさに形成されており、中装飾部３４５４ａや周縁装飾部３４５４ｂの後方となる位置に複数のＬＥＤが実装されている。裏右装飾基板３４５５は、前面に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏右装飾体３４５４全体を所定の色で発光装飾させたり、中装飾部３４５４ａと周縁装飾部３４５４ｂとを別々に発光装飾させたりすることができる。
【０８４７】

仕切部材３４５６は、裏右装飾体３４５４における中装飾部３４５４ａと対応するように、不透光性の白色の部材によって形成されている。仕切部材３４５６は、裏右装飾基板３４５のＬＥＤが前方へ臨むように複数の貫通孔が形成されている。拡散レンズ部材３４５７は、透明な部材によって形成されている。また、拡散レンズ部材３４５７は、前面に複数の微小レンズが形成されており、裏右装飾基板３４５５における仕切部材３４５６の複数の貫通孔から前方へ臨んだＬＥＤからの光を、拡散させて裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａへ後側から照射させることができる。

【０８４８】

続いて、裏右可動演出ユニット３４００の動作について説明する。裏右可動演出ユニット３４００は、通常の状態では、裏右装飾体ユニット３４５０が、正面視において最も右端側へ位置した状態（退避位置の状態）となっている（図１１８等を参照）。この通常の状態では、裏右装飾体ユニット３４５０（裏右装飾体３４５４）が垂直に延びた状態となっており、装飾体ベース３４５３の案内ピン３４５３ｂが、右ユニットカバー３４０３における案内スリット３４０３ａの正面視右端に位置している。

【０８４９】

また、通常の状態では、裏右装飾体ユニット３４５０におけるラック部材３４５１の左右に延びているラックギア３４５１ａが、正面視左端付近において第五伝達ギア３４１０と噛合している。更に、通常の状態では、ラック部材３４５１の検知片３４５１ｂが、裏右中継基板３４１１に取付けられている正面視右側の第一移動検知センサ３４１２に検知されている。

【０８５０】

この通常の状態で、裏右駆動モータ３４０４により、駆動ギア３４０５、第一伝達ギア３４０６、第二伝達ギア３４０７、第三伝達ギア３４０８、及び第四伝達ギア３４０９を介して第五伝達ギア３４１０が正面視反時計回りの方向へ回転駆動させると、第五伝達ギア３４１０と噛合しているラックギア３４５１ａにより、ラック部材３４５１が正面視左方へ移動すると同時に、スライドレールユニット３４０２が左方へ伸長することとなる。このラック部材３４５１が正面視左方へ移動することにより、ラック部材３４５１に取付けられているスライドベース３４５２が正面視左方へ一緒に移動すると共に、スライドベース３４５２の取付軸３４５２ａに取付けられている装飾体ベース３４５３を介して裏右装飾体３４５４が正面視左方へ移動することとなる。つまり、ラック部材３４５１の正面視左方への移動により、裏右装飾体ユニット３４５０全体が正面視左方へ移動することとなる。

【０８５１】

そして、裏右装飾体ユニット３４５０の正面視左方への移動に伴って、装飾体ベース３４５３の案内ピン３４５３ｂが、右ユニットカバー３４０３の案内スリット３４０３ａ内を正面視左方へ摺動することとなる。裏右装飾体ユニット３４５０が正面視右方への移動端である退避位置から正面視左方へ移動する際に、装飾体ベース３４５３の案内ピン３４５３ｂが、案内スリット３４０３ａにおける水平に延びている部位を摺動することから、取付軸３４５２ａと案内ピン３４５３ｂとの高さ関係が変化しないため、装飾体ベース３４５３（裏右装飾体３４５４）は垂直に延びた姿勢のまま正面視左方へ移動することとなる。装飾体ベース３４５３が垂直に延びたままでの正面視左方への移動は、案内ピン３４５３ｂが案内スリット３４０３ａにおける水平に延びている部位の正面視左端（第一出現位置）に到達するまで続けられる。裏右可動演出ユニット３４００では、案内ピン３４５３ｂが案内スリット３４０３ａにおける水平に延びている部位の正面視左端に到達した時に、裏右駆動モータ３４０４の回転駆動を停止させることができる（図１５１を参照）。

【０８５２】

裏右装飾体ユニット３４５０が退避位置から正面視左方へ移動して、装飾体ベース３４５３の案内ピン３４５３ｂが、案内スリット３４０３ａにおける水平に延びている部位の正面視左端を越えて斜め左下へ延びている部位に到達すると、案内ピン３４５３ｂが案内スリット３４０３ａの斜め左下へ延びている部位により下方へ案内されて下方へ移動する

こととなる。この案内ピン３４５３ｂが案内スリット３４０３ａによって下方へ案内されと、装飾体ベース３４５３が取付軸３４５２ａ（取付軸孔３４５３ａ）を中心にして、正面視時計回りの方向へ回動することとなり、案内ピン３４５３ｂが下方へ移動した分だけ、装飾体ベース３４５３（裏右装飾体３４５４）が傾くこととなる。

【０８５３】

そして、裏右装飾体ユニット３４５０が正面視左方へ移動して、ラック部材３４５１の検知片３４５１ｂが、裏右中継基板３４１１に取付けられている正面視左側の第二移動検知センサ３４１３に検知されると、裏右駆動モータ３４０４の回転駆動が停止して裏右装飾体ユニット３４５０の正面視左方への移動が停止する。この裏右装飾体ユニット３４５０が最も正面視左方へ移動した位置（第二出現位置）の状態では、装飾体ベース３４５３の案内ピン３４５３ｂが、右ユニットカバー３４０３における案内スリット３４０３ａの下端となる正面視左端に位置し、装飾体ベース３４５３（裏右装飾体３４５４）が正面視時計回りの方向へ最も回動して斜めに傾いた状態となっている（図１５２等を参照）。

【０８５４】

裏右装飾体ユニット３４５０の裏右装飾体３４５４が最も傾いた状態（第二出現位置の状態）では、裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａの傾きが、裏前上右装飾体３１１３の中装飾部３１１３ａや、裏下右装飾体ユニット３２６０が接近位置の時の裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａの傾きと略一致している。従って、第二出現位置の時の裏右装飾体３４５４は、裏前上右装飾体３１１３や、接近位置の時の裏下右装飾体３２６３と、連続した装飾を形成することができるようになっている（図１５３等を参照）。

【０８５５】

なお、詳細な図示は省略するが、裏右装飾体ユニット３４５０を第二出現位置から更に正面視左方へ移動させることができるようにすると共に、右ユニットカバー３４０３の案内スリット３４０３ａを、正面視左下へ延びた下端から正面視左方へ水平に延びた形態としても良い。これにより、第二出現位置から更に、裏右装飾体ユニット３４５０を正面視左方へ移動させると、装飾体ベース３４５３（裏右装飾体３４５４）をその傾きを変化させずに、傾けたままの状態で正面視左方の第三出現位置へ移動させることができる（図１５４を参照）。

【０８５６】

裏右可動演出ユニット３４００は、裏右装飾体ユニット３４５０の移動位置に関わらず、裏右装飾基板３４５５に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、裏右装飾体３４５４全体を所定の色（例えば、赤色）で発光装飾させたり、裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａと周縁装飾部３４５４ｂとを異なる色で発光装飾させたりすることができる。

【０８５７】

［５－９ｆ．裏中可動演出ユニット］

次に、裏ユニット３０００における裏中可動演出ユニット３５００について、主に図１４７を参照して詳細に説明する。図１４７（ａ）は裏ユニットの裏中可動演出ユニットを前から見た斜視図であり、（ｂ）は裏ユニットの裏中可動演出ユニットを後ろから見た斜視図である。裏中可動演出ユニット３５００は、裏箱３０１０内における裏前装飾ユニット３１００と裏左可動演出ユニット３３００及び裏右可動演出ユニット３４００との間で、開口部３０１０ａの上側及び左右両側を囲むように取付けられている。

【０８５８】

裏中可動演出ユニット３５００は、下方が開放されたコ字状に形成されている門型のユニットベース３５０１と、ユニットベース３５０１の上部前方における正面視左側に配置されている裏中左装飾体ユニット３５１０と、裏中左装飾体ユニット３５１０の右端側において相対回転可能に連結されておりユニットベース３５０１の上部前方における正面視右側に配置されている裏中右装飾体ユニット３５２０と、裏中左装飾体ユニット３５１０と裏中右装飾体ユニット３５２０とが相対回転可能に連結されている部位に取付けられている裏中中央装飾体ユニット３５３０と、ユニットベース３５０１の前面上部における左

右方向左側に取付けられており裏中左装飾体ユニット３５１０を昇降させる裏中左昇降駆動機構３５４０と、ユニットベース３５０１の前面上部における左右方向右側に取付けられており裏中右装飾体ユニット３５２０を昇降させる裏中右昇降駆動機構３５５０と、を備えている。

【０８５９】

また、裏中可動演出ユニット３５００は、ユニットベース３５０１の上部における左右方向中央付近で左右に離間して夫々前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている一対の裏中左サイド装飾体ユニット３５６０及び裏中右サイド装飾体ユニット３５７０と、ユニットベース３５０１の前面における左下隅部に取付けられており裏中左サイド装飾体ユニット３５６０（及び裏中右サイド装飾体ユニット３５７０）を回動させる裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０と、を備えている。

【０８６０】

裏中可動演出ユニット３５００の裏中左装飾体ユニット３５１０は、所定の文字（ここでは「Ｋ」の文字）の装飾がレリーフ状に形成されている透光性を有した裏中左装飾体３５１１と、裏中左装飾体３５１１の後側に取付けられている平板状の左装飾体ベース３５１２と、左装飾体ベース３５１２と裏中左装飾体３５１１との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中左装飾基板（図示は省略）と、を備えている。

【０８６１】

左装飾体ベース３５１２は、裏中左昇降駆動機構３５４０における左昇降アーム３５４６の昇降ピン３５４６ａが摺動可能に挿入される昇降スリット３５１２ａと、後方へ円柱状に突出しており裏中左昇降駆動機構３５４０の左リンクアーム３５４７の先端が相対回転可能に取付けられる取付軸部（図示は省略）と、裏中中央装飾体ユニット３５３０の後方へ延出している円盤状の後方支持部３５１２ｂと、後方支持部の前面において円環状に突出しており裏中右装飾体ユニット３５２０における右装飾体ベース３５２２の図示しない連結片内に回転可能に挿入される連結筒軸部（図示は省略）と、を備えている。左装飾体ベース３５１２の後方支持部３５１２ｂに、裏中中央装飾体ユニット３５３０が取付けられている。

【０８６２】

裏中右装飾体ユニット３５２０は、所定の文字（ここでは「Ｆ」の文字）の装飾がレリーフ状に形成されている透光性を有した裏中右装飾体３５２１と、裏中右装飾体３５２１の後側に取付けられている平板状の右装飾体ベース３５２２と、右装飾体ベース３５２２と裏中右装飾体３５２１との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中右装飾基板（図示は省略）と、を備えている。

【０８６３】

右装飾体ベース３５２２は、裏中右昇降駆動機構３５５０における右昇降アーム３５５６の昇降ピン３５５６ａが摺動可能に挿入される昇降スリット３５２２ａと、後方へ円柱状に突出しており裏中右昇降駆動機構３５５０の右リンクアーム３５５７の先端が相対回転可能に取付けられる取付軸部（図示は省略）と、裏中中央装飾体ユニット３５３０の後方で左装飾体ベース３５１２の後方支持部３５１２ｂの前方へ延出しており左装飾体ベース３５１２の連結筒軸部が回転可能に挿入される円環状の連結片（図示は省略）と、を備えている。

【０８６４】

裏中中央装飾体ユニット３５３０は、裏中左装飾体ユニット３５１０の左装飾体ベース３５１２における後方支持部３５１２ｂの前方に配置されており、所定の文字（ここでは「Ｏ」の文字）の装飾がレリーフ状に形成されている透光性を有した円盤状の裏中中央装飾体３５３１と、裏中中央装飾体３５３１の後側で後方支持部３５１２ｂの前側に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中中央装飾基板（図示は省略）と、裏中中央装飾体３５３１の後面の中心から後方支持部３５１２ｂを貫通して後方へ円柱状に延出しており後方支持部３５１２ｂに回転可能に取付けられる軸部材（図示は省略）と、軸部材の後端に取付けられている平歯車状の従動ギア（図示は省略）と、後方支持部３５

１２ｂの後側に取付けられている裏中中央駆動モータ（図示は省略）と、裏中中央駆動モータの回転軸に取付けられており従動ギアと噛合している平歯車状の駆動ギア（図示は省略）と、を備えている。

【０８６５】

裏中中央装飾体ユニット３５３０の裏中中央装飾体３５３１は、図示しない裏中中央駆動モータによって、その円盤状の中央を中心として前後に延びた軸周りに回転することができる。また、裏中中央装飾体３５３１は、裏中左装飾体３５１１の文字の一部を形成可能なサブ装飾部３５３１ａが形成されている。

【０８６６】

裏中左昇降駆動機構３５４０は、ユニットベース３５０１の前面における正面視左上隅に取付けられており回転軸がユニットベース３５０１を貫通して後方へ突出している裏中左駆動モータ３５４１と、裏中左駆動モータ３５４１の回転軸に取付けられている平歯車状の左駆動ギア３５４２と、左駆動ギア３５４２に正面視右側から噛合している大径の第一ギア部、及び第一ギア部と一体回転する小径の第二ギア部とを有しておりユニットベース３５０１の後側に回転可能に取付けられている変速ギア部材３５４３と、変速ギア部材３５４３の第二ギア部に正面視右側から噛合しておりユニットベース３５０１の後側に回転可能に取付けられている平歯車状の伝達ギア３５４４と、伝達ギア３５４４に正面視右側から噛合しているギア部３５４５ａ、及びギア部３５４５ａとは異なる位置からユニットベース３５０１を貫通して前方へ突出している円柱状の駆動ピン３５４５ｂを有しておりユニットベース３５０１の後側に回転可能に取付けられている左クランク部材３５４５と、を備えている。

【０８６７】

左クランク部材３５４５の駆動ピン３５４５ｂは、ユニットベース３５０１に形成されている円弧状のスリットを通して前方へ突出している。

【０８６８】

また、裏中左昇降駆動機構３５４０は、ユニットベース３５０１の前面上部の上端付近における正面視左右方向中央からやや左寄りの位置で棒状に延びている基端が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており、基端付近から先端側へ向かって延びていると共に前後に貫通しており左クランク部材３５４５の駆動ピン３５４５ｂが摺動可能に挿入されている長孔状の駆動スリット、先端側から前方へ円柱状に突出しており裏中左装飾体ユニット３５１０の左装飾体ベース３５１２における昇降スリット３５１２ａ内へ摺動可能に挿入される昇降ピン、駆動スリットよりも先端側で長手方向の略中央付近において円柱状に前方へ突出しているリンク取付部を有している左昇降アーム３５４６と、左昇降アーム３５４６のリンク取付部に基端側が回転可能に取付けられていると共に、先端側が裏中左装飾体ユニット３５１０の左装飾体ベース３５１２における取付軸部に回転可能に取付けられている左リンクアーム３５４７と、を備えている。

【０８６９】

左昇降アーム３５４６は、基端側の円弧状の外周面に、右昇降アーム３５５６の連結ギア部と噛合している連結ギア部を備えている。左リンクアーム３５４７は、左昇降アーム３５４６のリンク取付部（中間）から上方へ延出した後に、左昇降アーム３５４６に沿って左昇降アーム３５４６の先端よりも先に延びた上で、下方へ屈曲した形状に形成されている。左リンクアーム３５４７は、先端付近から外方へ延出している平板状の検知片３５４７ａを有している。

【０８７０】

更に、裏中左昇降駆動機構３５４０は、ユニットベース３５０１の前面に取付けられており、左リンクアーム３５４７の検知片３５４７ａを検知することで裏中左装飾体ユニット３５１０の昇降を検知する左昇降検知センサ３５４８と、左昇降アーム３５４６の先端側が上方に移動方向へ回転するように付勢している左アシストバネ（図示は省略）と、を備えている。

【０８７１】

裏中左昇降駆動機構３５４０は、通常の状態では、左昇降アーム３５４６が、基端側に対して先端側が正面視左方となるように全体が水平に延びた状態となっており、左リンクアーム３５４７の検知片３５４７ａが左昇降検知センサ３５４８によって検知された状態となっている。この通常の状態から、裏中左駆動モータ３５４１により、左駆動ギア３５４２、変速ギア部材３５４３、及び伝達ギア３５４４を介して、左クランク部材３５４５を正面視時計回りの方向へ回転させると、公転する駆動ピン３５４５ｂによって左昇降アーム３５４６を正面視反時計回りの方向へ回動させることができる。

【０８７２】

本例では、左昇降アーム３５４６を、水平に延びた状態と、垂直に延びた状態との９０度の角度範囲の間で回動させることができる。この左昇降アーム３５４６が回動することで、先端に取付けられている裏中左装飾体ユニット３５１０を昇降させることができる。また、裏中左昇降駆動機構３５４０は、左昇降アーム３５４６の連結ギア部が、裏中右昇降駆動機構３５５０における右昇降アーム３５５６の連結ギア部と噛合していることから、裏中左駆動モータ３５４１により左昇降アーム３５４６を回動させると、右昇降アーム３５５６を対称となる反対方向へ回動させることができ、裏中右装飾体ユニット３５２０も昇降させることができる。

【０８７３】

裏中右昇降駆動機構３５５０は、ユニットベース３５０１の前面における正面視右上隅に取付けられており回転軸がユニットベース３５０１を貫通して後方へ突出している裏中右駆動モータ３５５１と、裏中右駆動モータ３５５１の回転軸に取付けられている平歯車状の右駆動ギア３５５２と、右駆動ギア３５５２に正面視左側から噛合している大径の第一ギア部、及び第一ギア部と一体回転する小径の第二ギア部とを有しておりユニットベース３５０１の後側に回転可能に取付けられている変速ギア部材３５５３と、変速ギア部材３５５３の第二ギア部に正面視左側から噛合しておりユニットベース３５０１の後側に回転可能に取付けられている平歯車状の伝達ギア３５５４と、伝達ギア３５５４に正面視左側から噛合しているギア部３５５５ａ、及びギア部３５４５ａとは異なる位置からユニットベース３５０１を貫通して前方へ突出している円柱状の駆動ピン３５５５ｂを有しておりユニットベース３５０１の後側に回転可能に取付けられている右クランク部材３５５５と、を備えている。

【０８７４】

右クランク部材３５５５の駆動ピン３５５５ｂは、ユニットベース３５０１に形成されている円弧状のスリットを通して前方へ突出している。

【０８７５】

また、裏中右昇降駆動機構３５５０は、ユニットベース３５０１の前面上部の上端付近における正面視左右方向中央からやや右寄りの位置で棒状に延びている基端が前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており、基端付近から先端側へ向かって延びていると共に前後に貫通しており右クランク部材３５５５の駆動ピン３５５５ｂが摺動可能に挿入されている長孔状の駆動スリット、先端側から前方へ円柱状に突出しており裏中右装飾体ユニット３５２０の右装飾体ベース３５２２における昇降スリット３５２２ａ内へ摺動可能に挿入される昇降ピン、駆動スリットよりも先端側で長手方向の略中央付近において円柱状に前方へ突出しているリンク取付部を有している右昇降アーム３５５６と、右昇降アーム３５５６のリンク取付部に基端側が回転可能に取付けられていると共に、先端側が裏中右装飾体ユニット３５２０の右装飾体ベース３５２２における取付軸部に回転可能に取付けられている右リンクアーム３５５７と、を備えている。

【０８７６】

右昇降アーム３５５６は、基端側の円弧状の外周面に、左昇降アーム３５４６の連結ギア部と噛合している連結ギア部を備えている。右リンクアーム３５５７は、右昇降アーム３５５６のリンク取付部（中間）から上方へ延出した後に、右昇降アーム３５５６に沿って右昇降アーム３５５６の先端よりも先に延びた上で、下方へ屈曲した形状に形成されている。右リンクアーム３５５７は、先端付近から外方へ延出している平板状の検知片３５

５７ａを有している。
【０８７７】
更に、裏中右昇降駆動機構３５５０は、ユニットベース３５０１の前面に取付けられており、右リンクアーム３５５７の検知片３５５７ａを検知することで裏中右装飾体ユニット３５２０の昇降を検知する右昇降検知センサ３５５８と、右昇降アーム３５５６の先端側が上方に移動方向へ回転するように付勢している右アシストバネ（図示は省略）と、を備えている。
【０８７８】
裏中右昇降駆動機構３５５０は、通常の状態では、右昇降アーム３５５６が、基端側に対して先端側が正面視右方となるように全体が水平に延びた状態となっており、右リンクアーム３５５７の検知片３５５７ａが右昇降検知センサ３５５８によって検知された状態となっている。この通常の状態から、裏中右駆動モータ３５５１により、右駆動ギア３５５２、変速ギア部材３５５３、及び伝達ギア３５５４を介して、右クランク部材３５５５を正面視反時計回りの方向へ回転させると、公転する駆動ピン３５５５ｂによって右昇降アーム３５５６を正面視時計回りの方向へ回動させることができる。
【０８７９】
本例では、右昇降アーム３５５６を、水平に延びた状態と、垂直に延びた状態との９０度の角度範囲の間で回動させることができる。この右昇降アーム３５５６が回動することで、先端に取付けられている裏中右装飾体ユニット３５２０を昇降させることができる。また、裏中右昇降駆動機構３５５０は、右昇降アーム３５５６の連結ギア部が、裏中左昇降駆動機構３５４０における左昇降アーム３５４６の連結ギア部と噛合していることから、裏中右駆動モータ３５５１により右昇降アーム３５５６を回動させると、左昇降アーム３５４６を対称となる反対方向へ回動させることができ、裏中左装飾体ユニット３５１０も昇降させることができる。
【０８８０】
裏中可動演出ユニット３５００の裏中左サイド装飾体ユニット３５６０は、ユニットベース３５０１における正面視左辺の前側に配置されており外形が略紡錘状に形成されている平板状の左サイドベース３５６１と、左サイドベース３５６１の前面に取付けられており前面に翼を模したレリーフ状の装飾が形成されている透光性を有した裏中左サイド装飾体３５６２と、裏中左サイド装飾体３５６２と左サイドベース３５６１との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中左サイド装飾基板３５６３と、左サイドベース３５６１の上端から左サイドベース３５６１の長手方向に対して直角方向で正面視右方へ延びており、先端付近がユニットベース３５０１の上部後面の下端付近における正面視左右方向中央から左寄りの位置で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている左サイド支持アーム３５６４と、を備えている。
【０８８１】
左サイドベース３５６１は、長手方向の中央付近から後方へ円柱状に突出している突出ピン３５６１ａと、左サイド支持アーム３５６４が延出している長手方向端部から左サイド支持アーム３５６４とは反対方向へ突出している平板状の検知片３５６１ｂと、を有している。この突出ピン３５６１ａは、後述する裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０の駆動アーム３５８３によって左右方向へ押圧される。左サイドベース３５６１の検知片３５６１ｂは、裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０の回動検知センサ３５８６によって検知される。
【０８８２】
裏中左サイド装飾体３５６２は、表面に透光性を有する金属光沢を有したメッキ層が形成されている。また、裏中左サイド装飾体３５６２は、裏中左サイド装飾基板３５６３に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、任意の色に発光装飾させることができる。
【０８８３】
左サイド支持アーム３５６４は、先端側（正面視右端側）に、ユニットベース３５０１

に回転可能に取付けられている部位を中心にした円弧状の伝達ギア部３５６４ａを備えている。この左サイド支持アーム３５６４の伝達ギア部３５６４ａは、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０における右サイド支持アーム３５７４の伝達ギア部３５７４ａと噛合している。

【０８８４】

裏中左サイド装飾体ユニット３５６０は、左サイド支持アーム３５６４が水平に延びている状態では、裏中左サイド装飾体３５６２が、門型に形成されているユニットベース３５０１の左辺の前方で垂直に延びた状態となっている。この状態では、左サイドベース３５６１の検知片３５６１ｂが、裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０の回動検知センサ３５８６によって検知されている。この裏中左サイド装飾体ユニット３５６０は、ユニットベース３５０１に回転可能に取付けられている左サイド支持アーム３５６４の先端側を中心として裏中左サイド装飾体３５６２の下端が正面視右方に移動する方向へ回動することができる。

【０８８５】

裏中可動演出ユニット３５００の裏中右サイド装飾体ユニット３５７０は、ユニットベース３５０１における正面視左辺の前側に配置されており外形が略紡錘状に形成されている平板状の右サイドベース３５７１と、右サイドベース３５７１の前面に取付けられており前面に翼を模したレリーフ状の装飾が形成されている透光性を有した裏中右サイド装飾体３５７２と、裏中右サイド装飾体３５７２と右サイドベース３５７１との間に取付けられており前面に複数のＬＥＤが実装されている裏中右サイド装飾基板３５７３と、右サイドベース３５７１の上端から右サイドベース３５７１の長手方向に対して直角方向で正面視左方へ延びており、先端付近がユニットベース３５０１の上部後面の下端付近における正面視左右方向中央から右寄りの位置で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられている右サイド支持アーム３５７４と、を備えている。

【０８８６】

右サイドベース３５７１は、長手方向の中央付近から後方へ円柱状に突出している突出ピン３５７１ａを有している。この突出ピン３５７１ａは、後述する裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０の支援アーム３５８４によって左右方向へ押圧される。裏中右サイド装飾体３５７２は、表面に透光性を有する金属光沢を有したメッキ層が形成されている。また、裏中右サイド装飾体３５７２は、裏中右サイド装飾基板３５７３に実装されている複数のＬＥＤを適宜発光させることで、任意の色に発光装飾させることができる。

【０８８７】

右サイド支持アーム３５７４は、先端側（正面視左端側）に、ユニットベース３５０１に回転可能に取付けられている部位を中心にした円弧状の伝達ギア部３５７４ａを備えている。この右サイド支持アーム３５７４の伝達ギア部３５７４ａは、裏中左サイド装飾体ユニット３５６０における左サイド支持アーム３５６４の伝達ギア部３５６４ａと噛合している。

【０８８８】

裏中右サイド装飾体ユニット３５７０は、右サイド支持アーム３５７４が水平に延びている状態では、裏中右サイド装飾体３５７２が、門型に形成されているユニットベース３５０１の右辺の前方で垂直に延びた状態となっている。この裏中右サイド装飾体ユニット３５７０は、ユニットベース３５０１に回転可能に取付けられている右サイド支持アーム３５７４の先端側を中心として裏中右サイド装飾体３５７２の下端が正面視左方に移動する方向へ回動することができる。

【０８８９】

裏中可動演出ユニット３５００の裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０は、門型に形成されているユニットベース３５０１の正面視左下隅に取付けられている裏中サイド駆動モータ３５８１と、裏中サイド駆動モータ３５８１の回転軸に取付けられている平歯車状のサイド駆動ギア（図示は省略）と、サイド駆動ギアの上方でユニットベース３５０１の左辺前面に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられておりサイド駆動ギアの回転によ

りサイド駆動ギアとは反対方向へ回転するサイド駆動クランク３５８２と、サイド駆動クランク３５８２の旋回範囲よりも上側でユニットベース３５０１の左辺前面に前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられておりサイド駆動クランク３５８２の回転により裏中左サイド装飾体ユニット３５６０における左サイドベース３５６１の突出ピン３５６１ａを左右方向へ押圧する駆動アーム３５８３と、を備えている。

【０８９０】

また、裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０は、門型に形成されているユニットベース３５０１の正面視右辺前面における駆動アーム３５８３と同じ高さの位置で前後に延びた軸周りに回転可能に取付けられており、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０における右サイドベース３５７１の突出ピン３５７１ａを左右方向へ押圧可能な支援アーム３５８４と、支援アーム３５８４を正面視時計回りの方向へ回動するように付勢しているサイド支援バネ３５８５と、ユニットベース３５０１の正面視左辺上部に取付けられており裏中左サイド装飾体ユニット３５６０における左サイドベース３５６１の検知片３５６１ｂを検知可能な回動検知センサ３５８６と、を備えている。

【０８９１】

裏中サイド装飾体回動駆動機構３５８０は、裏中サイド駆動モータ３５８１によって、サイド駆動ギア、及びサイド駆動クランク３５８２を介して駆動アーム３５８３を回動させることで、駆動アーム３５８３により裏中左サイド装飾体ユニット３５６０における左サイドベース３５６１の突出ピン３５６１ａを左右方向へ押圧して裏中左サイド装飾体ユニット３５６０全体を回動させることができる。裏中左サイド装飾体ユニット３５６０は、左サイド支持アーム３５６４の伝達ギア部３５７４ａが、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０における右サイド支持アーム３５７４の伝達ギア部３５７４ａと噛合していることから、裏中左サイド装飾体ユニット３５６０を回動させると、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０を反対方向へ回動させることができる。

【０８９２】

この裏中右サイド装飾体ユニット３５７０が回動すると、右サイドベース３５７１の突出ピン３５７１ａが左右方向へ相対的に移動することとなるため、突出ピン３５７１ａの左右方向への移動に伴って支援アーム３５８４が、サイド支援バネ３５８５の付勢力に抗して又は支援されて回動する。つまり、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０の回動を、支援アーム３５８４を介してサイド支援バネ３５８５により支援することができる。

【０８９３】

続いて、裏中可動演出ユニット３５００の動作について説明する。裏中可動演出ユニット３５００は、通常の状態では、門型のユニットベース３５０１の上辺の前方に、裏中中央装飾体ユニット３５３０を中央にして、裏中左装飾体ユニット３５１０、裏中右装飾体ユニット３５２０、及び裏中中央装飾体ユニット３５３０が、左右に並んだ状態（退避位置の状態）となっている。また、通常の状態では、裏中左サイド装飾体ユニット３５６０の裏中左サイド装飾体３５６２と、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０の裏中右サイド装飾体３５７２は、門型のユニットベース３５０１の左右両辺の前方において、夫々垂直に延びた状態（退避位置の状態）となっている。

【０８９４】

この通常の状態で、裏中左昇降駆動機構３５４０の裏中左駆動モータ３５４１と、裏中右昇降駆動機構３５５０の裏中右駆動モータ３５５１とを、夫々同時に異なる方向へ回転駆動させて、夫々水平に延びている左昇降アーム３５４６及び右昇降アーム３５５６を、夫々正面視反時計回りの方向及び正面視時計回りの方向へ回動させると、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１が、下方へ移動することとなる。

【０８９５】

裏中左装飾体ユニット３５１０、裏中右装飾体ユニット３５２０、左昇降アーム３５４６、及び右昇降アーム３５５６は、夫々の取付部分が回転可能に取付けられていることから、これらによって全体がパンタグラフ型のリンク構造となっている。また、裏中左装飾

体ユニット３５１０、左昇降アーム３５４６、及び左リンクアーム３５４７との間や、裏中右装飾体ユニット３５２０、右昇降アーム３５５６、及び右リンクアーム３５５７との間では、裏中左装飾体ユニット３５１０と左昇降アーム３５４６の間、裏中右装飾体ユニット３５２０と右昇降アーム３５５６の間が、夫々回転可能且つ移動可能に取付けられていることから、全体が二重のリンク構造になっている。これにより、裏中左装飾体ユニット３５１０と裏中右装飾体ユニット３５２０の回動範囲と、左昇降アーム３５４６と右昇降アーム３５５６の回動範囲とを異ならせることができる。本例では、一対の左昇降アーム３５４６と右昇降アーム３５５６を水平の状態とすることができ、退避位置の時に全体の高さを低くしてコンパクトにすることができる。

【０８９６】

裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１が、下方へ移動する際に、裏中左装飾体３５１１と裏中右装飾体３５２１とが、夫々裏中中央装飾体３５３１を中心にして互いが接近する方向へ回動する（図１５５及び図１５６を参照）。そして、左昇降アーム３５４６及び右昇降アーム３５５６が、夫々垂直に延びた状態となる位置まで回動すると、裏中左駆動モータ３５４１及び裏中右駆動モータ３５５１の回転駆動が停止し、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１の下方への移動が停止する。

【０８９７】

この左昇降アーム３５４６及び右昇降アーム３５５６が、夫々垂直に延びた状態（出現位置の状態）では、裏中中央装飾体３５３１が最も下方に位置していると共に、裏中左装飾体３５１１と裏中右装飾体３５２１とが、裏中中央装飾体３５３１の上側で互いに当接した状態となっており、全体の形状が、裏中中央装飾体３５３１を頂点とした逆三角形状となっている（図１５６を参照）。この状態で、裏中中央駆動モータにより裏中中央装飾体３５３１を回転させ、サブ装飾部３５３１ａを裏中左装飾体３５１１の装飾と一致するように停止させると、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１により所定のロゴの装飾を遊技者に見せることができる（図１５７を参照）。なお、裏中中央装飾体３５３１は、裏中中央駆動モータによって、どの高さの位置でも回転させることができる。

【０８９８】

一方、通常の状態で、裏中サイド駆動モータ３５８１により駆動アーム３５８３を正面視時計回りの方向へ回動させると、駆動アーム３５８３によって左サイドベース３５６１の突出ピン３５６１ａが正面視右方へ押圧され、裏中左サイド装飾体３５６２の下端が正面視右方へ移動するように裏中左サイド装飾体ユニット３５６０全体が正面視反時計回りの方向へ回動することとなる。この裏中左サイド装飾体ユニット３５６０は、左サイド支持アーム３５６４の伝達ギア部３５７４ａが、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０における右サイド支持アーム３５７４の伝達ギア部３５７４ａと噛合していることから、裏中左サイド装飾体ユニット３５６０が正面視反時計回りの方向へ回動すると、裏中右サイド装飾体３５７２が正面視左方へ移動するように裏中右サイド装飾体ユニット３５７０が正面視時計回りの方向へ回動することとなる。

【０８９９】

裏中左サイド装飾体ユニット３５６０と裏中右サイド装飾体ユニット３５７０とが、約４５度回動すると、裏中サイド駆動モータ３５８１の回転駆動が停止し、裏中左サイド装飾体３５６２と裏中右サイド装飾体３５７２とが、下端同士が接近するように斜めに傾いた状態（出現位置の状態）となる（図１５８を参照）。なお、図１５８に示すように、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１を、出現位置へ下降させた状態で、裏中左サイド装飾体３５６２と裏中右サイド装飾体３５７２を出現位置へ回動させると、裏中左サイド装飾体３５６２と裏中右サイド装飾体３５７２とが、円形の裏中中央装飾体３５３１の左右から外方へ延出したような状態となり、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１と合わせて一つの大きな装飾体を形成することができる。

【０９００】
［５－１０．遊技盤における可動演出］
次に、遊技盤５における主な可動演出について、主に図１４８乃至図１５８を参照して詳細に説明する。図１４８は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを下降位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１４９は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを離反位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１５０は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【０９０１】
図１５１は、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第一出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１５２は、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第二出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１５３は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第二出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１５４は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが上昇位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第三出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【０９０２】
図１５５は、裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、退避位置と出現位置との間の位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１５６は、裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。図１５７は、裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、出現位置とすると共に、裏中中央装飾体のサブ装飾部を裏中左装飾体の装飾と一致させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１５８は、裏中可動演出ユニットの裏中左装飾体ユニット、裏中右装飾体ユニット、及び裏中中央装飾体ユニットを、出現位置とすると共に、裏中中央装飾体のサブ装飾部を裏中左装飾体の装飾と一致させた状態とし、裏中左サイド装飾体ユニット及び裏中右サイド装飾体ユニットを出現位置とした状態で示す遊技盤の正面図である。
【０９０３】
本実施形態の遊技盤５は、図１１８等に示すように、遊技領域５ａの後端を区画している遊技パネル１１００のパネル板１１１０が無色透明とされていると共に、パネル板１１１０の開口部１１１２に取付けられている始動口ユニット２１００、サイドユニット２２００、及びセンター役物２５００が、それらの略全体が無色透明に形成されており、それらを通して遊技パネル１１００の後側に配置されている裏ユニット３０００を視認することができる。更に詳述すると、透明なパネル板１１１０やセンター役物２５００等を通して、裏前装飾ユニット３１００における枠状に配置されている裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、裏前上中装飾体３１１４、裏前左サイド装飾体３１１６、裏前右サイド装飾体３１１７、裏前左下装飾体３１１８、裏前右下装飾体３１１９、裏前下中装飾体３１６８、裏前後左装飾体３１６９、及び裏前後右装飾体３１７０を視認することができると共に、裏前装飾ユニット３１００の枠内を閉鎖している透明な第一導光板３１３５及び第二導光板３１３６を通して、裏下装飾体ユニット３２３０、裏左装飾体３３５４、裏右装飾体３４５４、裏中左サイド装飾体３５６２、及び裏中右サイド装飾体３５７２、の夫々一部を視認することができる。
【０９０４】

遊技盤５は、通常の状態では、裏ユニット３０００における裏下可動演出ユニット３２００では、裏下装飾体ユニット３２３０が、下方への移動端である下降位置に位置していると共に、一対の裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０が、互いの先端同士が離反している離反位置に位置している。また、裏左可動演出ユニット３３００では、裏左装飾体ユニット３３５０が、正面視左方への移動端である退避位置に位置していると共に、裏右可動演出ユニット３４００では、裏右装飾体ユニット３４５０が、正面視右方への移動端である退避位置に位置している。更に、裏中可動演出ユニット３５００では、裏中左装飾体ユニット３５１０、裏中右装飾体ユニット３５２０、及び裏中中央装飾体ユニット３５３０が、上方への移動端である退避位置に位置していると共に、一対の裏中左サイド装飾体ユニット３５６０及び裏中右サイド装飾体ユニット３５７０が、夫々左方及び右方への回動端である退避位置に夫々位置している。

【０９０５】

この通常の状態では、裏下可動演出ユニット３２００における裏下装飾体ユニット３２３０のサブ演出表示装置３２４０の表示画面が、枠状のセンター役物２５００の後方に位置しており、正面視第一始動口２００２の上側において、透明な遊技パネル１１００のパネル板１１１０とセンター役物２５００のステージ２５３０とを通して前方（遊技者側）から視認できる。また、裏左可動演出ユニット３３００の裏左装飾体３３５４が、枠状のセンター役物２５００の左辺の後方に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して右辺付近が前方（遊技者側）から視認できる。更に、裏右可動演出ユニット３４００の裏右装飾体３４５４が、枠状のセンター役物２５００の右辺の後方に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して左辺付近が前方（遊技者側）から視認できる。

【０９０６】

また、通常の状態では、裏中可動演出ユニット３５００の裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１が、裏前装飾ユニット３１００の裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、裏前上中装飾体３１１４、及び裏前ロゴ装飾体３１１５の後方に位置しており、前方（遊技者側）から視認できない。また、裏中可動演出ユニット３５００の裏中左サイド装飾体３５６２が、裏前装飾ユニット３１００の裏前左サイド装飾体３１１６の後方に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して一部が前方（遊技者側）から視認できる。更に、裏中可動演出ユニット３５００の裏中右サイド装飾体３５７２が、裏前装飾ユニット３１００の裏前右サイド装飾体３１１７の後方に位置しており、センター役物２５００の枠内を通して一部が前方（遊技者側）から視認できる。

【０９０７】

この通常の状態では、裏箱３０１０の後側に取付けられているメイン演出表示装置１６００の表示画面の外周が、裏前前ユニット３１１０の裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、及び裏前上中装飾体３１１４と、サブ演出表示装置３２４０の外周を装飾している裏下装飾フレーム３２３２と、裏左装飾体３３５４と、裏右装飾体３４５４とによって囲まれている。

【０９０８】

通常の状態で、裏下可動演出ユニット３２００の裏下回動駆動モータ３２３４を駆動して、裏下左装飾体ユニット３２５０を正面視時計回り方向へ回動させると同時に、裏下右装飾体ユニット３２６０を正面視反時計回りの方向へ回動させると、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０の先端同士が、サブ演出表示装置３２４０の前方で互いに当接（若しくは、可及的に接近）した接近位置の状態となる（図１４８を参照）。

【０９０９】

裏下左装飾体ユニット３２５０（裏下左装飾体３２５３）と裏下右装飾体ユニット３２６０（裏下右装飾体３２６３）とを接近位置へ回動させた状態では、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３とで外形がハート形の装飾体を形成している。また、裏下左装飾体３２５３及び裏下右装飾体３２６３が接近位置に回動した状態では、裏下左装飾体３

２５３の中装飾部３２５３ａと、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａとで小さいＶ字状の装飾を形成している。更に、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３は、サブ演出表示装置３２４０の表示画面の左部と右部とを覆った状態となり、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３との間からサブ演出表示装置３２４０の表示画面の中央部のみが、第一始動口２００２の上側で透明なパネル板１１１０やセンター役物２５００（ステージ２５３０）を通して、前方（遊技者側）から視認できる状態となる。

【０９１０】

これにより、ステージ２５３０の後方において、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３とが合体（接近）して一つのハート形の装飾を形成することができるため、遊技者の関心をステージ２５３０や第一始動口２００２等へ引付けることができる。また、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３によってサブ演出表示装置３２４０の一部（左部及び右部）を隠すことができるため、遊技者の関心をサブ演出表示装置３２４０や裏下装飾体ユニット３２３０等へ引付けることができる。

【０９１１】

また、通常の状態で、裏下可動演出ユニット３２００の一対の裏下昇降駆動モータ３２１２を駆動して、裏下装飾体ユニット３２３０を下降位置から上方への移動端となる上昇位置へ移動させると、サブ演出表示装置３２４０の表示画面の殆どが、センター役物２５００の枠内に位置した状態となる（図１４９を参照）。これにより、裏下装飾体ユニット３２３０が、メイン演出表示装置１６００の表示画面における下部の前面に位置していることから、メイン演出表示装置１６００の表示画面に表示されている演出画像が裏下装飾体ユニット３２３０に遮られることとなるため、裏下装飾体ユニット３２３０を目立たせて、遊技者の関心を裏下装飾体ユニット３２３０に向けさせることができる。

【０９１２】

また、裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置とすることで、サブ演出表示装置３２４０の表示画面が、センター役物２５００の枠内を通して良好に視認できるようになるため、遊技者に対して、サブ演出表示装置３２４０の表示画面に表示されている演出画像を、良好な状態で視認させることができ、サブ演出表示装置３２４０による演出画像をより楽しませることができる。

【０９１３】

裏下可動演出ユニット３２００の裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置へ移動させた状態で、裏下回動駆動モータ３２３４の駆動により、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０を、離反位置から接近位置へ回動させる（図１５０を参照）。これにより、遊技領域５ａの中央に近いセンター役物２５００の枠内で、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３とが合体したハート形となるため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。また、センター役物２５００の枠内において、裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａと、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａとによって形成された小さいＶ字状の装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対してチャンスの到来を示唆することができる。

【０９１４】

更に、通常に状態で、裏左可動演出ユニット３３００の裏左駆動モータ３３０４、及び裏右可動演出ユニット３４００の裏右駆動モータ３４０４を駆動して、裏左装飾体ユニット３３５０（裏左装飾体３３５４）及び裏右装飾体ユニット３４５０（裏右装飾体３４５４）を、夫々退避位置から、遊技領域５ａの中央側の第一出現位置へ移動させると、裏左装飾体３３５４と裏右装飾体３４５４とによって、メイン演出表示装置１６００の表示画面の左右が狭められた状態となる（図１５１を参照）。これにより、メイン演出表示装置１６００の表示画面が小さくなるため、遊技者に対して裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４の移動に気付かせることができ、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４の今後の動きに対して期待感を抱かせて楽しませることができる。

【０９１５】

裏左可動演出ユニット３３００の裏左駆動モータ３３０４と、裏右可動演出ユニット３４００の裏右駆動モータ３４０４との駆動により、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を、第一出現位置から更に遊技領域５ａの中央側へ移動した第二出現位置へ移動させると、メイン演出表示装置１６００の表示画面の前方において、裏左装飾体３３５４と裏右装飾体３４５４との下端同士が接近するように、夫々が斜めに傾いた状態となる（図１５２を参照）。この状態では、一対の裏左装飾体３３５４と裏右装飾体３４５４が、メイン演出表示装置１６００の表示画面を斜めに遮っているため、裏左装飾体３３５４と裏右装飾体３４５４とを目立たせることができ、遊技者の関心を裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４へ強く引付けさせることができる。

【０９１６】

また、図１５２の状態では、裏前上左装飾体３１１２と裏左装飾体３３５４とで斜めに延びている左側の装飾と、裏前上右装飾体３１１３と裏右装飾体３４５４とで斜めに延びている右側の装飾とが、遊技領域５ａの左右方向中央を境にして左右対称に形成されていると共に、左右に離間していることから、一つの装飾としては不完全な状態であるため、遊技者に対して、完全な装飾となるのではないかと想起させることができ、その後に続く演出に対して期待感を抱かせることができる。

【０９１７】

また、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を第二出現位置に移動させた状態では、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４の下端が、裏下装飾体ユニット３２３０における裏下装飾フレーム３２３２の上辺の後側に位置していると共に、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４の上端が、裏前前ユニット３１１０の裏前上左装飾体３１１２及び裏前上右装飾体３１１３の下端と夫々連続するように位置している。これにより、裏前上左装飾体３１１２と裏左装飾体３３５４と、及び裏前上右装飾体３１１３と裏右装飾体３４５４と、で斜めに延びた連続している装飾を遊技者に見せることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができる。また、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４が、サブ演出表示装置３２４０から放射状に上方へ延びているように見えるため、遊技者の関心をサブ演出表示装置３２４０（裏下装飾体ユニット３２３０）へ向けさせることができ、裏下装飾体ユニット３２３０で行われる演出に対して期待感を高めさせることができる。

【０９１８】

裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を第二出現位置に移動させた状態で、裏下回動駆動モータ３２３４の駆動により、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０を、離反位置から接近位置へ回動させると、裏下左装飾体３２５３と裏左装飾体３３５４とが、斜めに一直線に並んで一体的な装飾を形成すると共に、裏下右装飾体３２６３と裏右装飾体３４５４とが、斜めに一直線に並んで一体的な装飾を形成する（図１５３を参照）。これにより、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３の基端側を下端とした、遊技領域５ａ内の全高に亘る大型のＶ字状の装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）の発生に対する期待感を高めさせることができる。

【０９１９】

この大きなＶ字状の装飾を形成する際に、裏下左装飾体３２５３と裏下右装飾体３２６３を、離反位置と接近位置との間で往復回動を繰返すようにしても良く、これにより、裏下左装飾体３２５３及び裏下右装飾体３２６３が接近位置に移動すると夫々が裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４と連続してＶ字状の装飾が形成されるため、往復移動している裏下左装飾体３２５３及び裏下右装飾体３２６３が、接近位置で停止して大きなＶ字状の装飾が形成されるか否かによって遊技者をハラハラ・ドキドキさせることができ、裏下左装飾体３２５３及び裏下右装飾体３２６３の動きを楽しませることができる。

【０９２０】

ところで、裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置に移動させた上で、裏下左装飾体３

２５３と裏下右装飾体３２６３を接近位置に移動させると共に、裏左装飾体３３５４と裏右装飾体３４５４を第三出現位置に移動させると、裏下左装飾体３２５３と裏左装飾体３３５４とが斜めに連続して並んだ状態となると共に、裏下右装飾体３２６３と裏右装飾体３４５４とが斜めに連続して並んだ状態となる（図１５４を参照）。これにより、センター役物２５００の枠内の全高に亘る大きさのＶ字状の装飾が形成されるため、遊技者に対してチャンスの到来を示唆させることができ、遊技に対する期待感をより高めさせることができる。

【０９２１】

図１４８、図１５０、図１５３、及び図１５４に示すように、大中小の三つの大きさのＶ字状の装飾を形成することができるため、第一始動口２００２や第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された第一特別抽選結果や第二特別抽選結果に応じた大きさのＶ字状の装飾を遊技者に見せるようにすることで、形成されたＶ字状の装飾の大きさによって遊技者に「大当り遊技」の発生の確率や大当り期待度、「大当り」の価値（例えば、「４ラウンド、６ラウンド、１６ラウンド等のラウンド数」、「確変当り」、「時短当り」、等）、等を示唆させることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができると共に、様々な演出に対応するように使い分けることができる。

【０９２２】

また、通常の状態で、裏中可動演出ユニット３５００の一対の裏中左駆動モータ３５４１及び裏中右駆動モータ３５５１を駆動して、左昇降アーム３５４６を正面視反時計回りの方向へ回動させると共に、右昇降アーム３５５６を正面視時計回りの方向へ回動させると、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１を、退避位置から下方へ移動する。これにより、退避位置の時には、裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、及び裏前上中装飾体３１１４の後方に位置して遊技者側から視認することができなかった裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１が、図１５５に示すように、裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、及び裏前上中装飾体３１１４の下側に出現することで視認できるようになるため、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１の出現によって遊技者の関心を引付けさせることができる。

【０９２３】

そして、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１を、最も下降した出現位置まで移動させると、円形の裏中中央装飾体３５３１の下端が、メイン演出表示装置１６００の下辺付近に位置していると共に、裏中中央装飾体３５３１の上側で裏中左装飾体３５１１と裏中右装飾体３５２１とが互いに当接した状態となる（図１５６を参照）。これにより、メイン演出表示装置１６００の表示画面の前方において、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１の動きを楽しませることができると共に、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１による全体が逆三角形に形成された一つの大きな装飾を遊技者に見せて驚かせることができる。

【０９２４】

裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１を出現位置に移動させた状態で、図示しない裏中中央駆動モータにより裏中中央装飾体３５３１をグルグルと回転させた後に、裏中中央装飾体３５３１のサブ装飾部３５３１ａが、裏中左装飾体３５１１の装飾と一致するように、裏中中央装飾体３５３１の回転を停止させる（図１５７を参照）。これにより、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１によって形成された大きな所定のロゴの装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【０９２５】

裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、及び裏中中央装飾体３５３１を出現位置に移動させると共に、裏中中央装飾体３５３１を回転させてサブ装飾部３５３１ａと裏

中左装飾体３５１１の装飾とを一致させた状態で、裏中サイド駆動モータ３５８１の駆動により、裏中左サイド装飾体ユニット３５６０を正面視反時計回りの方向へ回動させると共に、裏中右サイド装飾体ユニット３５７０を正面視時計回りの方向へ回動させて、夫々を出現位置へ移動させと、裏中左サイド装飾体３５６２と裏中右サイド装飾体３５７２の夫々の下端同士が、裏中中央装飾体３５３１の後側で接近するように斜めに傾いた状態となり、裏中左サイド装飾体３５６２と裏中右サイド装飾体３５７２とが、円形の裏中中央装飾体３５３１の左右から外方へ延出したような状態となる（図１５８を参照）。これにより、裏中左装飾体３５１１、裏中右装飾体３５２１、裏中中央装飾体３５３１、裏中左サイド装飾体３５６２、及び裏中右サイド装飾体３５７２によって、メイン演出表示装置１６００の表示画面の略全体を覆うような一つの巨大な装飾を形成することができるため、遊技者を大いに驚かせることができ、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り」遊技）の発生に対する期待感を高めさせることができる。

【０９２６】

このように、本実施形態の遊技盤５によれば、多彩な可動演出を行うことができるため、遊技者を飽きさせ難くすることができ、遊技者を十分に楽しませて遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０９２７】

［５－１１．遊技盤における発光演出］

次に、遊技盤５における主な発光演出について、主に図１５９乃至図１６５を参照して詳細に説明する。図１５９乃至図１６５では、便宜上、発光時の明暗を逆転させて示している。図１５９は裏前中ユニットの第一導光板を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図１６０は裏前中ユニットの第二導光板を発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６１は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを下降位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて小型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６２は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を同一色によってハート形に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【０９２８】

図１６３は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットを上昇位置とすると共に裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて小型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６４は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第二出現位置とし、裏前装飾ユニットの裏前上左装飾体及び裏前上右装飾体、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、裏下右装飾体、裏左装飾体、及び裏右装飾体を用いて大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。図１６５は、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが上昇位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とすると共に、裏左可動演出ユニット及び裏右可動演出ユニットの裏左装飾体ユニット及び裏右装飾体ユニットを第三出現位置とし、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、裏下右装飾体、裏左装飾体、及び裏右装飾体を用いて中型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図である。

【０９２９】

本実施形態の遊技盤５は、図１１８等に示すように、通常の状態では、裏前装飾ユニット３１００における裏前上左装飾体３１１２、裏前上右装飾体３１１３、裏前上中装飾体３１１４、裏前左サイド装飾体３１１６、裏前右サイド装飾体３１１７、裏前左下装飾体３１１８、裏前右下装飾体３１１９、裏前下中装飾体３１６８、裏前後左装飾体３１６９、及び裏前後右装飾体３１７０によって形成されている枠内を閉鎖している裏前中ユニッ

ト３１３０の透明な第一導光板３１３５や第二導光板３１３６が、遊技者側から（殆ど）視認できない状態となっている。

【０９３０】

遊技盤５は、裏前装飾ユニット３１００の裏前中ユニット３１３０において、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ、及び裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａを、発光させると、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａが発光装飾された状態となり、サブ演出表示装置３２４０の表示画面よりも上側でメイン演出表示装置１６００の表示画面の前方に第一絵柄３１３５ａが表示された状態となる（図１５９を参照）。これにより、メイン演出表示装置１６００の表示画面の前方に、第一絵柄３１３５ａが浮き上がったように表示されるため、遊技者を驚かせることができ、遊技者を楽しませることができる。この第一絵柄３１３５ａは、所定の文字列により遊技者を、遊技者参加型演出に参加するように促すことができ、遊技者を遊技者参加型演出に参加させて楽しませることができる。

【０９３１】

また、図１５９に示すように、第一導光板３１３５の第一絵柄３１３５ａを発光装飾させた状態では、第一絵柄３１３５ａによってサブ演出表示装置３２４０の表示画面を遮ることはないため、遊技者に対して、サブ演出表示装置３２４０の表示画面に表示されている演出画像を良好な状態で視認させることができ、サブ演出表示装置３２４０による演出画像を楽しませることができる。また、第一絵柄３１３５ａを発光装飾させている時に、サブ演出表示装置３２４０に、遊技や遊技者参加型演出等に関する情報を表示させることが望ましく、遊技者をより楽しませることができる。なお、第一導光板３１３５（第一絵柄３１３５ａ）を発光装飾させる際には、第一導光板３１３５よりも後方にある装飾基板のＬＥＤを消灯或いは減光させたり、メイン演出表示装置１６００の表示画面を暗く或いは黒くしたりすることが望ましい。

【０９３２】

また、裏前装飾ユニット３１００の裏前中ユニット３１３０において、裏前中左装飾基板３１４１の第二ＬＥＤ３１４１ｂ、裏前中左下装飾基板３１４２のＬＥＤ３１４２ａ、裏前中右装飾基板３１４３の第二ＬＥＤ３１４３ｂ、裏前中右下装飾基板３１４４のＬＥＤ３１４４ａを、発光させると、第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａが発光装飾された状態となり、メイン演出表示装置１６００及びサブ演出表示装置３２４０の前方で第二絵柄３１３６ａが表示された状態となる（図１６０を参照）。これにより、メイン演出表示装置１６００及びサブ演出表示装置３２４０の前方となる第一絵柄３１３５ａよりも広い範囲に、遊技領域５ａの中央を中心とした放射状の第二絵柄３１３６ａが、浮き上がったように表示されるため、おおいに遊技者を驚かせることができる。

【０９３３】

また、メイン演出表示装置１６００に所定の演出画像を表示させている時に、第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａを発光装飾させると、前後位置の異なる演出画像と第二絵柄３１３６ａとが重なることで遠近感を付与することができ、立体感のある表示演出により遊技者をより楽しませることができる。また、上述したような可動演出中に、第二導光板３１３６の第二絵柄３１３６ａを発光装飾させても良く、第二絵柄３１３６ａと可動演出とによるコラボレーションにより、より遊技者の関心を強く引付けさせることができ、遊技者をより楽しませることができる。

【０９３４】

更に、通常の状態に対して、裏下可動演出ユニット３２００の裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０を接近位置へ回動させた上で、裏前左下装飾基板３１７１及び裏前右下装飾基板３１７２によって裏前下中装飾体３１６８の中装飾部３１６８ａと、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａとを、所定の色（例えば、白色）で発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に中装飾部３２５３ａ及び中装飾部３２６３ａと同色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾

画像）を表示させると、センター役物２５００におけるステージ２５３０の後側において、小型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６１を参照）。これにより、遊技者に対して、Ｖ字状の発光装飾が、「Ｖｉｃｔｏｒｙ」（勝利）を表していると思わせることができるため、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り遊技」）の発生に対する期待感を高めさせることができる。

【０９３５】

裏前下中装飾体３１６８の中装飾部３１６８ａと、裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａと、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、及びサブ演出表示装置３２４０とで、小型のＶ字状の発光装飾を行う際に、裏前下中装飾体３１６８の周縁装飾部３１６８ｂと、裏下左装飾体３２５３の周縁装飾部３２５３ｂと、及び裏下右装飾体３２６３の周縁装飾部３２６３ｂと、を赤色に発光装飾させても良い。これにより、Ｖ字状の光の帯の周りから炎が出ているような発光演出を遊技者に見せることができ、遊技者をより注目させることができる。

【０９３６】

また、通常の状態に対して、裏下可動演出ユニット３２００の裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置へ移動させた上で、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０を接近位置へ回動させ、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３及び裏下右装飾体３２６３の全体を赤色に発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に赤色の演出画像（ハート補完装飾画像）を表示させると、センター役物２５００の枠内の下部においてハート形の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６２を参照）。これにより、遊技者に対して、何か良いことがあるのではないかと思わせることができ、遊技者の遊技に対する期待感を高めさせることができる。

【０９３７】

なお、図示は省略するが、裏下装飾体ユニット３２３０が下降位置の時に、ハート形の発光装飾を見せるようにしても良い。この際には、裏前装飾ユニット３１００の裏前後ユニット３１６０における裏前下中装飾体３１６８を裏前左下装飾基板３１７１及び裏前右下装飾基板３１７２によって赤色に発光装飾させる。

【０９３８】

更に、通常の状態に対して、裏下可動演出ユニット３２００の裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置へ移動させた上で、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０を接近位置へ回動させ、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａを、所定の色（例えば、白色）で発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に中装飾部３２５３ａ及び中装飾部３２６３ａと同色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させると、センター役物２５００の枠内の下部において、小型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６３を参照）。これにより、遊技領域５ａの中央付近において小型のＶ字状の発光装飾が見えるため、図１６１の例と比較して、有利遊技状態の発生に対する期待感をより高めさせることができ、遊技者をより楽しませることができる。

【０９３９】

裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａと、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、及びサブ演出表示装置３２４０とで、中型のＶ字状の発光装飾を行う際に、裏下左装飾体３２５３の周縁装飾部３２５３ｂと裏下右装飾体３２６３の周縁装飾部３２６３ｂとを、赤色に発光装飾させても良い。これにより、Ｖ字状の光の帯の周りから炎が出ているような発光演出を遊技者に見せることができるため、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、発光演出をより楽しませることができる。

【０９４０】

また、通常の状態に対して、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０を接近位置へ回動させると共に、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を

第二出現位置に移動させた状態で、裏前装飾ユニット３１００の裏前上装飾基板３１２０によって裏前上左装飾体３１１２の中装飾部３１１２ａ及び裏前上右装飾体３１１３の中装飾部３１１３ａと、裏前左下装飾基板３１７１及び裏前右下装飾基板３１７２によって裏前下中装飾体３１６８の中装飾部３１６８ａと、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、裏左装飾基板３３５５及び裏右装飾基板３４５５によって裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａ及び裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａと、を所定の色（例えば、白色）で発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に中装飾部３２５３ａ及び中装飾部３２６３ａと同色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させると、遊技領域５ａ内の略全高に亘る大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６４を参照）。

【０９４１】

これにより、センター役物２５００よりも大きく遊技領域５ａの略全高に亘った大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り遊技」）が発生することを確信させることができ、遊技者の期待感をおおいに高めさせることができる。

【０９４２】

裏前上左装飾体３１１２の中装飾部３１１２ａと、裏前上右装飾体３１１３の中装飾部３１１３ａと、裏前下中装飾体３１６８の中装飾部３１６８ａと、裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａと、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａと、裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａと、及びサブ演出表示装置３２４０とで、大型のＶ字状の発光装飾を行う際に、裏前上左装飾体３１１２の周縁装飾部３１１２ｂと、裏前上右装飾体３１１３の周縁装飾部３１１３ｂと、裏前下中装飾体３１６８の周縁装飾部３１６８ｂと、裏下左装飾体３２５３の周縁装飾部３２５３ｂと、裏下右装飾体３２６３の周縁装飾部３２６３ｂと、裏左装飾体３３５４の周縁装飾部３３５４ｂと、及び裏右装飾体３４５４の周縁装飾部３４５４ｂと、を赤色に発光装飾させても良い。これにより、大型のＶ字状の光の帯の周りから炎が出ているような発光演出を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して強いインパクトを与えることができ、遊技に対する期待感を更に高めさせることができる。

【０９４３】

更に、通常の状態に対して、裏下可動演出ユニット３２００の裏下装飾体ユニット３２３０を上昇位置へ移動させた上で、裏下左装飾体ユニット３２５０と裏下右装飾体ユニット３２６０を接近位置へ回動させると共に、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を第三出現位置に移動させた状態で、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、裏左装飾基板３３５５及び裏右装飾基板３４５５によって裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａ及び裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａと、を所定の色（例えば、白色）で発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に中装飾部３２５３ａ及び中装飾部３２６３ａと同色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させると、センター役物２５００の枠内において、中型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができる（図１６５を参照）。これにより、遊技領域５ａの中央において、センター役物２５００の枠内の全高に亘った中型のＶ字状の発光装飾が見えるため、図１６１や図１６３等の例と比較して、有利遊技状態の発生に対する期待感をより高めさせることができ、遊技者をより楽しませることができる。

【０９４４】

裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａと、裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、裏左装飾体３３５４の中装飾部３３５４ａと、裏右装飾体３４５４の中装飾部３４５４ａと、及びサブ演出表示装置３２４０とで、中型のＶ字状の発光装飾を行う際に、裏下左装飾体３２５３の周縁装飾部３２５３ｂと、裏下右装飾体３２６３の周縁装飾部３２６３ｂと、裏左装飾体３３５４の周縁装飾部３３５４ｂと、及び裏右装飾体３４５４

の周縁装飾部３４５４ｂと、を赤色に発光装飾させても良い。これにより、中型のＶ字状の光の帯の周りから炎が出ているような発光演出を遊技者に見せることができるため、Ｖ字状の発光演出をより目立たせることができ、遊技者の関心を強く引付けさせることができ、発光演出を楽しませることができる。

【０９４５】

上述したような発光演出は、ほんの一部に過ぎず、各装飾基板のＬＥＤを適宜組合せることで多彩な発光演出を遊技者に提示することができる。また、上述したような可動演出、発光演出、メイン演出表示装置１６００による演出画像、及びサブ演出表示装置３２４０による演出画像、を適宜組合せることで、無数の演出を遊技者に提示することができ、遊技者を飽きさせ難くすることができると共に、遊技者を楽しませることができ、遊技に対する興趣の低下を抑制させることができる。

【０９４６】

［６．制御構成］

次に、パチンコ機１の各種制御を行う制御構成について、図１６６を参照して説明する。図１６６は、パチンコ機の制御構成を概略的に示すブロック図である。パチンコ機１の主な制御構成は、図示するように、遊技盤５に取付けられる主制御基板１３１０及び周辺制御基板１５１０と、本体枠４に取付けられる払出制御基板９５１と、から構成されており、夫々の制御が分担されている。主制御基板１３１０は、遊技動作（遊技の進行）を制御する。周辺制御基板１５１０は、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて遊技中の各種演出を制御する周辺制御部１５１１と、周辺制御部１５１１からのコマンドに基づいて扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、及びサブ演出表示装置３２４０等での演出画像の表示を制御する演出表示制御部１５１２と、を備えている。払出制御基板９５１は、遊技球の払出し等を制御する払出制御部９５２と、ハンドル３０２の回転操作による遊技球の発射を制御する発射制御部９５３と、を備えている。

【０９４７】

［６－１．主制御基板］

遊技の進行を制御する主制御基板１３１０は、詳細な図示は省略するが、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである主制御ＭＰＵ１３１０ａと、入出力デバイス（Ｉ／Ｏデバイス）としての主制御Ｉ／Ｏポートと、各種検出スイッチからの検出信号が入力される主制御入力回路と、各種ソレノイドを駆動するための主制御ソレノイド駆動回路と、主制御ＭＰＵ１３１０ａに内蔵されているＲＡＭに記憶された情報を完全に消去するためのＲＡＭクリアスイッチと、を備えている。主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その内蔵されたＲＯＭやＲＡＭのほかに、その動作（システム）を監視するウォッチドックタイマや不正を防止するための機能等も内蔵されている。

【０９４８】

主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、第一始動口２００２に受入れられた遊技球を検出する第一始動口センサ３１６７、第二始動口２００４に受入れられた遊技球を検出する第二始動口センサ２４０２、一般入賞口２００１に受入れられた遊技球を検出する一般入賞口センサ３１６６、ゲート部２００３を通過した遊技球を検知するゲートセンサ２４０１、大入賞口２００５に受入れられた遊技球を検知する大入賞口センサ２４０３、及び遊技領域５ａ内における不正な磁気を検知する磁気センサ（図示は省略）、等からの検出信号が夫々主制御Ｉ／Ｏポートを介して入力される。

【０９４９】

主制御ＭＰＵ１３１０ａは、これらの検出信号に基づいて、主制御Ｉ／Ｏポートから主制御ソレノイド駆動回路に制御信号を出力することにより、始動口ソレノイド２４１２、及びアタッカソレノイド２４１４に駆動信号を出力したり、主制御Ｉ／Ｏポートから機能表示ユニット１４００の状態表示器１４０１、普通図柄表示器１４０２、第一特別図柄表示器１４０３、第一特別保留数表示器１４０４、第二特別図柄表示器１４０５、第二特別保留数表示器１４０６、ラウンド表示器１４０７、普通保留表示器１４０８、等に駆動信

号を出力したりする。

【０９５０】

なお、本実施形態おいて、第一始動口センサ３１６７、第二始動口センサ２４０２、ゲートセンサ２４０１、及び大入賞口センサ２４０３には、非接触タイプの電磁式の近接スイッチを用いているのに対して、一般入賞口センサ３１６６には、接触タイプのＯＮ／ＯＦＦ動作式のメカニカルスイッチを用いている。これは、遊技球が、第一始動口２００２や第二始動口２００４に頻繁に入球すると共に、ゲート部２００３を頻繁に通過するため、第一始動口センサ３１６７、第二始動口センサ２４０２、及びゲートセンサ２４０１による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、第一始動口センサ３１６７、第二始動口センサ２４０２、及びゲートセンサ２４０１には、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。また、遊技者にとって有利となる有利遊技状態（「大当り」遊技、等）が発生すると、大入賞口２００５が開放されて遊技球が頻繁に入球するため、大入賞口センサ２４０３による遊技球の検出も頻繁に発生する。このため、大入賞口センサ２４０３にも、耐久性が高く寿命の長い近接スイッチを用いている。これに対して、遊技球が頻繁に入球しない一般入賞口２００１には、一般入賞口センサ３１６６による検出も頻繁に発生しない。このため、一般入賞口センサ３１６６には、近接スイッチより寿命が短いメカニカルスイッチを用いている。

【０９５１】

また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払出しに関する各種コマンド等を払出制御基板９５１に送信したり、この払出制御基板９５１からのパチンコ機１の状態に関する各種コマンド等を受信したりする。更に、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、遊技演出の制御に関する各種コマンド及びパチンコ機１の状態に関する各種コマンドを、主制御Ｉ／Ｏポートを介して周辺制御基板１５１０の周辺制御部１５１１に送信したりする。なお、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、その詳細な説明は後述するが、払出制御基板９５１からパチンコ機１の状態に関する各種コマンドを受信すると、これらの各種コマンドを整形して周辺制御部１５１１に送信する。

【０９５２】

主制御基板１３１０には、詳細な説明は後述するが、電源基板ボックス９３０内の電源基板から各種電圧が供給されている。この主制御基板１３１０に各種電圧を供給する電源基板は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としての電気二重層キャパシタ（以下、単に「キャパシタ」と記載する。）を備えている。このキャパシタにより主制御ＭＰＵ１３１０ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報をＲＡＭに記憶することができる。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチが操作されると、ＲＡＭから完全に消去（クリア）される。このＲＡＭクリアスイッチの操作信号（検出信号）は、払出制御基板９５１にも出力される。

【０９５３】

また、主制御基板１３１０には、停電監視回路が設けられている。この停電監視回路は、電源基板から供給される各種電圧の低下を監視しており、それらの電圧が停電予告電圧以下となると、停電予告として停電予告信号を出力する。この停電予告信号は、主制御Ｉ／Ｏポートを介して主制御ＭＰＵ１３１０ａに入力される他に、払出制御基板９５１等にも出力されている。

【０９５４】

［６－２．払出制御基板］

遊技球の払出し等を制御する払出制御基板９５１は、詳細な図示は省略するが、払出しに関する各種制御を行う払出制御部９５２と、発射ソレノイド６８２による発射制御を行うとともに、球送ソレノイド２５５による球送り制御を行う発射制御部９５３と、パチンコ機１の状態を表示するエラーＬＥＤ表示器と、エラーＬＥＤ表示器に表示されているエラーを解除するためのエラー解除スイッチと、球タンク８０２、タンクレール８０３、球誘導ユニット８２０、及び払出装置８３０内の遊技球を、パチンコ機１の外部へ排出して

球抜き動作を開始するための球抜きスイッチと、を備えている。

【０９５５】

［６－２ａ．払出制御部］

払出制御基板９５１における払出しに関する各種制御を行う払出制御部９５２は、詳細な図示は省略するが、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭ等が内蔵されるマイクロプロセッサである払出制御ＭＰＵ９５２ａと、Ｉ／Ｏデバイスとしての払出制御Ｉ／Ｏポートと、払出制御ＭＰＵ９５２ａが正常に動作しているか否かを監視するための外部ＷＤＴ（外部ウォッチドックタイマ）と、払出装置８３０の払出モータ８３４に駆動信号を出力するための払出モータ駆動回路と、払出しに関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される払出制御入力回路と、を備えている。払出制御ＭＰＵ９５２ａには、その内蔵されたＲＯＭやＲＡＭのほかに、不正を防止するため機能等も内蔵されている。

【０９５６】

払出制御部９５２の払出制御ＭＰＵ９５２ａは、主制御基板１３１０からの遊技に関する各種情報（遊技情報）及び払い出しに関する各種コマンドを払出制御Ｉ／Ｏポートを介してシリアル方式で受信したり、主制御基板１３１０からのＲＡＭクリアスイッチの操作信号（検出信号）が払出制御Ｉ／Ｏポートを介して入力されたりする他に、満タン検知センサ２７９からの検出信号が入力されたり、球切れ検知センサ８２７、払出検知センサ８４２、及び羽根回転検知センサ８４０からの検出信号が入力される。

【０９５７】

払出装置８３０の球切れ検知センサ８２７、払出検知センサ８４２、及び羽根回転検知センサ８４０からの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力される。

【０９５８】

また、本体枠４に対する扉枠３の開放を検出する扉枠開放スイッチ、及び外枠２に対する本体枠４の開放を検出する本体枠開放スイッチからの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力される。

【０９５９】

また、ファールカバーユニット２７０の満タン検知センサ２７９からの検出信号は、払出制御入力回路に入力され、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力される。

【０９６０】

払出制御ＭＰＵ９５２ａは、払出モータ８３４を駆動するための駆動信号を、払出制御Ｉ／Ｏを介して払出モータ８３４に出力したり、パチンコ機１の状態をエラーＬＥＤ表示器に表示するための信号を、払出制御Ｉ／Ｏポートを介してエラーＬＥＤ表示器に出力したり、パチンコ機１の状態を示すためのコマンドを、払出制御Ｉ／Ｏポートを介して主制御基板１３１０にシリアル方式で送信したり、実際に払出した遊技球の球数を払出制御Ｉ／Ｏポートを介して外部端子板に出力したりする。この外部端子板は、遊技ホール側に設置されたホールコンピュータに接続されている。このホールコンピュータは、パチンコ機１が払出した遊技球の球数やパチンコ機１の遊技情報等を把握することにより遊技者の遊技を監視している。

【０９６１】

エラーＬＥＤ表示器は、セグメント表示器であり、英数字や図形等を表示してパチンコ機１の状態を表示している。エラーＬＥＤ表示器が表示して報知する内容としては、次のようなものがある。例えば、図形「－」が表示されているときには「正常」である旨を報知し、数字「０」が表示されているときには「接続異常」である旨（具体的には、主制御基板１３１０と払出制御基板９５１との基板間の電気的な接続に異常が生じている旨）を報知し、数字「１」が表示されているときには「球切れ」である旨（具体的には、球切れ検知センサ８２７からの検出信号に基づいて払出装置８３０内に遊技球がない旨）を報知し、数字「２」が表示されているときには「球がみ」である旨（具体的には、羽根回転検

知センサ８４０からの検出信号に基づいて払出装置８３０の払出通路８３１ｄ及び払出通路８３２ｄにおいて払出羽根８３９と遊技球とがかみ合って払出羽根８３９が回転困難となっている旨）を報知し、数字「３」が表示されているときには「計数スイッチエラー」である旨（具体的には、払出検知センサ８４２からの検出信号に基づいて払出検知センサ８４２に不具合が生じている旨）を報知し、数字「５」が表示されているときには「リトライエラー」である旨（具体的には、払出し動作のリトライ回数が予め設定された上限値に達した旨）を報知し、数字「６」が表示されているときには「満タン」である旨（具体的には、満タン検知センサ２７９からの検出信号に基づいてファールカバーユニット２７０内に貯留された遊技球で満タンである旨）を報知し、数字「７」が表示されているときには「ＣＲ未接続」である旨（払出制御基板９５１からＣＲユニットまでに亘るいずれかにおいて電気的な接続が切断されている旨）を報知し、数字「９」が表示されているときには「ストック中」である旨（具体的には、まだ払出していない遊技球の球数が予め定めた球数に達している旨）を報知している。

【０９６２】

球貸ボタン３２８からの遊技球の球貸要求信号、及び返却ボタン３２９からのプリペイドカードの返却要求信号は、ＣＲユニットに入力される。ＣＲユニットは、球貸要求信号に従って貸し出す遊技球の球数を指定した信号を、払出制御基板９５１にシリアル方式で送信し、この信号が払出制御Ｉ／Ｏポートで受信されて払出制御ＭＰＵ９５２ａに入力される。またＣＲユニットは、貸出した遊技球の球数に応じて挿入されたプリペイドカードの残度を更新するとともに、その残度を球貸返却表示部３３０に表示するための信号を出力し、この信号が球貸返却表示部３３０に入力されて表示される。

【０９６３】

［６－２ｂ．発射制御部］

発射ソレノイド６８２による発射制御と、球送ソレノイド２５５による球送制御と、を行う発射制御部９５３は、詳細に図示は省略するが、発射に関する各種検出スイッチからの検出信号が入力される発射制御入力回路と、定時間毎にクロック信号を出力する発振回路と、このクロック信号に基づいて遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出すための発射基準パルスを出力する発射タイミング制御回路と、この発射基準パルスに基づいて発射ソレノイド６８２に駆動信号を出力する発射ソレノイド駆動回路と、発射基準パルスに基づいて球送ソレノイド２５５に駆動信号を出力する球送ソレノイド駆動回路と、を備えている。発射タイミング制御回路は、発振回路からのクロック信号に基づいて、１分当たり１００個の遊技球が遊技領域５ａに向かって打ち出されるよう発射基準パルスを生成して発射ソレノイド駆動回路に出力するとともに、発射基準パルスを所定数倍した球送基準パルスを生成して球送ソレノイド駆動回路に出力する。

【０９６４】

ハンドルユニット３００関係では、ハンドル３０２に手のひらや指が触れているか否かを検出するハンドルタッチセンサ３１０、及び遊技者の意志によって遊技球の打ち出しを強制的に停止するか否かを検出する単発ボタン操作センサ３１２からの検出信号は、発射制御入力回路に入力された後に、発射タイミング制御回路に入力される。またＣＲユニットとＣＲユニット接続端子板とが電気的に接続されると、ＣＲ接続信号として発射制御入力回路に入力され、発射タイミング制御回路に入力される。ハンドル３０２の回転位置に応じて遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出す強度を電気的に調節するハンドル回転検知センサ３０７からの信号は、発射ソレノイド駆動回路に入力され。

【０９６５】

この発射ソレノイド駆動回路は、ハンドル回転検知センサ３０７からの信号に基づいて、ハンドル３０２の回転位置に見合う打ち出し強度で遊技球を遊技領域５ａに向かって打ち出すための駆動電流を、発射基準パルスが入力されたことを契機として、発射ソレノイド６８２に出力する。一方、球送ソレノイド駆動回路は、球送基準パルスが入力されたことを契機として、球送ソレノイド２５５に一定電流を出力することにより、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球を球送ユニット２５０内に１球受入れ、その球送基

準パルスの入力が終了したことを契機として、その一定電流の出力を停止することにより受入れた遊技球を球発射装置６８０側へ送る。このように、発射ソレノイド駆動回路から発射ソレノイド６８２に出力される駆動電流は可変に制御されるのに対して、球送ソレノイド駆動回路から球送ソレノイド２５５に出力される駆動電流は一定に制御されている。

【０９６６】

なお、払出制御基板９５１に各種電圧を供給する電源基板は、電源遮断時にでも所定時間、主制御基板１３１０に電力を供給するためのバックアップ電源としてのキャパシタを備えている。このキャパシタにより払出制御ＭＰＵ９５２ａは、電源遮断時にでも電源断時処理において各種情報を払出制御基板９５１のＲＡＭに記憶することができる。この記憶した各種情報は、電源投入時に主制御基板１３１０のＲＡＭクリアスイッチが操作されると、払出制御基板９５１のＲＡＭから完全に消去（クリア）される。

【０９６７】

［６－３．周辺制御基板］

周辺制御基板１５１０は、図１６６に示すように、主制御基板１３１０からのコマンドに基づいて演出制御を行う周辺制御部１５１１と、この周辺制御部１５１１からの制御データに基づいて、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０等の描画制御を行う演出表示制御部１５１２と、を備えている。

【０９６８】

［６－３ａ．周辺制御部］

周辺制御基板１５１０における演出制御を行う周辺制御部１５１１は、詳細な図示は省略するが、マイクロプロセッサとしての周辺制御ＭＰＵ１５１１ａと、各種処理プログラムや各種コマンドを記憶する周辺制御ＲＯＭと、高音質の演奏を行う音源ＩＣと、この音源ＩＣが参照する音楽及び効果音等の音情報が記憶されている音ＲＯＭと、を備えている。

【０９６９】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を複数内蔵しており、主制御基板１３１０から各種コマンドを受信すると、この各種コマンドに基づいて、遊技盤５の各装飾基板に設けられたカラーＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための遊技盤側発光データをランプ駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから演出駆動基板３０３２に送信したり、遊技盤５に設けられた各種演出ユニットを作動させる駆動モータへの駆動信号を出力するための遊技盤側駆動データを遊技盤装飾駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートからモータ駆動基板３０３３に送信したり、扉枠３に設けられた振動モータ４２４等の電気的駆動源への駆動信号を出力するための扉側駆動データと、扉枠３の各装飾基板に設けられたカラーＬＥＤ等への点灯信号、点滅信号又は階調点灯信号を出力するための扉側発光データと、から構成される扉側駆動発光データを枠装飾駆動基板用シリアルＩ／Ｏポートから扉枠３側に送信したり、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、及びサブ演出表示装置３２４０に表示させる画面を示す制御データ（表示コマンド）を表示制御部用シリアルＩ／Ｏポートから演出表示制御部１５１２に送信したり、するほかに、音ＲＯＭから音情報を抽出するための制御信号（音コマンド）を音源ＩＣに出力したりする。

【０９７０】

遊技盤５に設けられた各種可動演出ユニットの位置を検出するための各種検出センサからの検出信号は、裏箱３０１０の後面に取付けられたモータ駆動基板３０３３を介して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力されている。また、扉枠３に設けられた演出操作ユニット４００の押圧検知センサ４４０からの検出信号は、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに入力されている。

【０９７１】

また周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、演出表示制御部１５１２が正常に動作している旨を伝える信号（動作信号）が演出表示制御部１５１２から入力されており、この動作信号に基づいて演出表示制御部１５１２の動作を監視している。

【０９７２】
音源ＩＣは、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａからの制御データ（音コマンド）に基づいて音ＲＯＭから音情報を抽出し、扉枠３や本体枠４等に設けられた上部スピーカ５７３やスピーカ９２１等から各種演出に合せた音楽及び効果音等が流れるように制御を行う。なお、周辺制御基板１５１０が収容された周辺制御基板ボックス１５２０から後方へ突出しているボリュームを回転操作することで、音量を調整することができるようになっている。本実施形態では、扉枠３側の上部スピーカ５７３と本体枠４の低音用のスピーカ９２１とに、音情報としての音響信号（例えば、２ｃｈステレオ信号、４ｃｈステレオ信号、２．１ｃｈサラウンド信号、或いは、４．１ｃｈサラウンド信号、等）を送ることで、従来よりも臨場感のある音響効果（音響演出）を提示することができる。
【０９７３】
なお、周辺制御部１５１１は、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに内蔵された内蔵ＷＤＴ（ウォッチドックタイマ）のほかに、図示しない、外部ＷＤＴ（ウォッチドックタイマ）も備えており、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、内蔵ＷＤＴと外部ＷＤＴとを併用して自身のシステムが暴走しているか否かを診断している。
【０９７４】
この周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから演出表示制御部１５１２に出力される表示コマンドはシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレート（単位時間あたりに送信できるデータの大きさ）として１９．２キロ（ｋ）ビーピーエス（ｂｉｔｓ　ｐｅｒ　ｓｅｃｏｎｄ、以下、「ｂｐｓ」と記載する）が設定されている。一方、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａから裏箱３０１０の後面に取付けられた演出駆動基板３０３２に出力される、初期データ、扉枠側点灯点滅コマンド、遊技盤側点灯点滅コマンド、可動体駆動コマンド、表示コマンドと異なる複数のシリアル入出力ポートにより行われ、本実施形態では、ビットレートとして２５０ｋｂｐｓが設定されている。
【０９７５】
この演出駆動基板３０３２は、受信した扉枠側点灯点滅コマンドに基づいた点灯信号又は点滅信号を、扉枠３に備えられた各装飾基板のＬＥＤに出力したり、受信した遊技盤側点灯点滅コマンドに基づいた点灯信号又は点滅信号を遊技盤５に備えられた各装飾基板のＬＥＤに出力したりする。
【０９７６】
また、モータ駆動基板３０３３は、受信した駆動コマンドに基づいた駆動信号を、扉枠３に備えられた振動モータ４２４や、遊技盤５に備えられた各駆動モータ等に出力したりする。
【０９７７】
［６－４．演出表示制御部］
次に、周辺制御基板１５１０における扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０の描画制御を行う演出表示制御部１５１２は、詳細な図示は省略するが、マイクロプロセッサとしての表示制御ＭＰＵと、各種処理プログラム、各種コマンド及び各種データを記憶する表示制御ＲＯＭと、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０を表示制御するＶＤＰ（Ｖｉｄｅｏ　Ｄｉｓｐｌａｙ　Ｐｒｏｃｅｓｓｏｒの略）と、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に表示される画面の各種データを記憶する画像ＲＯＭと、この画像ＲＯＭに記憶されている各種データが転送されてコピーされる画像ＲＡＭと、を備えている。
【０９７８】
この表示制御ＭＰＵは、パラレルＩ／Ｏポート、シリアルＩ／Ｏポート等を内蔵しており、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）に基づいてＶＤＰを制御して扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０の描画制御を行っている。なお、表示制御ＭＰＵは、正常に動作していると、その旨を伝える動作信号を周辺制御部１５１１に出力する。また表示制御ＭＰＵは、ＶＤＰから実行中

信号が入力されており、この実行中信号の出力が１６ｍｓごとに停止されたことを契機として、割り込み処理を行っている。

【０９７９】

表示制御ＲＯＭは、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に描画する画面を生成するための各種プログラムのほかに、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータ、その制御データ（表示コマンド）と対応する非常駐領域転送スケジュールデータ等を複数記憶している。スケジュールデータは、画面の構成を規定する画面データが時系列に配列されて構成されており、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に描画する画面の順序が規定されている。非常駐領域転送スケジュールデータは、画像ＲＯＭに記憶されている各種データを画像ＲＡＭの非常駐領域に転送する際に、その順序を規定する非常駐領域転送データが時系列に配列されて構成されている。この非常駐領域転送データは、スケジュールデータの進行に従って扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に描画される画面データを、前もって、画像ＲＯＭから画像ＲＡＭの非常駐領域に各種データを転送する順序が規定されている。

【０９８０】

表示制御ＭＰＵは、周辺制御部１５１１からの制御データ（表示コマンド）と対応するスケジュールデータの先頭の画面データを表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力した後に、先頭の画面データに続く画面データを表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力する。このように、表示制御ＭＰＵは、スケジュールデータに時系列に配列された画面データを、先頭の画面データから１つずつ表示制御ＲＯＭから抽出してＶＤＰに出力する。

【０９８１】

ＶＤＰは、表示制御ＭＰＵから出力された画面データが入力されると、この入力された画面データに基づいて画像ＲＡＭからスプライトデータを抽出して扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に表示する描画データを生成し、この生成した描画データを、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に出力する。またＶＤＰは、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０が、表示制御ＭＰＵからの画面データを受入れないときに、その旨を伝える実行中信号を表示制御ＭＰＵに出力する。なお、ＶＤＰは、ラインバッファ方式が採用されている。この「ラインバッファ方式」とは、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０の左右方向を描画する１ライン分の描画データをラインバッファに保持し、このラインバッファに保持した１ライン分の描画データを、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に出力する方式である。

【０９８２】

画像ＲＯＭには、極めて多くのスプライトデータが記憶されており、その容量が大きくなっている。画像ＲＯＭの容量が大きくなると、つまり、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に描画するスプライトの数が多くなると、画像ＲＯＭのアクセス速度が無視できなくなり、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に描画する速度に影響することとなる。そこで、本実施形態では、アクセス速度の速い画像ＲＡＭに、画像ＲＯＭに記憶されているスプライトデータを転送してコピーし、この画像ＲＡＭからスプライトデータを抽出している。なお、スプライトデータは、スプライトをビットマップ形式に展開する前のデータである基データであり、圧縮された状態で画像ＲＯＭに記憶されている。

【０９８３】

ここで、「スプライト」について説明すると、「スプライト」とは、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に、纏まった単位として表示されるイメージである。例えば、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に、種々の人物（キャラクタ）を表示させる場合

には、夫々の人物を描くためのデータを「スプライト」と呼ぶ。これにより、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に複数人の人物を表示させる場合には、複数のスプライトを用いることとなる。また人物のほかに、背景を構成する家、山、道路等もスプライトであり、背景全体を１つのスプライトとすることもできる。これらのスプライトは、画面に配置される位置やスプライト同士が重なる場合の上下関係（以下、「スプライトの重ね合わせの順序」と記載する。）が設定されて扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０に描画される。

【０９８４】

なお、スプライトは縦横それぞれ６４画素の矩形領域を複数張り合わせて構成されている。この矩形領域を描くためのデータを「スプライトキャラクタ」と呼ぶ。小さなスプライトの場合には１つのスプライトキャラクタを用いて表現することができるし、人物など比較的大きいスプライトの場合には、例えば横２×縦３などで配置した合計６個のスプライトキャラクタを用いて表現することができる。背景のように更に大きいスプライトの場合には更に多数のスプライトキャラクタを用いて表現することができる。このように、スプライトキャラクタの数及び配置は、スプライトごとに任意に指定することができるようになっている。

【０９８５】

扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０は、その正面から見て左から右に向かって順次、画素に沿った一方向に画素ごとの表示状態を設定する主走査と、その一方向と交差する方向に主走査を繰り返し行う副走査と、によって駆動される。扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０は、演出表示制御部１５１２から出力された１ライン分の描画データが入力されると、主走査として扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０の正面から見て左から右に向かって順次、１ライン分の画素にそれぞれ出力する。そして１ライン分の出力が完了すると、扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０は、副走査として直下のラインに移行し、同様に次ライン分の描画データが入力されると、この次ライン分の描画データに基づいて主走査として扉枠側演出表示装置４６０、メイン演出表示装置１６００、サブ演出表示装置３２４０の正面から見て左から右に向かって順次、１ライン分の画素にそれぞれ出力する。

【０９８６】

［７．遊技内容］

次に、本実施形態のパチンコ機１による遊技内容について、図１１９及び図１２０等を参照して説明する。本実施形態のパチンコ機１は、扉枠３の前面右下隅に配置されたハンドルユニット３００のハンドル３０２を遊技者が回転操作することで、皿ユニット３２０の上皿３２１に貯留された遊技球が、遊技盤５における外レール１００１と内レール１００２との間を通って遊技領域５ａ内の上部へと打ち込まれて、遊技球による遊技が開始される。遊技領域５ａ内の上部へ打ち込まれた遊技球は、その打込強さによってセンター役物２５００の左側、或いは、右側の何れかを流下する。なお、遊技球の打込み強さは、ハンドル３０２の回転量によって調整することができ、時計回りの方向へ回転させるほど強く打込むことができ、連続で一分間に最大１００個の遊技球、つまり、０．６秒間隔で遊技球を打込むことができる。

【０９８７】

また、遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘Ｋ（図１２０を参照）が遊技パネル１１００（パネル板１１１０）の前面に植設されており、遊技球が障害釘Ｋに当接することで、遊技球の流下速度が抑制されると共に、遊技球に様々な動きが付与されて、その動きを楽しませられるようになっている。また、遊技領域５ａ内には、障害釘Ｋの他に、遊技球の当接により回転する風車（図示は省略）が適宜位置に備えられている。

【０９８８】
センター役物２５００の上部へ打込まれた遊技球は、センター役物２５００の外周面のうち、最も高くなった部位よりも正面視左側へ進入すると、複数の障害釘Ｋに当接しながら、センター役物２５００よりも左側の領域を流下することとなる。そして、センター役物２５００の左側の領域を流下する遊技球が、センター役物２５００の正面視左側の外周面に開口しているワープ入口２５２０に進入すると、ワープ出口２５２２からステージ２５３０に供給される。
【０９８９】
ステージ２５３０に供給された遊技球は、ステージ２５３０上を転動して左右に行ったり来たりして中央誘導部２５３１又はサイド誘導部２５３２の何れかから前方へ放出されて遊技領域５ａ内に還流される。ステージ２５３０の左右方向中央にある中央誘導部２５３１から遊技球が遊技領域５ａ内に放出されと、中央誘導部２５３１が第一始動口２００２の直上に位置していることから、高い確率で第一始動口２００２に受入れられる。この第一始動口２００２に遊技球が受入れられると、第一始動口センサ３１６７により検知される。そして、第一始動口センサ３１６７による遊技球の検知に基づき主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して、払出装置８３０から所定数（例えば、３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。
【０９９０】
ステージ２５３０を転動している遊技球が、中央誘導部２５３１の左右両側に備えられているサイド誘導部２５３２から遊技領域５ａ内に放出されと、始動口ユニット２１００へ向かって流下する。センター役物２５００のステージ２５３０から遊技領域５ａ内に放出された遊技球は、始動口ユニット２１００の一般入賞口２００１、及び第一始動口２００２等、に受入れられる可能性がある。
【０９９１】
ところで、センター役物２５００の左側へ流下した遊技球が、ワープ入口２５２０に進入しなかった場合、サイドユニット２２００の棚部２２０２により左右方向中央側へ寄せられ、サイドユニット２２００の一般入賞口２００１や、始動口ユニット２１００の第一始動口２００２等、に受入れられる可能性がある。この一般入賞口２００１に遊技球が受入れられると、一般入賞口センサ３１６６に検知され、一般入賞口センサ３１６６により遊技球の検知に基づき、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して、払出装置８３０から所定数（例えば、１０個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。
【０９９２】
一方、遊技領域５ａ内においてセンター役物２５００の上部に打込まれた遊技球が、センター役物２５００の外周面の最も高くなった部位よりも右側に進入する（所謂、右打ちする）と、センター役物２５００の右案内通路２５４０からアタッカユニット２４００の上部へ放出される。右案内通路２５４０の下流端の下方には、アタッカユニット２４００のゲート部２００３が配置されており、高い確率で遊技球がゲート部２００３を通過する。
【０９９３】
右打した遊技球が、ゲート部２００３を通過すると、遊技球の通過をゲートセンサ２４０１が検知し、その検知に基づき主制御基板１３１０において普通抽選が行われ、抽選された普通抽選結果が「普通当り」の場合、第二始動口２００４を閉鎖している第二始動口扉２４１１が所定時間（例えば、０．３～１０秒）の間、始動口ソレノイド２４１２の駆動により前方へ突出して開状態となり、第二始動口２００４への遊技球の受入れが可能となる。そして、第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０及び払出制御基板９５１を介して払出装置８３０から所定数（例えば、４個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。
【０９９４】
本実施形態では、ゲート部２００３を遊技球が通過することで行われる普通抽選において、普通抽選を開始してから普通抽選結果を示唆するまでにある程度の時間を設定してい

る（例えば、０．０１～６０秒、普通変動時間とも称す）。この普通抽選結果の示唆は、遊技盤５の機能表示ユニット１４００に表示される。第二始動口２００４では、普通変動時間の経過後に開状態となる。この普通変動時間が短いほど、ゲート部２００３において「普通当り」を抽選した遊技球が、ゲート部２００３の直下に配置されている第二始動口２００４に受入れられるようになる。

【０９９５】

なお、遊技球がゲート部２００３を通過してから普通抽選結果が示唆されるまでの間に、遊技球がゲート部２００３を通過すると、普通抽選結果の示唆を開始することができないため、普通抽選結果の示唆の開始を、先の普通抽選結果の示唆が終了するまで保留するようにしている。また、普通抽選結果の保留数は、４つまでを上限とし、それ以上については、ゲート部２００３を遊技球が通過しても、保留せずに破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【０９９６】

本実施形態のパチンコ機１は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、主制御基板１３１０において、遊技者に有利な有利遊技状態（例えば、「大当り」、「中当り」、「小当り」、「確率変動当り」、「時間短縮当り」、等）を発生させる特別抽選結果の抽選が行われる。そして、抽選された特別抽選結果を、所定時間（例えば、０．１～３６０秒、特別変動時間とも称す）かけて遊技者に示唆する。なお、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられることで抽選される特別抽選結果には、「ハズレ」、「小当り」、「４Ｒ大当り」、「６Ｒ大当り」、「８Ｒ大当り」、「１０Ｒ大当り」、「１６Ｒ大当り」、「確変（確率変更）当り」、「時短（時間短縮）当り」、「確変時短当り」、「確変時短無し当り」、等がある。

【０９９７】

第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れにより抽選された特別抽選結果（第一特別抽選結果及び第二特別抽選結果）が、有利遊技状態を発生させる特別抽選結果の場合、特別変動時間の経過後に、大入賞口２００５を閉鎖している大入賞口扉２４１３がアタッカソレノイド２４１４の駆動により所定の開閉パターンで開閉し、大入賞口２００５への遊技球の受入れが可能な状態となる。大入賞口２００５が開状態の時に、大入賞口２００５に遊技球が受入れられると、大入賞口センサ２４０３により検知される。そして、大入賞口センサ２４０３による遊技球の検知に基づいて、主制御基板１３１０及び払出基板を介して、払出装置８３０から所定数（例えば、１０個、又は、１３個）の遊技球が、上皿３２１に払出される。従って、大入賞口２００５が遊技球を受入可能としている時に、大入賞口２００５に遊技球を受入れさせることで、多くの遊技球を払出させることができ、遊技者を楽しませることができる。

【０９９８】

特別抽選結果が「小当り」の場合、大入賞口２００５が、所定短時間（例えば、０．２秒～０．６秒の間）の間、遊技球を受入可能な開状態となってから閉鎖する開閉パターンを複数回（例えば、２回）繰返す。一方、特別抽選結果が「大当り」の場合、大入賞口２００５が、遊技球を受入可能な開状態となった後に、所定時間（例えば、約３０秒）経過、或いは、大入賞口２００５への所定個数（例えば、１０個）の遊技球の受入れ、の何れかの条件が充足すると、遊技球を受入不能な閉状態とする開閉パターン（一回の開閉パターンを１ラウンドと称す）を、所定回数（所定ラウンド数）繰返す。例えば、「４Ｒ大当り」であれば４ラウンド、「６Ｒ大当り」であれば６ラウンド、「１６Ｒ大当り」であれば１６ラウンド、夫々繰返して、遊技者に有利な有利遊技状態を発生させる。

【０９９９】

なお、「大当り」では、大当り遊技の終了後に、「大当り」等の特別抽選結果が抽選される確率を変更（「確変当り」）したり、特別抽選結果を示唆する演出画像の表示時間を変更（「時短当り」）したりする「当り」がある。

【１０００】

本実施形態では、第一始動口２００２及び第二始動口２００４への遊技球の受入れによ

り特別抽選の開始から抽選された特別抽選結果が示唆されるまでの間に、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられると、特別抽選結果の示唆を開始することができないため、先に抽選された特別抽選結果の示唆が完了するまで、特別抽選結果の示唆の開始が保留される。この保留される特別抽選結果の保留数は、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に対して、夫々四つまでを上限とし、それ以上については、第一始動口２００２及び第二始動口２００４に遊技球が受入れられても特別抽選結果を保留せずに、破棄している。これにより、保留が貯まることで遊技ホール側の負担の増加を抑制している。

【１００１】

この特別抽選結果の示唆は、機能表示ユニット１４００、メイン演出表示装置１６００やサブ演出表示装置３２４０で行われる。機能表示ユニット１４００では、主制御基板１３１０によって直接制御されて特別抽選結果の示唆が行われる。機能表示ユニット１４００での特別抽選結果の示唆は、複数のＬＥＤを、点灯・消灯を繰返して所定時間点滅させ、その後に、点灯しているＬＥＤの組合せによって特別抽選結果を示唆する。

【１００２】

一方、メイン演出表示装置１６００やサブ演出表示装置３２４０等では、主制御基板１３１０からの制御信号に基づいて、周辺制御基板１５１０によって間接的に制御され演出画像として特別抽選結果の示唆が行われる。メイン演出表示装置１６００等での特別抽選結果を示唆する演出画像は、複数の図柄（装飾図柄）からなる図柄列を、左右方向へ三つ並べて表示した状態で、各図柄列を変動させ、変動表示されている図柄列を順次停止表示させ、停止表示される三つの図柄列の図柄が、特別抽選結果と対応した組合せとなるように夫々の図柄列が停止表示される。特別抽選結果が「ハズレ」以外の場合は、三つの図柄列が停止して各図柄が停止表示された後に、特別抽選結果を示唆する確定画像がメイン演出表示装置１６００等に表示されて、抽選された特別抽選結果に応じた有利遊技状態（例えば、小当り遊技、大当り遊技、等）が発生する。

【１００３】

なお、機能表示ユニット１４００での特別抽選結果を示唆する時間（ＬＥＤの点滅時間（変動時間））と、メイン演出表示装置１６００等での特別抽選結果を示唆する時間（図柄列が変動して確定画像が表示されるまでの時間）とは、異なっており、機能表示ユニット１４００の方が長い時間に設定されている。

【１００４】

また、周辺制御基板１５１０では、メイン演出表示装置１６００等による特別抽選結果を示唆するための演出画像の表示の他に、抽選された特別抽選結果に応じて、扉枠３における演出操作ユニット４００の操作ボタン４１０や扉枠側演出表示装置４６０、裏ユニット３０００の裏前装飾ユニット３１００、裏下可動演出ユニット３２００、裏左可動演出ユニット３３００、裏右可動演出ユニット３４００、及び裏中可動演出ユニット３５００、等を適宜用いて、発光演出、可動演出、表示演出、等を行うことが可能であり、各種の演出によっても遊技者を楽しませることができ、遊技者の遊技に対する興趣が低下するのを抑制することができる。

【１００５】

［８．主制御基板の制御処理］

次に、主制御基板１３１０（特に主制御ＭＰＵ１３１０ａ）で実行される制御処理の例について説明する。図１６７（ａ）は、当該パチンコ機１に電源が投入されたとき、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって行われる制御処理の手順を示すフローチャートである。

【１００６】

同図１６７（ａ）に示されるように、この実施の形態にかかる主制御基板１３１０はまず、ＲＡＭクリアスイッチとしての機能を兼ね備える操作スイッチ９５４が操作されていることを条件にステップＳ１の処理として、各種のレジスタやＲＡＭに格納されているデータを初期化する。操作スイッチ９５４はパチンコ機１の背面側に設けられ、本体枠４が

開放されなければ操作できないようになっている。また、操作スイッチ９５４は電源投入から所定期間（例えば１秒）が経過する以前の操作に応じてクリア信号を主制御基板１３１０に出力し、電源投入時に主制御ＭＰＵ１３１０ａがクリア信号を入力されていると判断した場合に初期化処理（ステップＳ１）を実行して各種のレジスタや主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されているデータを初期化するようになっている。

【１００７】

なお、図示していないがこの例では、パチンコ機１への電源を遮断するときには遊技の進行状況を示す情報（例えば各種フラグ等）を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに保存するバックアップ処理を実行する。そしてパチンコ機１への電源を投入したときに操作スイッチ９５４が操作されていなければ、初期化処理（ステップＳ１）を実行することなくバックアップ処理で主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに保存された情報を参照し、該情報に応じた状態に復旧させる復旧処理を実行する。また、パチンコ機１への電源投入時に操作スイッチ９５４を操作した場合には、復旧処理を実行することなく初期化処理を実行してパチンコ機１を初期状態に設定するようになっている。

【１００８】

次いで、ステップＳ２の処理として、予め定められた数値範囲内で更新される数である乱数の更新を行う。すなわち、この実施の形態にかかる主制御基板１３１０では、上記特別図柄の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理に供される特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）、上記特別図柄の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）についての抽選処理に供される変動乱数、上記特別図柄の変動表示に対応してメイン演出表示装置１６００で実行される装飾図柄の変動表示にてリーチ（左装飾図柄と右装飾図柄を同一図柄で停止表示して中装飾図柄を未だ停止表示していない状態や、左・中・右の装飾図柄を全て同一図柄となるように同期して変動表示する状態）するか否かの抽選処理に供されるリーチ乱数、上記特別乱数に基づいて大当りとすると判定された場合に大当りの種類を決定するための抽選処理に供される図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）、上記第二始動口扉２４１１の動作契機となる当りの当落にかかる抽選処理に供される乱数（普通乱数）等々、といった乱数を保持する乱数カウンタを備えている。

【１００９】

なお、本例では第一特別図柄と第二特別図柄とで共通のリーチ乱数を用いるように、すなわち第一始動口２００２に始動入賞した場合であっても、第二始動口２００４に始動入賞した場合であっても、リーチ乱数を更新する同一のカウンタからリーチ乱数を取得するように構成しているが、リーチ乱数を更新する乱数の範囲が異なるカウンタから取得することによりリーチ演出の実行割合を異ならせるようにしてもよいし、取得したリーチ乱数と比較するリーチ判定テーブルとして第一特別図柄に対応する第一リーチ判定テーブルと、第二特別図柄と対応し、第一リーチ判定テーブルとは異なる判定値が設定される第二リーチ判定テーブルとを備えることによりリーチ演出の実行割合を異ならせるようにしてもよい。

【１０１０】

このステップＳ２の処理では、これら乱数のうちの当落に関わらない乱数（変動乱数）のみが更新されるかたちで当該乱数カウンタのカウンタ操作が行われることとなる。なお、こうしてステップＳ１及びＳ２の処理が行われた後は、上記ステップＳ２の処理のみが基本的に繰り返し行われる。ただし、この実施の形態では、例えば４ｍｓ毎に以下のタイマ割込制御が行われる。

【１０１１】

図１６７（ｂ）は、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａによって定期的に行われるタイマ割込制御についてその処理手順を示すフローチャートである。

【１０１２】

同図１６７（ｂ）に示されるように、この割込制御ではまず、ステップＳ１１の処理として、レジスタの退避処理が行われる。次いで、ステップＳ１２の処理として、上記ゲートセンサ２４０１、上記第一始動口センサ３１１２、上記第二始動口センサ４００４、上

記第一大入賞口センサ４００５、上記第二大入賞口センサ２４０２、上記第一受入口センサ２４３４、上記第二受入口センサ２４３５、上記一般入賞口センサ３１１１など、各種のスイッチからの検出信号が入力される。そして次に、ステップＳ１３の処理として、上記乱数を発生させる乱数カウンタの値を更新するための乱数更新処理が行われる。なお、このステップＳ１３の処理では、上述の乱数のうち、上記特別図柄及び上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（特別乱数、普通乱数）が更新されるかたちで上記乱数カウンタのカウンタ操作が行われる。

【１０１３】

そして、こうして乱数の更新が行われた後、当該主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１４の処理として、上記特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む特別図柄プロセス処理を実行する。なお、この特別図柄プロセス処理については後述するが、ここでは、基本的に、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている遊技の進行状況を示す特別図柄プロセスフラグ（第一特別図柄プロセスフラグ、第二特別図柄プロセスフラグ）に基づいて該当する処理が選択的に実行されることとなる。

【１０１４】

そして次に、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１５の処理として、上記第二始動口扉２４１１の動作契機となる当りの当落にかかる抽選処理を含む普通図柄プロセス処理を実行する。なお、この普通図柄プロセス処理でも、基本的に、遊技の進行状況を示す普通図柄プロセスフラグに従って該当する処理が選択的に実行されることとなる。また、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当り遊技状態の終了後の所定期間内は、上記第二始動口扉２４１１の駆動頻度がより高くなるように当該抽選処理を実行する構成となっている（いわゆる時短状態）。なお、この実施の形態では、上記大当り遊技状態の終了後の所定期間内だけ上記普通図柄の当選確率を高くするとともに、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間を短縮し、上記普通図柄の抽選結果が当りとなったときには、上記第二始動口扉２４１１の開放時間を延長することによって、こうした時短状態を実現するようにしている。

【１０１５】

また、上記特別図柄プロセス処理（ステップＳ１４）及び普通図柄プロセス処理（ステップＳ１５）が行われると、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、次にステップＳ１６の処理として、同特別図柄プロセス処理にて主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの所定の領域に設定されたコマンドを上記周辺制御基板１５１０などに送信する処理を行う。次いで、ステップＳ１７の処理として、上記普通図柄プロセス処理にて同じくＲＡＭの所定の領域に設定されたコマンドを例えば上記周辺制御基板１５１０などに送信する処理を行う。

【１０１６】

また、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、次にステップＳ１８の処理として、例えばホール管理用コンピュータに供給される当り情報（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）などのデータを出力する情報出力処理を行う。

【１０１７】

そして次に、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１９の処理として、上記第一始動口センサ３１１２、上記第二始動口センサ４００４、上記第一大入賞口センサ４００５、上記第二大入賞口センサ２４０２、上記一般入賞口センサ３１１１などの検出信号がオン状態にあるときは、それら信号に応じた賞球が遊技者に払い出されるよう上記払出制御基板９５１に払出制御コマンドを出力する。これにより、上記払出制御基板９５１に搭載される払出制御ＭＰＵ９５２ａは、払出モータ駆動回路９５２ｄから払出モータ８３４に駆動信号を出力し、遊技者に賞球を払い出すようになる。

【１０１８】

また、同主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、次にステップＳ２０の処理として、始動記憶数の増減をチェックする記憶処理を実行する。次いで、ステップＳ２１

の処理として、パチンコ機１の制御状態を遊技機外部で確認できるようにするための試験信号を出力する処理である試験端子処理を実行する。そしてその後、常時動作するアクチュエータの駆動制御を行うとともに（ステップＳ２２）、上記レジスタの内容を復帰させ（ステップＳ２３）、割込許可状態に設定した時点で（ステップＳ２４）、この制御が終了することとなる。

【１０１９】

以上の制御によって、この実施の形態では、遊技制御処理は４ｍｓ毎に起動されることになる。なお、この実施の形態では、タイマによる割込処理によって遊技制御処理を実行することとしたが、当該割込処理では例えば割り込みが発生したことを示すフラグのセットのみを行うようにしてもよい。ただしこの場合、遊技制御処理をメイン処理にて実行することとなる。

【１０２０】

図１６８は、上記特別図柄プロセス処理（ステップＳ１４）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０２１】

いま、各種の抽選処理に供される乱数が更新されたとすると（ステップＳ１３）、同図１６８に示されるように、この主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａはまず、上記第一始動口センサ３１１２による検出信号がオン状態（第一始動口２００２への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ３１）、第一特別図柄の第一特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第一始動口通過処理を実行する（ステップＳ３２）。また、上記第二始動口センサ４００４による検出信号がオン状態（第二始動口２００４への入球あり）にあることを条件に（ステップＳ３３）、第二特別図柄の第二特別乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの第二特別図柄保留記憶領域に格納するなどの第二始動口通過処理を実行する（ステップＳ３４）。

【１０２２】

次いで、大当り遊技状態に制御している旨を示す大当り実行中フラグがセットされているか否かを判別し（ステップＳ３５）、大当り実行中フラグがセットされていれば、大当り遊技状態の制御を行う大当り制御処理（ステップＳ３９）を実行する。なお、大当り制御処理では、特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示停止時における表示態様についての抽選処理の結果が「１５Ｒ大当りＡ」を示唆する態様となったときに、１５Ｒ大当り遊技状態Ａに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御し、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第一受入口２４３１または第二受入口２４３２のいずれかに振り分ける振分片２４３３を駆動制御し、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち第二受入口２４３２に遊技球を振り分けることが可能な１ラウンド目に有効状態に設定する処理を実行する。また、「１５Ｒ大当りＢ」を示唆する態様となったときに、１５Ｒ大当り遊技状態Ｂに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御し、第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第一受入口２４３１または第二受入口２４３２のいずれかに振り分ける振分片２４３３を駆動制御し、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち第二受入口２４３２に遊技球を振り分けることが可能な１ラウンド目に有効状態に設定する処理を実行する。

【１０２３】

ここで、「有効状態」及び「無効状態」について説明する。先ず、本実施形態では、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるときの状態として、「有効状態」を有している。ここで、「有効状態」は、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち第二受入口２４３２に遊技球を振り分けることが可能な１ラウンド目において、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容される（有効化される）状態である。よって、「有効状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることによって、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることとなる。また、本実施形態では、第二受入口２４３２に遊技球が

受け入れられることがない状態として、「有効状態」とは異なる「無効状態」を有している。ここで、「無効状態」は、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち第一受入口２４３１に遊技球を振り分ける２，３ラウンド目や第一大入賞口２００５を開放する４～１５ラウンド目など、原則として第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることがない状態であり、仮に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたとしても大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することが許容されない（無効化される）状態である。よって、「無効状態」で第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられても、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御されることはない。また、「無効状態」は、不正行為などの異常が発生することにより第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合において、そのような異常発生に関する情報をホール管理側に通知可能とするため、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かについて監視される期間とされている。なお、本実施形態では、第二受入口２４３２に遊技球を振り分けることを可能とする所定のラウンド（１ラウンド目）には「有効状態」に設定するようにし、第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたときには必ず、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御するようにしている。また、第二受入口２４３２に遊技球を振り分けることがない所定のラウンド（２～１５ラウンド目）には「無効状態」に設定しているが、「有効状態」に設定してもよい。このように大当り遊技状態中の全てのラウンドで「有効状態」に設定したとしても、２～１５ラウンド目には原則として第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることがないため、２～１５ラウンド目に「無効状態」に設定する場合と同じく、「有効状態」に設定した１ラウンド目に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられるか否かが重要となっている。

【１０２４】

また、大当り制御処理（ステップＳ４１）では、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６の開放制御を行った後、高確率フラグ、時短フラグ、及び時短回数カウンタの各セット処理を実行する。高確率フラグは、高確率状態であることを示すフラグである。大当り（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいた大当り遊技状態の実行中において、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち第二受入口２４３２に遊技球を振り分けることが可能な１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態（高確率時短状態）に制御することから高確率フラグがセットされるが、その１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に高確率状態（高確率時短状態）に制御しないことから高確率フラグがセットされない。そして、高確率フラグがセットされた場合には、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウンタ値が「０」になったときに後述する図１７８に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理で高確率フラグがリセットされる。

【１０２５】

また、時短フラグは、時短状態であることを示すフラグであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態（高確率時短状態、低確率時短状態）に制御する大当り（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいた大当り遊技状態を終了するときにセットされる。そして、時短フラグは、次に大当りとなったとき、又は時短回数カウンタのカウンタ値が「０」になったときに後述する図１７８に示す第一特別図柄停止処理又は図示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる。

【１０２６】

また、時短回数カウンタは、時短状態の継続回数としての特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示の残り回数を示すカウンタであり、大当り遊技状態の終了後に時短状態（高確率時短状態、低確率時短状態）に制御する大当り（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に基づいた大当り遊技状態を終了するときに、その時短状態の継続回数がセットされる、そして、時短回数カウンタは、そのカウンタ値が「０」になるまで特別図柄の変動表示を実行するごとにカウントダウンされるが、カウンタ値が「０」になるよりも前に次の大当りとなったときには、後述する図１７８に示す第一特別図柄停止処理又は図

示しない第二特別図柄停止処理でリセットされる（カウンタ値を「０」に戻す）。
【１０２７】
また、大当り実行中フラグがセットされていなければ、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」であることを条件に（ステップＳ３６）、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第一特別図柄プロセス処理を実行し（ステップＳ３７）、第二特別図柄保留記憶領域に記憶される第二特別乱数の個数を示す第二特別保留数カウンタの値が「０」でないことを条件に（ステップＳ３６）、第二特別図柄の変動表示停止時における表示態様にかかる抽選処理を含む第二特別図柄プロセス処理を実行する（ステップＳ３８）。このようにこの例では、第二特別保留数カウンタの値が「０」でないときには第二特別図柄の変動表示を優先的に実行するように構成されている。
【１０２８】
図１６９は、上記第一始動口通過処理（ステップＳ３２）についてその手順を示すフローチャートである。
【１０２９】
いま、上記ステップＳ３１の処理において、上記第一始動口センサ３１１２がオン状態にあり、上記第一始動口２００２への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図１６９に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ４１の処理として、まず、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて上述の第一特別図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。
【１０３０】
このステップＳ４１の処理において、上記第一特別図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ４２～Ｓ４４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ４２の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ４３の処理として、上記第一特別乱数、上記リーチ乱数、上記第一図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ４４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第一特別図柄保留記憶領域に格納する。
【１０３１】
ただし、上記ステップＳ４１の処理において、上記第一特別図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記第一特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ４２～ステップＳ４４の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第一特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。
【１０３２】
図１７０は、上記第二始動口通過処理（ステップＳ３４）についてその手順を示すフローチャートである。
【１０３３】
いま、上記ステップＳ３３の処理において、上記第二始動口センサ２５９３がオン状態にあり、上記第二始動口２００４への遊技球の入球があったと判断されたとすると、同図１７０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ５１の処理として、まず、上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて上述の第二特別図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。
【１０３４】
このステップＳ５１の処理において、上記第二特別図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ５２～Ｓ５４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ

５２の処理として、上記第二特別保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ５３の処理として、上記第二特別乱数、上記リーチ乱数、上記第二図柄乱数、上記変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ５４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記第二特別保留数カウンタによるカウンタ値に対応する第二特別図柄保留記憶領域に格納する。

【１０３５】

ただし、上記ステップＳ５１の処理において、上記第二特別図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記第二特別図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ５２～ステップＳ５４の処理を実行することなく処理を終了することで、上記第二特別図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【１０３６】

図１７１は、第一特別図柄プロセス処理（ステップＳ３７）についてその手順を示すフローチャートである。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ３７で実行される第一特別図柄プロセス処理と特別図柄プロセス処理のステップＳ３８で実行される第二特別図柄プロセス処理とは同様のプログラムモジュールであり、判定に用いる乱数やテーブルが異なるだけであるため、ここでは特別図柄プロセス処理のステップＳ３７で実行される第一特別図柄プロセス処理についてのみ説明する。第一特別図柄プロセス処理では、上述の第一特別図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行することとなる。

【１０３７】

１．主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている第一特別乱数を読み出し、読み出した第一特別乱数に基づいて上記第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる第一特別図柄通常処理（ステップＳ８０）

２．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて第一特別図柄の変動制御停止時の態様の決定処理などが行われる第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ８１）

３．変動乱数に基づいて上記第一特別図柄表示器１４０３に表示される第一特別図柄の変動態様や、上記メイン演出表示装置１６００に特別図柄に対応して実行される演出表示の変動態様についての抽選処理などが行われる第一変動パターン設定処理（ステップＳ８２）

４．第一特別図柄表示器１４０３における上記第一特別図柄の変動表示が停止されるまで待機する第一特別図柄変動処理（ステップＳ８３）

５．第一特別図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された第一特別図柄の変動制御停止時の態様が上記第一特別図柄表示器１４０３に表示されるように上記第一特別図柄の変動表示を停止させる第一特別図柄停止処理（ステップＳ８４）

【１０３８】

なお、上記第一特別図柄プロセスフラグは、上述のステップＳ１の処理（図１６７参照）において、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ８０）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【１０３９】

図１７２は、上記第一特別図柄通常処理（ステップＳ８０）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０４０】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図１７２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ１０１の処理として、上記第一特別保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある第一特別図柄の変動表示制御があると判断された場合に

は、次にステップＳ１０２の処理として、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域に格納されている第一特別図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ１０３及びＳ１０４の処理として、上記第一特別保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの第一特別図柄保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（第一特別乱数、第一図柄乱数、リーチ乱数、変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。

【１０４１】

具体的には、第一特別図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、始動入賞の発生に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に始動入賞が発生するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記第一特別図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【１０４２】

そしてその後、ステップＳ１０５の処理として、上記読み出された第一特別図柄の第一特別乱数に基づいて上記大当りの当落についての抽選処理である大当り判定処理を行う。その後、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ８１）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ１０６）、この処理を終了する。

【１０４３】

図１７３は、上記大当り判定処理（ステップＳ１０５）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０４４】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、現在の遊技状態が高確率状態（高確率時短状態、高確率非時短状態）であれば（ステップＳ１１１）、図１７４（Ａ）に示す高確率時の大当り判定テーブルを選択し（ステップＳ１１２）、現在の遊技状態が低確率状態であれば（ステップＳ１１１）、図１７４（Ａ）に示す低確率時の大当り判定テーブルを選択し（ステップＳ１１３）、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一特別乱数とを比較する（ステップＳ１１４）。

【１０４５】

図１７４（Ａ）に示す大当り判定テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭ４１００ｄに記憶され、遊技状態が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の場合に使用する低確率時の大当り判定テーブルと、遊技状態が高確率時（高確率時短状態）の場合に使用する高確率時の大当り判定テーブルと、を備えている。そして、低確率時の大当り判定テーブルでは、１種類の第一特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、２９９種類の第一特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当り確率：３００分の１）。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ３８で実行される第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される低確率時の大当り判定テーブルでは、第一特別乱数と比較するために参照される低確率時の大当り判定テーブルと同様に、１種類の第二特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、２９９種類の第二特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている（低確率時の大当り確率：３００分の１）。

【１０４６】
また、高確率時の大当り判定テーブルでは、低確率時の大当り判定テーブルに設定される第一特別乱数と同一の第一特別乱数を含む１０種類の第一特別乱数が大当り判定値と一致し、２９０種類の第一特別乱数がはずれ判定値と一致するように上記第一特別乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当り確率：３０分の１）。このように、この実施の形態では、高確率状態（高確率時短状態）では、大当りに当選したことを示す大当り判定値が低確率時（通常状態（低確率非時短状態）及び時短状態（低確率時短状態））の１０倍に高められる。なお、特別図柄プロセス処理のステップＳ３８で実行される第二特別図柄プロセス処理内において、第二特別乱数と比較するために参照される高確率時の大当り判定テーブルでは、第一特別乱数と比較するために参照される高確率時の大当り判定テーブルと同様に、低確率時の大当り判定テーブルに設定される第二特別乱数と同一の第二特別乱数を含む１０種類の第二特別乱数が大当りに当選したことを示す大当り判定値と一致し、２９０種類の第二特別乱数が上記はずれであることを示すはずれ判定値と一致するように上記第二特別乱数がそれぞれ関連付けされている（高確率時の大当り確率：３０分の１）。

【１０４７】
上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一特別乱数との比較の結果、大当りとすると判定した場合には（ステップＳ１１５）、当該変動が大当りに当選していることを示す大当りフラグをセットして処理を終了し（ステップＳ１１６）、選択した大当り判定テーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一特別乱数との比較の結果、はずれとすると判定した場合には、図示しないリーチ判定テーブルとステップＳ１０２で読み出したリーチ乱数とを比較する（ステップＳ１１７）。そして、リーチ判定テーブルとステップＳ１０２で読み出したリーチ乱数との比較の結果、リーチはずれとすると判定した場合には（ステップＳ１１８）、当該変動がリーチとなることを示すリーチフラグをセットして処理を終了する（ステップＳ１１９）。

【１０４８】
図１７５は、上記第一特別図柄停止図柄設定処理（ステップＳ８１）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０４９】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止図柄設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図１７５に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、第一特別図柄の変動表示停止時における表示態様の抽選処理の結果、すなわち上記大当り判定処理（ステップＳ１０５）の結果を判別する。抽選処理結果の判別は、大当りフラグがセットされているか否か（ステップＳ１２１）を判別することにより行う。

【１０５０】
主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ１２１で大当りフラグがセットされていれば、第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した第一図柄乱数と図１７４（Ｂ）に示す図柄決定テーブルとを比較することにより（ステップＳ１２２）、大当りの種類を決定し、該決定した大当りの種類に対応する第一特別図柄の変動制御停止時の態様（第一特別図柄の停止図柄）を決定する（ステップＳ１２３）。一方、ステップＳ１２１で大当りフラグがセットされていなければ、第一特別図柄の変動停止時の態様としてはずれ図柄に決定する（ステップＳ１２４）。

【１０５１】
図１７４（Ｂ）に示すように、図柄決定テーブルには、判定結果毎（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）が関連付けされるかたちで記憶されている。主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａでは、取得した図柄乱数に対応して関連付けされている判定結果を特定することにより、大当りの種類を決定する。なお、本例の図柄決定テーブルでは、第一図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類

の決定確率と第二図柄乱数に基づいて決定される大当りの種類の決定確率とが異なるように設定している。

【１０５２】

具体的には、

１．１５Ｒ大当り遊技状態Ａに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御するものであって、１ラウンド目で第二大入賞口２００６を短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）及び長時間開放（遊技球が入球可能（容易）な開放。例えば、２０秒）するときに有効状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＡ

２．１５Ｒ大当り遊技状態Ｂに応じて第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御するものであって、１ラウンド目で第二大入賞口２００６を短時間開放（遊技球が入球困難な開放。例えば、０．５秒）するときに有効状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定し、１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで高確率時短状態に制御する一方、１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった場合には、大当り遊技状態の終了後に特別図柄（第一特別図柄及び第二特別図柄）の変動表示が１００回実行されるまで低確率時短状態に制御する１５Ｒ大当りＢ、の２種類の大当りの中からいずれかの大当りに決定する。

【１０５３】

本例では、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルとを備えている。そして、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルでは、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルと比べて判定値の振分けが異なるように設定されており、各々の大当りの決定割合が異なるようにしている。具体的には、図１７４（Ｂ）に示すように、第一特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいて、１５Ｒ大当りＡ及び１５Ｒ大当りＢのうち、遊技者に比較的有利な１５Ｒ大当りＡ（１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が高く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が高い大当り）に対して５０個の判定値の振分けが設定されているのに対し、遊技者に比較的不利な１５Ｒ大当りＢ（１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられる確率が低く、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御する確率が低い大当り）に対して５０個の判定値の振分けが設定されている。一方、第二特別図柄に対応する図柄決定テーブルにおいては、１５Ｒ大当りＡ及び１５Ｒ大当りＢのうち、遊技者に比較的有利な１５Ｒ大当りＡに対してのみ判定値の振分けが設定されている。このように、第一特別図柄側の大当り時には、遊技者の有利度合いが異なる１５Ｒ大当りＡ又は１５Ｒ大当りＢのいずれかを決定することから、初大当り時にどのような大当りの種類が決定されるかに注目させることができる。また、大当り遊技状態の終了後に制御される時短状態では、第二特別図柄側の遊技（第二始動口２００４への遊技球の入球を可能とする遊技）が行われるが、第二特別図柄側の大当り時には、必ず１５Ｒ大当り遊技Ａに決定することから、連荘時にどの程度の賞球量を獲得することができるかだけに注目させることができる。したがって、初大当り時と連荘時とでゲーム性が変化するため、遊技が単調とはならない。

【１０５４】

また、大当りの種類を決定すると大当りの種類に応じた停止図柄を第一特別図柄の停止

時の態様として決定する。具体的には、１５Ｒ大当りＡに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＡ図柄に決定し、１５Ｒ大当りＢに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＢ図柄に決定する。なお、図示しない第二特別図柄停止図柄設定処理において、１５Ｒ大当りＡに決定した場合には大当り図柄として１５Ｒ大当りＡ図柄に決定する。

【１０５５】

そして、こうして停止図柄についての決定処理が行われた後は、ステップＳ１２５の処理として、これら抽選結果（大当りの種類、リーチはずれ、はずれのいずれかを指示（第一特別図柄の停止図柄の態様を指示するものであってもよい））が上記周辺制御基板１５１０に送信されるよう抽選結果それぞれに応じた判定結果通知コマンドをセットする。そしてその後は、ステップＳ１２６の処理として、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ８２）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、受信した判定結果通知コマンド及び変動パターンコマンドに基づいて左・中・右の装飾図柄の変動表示を開始し、左装飾図柄→右装飾図柄→中装飾図柄の順序で停止表示するようにメイン演出表示装置１６００を表示制御する。

【１０５６】

具体的には、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、メイン演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドから第一特別図柄に関連した大当りのうち１５Ｒ大当りＡを特定した場合には１５Ｒ大当りＡ図柄（同一の装飾図柄の組合せ）に決定し、１５Ｒ大当りＢを特定した場合には１５Ｒ大当りＢ図柄（１５Ｒ大当りＡ図柄と共通）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（リーチ演出の終了時）においてその決定された停止図柄をメイン演出表示装置１６００に表示制御する。このように、メイン演出表示装置１６００に表示される装飾図柄が１５Ｒ大当りＡ図柄または１５Ｒ大当りＢ図柄のいずれかで変動停止されたときには、その装飾図柄の停止図柄から大当りであることを判別することができるが、１５Ｒ大当りＡ図柄及び１５Ｒ大当りＢ図柄として共通の図柄を用いているため、１５Ｒ大当りＡまたは１５Ｒ大当りＢのいずれかを判別することができない。

【１０５７】

また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、メイン演出表示装置１６００に表示される装飾図柄の変動停止時の態様（停止図柄）として、受信した判定結果通知コマンドからリーチはずれを特定した場合にはリーチを伴ったはずれ図柄（同一とはならない装飾図柄の組合せ。ただし左右の装飾図柄が同一）に決定し、はずれを特定した場合にはリーチを伴わないはずれ図柄（同一とはならない装飾図柄の組合せ。ただし左右の装飾図柄が非同一）に決定し、変動パターンコマンドから特定される変動時間の経過時（遊技演出の終了時）においてその決定された停止図柄をメイン演出表示装置１６００に表示制御する。

【１０５８】

図１７６は、上記第一変動パターン設定処理（ステップＳ８２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０５９】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一変動パターン設定処理を行うべき旨を示しているときは、同図１７６に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、大当りフラグがセットされていれば（ステップＳ１４１）、第一特別図柄停止図柄設定処理のステップＳ１２３で決定した大当りの種類、及び現在の遊技状態に応じた大当り時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ１４２）、リーチフラグがセットされていれば（ステップＳ１４３）、現在の遊技状態に応じたリーチ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ１４４）、大当りフラグとリーチフラグとのいずれもセットされていない場合、すなわち通常のはずれ（リーチ演出を実行しないはずれ）となる場合には、はずれ時の変動パターンテーブル（図示しない）を選択する（ステップＳ１４５）。

【１０６０】
そして、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した変動乱数とを比較することにより実行する変動パターンを決定し（ステップＳ１４６）、決定した変動パターンを開始することを周辺制御基板１５１０に通知する変動パターンコマンドをセットして第一特別図柄表示器１４０３に表示される第一特別図柄の変動表示を開始する（ステップＳ１４７）。また、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、変動パターンを決定すると決定した変動パターンに対応して設定されている変動時間を変動タイマに設定する（ステップＳ１４８）。これにより、こうして決定された変動時間だけ第一特別図柄表示器１４０３及び上記メイン演出表示装置１６００にて演出制御が行われるようになる。

【１０６１】
なお、本例の変動パターンテーブルは、特別乱数（第一特別乱数、第二特別乱数）及び図柄乱数（第一図柄乱数、第二図柄乱数）に基づく判定結果毎に複数種類設けられている。また、各変動パターンテーブルに設定される変動パターンには上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動表示制御に要する所定の時間（変動時間）を示す複数の変動時間情報が上記変動乱数にそれぞれ対応して関連付けされるかたちで記憶されている。しかして、主制御ＭＰＵ１３１０ａは、特別乱数及び図柄乱数に基づく判定結果に応じた複数種類の変動パターンテーブルのうち、選択した変動パターンテーブルと第一特別図柄通常処理のステップＳ１０２で読み出した変動乱数とを比較し、上記読み出した変動乱数に関連付けされている変動時間情報をこのテーブルから取得することで、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンを決定する。これにより、上記特別図柄（第一特別図柄、第二特別図柄）の変動パターンについての抽選処理が行われるようになる。なお、上記変動パターンテーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭに記憶されている。

【１０６２】
また、本例のリーチ時の変動パターンテーブルでは、いずれのリーチ演出を実行するかを示す判定値と変動乱数とを比較することにより実行するリーチ演出の態様種別を決定するように設定されている。例えば、リーチ演出のうちスーパーリーチ演出は、ノーマルリーチ演出よりも大当り期待度が高く、スーパーリーチ演出が実行されたときには、大当り遊技状態に対する遊技者の期待度が高まるようになっている。

【１０６３】
また、第一特別図柄の変動表示制御が開始されると、次にステップＳ１４９の処理として、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ８３）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

【１０６４】
本例では、はずれ時の変動パターンテーブルにおいて、時短時には１秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされる一方、非時短時には１２秒程度に設定された特別図柄の変動時間情報が上記特別図柄乱数（第一特別図柄、第二特別図柄）に関連付けされるかたちで、特別図柄の変動パターンが設定されている。すなわち、時短時に選択されるはずれ時の変動パターンには、非時短時に選択されるはずれ時の変動パターンと比べると、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間が極めて短時間となるよう、上記特別図柄の変動時間情報が設定されている。

【１０６５】
図１７７は、上記第一特別図柄変動処理（ステップＳ８３）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０６６】
上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄変動処理を行うべき旨を示しているときは、同図１７７に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ１７１の処理として、上記変動パターンについての抽選処理（

ステップＳ８２）で決定した変動パターンに応じた変動時間が設定される変動タイマを１減算する。そして、変動時間タイマが０、すなわち、上記抽選された変動時間が経過したと判断されると（ステップＳ１７２）、次にステップＳ１７３の処理に移行する。すなわち、このステップＳ１７３の処理において、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ８４）にプロセス移行されるよう上述の第一特別図柄プロセスフラグを更新した時点で、この処理を終了する。

【１０６７】

図１７８は、上記第一特別図柄停止処理（ステップＳ８４）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０６８】

上記第一特別図柄プロセスフラグが当該第一特別図柄停止処理を行うべき旨を示しているときは、同図１７８に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ１８１の処理として、上記第一特別図柄停止図柄設定処理にて決定された停止図柄を上記第一特別図柄表示器１４０３に表示させるための表示制御を行うとともに、上記メイン演出表示装置１６００に第一特別図柄の停止図柄に応じた装飾図柄の表示結果の導出表示を指示する停止表示コマンドを上記周辺制御基板１５１０へのコマンドとしてセットする（ステップＳ１８２）。

【１０６９】

次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記時短フラグがセットされているとともに、時短状態の継続回数がセットされる時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かを判断する（ステップＳ１８３）。そして、このカウンタ値が「０」でなければ、該時短回数カウンタをカウントダウンした後（ステップＳ１８４）、同時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であるか否かをさらに判断する（ステップＳ１８５）。そしてこの結果、同カウンタ値が「０」であれば、上記時短フラグをリセットし、さらに上記高確率フラグがセットされている場合には該高確率フラグをリセットする（ステップＳ１８６）。なお、上記ステップＳ１８３の処理にて時短回数カウンタのカウンタ値が「０」であると判断された場合や、上記ステップＳ１８５の処理にて時短回数カウンタが「０」でないと判断された場合には、その時点でステップＳ１８７の処理に移行する。

【１０７０】

また、上記大当りフラグがセットされているときは（ステップＳ１８７）、大当り遊技状態を開始することを示す大当り開始コマンドをセットし（ステップＳ１８８）、大当り遊技状態を開始（大当りラウンド開始コマンドをセット）するまでの待機時間（大当り遊技状態を開始する旨の表示等を行う期間）をインターバルタイマにセットする（ステップＳ１８９）。そして次に、上記高確率フラグがセットされている場合には該高確率フラグをリセットし、上記時短フラグがセットされている場合には該時短フラグをリセットし、さらに時短回数カウンタのカウンタ値が「０」でない場合には同カウンタ値をリセット（「０」に戻す）した後、大当り遊技状態の実行中であることを示す大当り実行中フラグをセットし（ステップＳ１９０）、第一特別図柄プロセスフラグを初期値である第一特別図柄通常処理にプロセス移行されるように更新した時点で（ステップＳ１９１）、この処理を終了する。

【１０７１】

なお、大当り開始コマンドは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドであり、大当りの種類（１５Ｒ大当りＡ、１５Ｒ大当りＢ）に応じて個々に用意されている。ステップＳ１８８では、大当りの種類に応じた大当り開始コマンド（１５Ｒ大当りＡ開始コマンド、１５Ｒ大当りＢ開始コマンド）をセットする。これにより、大当り開始コマンドによって指示された大当りの種類に応じた演出がメイン演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行される。

【１０７２】

図１７９は、上記大当り制御処理（ステップＳ３９）についてその手順を示すフローチ

ャートである。
【１０７３】
上記ステップＳ１８９では、大当り遊技状態を開始するまでの待機時間をインターバルタイマにセットしているが、ステップＳ４０１の処理において、このインターバルタイマにセットされた待機時間を経過した後には、同図１７９に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、第一大入賞口２００５及び第二大入賞口２００６を開閉制御するとともに、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち１ラウンド目に有効状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定する大入賞口開閉処理（ステップＳ４０２）と、第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち１ラウンド目に第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第二受入口２４３２に振り分けることが可能となるように振分片２４３３を駆動制御するとともに、１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かを監視する第二受入口開閉処理（ステップＳ４０３）と、を順に実行する。
【１０７４】
図１８０は、上記大入賞口開閉処理（ステップＳ４０２）についてその手順を示すフローチャートである。
【１０７５】
いま、ステップＳ４１１の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６が開放状態にあると判断されるとすると、同図１８０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記第一大入賞口２００５及び上記第二大入賞口２００６の動作スケジュールに従って、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６の開放状態から所定時間（例えば、長時間開放のときに２０秒、短時間開放のときに０．５秒）が経過したとき（ステップＳ４１２）、あるいは、開放状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６に遊技球が最大入賞数（例えば、９個）入賞したときには（ステップＳ４１３）、開放状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御する（ステップＳ４１４）。そして、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御することにより現在のラウンドを終了すると判断された場合には（ステップＳ４１５）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして大当りの種類及び現在のラウンド数に応じた大当りラウンド終了コマンドをセットし（ステップＳ４１６）、ステップＳ４２８に移行する。
【１０７６】
また、ステップＳ４１１の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６が閉鎖状態にあると判断されるとすると、同図１８０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記第一大入賞口２００５及び上記第二大入賞口２００６の動作スケジュールに従って、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態とするタイミングになったときには（ステップＳ４１７）、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御することにより新たなラウンドを開始すると判断された場合には（ステップＳ４１８）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして大当りの種類及び新たなラウンド数に応じた大当りラウンド開始コマンドをセットする（ステップＳ４１９）。そして、後述する上記第二受入口２４３２の状態設定スケジュールに従って、有効状態フラグをセットするタイミングであると判断された場合、すなわち、上記第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち１ラウンド目の開始時である場合には（ステップＳ４２０）、有効状態フラグをセットする（ステップＳ４２１）。なお、有効状態フラグがセットされている場合において、ステップＳ４２０で有効状態フラグをセットするタイミングではないと判断された場合、すなわち、２ラウンド目の開始時である場合には、有効状態フラグをリセットする必要がある。そして、閉鎖状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御し（ステップＳ４２２）、ステップＳ４２８に移行する

。なお、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御することにより新たなラウンドを開始することにならない（同じラウンド内における２回目の開放など）と判断された場合（ステップＳ４１８）、あるいは、有効状態フラグをセットするタイミングではないと判断された場合（１ラウンド目の開始時ではない場合）には（ステップＳ４２０）、閉鎖状態の上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態に制御し（ステップＳ４２２）、ステップＳ４２８に移行する。これにより、大当りラウンド開始コマンド及び大当りラウンド終了コマンドによって指示された大当りの種類及び現在のラウンド数に応じた演出をメイン演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行することができる。

【１０７７】

なお、有効状態フラグは、有効状態（第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられることにより大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することとなる状態）に設定された状態であることを示すフラグである。上記第二大入賞口２００６を開放する１～３ラウンド目のうち１ラウンド目では、後述する第二受入口開閉処理（ステップＳ４０３）で第二大入賞口２００６に受け入れられた遊技球を第一受入口２４３１または第二受入口２４３２のいずれかに振り分ける振分片２４３３を駆動制御することにより第二受入口２４３２に遊技球を受け入れ可能にするとともに、有効状態に設定するようにしている。

【１０７８】

また、ステップＳ４２８の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６に遊技球が受け入れられたと判断されるとすると、同図１８０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして大入賞口入球コマンドをセットし（ステップＳ４２９）、この処理を終了する。これにより、大入賞口入球コマンドが周辺制御基板１５１０側に送信されたときに、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６への遊技球の受け入れに応じた演出をメイン演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行することができる。

【１０７９】

また、ステップＳ４１７の処理において、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６を開放状態とするタイミングではないと判断されるとすると、同図１８０に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、上記第一大入賞口２００５又は上記第二大入賞口２００６の開放状態と閉鎖状態とを繰り返すことにより全てのラウンド数を終了したときには（ステップＳ４２３）、大当り実行中フラグをリセットする（ステップＳ４２４）。そして、後述する第二受入口通過フラグがセットされていると判断された場合には（ステップＳ４２５）、高確率フラグをセットし（ステップＳ４２６）、時短フラグをセットするとともに時短回数カウンタのカウンタ値に時短状態の継続回数として初期値（例えば、１００回）をセットした時点で（ステップＳ４２７）、この処理を終了する。なお、第二受入口通過フラグがセットされていないと判断された場合には（ステップＳ４２５）、高確率フラグをセットすることがなく、時短フラグをセットするとともに時短回数カウンタのカウンタ値に時短状態の継続回数として初期値（例えば、１００回）をセットした時点で（ステップＳ４２７）、この処理を終了する。このように、第二受入口通過フラグがセットされている（１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられた）と判断された場合には、高確率フラグ及び時短フラグをセットし、高確率時短状態に制御するが、第二受入口通過フラグがセットされていない（１ラウンド目での有効状態中に第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられなかった）と判断された場合には、時短フラグのみをセットし、低確率時短状態に制御するようになる。

【１０８０】

図１８１は、上記第二受入口開閉処理（ステップＳ４０３）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０８１】

いま、ステップＳ４３１の処理において、上記第二受入口２４３２が開放状態（振分片２４３３により第二受入口２４３２側に遊技球が振り分けられる状態）にあると判断されるとすると、同図１８１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記振分片２４３３の動作スケジュールに従って、上記第二受入口２４３２の開放状態から所定時間（例えば、長時間開放のときに１０秒、短時間開放のときに０．２秒）が経過したとき（ステップＳ４２３）、あるいは、上記第二大入賞口２００６を閉鎖状態に制御することにより現在のラウンド（１ラウンド目）を終了するときには（ステップＳ４３３）、開放状態の上記第二受入口２４３２を閉鎖状態（振分片２４３３により第一受入口２４３１側に遊技球が振り分けられる状態）に制御する（ステップＳ４３４）。

【１０８２】

また、ステップＳ４３１の処理において、上記第二受入口２４３２が閉鎖状態にあると判断されるとすると、同図１８１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、後述する上記振分片２４３３の動作スケジュールに従って、上記第二受入口２４３２を開放状態とするタイミングになったときには（ステップＳ４３５）、閉鎖状態の上記第二受入口２４３２を開放状態に制御する（ステップＳ４３６）。

【１０８３】

次に、ステップＳ４３７の処理において、開放状態の上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたと判断されるとすると、同図１８１に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、有効状態フラグのセット中で、１ラウンド目での有効状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたか否かを判断する（ステップＳ４３８）。そして、１ラウンド目での有効状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたと判断された場合には（ステップＳ４３８）、その１ラウンド目での有効状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられたことを示す第二受入口通過フラグがセットされていない場合に（ステップＳ４３９）該第二受入口通過フラグをセットし（ステップＳ４４０）、周辺制御基板１５１０に送信されるコマンドとして第二受入口通過コマンドをセットした時点で（ステップＳ４１１）、この処理を終了する。このように、１ラウンド目での有効状態中に上記第二受入口２４３２に遊技球が受け入れられない限りは、第二受入口通過フラグがセットされることがなく、ステップＳ４２６で高確率フラグがセットされないため、大当り遊技状態の終了後に高確率状態に制御することがない。また、第二受入口通過コマンドが周辺制御基板１５１０側に送信されたときに、上記第二受入口２４３２への遊技球の受け入れに応じた演出をメイン演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等により実行することができる。

【１０８４】

図１８２は、上記普通図柄プロセス処理（ステップＳ１５）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０８５】

いま、ステップＳ８０１の処理において、上記ゲートセンサ２４０１による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図１８２に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ８０２の処理として、まず、普通図柄の普通乱数を上記乱数カウンタから取得してこれをＲＡＭの普通図柄保留記憶領域に格納するなどのゲート部通過処理を実行する。

【１０８６】

次いで、普通図柄プロセス処理では、普通図柄プロセスフラグに応じて、以下の５つのプロセス処理の１つを選択的に実行する。

【１０８７】

１．主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭに格納されている普通乱数を読み出し、読み出した普通乱数に基づいて上記普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理などが行われる普通図柄通常処理（ステップＳ８０３）

２．普図変動乱数に基づいて上記普通図柄表示器１４０２に表示される普通図柄の変動態様（変動時間）についての抽選処理などが行われる普通図柄変動時間決定処理（ステップＳ８０４）
３．普通図柄表示器１４０２における上記普通図柄の変動表示が停止されるまで待機する普通図柄変動処理（ステップＳ８０５）
４．普通図柄の変動制御停止時における表示態様についての抽選処理の結果に基づいて決定された普通図柄の変動制御停止時の態様が上記普通図柄表示器１４０２に表示されるように上記普通図柄の変動表示を停止させる普通図柄停止処理（ステップＳ８０６）
５．普通図柄の変動制御停止時の態様についての抽選処理の結果が「普図当り」を示唆する態様となったとき、上記第二始動口扉２４１１が回動して第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御する処理を実行する普通電動役物開放処理（ステップＳ８０７）

【１０８８】
なお、上記普通図柄プロセスフラグは、上述のステップＳ１の処理（図１６７参照）において、上記普通図柄通常処理（ステップＳ８０３）を行うべき旨を示すよう操作されている。

【１０８９】
図１８３は、上記ゲート部通過処理（ステップＳ８０２）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０９０】
いま、上記ステップＳ８０１の処理において、上記ゲートセンサ２４０１による検出信号がオン状態にあり、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったと判断されたとすると、同図１８３に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、ステップＳ８１１の処理として、まず、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値を主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭから取得する。そして、このカウンタ値に基づいて普通図柄の保留数がその最大値である「４」であるか否かの判断を行う。

【１０９１】
このステップＳ８１１の処理において、上記普通図柄の保留数がその最大値でないと判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態とすべく、以下のステップＳ８１２～Ｓ８１４の処理を行うこととなる。すなわち、まず、上記ステップＳ８１２の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントアップ（１加算）する。次いで、ステップＳ８１３の処理として、上記普通乱数、上記普図変動乱数を上記乱数カウンタから取得する。そして次に、ステップＳ８１４の処理として、こうして取得された各乱数を、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの記憶領域のうちの上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に対応する普通図柄保留記憶領域に格納する。

【１０９２】
ただし、上記ステップＳ８１１の処理において、上記普通図柄の保留数がその最大値であると判断された場合には、上記普通図柄の変動表示制御は新たに保留されない。すなわち、ステップＳ８１２～ステップＳ８１４の処理を実行しないことで、上記普通図柄の変動表示制御を新たに保留の状態としない。

【１０９３】
図１８４は、上記普通図柄通常処理（ステップＳ８０３）についてその手順を示すフローチャートである。

【１０９４】
上記普通図柄プロセスフラグが当該普通図柄通常処理を行うべき旨を示しているときは、同図１８４に示されるように、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、まず、ステップＳ８２１の処理として、上記普通保留数カウンタによるカウンタ値に基づいて保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があるか否かの判断を行う。この結果、保留の状態にある普通図柄の変動表示制御があると判断された場合には、次にステップＳ８２２の処理として、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの普通図柄保留記憶領域に格納

されている普通図柄の表示態様に関わる乱数（例えば、普通乱数、普図変動乱数）のうちの最先の記憶領域に格納された乱数を同ＲＡＭから読み出す。そして次に、ステップＳ８２３及びＳ８２４の処理として、上記普通保留数カウンタをカウントダウンするとともに、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＡＭの普通保留記憶領域の各記憶領域に格納されている上記普通図柄の変動表示停止時における表示態様に関わる乱数（普通乱数、普図変動乱数）を先入れ先出し（Ｆｉｒｓｔ－Ｉｎ　Ｆｉｒｓｔ－Ｏｕｔ）の態様にてシフト操作する。

【１０９５】

具体的には、普通図柄保留記憶領域は１～４の４つの記憶領域を有し、上記ゲート部２００３への遊技球の通過に応じて抽出した乱数を１番目（最先）の領域から順に記憶する。そして、ｎ番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に乱数が記憶されている場合に上記ゲート部２００３に遊技球が通過するとｎ＋１番目（ｎ＝１～３）の記憶領域に抽出した乱数を記憶し、１番目の記憶領域に格納された乱数に基づく変動表示の開始条件が成立すると１番目の記憶領域に記憶されている各種乱数を読み出すとともにＮ番目（Ｎ＝２～４）の記憶領域に記憶されている各種乱数をＮ－１番目（Ｎ＝２～４）番目の記憶領域に移動させる。これにより、上記普通図柄の変動表示制御の保留が発生した順序を特定可能に記憶されるとともに最先の保留（最も先に発生した保留）から順に変動表示制御の保留が解除されるようになる。

【１０９６】

次いで、上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、現在の遊技状態が時短状態（低確率時短状態、高確率時短状態）であれば（ステップＳ８２６）、時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ８２６）、現在の遊技状態が非時短状態（低確率非時短状態）であれば（ステップＳ８２５）、非時短時の普図当り判定テーブル（図示しない）を選択し（ステップＳ８２７）、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ８２２で読み出した普通乱数とを比較する（ステップＳ８２８）。

【１０９７】

なお、普図当り判定テーブルは、上記主制御ＭＰＵ１３１０ａのＲＯＭに記憶され、遊技状態が時短時（低確率時短状態、高確率時短状態）の場合に使用する時短時の普図当り判定テーブルと、遊技状態が非時短時（低確率非時短状態）の場合に使用する非時短時の普図当り判定テーブルと、を備えている。そして、普通乱数と比較するために参照される時短時の普図当り判定テーブルでは、２５１種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致し、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致することがないように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、時短時では、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったとき、普図当りに必ず当選し、上記第二始動口扉２４１１が回動して第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御している。

【１０９８】

また、普通乱数と比較するために参照される非時短時の普図当り判定テーブルでは、２５１種類の全ての普通乱数が普図当りに当選したことを示す普図当り判定値と一致することがなく、普図はずれであることを示す普図はずれ判定値と一致するように上記普通乱数がそれぞれ関連付けされている。このように、非時短時では、上記ゲート部２００３への遊技球の通過があったとしても、普図当りに当選することがないため、上記第二始動口扉２４１１が回動して第二始動口２００４への遊技球の受入れを可能に制御することがない。

【１０９９】

上記主制御基板１３１０の主制御ＭＰＵ１３１０ａは、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ８２２で読み出した普通乱数との比較の結果、普図当りとすると判定した場合には（ステップＳ８２９）、当該変動が普図当りに当選していることを示す普図当りフラグをセットした後（ステップＳ８３０）、普通図柄の変動制御停止

時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図当り図柄を決定する（ステップＳ８３１）、一方、選択した普図当り判定テーブルと普通図柄通常処理のステップＳ８２２で読み出した普通乱数との比較の結果、はずれとすると判定した場合には、普通図柄の変動制御停止時の態様（普通図柄の停止図柄）としての普図はずれ図柄を決定する（ステップＳ８３２）。そしてその後、上記普通図柄変動時間決定処理（ステップＳ８０４）にプロセス移行されるよう上述の普通図柄プロセスフラグが更新された時点で（ステップＳ８３３）、この処理を終了する。

【１１００】

本例では、上記時短状態の制御において、上記普通図柄の当選確率を２５１／２５１に設定し、上記普通図柄の抽選結果が常に当りとなるとともに、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間を極端に短い所定時間（例えば、０．３秒）に短縮している。そして、上記普通図柄の抽選結果が当りとなったときには、上記第二始動口２００４を極端に長い所定時間（例えば、５．５秒）の間、開状態として閉鎖する開閉パターンで制御している。つまり、上記時短状態の制御中には、上記普通図柄の抽選結果が当りとなる確率が極めて高く、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間が一定で短く、上記第二始動口２００４の開状態の時間が長いこと等により、上記第二始動口２００４へ遊技球を入賞させることを格段に容易とし、上記第一始動口２００２よりも上記第二始動口２００４を狙ったほうが効率良く遊技球を入賞させることができる。なお、上記非時短状態の制御においては、上記普通図柄の当選確率を０／２５１に設定し、上記普通図柄の抽選結果が常に当りとなることがなく、上記第二始動口２００４を狙ったとしても上記第二始動口２００４に遊技球を入賞させることができない。

【１１０１】

上記したように、上記非時短状態の制御中には、上記第二始動口２００４を狙ったとしても上記第二始動口２００４に遊技球を入賞させることができないため、上記第一始動口２００２に遊技球が入賞するように、上記センター役物２５００の左側を狙って遊技球を発射（いわゆる「左打ち」）しなければならない。また、上記センター役物２５００の左側の遊技領域５ａ内には、適宜位置に所定のゲージ配列で複数の障害釘が遊技パネル１１００の前面に植設されており、遊技球がその障害釘に当接することで、遊技球に様々な動きが付与されて流下するようになっている。このため、上記第一始動口２００２を狙って上記センター役物２５００の左側に遊技球を打ち込んだとしても、上記第一始動口２００２に入賞するとは限らず、上記第一始動口２００２に入賞しなかった遊技球は、遊技領域５ａの左右方向中央下端に設けられたアウト口１１２６から外部に排出される。

【１１０２】

一方、上記時短状態の制御中には、上記第一始動口２００２よりも上記第二始動口２００４を狙ったほうが効率良く遊技球を入賞させることができるため、上記第二始動口２００４に遊技球が入賞するように、上記センター役物２５００の右側を狙って遊技球を発射（いわゆる「右打ち」）しなければならない。また、遊技盤５の構造上、上記第二始動口２００４を開放したときに、上記第二始動口２００４を狙って上記センター役物２５００の右側に遊技球を打ち込むと、上記ゲート部２００３を通過した遊技球が、上記第二始動口２００４に極めて高い確率で入賞するようになっている。このため、上記時短状態の制御中では、上記センター役物２５００の右側に打ち込んだ遊技球が無駄となる（アウト口１１２６またはサブアウト口２００７から外部に排出される）ことが殆どなく、上記非時短状態の制御中における上記第一始動口２００２と比べて、遊技球が極めて効率良く上記第二始動口２００４に入賞するようになる。

【１１０３】

また、上記時短状態の制御中には、遊技盤５の構造に加え、上記ゲート部２００３を通過したときに、上記普通図柄の抽選結果が当りとなる確率が極めて高く、上記普通図柄の変動表示制御に要する時間が一定で短く、上記第二始動口２００４の開放状態の時間が長いこと等により、上記第二始動口２００４へ遊技球が入賞しやすく、さらに、上記第二始動口２００４へ遊技球が入賞したときに、上記特別図柄の変動表示制御に要する時間を１

秒程度とし、上記非時短状態の制御中における１０～１２０秒の範囲と比べて極めて短くなるため、短時間で上記特別図柄の変動表示制御（上記特別図柄の変動表示制御の保留）を消化することができる。すなわち、大当り遊技状態の終了後に上記時短状態に制御した場合には、上記第二始動口２００４を狙って上記センター役物２５００の右側に遊技球を打ち込むことで、短時間で再び大当りとなって大当り遊技状態に制御し、多くの遊技球の獲得を期待することができる。なお、上記したように本実施形態では、上記第二始動口２００４への遊技球の入賞により払出される遊技球の数を、１個としているので、上記第二始動口２００４への遊技球の入賞が頻繁に起きたとしても、遊技者の興趣を高めつつ遊技ホール側の負担を軽減させることができる。

【１１０４】

［９．周辺制御基板の制御処理］

次に、周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａによって実行される処理について説明する。図１８５は、当該パチンコ機１に電源が投入されるとき、上記周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａによって行われる制御についてその処理手順を示すフローチャートである。

【１１０５】

図１８５に示すように、パチンコ機１への電力供給が開始されると、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、初期設定処理を行う（ステップＳ５０１）。この初期設定処理は、周辺制御基板１５１０に搭載される周辺制御ＭＰＵ１５１１ａのＲＡＭをクリアする処理等が行われる。なお、この初期設定処理中では割込禁止となっており、初期設定処理のあと割込許可となる。初期設定処理（ステップＳ５０１）が終了すると、１６ｍｓ経過フラグＴがセットされたか否かを監視するループ処理を開始する（ステップＳ５０２）。

【１１０６】

この実施の形態では、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、２ｍｓ経過毎に割込を発生させ、２ｍｓ定常処理を実行する。２ｍｓ定常処理では、１６ｍｓ経過監視カウンタをカウントアップする（１６ｍｓ経過監視カウンタを１加算する）処理が実行され、１６ｍｓ経過監視カウンタの値が８になったとき、すなわち、１６ｍｓ経過したときに１６ｍｓ経過フラグＴをセットするとともに、１６ｍｓ経過監視カウンタをリセット（０にする）処理が実行される。このように、１６ｍｓ経過フラグＴは、２ｍｓ定常処理にて１６ｍｓ毎に「１」に設定（セット）され、通常は「０」に設定（リセット）されている。ステップＳ５０２で１６ｍｓ経過フラグがセットされている（１６ｍｓ経過フラグＴが「１」）ときには、１６ｍｓ経過フラグをリセットした後（ステップＳ５０３）、１６ｍｓ定常処理を行う（ステップＳ５０４）。

【１１０７】

この１６ｍｓ定常処理では、主制御基板１３１０から受信したコマンドにもとづいてメイン演出表示装置１６００、ランプ・ＬＥＤ及びスピーカ等を制御する処理が実行される。１６ｍｓ定常処理を終了すると、再びステップＳ５０２に戻り、１６ｍｓ経過フラグＴがセットされる毎に、つまり１６ｍｓ毎に上述したステップＳ５０３～ステップＳ５０４を繰り返し行う。一方、ステップＳ５０２で１６ｍｓ経過フラグＴがセットされていない（１６ｍｓ経過フラグＴが「０」）ときには、１６ｍｓ経過フラグＴがセットされるまでループ処理を行う。

【１１０８】

図１８６は、サブメイン処理にて１６ｍｓ毎に実行される１６ｍｓ定常処理の一例を示すフローチャートである。１６ｍｓ定常処理において、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、ステップＳ６０１～ステップＳ６０６の処理を実行する。ステップＳ６０１のコマンド解析処理では、主制御基板１３１０から受信したコマンドを解析する。ステップＳ６０２の演出制御処理では、変動パターン設定処理（第一変動パターン設定処理のステップＳ１４７、第二特別図柄プロセス処理の第一変動パターン設定処理に対応する処理（第二変動パターン設定処理））でセットされることにより送信された変動パターンコマンドを受信したことにもとづいてメイン演出表示装置１６００に関わる制御処理を実行する。

【１１０９】
また、ステップＳ６０３の音制御処理では、スピーカ等に関わる制御処理を実行する。ステップＳ６０４のランプ制御処理では、パチンコ機１に設けられたランプ・ＬＥＤに関わる制御処理を実行する。ステップＳ６０５の情報出力処理では、ランプ駆動基板４０１７にランプ・ＬＥＤの点灯信号を送信する処理などを実行する。ステップＳ６０６の乱数更新処理では、演出制御処理（ステップＳ６０２）で各種設定に用いられる乱数（例えば先読み乱数）を更新する処理を実行する。
【１１１０】
なお、１６ｍｓ定常処理におけるステップＳ６０１～ステップＳ６０６の処理は１６ｍｓ以内に終了する。仮に、１６ｍｓ定常処理を開始してから当該１６ｍｓ定常処理の終了までに１６ｍｓ以上かかったとしても、１６ｍｓ定常処理を開始してから１６ｍｓ経過したときに直ぐに１６ｍｓ定常処理を最初から（ステップＳ６０１のコマンド解析処理から）実行しない。すなわち、１６ｍｓ定常処理の実行中に１６ｍｓ経過したときには、１６ｍｓ経過フラグのセットのみを行い、当該１６ｍｓ定常処理の終了後にステップＳ５０２で１６ｍｓ経過フラグがセットされていると判定されたときに１６ｍｓ定常処理を開始する。
【１１１１】
また、この実施の形態では、１６ｍｓ定常処理にて乱数更新処理（ステップＳ６０６）を実行して各種乱数を更新するように構成しているが、各種乱数を更新する時期（タイミング）はこれに限られるものではない。例えば、サブメイン処理におけるループ処理および１６ｍｓ定常処理のいずれか一方または両方にて各種乱数を更新するように構成してもよい。
【１１１２】
［１０．変形例１］
上記した例では、図１６５に示すようにメイン演出表示装置１６００の前方に裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を移動させた状態でこれらの装飾体を発光装飾させ、更にセンター役物２５００の外周外側に設けられる裏前上左装飾体３１１２、裏前下中装飾体３１６８、裏下左装飾体３２５３、裏下右装飾体３２６３、を所定の色（例えば、白色）で発光装飾させると共に、サブ演出表示装置３２４０に中装飾部３２５３ａ及び中装飾部３２６３ａと同色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させることで、遊技領域５ａ内の略全高に亘る大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せるように構成したが、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが特定の変動パターンコマンドを受信した場合に、メイン演出表示装置１６００の前方に裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４を移動させることなく、裏左装飾体３３５４及び裏右装飾体３４５４に替えてメイン演出表示装置１６００の前方に設けられる導光板（第一導光板３１３５、第二導光板３１３６）を所定の絵柄で発光装飾して、センター役物２５００の外周外側に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と一体的な発光装飾を実現するようにしてもよい。
【１１１３】
メイン演出表示装置１６００で装飾図柄の変動表示が実行されている間の所定のタイミング（スケジューラデータに基づく特定タイミング、例えばリーチ演出を実行するタイミングやリーチ演出における所定のタイミング）が到来すると、「導光板（第一導光板３１３５、第二導光板３１３６）と、センター役物２５００の外周外側に設けられる装飾体等及び扉枠３の所定部位等の一方又は両方と、を同色で同時に発光制御する特定発光演出パターン」に基づいて、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが導光板と、センター役物２５００の外周外側に設けられる装飾体等及び扉枠３の所定部位等の一方又は両方とを発光制御して行う発光演出について、図１８７乃至図１９１を参照して詳細に説明する。なお、図１８７乃至図１９１では左右の装飾図柄が同一の図柄（この例では「７」）で停止してリーチとなった後に導光板（第一導光板３１３５、第二導光板３１３６）とセンター役物２５００の外周外側に設けられる装飾体等とによる発光演出が実行される。また、変形例１及び変形例２の発光装飾では上記した実施形態と同様に「Ｖ字状」に発光装飾するものを示すが

、発光装飾の態様（発光色や発光装飾する装飾体等（表示装置を含む））はこれに限定されるものではないし、発光装飾の態様も一種類だけに限らず、特定の変動パターンコマンドを受信した場合に複数種類の態様（発光色や発光装飾する装飾体等（表示装置を含む））のうち周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが決定した態様で導光板（第一導光板３１３５、第二導光板３１３６）とセンター役物２５００の外周外側に設けられる装飾体等（表示装置を含む）とを一体的に発光装飾するものであってもよい。

【１１１４】

また、複数種類の態様のいずれかで発光装飾する場合には、発光装飾の態様に応じて異なる大当り期待度となるようにしてもよい。例えば、赤色の発光色で「Ｖ字状」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が高く（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが大当りとなる変動パターンコマンドを受信した場合にだけ赤色の発光色で「Ｖ字状」の発光装飾をする態様に決定する）、青色の発光色で「Ｖ字状」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が低くなる（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａがはずれとなる変動パターンコマンドを受信した場合にだけ青色の発光色で「Ｖ字状」の発光装飾をする態様に決定する）ように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（発光色に応じて大当り期待度を異ならせる）、「Ｖ字状」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が高く（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが大当りとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の８０の割合で「Ｖ字状」の発光装飾をする態様に決定し、はずれとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の５の割合で「Ｖ字状」の発光装飾をする態様に決定する）、「横一文字」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が低くなる（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが大当りとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の５の割合で「横一文字」の発光装飾をする態様に決定し、はずれとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の６０の割合で「横一文字」の発光装飾をする態様に決定する）ように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（発光装飾の絵柄（形状）に応じて大当り期待度を異ならせる）、太字で「Ｖ字状」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が高く、細字で「Ｖ字状」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が低くなるように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（線幅に応じて大当り期待度を異ならせる）、これらの組み合わせ（例えば赤色の発光色で太字の「Ｖ字状」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が高く、青色の発光色で細字の「横一文字」の発光装飾がされた場合に最も大当り期待度が低くなるように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行する）を実行するようにしてもよい。

【１１１５】

なお、一枚の導光板（例えば第一導光板３１３５）を用いて複数種類の絵柄（形状や線幅）を表すようにしてもよいし、複数の導光板（例えば第一導光板３１３５と第二導光板３１３６）を用いて複数種類の絵柄（形状や線幅）を表すようにしてもよい。一枚の導光板を用いて複数種類の絵柄（形状や線幅）を表す場合には、導光板に入射される光の方向（例えば上方向からの光入射と横方向からの光入射）によって異なる絵柄（形状や線幅）が表れるようにこれらの絵柄が描写される。また、複数の導光板を用いて複数種類の絵柄（形状や線幅）を表す場合には導光板ごとに異なる絵柄（形状や線幅）が表れるように描写される。そして、一枚の導光板（例えば第一導光板３１３５）を用いて複数種類の絵柄（形状や線幅）を表す場合には周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが発光装飾の態様に応じたＬＥＤ（例えば導光板の上辺近傍に設けられて導光板の上辺から光入射するＬＥＤと、導光板の右辺近傍に設けられて導光板の右辺から光入射するＬＥＤと、のうち発光装飾の態様に応じたＬＥＤ）を発光させることで所望の態様で導光板を発光装飾し、複数の導光板（例えば第一導光板３１３５と第二導光板３１３６）を用いて複数種類の絵柄（形状や線幅）を表す場合には周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが発光装飾の態様に応じた絵柄が描写された導光板に対応するＬＥＤ（例えば第一導光板３１３５に光入射する第一ＬＥＤ３１４１ａ及び第一ＬＥＤ３１４３ａと、第二導光板に光入射する第二ＬＥＤ３１４１ｂ、ＬＥＤ３１

４２ａ、第二ＬＥＤ３１４３ｂ、及びＬＥＤ３１４４ａと、のうち発光装飾の態様に応じた絵柄が描写された導光板に対応するＬＥＤ）を発光させることで所望の態様で導光板を発光装飾する。一枚の導光板を用いて複数の絵柄を表すように構成した場合には前後方向に省スペース化できる。一方、複数の導光板を用いて複数の絵柄を表すように構成した場合にはＬＥＤを一辺にのみ配置すればよいため、上下又は左右方向に省スペース化できるとともにＬＥＤの設置個数が少なくなるためコストを低減できる。

【１１１６】

図１８７は変形例１の第一導光板を発光装飾させると共に、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、裏前装飾ユニットの裏前上左装飾体及び裏前上右装飾体、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示す遊技盤の正面図であり、図１８８は変形例１の第一導光板の装飾を示す正面図である。図１８９は、変形例１の第一導光板を発光装飾させると共に、裏下可動演出ユニットの裏下装飾体ユニットが下降位置の状態で裏下左装飾体ユニット及び裏下右装飾体ユニットを接近位置とし、裏前装飾ユニットの裏前上左装飾体及び裏前上右装飾体、サブ演出表示装置、裏下左装飾体、及び裏下右装飾体を用いて大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示すパチンコ機の正面図である。図１９０は、変形例２のセンター役物を左右方向の略中央で切断して横から見た簡略化した断面図である。図１９１は、変形例２の導光板を発光装飾させると共に、左中間装飾体、右中間装飾体、左ユニット装飾カバー、及び右ユニットカバーを用いて超大型のＶ字状に発光装飾させた状態で示すパチンコ機の正面図である。なお、図１８７乃至図１９１では、便宜上、発光時の明暗を逆転させて示し、また装飾体の発光装飾についてはクロスハッチングで示し、導光板の発光装飾についてはシングルハッチングで示している。

【１１１７】

図１８７に示すように、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ、及び裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａを所定の発光色で発光させて第一導光板３１３５を所定の絵柄で発光装飾する場合に（特定発光演出パターンに基づいて発光制御する場合に）、裏下左装飾体ユニット３２５０及び裏下右装飾体ユニット３２６０を接近位置へ回動させると共に、裏前装飾ユニット３１００の裏前上装飾基板３１２０によって裏前上左装飾体３１１２の中装飾部３１１２ａ及び裏前上右装飾体３１１３の中装飾部３１１３ａと、裏前左下装飾基板３１７１及び裏前右下装飾基板３１７２によって裏前下中装飾体３１６８の中装飾部３１６８ａと、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、を第一導光板３１３５を発光装飾する絵柄と同一色（例えば、赤色）で発光装飾（Ｖ補完発光装飾）させ、更にサブ演出表示装置３２４０に第一導光板３１３５を発光装飾する絵柄と同一色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させることで、第一導光板３１３５の発光装飾が遊技領域５ａ内の略全高に亘るように拡張されて、大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができるようになっている。

【１１１８】

これにより、第一導光板３１３５の発光装飾がセンター役物２５００よりも大きく遊技領域５ａの略全高に亘るように拡張された大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り遊技」）が発生することを確信させることができ、遊技者の期待感をおおいに高めさせることができる。また、メイン演出表示装置１６００で変動表示されている装飾図柄がリーチとなった場合にこれらの発光演出を実行する場合には、遊技領域５ａ内の略全高に亘るように拡張された大型Ｖ字状の発光装飾が突然に行われ、しかもこの発光装飾がメイン演出表示装置１６００よりも遊技者に接近した位置（メイン液晶表示装置１６００よりも遊技者に近い位置）で行われて遊技者に視認させることができるため、遊技者を驚かせるとともに意外性を与えることができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【１１１９】
また、メイン演出表示装置１６００よりも遊技者に近い位置に配置されてセンター役物２５００の外周外側の遊技パネル１１００後方に設けられる装飾体等（表示装置を含む）との前後方向の差が少ない導光板（この例では第一導光板３１３５）を用いるため、導光板（この例では第一導光板３１３５）とセンター役物２５００の外周外側の遊技パネル１１００後方に設けられる装飾体等（表示装置を含む）とをフラットに近い状態で発光装飾させることができ、これによって導光板（この例では第一導光板３１３５）に発光装飾される絵柄とセンター役物２５００の外周外側の遊技パネル１１００後方に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾との連続性が増すため、より一体的な発光装飾を実現することができる。なお一体的な発光装飾と認識され得るものであればこれら全てを同一色で発光装飾させることなく各々又は一部を異なる色で発光装飾するものであってもよい。

【１１２０】
また、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは特定発光演出パターンに基づく第一導光板３１３５等の発光制御を所定期間（例えば２秒）継続して実行した後にこれら発光制御を終了する。なお、特定発光演出パターンに基づく第一導光板３１３５等の発光制御の実行中にメイン演出表示装置１６００を暗転させたりバックライト（白色ＬＥＤ）の輝度を通常よりも低下させたりすることで第一導光板３１３５の発光装飾（絵柄）を目立たせるようにしてもよいし、これに加えてさらに特定発光演出パターンに基づいて発光制御される装飾体等（この例では、第一導光板３１３５、中装飾部３１１２ａ、中装飾部３１１３ａ、中装飾部３１６８ａ、中装飾部３２５３ａ、中装飾部３２６３ａ、サブ演出表示装置３２４０）以外の装飾体等の発光装飾を停止させたり発光装飾するＬＥＤ等の輝度を低下させたりすることで特定発光演出パターンに基づいて実行される発光装飾を目立たせるようにしてもよい。

【１１２１】
図１８８に示すように、変形例１の第一導光板３１３５には複数の微小な凹凸によりＶ字状の絵柄の一部だけが描写されており、第一導光板３１３５を発光装飾する絵柄だけではどのような絵柄を表しているのかを特定することが困難である。そして、裏前中左装飾基板３１４１の第一ＬＥＤ３１４１ａ、及び裏前中右装飾基板３１４３の第一ＬＥＤ３１４３ａを所定の発光色で発光させて第一導光板３１３５を所定の絵柄で発光装飾する場合に、第一導光板３１３５を発光装飾している不完全な絵柄を補うように、裏前装飾ユニット３１００の裏前上装飾基板３１２０によって裏前上左装飾体３１１２の中装飾部３１１２ａ及び裏前上右装飾体３１１３の中装飾部３１１３ａと、裏前左下装飾基板３１７１及び裏前右下装飾基板３１７２によって裏前下中装飾体３１６８の中装飾部３１６８ａと、裏下左装飾基板３２５４及び裏下右装飾基板３２６４によって裏下左装飾体３２５３の中装飾部３２５３ａ及び裏下右装飾体３２６３の中装飾部３２６３ａと、を第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄と同一色（例えば、赤色）で発光装飾（Ｖ補完発光装飾）させ、更にサブ演出表示装置３２４０に第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄と同一色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させることで、Ｖ字状の絵柄の全体が表されて遊技者が認識容易になる。

【１１２２】
なお、第一導光板３１３５を発光装飾する場合にセンター役物２５００の外周外側の装飾体等（遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体等（表示装置を含む））を発光装飾させない場合であっても第一導光板３１３５を発光装飾している不完全な絵柄をセンター役物２５００の外周外側の装飾体等（Ｖ補完装飾体）によって補うことで絵柄の全体を表して遊技者が認識可能となるようにしてもよい。例えば、第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄と連続するように裏前上左装飾体３１１２と裏前上右装飾体３１１３とを配置して、裏前上左装飾体３１１２と裏前上右装飾体３１１３と一体的に見えるような発光色で第一導光板３１３５を発光装飾するようにしてもよい。

【１１２３】
また、変形例１の第一導光板３１３５には所定の絵柄（Ｖ字状の絵柄）の一部だけが描写されるように構成したが、所定の絵柄の全てが描写されている場合であっても本発明は適用可能である。例えば、第一導光板３１３５には所定の絵柄の全てが描写されているものの、第一導光板３１３５の前方に配置される装飾体等によってその絵柄の一部が遊技者から視認困難とされて不完全な状態の絵柄が遊技者から視認可能とされている場合には、第一導光板３１３５を発光装飾するときにこの視認困難となった部分を補うように他の装飾体を所定の態様（第一導光板３１３５を発光装飾する絵柄と同一色）で発光装飾させることで所定の絵柄の全体を表すようにしてもよいし、第一導光板３１３５を発光装飾する所定の絵柄のうち遊技者に視認可能となっている絵柄から遊技者が特定の情報（例えば「Ｖ」絵柄が描写されている場合に大当りになるという情報）を認識容易である場合に、他の装飾体を所定の態様（第一導光板３１３５を発光装飾する絵柄と同一色）で発光装飾させることで第一導光板３１３５の占める領域よりも広範囲にわたって所定の絵柄を表すようにしてもよい。
【１１２４】
また、本例では第一導光板３１３５を発光装飾する場合に遊技盤５のセンター役物２５００の外周外側に設けられる装飾体等に加えて、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）とも一体的な発光装飾を実現するようになっている。なお、本例ではトップ左装飾レンズ部材５７９の装飾レンズ部５７９ａ、及びトップ右装飾レンズ部材５８０の装飾レンズ部５８０ａの前面に列設されて前方へ突出する四角錘台の凹凸のそれぞれに対応して複数のＬＥＤ（フルカラーＬＥＤ）が設けられており、装飾レンズ部５７９ａ前面の四角錘台の凹凸を個々に発光装飾することが可能になっている。
【１１２５】
図１８９に示すように、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは第一導光板３１３５を発光装飾する場合に、第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄と連続するようにトップ左装飾レンズ部材５７９の装飾レンズ部５７９ａ、及びトップ右装飾レンズ部材５８０の装飾レンズ部５８０ａのうち対応する領域（図１８９において破線で囲まれた領域）にある四角錘台の凹凸を、第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄と同一色で発光装飾（Ｖ補完発光装飾）することで、第一導光板３１３５の発光装飾が扉枠３の略上端に亘るように拡張されて、大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができるようになっている。
【１１２６】
これにより、第一導光板３１３５の発光装飾がセンター役物２５００や遊技領域５ａよりも大きく扉枠３の略上端に亘るように拡張された大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対して、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り遊技」）が発生することをより強く確信させることができ、遊技者の期待感をおおいに高めさせることができる。また、メイン演出表示装置１６００よりも遊技者に近い位置に配置されて扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）との前後方向の差が少ない導光板（この例では第一導光板３１３５）を用いるため、導光板（この例では第一導光板３１３５）と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）とをフラットに近い状態で発光装飾させることができ、これによって導光板（この例では第一導光板３１３５）に発光装飾される絵柄と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾との連続性が増すため、より一体的な発光装飾を実現することができる。
【１１２７】
また、本例では第一導光板３１３５を発光装飾する場合に周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは扉枠側演出表示装置４６０に第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄と同一色でそれらと連続するような演出画像（Ｖ補完装飾画像）を表示させる。これにより第一導光板３１３５の発光装飾が遊技領域５ａの上端及び下端を超える（遊技領域５ａから上下にはみ出す）ように拡張されて、大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができ、これによって第一導光板３１３５の発光装飾が遊技領域５ａの上下の幅を超える広範囲に亘るように拡張された大型のＶ字状の発光装飾を遊技者に見せることができるため、遊技者に対

して、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り遊技」）が発生することをより強く確信させることができ、遊技者の期待感をおおいに高めさせることができる。

【１１２８】

なお、第一導光板３１３５の発光装飾をセンター役物２５００よりも大きい範囲に亘るように拡張するものであればセンター役物２５００の外周外側の遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、の一方のみを発光装飾させるものであってもよい。だだし、センター役物２５００の外周外側の遊技領域５ａ内に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、の両方を発光装飾させることで、第一導光板３１３５に発光装飾される絵柄と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾とが、センター役物２５００の外周外側の遊技領域５ａ内に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾によって繋がって第一導光板３１３５に発光装飾される絵柄が連続する大型の発光装飾を遊技者に見せることができる。換言すると、センター役物２５００の外周外側の遊技領域５ａ内に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、の両方を発光装飾させることで第一導光板３１３５を発光装飾している絵柄とセンター役物２５００の外周外側の装飾体等（遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む））による発光装飾との連続性を高めることができる。

【１１２９】

また、上記したように複数種類の態様のいずれかで発光装飾する場合には、発光装飾の態様に応じてセンター役物２５００の外周外側の装飾体（遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む））のうち発光装飾する装飾体を異ならせるようにしてもよく、例えば上記扉枠３に設けられる装飾体のうちトップ左装飾レンズ部材５７９の装飾レンズ部５７９ａ、及びトップ右装飾レンズ部材５８０の装飾レンズ部５８０ａを導光板の発光装飾の複数種類の態様のうち第一の態様に応じて発光装飾し、左ユニット装飾カバー５３６及び右ユニットカバー５６３を導光板の発光装飾の複数種類の態様のうち第二の態様に応じて発光装飾するようにしてもよい。

【１１３０】

また、上記した例ではセンター役物２５００の外周外側の遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体を発光装飾させるものを示したが、センター役物２５００の内側に配置されている第一導光板３１３５に描写される絵柄から連続するように所定の絵柄を透明な遊技パネル１１００の後方に描写し、第一導光板３１３５を発光装飾する場合に遊技パネル１１００に光入射して遊技パネル１１００自体を導光板として機能させるようにしてもよい。これにより、センター役物２５００の外周外側の遊技領域５ａ内を第一導光板３１３５を発光装飾する絵柄と同一色の絵柄で発光装飾して、第一導光板３１３５の発光装飾が遊技領域５ａの端部に亘るように拡張されて大型の絵柄の発光装飾を遊技者に見せることができる。

【１１３１】

［１１．変形例２］

変形例２では、変形例１と同様の発光装飾を実行するものの、導光板や外周外側の遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体等を変形例１とは異なる位置に配置されるものである。

【１１３２】

具体的には図１９０に示すように、変形例２ではセンター役物２５００の前方の開口を塞ぐように（ステージ２５３０上の遊技球の転動を妨げないようにセンター役物２５００の開口全てを塞ぐことなくその一部に開口を有するものであってもよい）導光板１６１０が設けられている。即ち、変形例１の導光板（第一導光板３１３５、第二導光板３１３６）は図１２６に示されるようには遊技パネル１１００の後方に設けられるのに対し、変形

例２の導光板１６１０は遊技パネル１１００の前方（遊技者側）に設けられてガラスユニット１９０に近接する。そのため、変形例２の導光板１６１０では変形例１の導光板（第一導光板３１３５）に比べて扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）との前後方向の差が低減し、導光板１６１０と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）とを変形例１よりもフラットに近い位置で発光装飾させることができるため、導光板１６１０を所定の絵柄で発光装飾させる場合に導光板１６１０に発光装飾される絵柄と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾との連続性が増し、より一体的な発光装飾を実現することができる。

【１１３３】

また、この例では扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）のうち導光板の発光装飾と連続する位置に設けられる装飾体等（表示装置を含む）に近接するようにセンター役物２５００が形成されて、遊技パネル１１００の前方（遊技者側）のガラスユニット１９０に近接した位置でセンター役物２５００の発光装飾が行われることで、センター役物２５００の発光装飾と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）との連続性が高められている。

【１１３４】

具体的には変形例２のセンター役物２５００は図１９１に示すように正面視左側の外周面に沿って流下してきた遊技球を、下方へ放出するトンネル状の左案内通路２５５０と、左案内通路２５５０内に突出している複数の突条２５５１と、を備えている。左案内通路２５５０は、遊技盤５に組立てた状態では、前構成部材１０００の内レール１００２との間に遊技球が一つずつのみ流通可能な幅の通路（流路）を形成する。複数の突条２５５１は、左案内通路２５５０内を流通する遊技球が当接することで、遊技球の流通速度を減衰させることができる。また、変形例２のセンター役物２５００は他の実施例と同様に正面視右側の外周面に沿って流下してきた遊技球を、やや左方へ誘導した後に下方へ放出するトンネル状の右案内通路２５４０と、右案内通路２５４０内に突出している複数の突条２５４１と、を備えている。ただし、左案内通路２５５０の遊技者側の表面には透明又は背部を視認可能な程度に透明な（半透明）ＰＥＴ樹脂で形成されたシート状の左シートＬＥＤ基板１６１１が貼着されるとともに、右案内通路２５４０の遊技者側の表面には透明又は背部を視認可能な程度に透明な（半透明）ＰＥＴ樹脂で形成されたシート状の右シートＬＥＤ基板１６１２が貼着されている。また、ＰＥＴ樹脂で形成された左シートＬＥＤ基板１６１１に搭載されるＬＥＤは、左シートＬＥＤ基板１６１１にプリントされる配線パターンに接続されており、該配線パターンは、コネクタ（図示省略）を介して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに接続されている。同様にＰＥＴ樹脂で形成された右シートＬＥＤ基板１６１２に搭載されるＬＥＤは、左シートＬＥＤ基板１６１１にプリントされる配線パターンに接続されており、該配線パターンは、コネクタ（図示省略）を介して周辺制御ＭＰＵ１５１１ａに接続されている。

【１１３５】

なお、左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０は透明又は背部を視認可能な程度に透明な（半透明）樹脂（アクリル樹脂など）で形成されている。また、それぞれの表面に貼着される左シートＬＥＤ基板１６１１と右シートＬＥＤ基板１６１２も透明又は背部を視認可能な程度に透明な（半透明）ＰＥＴ樹脂で形成されている。また、左シートＬＥＤ基板１６１１及び右シートＬＥＤ基板１６１２に搭載されるＬＥＤは遊技球よりも小さく、各シートＬＥＤ基板にプリントされる配線パターンも遊技球の径よりも細くなっている。このように、左案内通路２５５０と右案内通路２５４０と左シートＬＥＤ基板１６１１と右シートＬＥＤ基板１６１２とを透明又は背部を視認可能な程度に透明な（半透明）樹脂で形成するとともに、左シートＬＥＤ基板１６１１及び右シートＬＥＤ基板１６１２に遊技球よりも小さいＬＥＤを搭載するため、左シートＬＥＤ基板１６１１及び右シートＬＥＤ基板１６１２の背部のトンネル状の左案内通路２５５０や右案内通路２５４０を遊技球が流下してもこの流下する遊技球の視認性を低下させることがない（視認を阻害することがない）。これにより、遊技領域５ａの前方の広域に亘るように拡張された大型の発光

装飾を実行することができ、この大型の発光装飾を見せることで遊技者を驚かせるとともに意外性を与えることができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【１１３６】

そして、導光板１６１０を所定の絵柄で発光装飾する場合に左案内通路２５５０の遊技者側の表面に貼着される左シートＬＥＤ基板１６１１に搭載されるＬＥＤと右案内通路２５４０の遊技者側の表面に貼着される右シートＬＥＤ基板１６１２に搭載されるＬＥＤとを導光板１６１０に発光装飾される絵柄と連続するように所定の態様（発光色、発光する領域等）で発光させて左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とを発光装飾することで導光板１６１０に発光装飾される絵柄を導光板１６１０の外側に拡張するようになっている。

【１１３７】

なお、左案内通路２５５０の遊技者側の表面と右案内通路２５４０の遊技者側の表面はガラスユニット１９０に近接するように形成され、導光板１６１０とフラットに近い状態（略面一）になっている。そのため、左案内通路２５５０の遊技者側の表面に貼着される左シートＬＥＤ基板１６１１及び右案内通路２５４０の遊技者側の表面に貼着される右シートＬＥＤ基板１６１２と、導光板１６１０及び扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）との前後方向の差が低減し、導光板１６１０と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と遊技領域５ａに重複して設けられる左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０とを変形例１よりもフラットに近い位置で発光装飾させることができるため、導光板１６１０を所定の絵柄で発光装飾させる場合に導光板１６１０に発光装飾される絵柄と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾等と左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０の発光装飾との連続性が増し、より一体的な発光装飾を実現することができる。

【１１３８】

具体的には、図１９１に示すように導光ＬＥＤ１６２０を発光させて導光板１６１０を横一文字の絵柄で発光装飾させる場合に、導光板１６１０の発光領域及び発光色に対応するように左案内通路２５５０の遊技者側の表面に貼着される左シートＬＥＤ基板１６１１に搭載されるＬＥＤと右案内通路２５４０の遊技者側の表面に貼着される右シートＬＥＤ基板１６１２に搭載されるＬＥＤとを導光ＬＥＤ１６２０と同色で発光させて左案内通路２５５０と右案内通路２５４０との遊技者側の表面に導光板１６１０を発光装飾する横一文字と略同じ幅で発光装飾すると共に、左ユニット装飾カバー５３６及び右ユニットカバー５６３を導光板１６１０を発光装飾する横一文字と略同じ幅となるように導光ＬＥＤ１６２０と同色で発光装飾する。

【１１３９】

これにより、各発光装飾をよりフラットに近い位置で行うことができ、導光板１６１０の発光装飾がパチンコ機１の左右方向の略全域に亘るように拡張されて大型の横一文字の発光装飾を遊技者に見せることができるようになっている。また、フラットに近い位置で発光装飾することで発光装飾の連続性（一体感）が増し、導光板１６１０を発光装飾する絵柄がよりリアルに拡張されたような印象を与えることができる。

【１１４０】

［１２．変形例３］

次に導光板を用いた装飾演出の別例について変形例３として説明する。変形例３では、変形例２の導光板１６１０と同様にセンター役物２５００の前方の開口を塞ぐように（ステージ２５３０上の遊技球の転動を妨げないようにセンター役物２５００の開口全てを塞ぐことなくその一部に開口を有するものであってもよい）遊技パネル１１００の前方（遊技者側）に一枚の導光板が設けられ、この一枚の導光板の一辺から光入射させることで所定の絵柄で導光板を発光装飾させるものであるが、一辺に対応して設けられる複数のＬＥＤのうち一個乃至複数個のＬＥＤを所定の順序で発光させて導光板の同一の辺の光入射させる位置を異ならせることで、導光板を発光装飾する絵柄を異なる絵柄へと切り替えることが可能になっている。

【１１４１】
具体的には、図１９２に示すように導光板１６１０の上辺には各々に４個のＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）が搭載される複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７が設けられている。そして、複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤのうち図示最も左に位置するＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ、ＬＥＤ１６２２ａ、ＬＥＤ１６２３ａ、ＬＥＤ１６２４ａ、ＬＥＤ１６２５ａ、ＬＥＤ１６２６ａ、ＬＥＤ１６２７ａ）を発光させて導光板１６１０に光入射させることにより最大サイズの五角形の絵柄（第一連続絵柄）で導光板１６１０が発光装飾される。
【１１４２】
また、複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤのうち図示最も左に位置するＬＥＤ（ａ群；ＬＥＤ１６２１ａ、ＬＥＤ１６２２ａ、ＬＥＤ１６２３ａ、ＬＥＤ１６２４ａ、ＬＥＤ１６２５ａ、ＬＥＤ１６２６ａ、ＬＥＤ１６２７ａ）の一つ右側（左から二番目）に位置するＬＥＤ（ｂ群；ＬＥＤ１６２１ｂ、ＬＥＤ１６２２ｂ、ＬＥＤ１６２３ｂ、ＬＥＤ１６２４ｂ、ＬＥＤ１６２５ｂ、ＬＥＤ１６２６ｂ、ＬＥＤ１６２７ｂ）を発光させて導光板１６１０に光入射させることにより最大サイズの五角形よりもやや小ぶりな五角形の絵柄（第二連続絵柄）で導光板１６１０が発光装飾される。同様に、複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤのうち図示左から二番目に位置するＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ｂ、ＬＥＤ１６２２ｂ、ＬＥＤ１６２３ｂ、ＬＥＤ１６２４ｂ、ＬＥＤ１６２５ｂ、ＬＥＤ１６２６ｂ、ＬＥＤ１６２７ｂ）の一つ右側（左から三番目）に位置するＬＥＤ（ｃ群；ＬＥＤ１６２１ｃ、ＬＥＤ１６２２ｃ、ＬＥＤ１６２３ｃ、ＬＥＤ１６２４ｃ、ＬＥＤ１６２５ｃ、ＬＥＤ１６２６ｃ、ＬＥＤ１６２７ｃ）を発光させて導光板１６２０に光入射させることによりさらに小ぶりな五角形の絵柄（第三連続絵柄）で導光板１６１０が発光装飾され、複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７夫々に搭載されるＬＥＤのうち最も右側に位置するＬＥＤ（ｄ群；ＬＥＤ１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ｄ）を発光させて導光板１６２０に光入射させることにより最小サイズの五角形の絵柄（第四連続絵柄）で導光板１６１０が発光装飾される。
【１１４３】
このように、変形例３では導光板１６１０の上辺に設けられる複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７それぞれに搭載される４個のＬＥＤのうち図示最も左に位置するａ群のＬＥＤから最も右に位置するｄ群のＬＥＤまで一つずつ順番に発光させるＬＥＤ群を切替えることで、導光板１６１０を発光装飾する絵柄が第一連続絵柄から第四連続絵柄へと連続的に変化するようになっている。また、複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）のａ群、ｂ群、ｃ群、ｄ群に対応して第一連続絵柄，第二連続絵柄，第三連続絵柄，第四連続絵柄で導光板１６１０を発光装飾させるものであるが、本実施例では、各ＬＥＤから導光板１６１０側面への光入射時にＬＥＤの光拡散効果による光漏れが生じるようにしている。すなわち、ＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）と導光板１６１０側面との間に集光部材等を設けず、ＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）が有する光拡散効果を利用して、発光しているＬＥＤに対応していない絵柄もうっすらと導光板１６１０に表出されるようにしている。
【１１４４】

具体的には、図１９２（Ａ）に示すようにａ群のＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ、ＬＥＤ１６２２ａ、ＬＥＤ１６２３ａ、ＬＥＤ１６２４ａ、ＬＥＤ１６２５ａ、ＬＥＤ１６２６ａ、ＬＥＤ１６２７ａ）を発光させた場合にはａ群のＬＥＤに対向する入光部位（ａ群対向部位）への入光量が最も多くなり、そのａ群対向部位への入光に伴い第一連続絵柄が比較的明瞭に表出されるものの、ａ群のＬＥＤの発光が導光板側面におけるｂ群対向部位にも一部入光し（入光量はａ群対向部位よりも少ない）、そのｂ群対向部位への入光に伴い第二連続絵柄もうっすら表出されることとなる。つまり、ａ群のＬＥＤの発光時には、第一連続絵柄の明瞭な表出に加えて第二連続絵柄のうっすらとした表出も同時に起こりうるようにしてなっている。同様に、ｂ群のＬＥＤの発光時には、第二連続絵柄の明瞭な表出に加えて第三連続絵柄および第一連続絵柄のうっすらとした表出も同時に起こりうるようになっており、ｃ群のＬＥＤの発光時には、第三連続絵柄の明瞭な表出に加えて第四連続絵柄および第二連続絵柄のうっすらとした表出も同時に起こりうるようになっており、ｄ群のＬＥＤの発光時には、第四連続絵柄の明瞭な表出に加えて第三連続絵柄のうっすらとした表出も同時に起こりうるようになっている。これにより、複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）のａ群、ｂ群、ｃ群、ｄ群の順次切替に伴い、第一連続絵柄から第四連続絵柄へと連続的に変化が生じ、導光板１６１０上で連続的に絵柄が移り変わる導光アニメーションをなめらかに表現することが可能になる。

【１１４５】

図示していないが変形例３の導光板１６１０には右辺にも複数のＬＥＤが設けられ、これら複数のＬＥＤを発光させることで導光板１６１０の右辺から光入射されて図１９２に示す第一連続絵柄乃至第四連続絵柄とは異なる絵柄が表示される。例えば、変形例２の導光板１６１０と同様に「横一文字」の絵柄等で発光装飾させるとともに導光板１６１０の発光領域及び発光色に対応するように左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０や左ユニット装飾カバー５３６及び右ユニットカバー５６３をよりフラットに近い位置で発光装飾させて導光板１６１０に表される絵柄をリアルに拡張させるようにしてもよい。

【１１４６】

なお、変形例１の第一導光板３１３５と同様に遊技パネル１１００の後方に（第一導光板３１３５に代えて）導光板１６１０を設けてもよく、この場合には導光板１６１０の上辺に設けられる複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）のａ群、ｂ群、ｃ群、ｄ群の順次切替に伴って導光板１６１０を発光装飾する絵柄が第一連続絵柄から第四連続絵柄へと連続的に変化するようにし、導光板１６１０の右辺に設けられる第一ＬＥＤ３１４１ａ及び第一ＬＥＤ３１４３ａを発光させて導光板１６１０の右辺から光入射させることで変形例１の第一導光板３１３５と同様に「Ｖ字状」の絵柄で発光装飾させるとともに導光板１６１０を発光装飾している不完全な絵柄を補うようにセンター役物２５００の外周外側の装飾体等（遊技領域５ａ内（この例では遊技パネル１１００の後方）に設けられる装飾体等（表示装置を含む））や扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）を発光装飾させるようにしてもよい。

【１１４７】

また、変形例３ではメイン演出表示装置１６００で実行される演出表示（リーチ演出等）に関連して、導光板１６１０の発光装飾と扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）の発光装飾や遊技領域５ａに設けられる装飾体等の発光装飾とを連動させて連続的に発光装飾を切り替えるアニメーション演出を実行可能となっている。本例のアニメーション演出について図１９３乃至図１９７を参照して詳細に説明する。なお、図１９３乃至図１９７では変形例２の左案内通路２５５０が形成されたセンター役物２５００を備えるパ

チンコ機１を示し、遊技パネル１１００の前方（遊技者側）に設けられる装飾体等（表示装置を含む）や扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）を導光板１６１０の発光装飾に関連させて発光装飾するものを示すが、遊技領域５ａや扉枠３等に設けられる導光板１６１０以外の装飾体等（表示装置を含む）を導光板１６１０の発光装飾に関連させて発光装飾させるものであれば変形例１のパチンコ機１のように遊技パネル１１００の後方に設けられる装飾体等（表示装置を含む）や扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）を導光板１６１０の発光装飾に関連させて発光装飾するものであってもよい。

【１１４８】

また、変形例３のアニメーション演出の態様（発光色や発光装飾する装飾体等（表示装置を含む）、導光板１６１０の絵柄（第一連続絵柄乃至第四連続絵柄））は図１９３乃至図１９７に示すものに限定されるものではなく、アニメーション演出における発光装飾の切り替え速度（例えば２秒毎に切替える態様と０．５秒毎に切替える態様）や切替順序（例えば第一連続絵柄から第二連続絵柄、第三連続絵柄、第四連続絵柄の順に切替える態様と、第四連続絵柄から第三連続絵柄、第二連続絵柄、第一連続絵柄の順に切り替える態様）、発光装飾の発光色、発光装飾の段階（ステップ）等の異なる複数種類の態様の中から周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが決定した態様のアニメーション演出を実行するようにしてもよい。

【１１４９】

また、アニメーション演出の態様に応じて異なる大当り期待度となるようにしてもよい。例えば、赤色の発光色で導光板１６１０や装飾体等が発光装飾されるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が高く（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが大当りとなる変動パターンコマンドを受信した場合にだけ赤色の発光色で導光板１６１０や装飾体等を発光装飾する態様に決定する）、青色の発光色で導光板１６１０や装飾体等が発光装飾されるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が低くなる（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａがはずれとなる変動パターンコマンドを受信した場合にだけ青色の発光色で導光板１６１０や装飾体等を発光装飾する態様に決定する）ように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（導光板１６１０や装飾体等を発光装飾する色に応じて大当り期待度を異ならせる）、発光装飾の切り替えを２秒毎に行うアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が高く（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが大当りとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の８０の割合で２秒毎に発光装飾を切り替える態様に決定し、はずれとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の５の割合で２秒毎に発光装飾を切り替える態様に決定する）、発光装飾の切り替えを０．５秒毎に行うアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が低くなる（例えば周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが大当りとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の５の割合で０．５秒毎に発光装飾を切り替える態様に決定し、はずれとなる変動パターンコマンドを受信した場合に１００分の６０の割合で０．５秒毎に発光装飾を切り替える態様に決定する）ように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（発光装飾の切り替え速度に応じて大当り期待度を異ならせる）、先ず装飾体等が発光装飾された後、導光板１６１０が第一連続絵柄、第二連続絵柄、第三連続絵柄、第四連続絵柄の順に発光装飾されるように発光装飾が切り替えられるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が高く、導光板１６１０が第四連続絵柄、第三連続絵柄、第二連続絵柄、第一連続絵柄の順に発光装飾された後、装飾体等が発光装飾されるように発光装飾が切り替えられるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が低くなるように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（発光装飾の切替順序に応じて大当り期待度を異ならせる）、装飾体等が発光装飾された後、導光板１６１０が第一連続絵柄、第二連続絵柄、第三連続絵柄、第四連続絵柄の順に発光装飾されるように発光装飾が５段階（５ステップ）に亘って切り替えられるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が高く、装飾体等が発光装飾された後、導光板１６１０が第一連続絵柄、第二連続絵柄の順に発

光装飾されるように発光装飾が３段階（３ステップ）に亘って切り替えられるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が低くなるように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行するようにしてもよいし（発光装飾される段階（ステップ）に応じて大当り期待度を異ならせる）、これらの組み合わせ（例えば赤色の発光色で２秒毎に発光態様が５段階に亘って切り替えられるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が高く、青色の発光色で０．５秒毎に発光装飾が３段階に亘って切り替えられるアニメーション演出が実行された場合に最も大当り期待度が低くなるように周辺制御ＭＰＵ１５１１ａが態様を決定して決定した態様で発光装飾を実行する）を実行するようにしてもよい。

【１１５０】

図１９３に示すように変形例３のセンター役物２５００はその上部にセンター上装飾体２５６０を備えるとともに下部にセンター下装飾体２５７０を備えている。またセンター上装飾体２５６０の遊技者側の表面にはＰＥＴ樹脂で形成されたシート状のセンター上シートＬＥＤ基板１６１３が貼着されるとともに、センター下装飾体２５７０の遊技者側の表面にはＰＥＴ樹脂で形成されたシート状のセンター下シートＬＥＤ基板１６１４が貼着されている。なお、センター上装飾体２５６０及びセンター下装飾体２５７０は遊技者側の表面がガラスユニット１９０に近接するように形成されている。そのため、センター上装飾体２５６０及びセンター下装飾体２５７０と、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０と、の前後方向の差が低減し、センター上装飾体２５６０及びセンター下装飾体２５７０と、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０と、をフラットに近い位置で発光装飾させることができるため、発光装飾の一体感を高めることができる。

【１１５１】

また、本例ではセンター上装飾体２５６０及びセンター下装飾体２５７０と、扉枠３に設けられる装飾体等（表示装置を含む）と、左案内通路２５５０及び右案内通路２５４０と、に加えて導光板１６１０も遊技パネル１１００の前方（遊技者側）に配置されてこれら全てがフラットに近い状態で配置されるため、発光装飾の連続性が増して発光装飾の切り替えが滑らかになるため、アニメーション演出が実行されることによって遊技興趣を向上させることができる。

【１１５２】

周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは、アニメーション演出を実行する場合にまず左案内通路２５５０の遊技者側の表面に貼着される左シートＬＥＤ基板１６１１に搭載されるＬＥＤと右案内通路２５４０の遊技者側の表面に貼着される右シートＬＥＤ基板１６１２に搭載されるＬＥＤとセンター上装飾体２５６０の遊技者側の表面に貼着されるセンター上シートＬＥＤ基板１６１３に搭載されるＬＥＤとセンター下装飾体２５７０の遊技者側の表面に貼着されるセンター下シートＬＥＤ基板１６１４に搭載されるＬＥＤとを所定の態様（発光色、発光する領域等）で発光させて左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０とを所定の発光色（例えば赤）で発光装飾するとともに、これらの発光装飾と連続して所定の形態を表すように左ユニット装飾カバー５３６と右ユニットカバー５６３との所定範囲を左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０と同一色で発光装飾する。なお、一体的な発光装飾と認識され得るものであればこれら全てを同一色で発光装飾させることなく各々又は一部を異なる色で発光装飾するものであってもよい。

【１１５３】

また、本例ではアニメーション演出において左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０と左ユニット装飾カバー５３６と右ユニットカバー５６３とを発光装飾する場合に、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは扉枠側演出表示装置４６０に左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０と左ユニット装飾カバー５３６と右ユニットカバー５６

３との発光装飾と連続するような演出画像を表示させる。これにより遊技領域５ａの左右端部と下端部とを超える（遊技領域５ａの左右にはみ出すとともに下にもはみ出す）広範囲に亘って一体的な発光装飾がなされて大型の所定の形態（本例では五角形）が表されるため、遊技者に対して、遊技者が有利となる有利遊技状態（例えば、「大当り遊技」）が発生することをより強く確信させることができ、遊技者の期待感をおおいに高めさせることができる。

【１１５４】

図１９３に示す発光装飾を行った後、所定期間が経過すると周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは図１９３の発光装飾を終了する。その後、周辺制御ＭＰＵ１５１１ａは導光板１６１０の上辺に設けられる複数の導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）のうちａ群のＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ、ＬＥＤ１６２２ａ、ＬＥＤ１６２３ａ、ＬＥＤ１６２４ａ、ＬＥＤ１６２５ａ、ＬＥＤ１６２６ａ、ＬＥＤ１６２７ａ）を発光させて導光板１６１０を第一連続絵柄で発光装飾し（図１９４）、所定期間が経過する毎に発光させるＬＥＤ群を切り替えることでｂ群のＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ｂ、ＬＥＤ１６２２ｂ、ＬＥＤ１６２３ｂ、ＬＥＤ１６２４ｂ、ＬＥＤ１６２５ｂ、ＬＥＤ１６２６ｂ、ＬＥＤ１６２７ｂ）の発光に対応した第二連続絵柄の発光装飾（図１９５）、ｃ群のＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ｃ、ＬＥＤ１６２２ｃ、ＬＥＤ１６２３ｃ、ＬＥＤ１６２４ｃ、ＬＥＤ１６２５ｃ、ＬＥＤ１６２６ｃ、ＬＥＤ１６２７ｃ）の発光に対応した第三連続絵柄の発光装飾（図１９６）、ｄ群のＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ｄ）の発光に対応した第四連続絵柄の発光装飾（図１９７）、を順次行う。

【１１５５】

このように、変形例３ではセンター役物２５００の内周内側に設けられる導光板１６１０とセンター役物２５００の内周よりも外側に設けられる装飾体（左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０と左ユニット装飾カバー５３６と右ユニットカバー５６３）や表示装置（扉枠側演出表示装置４６０）とが連動して連続的に発光装飾が変化する発光演出（アニメーション演出）を実行するため、広範囲に亘って連続的に発光装飾を変化させるという従来にない斬新な演出を実行することができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【１１５６】

また、図１９３乃至図１９７に示す例では五角形の発光装飾がメイン演出表示装置１６００の中央部分に向かって徐々に小さくなっていくようなアニメーション演出を実行する。これによりメイン演出表示装置１６００で実行されている演出に遊技者の目線を向けさせて、メイン演出表示装置１６００で実行される演出に注目させることができ、遊技興趣の低下を抑止できる。

【１１５７】

また、第一連続絵柄乃至第四連続絵柄は大きさ毎に線幅を異ならせている。具体的には、最大サイズの五角形を表す第一連続絵柄では最も線幅が太くなっており、大きさが小さくなるに連れて線幅が徐々に細くなっている（第一連続絵柄＞第二連続絵柄＞第三連続絵柄）。このように五角形の大きさの変化に加えて線幅も変化させることで奥行き感を出すことができ、第一連続絵柄から第四連続絵柄に向けて発光装飾を変化させることにより五角形の絵柄が徐々に小さくなって奥行き方向に遠ざかっていくような印象を与えることができる。

【１１５８】

なお、変形例３の導光板１６１０を発光装飾する絵柄として五角形の絵柄の一つだけが明瞭に表れるものを示したが、複数の五角形の明瞭な絵柄が多重に表れるものであってもよく、この場合にも発光させるＬＥＤ群を異ならせることで複数の五角形それぞれの大き

さや線幅を変化させるようにしてもよい。

【１１５９】

また、アニメーション演出が実行された場合に遊技者による操作ボタン４１０の操作に連動させて発光装飾を切り替えるようにしてもよい。例えば、操作ボタン４１０を一回若しくは所定回押圧操作する毎に発光装飾を切り替えたり、操作ボタン４１０を押圧操作している間だけ発光装飾の継続期間を計時して所定期間が経過したら発光装飾を切り替えたり、操作ボタン４１０を押圧操作している間だけ発光装飾させて押圧操作を中断すると発光装飾を中断（消失）させたり、するようにしてもよい。

【１１６０】

また、上記変形例３に示すアニメーション演出は一例であり、導光板１６１０に表示される絵柄やセンター役物２５００の内周よりも外側に設けられる装飾体（左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０と左ユニット装飾カバー５３６と右ユニットカバー５６３）や表示装置（扉枠側演出表示装置４６０）とを発光装飾することによって表される形態は、上記したものに限られるものではない。例えば、センター役物２５００の内周よりも外側に設けられる装飾体（左案内通路２５５０と右案内通路２５４０とセンター上装飾体２５６０とセンター下装飾体２５７０と左ユニット装飾カバー５３６と右ユニットカバー５６３）や表示装置（扉枠側演出表示装置４６０）とを発光装飾して所定の形態を表した後に、導光板１６１０の一辺に設けられた導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）のうち発光させるＬＥＤ群の切り替えに伴って姿勢の異なるキャラクタ絵柄が徐々に変化あるいは移動したり、導光ＬＥＤの順次切換に伴いセリフ文字絵柄の明瞭部分が変化していくアニメーション演出を実行するようにしてもよい。

【１１６１】

また、導光板１６１０の一辺に設けられた導光ＬＥＤ基板１６２１～１６２７に搭載されるＬＥＤ（ＬＥＤ１６２１ａ～１６２１ｄ、ＬＥＤ１６２２ａ～１６２２ｄ、ＬＥＤ１６２３ａ～１６２３ｄ、ＬＥＤ１６２４ａ～１６２４ｄ、ＬＥＤ１６２５ａ～１６２５ｄ、ＬＥＤ１６２６ａ～１６２６ｄ、ＬＥＤ１６２７ａ～１６２７ｄ）のうち発光させるＬＥＤ群の切り替えパターンによって導光板１６１０に表れる絵柄を異ならせてアニメーション演出の途中で演出内容を分岐させるようにしてもよい。例えば、ａ群のＬＥＤ、ｂ群のＬＥＤ、ｃ群のＬＥＤの順に発光させるＬＥＤ群を切り替えることでキャラクタが徐々に移動してＣ群のＬＥＤの発光時にはキャラクタがゴールに到達する絵柄を表すアニメーション演出パターン１と、ａ群のＬＥＤ、ｂ群のＬＥＤ、ｄ群のＬＥＤの順に発光させるＬＥＤ群を切り替えることでキャラクタが徐々に移動してｄ群のＬＥＤの発光時にはキャラクタがゴールに到達することなくリタイアする絵柄を表すアニメーション演出パターン２と、を設け、これらを大当り期待度に対応付けて選択して実行するようにしてもよい。また、この場合にアニメーション演出パターン２を複数回実行した後に、アニメーション演出パターン１を実行するアニメーションパターン３を設けるようにしてもよく、これによりアニメーション演出パターン２が複数回実行されても大当りに対する期待を失わせないようにできるため、遊技興趣の低下を抑止できる。

【１１６２】

また、上記した変形例３では一の辺に設けられる複数のＬＥＤのうち発光するＬＥＤ群を切り替えて導光板への光入射位置を変化させることで表出する絵柄を変化させる１枚の導光板１６１０を用いてアニメーション演出を実行するように構成したが、光入射位置を変化させることで表出する絵柄を変化させない従来の導光板を複数枚用いてアニメーション演出を実行するようにしてもよい。例えば光入射に対応して上記第一連続絵柄を表出する第一の導光板と、光入射に対応して上記第二連続絵柄を表出する第二の導光板と、光入射に対応して上記第三連続絵柄を表出する第三の導光板と、光入射に対応して上記第四連続絵柄を表出する第四の導光板と、を前後（パチンコ機１の奥行き方向）に重なるように

設け、光入射させる導光板を切り替える（例えば第一の導光板→第二の導光板→第三の導光板→第四の導光板）ことで連続的に絵柄を変化させるアニメーション演出を実行するようにしてもよい。またこの場合に、複数の導光板に同時に光入射させることで複数の絵柄が同時に表れるようにしてもよく、例えば第一の導光板から第二の導光板へと光入射させる導光板を切り替える場合に、切替え前の導光板である第一の導光板と切替後の導光板である第二の導光板との両方に同時に光入射させる期間を設けることで第一連続絵柄と第二連続絵柄とを所定期間に亘って同時に表出し、その後に第一の導光板への光入射を終了して第二の導光板だけに光入射して第二連続絵柄だけを表出させることで連続的に絵柄が移り変わる導光アニメーションをなめらかに表現することが可能になる。また複数の導光板に同時に光入射させて複数の絵柄を同時に表出させる場合に、光入射させるＬＥＤの輝度を変化させるようにしてもよく、例えば切替え前の導光板である第一の導光板へ光入射させるＬＥＤよりも低い輝度でＬＥＤを発光させて切替後の導光板である第二の導光板へ光入射させ、その後に徐々に第一の導光板へ光入射させるＬＥＤの輝度を低下させる一方、第二の導光板へ光入射させるＬＥＤの輝度を高めることで徐々に第一連続絵柄を消失させる反面第二連続絵柄が徐々に明瞭に表れてくるようになり、連続的な絵柄の変化をなめらかに表現することができる。

【１１６３】

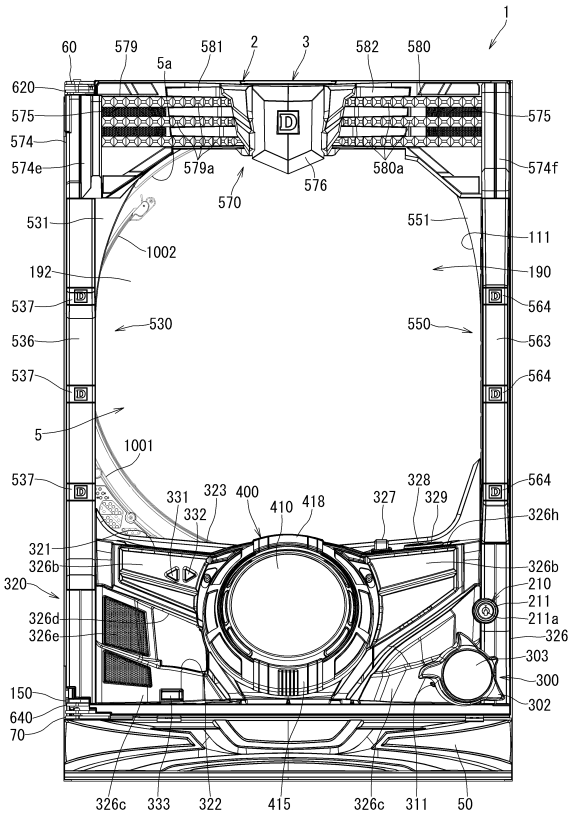
なお、上記の実施形態では、遊技機としてパチンコ機１に適用したものを示したが、これに限定するものではなく、パチスロ機や、パチンコ機とパチスロ機とを融合させてなる遊技機に、適用しても良く、この場合でも、上記と同様の作用効果を奏することができる。

【符号の説明】

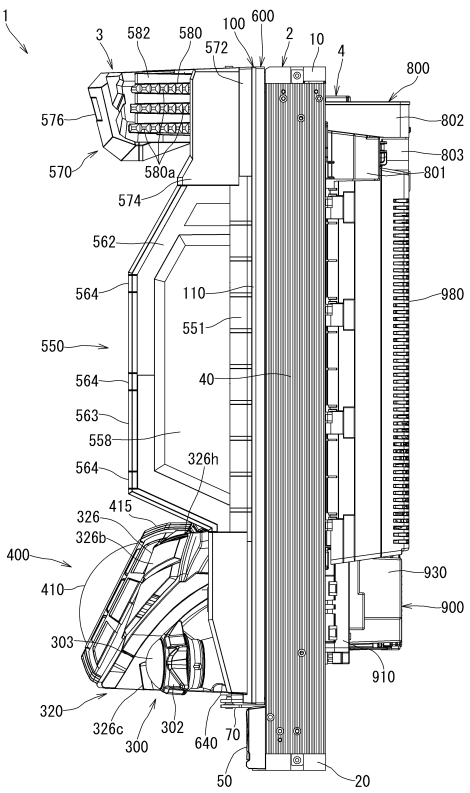
【１１６４】

１　パチンコ機
２　外枠
３　扉枠
４　本体枠
５　遊技盤
５ａ　遊技領域
１０００　前構成部材
１１００　遊技パネル
１１１０　パネル板
１１１２　開口部
１１２０　パネルホルダ
１６００　メイン演出表示装置
２０００　表ユニット
２５００　センター役物
３０００　裏ユニット
３１００　裏前装飾ユニット
３１１０　裏前前ユニット
３１１２　裏前上左装飾体（オーナメント）
３１１２ｃ　装飾後部
３１１２ｄ　装飾前部
３１１３　裏前上右装飾体（オーナメント）
３１１３ｃ　装飾後部
３１１３ｄ　装飾前部
３１２０　裏前上装飾基板（発光手段）

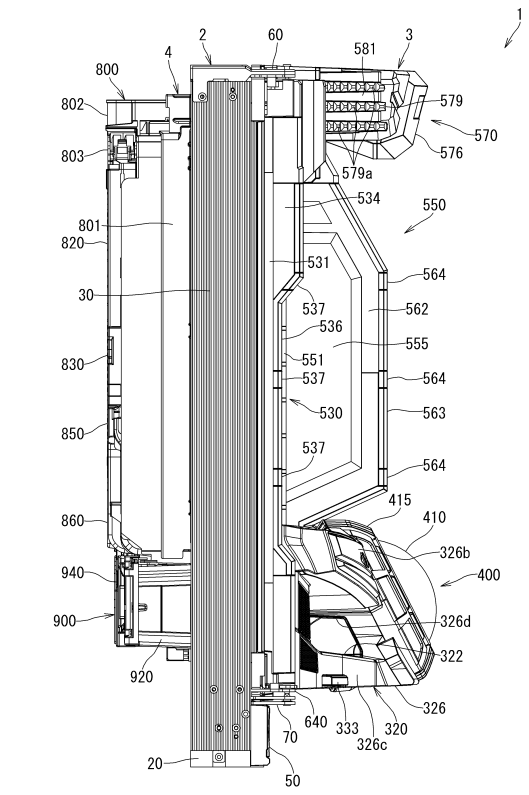
【図１】


1
60
579
581
2
3
582
580
5a
620
575
574
574e
579a
570
576
580a
574f
531
551
1002
111
192
190
537
564
530
550
536
563
537
564
5
1001
537
328
564
331
323
400
410
418
327
329
326h
321
326b
326b
320
210
211
326d
211a
326e
326
303
150
300
640
302
70
326c
333
322
415
326c
311
50

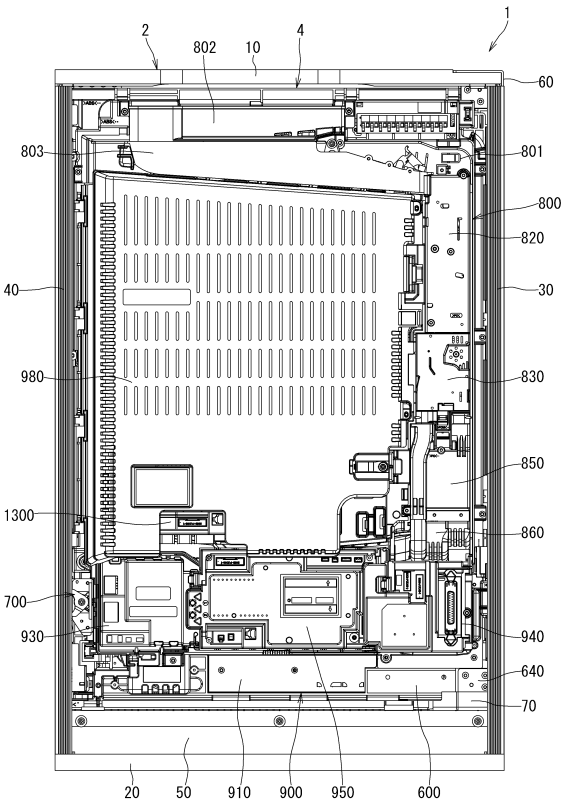
【図２】


1
3
582
580
572
100
600
2
10
4
800
576
802
803
570
580a
801
574
562
564
110
980
551
550
564
40
563
558
564
326h
415
326
326b
400
930
410
900
303
910
320
326c
300
302
640
70
50
20

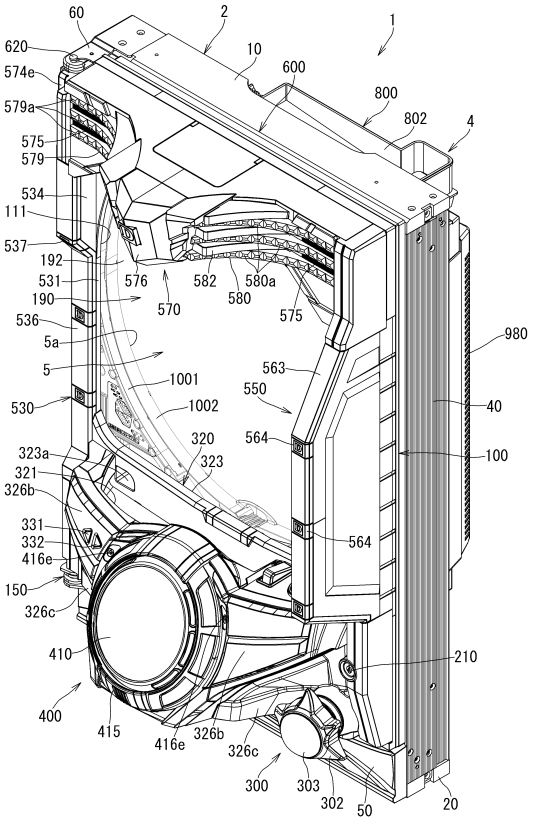
【図３】


1
2
60
581
3
4
800
579
802
570
803
576
579a
534
550
801
820
531
564
30
537
562
536
555
551
830
537
564
530
563
850
537
564
415
860
410
326b
940
400
900
326d
322
920
326
640
333
320
70
326c
20
50

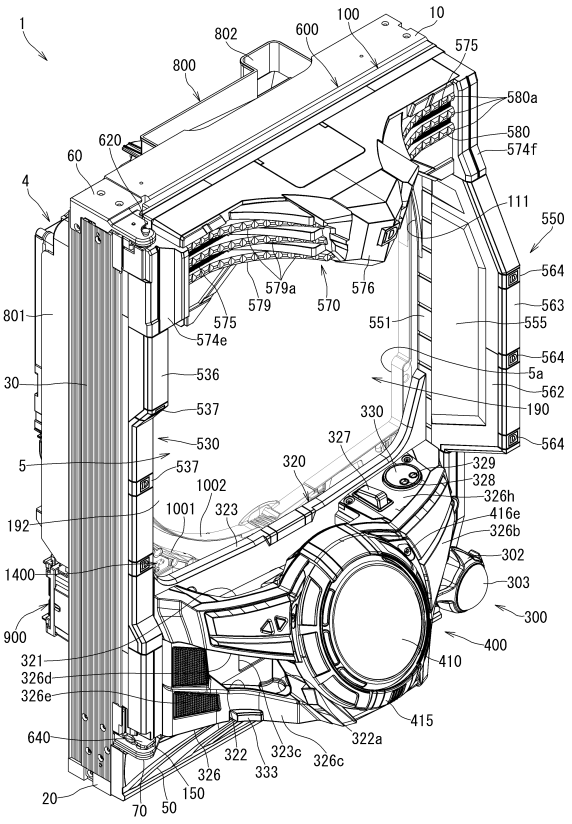
【図４】


1
2
802
10
4
60
803
801
800
820
40
30
980
830
850
1300
860
700
930
940
640
70
20
50
910
900
950
600

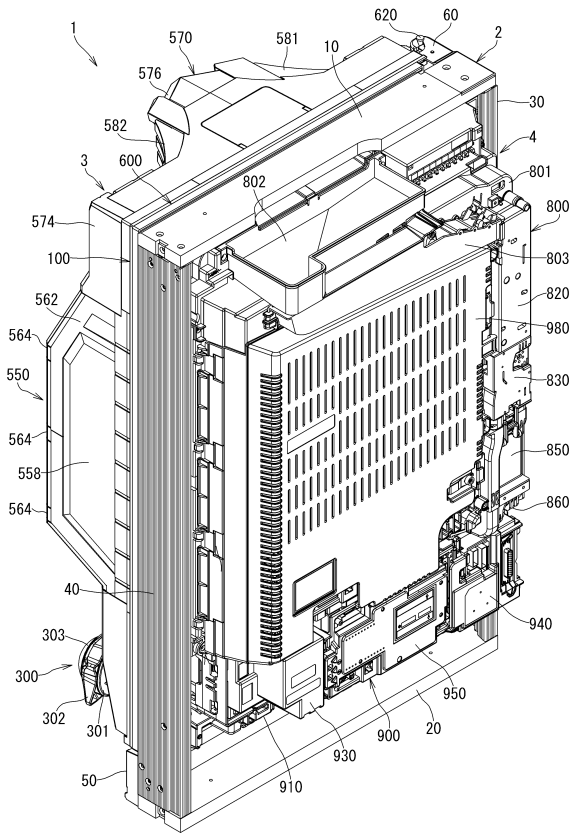
【図５】


60
2
1
620
10
600
574e
800
579a
802
4
575
579
534
111
537
192
531
576
582
580a
190
570
580
575
536
980
5a
563
5
1001
550
530
1002
40
320
564
100
323a
323
321
326b
331
564
332
416e
150
326c
410
210
400
415
416e
326b
326c
300
303
302
50
20

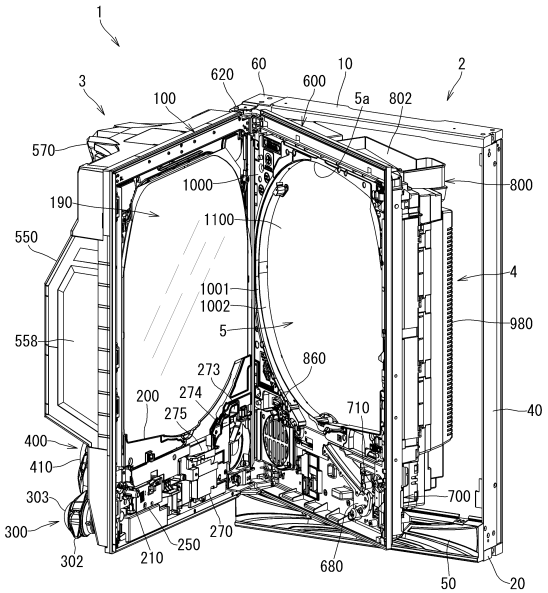
【図６】


1
802
600
100
10
575
800
580a
620
580
574f
60
4
111
550
564
579a
576
579
570
563
801
575
551
555
574e
564
30
536
5a
562
537
190
330
530
564
327
5
537
320
329
328
1002
326h
1001
323
416e
192
326b
302
1400
303
900
300
321
400
326d
410
326e
415
640
322a
322
323c
326c
333
326
150
20
70
50

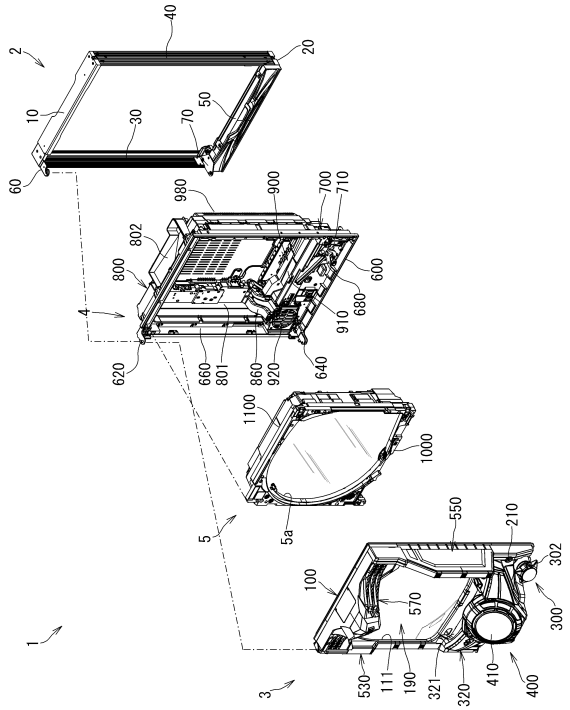
【図７】


1
620
60
570
581
10
2
576
30
582
4
3
600
801
802
800
574
803
100
820
562
980
564
830
550
564
850
558
860
564
40
940
303
950
300
900
302
301
20
930
50
910

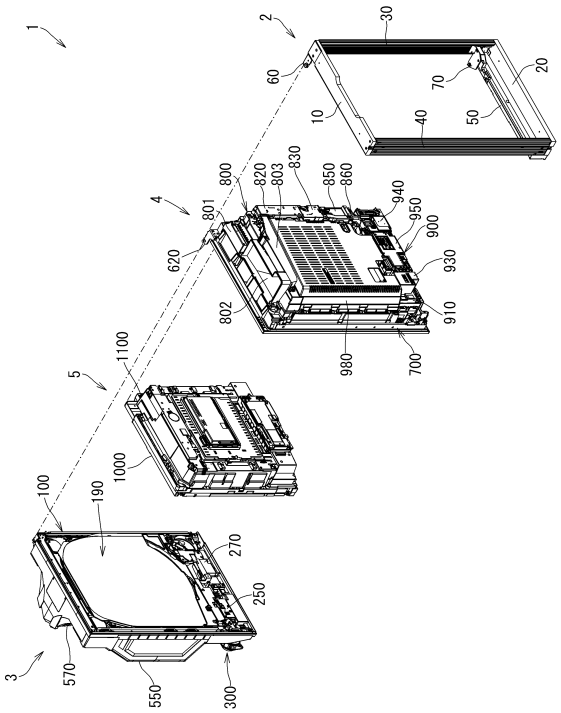
【図８】


1
3
620
60
600
10
2
100
5a
802
570
800
1000
190
1100
550
4
1001
1002
980
5
558
860
273
200
274
710
40
275
400
410
700
303
300
270
210
250
680
302
50
20

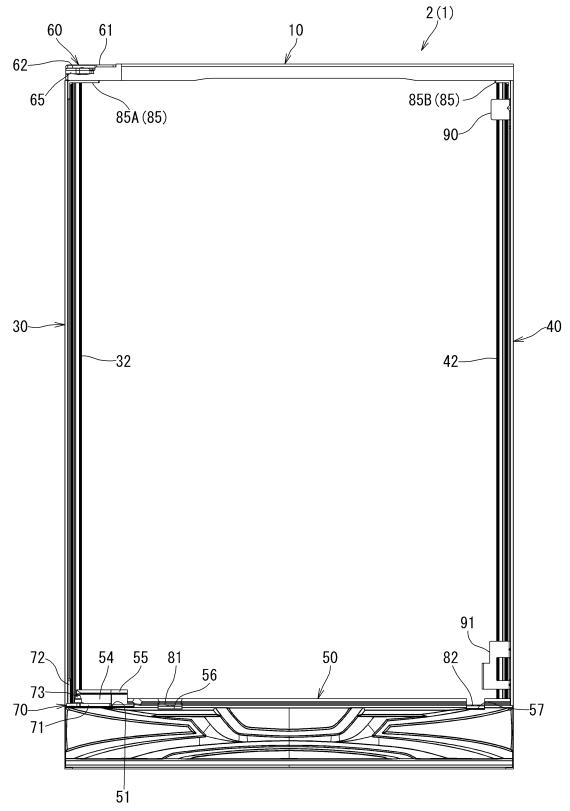
【図９】



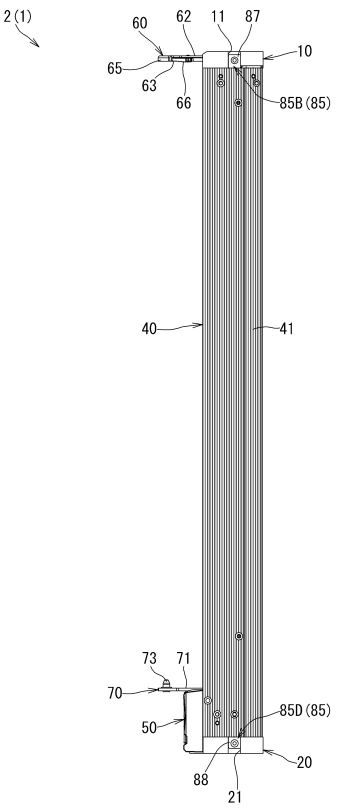
【図１０】



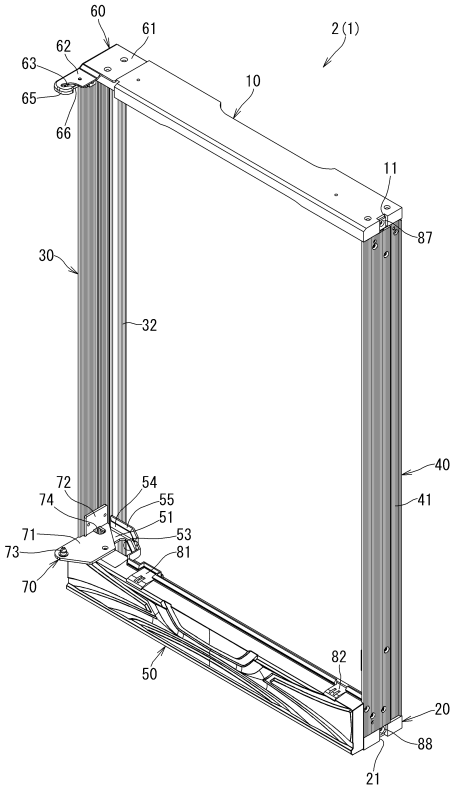
【図１１】



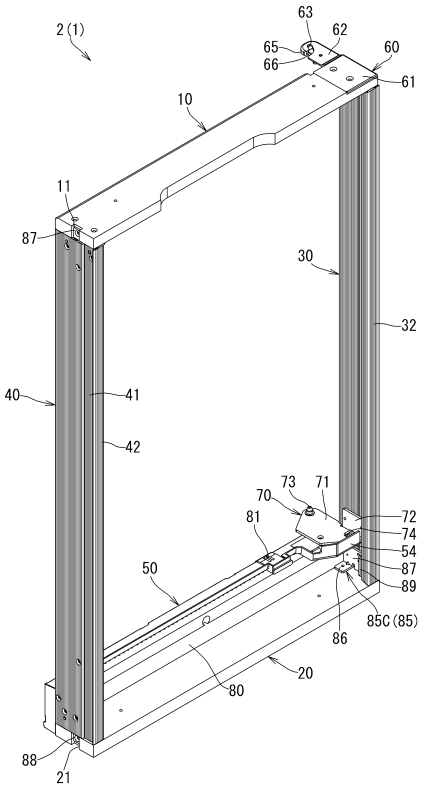
【図１２】



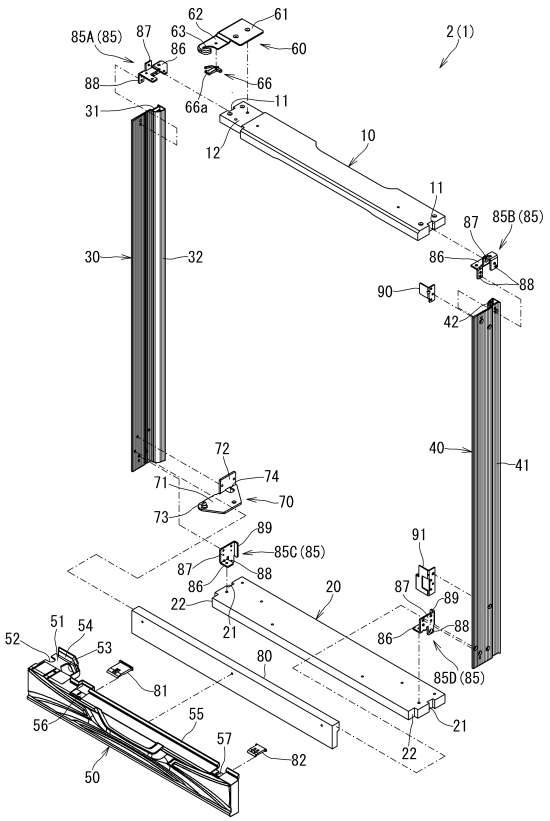
【図１３】



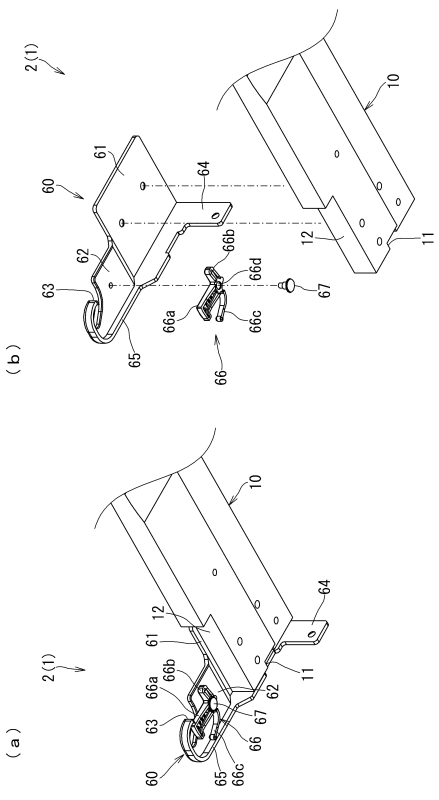
【図１４】



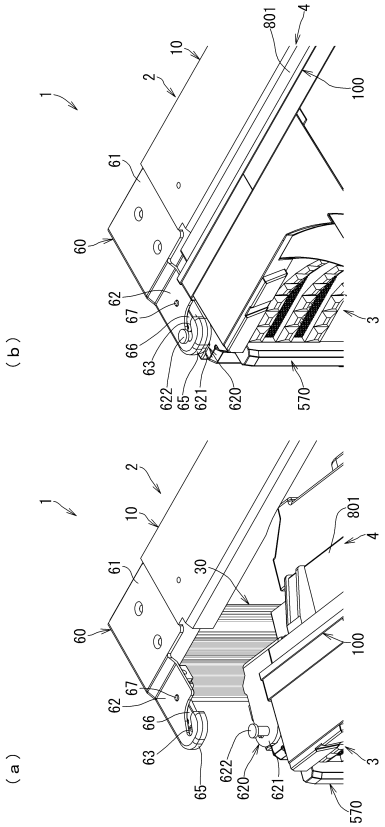
【図１５】



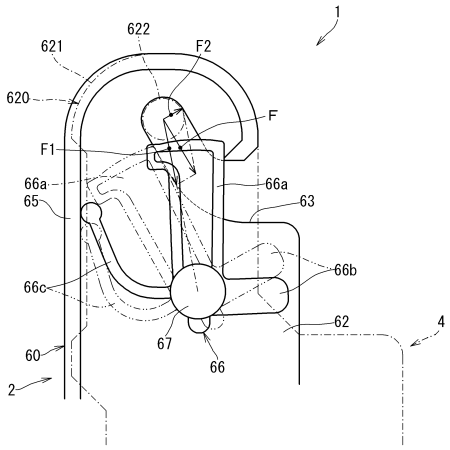
【図１６】



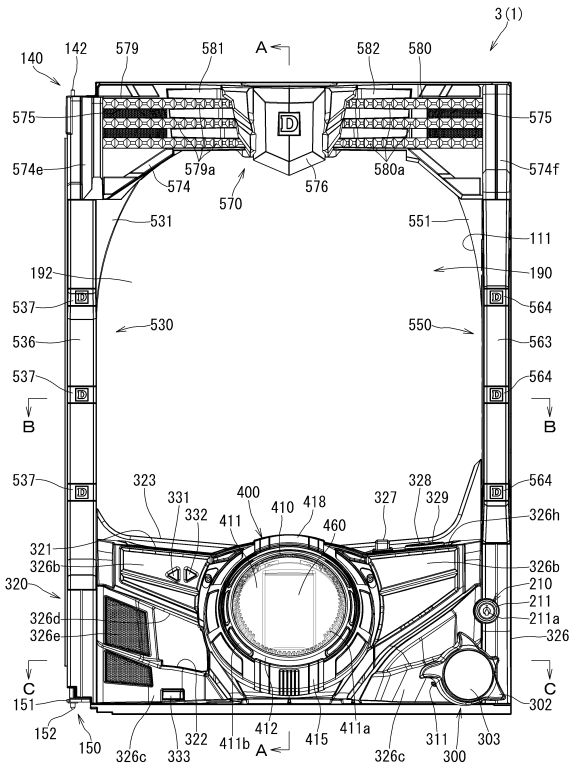
【図１７】



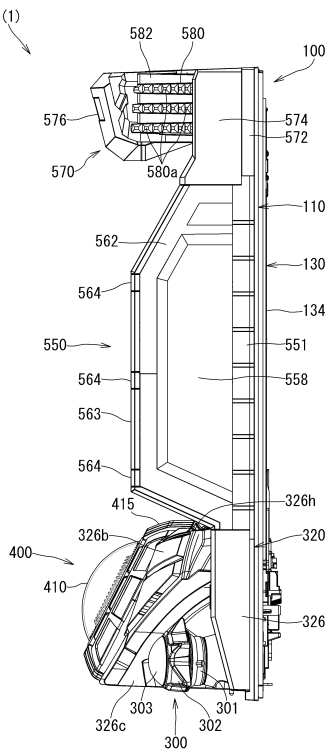
【図１８】



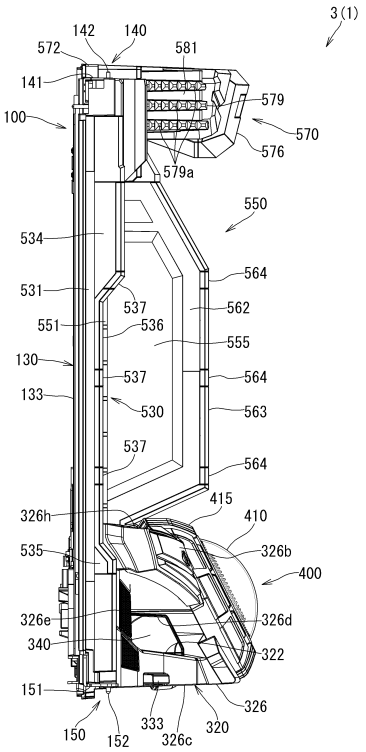
【図１９】



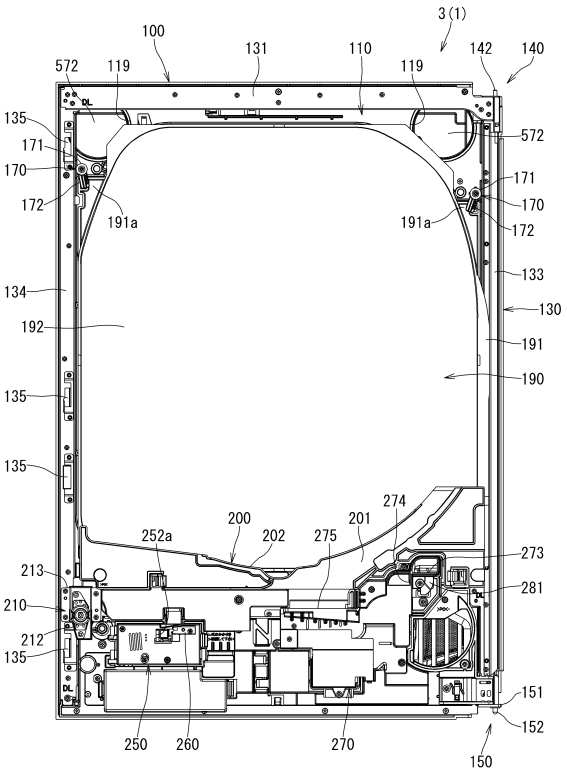
【図２０】



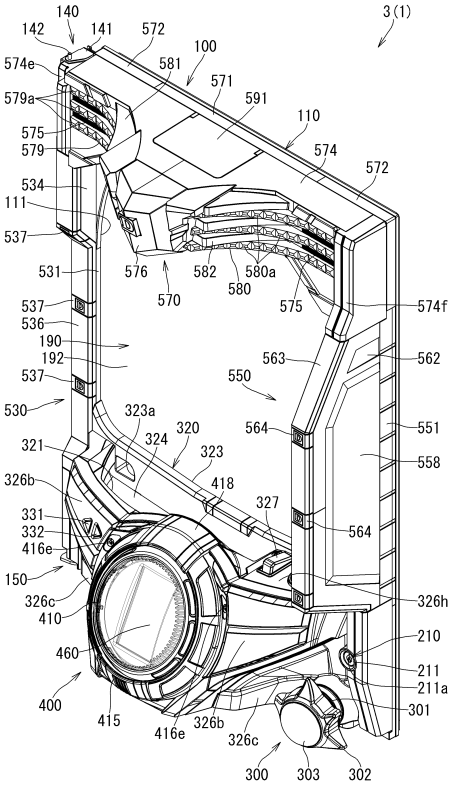
【図２１】



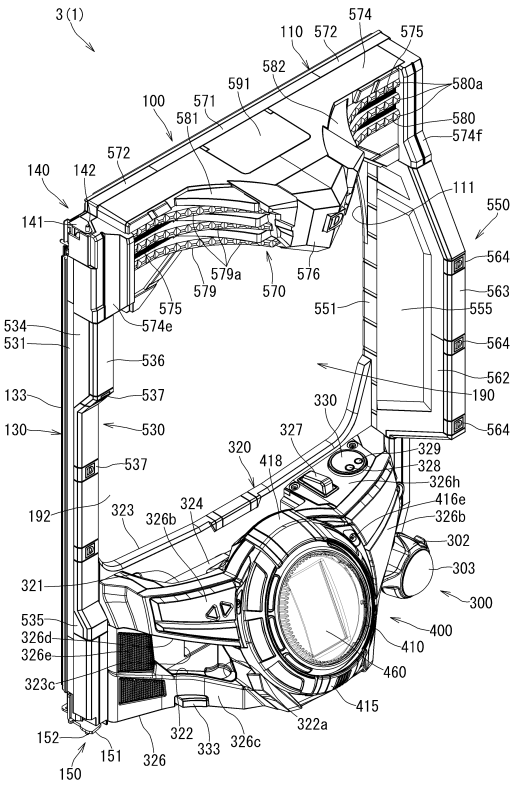
【図２２】



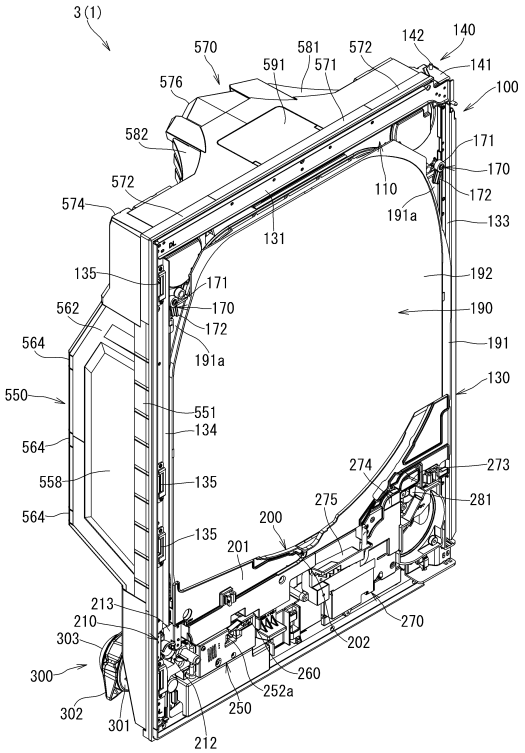
【図２３】



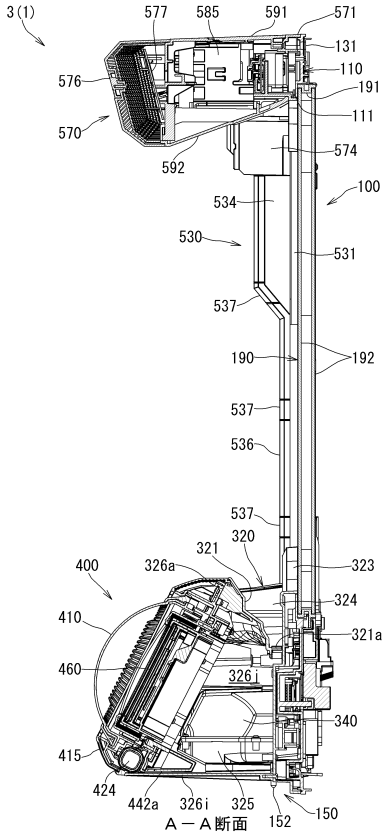
【図２４】



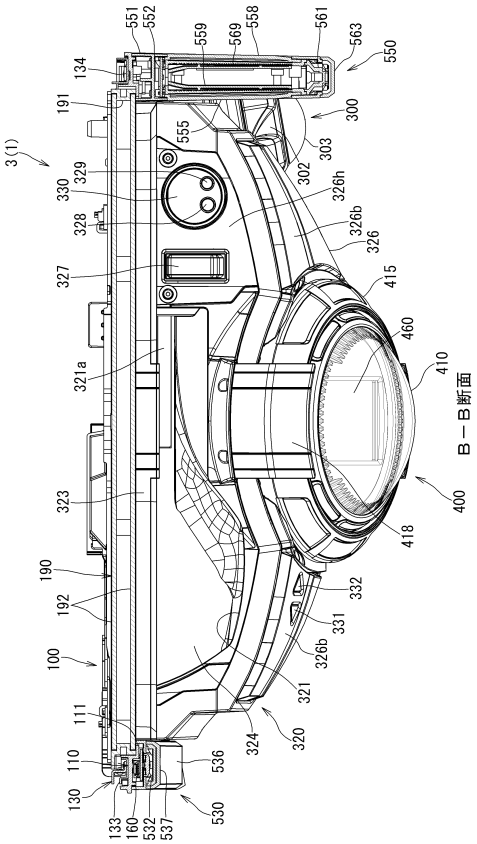
【図２５】



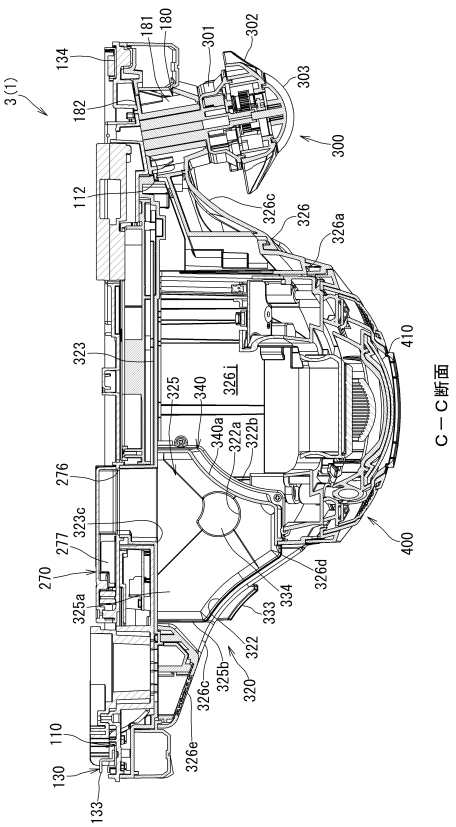
【図２６】



【図２７】

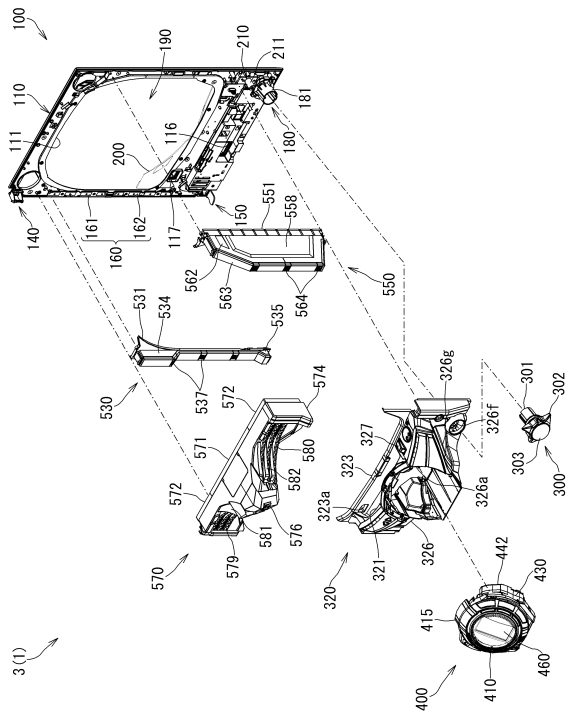


【図２８】

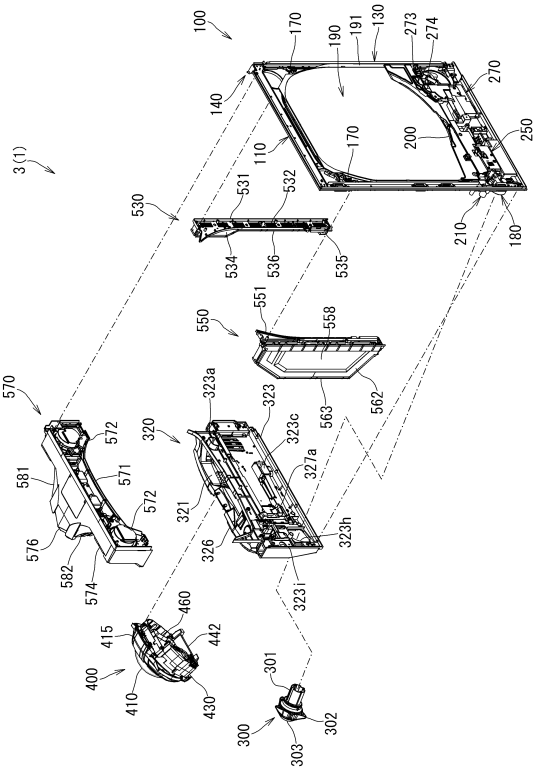


【図２８】

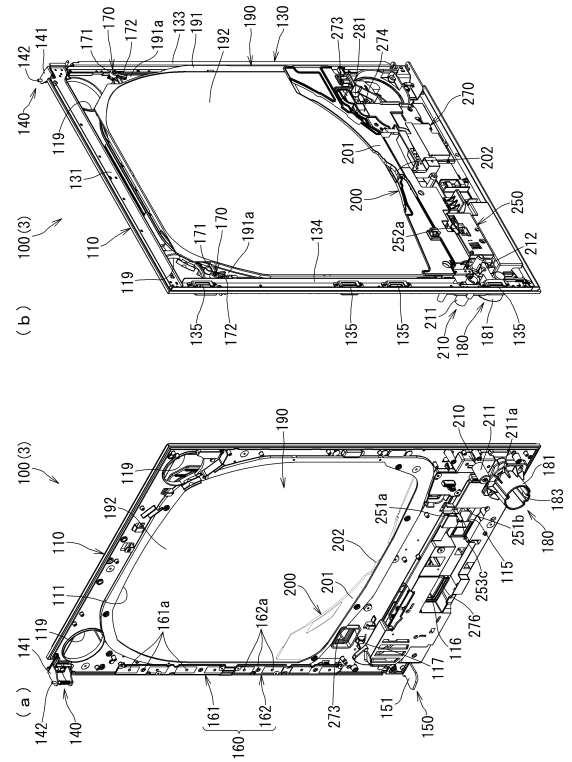
【図２９】



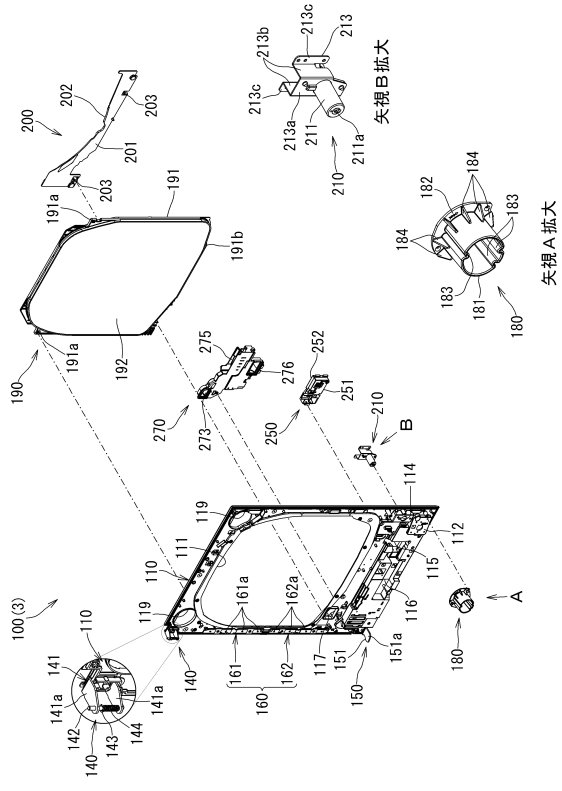
【図３０】



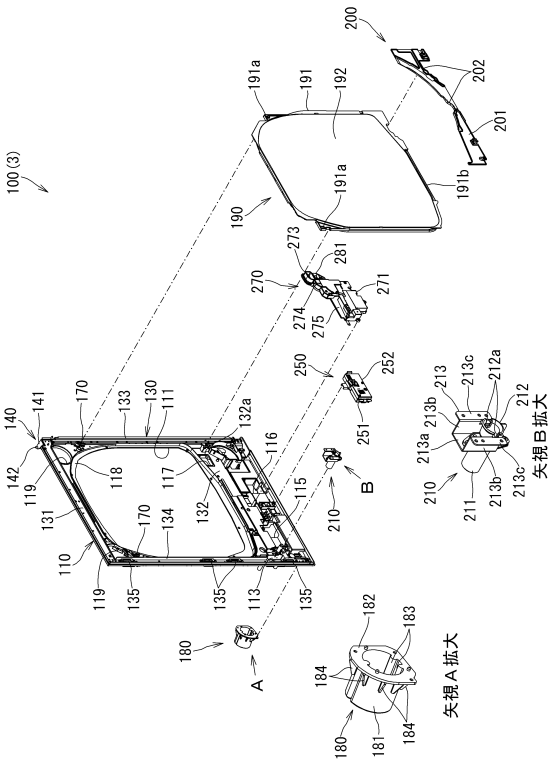
【図３１】



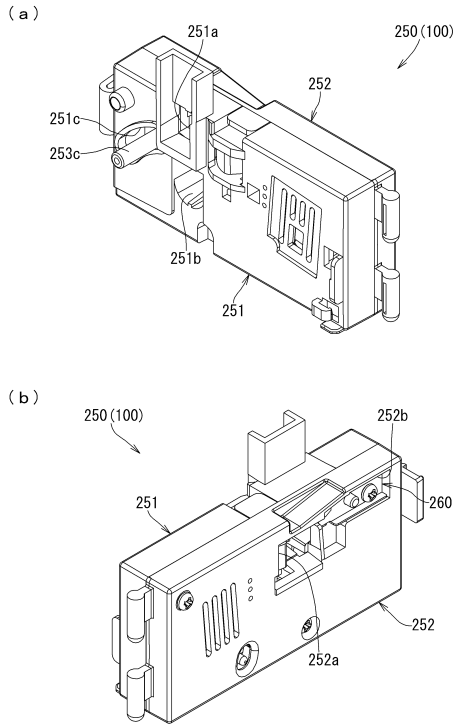
【図３２】



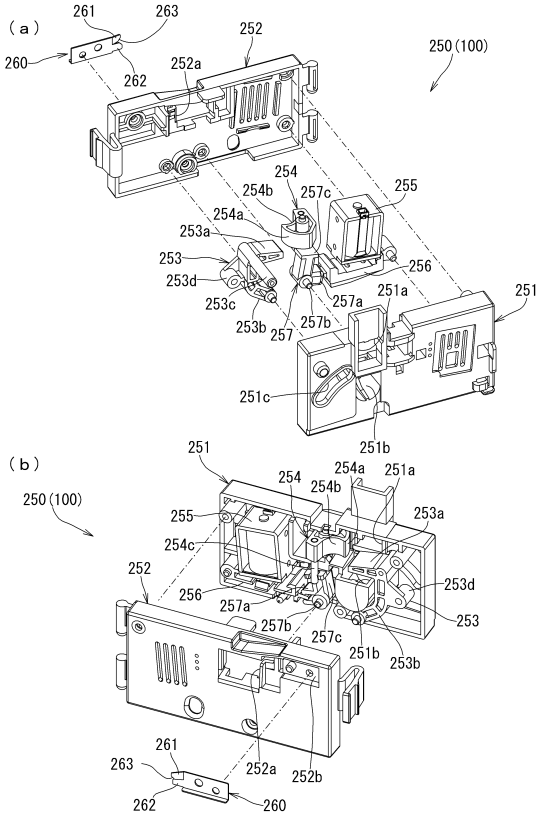
【図３３】



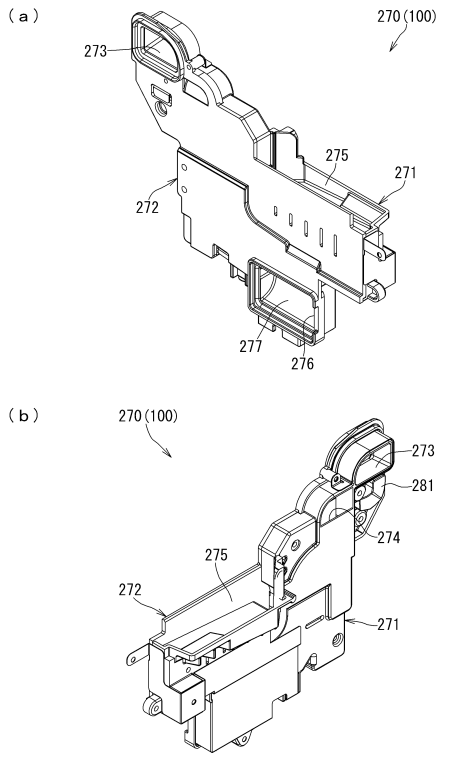
【図３４】



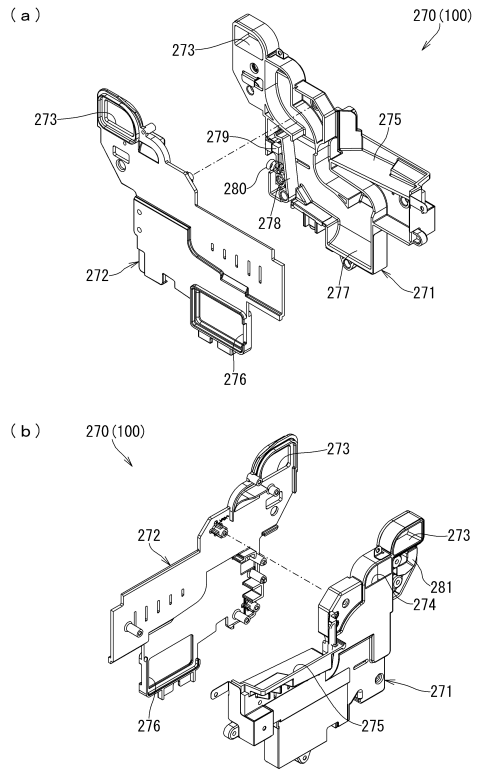
【図３５】



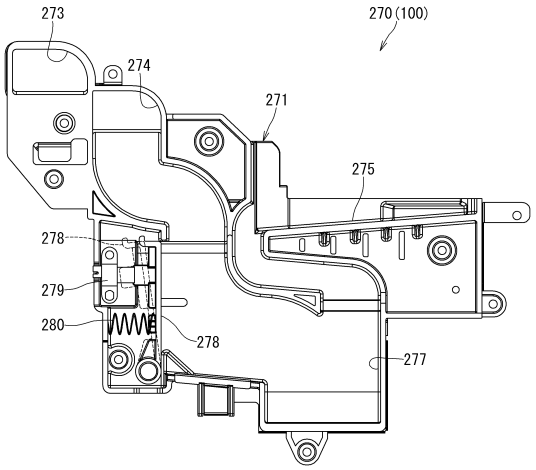
【図３６】



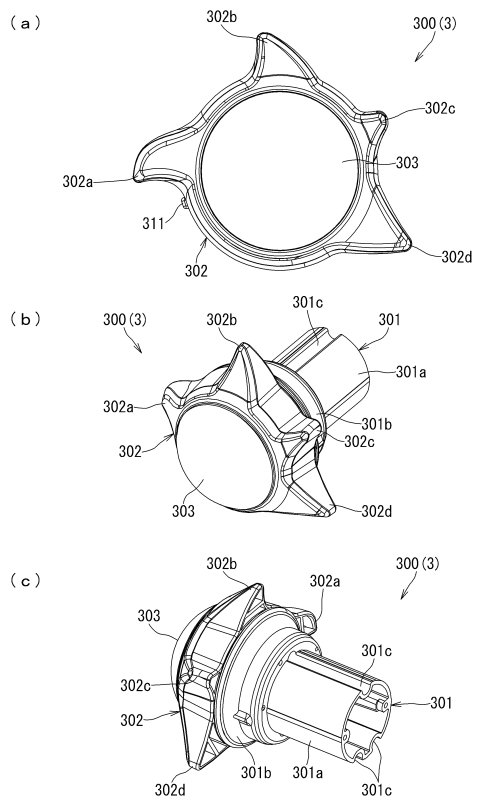
【図３７】



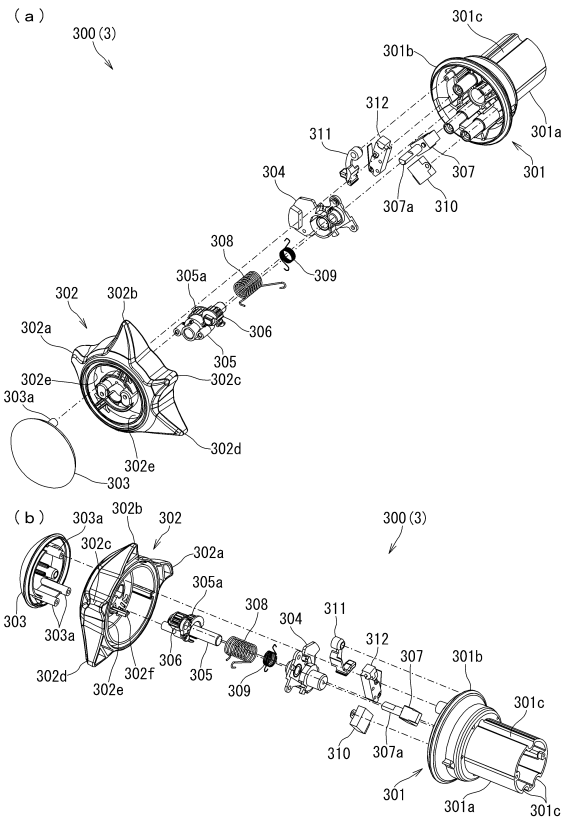
【図３８】



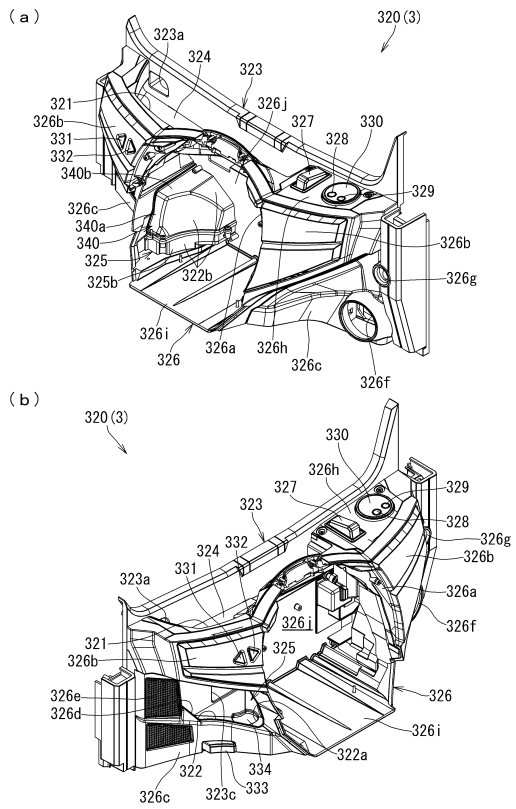
【図３９】



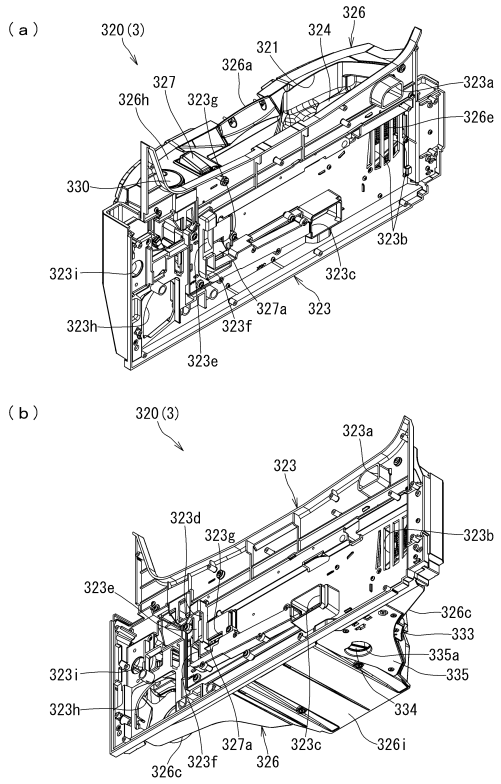
【図４０】



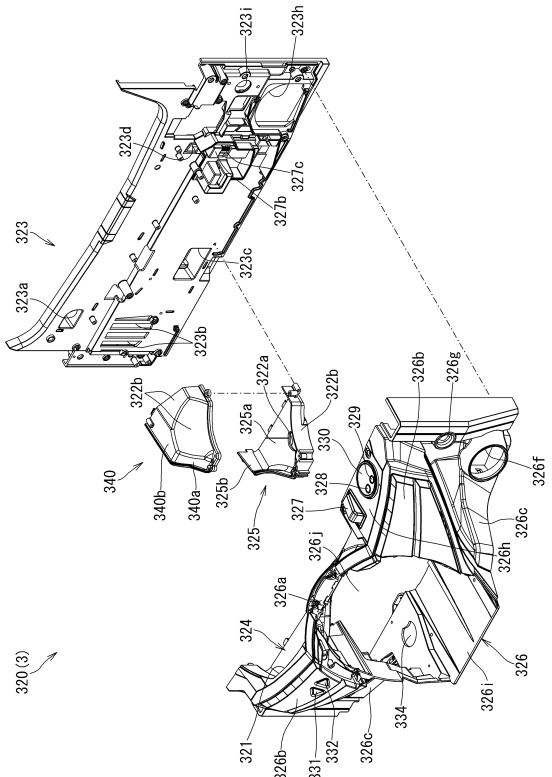
【図４１】



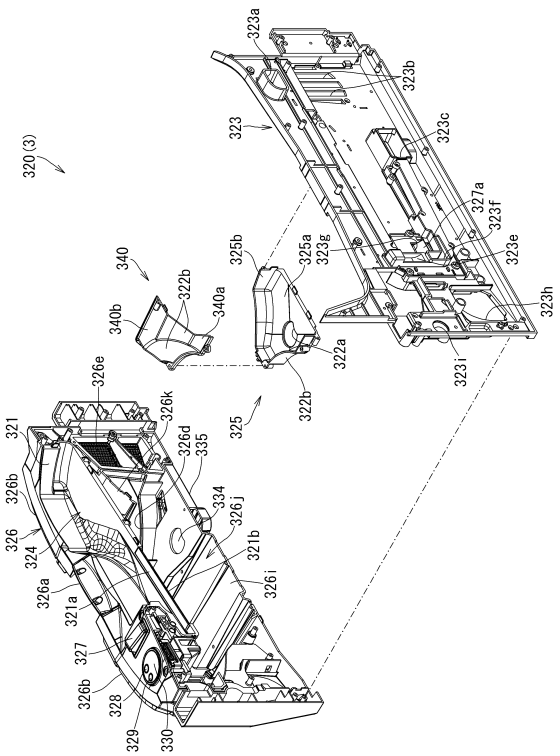
【図４２】



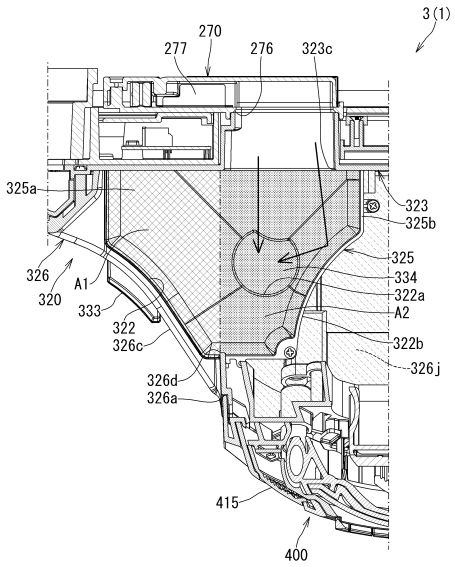
【図４３】



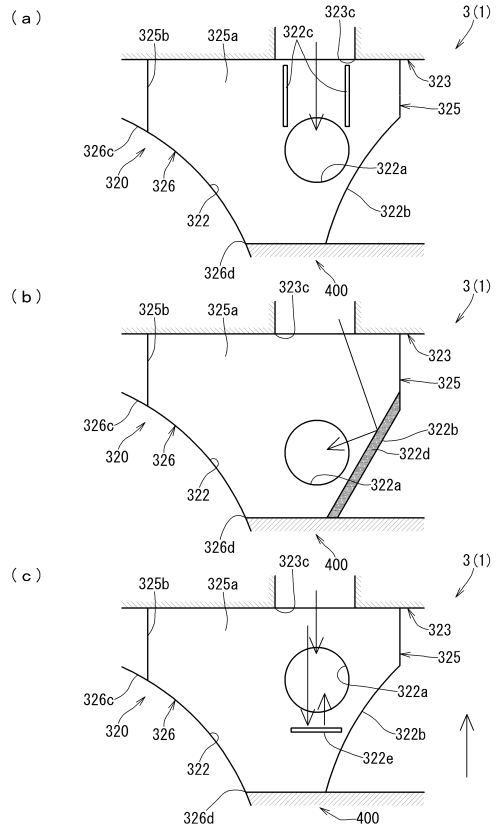
【図４４】



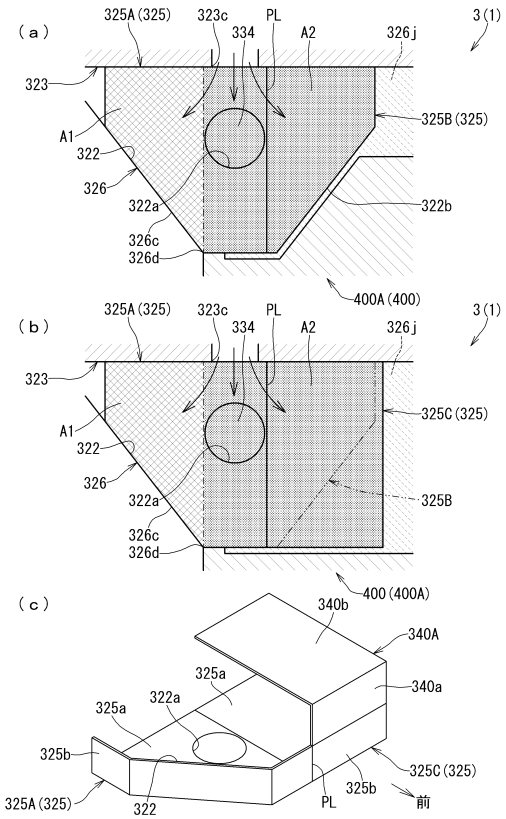
【図４５】



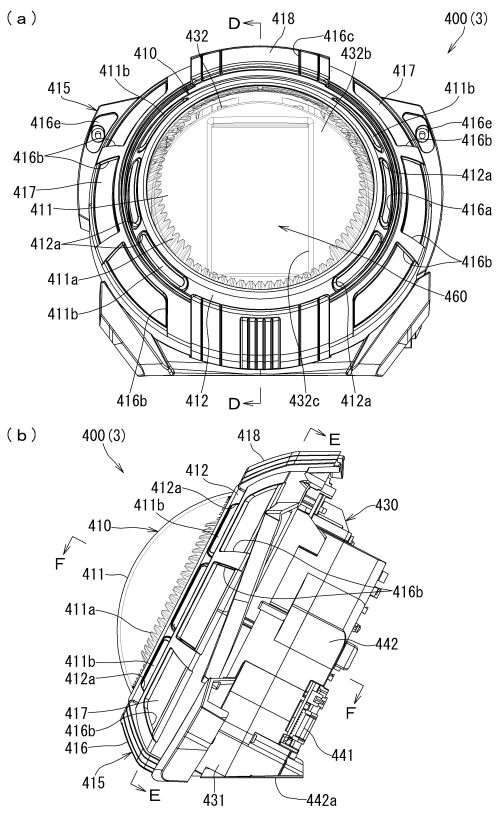
【図４６】



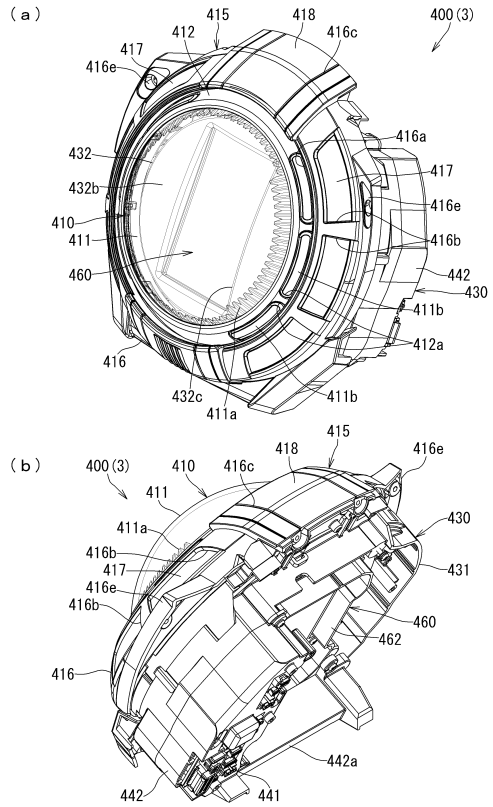
【図４７】



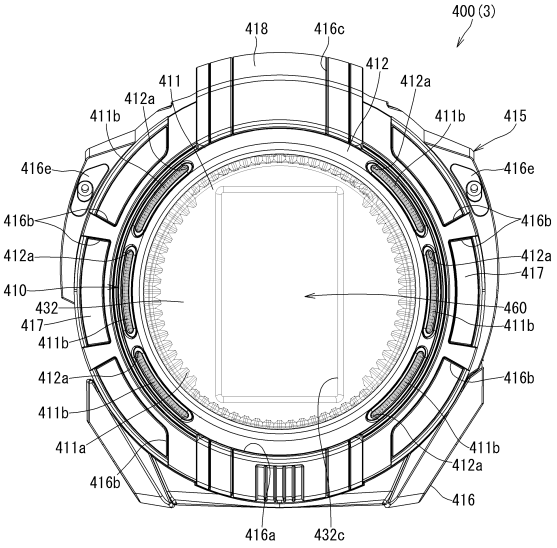
【図４８】



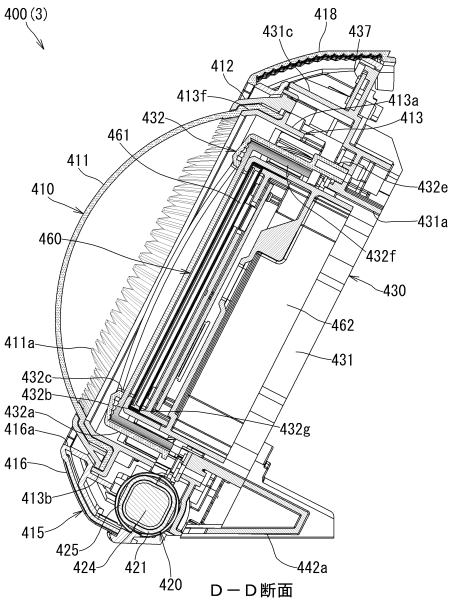
【図４９】



【図５０】

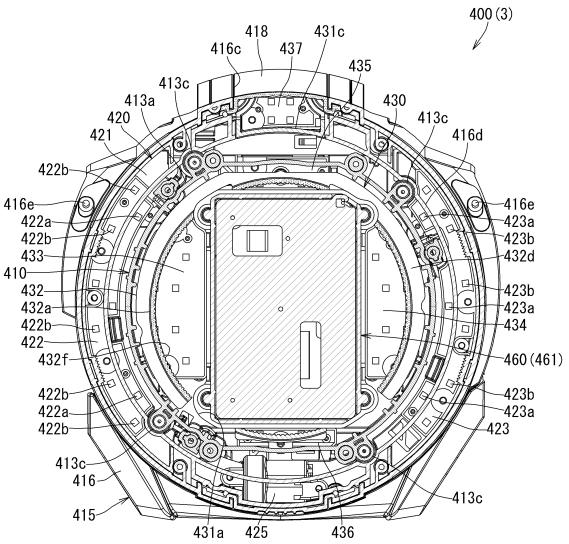


【図５１】



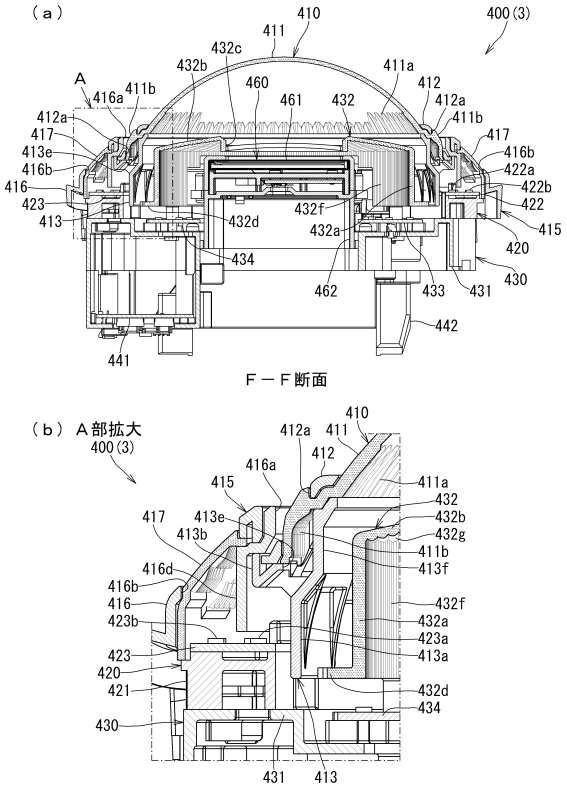
D－D断面

【図５２】

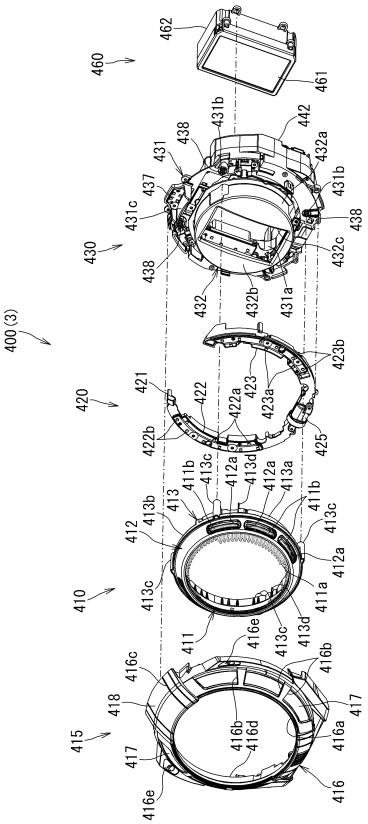


E－E断面

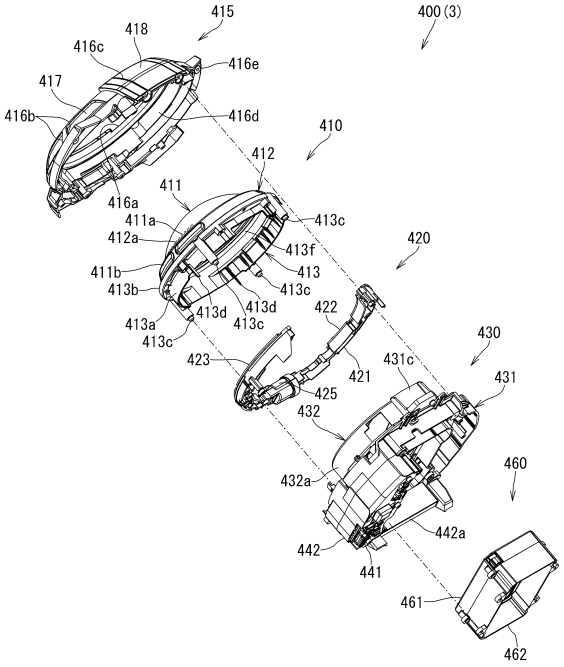
【図５３】



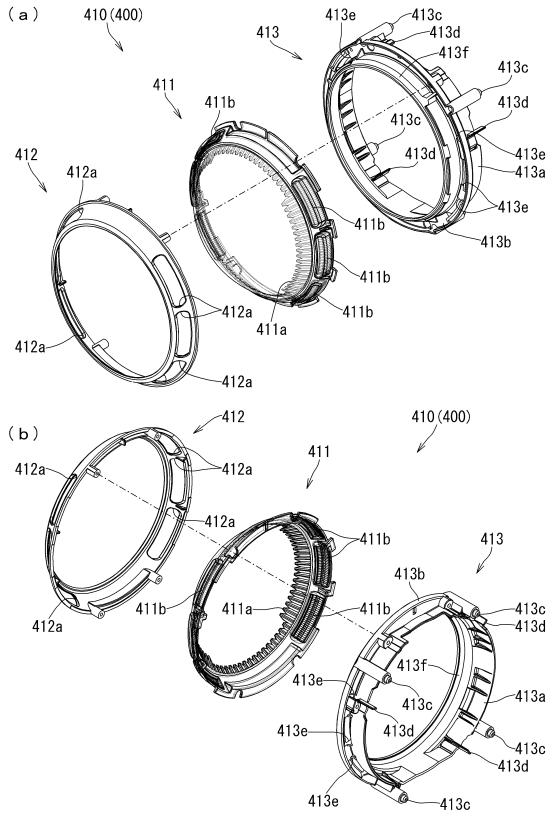
【図５４】



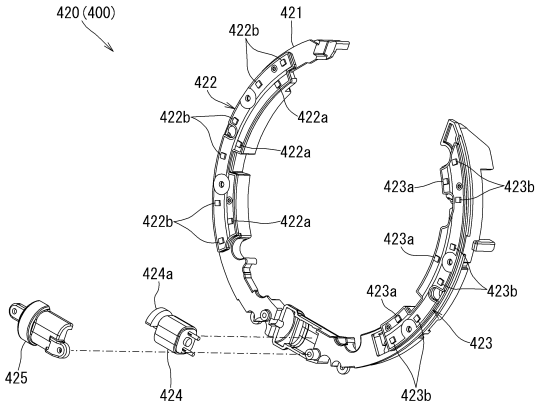
【図５５】



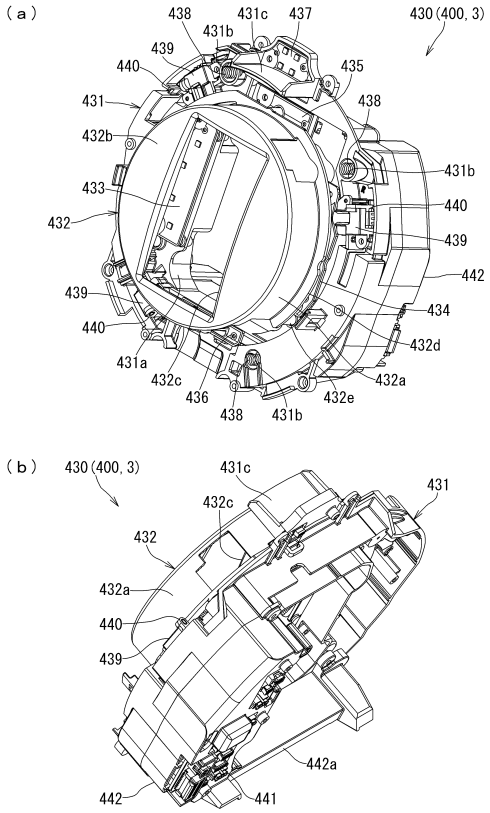
【図５６】



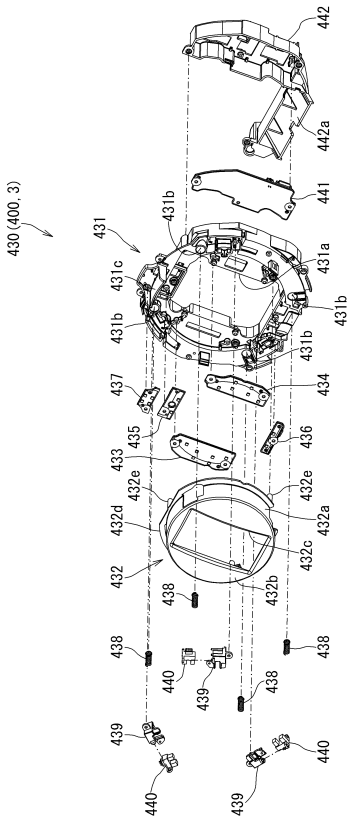
【図５７】



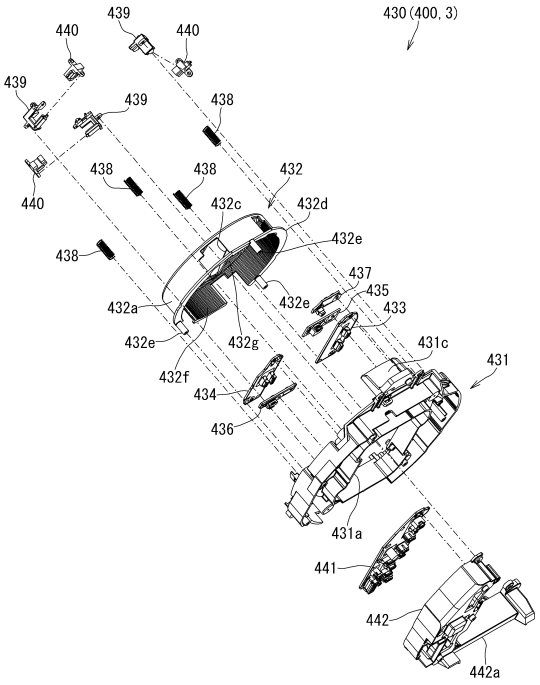
【図５８】



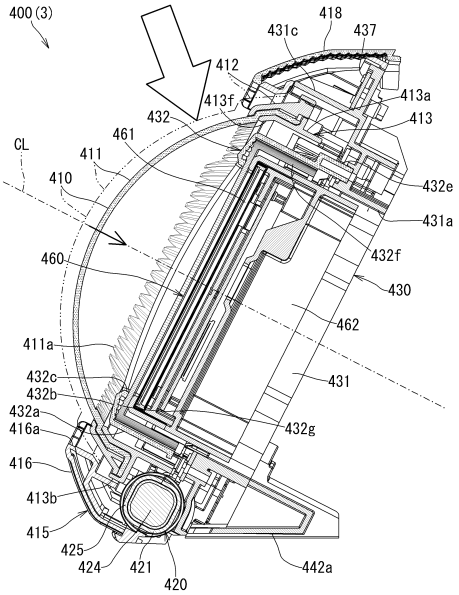
【図５９】



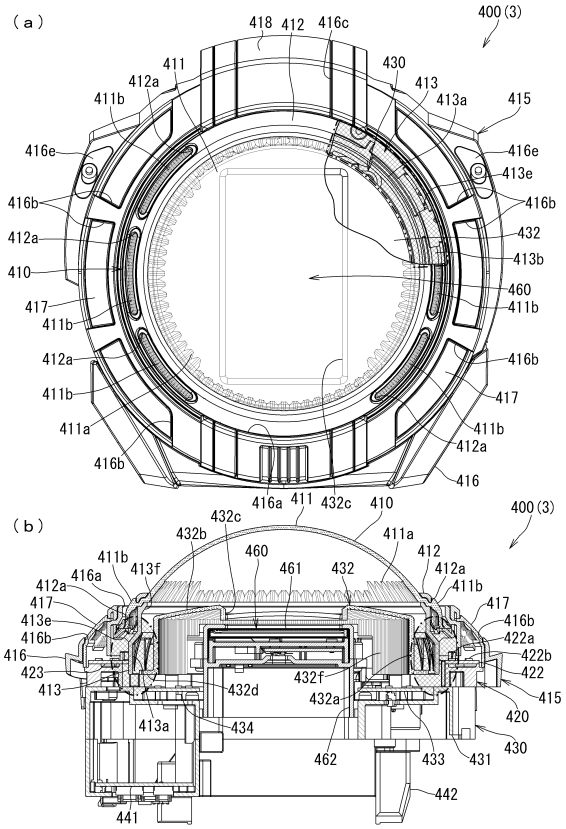
【図６０】



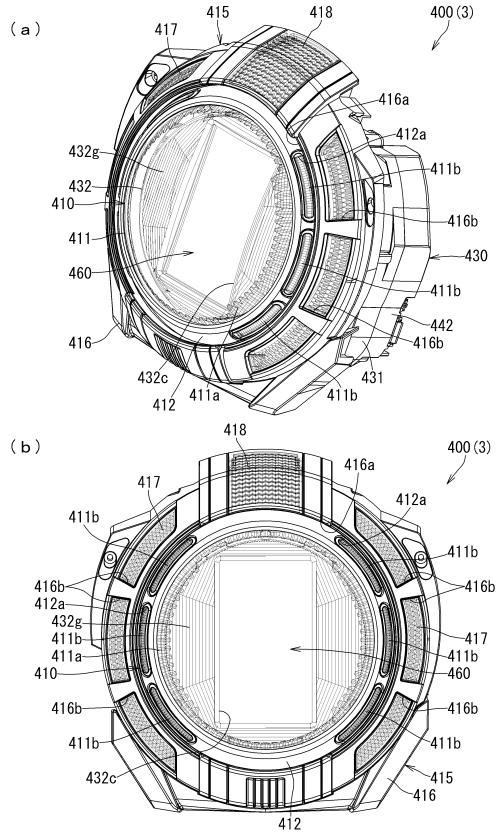
【図６１】



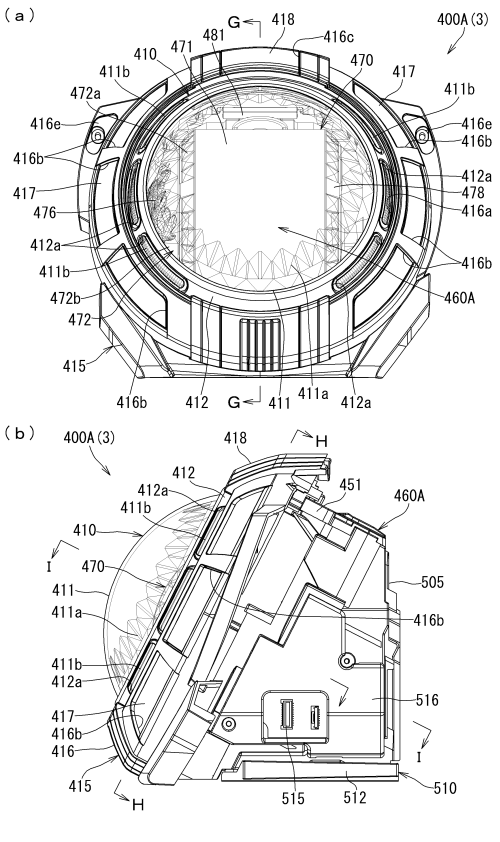
【図６２】



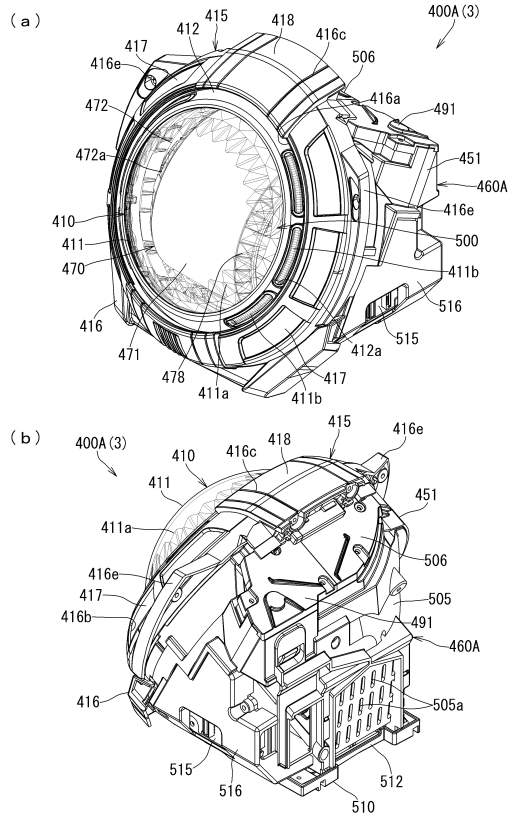
【図６３】



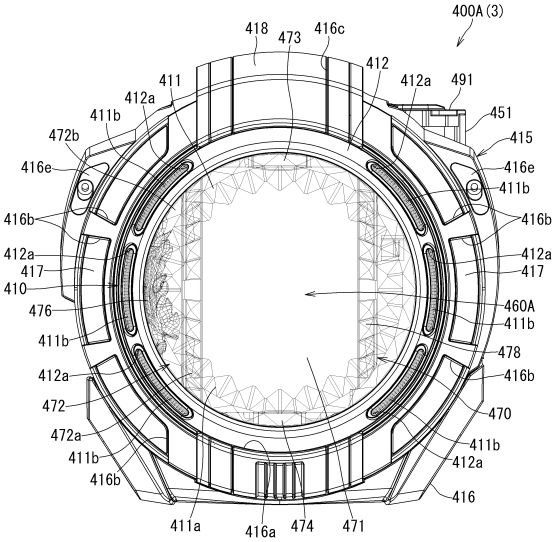
【図６４】



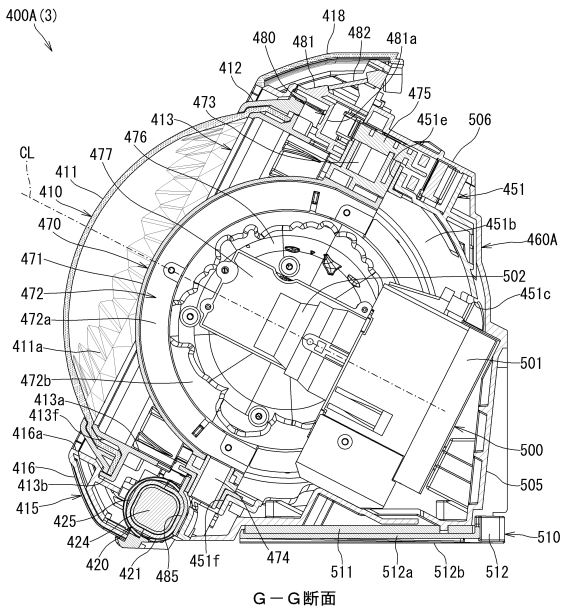
【図６５】



【図６６】

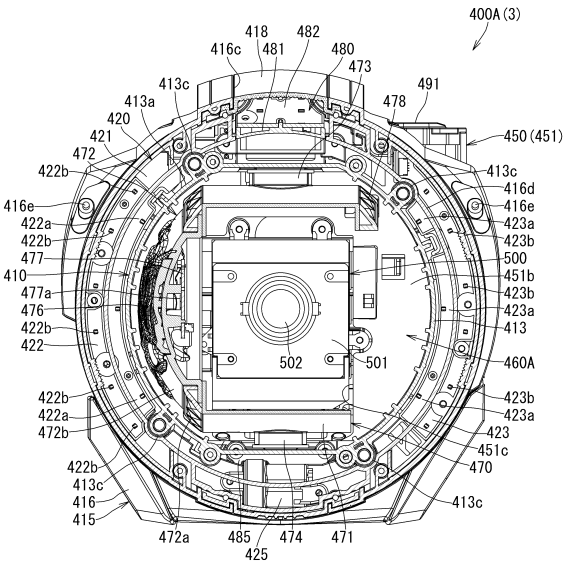


【図６７】



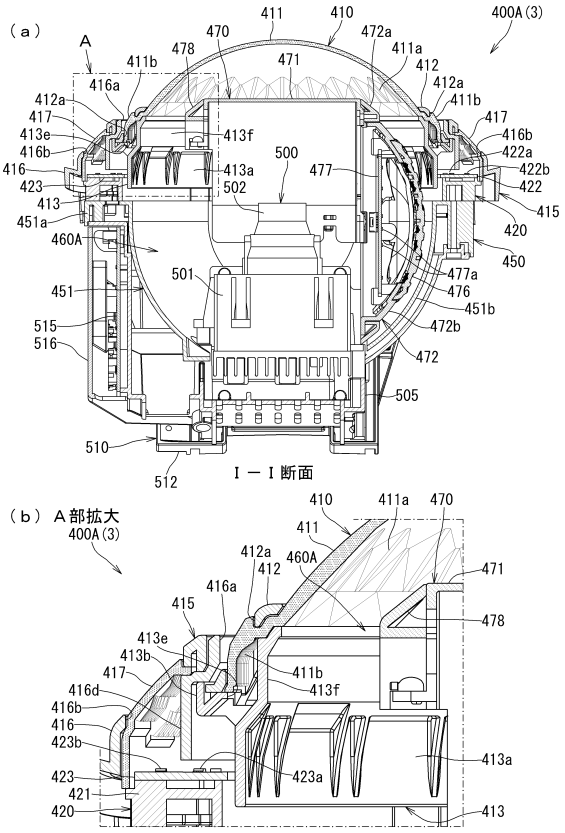
G－G断面

【図６８】

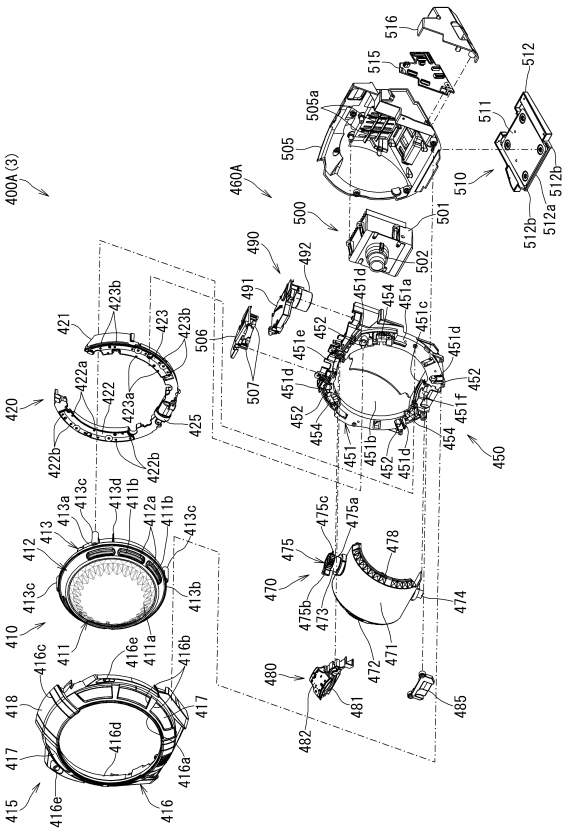


H－H断面

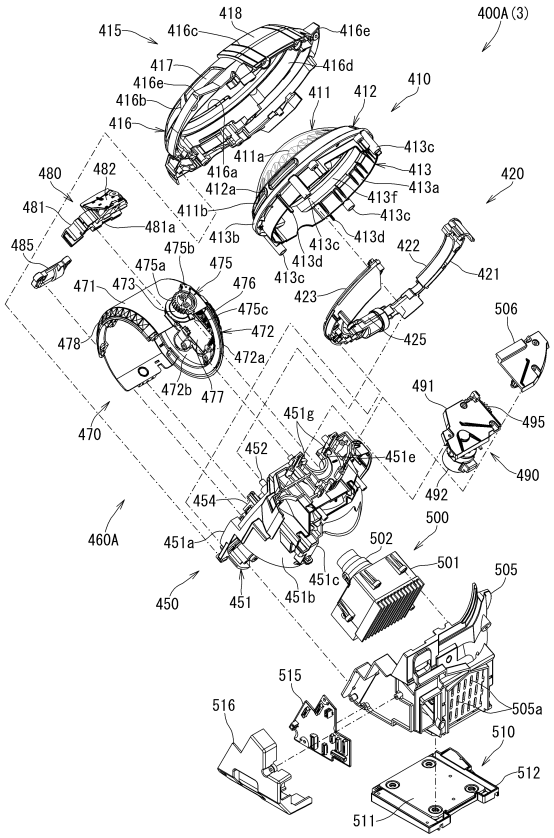
【図６９】



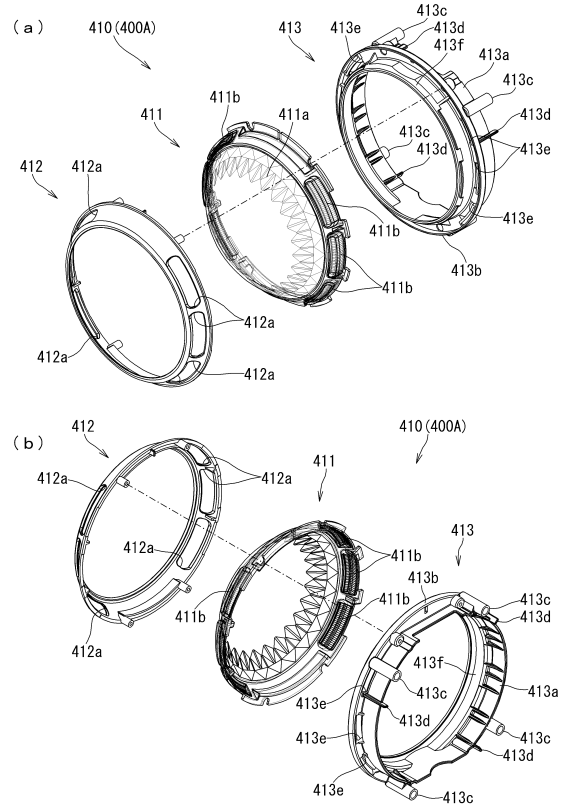
【図７０】



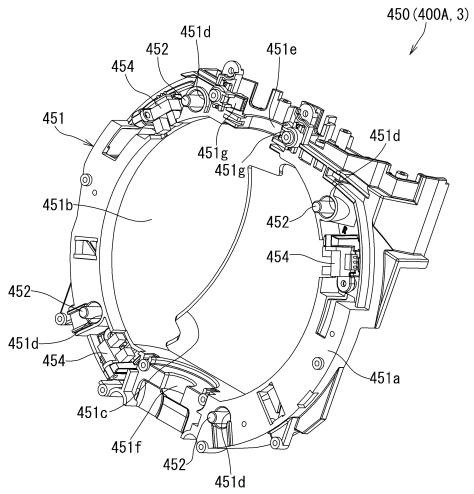
【図７１】



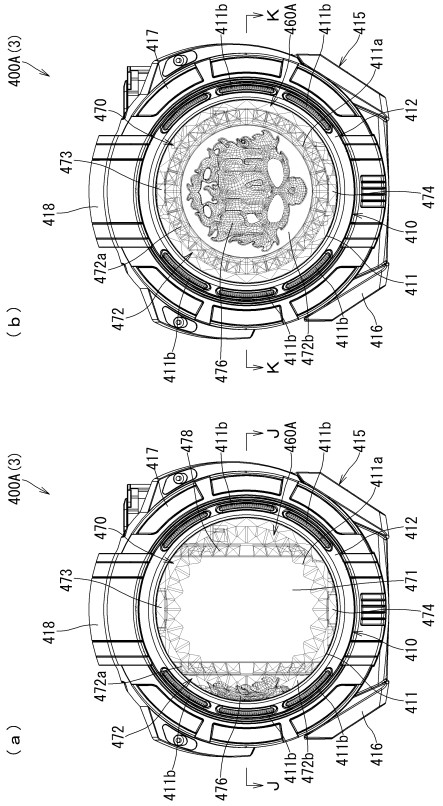
【図７２】



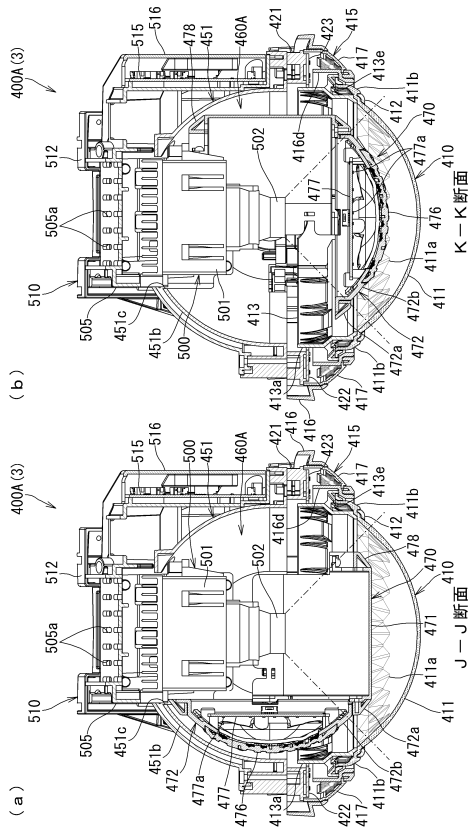
【図７３】



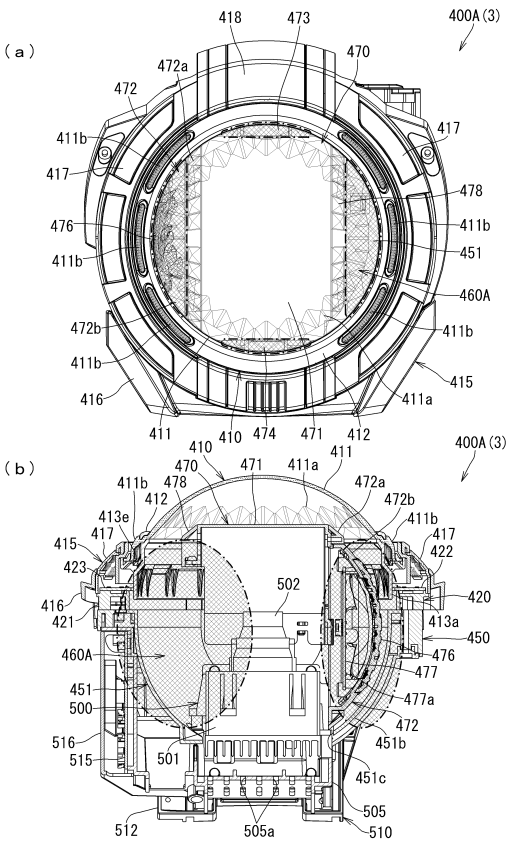
【図７４】



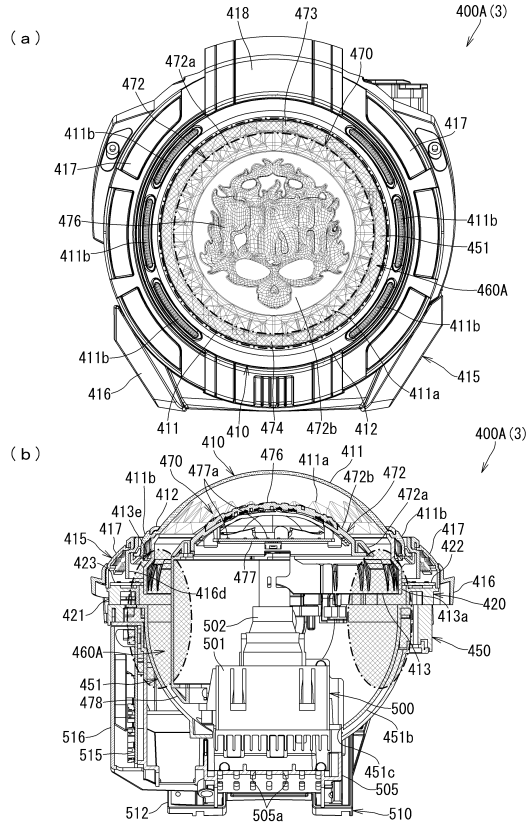
【図７５】



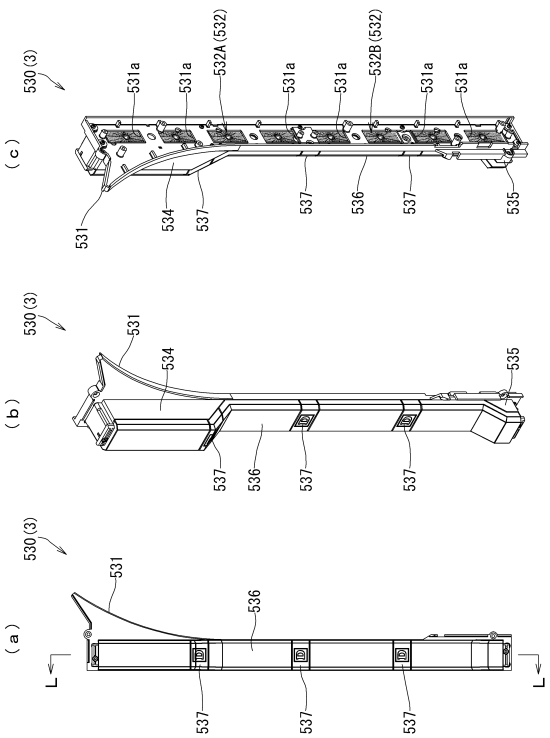
【図７６】



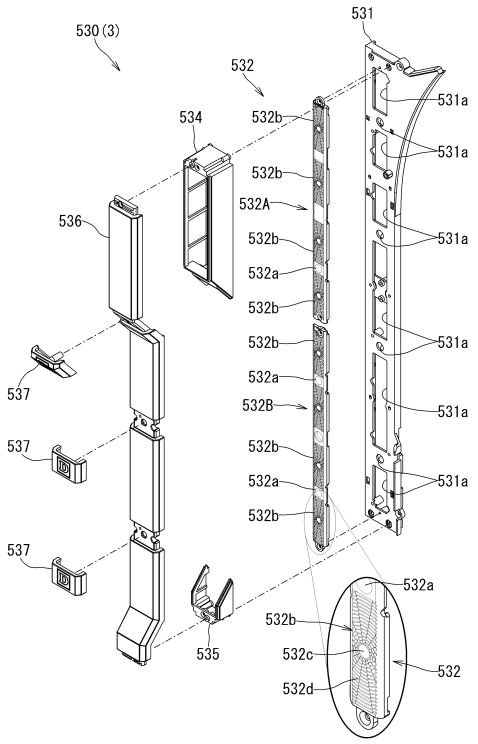
【図７７】



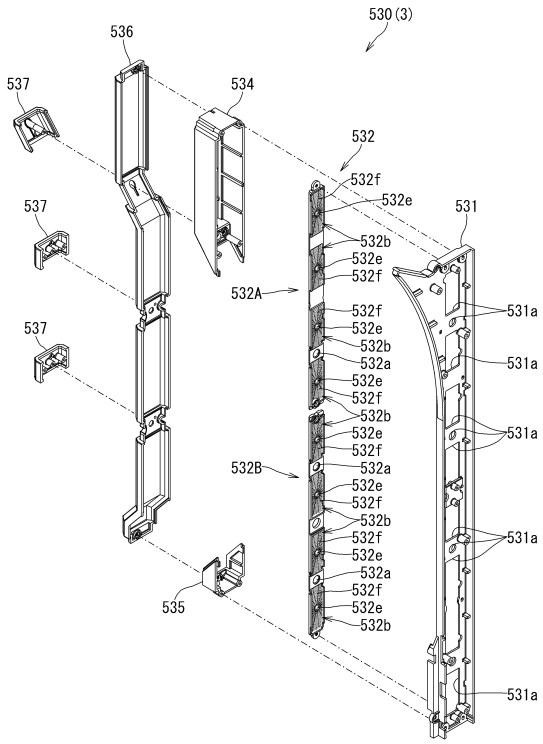
【図７８】



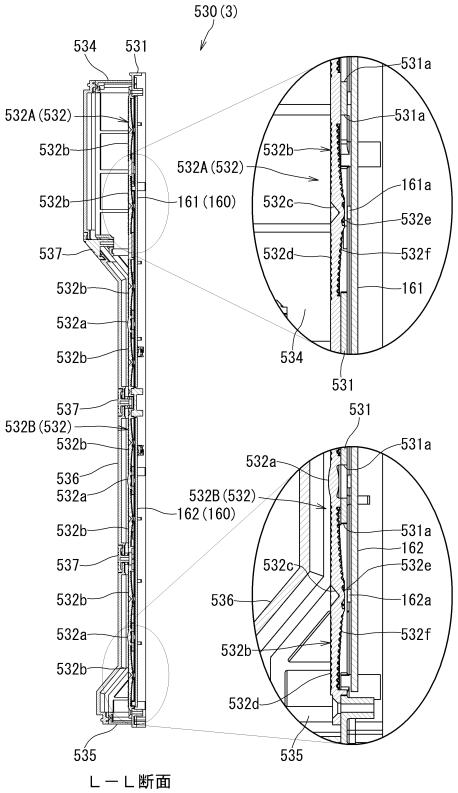
【図７９】



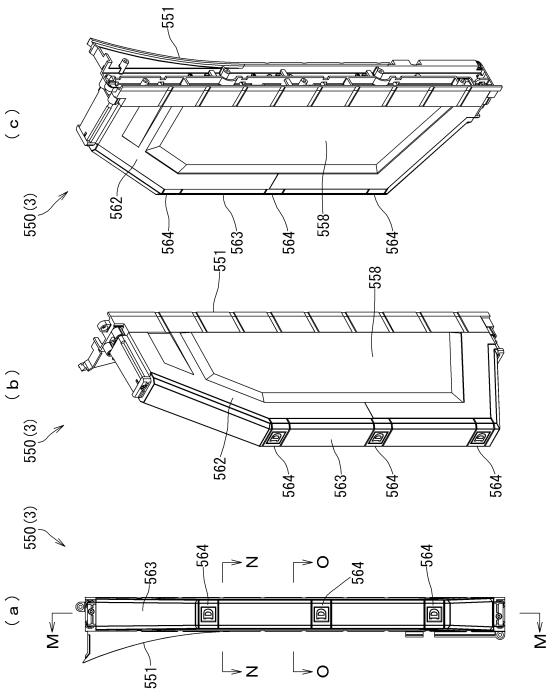
【図８０】



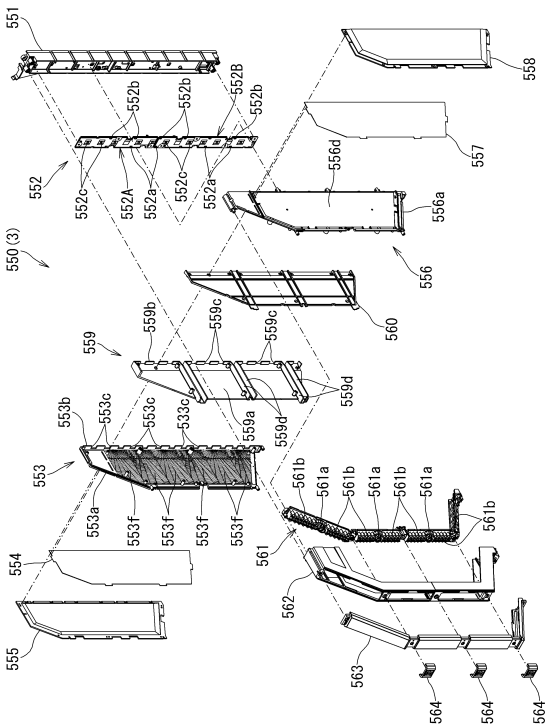
【図８１】



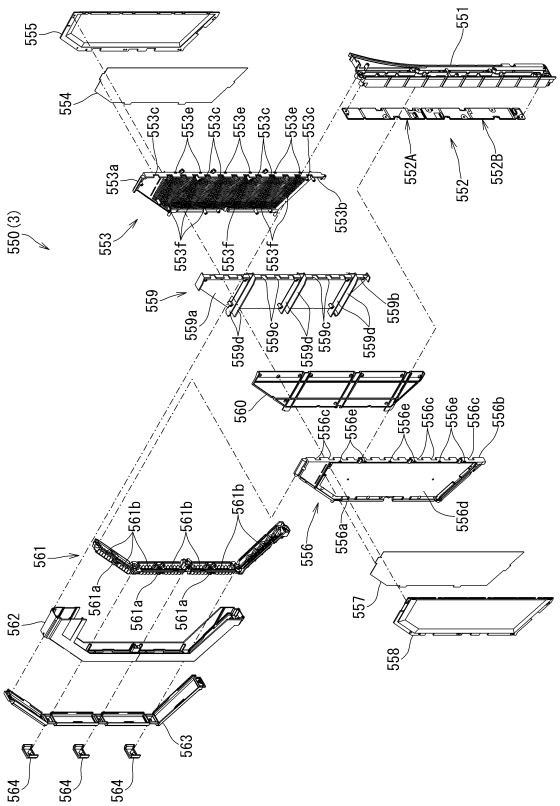
【図８２】



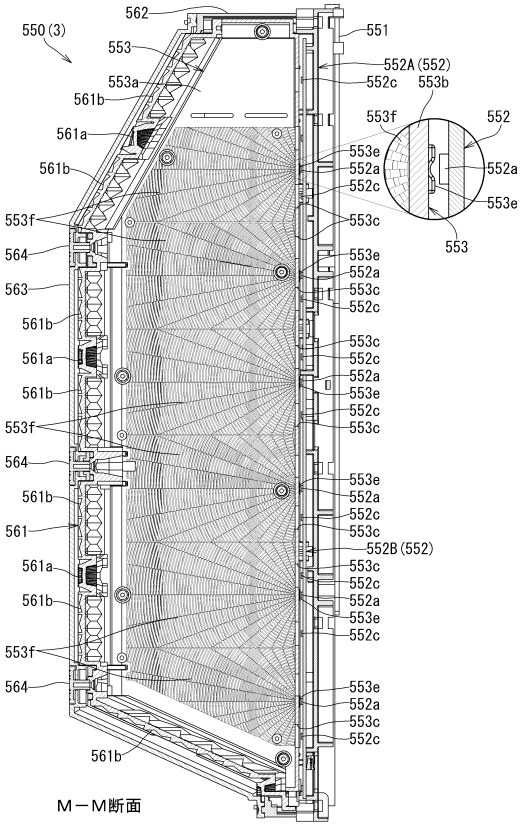
【図８３】



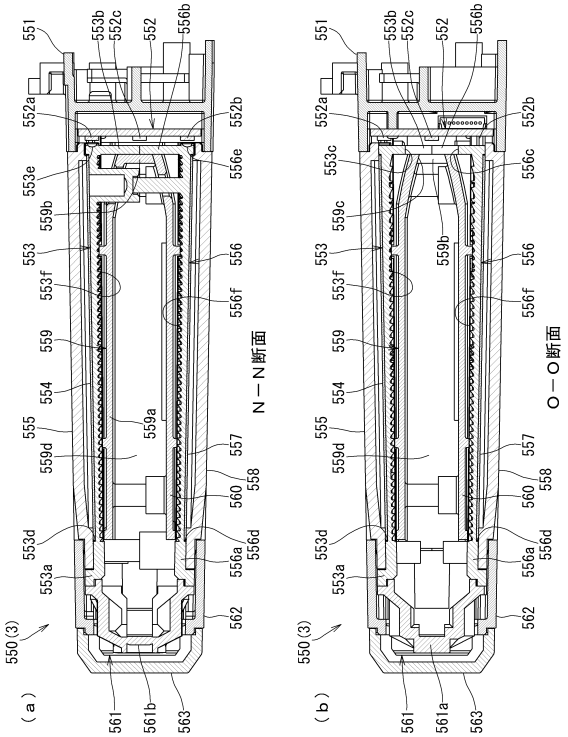
【図８４】



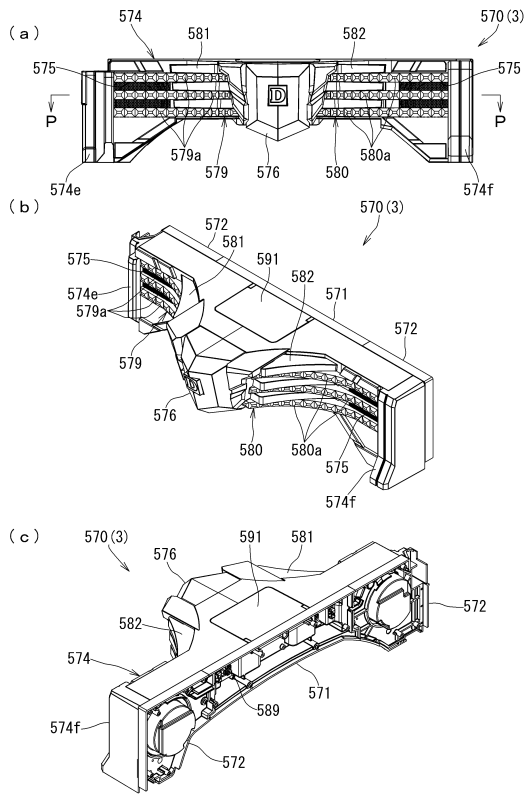
【図８５】



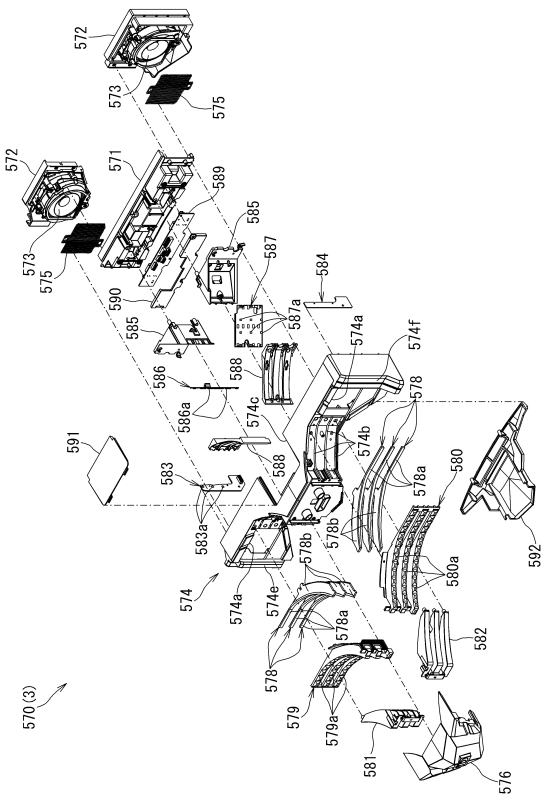
【図８６】



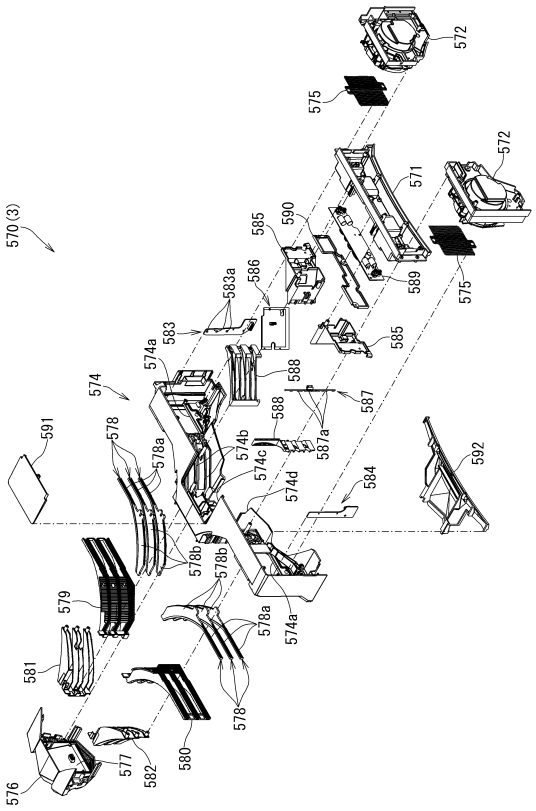
【図８７】



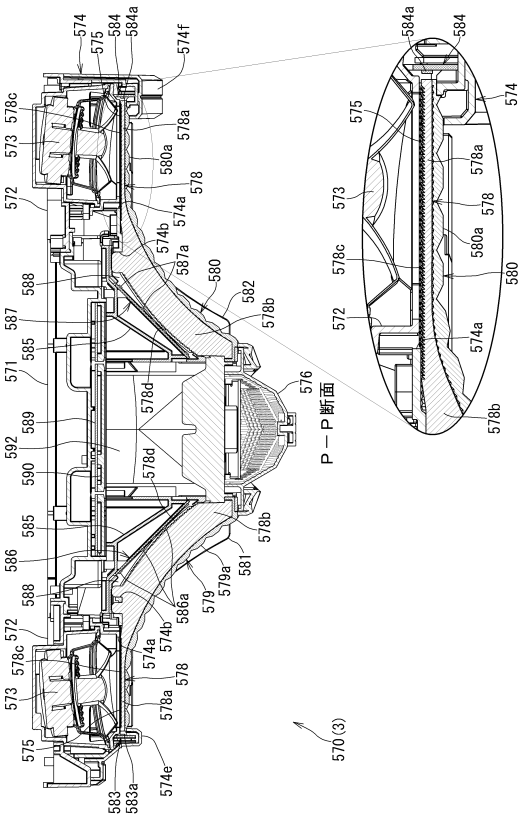
【図８８】



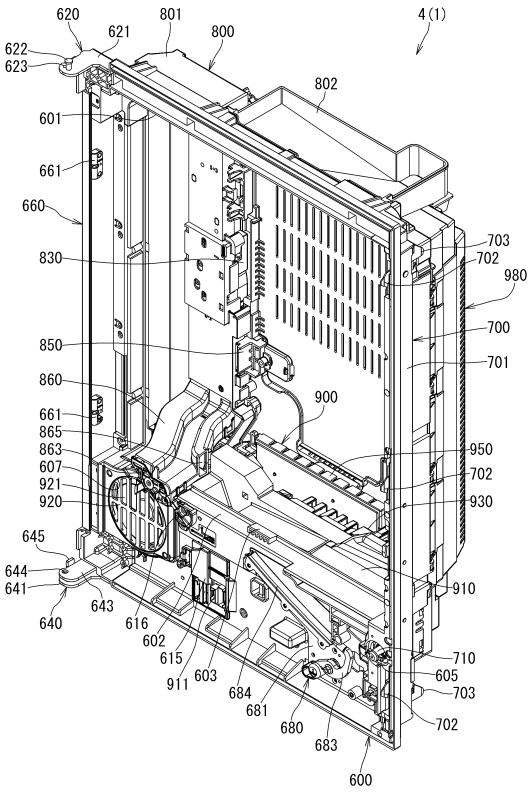
【図８９】



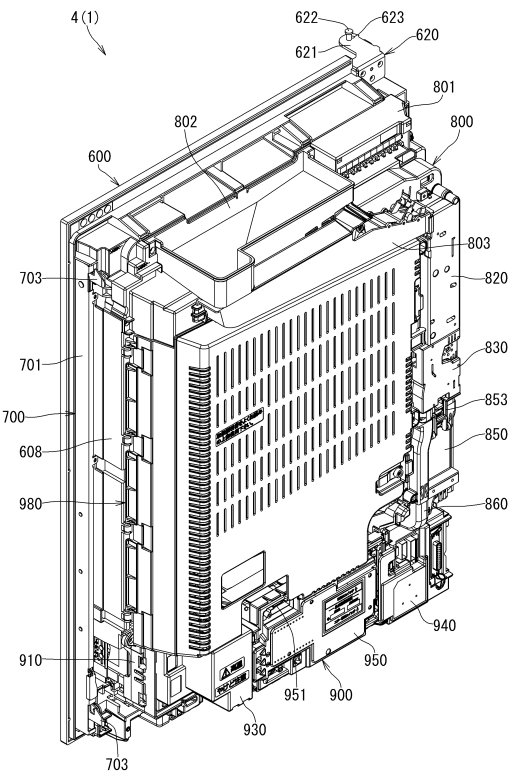
【図９０】



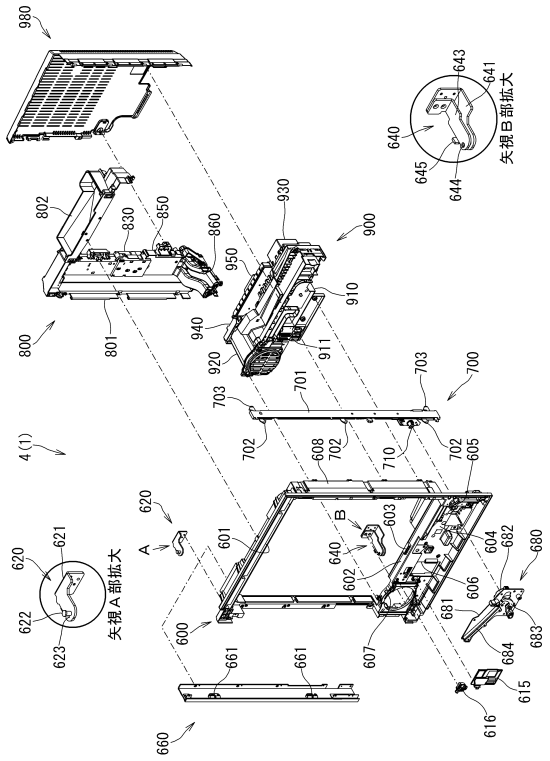
【図９１】



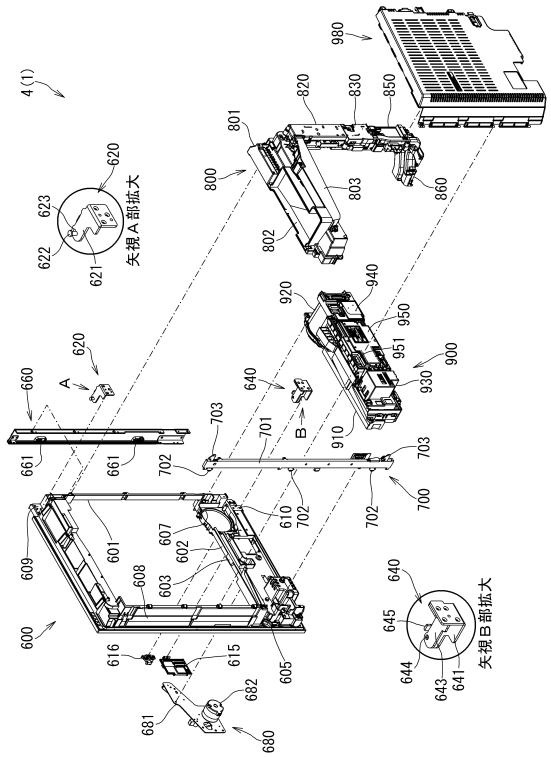
【図９２】



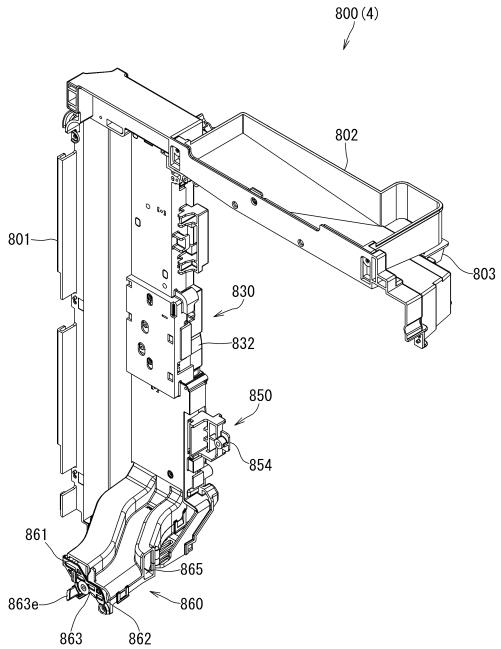
【図９３】



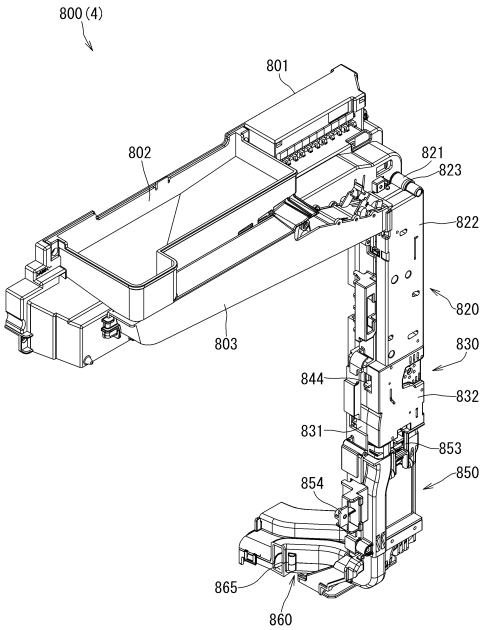
【図９４】



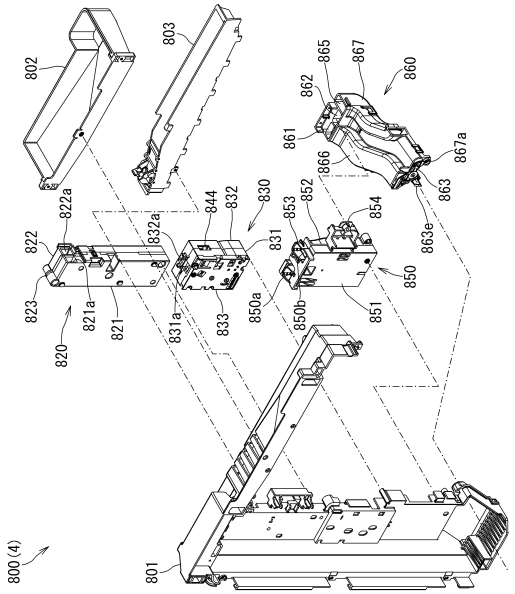
【図９５】



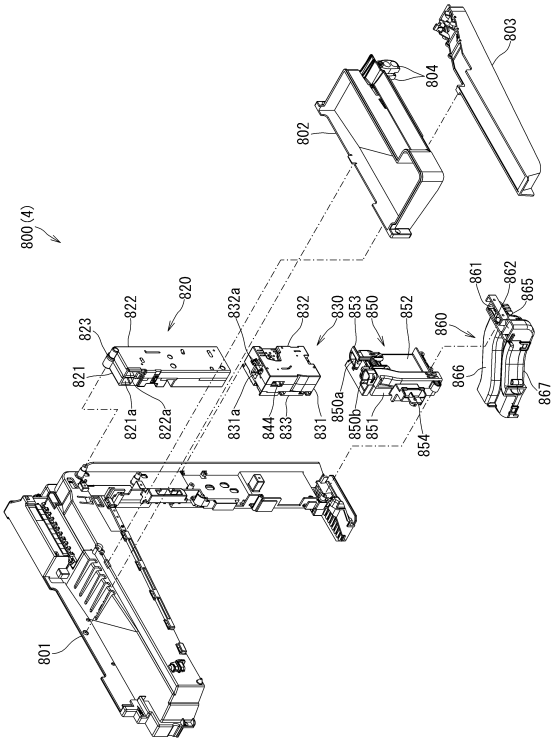
【図９６】



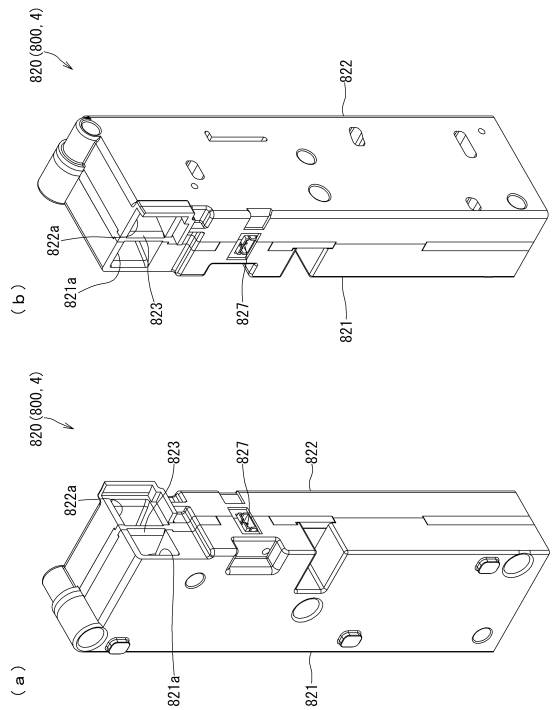
【図９７】



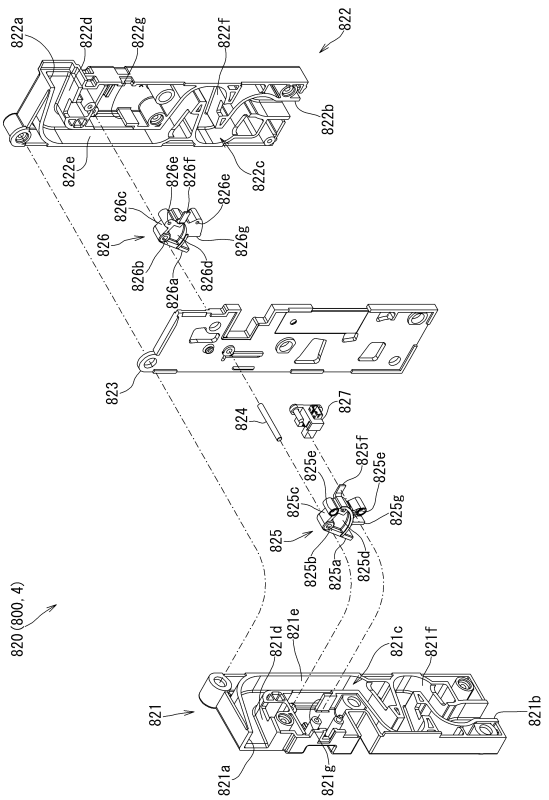
【図９８】



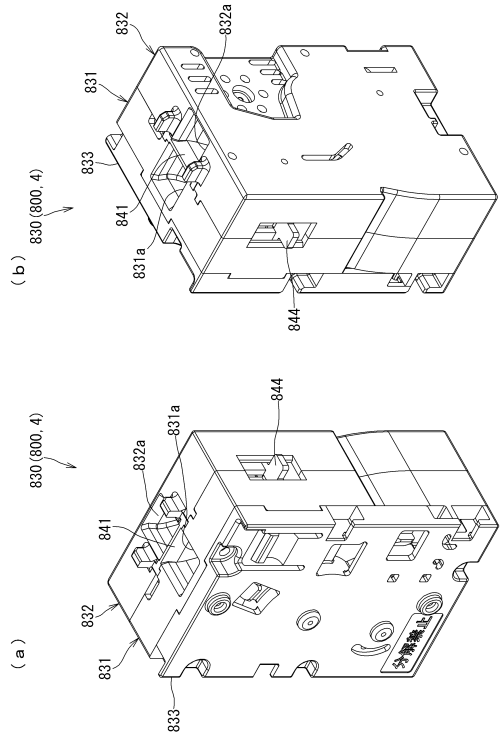
【図９９】



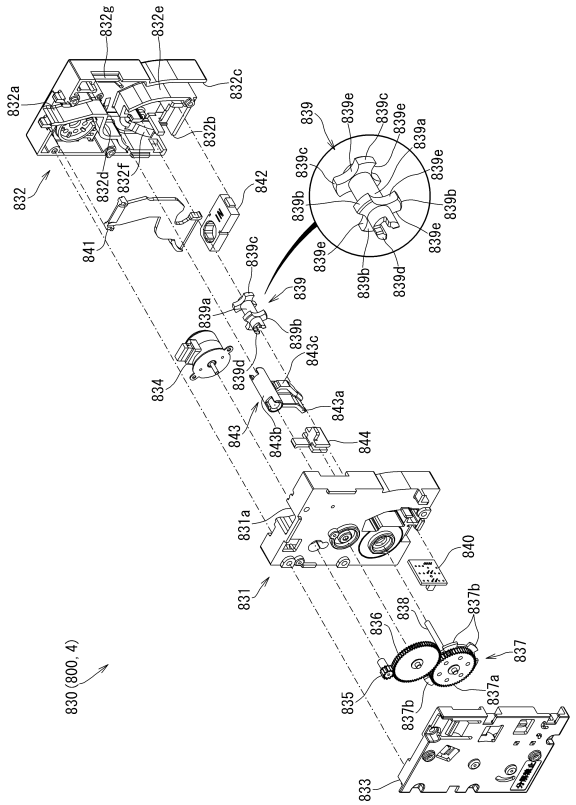
【図１００】



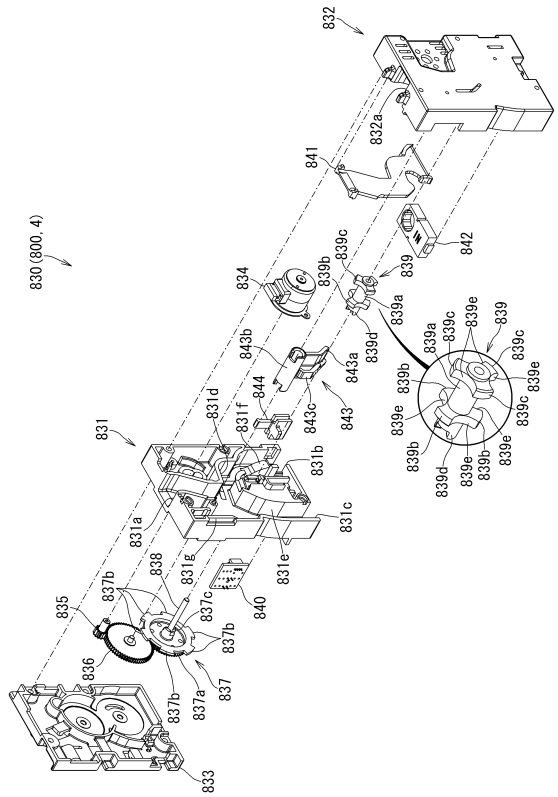
【図１０１】



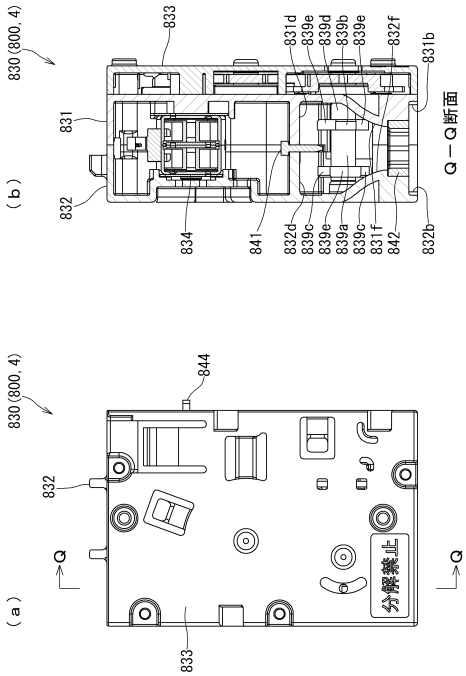
【図１０２】



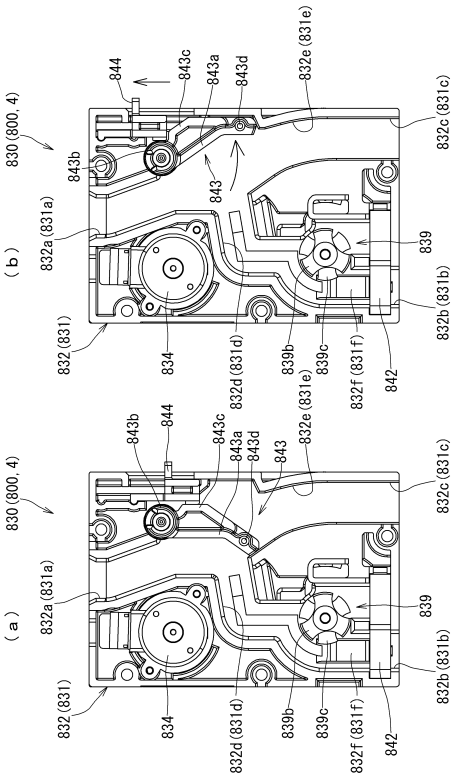
【図１０３】



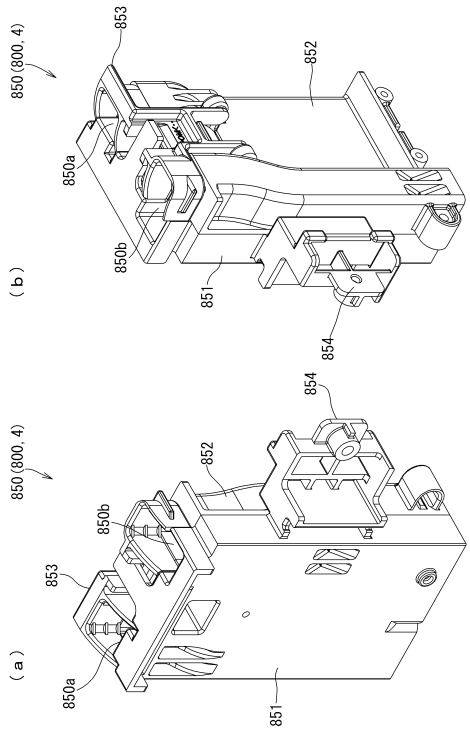
【図１０４】



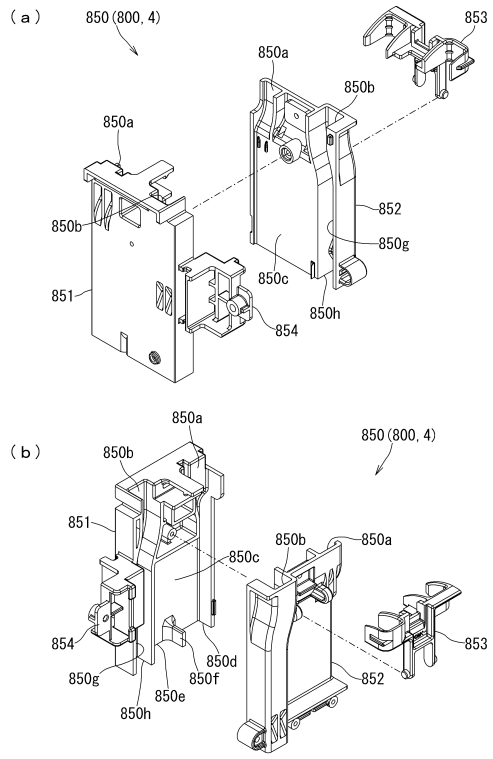
【図１０５】



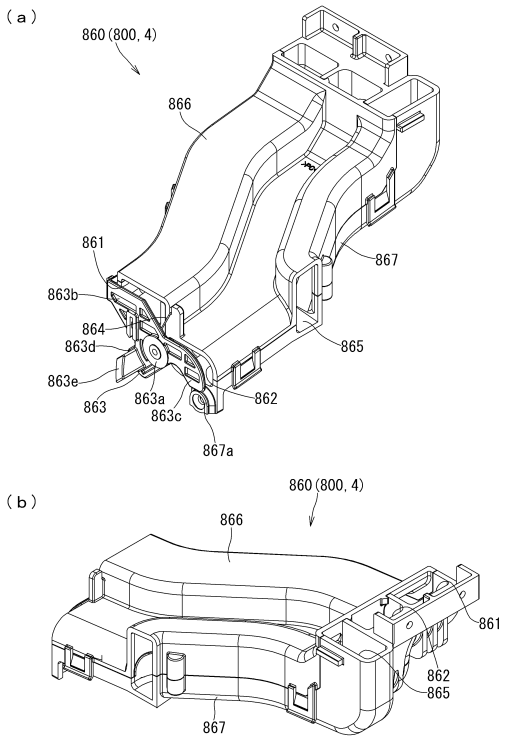
【図１０６】



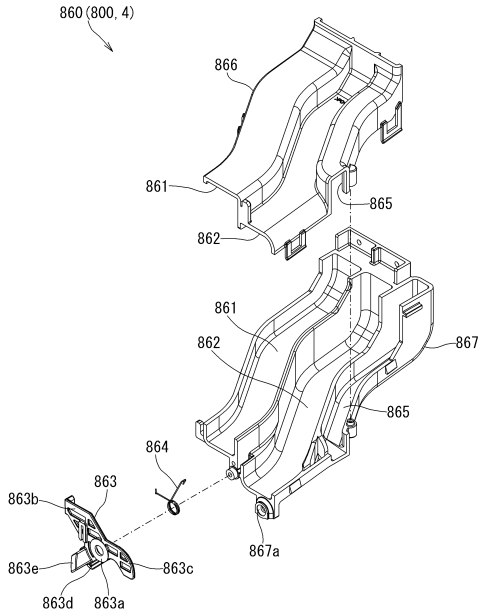
【図１０７】



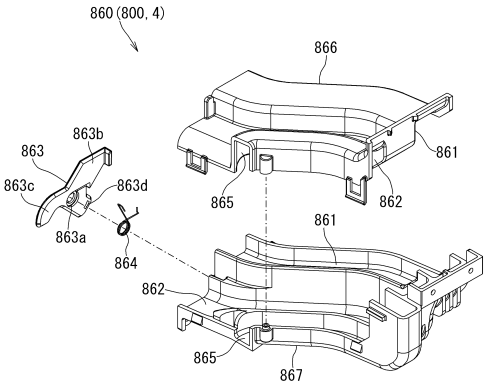
【図１０８】



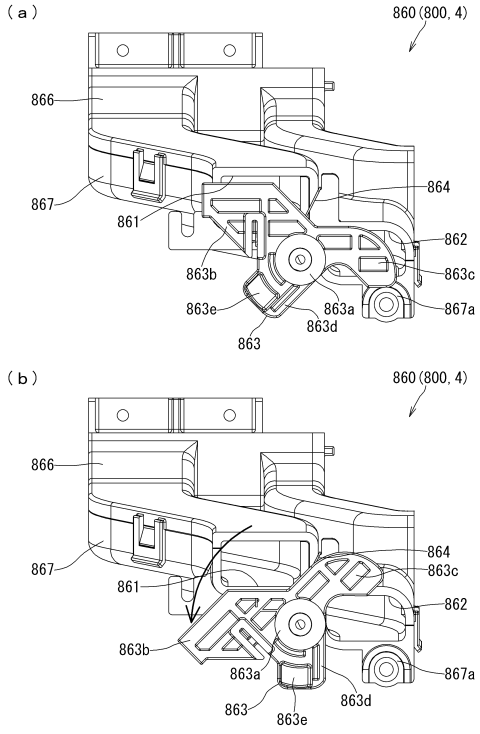
【図１０９】



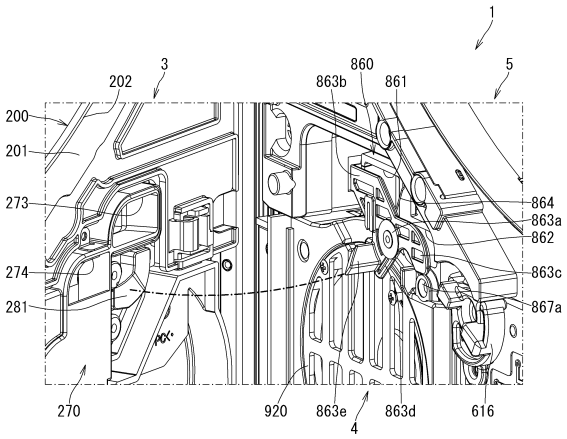
【図１１０】



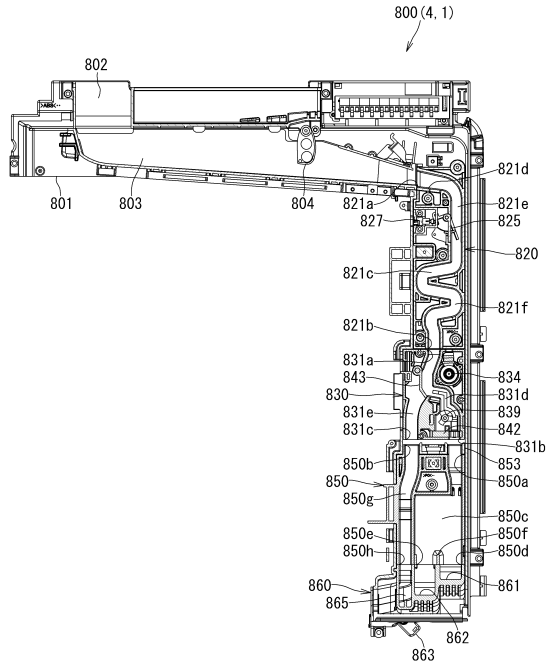
【図１１１】



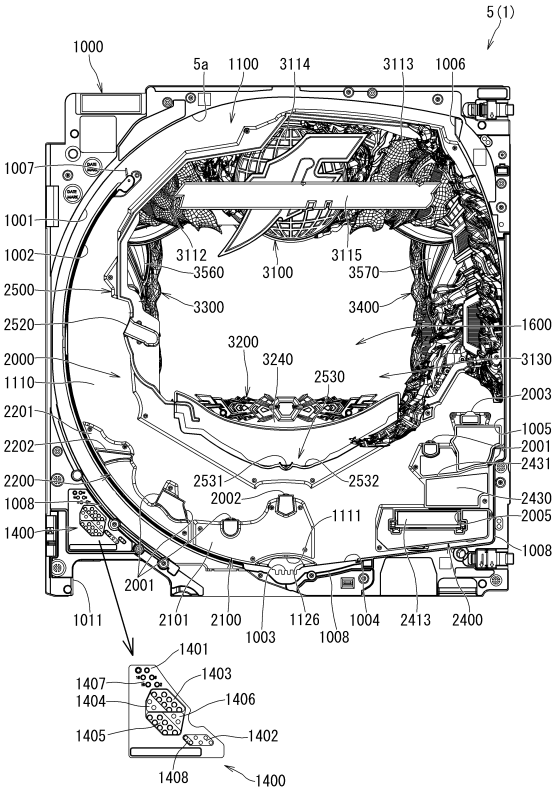
【図１１２】



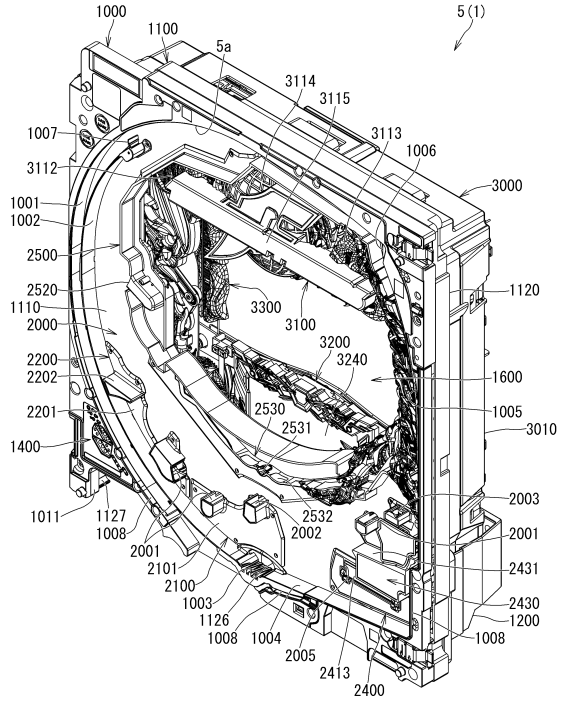
【図１１３】



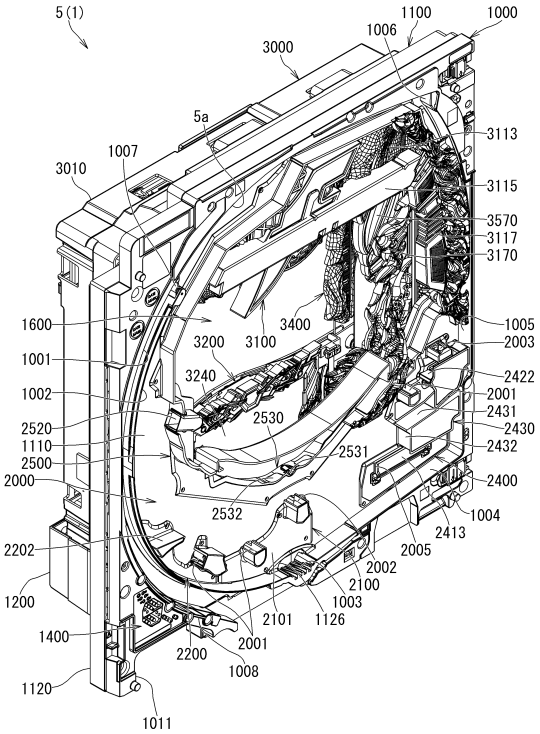
【図１１４】



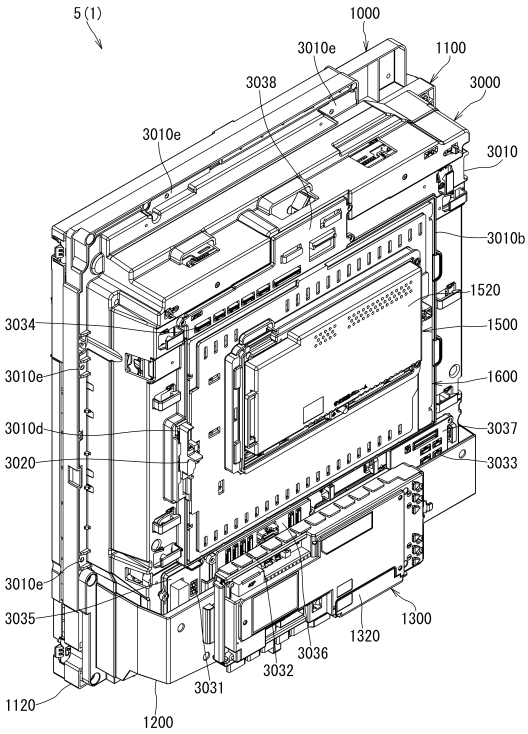
【図１１５】



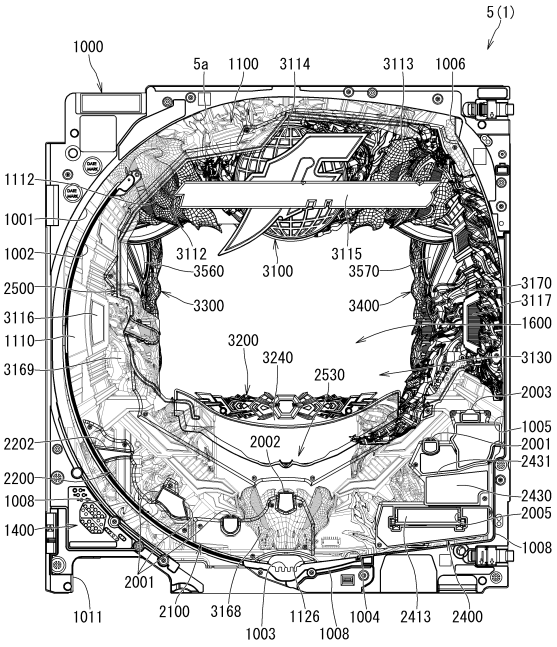
【図１１６】



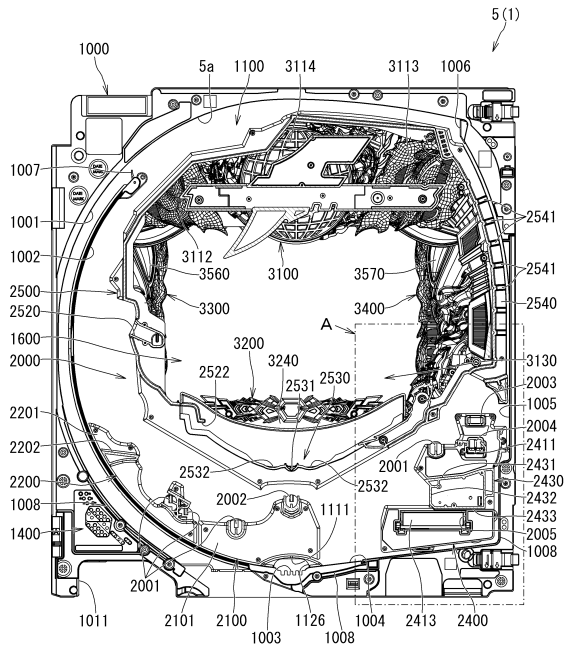
【図１１７】



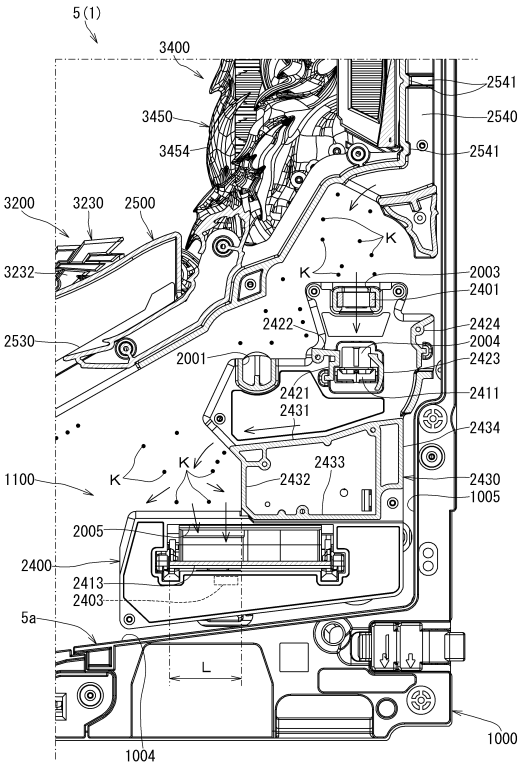
【図１１８】



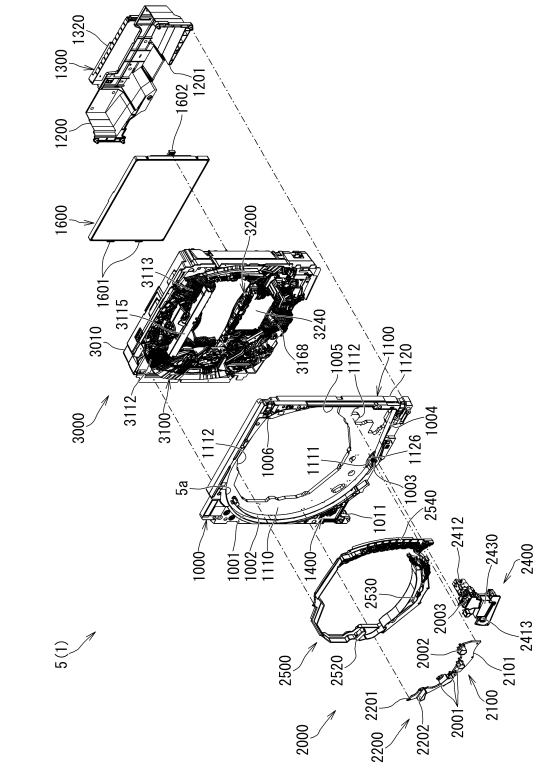
【図１１９】



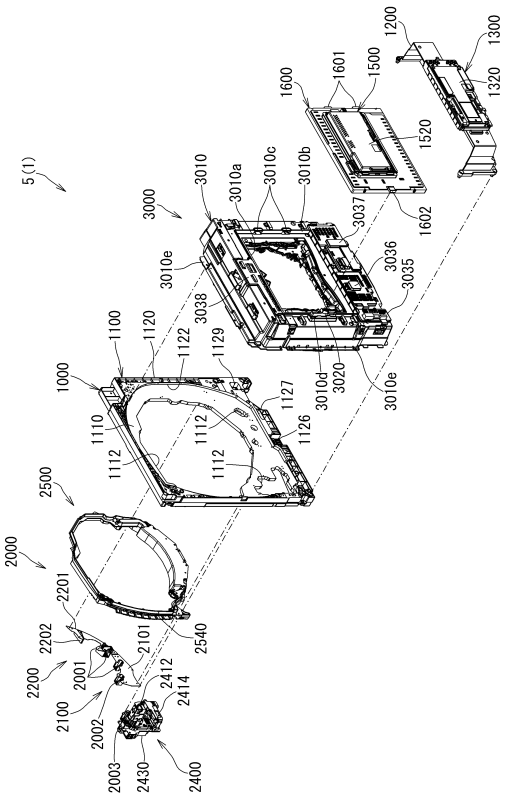
【図１２０】



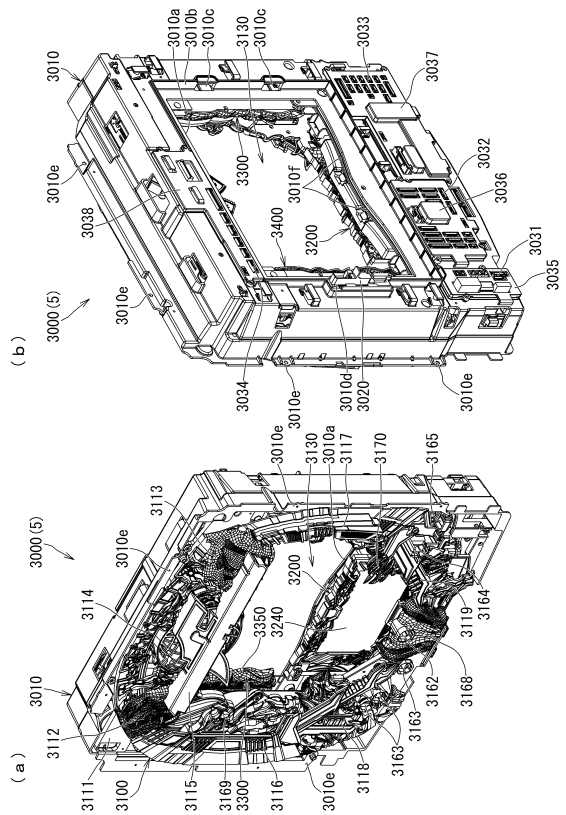
【図１２１】



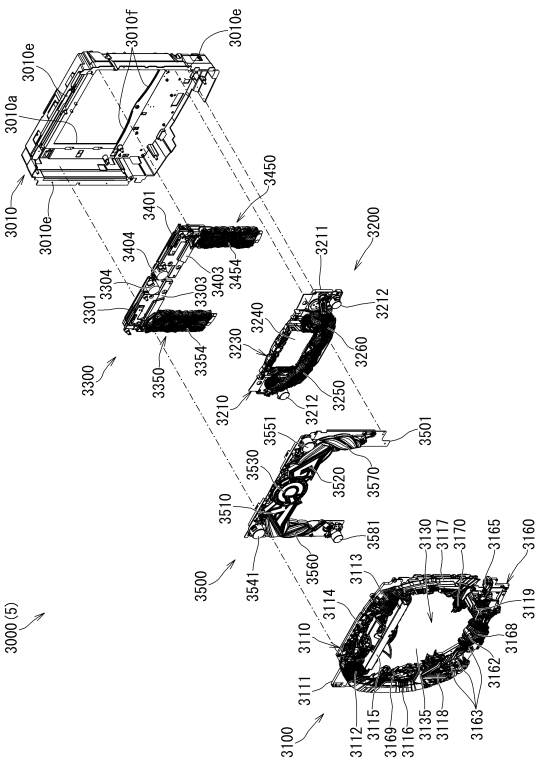
【図１２２】



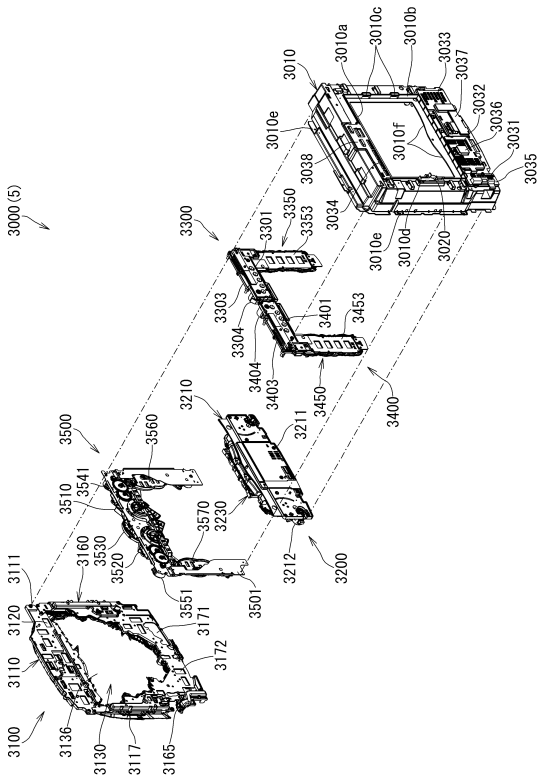
【図１２３】



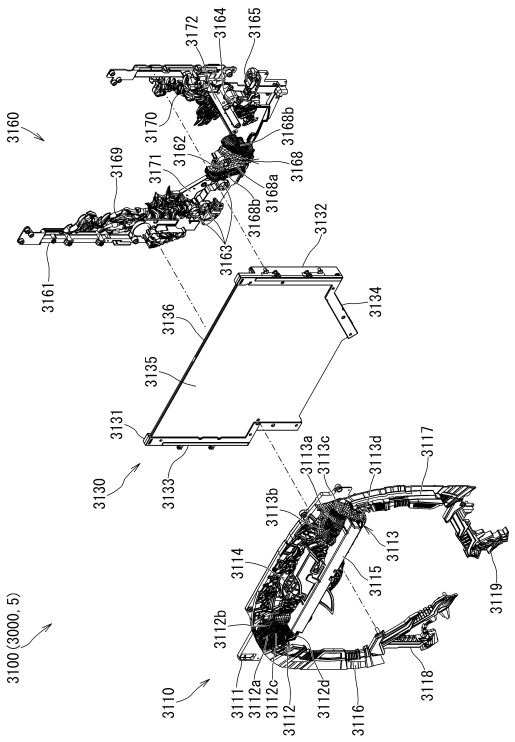
【図１２４】



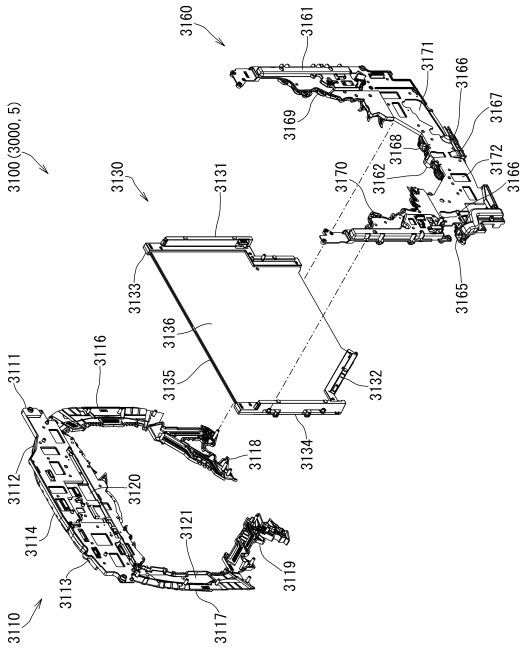
【図１２５】



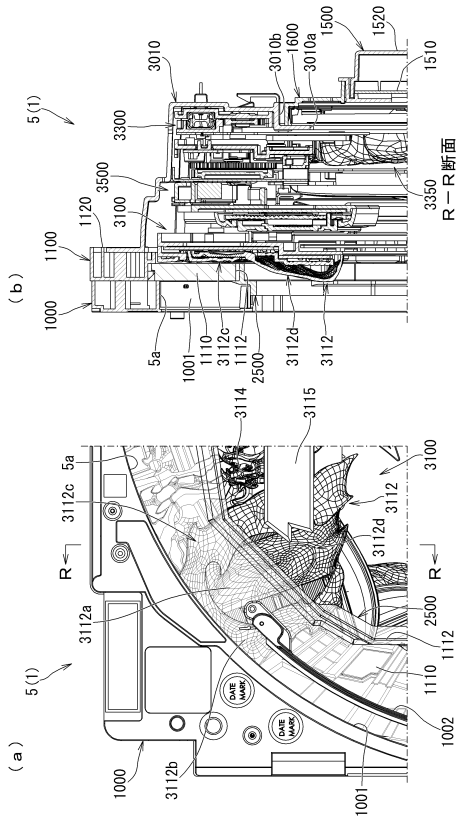
【図１２６】



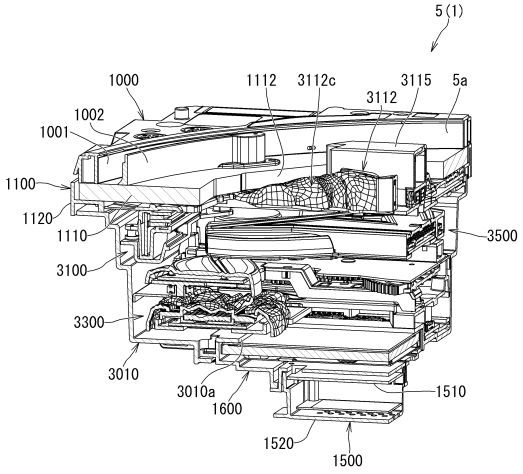
【図１２７】



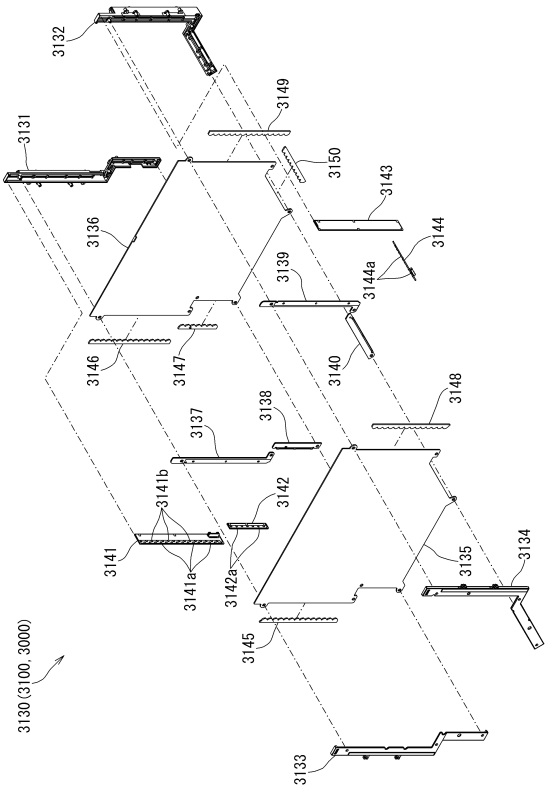
【図１２８】



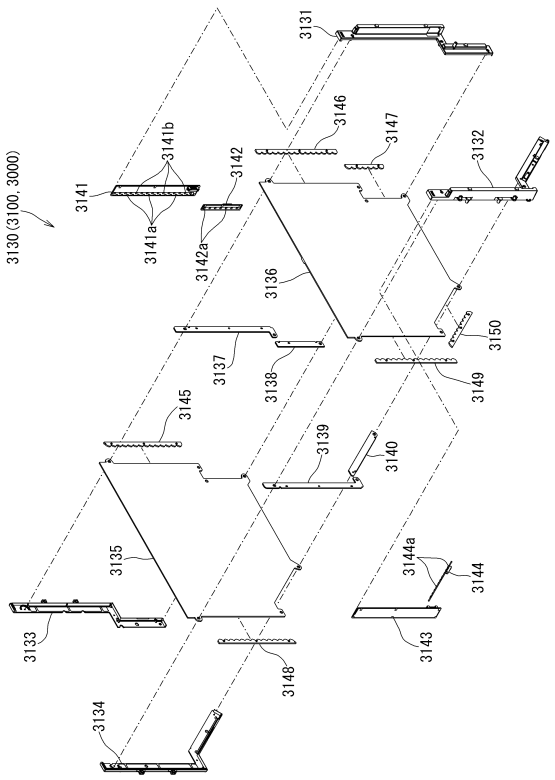
【図１２９】



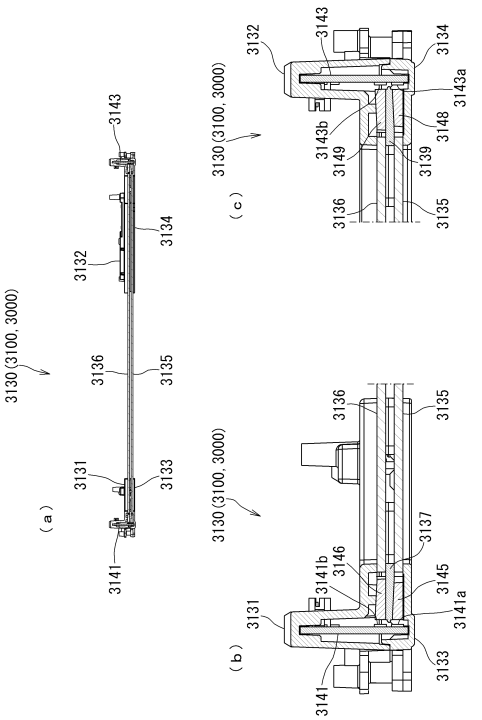
【図１３０】



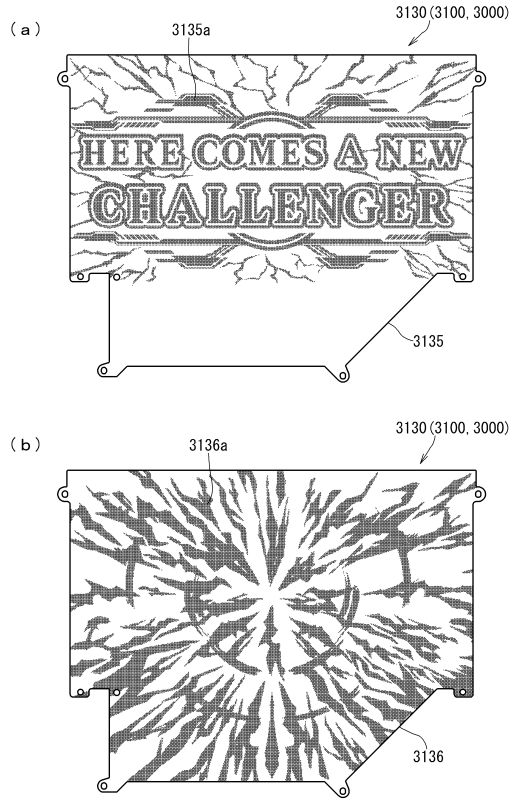
【図１３１】



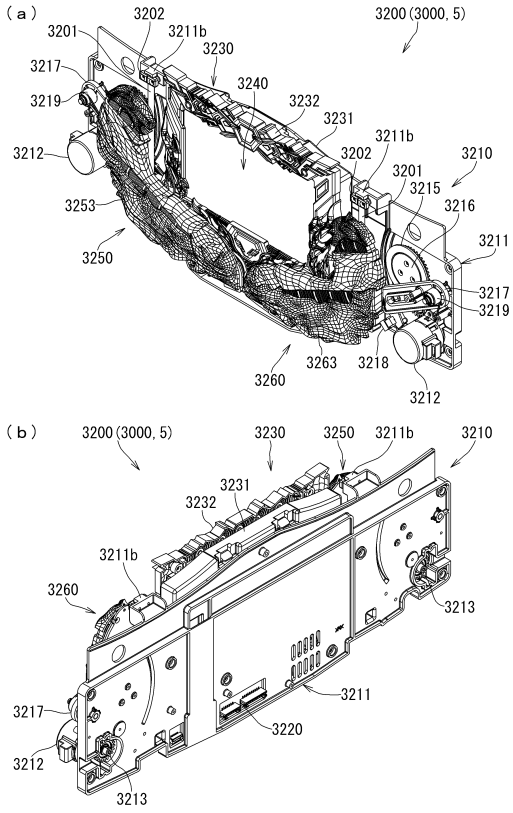
【図１３２】



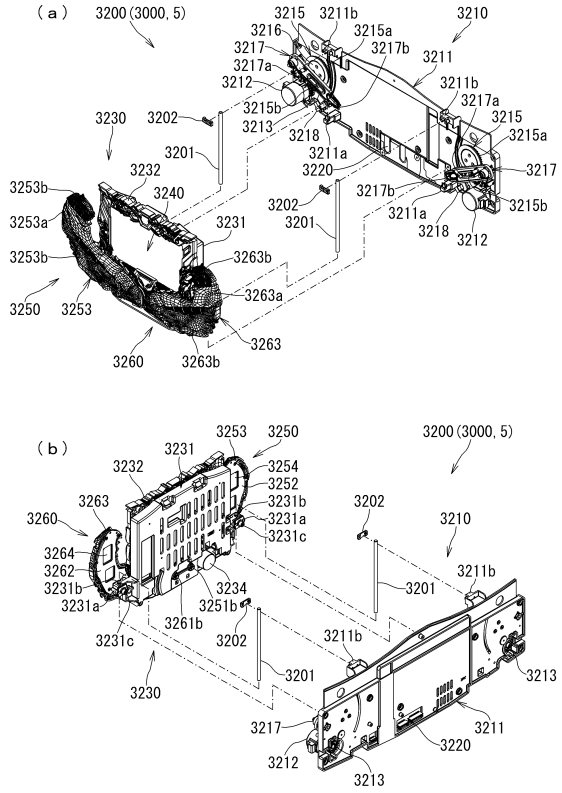
【図１３３】



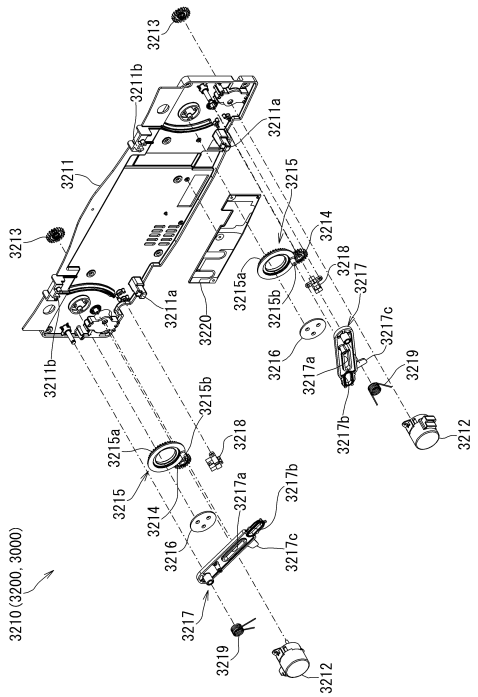
【図１３４】



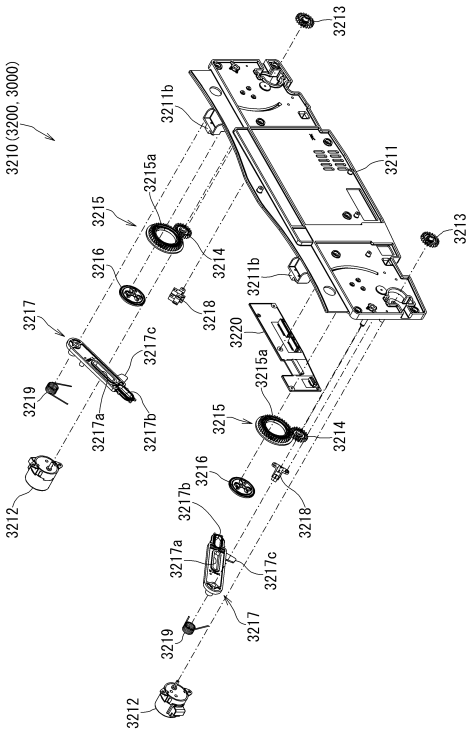
【図１３５】



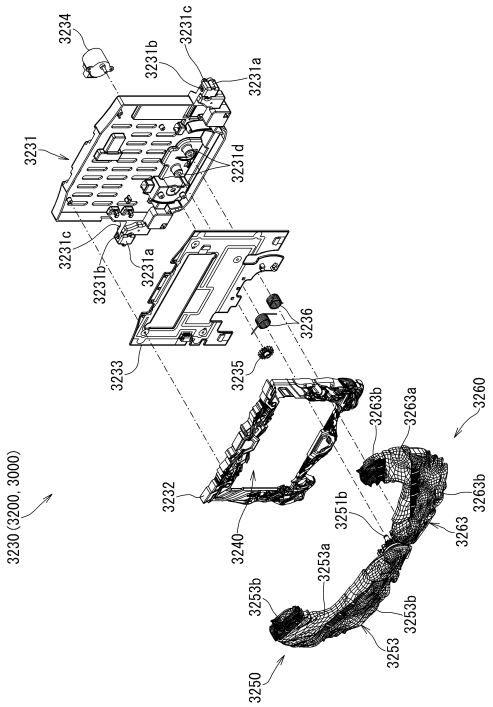
【図１３６】



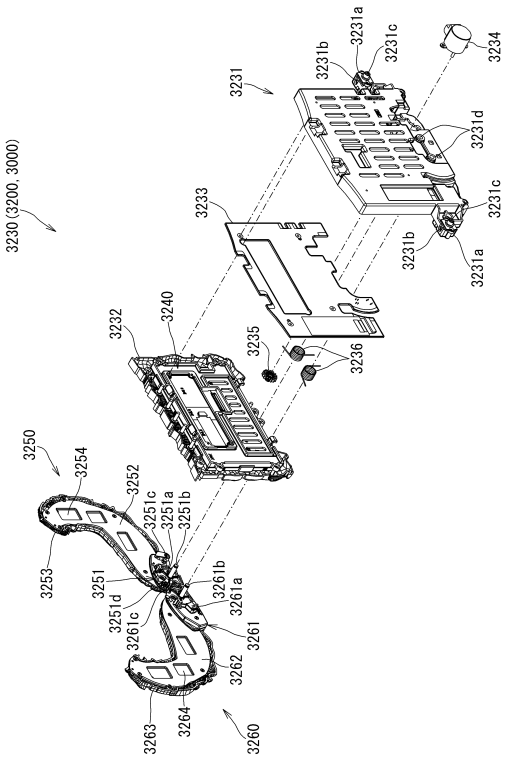
【図１３７】



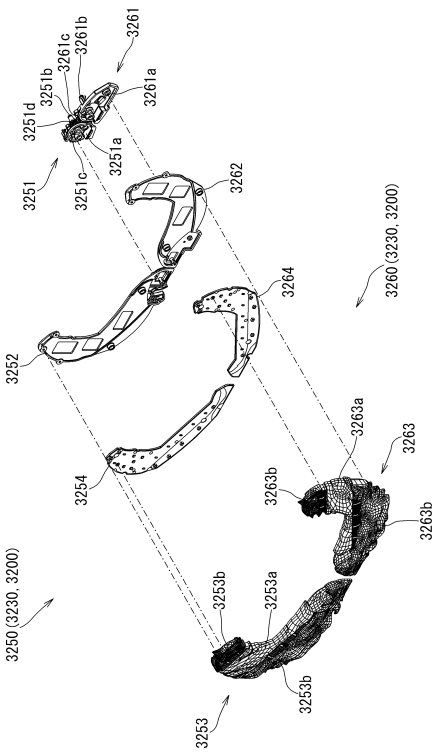
【図１３８】



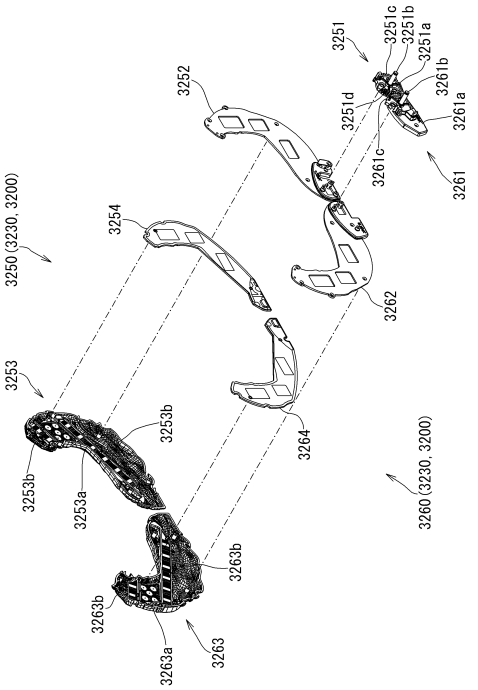
【図１３９】



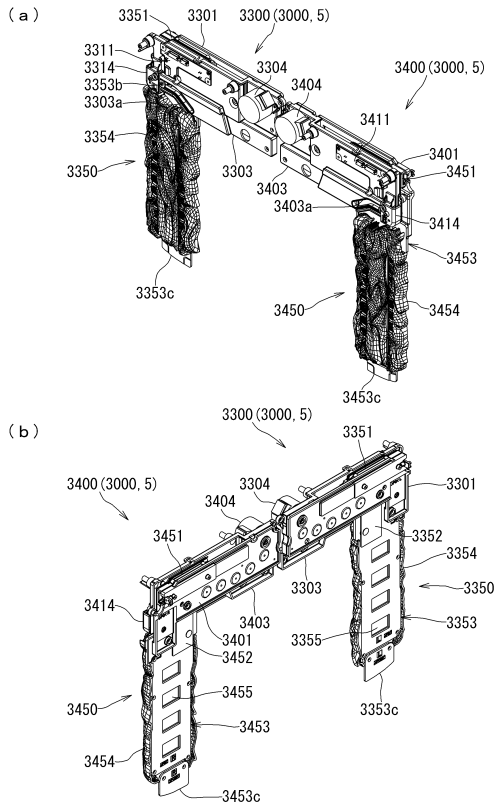
【図１４０】



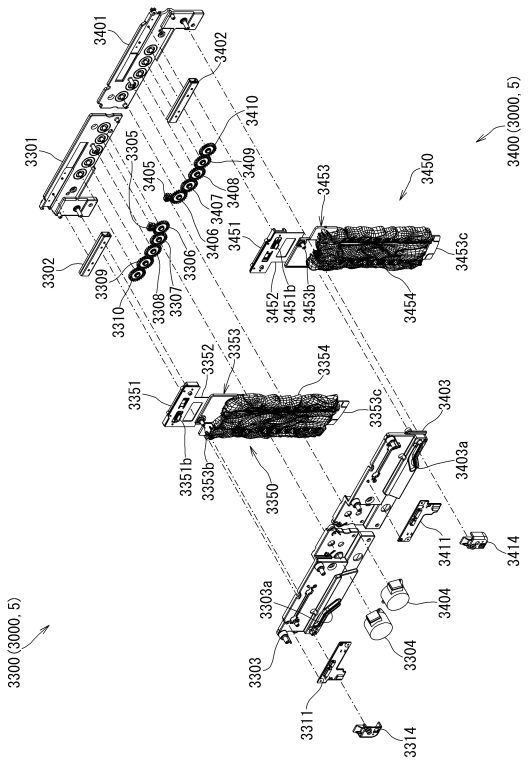
【図１４１】



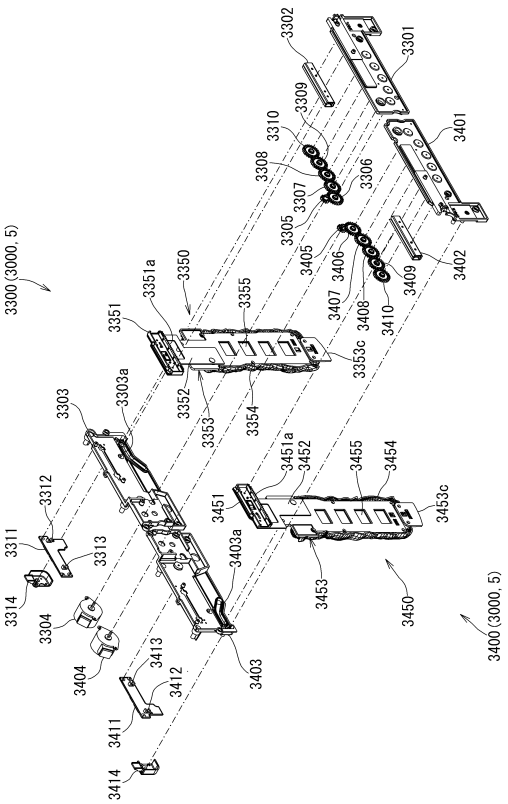
【図１４２】



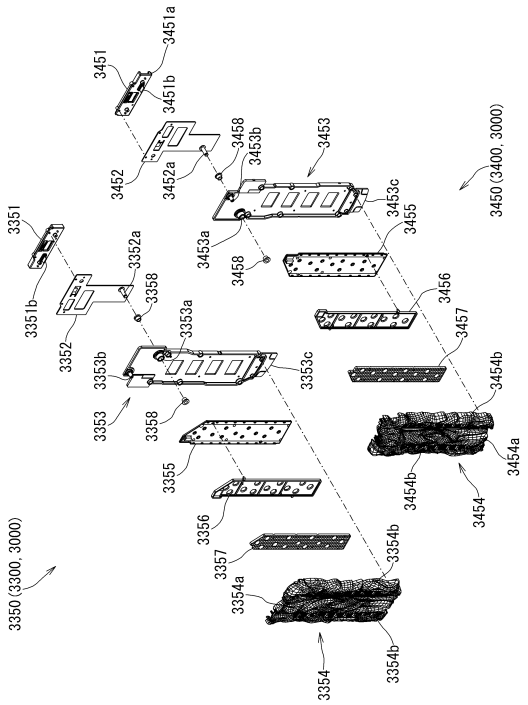
【図１４３】



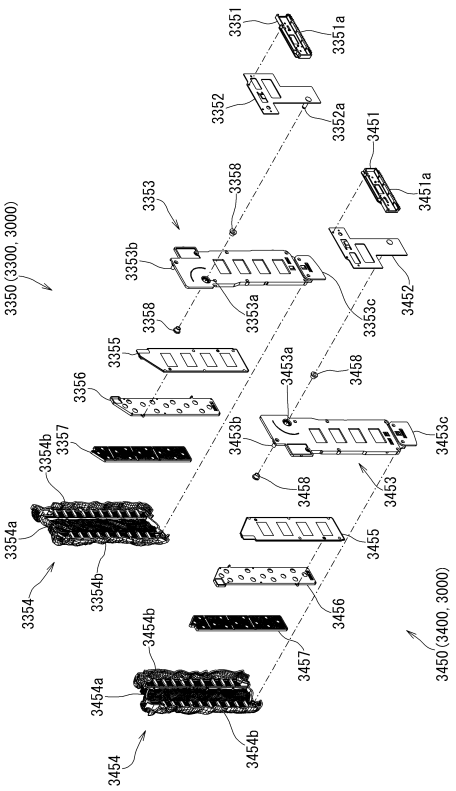
【図１４４】



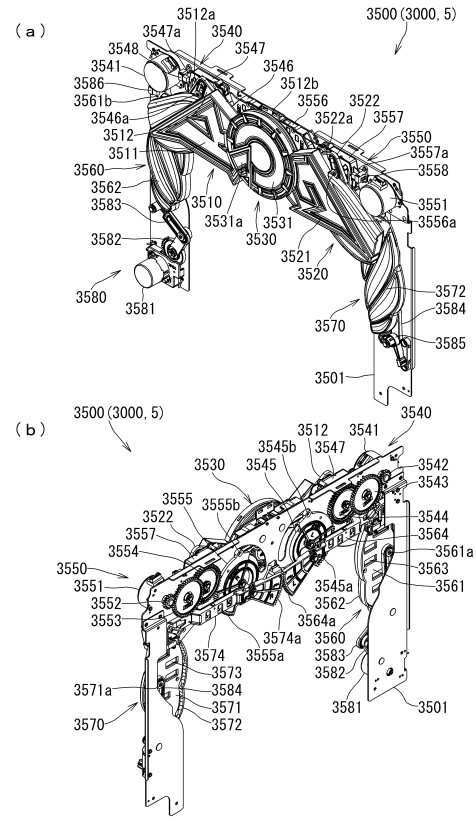
【図１４５】



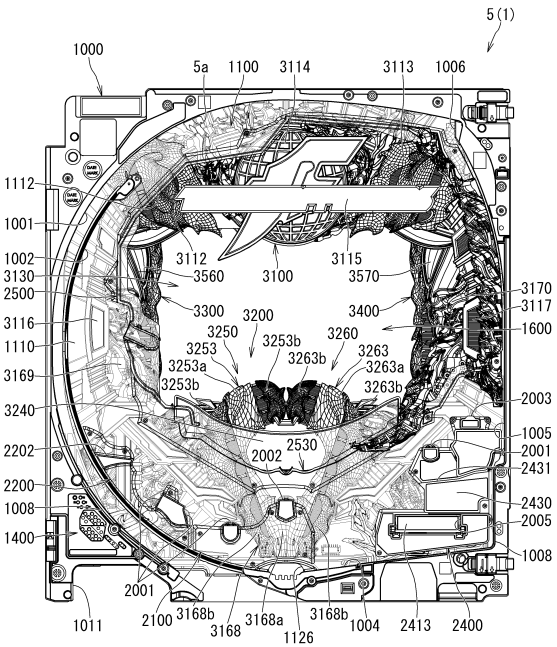
【図１４６】



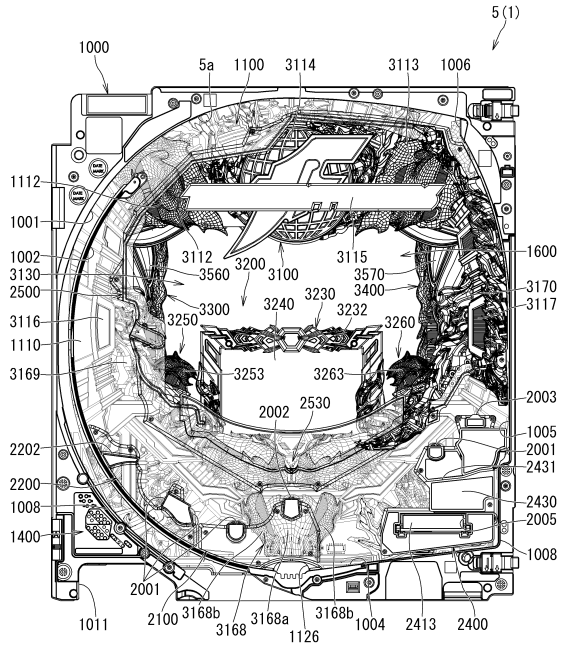
【図１４７】



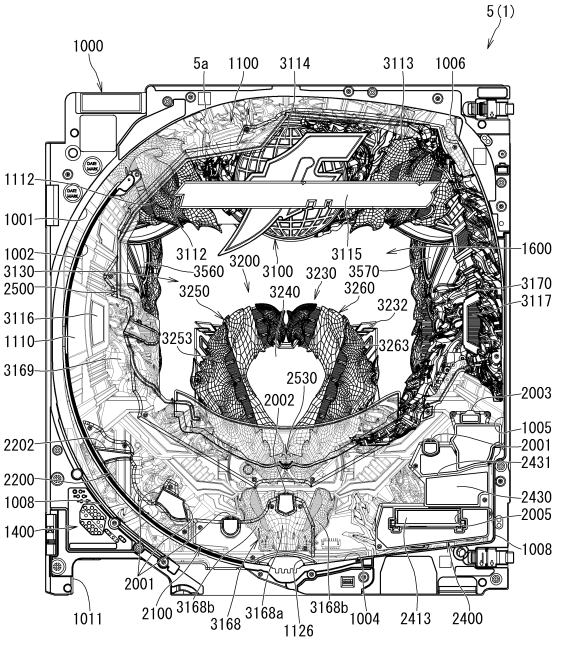
【図１４８】



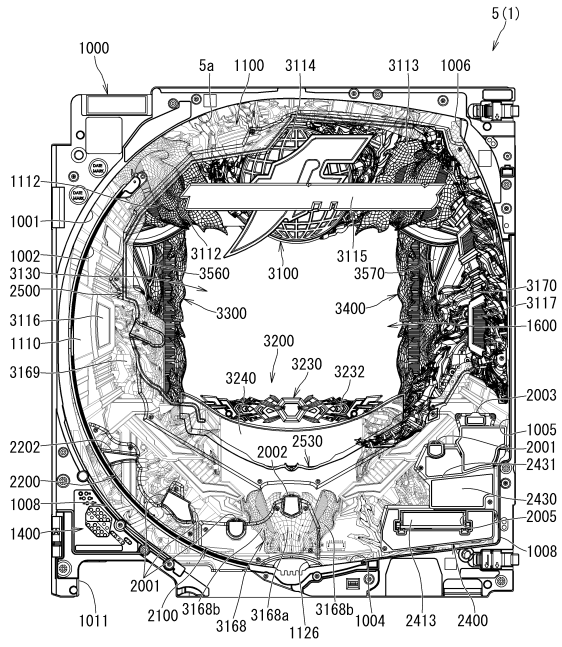
【図１４９】



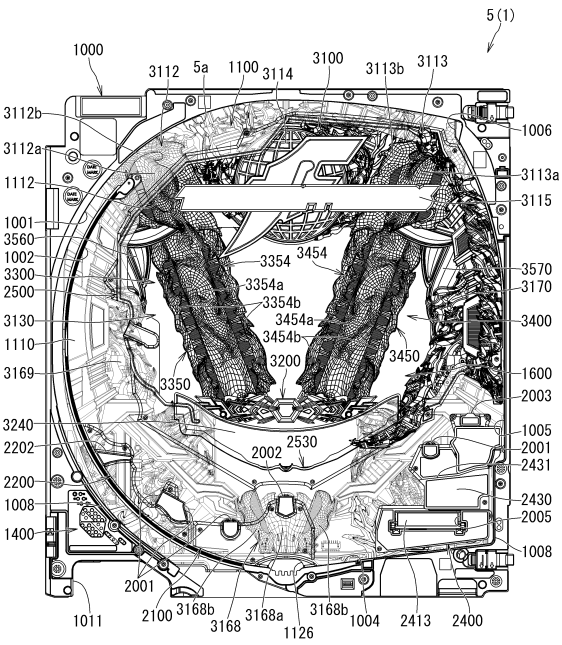
【図１５０】



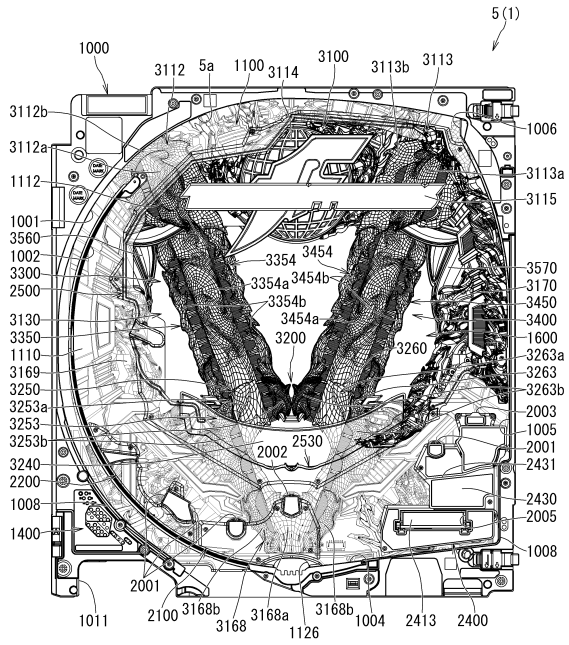
【図１５１】



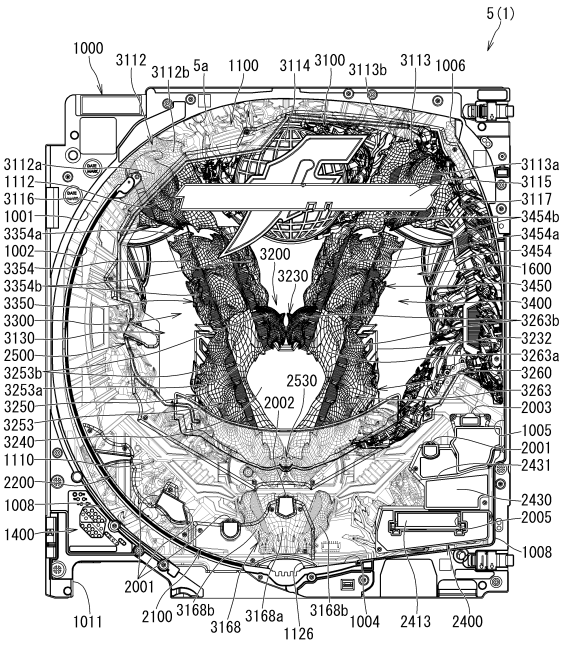
【図１５２】



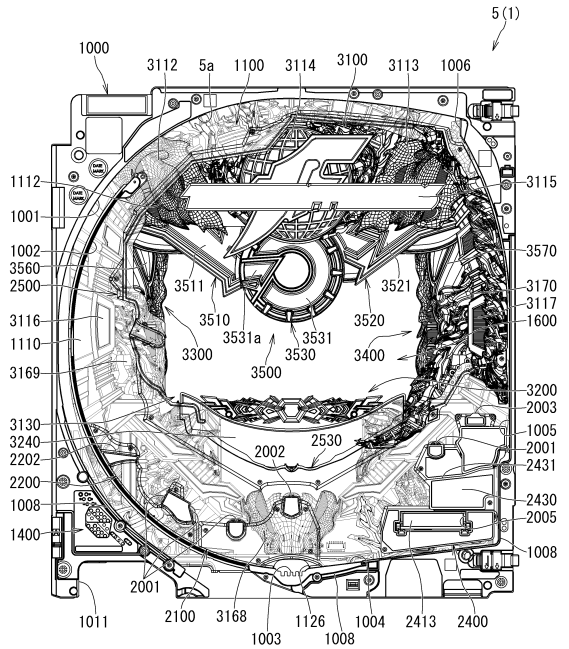
【図１５３】



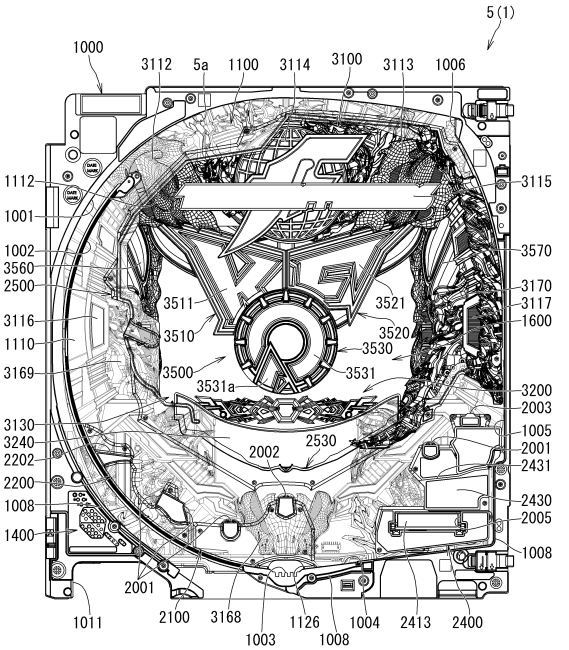
【図１５４】



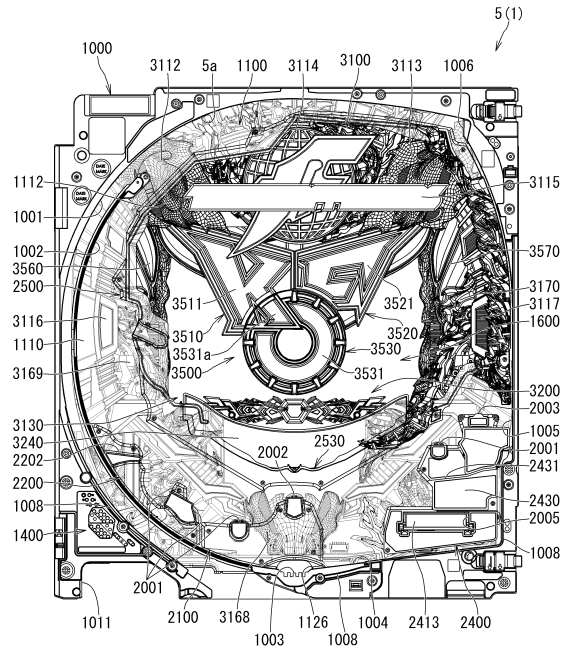
【図１５５】



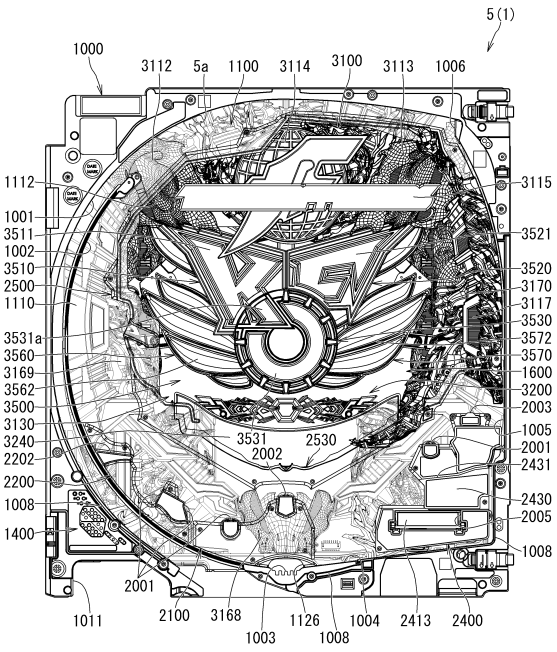
【図１５６】



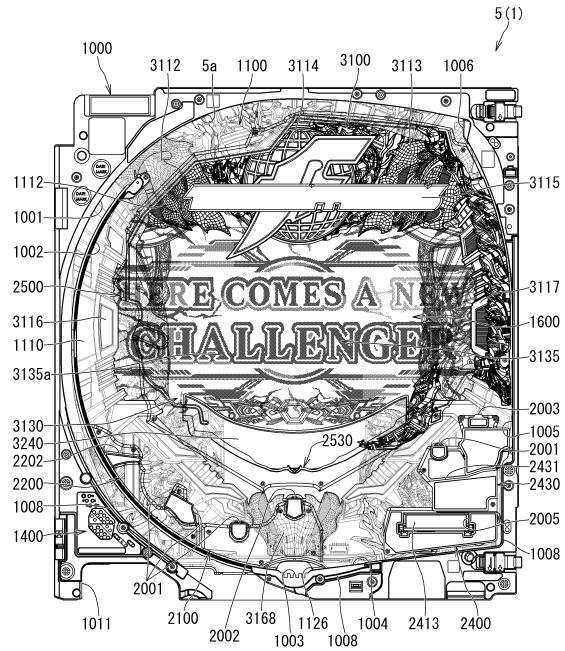
【図１５７】



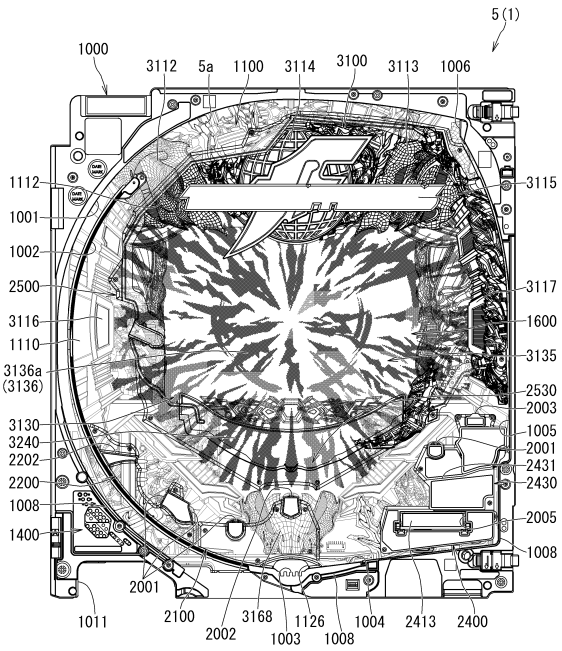
【図１５８】



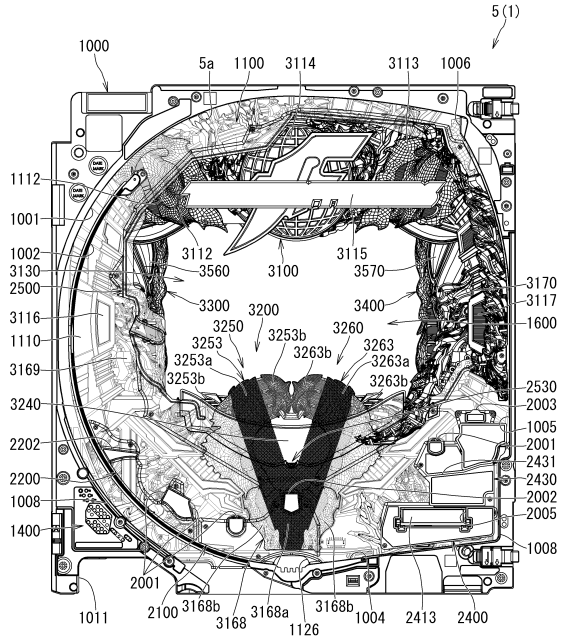
【図１５９】



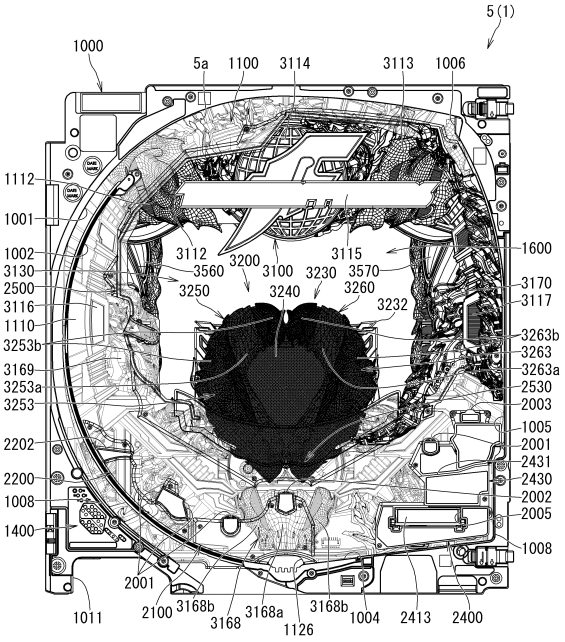
【図１６０】



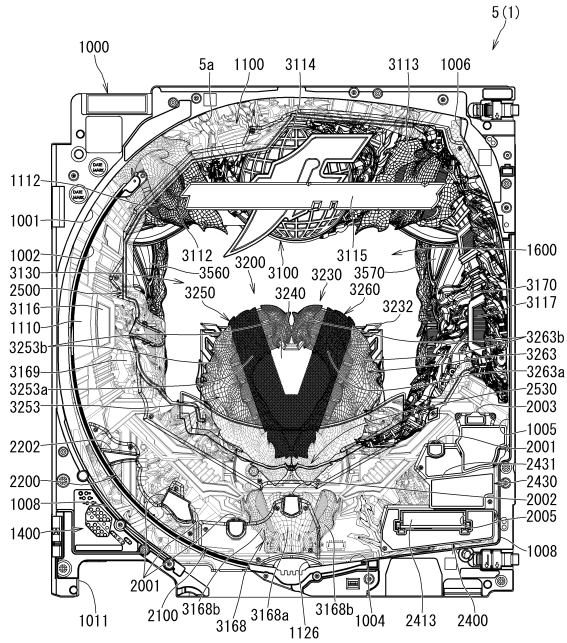
【図１６１】



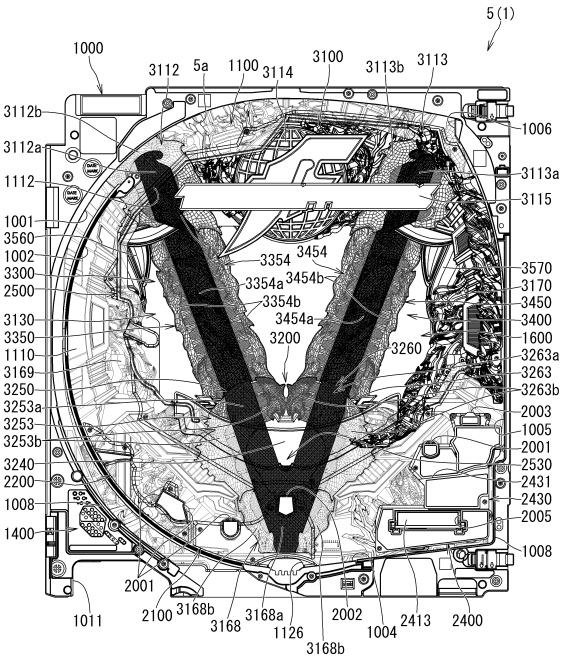
【図１６２】



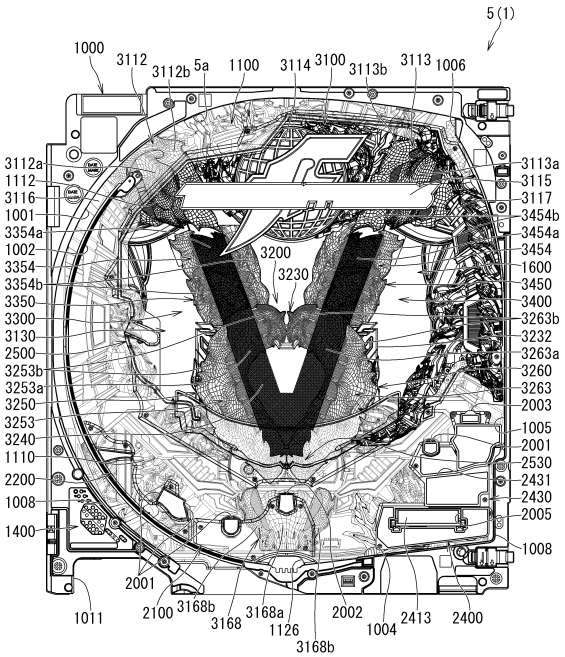
【図１６３】



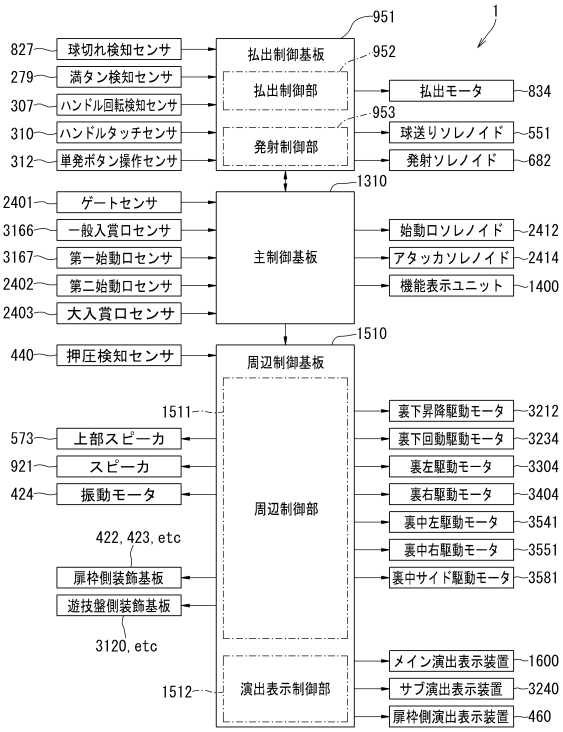
【図１６４】



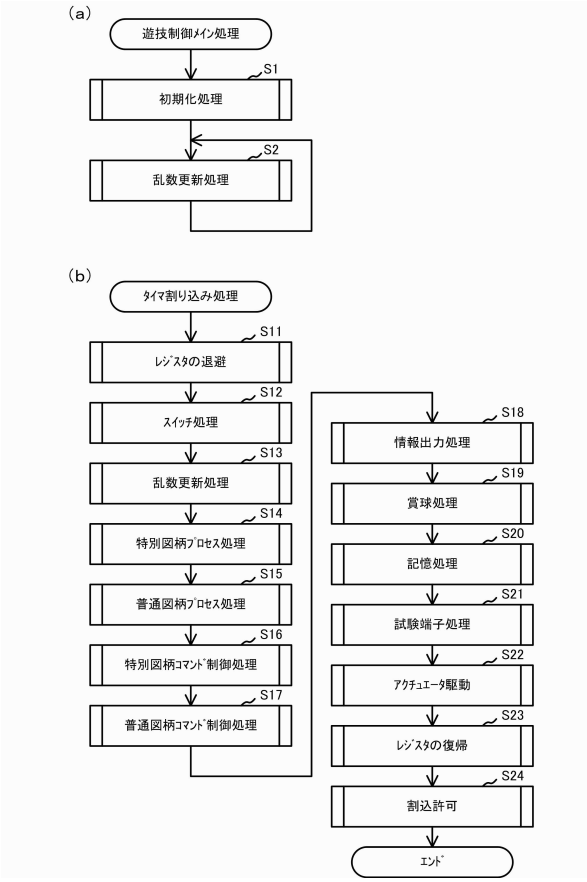
【図１６５】



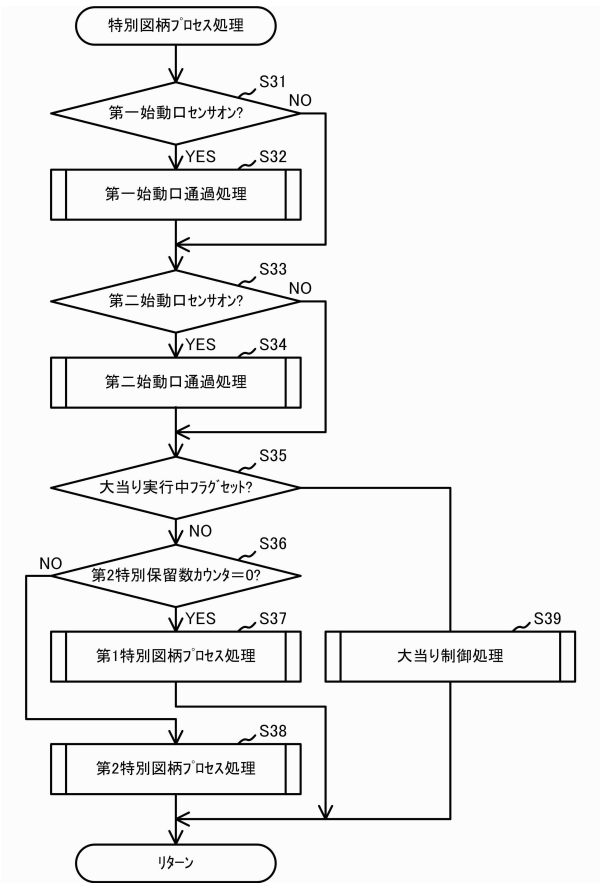
【図１６６】



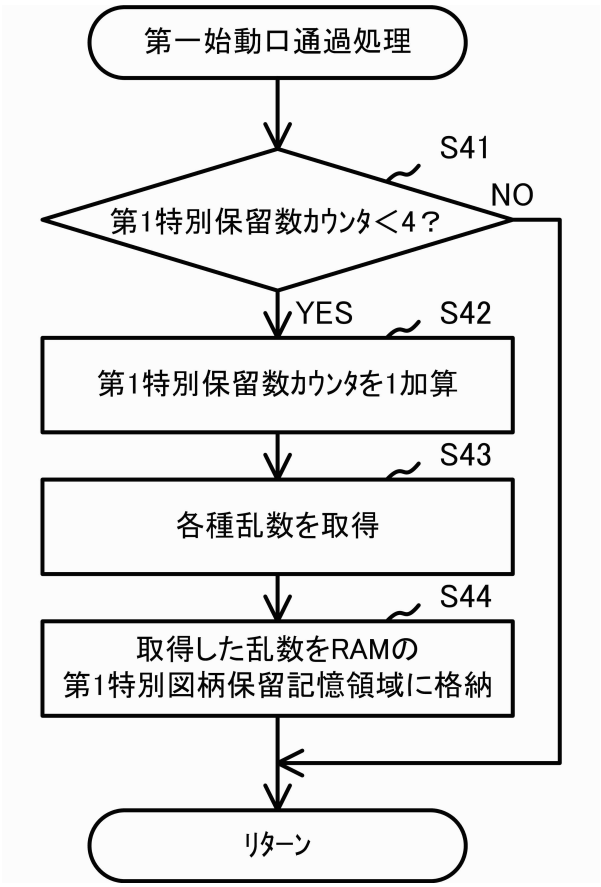
【図１６７】



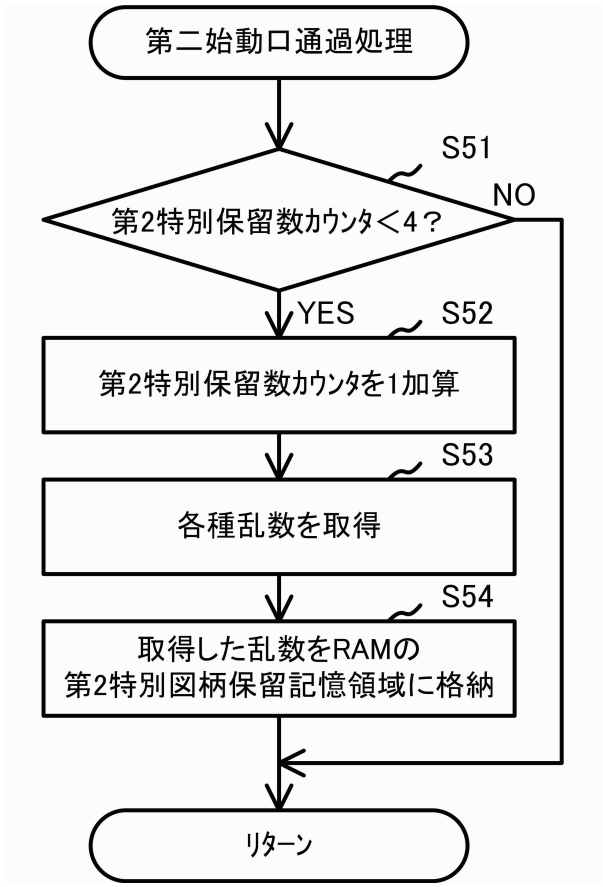
【図１６８】



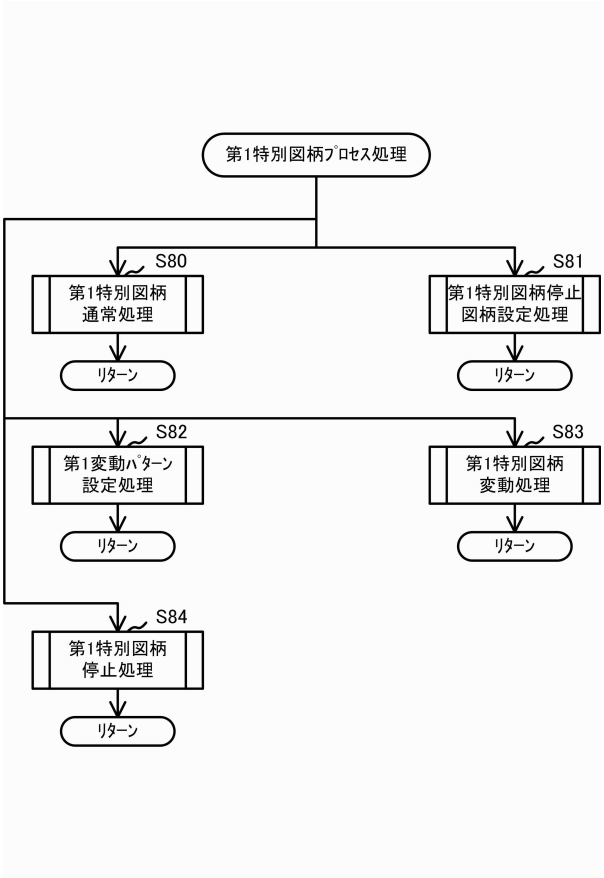
【図１６９】



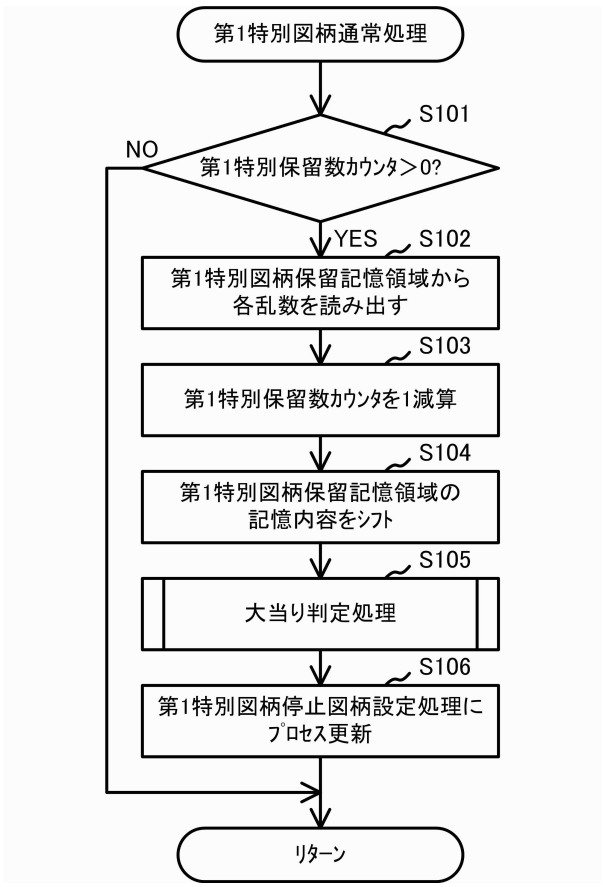
【図１７０】



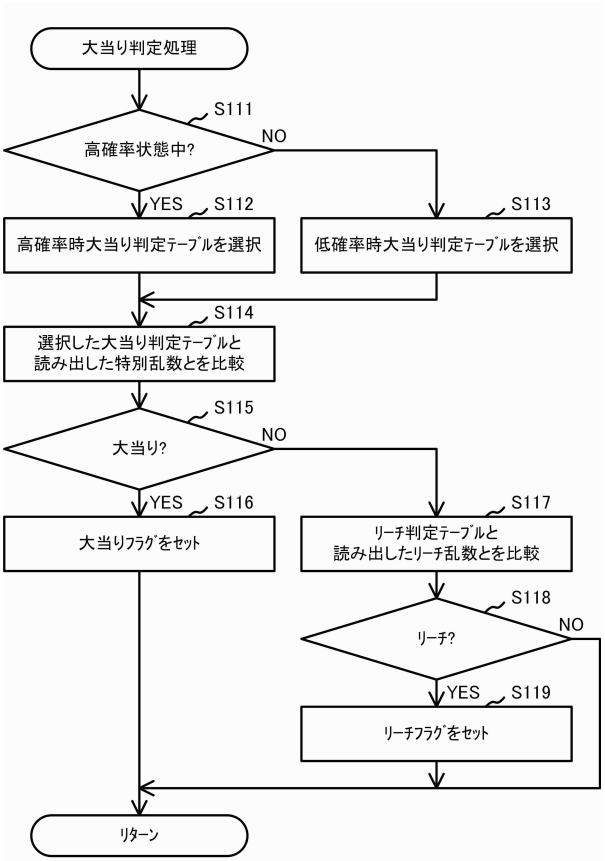
【図１７１】



【図１７２】



【図１７３】



【図１７４】

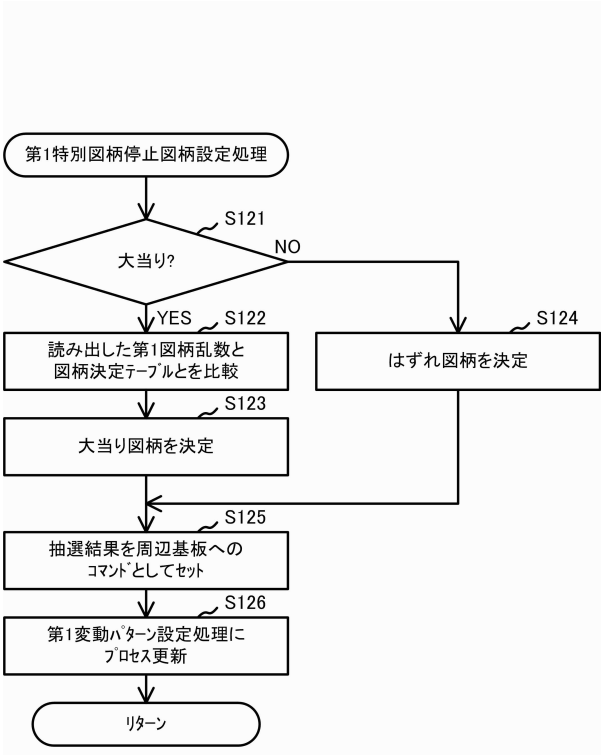
(A)大当り判定テーブル：特別乱数(0-299)

		はずれ	大当り
第一特別乱数	低確率時	299	1
	高確率時	290	10
第二特別乱数	低確率時	299	1
	高確率時	290	10

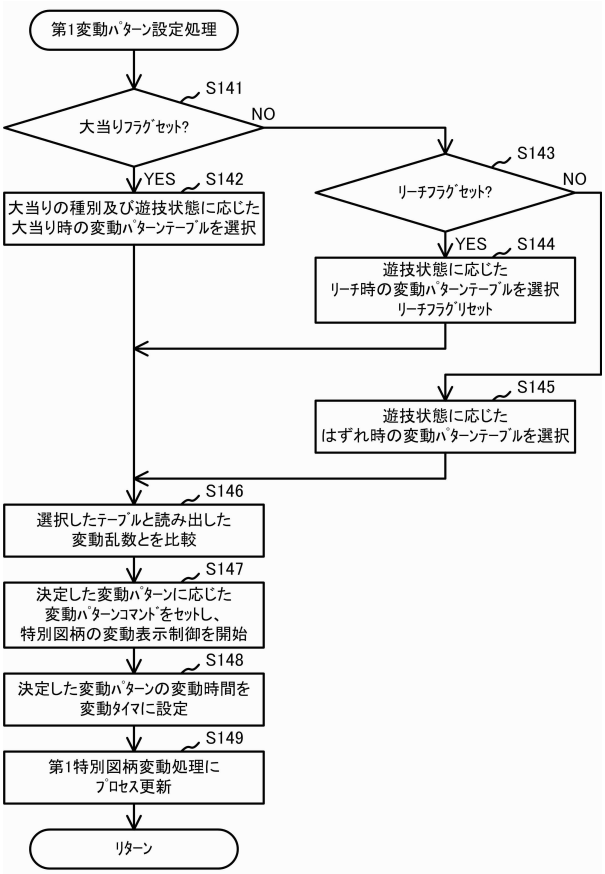
(B)図柄決定テーブル：図柄乱数(0-99)

	15R大当りA	15R大当りB
第一特別乱数	50	50
第二特別乱数	100	0

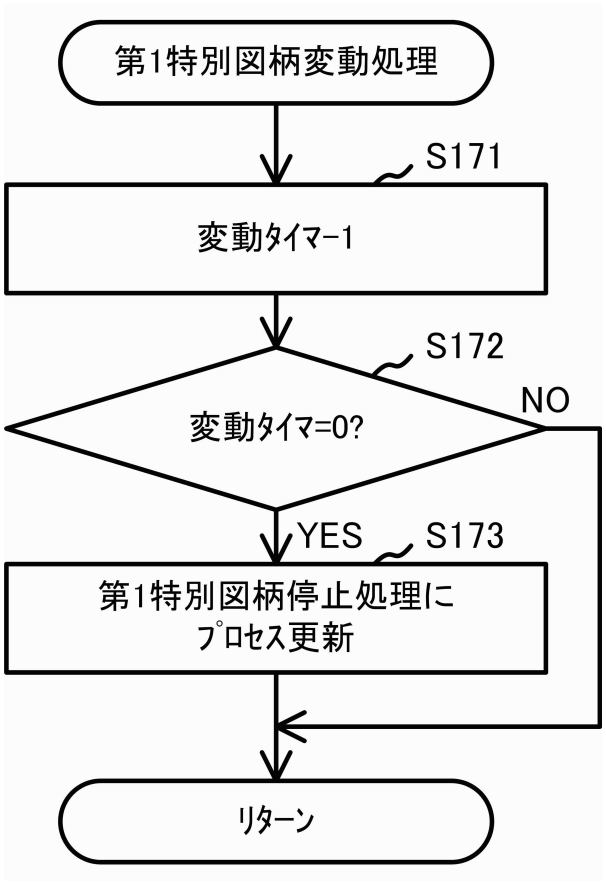
【図１７５】



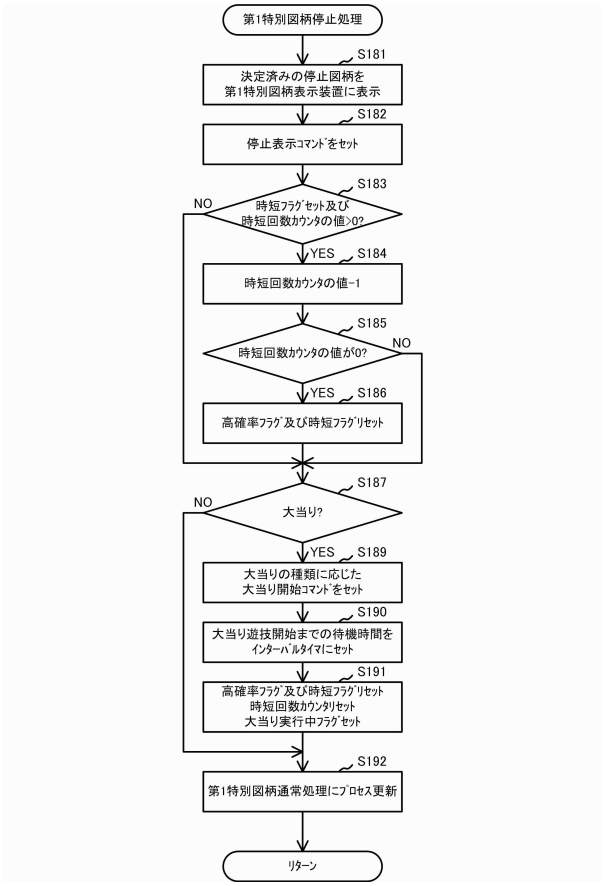
【図１７６】



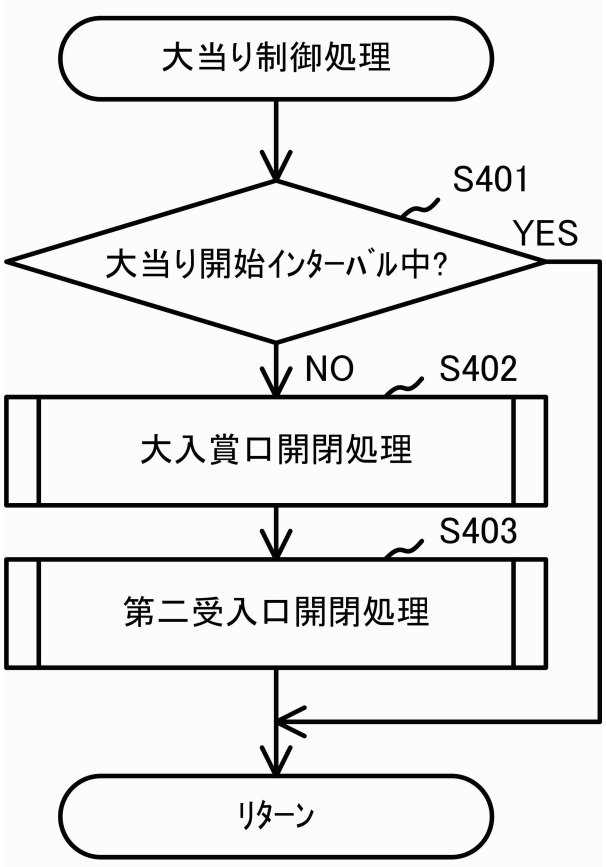
【図１７７】



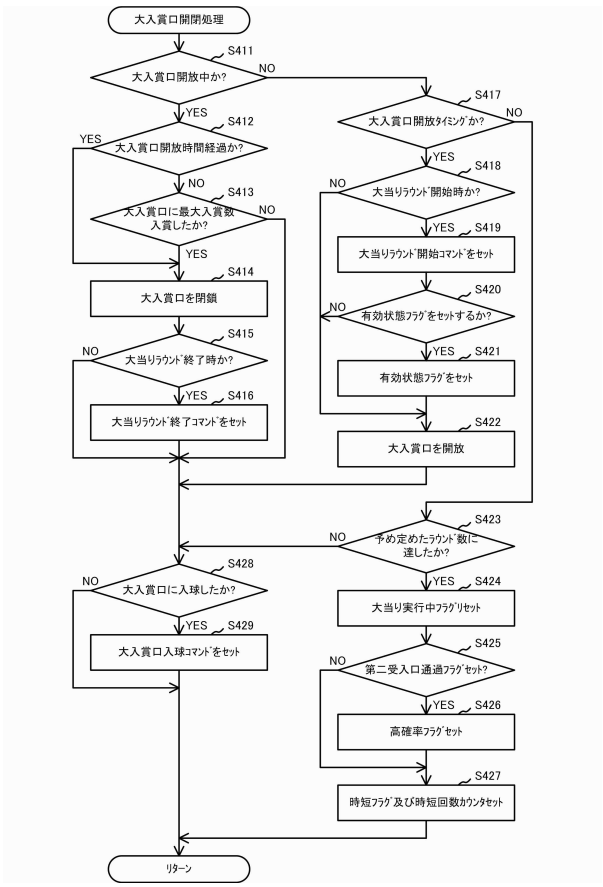
【図１７８】



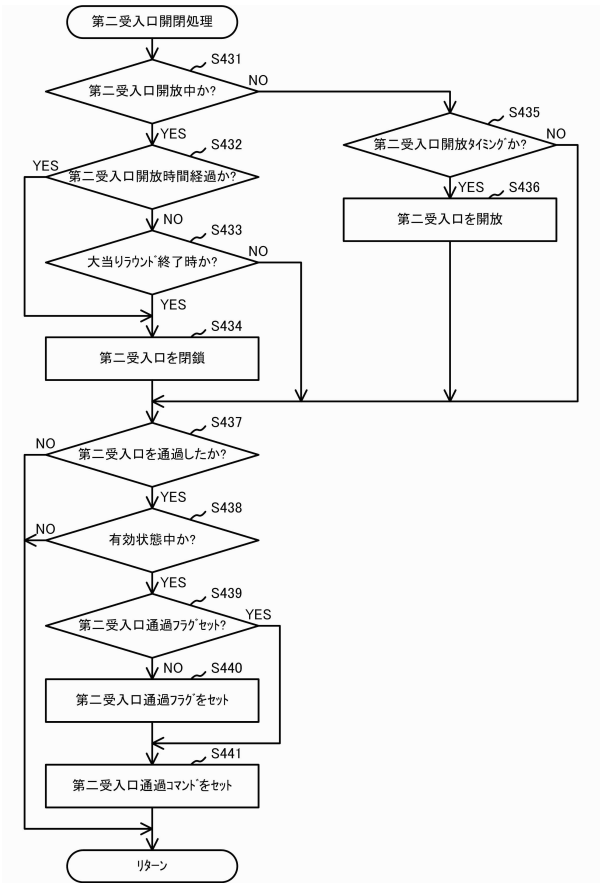
【図１７９】



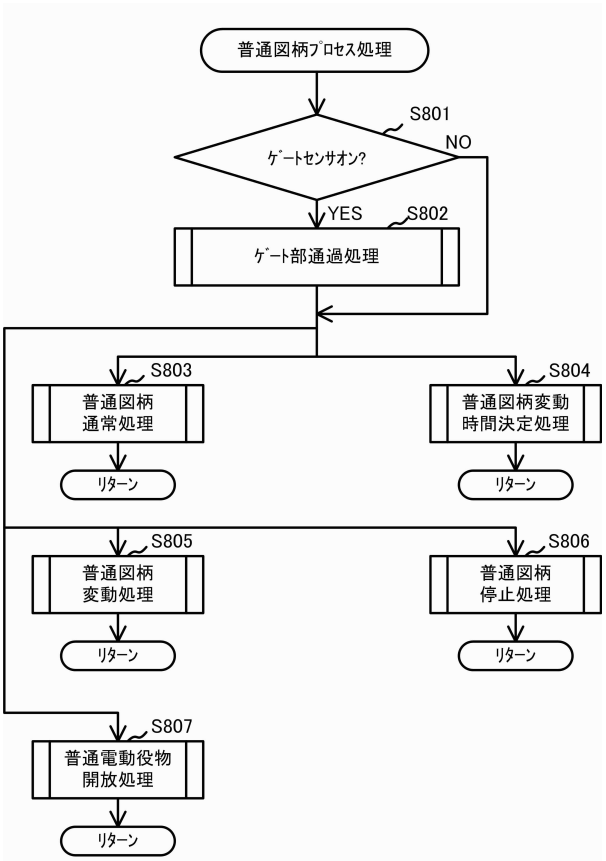
【図１８０】



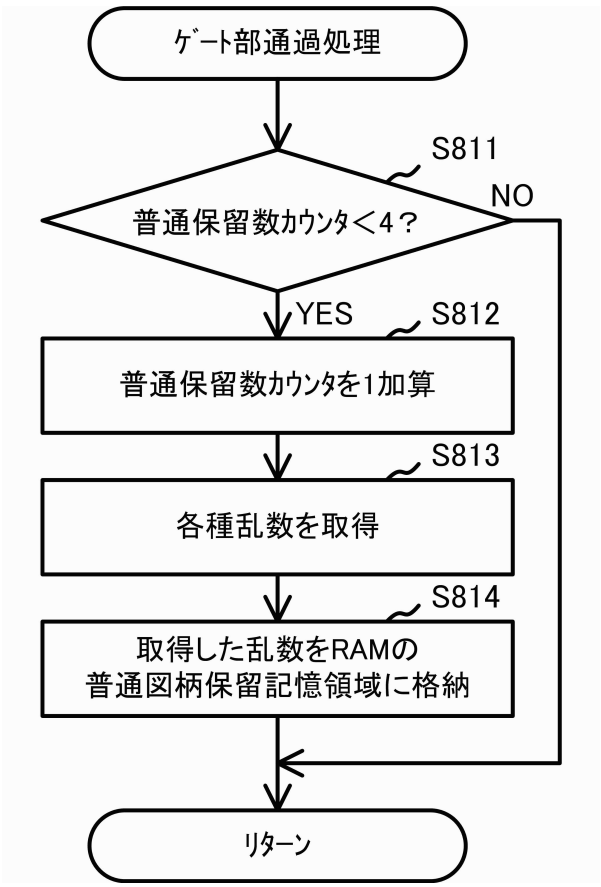
【図１８１】



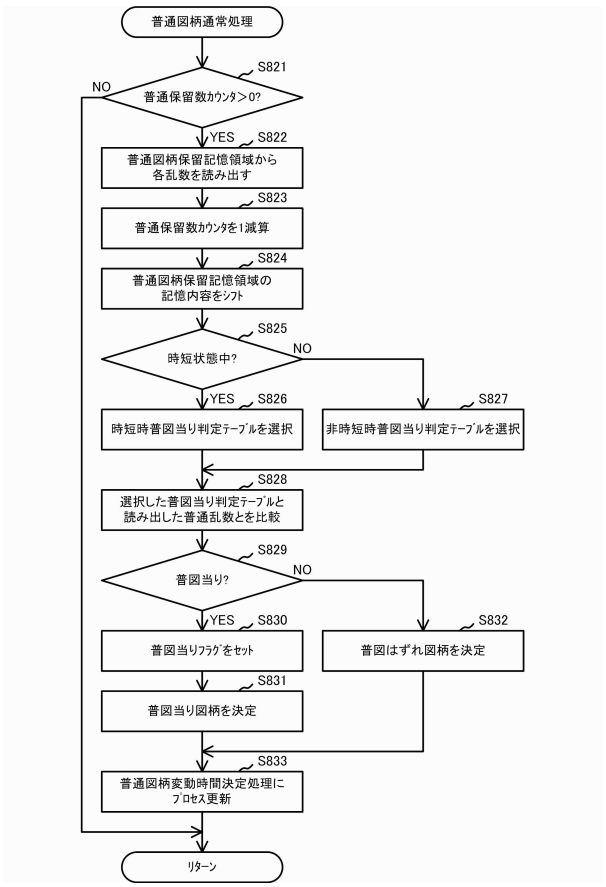
【図１８２】



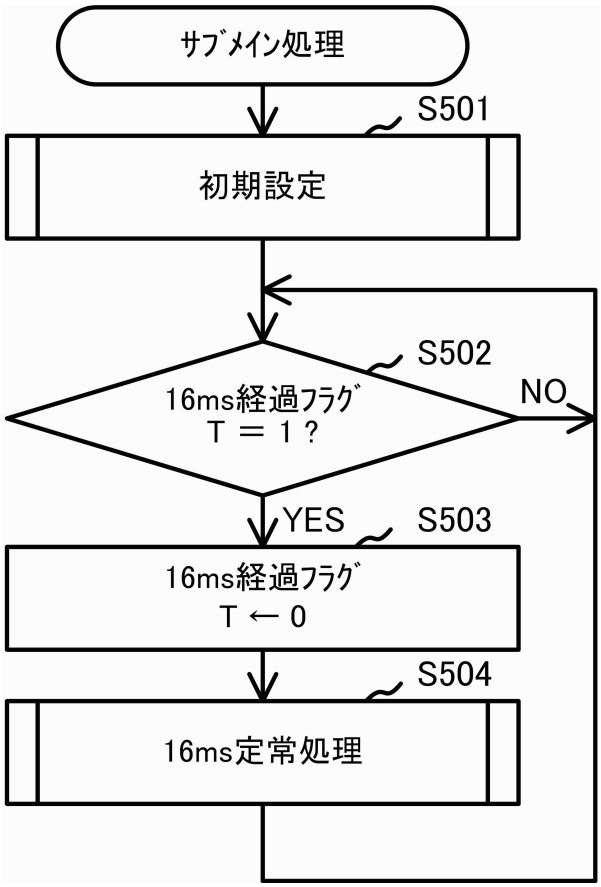
【図１８３】



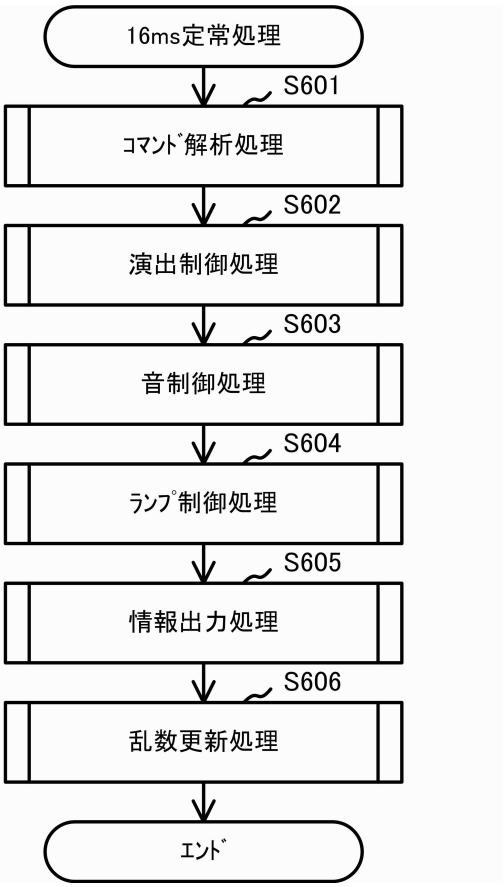
【図１８４】



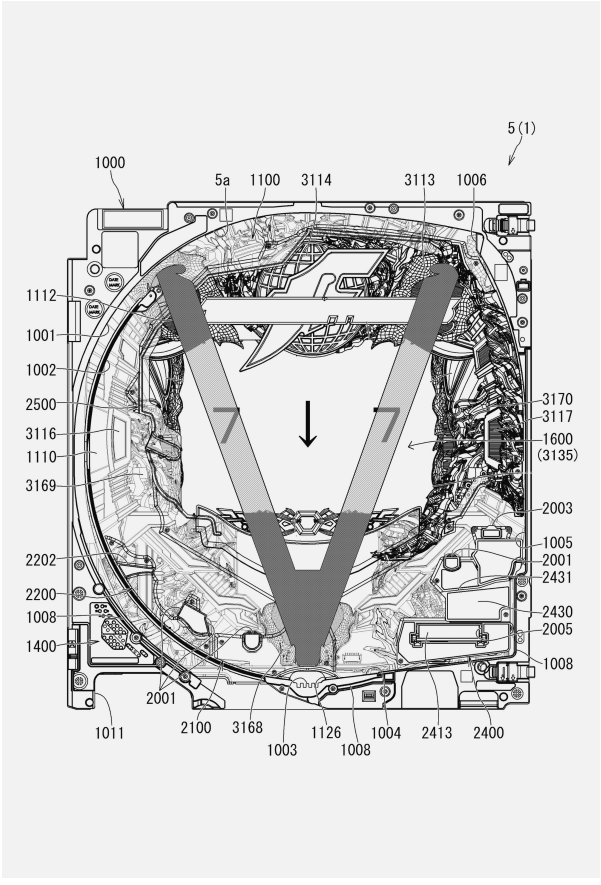
【図１８５】



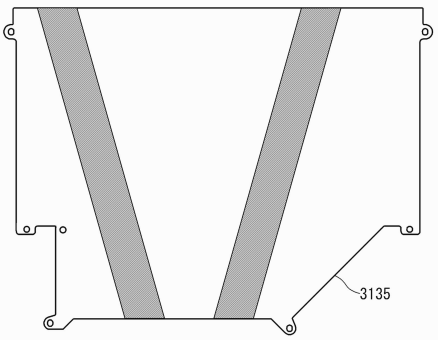
【図１８６】



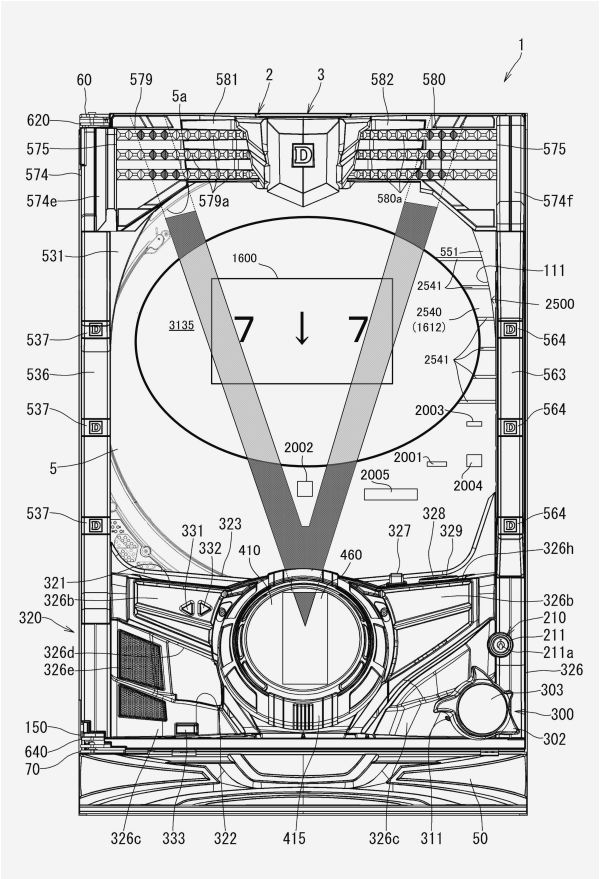
【図１８７】



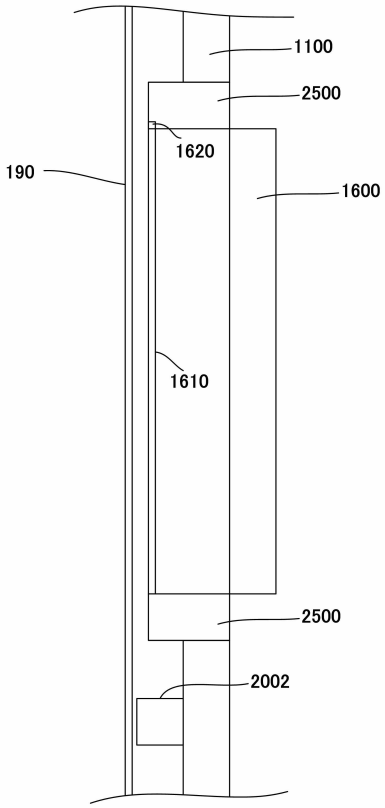
【図１８８】



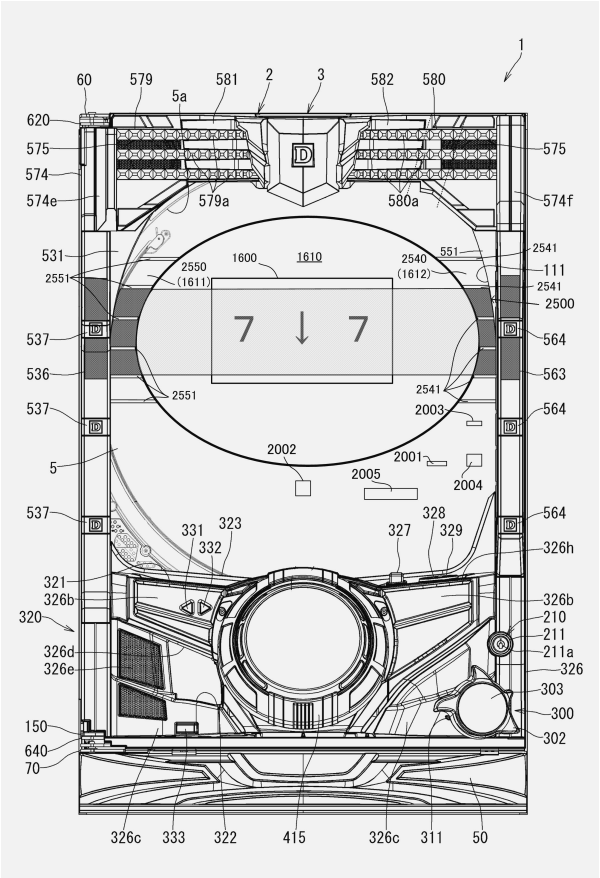
【図１８９】



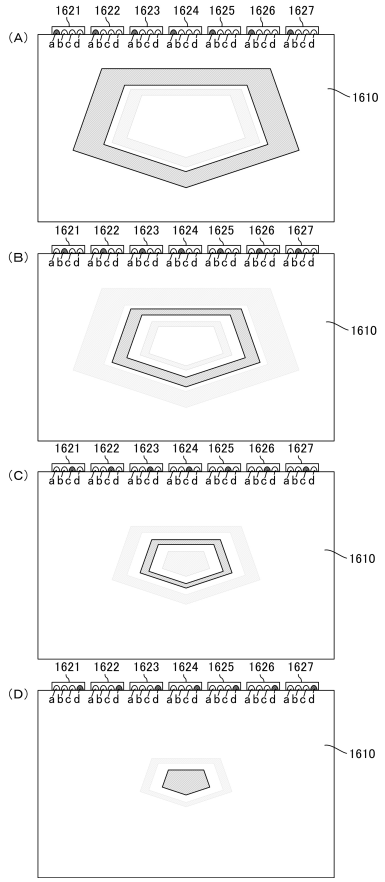
【図１９０】



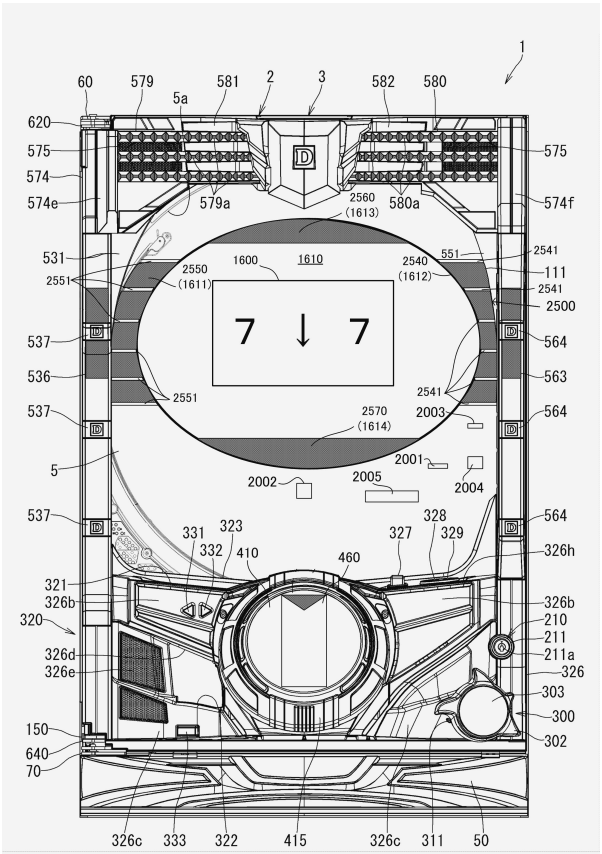
【図１９１】



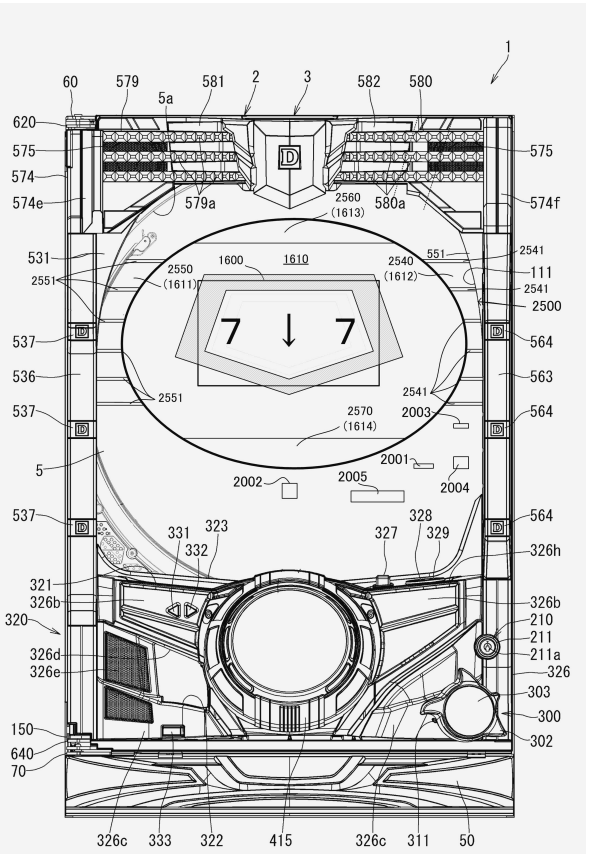
【図１９２】



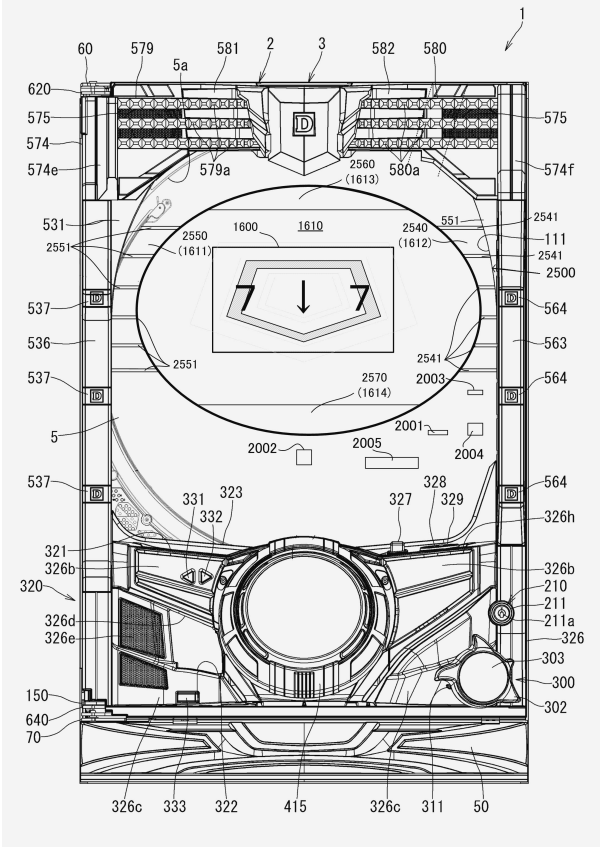
【図１９３】



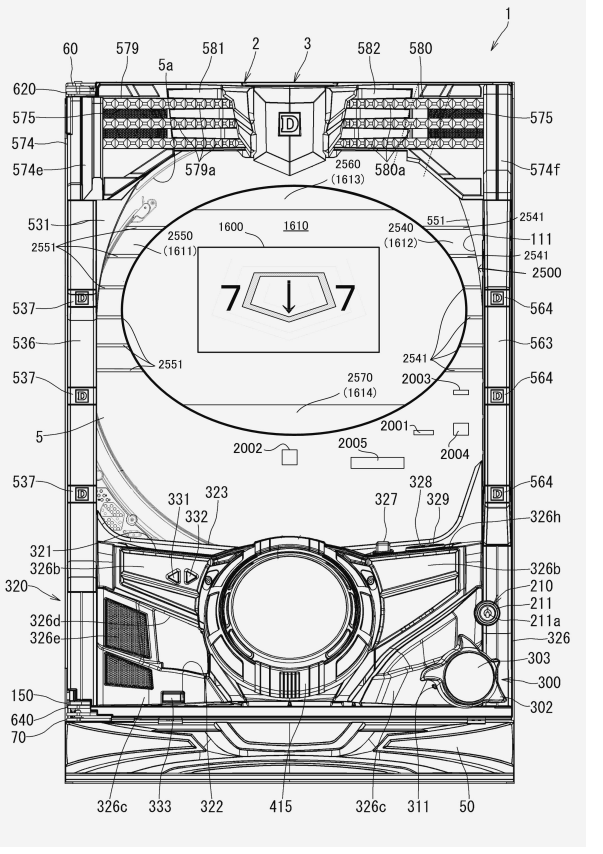
【図１９４】



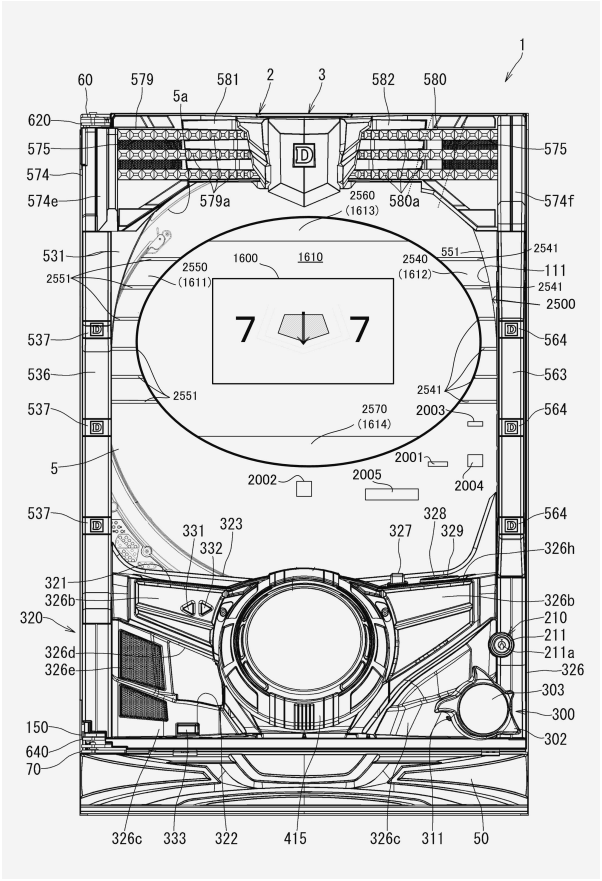
【図１９５】



【図１９６】



【図１９７】


1
60
579
581
2
3
582
580
5a
620
575
574
574e
579a
2560
(1613)
580a
574f
531
551
2541
2550
(1611)
1600
1610
2540
(1612)
111
2551
2541
2500
7
7
537
564
536
563
2551
2541
537
2570
(1614)
2003
564
2001
5
2002
2005
2004
537
328
564
331
323
332
327
329
326h
321
326b
326b
320
210
211
326d
211a
326e
326
303
300
150
302
640
70
326c
333
322
415
326c
311
50

フロントページの続き

(56)参考文献　特開２０１４－３３６９２（ＪＰ，Ａ）
特開２０１３－１１６１６９（ＪＰ，Ａ）
特開２０１４－７６１０７（ＪＰ，Ａ）
特許第６５６６５８２（ＪＰ，Ｂ２）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　　７／０２